SUBARU

LEVORG

LEVORG / LAYBACK

取扱説明書

ご使用になる前に必ずお読みください。

取扱説明書（本書）について

本書はSUBARU車の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。SUBARU車を安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

本書の内容は、予告なく改訂されることがあります。
SUBARUオフィシャルWEBサイトより最新版の取扱説明書をご確認ください。
取扱説明書は、パソコンやスマートフォンで以下のURLを直接入力いただくか、QRコードを読み取って掲載サイトへアクセスできます。

「QRコード」は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

SUBARU取扱説明書掲載サイト

https://tr.subaru.jp/om-jp/

右のQRコードから取扱説明書の掲載サイトにアクセスできます。 →

車の仕様変更やソフトウェアの更新により、本書の内容が、実際の車両と一致しない場合があります。

- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- SUBARU販売店で取り付けられた装備（ディーラーオプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

オーナーズガイド（車載している冊子）について

- オーナーズガイドは、基本的な操作、安全に関する情報、万一の場合に必要な情報を取扱説明書から抜粋した冊子です。
- オーナーズガイドは「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。

お車をゆずるときは・・・

保証の有無にかかわらずオーナーズガイド、メンテナンスノート、キーナンバープレートをお車につけておゆずりください。

交通ルール・マナーを守って運転しましょう。
自然環境保護にも気をくばりましょう。

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや、お車が損傷する可能性があることを、回避法とともに示しています。

⚠ 警 告	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注 意	指示に従わないと、傷害につながるおそれがあります。 また、お車が損傷する可能性があります。

禁止行為は禁止マークが入っています。

	禁止事項を示しています。

その他の表示

知 識	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
	グレードやオプションなどにより異なる装備についてはよつばマークがついています。

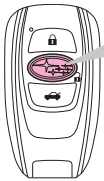
お車のラベルについて

お車には、安全のためにお守りいただきたい注意事項を示すラベルがついています。注意事項をお守りいただき、本書の関連項目をお読みください。

助手席に後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
☞P.72、95参照

◆各種システムの作動には、走行環境や速度などの条件があります。 詳しくは取扱説明書(web)をご覧ください。◆
◆イラストは、実際の車両と一部異なることがあります。◆

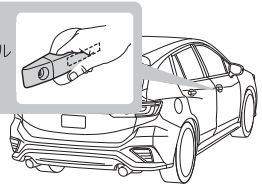
1 鍵を開ける



を押す。

または、

アクセスキーを携帯し、ドアハンドルを握る。



2 シートを調整する

※エンジンがかかっているときに調整してください。

ヘッドレスト調整

スライド調整(前後の調整)

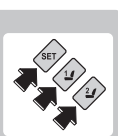
リクライニング調整
(背もたれの角度調整)

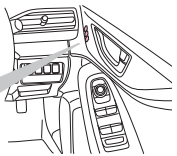
上下・座面前側の高さ調整

腰部張り出し調整 ※
(ランバーサポート)
(運転席のみ)

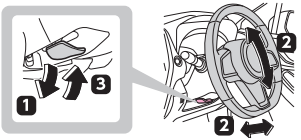
ドライバーポジションメモリー ※

シート位置とドアミラーの鏡面位置を、「1」または「2」のボタンおよびアクセスキーごとに登録して、呼び出しができます。





3 ハンドルの位置を調整する

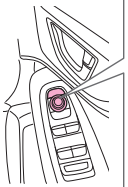


1. チルト / テレスコピックレバーを押し下げる。
2. ハンドル位置を合わせる。
3. チルト / テレスコピックレバーを引き上げる。

※ハンドルが固定されたことを確かめてください。

4 ミラーの向きを調整する

※プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときに調整できます。



電動格納式ドアミラー
左右のミラーを同時に格納、再度押すと使用位置に復帰。

キー連動格納ドアミラー ※
ドアの施錠・解錠に連動してドアミラーが格納、使用位置に復帰します。

電動リモコンドアミラー
調整するミラーを選ぶ：「L」または「R」に回して左右を切り替える。
向きを調整する：スイッチを上下左右に動かす。

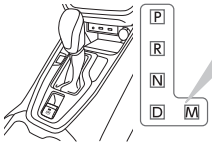
リバース連動チルトダウンドアミラー ※

セレクトレバーを“R”にすると、助手席側ドアミラーが連動して鏡面が車両側面の下側付近を向きます。
運転席側ドアにあるドライバーポジションメモリーまたはセンターインフォメーションディスプレイ（▶設定▶車両▶ドライバーモニタリングシステム▶DMSユーザー登録）から位置を登録することができます。

5 エンジンをかける

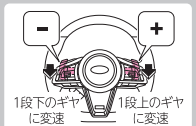
ブレーキペダルをしっかり踏む → プッシュエンジンスイッチを押す → エンジンが始動

6 セレクトレバーを操作する



マニュアルモード

セレクトレバーを“D”から“M”に動かすとマニュアルモードになります。
パドルシフトレバーを手前に引くと変速できます。



7 エンジンを止める

車を完全に停止する → セレクトレバーを“P”にする → プッシュエンジンスイッチを押す

駐車するときは、車が動き出さないように**電動パーキングブレーキ**をかけてください。

確認してください!

車から離れるときは、プッシュエンジンスイッチの状態が **OFF** になっているか確かめてください。

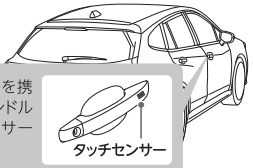
・セレクトレバーが“P”以外でプッシュエンジンスイッチを押すとエンジンは停止しますが、スイッチの状態は ACC になり“P”にするまでブザーが鳴ります。

8 鍵を閉める

を押す。

または、

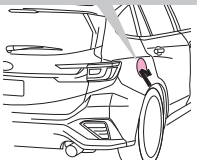
アクセスキーを携帯し、ドアハンドルのタッチセンサーに触れる。



9 給油する

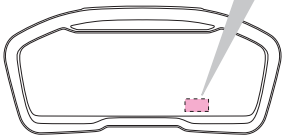
フューエルリッドを開ける

ドアの鍵を開けた後、フューエルリッドの左端中央を押す。



フューエルリッド（燃料給油口）の位置

メーター表示部の燃料計にフューエルリッド（燃料給油口）の位置を示す表示があります。



燃料が少なくなると…

燃料残量警告灯（黄色）

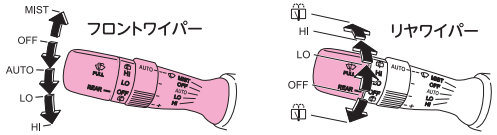
燃料残量が約 9L 以下になると点灯します。

	使用燃料	タンク容量
1. 8L 車	無鉛レギュラーガソリン	約 63L
2.4L 車	無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン	

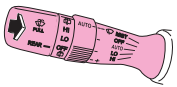
※プッシュエンジンスイッチがONのときに使用できます。

雨や雪のとき

ワイパーを使う



フロントウォッシャー/ヘッドランプウォッシャーを使う



フロントウォッシャー：手前に引く。

ヘッドランプウォッシャー：1秒以上手前に引く。(フロントウォッシャーと連動)

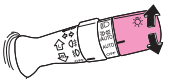
ヘッドランプウォッシャーの作動条件：ヘッドランプが点灯しているとき。

夜や周りが暗いとき

ランプを使う

夜や周囲が暗くなると、ランプは自動的に点灯します。

ランプが点灯しているときは (ライティングスイッチ表示灯)が点灯します。



周囲の明るさにかかわらずランプを点灯させたい場合は、手動でライティングスイッチを操作してください。

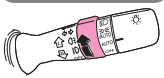
- 点灯：点灯
- /AUTO：ポジションランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯、走行中にヘッドランプが自動的に点灯、消灯
- AUTO：自動的に点灯、消灯
- OFF：消灯

・ 走行中 (夜間・周囲が暗いとき) は手動での操作※はできません。(※スイッチを操作してもランプ類は消灯しません。)

・ スイッチは「**OFF**」位置に回して手を離すと「**AUTO**」の位置に戻ります。

霧のとき

フォグランプを使う



フロントフォグランプスイッチ：スイッチを の位置まで回す。

リヤフォグランプスイッチ：スイッチを の位置まで回す。

フォグランプが点灯しているときは、メーター内の (フロントフォグランプ表示灯)、 (リヤフォグランプ表示灯) が点灯します。

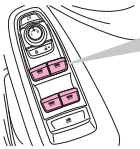
・ スイッチは「 」の位置に回して手を離すと「 」の位置に戻ります。

フロントフォグランプの作動条件：ランプ類が点灯しているとき。

リヤフォグランプの作動条件：フロントフォグランプが点灯しているとき。

暑いとき・寒いとき

窓を開ける、閉める



パワーウインドウスイッチ

開けるとき　閉めるとき

強く操作すると自動で全開 (全閉) します。

エアコンを使う

センターインフォメーションディスプレイのエアコン操作バーで調整します。

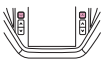
オートで使用するとき

1 エアコン操作バーのエアコン状態表示をタップします。

2 「AUTO」をタップします。

3 希望温度を設定します。

ウインドウやミラーが曇ったら…



FRONT デフロスタースイッチ

フロントガラス、フロントドアガラスの霜や曇りを取るときに使用します。

リヤウインドウデフォッガー / ヒーテッドドアミラースイッチ

(フロントワイパーデアイサーと連動)

スイッチを押すと、3つの機能が連動します。作動して約15分後に自動的にOFFになります。

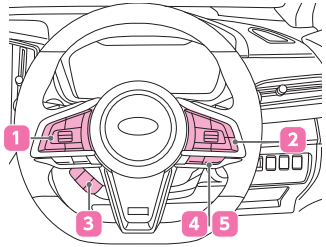
・凍結によってフロントワイパーが動かないときに、ガラスを温めます。・ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使用します。・リヤガラスの内側の曇りを取り除きます。

シートを温める

1 ヒータースイッチをタップします。

HIGH・MIDDLE・LOW・OFFを選択できます。

2 作動中にヒータースイッチをロングタップ (約1秒) するとOFFにできます。



1 ステアリングスイッチ (オーディオなど)

オーディオの主要機能の操作や、音声操作、電話の受信などができます。

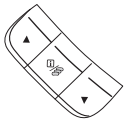
2 ステアリングスイッチ (EyeSight)

EyeSight、EyeSight X の操作・設定ができます。

詳細は「運転を支援する機能」をご覧ください。

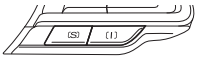
3 ▲(戻し)/▼(送り)スイッチ / i (インフォメーション)/ 画面切り替えスイッチ

割り込み画面の再表示やメーターの画面切り替えなどに使用します。



4 SI-DRIVE (SUBARU Intelligent Drive)

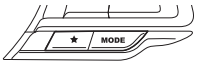
2つの走行モード(スポーツ・インテリジェント)が選べます。



詳細は「便利な機能」をご覧ください。

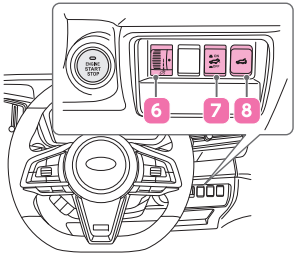
5 ドライブモードセレクト

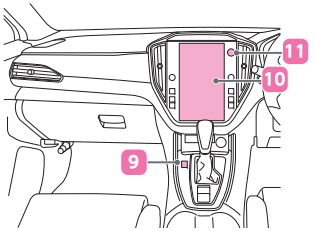
MODEスイッチ:
スイッチを押すたびに走行モード(SPORT・SPORT+・INDIVIDUAL・COMFORT・NORMAL)が切り替わります。



★(Individual)スイッチ:
INDIVIDUALモードで走行します。INDIVIDUALモードはセンターインフォメーションディスプレイで設定できます。

詳細は「便利な機能」をご覧ください。





※イラストは実際の車両と一部異なることがあります。

6 イルミネーションコントロールダイヤル

メーターやセンターインフォメーションディスプレイの画面などの明るさを調整できます。

7 ハンズフリーパワーリヤゲートOFFスイッチ

パワーリヤゲートのハンズフリーオープン機能を作動させたくない場合に押します。

8 パワーリヤゲート運転席スイッチ

スイッチを長押しすると、リヤゲートが自動開閉します。

詳細は「便利な機能」をご覧ください。

9 VIEWスイッチ

カメラ映像がセンターインフォメーションディスプレイに表示されます。

詳細は「運転を支援する機能」をご覧ください。

10 センターインフォメーションディスプレイ

画面を切り替えて、ナビゲーションやオーディオ、車両情報など各種設定ができます。

詳細は「便利な機能」をご覧ください。

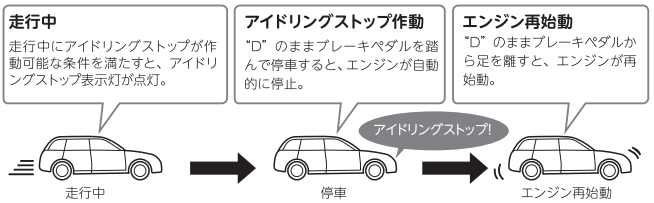
11 ハザードランプ(非常点滅表示灯)スイッチ

スイッチを押すとすべてのウインカーが点滅します。

一部グレードのみに装着されている機能・装備にはマークがついています。

アイドリングストップ

アイドリングストップとは、信号待ちや渋滞などで停止しているとき自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。



アイドリングストップの作動はON/OFF設定ができます。

センターインフォメーションディスプレイ ▶

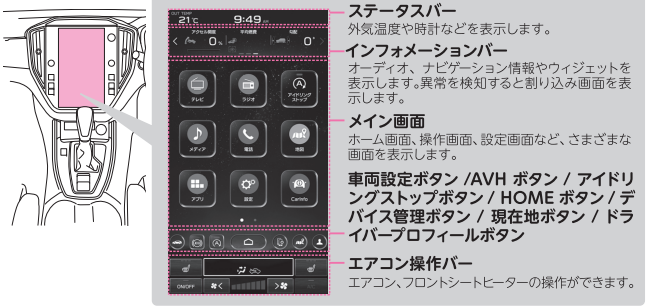
アイドリングストップボタン

または 設定 ▶ 車両 ▶ アイドリングストップ ▶ ON/OFF

アイドリングストップがOFF設定のときは OFF (アイドリングストップOFF表示灯)が点灯します。

センターインフォメーションディスプレイ

カーナビゲーションや車両情報などを一つの表示画面で切り替えて表示します。



車両設定ボタン /AVH ボタン / アイドリングストップボタン / HOME ボタン / デバイス管理ボタン / 現在地ボタン / ドライバープロフィールボタン

車両設定ボタン
走行に関する一部の項目を変更できます。

アイドリングストップボタン
アイドリングストップの ON／OFF を切り替えることができます。

デバイス管理ボタン
Bluetooth 携帯電話／機器の 管理ができます。

現在地ボタン
メイン画面に現在地画面が表示されます。

AVH ボタン
AVH の ON／OFF を切り替えることができます。

HOME ボタン
タップするとホーム画面に戻ります。

ドライバープロフィールボタン
ドライバーのプロフィールを設定できます。

▶ 追加 を選択してプロフィールを登録してください。

登録済みの内容を変更したり、削除する場合は、▶ 編集 を選択してください。

メイン画面

メイン画面のショートカットアイコンをタップして、地図、オーディオ、アプリ、車両のシステム設定などができます。

CHECK!
ショートカットアイコンは、追加・削除・移動ができます。

地図を使う

「**地図**」をタップすると、現在地が表示されます。

【目的地設定】【メニュー】【地点登録】などの操作ができます。

テレビを見る

「**テレビ**」をタップすると、選択している放送局の番組が表示されます。

【番組表】【放送局一覧】【テレビ設定】などの操作ができます。

CHECK!
初めてタップすると、自動的に“エリア設定画面”に移行します。画面の指示に従って必要事項を入力してください。

ラジオを聴く

「**ラジオ**」をタップすると、ラジオ放送が聴けます。

【FM】【AM】【交通情報】を選択して、選局できます。

Bluetoothオーディオなどを聴く

「**メディア**」をタップすると、デバイスを利用して、音楽を聴いたり、動画を再生できます。

【Bluetooth】【USB】【iPod/iPhoneまたは**Apple CarPlay】【CD/DVD】*【AUX】【Android Auto】**を選択してください。
*CD/DVDはディーラーオプションです。

CHECK!
Bluetoothオーディオを使用するには、はじめにBluetooth機器を設定してからご使用ください。

設定するには･･･
▶ 登録 から設定してください。

電話をかけたり、受けたりする

「**電話**」をタップすると、ハンズフリーで通話ができます。

CHECK!
ハンズフリー機能を使用するには、Bluetooth携帯電話を設定しておく必要があります。

設定するには･･･
▶ 登録 から設定してください。

アプリを使用する

スマートフォンの一部機能を表示して、センターインフォメーションディスプレイで操作できます。

スマートフォンを接続すると【Apple CarPlay】または【Android Auto】の利用確認ポップアップ画面が表示されます。

CHECK!
スマートフォン（iPhoneやAndroid端末）を接続してからご使用ください。

車両の状態や情報を見る

「CarInfo」をタップすると、車両の走行状態、メンテナンス情報を表示、設定ができます。

CHECK!
エンジンオイル、エンジンオイルフィルター、タイヤは工場出荷時にメンテナンス時期（距離のみ）が設定されています。

設定

「設定」をタップすると、各種項目の設定をしたり、設定内容の確認ができます。

【全般】【サウンド】【ナビゲーション】【電話】【車両】を選択してください。

ショートカットアイコンをホーム画面に追加する

「ショートカット」をタップすると、お好みのショートカットアイコンをホーム画面に追加できます。

“SOS”ボタン/ “i”ボタン（SUBARU STARLINK コネクティッドサービス）

“SOS” ボタン、“i” ボタンの機能を利用するには、SUBARU STARLINK コネクティッドサービス（「つながる安心プレミアム」（有料））に登録が必要です。

“SOS”ボタン（SUBARU SOS コール）
緊急時にオペレーターにつながり通話ができます。
連絡と同時に車両の位置情報を送信します。
必要に応じてオペレーターが緊急車両を手配します。

“i”ボタン（SUBARU i コール（安心ほっとライン））
車両が故障したときに SUBARU i コール（安心ほっとライン）のコールセンターにつながります。
また、連絡と同時に車両の位置情報を送信します。

SUBARU STARLINK コネクティッドサービス（「つながる安心プレミアム」）の使用や加入に関するお問い合わせは・・・

SUBARU STARLINK コネクティッドサービス　ホームページ
https://www.subaru.jp/connected/

SUBARU STARLINK サポートセンター　0120−452−910
受付時間：9:00〜18:00（年中無休）

◆各種システムの作動には、走行環境や速度などの条件があります。 詳しくは取扱説明書(web)をご覧ください。◆

VDC(ビークルダイナミクスコントロールシステム)

VDCは横滑りなど車の不安定な挙動を抑えるシステムです。作動中は (VDC作動表示灯)が点滅します。

VDC の主な機能

横滑りコントロール(VDC)
タイヤの横滑りを抑制して車両の方向安定性を確保する機能

トラクションコントロール(TCS)
タイヤの空転を防止して、駆動力、操舵能力を確保する機能

CHECK! **次のような特殊な状況下では、TCS機能を一時的に解除したほうが発進しやすい場合があります。**

- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき
- ぬかるみや深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき

TCS機能を一時的に解除するには…

センターインフォメーションディスプレイ

▶ 設定 ▶ 車両 ▶ ビークルダイナミクスコントロール(VDC) ▶ OFF

で、TCS機能を一時的に解除できます。

OFFにすると (VDC OFF表示灯)が点灯します。TCS機能を解除しても、一部のブレーキ制御は作動します。一部のブレーキ制御が作動している場合は (VDC作動表示灯) は点滅します。

AVH(オートビークルホールド)

信号待ちなどの停止時にブレーキペダルから足を離しても、車両の停止状態を保持する機能です。 (AVH表示灯)が点灯しているときに、ブレーキを踏んで停車するとAVHが作動します。作動中は (AVH表示灯)が点滅します。

AVHの作動はON/OFF設定ができます。

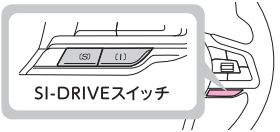
センターインフォメーションディスプレイ ▶

AVHボタン

または 設定 ▶ 車両 ▶ オートビークルホールド(AVH) ▶ ON/OFF

SI-DRIVE(SUBARU Intelligent Drive)

SI-DRIVE スイッチを押して、走行モードを選択できます。



SI-DRIVEスイッチ

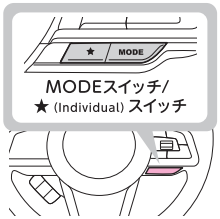
[I] スイッチ: I (インテリジェント) モード
市街地走行などの日常の使用に適しています。

[S] スイッチ: S (スポーツ) モード
高速道路や郊外の道を走行するのに適しています。

ドライブモードセレクト

2つのスイッチでドライブモードを変更できます。

MODEスイッチ スイッチを押すたびに走行モードが切り替わります。



MODEスイッチ/
★ (Individual) スイッチ

Norm (NORMAL) モード
市街地走行などの日常の使用に適しています。

S (SPORT) モード
高速道路や郊外の道を走行するのに適しています。

C (COMFORT) モード
乗り心地と快適性を重視したモードです。

S+ (SPORT+) モード
山間部での走行や高速道路の合流、追い越し加速時に適しています。

★ (INDIVIDUAL) モード
運転者のお好みに合わせた走行モードです。

★(Individual) スイッチ

スイッチを押すと、INDIVIDUAL モードで走行します。

INDIVIDUAL モードをカスタマイズするには・・・

センターインフォメーションディスプレイ ▶ 設定 ▶ 車両 ▶ ドライブモードセレクト ▶

から、各項目を選択できます。

各項目を選択できます。

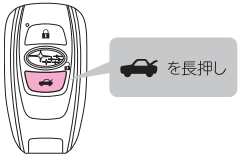
乗り心地重視の設定

よりスポーティな設定

パワーリヤゲート

アクセスキーやスイッチでリヤゲートを自動開閉できます。
また、リヤゲートの開く高さをお好みの位置に設定する機能(メモリーハイト機能)などがあります。

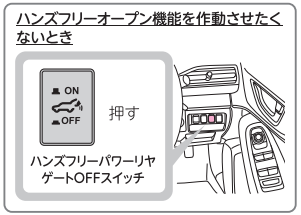
アクセスキーで開閉する



運転席のスイッチで開閉する

車体のスイッチで開閉する

ハンズフリーオープン機能で開ける



EyeSight

EyeSightは自動運転／自動衝突回避システムではありません。EyeSightだけに頼った運転は、絶対に行わないでください。周囲の状況、運転環境に注意して安全にご使用ください。ご使用の前には取扱説明書をお読みください。

EyeSightはさまざまな機能によって運転者の判断を助け、安全・快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。

EyeSight の機能

☞ 作動には条件があります。詳細は、取扱説明書(WEB)をご覧ください。

危険を予測し衝突を回避、または被害を軽減します

プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシスト / 緊急時プリクラッシュステアリング / 前側方プリクラッシュブレーキ）

主に前方の車両や障害物、または出会い頭車両（自動二輪、自転車除く）に衝突する可能性があるとき、システムが作動して急ブレーキをかけます。状況に応じてハンドル操作をアシストします。ブザーと割り込み画面でお知らせします。

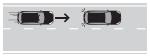
RAB（後退時ブレーキアシスト）

後退時に後方の障害物を検知し、表示と警報音でお知らせします。衝突の可能性があるとシステムが判断するとブレーキが作動します。

誤操作による急発進を防ぎます

AT 誤発進抑制制御 /AT 誤後進抑制制御

セレクトレバーの位置の入れ間違いや、ペダルの踏み間違いなどによる誤った前進および後進を抑制します。
ブザーと割り込み画面でお知らせします。



先行車に対して追従走行、または一定の速度で走行します

全車速追従機能付クルーズコントロール（ツーリングアシスト）

高速道路や自動車専用道路で、運転者が設定した車速を上限に、先行車に対して追従走行をします。
（システム作動速度：0 km/h ～約 120 km/h）

定速クルーズコントロール

高速道路や自動車専用道路で、運転者が設定した車速を保ちながら、一定の速度で走行します。
（システム作動速度：約 30km/h ～約 120 km/h）

EyeSight の機能

☞ 作動には条件があります。詳細は、取扱説明書(WEB)をご覧ください。

ハンドル操作をアシストします

車線逸脱抑制機能

車両が車線を逸脱しそうになるとシステムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストして車線からの逸脱を抑制します。

エマージェンシーレーンキープアシスト

隣接車線の後方車両が接近しているにもかかわらず、車両が車線を逸脱しそうになるとシステムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストして車線からの逸脱を抑制します。

車線中央維持・先行車追従操舵機能は、ステアリングスイッチで設定します。

車線中央維持・先行車追従操舵機能（ツーリングアシスト）

道路の区画線を認識し、車が車線中央付近を走行するようにハンドル操作をアシストします。また渋滞時は白線を認識していなくても、先行車の動きに合わせてハンドル操作をアシストします。

ブザーと表示でお知らせします

ふらつき警報
走行中にふらつきを認識したとき

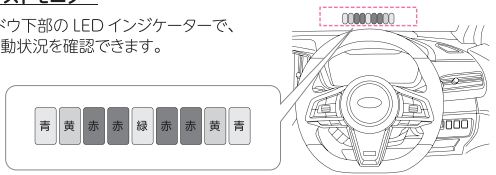
青信号お知らせ
前方の赤信号が青に変わっても自車が発進しないとき

車線逸脱警報
走行中に走行車線からはみ出しそうになったとき

先行車発進お知らせ
先行車が発進して約 4 m 以上進んでも自車が発進しないとき

EyeSightアシストモニター

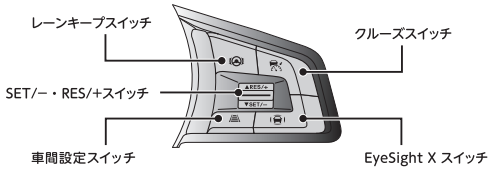
フロントウインドウ下部の LED インジケーターで、EyeSight の作動状況を確認できます。



EyeSight の機能の使いかた

EyeSight（全車速追従機能付クルーズコントロール・定速クルーズコントロール・車線中央維持・先行車追従操舵機能）は、ステアリングスイッチで設定できます。
詳細設定については取扱説明書（web）をご覧ください。

ステアリングスイッチ



全車速追従機能付クルーズコントロールをセットする

1 (クルーズ) **スイッチ**を押す。

➡ メーター内に (全車速追従機能付クルーズ表示灯（白色）)、(車間設定表示灯)、(自車表示灯) が点灯します。

メーター内に READY (READY表示灯) が点灯したら・・・。

2 SET/ーまたは**RES/+スイッチ**を押す。

➡ **車速がセットされます。**
メーター内にセット車速が表示されます。
READY (READY表示灯) が消え、(全車速追従機能付クルーズ表示灯（緑色）) が点灯します。

全車速追従機能付クルーズコントロールの制御を開始します。

先行車を**認識すると**: プザー(ピッ)が鳴って、(先行車表示灯)が点灯します。セット車速を上限として追従走行します。

先行車を**認識していないとき**: セット車速で定速走行します。

先行車を**認識しなくなったとき**: プザー(ピッ)が鳴って、(先行車表示灯)が消灯します。セット車速まで加速し定速走行します。

全車速追従機能付クルーズコントロールを解除する

1 **ブレーキペダル**を踏む。または (クルーズ) **スイッチ**を押す。

➡ **解除されると・・・**
メーター内の (全車速追従機能付クルーズ表示灯)が**白色**になります。

全車速追従機能付クルーズコントロールをOFFにする

全車速追従機能付クルーズコントロール解除中に、

1 (クルーズ) **スイッチ**を押す。

➡ **OFFになると・・・**
メーター内の (全車速追従機能付クルーズ表示灯)、(車間設定表示灯)、(自車表示灯) が**消灯**します。

車線中央維持・先行車追従操舵機能をセットする

全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に、

1 (レーンキープ) **スイッチ**を押す。

➡ **作動可能状態になると・・・**
メーター内の (レーンキープ表示灯)が**白色**に、(車線表示灯)が**灰色**に点灯します。

作動中は・・・: (レーンキープ表示灯)が**緑色**に切り替わります。
区画線を認識しているとき: (車線表示灯)が**青色**に点灯します。
先行車を認識しているとき: (レーンキープ先行車表示灯)が**青色**に点灯します。

車線中央維持・先行車追従操舵機能をOFFにする

1 (レーンキープ) **スイッチ**を押す。

➡ **OFFになると・・・**
メーター内の (レーンキープ表示灯)および (車線表示灯) が**消灯**します。

EyeSight の機能は ON/OFF 設定ができます

センターインフォメーションディスプレイ ▶ 設定 ▶ 車両 ••• から設定のON/OFFができます。

プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシスト、緊急時プリクラッシュステアリング、前側方プリクラッシュブレーキ含む）/ **AT 誤発進抑制制御 / AT 誤後進抑制制御**

▶ EyeSight ▶ プリクラッシュブレーキ ▶ 設定ON/設定OFF

OFFにすると、メーター内の（プリクラッシュブレーキOFF表示灯）、（緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯）と（前側方プリクラッシュブレーキOFF表示灯）が点灯します。
プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシスト、緊急時プリクラッシュステアリング、前側方プリクラッシュブレーキを含む）/AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御が同時にOFFになります。

RAB（後退時ブレーキアシスト）

▶ 後退時ブレーキアシスト(RAB) ▶ 自動(被害軽減)ブレーキ ▶ ON/OFF

▶ 後退時ブレーキアシスト(RAB) ▶ ソナー警報音 ▶ ON/OFF

車線逸脱抑制機能

ON ▶ EyeSight ▶ 車線逸脱防止機能 ▶ すべてON または 車線逸脱防止制御のみON

OFF ▶ EyeSight ▶ 車線逸脱防止機能 ▶ すべてOFF または 警報音のみON

エマージェンシーレーンキープアシスト

▶ EyeSight ▶ エマージェンシーレーンキープアシスト ▶ ON/OFF

ふらつき警報、車線逸脱警報

ON ▶ EyeSight ▶ 車線逸脱防止機能 ▶ すべてON または 警報音のみON

OFF ▶ EyeSight ▶ 車線逸脱防止機能 ▶ 車線逸脱防止制御のみON または すべてOFF

青信号お知らせ

▶ EyeSight ▶ 青信号お知らせ ▶ ON/OFF

先行車発進お知らせ

▶ EyeSight ▶ 先行車発進お知らせ ▶ 音声/通知音/OFF

EyeSight X

EyeSight X（高度運転支援機能）は、高速道路や自動車専用道路を走行中に運転者の運転操作を支援する機能です。
システムが EyeSight X の作動エリアと判定するとメーター内の（EyeSight X 表示灯）が**白色に点灯**します。

EyeSight X の機能

☞ 作動には条件があります。詳細は、取扱説明書(WEB)をご覧ください。

ハンドル操作をアシストします

渋滞時ハンズオフアシスト

高速道路や自動車専用道路を走行中に渋滞に巻き込まれた場合、運転者がハンドルから手を放しても車がハンドル操作をアシストします。
（システム作動速度：0 km/h ～約 50 km/h）

渋滞時ハンズオフアシストが作動開始すると、ブザーが鳴り、、、、が青色に変わります。

渋滞時発進アシスト

渋滞で先行車に続いて車両が完全に停車しても約 10 分以内であれば運転者の操作なしで先行車に追従して再発進します。

アクティブレーンチェンジアシスト

運転者がウインカーレバーを操作したとき、ウインカーが点滅している方向に車線変更をするようにハンドル操作をアシストします。
（システム作動速度：約 70 km/h ～約 120 km/h）

（車線変更したい方向の隣接レーン表示が点灯している状態で）運転者が、車線変更方向にウインカーレバーを操作します。

EyeSight X の機能

作動には条件があります。詳細は、取扱説明書(WEB)をご覧ください。

カーブ前や
料金所の手前で
スピードを制御します

カーブ前速度制御

高速道路や自動車専用道路を走行中に、カーブの手前でカーブ曲率に合わせた適切な速度に制御します。

カーブ前速度制御が作動すると、メーターにカーブ前速度制御作動中の通知を表示します。

料金所前速度制御

高速道路や自動車専用道路の料金所の手前で ETC ゲート通過に適した速度に制御します。

料金所前速度制御が作動すると、メーターに料金所前速度制御作動中の通知を表示します。

周囲に異常を知らせて
車両を停止させます

ドライバー異常時対応システム

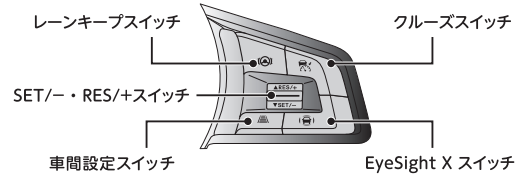
運転者が前方を見ていない状態が続いたときや、ハンドルを握っていない、または操作していない状態が続いたとき、ハザードランプやホーンで周囲に異常を知らせながら、徐々に減速して車両を車線内で停止させ、すべてのドアが自動で解錠します。
また、つながる安心ペーシックをご利用中の場合、停車後は先進事故自動通報（ヘルプネット）によって自動でヘルプネットセンターに通報を行います。

ハザードランプが点滅してホーンが鳴り、ドライバー異常時対応システムが解除されるまで周囲に異常を知らせ続けます。

EyeSight X の機能の使いかた

EyeSight X は、ステアリングスイッチで設定できます。各種システムの詳細設定については取扱説明書（web）をご覧ください。

ステアリングスイッチ



EyeSight Xを作動可能状態にする

メーター内の (EyeSight X 表示灯)が白色に点灯している状態で

1 (EyeSight X) スイッチを押す。

(EyeSight X 表示灯) が緑色に変わり、 (レーンキープ表示灯) と (全車速追従機能付クルーズ表示灯) が白色に点灯します。

2 SET/− または RES/+スイッチを押す。

作動条件が揃うとEyeSight Xが作動可能状態になります。

作動可能状態になると…

(全車速追従機能付クルーズ表示灯)が緑色に変わります。

(レーンキープ表示灯)は、 緑色に変わります。

EyeSight Xを解除する

1 (EyeSight X) スイッチを押す。

解除すると (EyeSight X 表示灯)が白色に変わります。

渋滞時ハンズオフアシスト・アクティブレーンチェンジアシスト・ドライバー異常時対応システムは運転者の操作により解除ができます

渋滞時ハンズオフアシスト・アクティブレーンチェンジアシスト

次のいずれかの操作で解除されます。

- ブレーキペダルを踏む
- (クルーズ) **スイッチ**を押す
- (レーンキープ) **スイッチ**を押す
- (EyeSight X) **スイッチ**を押す

ドライバー異常時対応システム

次のいずれかの操作で解除されます。

- ハンドルを操作する
- (レーンキープ) **スイッチ**を押す

カーブ前速度制御と料金所前速度制御は ON/OFF 設定ができます

センターインフォメーションディスプレイ ▶ 設定 … から機能のON/OFFができます。

カーブ前速度制御

▶ 車両 ▶ EyeSight ▶ カーブ警報&速度制御 ▶ ON/OFF

料金所前速度制御

▶ 車両 ▶ EyeSight ▶ 料金所警報&速度制御 ▶ ON/OFF

その他の運転支援機能

SRVD(後側方警戒支援システム)

SRVD(後側方警戒支援システム)は、隣接車線の後方から接近する車両や、後退時に左右から接近する車両の存在を検知して、車線変更や後退時に運転者の後側方確認をアシストするシステムです。

SRVD の支援機能

- **死角検知**: 運転席から見えにくい死角にある車両を検知
- **車線変更支援**: 隣接車線の後方から高速で接近する車両を検知
- **後退時支援**: 後退するときに後方の左右から接近する車両を検知

車両を検知すると…: ドアミラーのSRVD接近表示灯が点灯または点滅します。(後退時支援は同時に警報音が鳴ります。)

SRVD の機能は ON/OFF 設定ができます

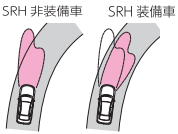
センターインフォメーションディスプレイ

▶ 設定 ▶ 車両 ▶ 後側方警戒支援システム(SRVD) ▶ ON/OFF

OFFのときは (SRVD OFF表示灯)、 (緊急時ブリクラッシュステアリングOFF表示灯)、 (エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯) が点灯します。
SRVDをOFFにすると、EyeSightの一部の機能もOFFになります。

SRH(ステアリング連動ヘッドランプ)

ハンドル操作や車速に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整し、コーナーや交差点で進行方向を照らして、視認性を高める機能です。



☞ 車速が約 8km/h 以上のときに作動します。

SRH の機能は ON/OFF 設定ができます

センターインフォメーションディスプレイ

▶ 設定 ▶ 車両 ▶ ステアリング連動ヘッドランプ(SRH) ▶ ON/OFF

ドライバーモニタリングシステム

走行中に運転者が居眠りや脇見などをしているとシステムが判断した場合に警報音や警告表示で注意を促します。(居眠り警報・脇見警報)

◉ドライバーモニタリングシステムの作動◉

ドアを開けるとメーター内にスキャン画面が表示されます。

運転席に運転者が座るとスキャンが開始されます。

運転者を認識すると"Hello"画面が表示されます。
*登録済みのユーザーを認識した場合は、ユーザー名を表示します。

CHECK! **ドライバーモニタリングシステムユーザー登録をすると、ユーザー情報連動機能(メーターの基本画面、エアコン設定など)が自動的に呼び出されるので便利です。**

センターインフォメーションディスプレイ
▶ 設定 ▶ 車両 ▶ ドライバーモニタリングシステム
▶ DMSユーザー登録 ▶ 登録したい番号

ドライバーモニタリングシステムの機能は ON/OFF 設定ができます

センターインフォメーションディスプレイ
▶ 設定 ▶ 車両
▶ ドライバーモニタリングシステム
▶ ドライバーモニタリングシステム(DMS)
▶ ON/OFF

ADB (アダプティブドライビングビーム)

対向車や先行車など、他の車両を眩惑しないように自動的に照らす範囲を制御しながらハイビームによる最大の視界を確保する機能です。

◉ADBの使いかた◉

ライティングスイッチがAUTOの位置にあるとき
1 ライティングスイッチのレバーを前方へ押す。
オートライトによってヘッドランプが点灯すると作動し、
(ADB表示灯(緑色))が点灯します。

ライティングスイッチ

マルチビューモニター

カメラ映像がセンターインフォメーションディスプレイに表示され、車両の死角を画面で確認できます。

◉ビューモニターの使いかた◉

VIEWスイッチまたは画面上の切り替えスイッチを押すごとに表示が切り変わります。

前方を確認する
セレクトレバーが"D"、"M"、"N"の位置にあるとき
1 VIEW スイッチを押す。

後方を確認する
1 セレクトレバーを"R"にする。

停車中に周囲を確認する
セレクトレバーが"P"の位置にあるとき
1 VIEW スイッチを押す。

納車時にお読みください

EyeSight やそのほかの運転支援機能の作動には様々な条件があります。
オーナーズガイド「5. 運転支援機能」の注意・警告文をお読みください。
ご使用の前には**取扱説明書 (web)** をお読みください。

表示灯・警告灯

詳細は、オーナーズガイド・取扱説明書をご覧ください。グレードにより装備されていない機能もあります。
エンジン始動直後は自己診断のため数秒間点灯・点滅するものがあります。

点灯 / 点滅したら・・・

直ちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へご連絡ください。

ブレーキ警告灯 (赤色・点灯)	AT油温警告灯 AT OIL TEMP (赤色・点灯・点滅)	チャージ警告灯 (赤色・点灯)	オイルプレッシャー警告灯 (赤色・点灯)
電動パーキングブレーキ警告灯/ブレーキシステム警告灯 (黄色・点灯)	SRSエアバッグ警告灯 (赤色・点灯)	歩行者保護エアバッグ警告灯 (黄色・点灯)	電動パーキングブレーキ作動灯 (赤色・点滅)

点灯 / 点滅したら・・・

取扱説明書を確認の上、SUBARU 販売店へご連絡ください。

ABS警告灯 (黄色・点灯)	エンジン警告灯 (黄色・点灯・点滅)	LEDヘッドランプ警告灯 (黄色・点灯)	ADB警告灯 (黄色・点灯)
SRVD警告灯 (黄色・点灯)	AWD警告灯 AWD (黄色・点滅)	VDC警告灯 (黄色・点灯)	SRH警告灯 SRH (黄色・点灯)
RAB警告灯 RAB (黄色・点灯)	アイドリングストップ警告灯 (黄色・点灯)	ステアリング制御警告灯 (赤色・点灯)	オートヘッドランプレベラー警告灯 (黄色・点灯)
広角単眼カメラ警告灯 (黄色・点灯)	EyeSight警告表示灯 Eye Sight (黄色・点灯・点滅)	EyeSight X 警告灯 (黄色・点灯)	

点灯 / 点滅したら・・・

取扱説明書を確認の上、SUBARU 販売店へご連絡ください。

電子制御ダンパーシステム警告灯 (黄色・点灯)	ドライバーモニタリングシステム警告灯 (黄色・点灯)	前側方プリクラッシュブレーキ警告灯 (黄色・点灯)

取扱説明書記載の正しい対応方法に従ってください。

シートベルト警告灯	半ドア警告灯	ボンネット開警告灯	燃料残量警告灯

各装置の状態を示しています。

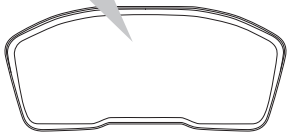
ウインカー表示灯	ライティングスイッチ表示灯	フロントフォグランプ表示灯	リヤフォグランプ表示灯
ハイビーム/パッシング表示灯	ADB表示灯 (緑色)	VDC作動表示灯 (黄色・点滅)	VDC OFF表示灯 OFF
AVH表示灯 AVH	電動パーキングブレーキ作動灯 (赤色・点灯)	アイドリングストップ表示灯 (緑色)	アイドリングストップOFF表示灯 OFF
SRH OFF表示灯 SRH OFF	低温表示灯	SRVD OFF表示灯 OFF	セキュリティ表示灯

一部グレードのみに装着されている機能・装備には◆マークがついています。

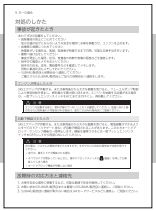
各装置の状態を示しています。

全車速追従機能付クルーズ表示灯	定速クルーズ表示灯	EyeSight X表示灯	EyeSight一時停止表示灯
RAB OFF表示灯/一時停止表示灯	ソナー警報音OFF表示灯	EyeSight X OFF表示灯	プリクラッシュブレーキOFF表示灯
車線逸脱警報OFF表示灯	レーンキープ表示灯		
ドライバーモニタリングシステム作動表示灯（緑色）	ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯	ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯	制限速度表示灯
エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯	緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯	前側方プリクラッシュブレーキ OFF表示灯	広角単眼カメラOFF表示灯

メーターに表示される警告灯・表示灯の他にメーター内の基本画面・EyeSight 画面に表示されるものもあります。
割り込み画面表示や音声ガイダンスに従って対処してください。



困ったときは・・・
オーナーズガイドの「万一の場合」を参照してください。
記載の方法で対処しても作動しない、改善しないときは、
SUBARU 販売店にご連絡ください。



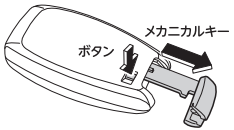
キーについているプレートは?

キーナンバープレートです。
キーナンバープレートは車両修理やスペアキーを作るときに必要になりますので大切に保管してください。
盗難防止のため、キーナンバープレートは車内に置かないでください。
キーを作るときは、SUBARU 販売店にご相談ください。

アクセスキーが作動せず、ドアの施錠・解錠ができない!

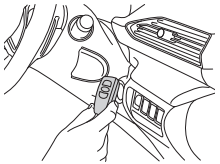
アクセスキーが作動しない。
電波ノイズの影響または電池切れが考えられます。
作動しない場合は、メカニカルキーでの操作も可能です。

メカニカルキーを使用して施錠・解錠する。
ボタンを奥まで押し、メカニカルキーを取り出します。
メカニカルキーで運転席ドアを施錠・解錠します。



アクセスキーが作動しないとき、エンジン始動はどうしたらいい?

①セレクトレバーが“P”であることを確認します。
②ブレーキペダルを踏みます。
③アクセスキーのボタン側を手前に向けて、プッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。
（ブザー（ピッ）が鳴り、プッシュエンジンスイッチが ON または ACC になります。）
④ブレーキペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押すとエンジンが始動します。



エンジン始動したときにプッシュエンジンスイッチが緑色に点灯しない!

橙色で点滅した場合：車両の異常が考えられます。ただちに SUBARU 販売店にご連絡ください。
緑色で点滅した場合：ステアリングロックが解除されていません。

ステアリングロックの解除のしかた
ハンドルを左右に動かしながらプッシュエンジンスイッチを押します。

車の警報が鳴ってしまった!

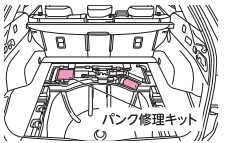
次のいずれかの操作で、警報は止まります。
・アクセスキーのいずれかのボタンを押す。
・アクセスキーを携帯し、プッシュエンジンスイッチを押して、ACC にする。

盗難警報装置について

初期設定では「作動なし」になっています。使用する場合は、警報を「作動あり」に設定してください。
キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、キーのボタン操作、暗証コード式キーレスエントリー）以外でドアやボンネットが開けられたとき、車両ホーンが鳴り、ハザードランプが点滅します。

タイヤがパンクしてしまった!

パンク修理キットを使って対応してください。
パンク修理キットは、カーゴルームのリッド（ふた）の下に収められています。



⚠警告
タイヤを交換する場合は、4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。4輪とも同じタイヤを使用しないと、駆動システムを損傷したり、最悪の場合火災に至る可能性があります。

MEMO

目次

イラスト目次

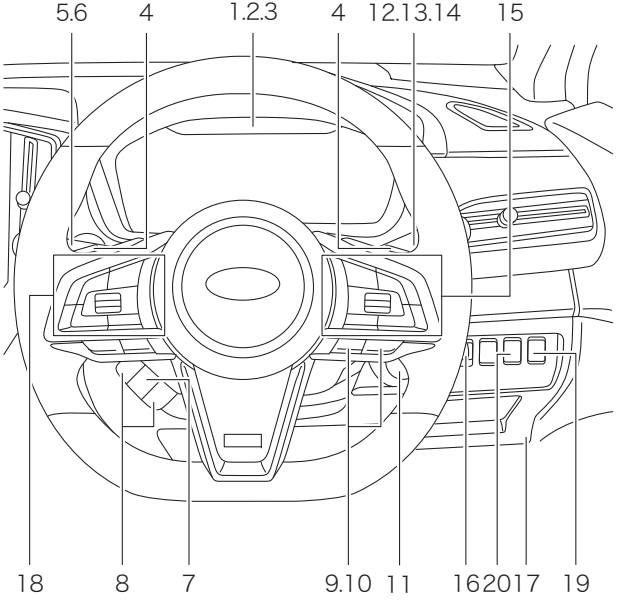
必読！安全で快適な運転のポイント

1. 安全ドライブ	● シートベルト…58 ● SRSエアバッグシステム…70	● 歩行者保護エアバッグ…85	● お子さまの安全…95
2. メーター・ディスプレイ	● メーター …108	● センターインフォメーションディスプレイ …120	● 警告灯・表示灯…137
3. 運転の前に	● 解錠・施錠…156 ● ドア・ウインドウの開閉…175	● セキュリティシステム…195 ● 運転前の調整…200	● 運転前の点検…229
4. 運転するとき	● エンジンの始動と停止…232	● 運転のしかた…239	● ランプ類・ワイパーの使いかた…269
5. 運転支援機能	● EyeSight…284	● その他の運転支援機能…425	● EyeSight X…462
6. 装備品の使いかた	● エアコン…504	● 室内装備…516	
7. ナビゲーションシステム・SUBARU STARLINK	● ナビゲーションシステムをお使いいただく上で…533 ● 基本操作…537 ● 設定…547	● ハンズフリー …561 ● アプリ…574 ● オーディオ…581 ● ナビゲーション…626	● SUBARU STARLINKコネクティッドサービス…676 ● 音声操作システム…688 ● ご参考に…694
8. メンテナンス	● お車の手入れ…706 ● 車載工具…711	● エンジンルーム内の点検…712 ● タイヤ・ホイール…720	● 部品の交換…730
9. 万一の場合	● 対処のしかた…746 ● パンクしたとき…753	● 故障したとき…763 ● けん引のとき…775	● オーバーヒートしたとき…781
10.仕様一覧	● 仕様一覧…784	● カスタマイズ機能…789	

こんなときは、さくいん

イラスト目次

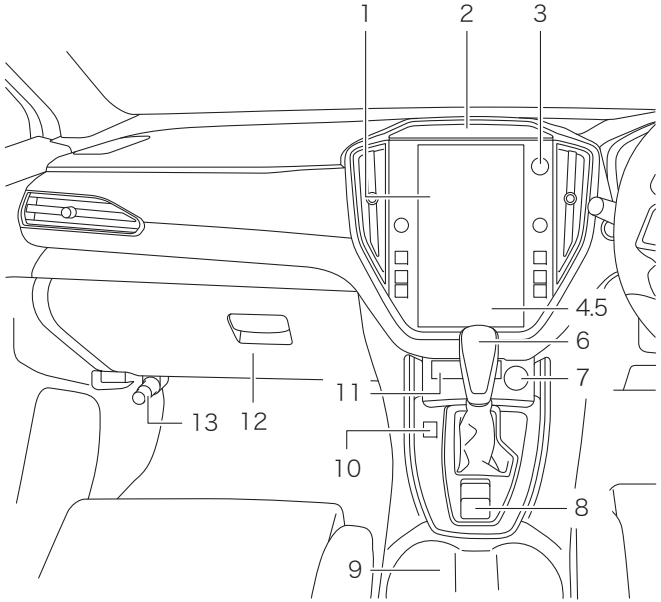
ハンドル周辺



※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

1. メーター …**108**
2. 表示灯…**145**
3. 警告灯…**137**
4. パドルシフトレバー …**260**
5. ワイパー &ウォッシャースイッチ…**277**
6. ヘッドランプウォッシャースイッチ…**281**
7. (インフォメーション）／画面切り替えスイッチ…**118**、**119**
8. ▲（戻し）スイッチ／▼（送り）スイッチ…**113**
9. SI-DRIVEスイッチ…**262**
10. ★（Individual）スイッチ／MODEスイッチ…**264**
11. プッシュエンジンスイッチ…**232**
12. ウインカー（方向指示器）レバー …**253**
13. ライティングスイッチ…**269**
14. フォグランプ（霧灯）スイッチ…**273**
15. ステアリングスイッチ（EyeSight）…**294**
16. イルミネーションコントロールダイヤル…**276**
17. ボンネットオープナーレバー …**712**
18. ステアリングスイッチ（電話／オーディオ／音声操作）…**563**、**613**、**688**
19. パワーリヤゲート運転席スイッチ…**186**
20. ハンズフリーパワーリヤゲートOFFスイッチ…**184**

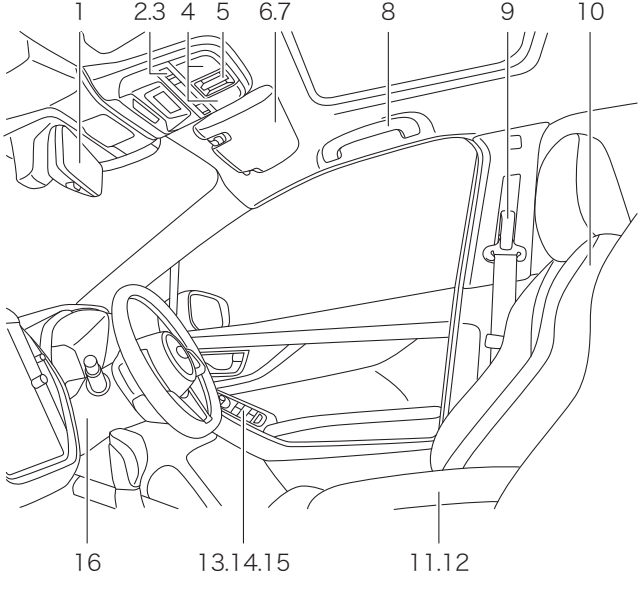
インストルメントパネル周辺



※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

1. センターインフォメーションディスプレイ…**120**
2. ドライバーモニタリングシステム／ユーザー登録のしかた …**446**、**455**
3. ハザードランプ（非常点滅表示灯）スイッチ…**752**
4. エアコン…**504**
5. シートヒーター …**206**
6. セレクトレバー …**239**
7. 電源ソケット…**523**
8. 電動パーキングブレーキ…**249**
9. 前席用カップホルダー …**516**
10. VIEWスイッチ…**437**
11. USB & AUX…**524**
12. グローブボックス…**518**
13. 発炎筒…**751**

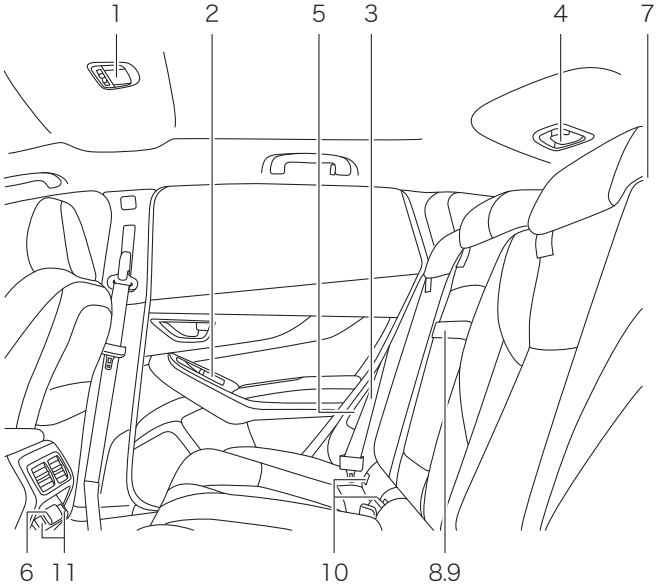
室内・前側



※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

1. ルームミラー …**215**
2. “SOS”ボタン…**681**
3. “i”ボタン…**682**
4. スポットマップランプ…**527**
5. 電動ガラスサンルーフスイッチ…**192**
6. サンバイザー …**517**
7. バニティミラー …**518**
8. アシストグリップ…**525**
9. フロントシートベルト…**60**
10. フロントシート…**202**
11. コンソールボックス…**519**
12. 前席用アームレスト…**205**
13. 電動リモコンドアミラースイッチ…**221**
14. 集中ドアロックスイッチ…**170**
15. パワーウインドウスイッチ…**176**
16. ステアリング…**214**

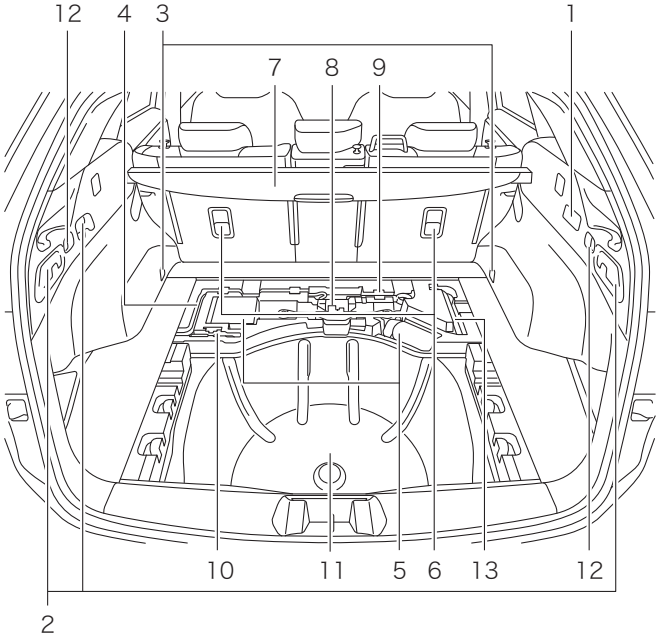
室内・後側



※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

1. 後席スポットマップランプ…**528**
2. パワーウインドウスイッチ…**176**
3. リヤシートベルト…**62**
4. リヤシートベルト（中央席用）…**63**
5. リクライニングレバー …**208**
6. USB電源…**524**
7. ロックノブ…**209**
8. 後席用アームレスト…**209**
9. 後席用カップホルダー …**516**
10. チャイルドシートの取り付け…**95**
11. リヤシートヒータースイッチ…**212**

荷室

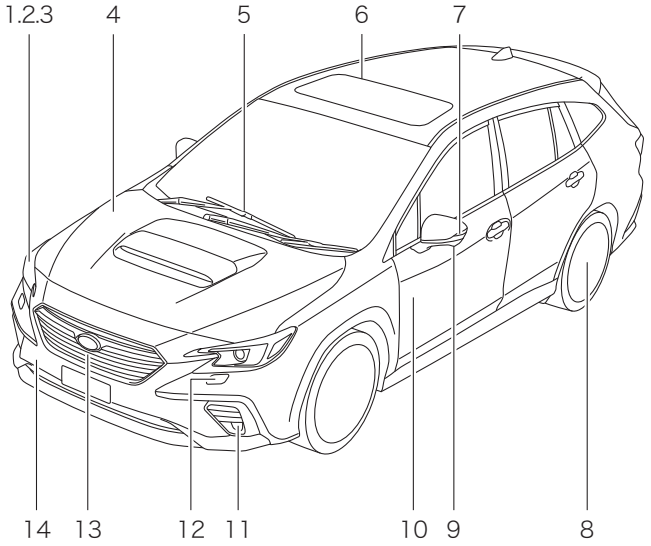


※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

1. カーゴルームランプ…**529**
2. 買い物フック…**526**
3. カーゴフック…**526**
4. ジャッキハンドル…**711**
5. パンク修理キット…**753**
6. チャイルドシートの取り付け…**95**
7. トノカバー …**520**
8. ジャッキ…**711**、**723**
9. けん引フック…**775**
10. ドライバー …**711**
11. サブトランク…**520**
12. リヤシート可倒スイッチ…**210**
13. ホイールナットレンチ…**711**

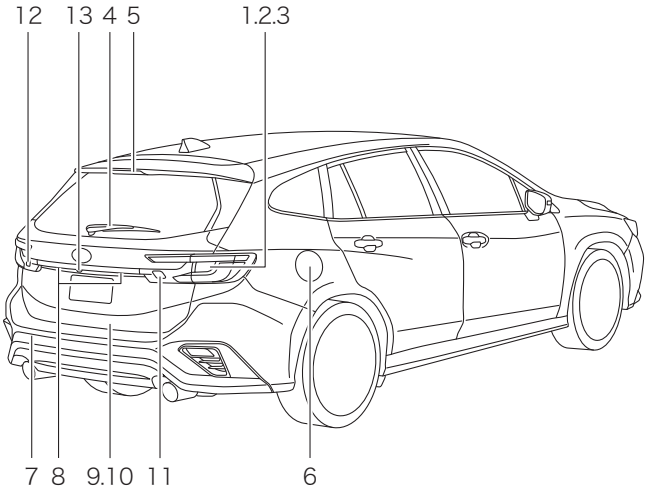
外観

<レヴォーグ>



※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

1. ヘッドランプ（前照灯）…**269**、**739**
2. ポジションランプ（車幅灯）…**269**、**739**
3. フロントウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点滅表示灯）…**253**、**739**、**752**
4. ボンネット…**712**
5. フロントワイパー …**277**、**730**
6. 電動ガラスサンルーフ…**192**
7. サイドウインカー／ハザードランプ（補助方向指示器／非常点滅表示灯）…**253**、**739**、**752**
8. タイヤ…**720**、**753**
9. マルチビューモニターカメラ（サイド）…**437**
10. ドア…**175**
11. フロントフォグランプ（前部霧灯）…**273**、**739**
12. ヘッドランプウォッシャー …**281**
13. マルチビューモニターカメラ（フロント）…**437**
14. けん引フック…**775**

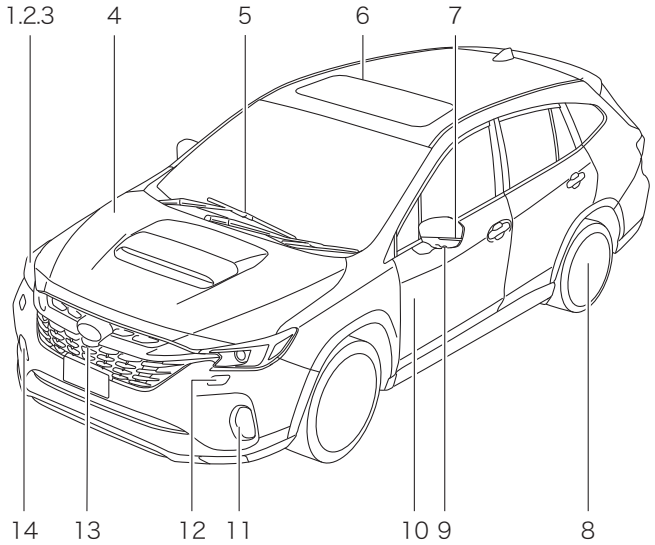


※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

1. リヤウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点滅表示灯）…**253**、**739**、**752**
2. テールランプ（尾灯）…**739**
3. ブレーキランプ（制動灯）…**739**
4. リヤワイパー …**280**、**730**
5. ハイマウントストップランプ（補助制動灯）…**739**
6. フューエルリッド（燃料給油口）…**179**
7. けん引フック…**775**
8. ライセンスランプ（番号灯）…**739**
9. パワーリヤゲート…**182**
10. リヤゲート…**190**
11. リヤフォグランプ（後部霧灯）…**273**、**739**
12. バックランプ（後退灯）…**739**
13. マルチビューモニターカメラ（リヤ）…**437**

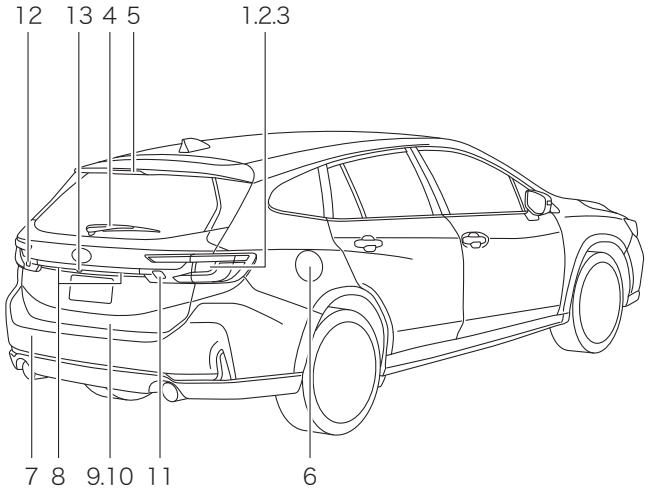
外観

<レイバック>



※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

1. ヘッドランプ（前照灯）…**269**、**739**
2. ポジションランプ（車幅灯）…**269**、**739**
3. フロントウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点滅表示灯）…**253**、**739**、**752**
4. ボンネット…**712**
5. フロントワイパー …**277**、**730**
6. 電動ガラスサンルーフ…**192**
7. サイドウインカー／ハザードランプ（補助方向指示器／非常点滅表示灯）…**253**、**739**、**752**
8. タイヤ…**720**、**753**
9. マルチビューモニターカメラ（サイド）…**437**
10. ドア…**175**
11. フロントフォグランプ（前部霧灯）…**273**、**739**
12. ヘッドランプウォッシャー …**281**
13. マルチビューモニターカメラ（フロント）…**437**
14. けん引フック…**775**



※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

1. リヤウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点滅表示灯）…**253**、**739**、**752**
2. テールランプ（尾灯）…**739**
3. ブレーキランプ（制動灯）…**739**
4. リヤワイパー …**280**、**730**
5. ハイマウントストップランプ（補助制動灯）…**739**
6. フューエルリッド（燃料給油口）…**179**
7. けん引フック…**775**
8. ライセンスランプ（番号灯）…**739**
9. パワーリヤゲート…**182**
10. リヤゲート…**190**
11. リヤフォグランプ（後部霧灯）…**273**、**739**
12. バックランプ（後退灯）…**739**
13. マルチビューモニターカメラ（リヤ）…**437**

警告灯

	シートベルト警告灯…137
	SRSエアバッグ警告灯…138
	歩行者保護エアバッグ警告灯…138
	半ドア警告灯…138
	ボンネット開警告灯…138
	燃料残量警告灯…139
	ブレーキ警告灯（赤色）…139
	電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）／ブレーキシステム警告灯（黄色）…139
	ABS警告灯…140
	エンジン警告灯…140
	チャージ警告灯…140
	オイルプレッシャー警告灯…141
AT OIL TEMP	AT油温警告灯…141
AWD	AWD警告灯…141
	ステアリング制御警告灯…142
	電子制御ダンパーシステム警告灯※…142
	アイドリングストップ警告灯（黄色）…142

	VDC警告灯…**142**
	LEDヘッドランプ警告灯…**143**
	オートヘッドランプレベラー警告灯…**143**
	広角単眼カメラ警告灯…**143**
	前側方プリクラッシュブレーキ警告灯…**143**
	EyeSight X警告灯（黄色）…**143**
	RAB警告灯…**143**
	SRVD警告灯…**143**
	SRH警告灯…**144**

	ADB警告灯（黄色）…**144**
	ドライバーモニタリングシステム警告灯（黄色）…**144**
	EyeSight警告表示灯…**144**

※ 警告灯の有無はグレードやオプションにより異なります。

表示灯

	セキュリティ表示灯…145
	電動パーキングブレーキ作動灯…145
	ウインカー表示灯…146
	AVH表示灯…146
	アイドリングストップ表示灯（緑色）…146
	アイドリングストップOFF表示灯（黄色）…146
	VDC作動表示灯…146
	VDC OFF表示灯…146
	ライティングスイッチ表示灯…146
	ハイビーム／パッシング表示灯…147
	フロントフォグランプ表示灯…147
	リヤフォグランプ表示灯…147
	低温表示灯…147
	制限速度表示灯…147
	全車速追従機能付クルーズ表示灯…148
	定速クルーズ表示灯…148
READY	READY表示灯…148

	HOLD表示灯…148
	先行車表示灯…148
	自車表示灯…149
	車間設定表示灯…149
	セット車速表示…149
	レーンキープ表示灯（白色）…149
	レーンキープ表示灯（緑色）…149
	レーンキープ表示灯（青色）…150
	レーンキープ先行車表示灯…150

	車線表示灯…150
	EyeSight一時停止表示灯…150
	車線逸脱警報OFF表示灯…151
	プリクラッシュブレーキOFF表示灯…151
	広角単眼カメラOFF表示灯…151
	エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯…151
	緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯…152
	前側方プリクラッシュブレーキOFF表示灯…152
	EyeSight X表示灯（白色）／（緑色）／（青色）…152

OFF	EyeSight X OFF表示灯…**152**
	隣車線の車両検知表示…**153**
	周辺車表示…**153**
	隣接レーン表示…**153**
	カーブ前速度制御表示灯…**153**
料金所 TOLL GATE	料金所前速度制御表示灯…**153**
RAB OFF	RAB OFF表示灯／一時停止表示灯…**153**
P OFF	ソナー警報音OFF表示灯…**154**
OFF	SRVD OFF表示灯…**154**
SRH OFF	SRH OFF表示灯…**154**
A	ADB表示灯（緑色）…**154**
	ドライバーモニタリングシステム作動表示灯（緑色）…**154**
	ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯…**154**
OFF	ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯…**154**

必読！安全で快適な運転のポイント

お車をお使いいただく上で

お車から離れるときは必ず施錠して

必ず施錠し、キーを携帯してください。盗難だけでなく、お車に細工をされたり、不審な電子機器を取り付けられるなど、思わぬトラブルにつながるおそれがあります。

キーナンバープレートの保管

- キーナンバーは車両修理やスペアキーを作るときに必要となります。これらのナンバーが打刻してあるプレートを紛失すると、スペアキーを作ることができません。盗難防止のため車の中には置かず、大切に保管してください。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため紛失したキーの登録を消去するようお奨めします。登録の消去は、SUBARU販売店でのみ行えます。SUBARU販売店にご相談ください。

☞**P.156**参照

不正改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流の調整や配線などを行わないでください。車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 配線やコネクターに、スバル純正品以外のアクセサリー用品などを接続しないでください。純正品以外の接続に起因する不具合については、メーカー保証の対象にはなりません。
- スバルが国土交通省に届け出をした部品以外のものを取り付けると、不正改造になることがあります。SUBARU販売店にご相談ください（タイヤ、ホイール、マフラーなど）。

用途以外の機器を取り付けないで

用途以外の機器を車両に接続すると、車両システムに悪影響を及ぼしたり、バッテリーが上がったりするおそれがあります。また、お車から個人情報が漏洩したり、外部から操作されたりするなど、思わぬトラブルにつながるおそれがあります。用途以外の機器の接続に起因するトラブルについては、メーカー保証の対象にはなりません。また、株式会社ＳＵＢＡＲＵは一切の責任を負いかねます。

- 車の故障診断コネクターは、点検整備用の故障診断装置の接続にのみ使用してください。
- USBポートは、お車とのデータ通信や機器の充電にのみ使用してください。

☞**P.524**参照

不審な機器を見つけたら取り外して

お車に不審な電子機器が取り付けられていた場合は、すみやかに取り外し、SUBARU販売店にご相談ください。
不審な電子機器の接続に起因するトラブルについては、メーカー保証の対象にはなりません。また、株式会社ＳＵＢＡＲＵは一切の責任を負いかねます。

お車を手放すときは

車両に登録されている情報は、個人情報を含んでいることがあります。お車を手放すときは、必ず登録した情報を削除してください（工場出荷状態に初期化）。
☞P.557参照
ただし、初期化だけでは個人情報を完全に消去できません。個人情報の完全な消去はSUBARU販売店にご相談ください。

純正部品をお奨めします

マフラー、エアクリーナーエレメント、エンジンオイル、オイルフィルター、冷却水、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合や、故障の原因になることがあります。
例えば、マフラーやエアクリーナーエレメントの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。スバル純正部品は、SUBARU車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。
詳しくは「メンテナンスノート」をご覧ください。

お出かけ前には

点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
☞「メンテナンスノート」参照

正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。
☞P.200参照

シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ずシートベルトを正しく着用し、走行中はシートベルトを外さないでください。
- 乗員は全員、シートベルトを着用してください。後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRSエアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

☞P.58参照

運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を放置しないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットはお車に合ったものを正しく敷いてずれないように固定クリップなどで固定してください。また、フロアマットを2枚以上重ねて使用しないでください。
  フロアマットがずれてアクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スバル純正のフロアカーペットをご用意しています。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

室内に荷物を積むとき

- 荷物はできるだけ低くし、背もたれの高さ以上に積まないでください。ブレーキペダルを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トノカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、けがをするおそれがあり危険です。

☞P.520参照

ルーフに荷物を積むとき

- ルーフに直接荷物を積んだり、不用意にロープかけをしないでください。荷くずれを起こしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ルーフに荷物を積むときは、別売のスバル純正ルーフキャリアおよびアタッチメントを使用してください。スバル純正品以外を使用すると、車体に損傷を与えることがあります。
- 走行中荷物が落下すると危険ですので、確実に荷物を固定してください。
- 固定方法や最大積載量などの取り扱い上の注意については、ルーフキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書を必ずお読みください。
- アンテナの上を覆わないようにしてください。電波の送受信や一部の機能に影響が出るおそれがあります。

アクセサリーや物を置くとき

次のような場所にアクセサリーを取り付けたり、物を置いたりしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- インストルメントパネルの上にアクセサリーを取り付けたり、物を置いたまま走行したりすると、運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いたりして危険です。また、SRSエアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬけがをするおそれがあります。
- スイッチの近くにアクセサリーを取り付けたり、物を置いたりすると、走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動するなど、場合によっては故障や過熱・車両火災の原因になります。
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ひもやケーブルなどを引っかけたりしないでください。スイッチの誤操作を引き起こすおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

☞P.73、214参照

- レンズの働きをするようなアクセサリーをガラスに取り付けないでください。車両火災の原因になります。

危険物の持ち込みはやめて

燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは、炎天下で車内が高温になったとき、車両火災の原因になるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。

排気ガスの換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。車内や車庫などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら

すみやかに窓を開け、換気してください。
そのまま放置すると、排気ガスにより一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車の後ろに気をつけて

- お子さまや障害物など、車のまわりの安全を十分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により車両火災になるおそれがあります。

こんなとき、SUBARU販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響を及ぼしたり、事故につながるおそれがありますのでSUBARU販売店で点検を受けてください。

- いつもと違うにおいや音、振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキフルードが不足しているとき
- 地面に油の漏れた跡が残っているとき
- 各警告灯が点灯・点滅したままのとき
- リヤバンパーに強い衝撃を受けたとき
- フロントバンパーに傷がついたり衝撃を受けたとき

お子さまを乗せるときの注意

お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席に座らせ、必ずシートベルトを着用させてください。6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用してください。また、チャイルドシートはできるだけ後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

☞P.72、95参照

チャイルドシートを使用して

- お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートの取り付け方法および取り外し方法は、それぞれチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- この車は、2006年10月1日施行の保安基準に適合したロアアンカレッジを標準装備しています。
- ECE R44※1の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重によって次の5つの質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
0	10 kg以下
0+	13 kg以下
I	9 kg～18 kg
II	15 kg～25 kg
III	22 kg～36 kg

- ECE R129※1の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの身長および月齢によってサイズおよび取り付け向きを規定しています。

種類	取り付け向き	適用範囲
ベビーシート	後ろ向き	身長、月齢制限はありません
チャイルドシート	後ろ向き	身長、月齢制限はありません
チャイルドシート	前向き	身長76 cm以上※2かつ月齢15か月以上
ジュニアシート	前向き	身長100 cm以上

※1: ECE R44およびECE R129は、チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

※2: チャイルドシートによっては身長71 cmから前向きでの取り付けに対応しているものもあります。

- チャイルドシートはできるだけ後席に取り付けてください。
- 助手席に後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用させてください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまには、チャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていると、衝突したとき十分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままでのシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグの前やシートの上に立たせた状態では走行しないでください。

ドアの開閉に注意して

- 開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。また、安全のため、チャイルドプルーフをご利用ください。

☞P.176参照

- ドア開閉時、ドアハンドルに指・爪などを挟まないように注意してください。

窓やサンルーフから顔や手を出させないで

走行中、車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。

パワーウインドウやサンルーフに気をつけて

- パワーウインドウやサンルーフが開閉するときには大きな力が働きます。挟まれたり巻き込まれたりすると危険ですので、操作をする前にお子さまが窓から顔や手を出したり窓に触ったりしていないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので、小さなお子さまにはスイッチ操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときには、パワーウインドウのロックスイッチをロック状態にしておいてください。
  お子さまがいたずらをして、手や首を挟むことを防止します。

☞P.178参照

パワーリヤゲートに気をつけて

- パワーリヤゲートが動くときには大きな力が働きます。挟まれたり、ぶつかったりすると危険ですので、操作をする前に周辺にお子さまがいないことを確認してください。
- 挟まったりぶつかったりすると危険ですので、小さなお子さまには操作させないでください。

車から離れるときはご一緒に

- お子さまのいたずらによる思わぬ事故を防ぐため、必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてキーを携帯し、お子さまを連れてお車を離れてください。
- 特に乳児など小さなお子さまや身体の不自由な方は、車内に残さないでください。炎天下の車内は高温となり、熱中症などにつながるおそれがあります。
  エアコンを作動させていても途中で止まることがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

CVT車の特徴と運転上の注意

強い加速を必要とするときキックダウンができます

- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。
- セレクトレバーを“M”にしているときは、キックダウンはできません。キックダウンを行う必要のあるときは、“D”に戻してください。

ブレーキペダルは右足で

- エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れることがあり危険です。

セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないと“P”から動かないようになっています。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため、後退した後はセレクトレバーをすみやかに“R”から戻す習慣をつけてください。

セレクトレバー位置は目で確認

エンジンをかけるときは“P”、前進するときは“D”、後退するときは“R”の位置にあることを目で確認してください。

発進時、アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時はゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

走行中はセレクトレバーを“N”にしないで

エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

セレクトレバーは正しい位置で

セレクトレバーを“D”や“M”に入れたまま惰性で後退したり、“R”に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ハンドルが重くなるなどして思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

駐車するときは電動パーキングブレーキを確実にかけ、“P”にして、プッシュエンジンスイッチをOFFにします

お車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。電動パーキングブレーキを確実にかけセレクトレバーを“P”にして、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
☞P.48、249参照

お車から離れるときはプッシュエンジンスイッチをOFFにして

- 電動パーキングブレーキを確実にかけセレクトレバーを“P”にして、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
- クリープ現象※でお車がひとりでに動き出したり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

※ エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが“P”または“N”以外でアクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象。

走行するときには

携帯電話などを使わないで

走行中に携帯電話などを手に持って通話や操作をすることや、画面を注視することは法律により禁止されています。
走行中はスマートフォンや車両のディスプレイなどを操作したり注視したりしないでください。

タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能に影響し、事故につながるおそれがあります。タイヤの交換を行う場合は、次の事項をお守りください。
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

- 4輪とも必ず指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

☞P.722、788参照

走行中異常があったら

- 警告灯が点灯・点滅したら、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

☞P.137参照

- ボンネットを開けて点検するときは、高温部に触れないでください。ボンネット内部は高温のため、やけどをするおそれがあります。
- エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害につながるおそれがあります。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を止め、ブレーキフルードや燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように注意してください。損傷や異常がある場合は、SUBARU販売店にご連絡ください。
- 走行中にタイヤがパンクしたときは、急ブレーキをかけないでください。ハンドルを確実に握り、徐々にスピードを落としながら、そのままま っすぐ運転し、ゆっくりと安全な場所に停車してください。

☞P.753参照

ブレーキペダルに足をのせたまま運転しないで

ブレーキの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。

洗車後や水たまりを走行した後はブレーキの効き確認を

- 路面がぬれると滑りやすくなります。
  ぬれた路面や滑りやすい路面の走行は、通常より注意して安全運転を心がけて慎重に行ってください。特に雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転数が急上昇するような急なシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です（ハイドロプレーニング現象）。スピードを落として走行してください。特に摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 水たまり走行後や洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが回復するまで先行車、後続車に十分注意しながらブレーキの効き具合を確かめてください。
- ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

冠水した道路を走行しないで

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジン損傷などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

- 万一、水中に浸かってしまったときは、必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。
- 水位によっては水圧でドアが開かなくなり、車両から脱出できなくなるおそれがあります。

下り坂ではエンジンブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
  – シフトダウンとは、パドルシフトレバーの左側の⊖レバーを手前に引くことで低速ギヤへ変速することをいいます。
  – エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。
- シフトダウンによるエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して使用してください。

横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転してください。
走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。

燃えやすいものに注意して

- 路上に燃えやすいもの（枯葉など）があると排気管や排気ガスの熱により発火するおそれがあります。燃えやすいものの上や付近で停車または走行するときは、注意してください。
- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により車両火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、車両火災につながるおそれがあります。

こんなことにも注意してください

- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は十分にとってください。
- ぬかるみなどでタイヤがスタック（立ち往生）したときはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンルーム内および車体床下に、ねこやねずみなどの小動物がいないことを確認してください。エンジン始動時に、ファンやベルトに小動物が巻き込まれ、車体に損傷を与えることがあります。

適切なエンジン回転数で運転を

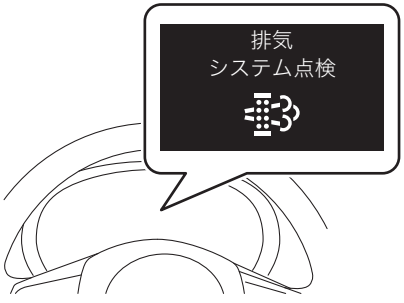
- 新車の慣らし運転中（1,000 kmまで）……4,000 rpm以下
- 慣らし運転後……タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン未満

バッテリーの充電

- バッテリーは消耗品です。こまめな点検と早めの交換を心がけてください。
- バッテリーは走行中に充電されます。
  短時間（約10分以下）の走行を繰り返していたり、長期間（約10日間以上）お車を使用しなかったりしたときは、約30分以上を目安に走行し、バッテリーを充電してください。
  – 充電できない状態が続くと、バッテリーの性能が維持できず、故障の原因となります。
  – 日々の車両使用でバッテリーの性能が維持できない場合、バッテリーの点検や充電について、SUBARU販売店にご相談ください。

ときどきは高速走行を（1.8L車）

排気ガスに含まれるNOx（窒素酸化物）を還元するためのLNT（Lean NOx Trap）触媒を装備しています。触媒の吸着物を取り除いて排気システムの性能を維持するため、ときどき高速走行を行ってください。
吸着物が増えて排気システムの性能が低下すると割り込み画面を表示します。しばらく高速走行（70 km/h以上で5分間以上が目安）をすることで吸着物を還元できた場合、割り込み画面は消えます。
高速走行が難しい場合や割り込み画面が消えない場合は、SUBARU販売店にご連絡ください。そのままにしておくと、故障の原因となります。



ブレーキパッドの摩耗警報

- 継続的にブレーキ付近から金属的な摩擦音（キーキー音）が発生したときは、すみやかにSUBARU販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。摩擦音が発生した状態で走行を続けていると、ブレーキディスクの損傷につながる場合があります。
- ブレーキパッドやブレーキディスクなどの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

雪道走行するときには

4輪とも冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）で

- 雪道走行が予測される場合は冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を用意してください。
  一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4輪とも必ず指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

控えめな運転を心がけて

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、お車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、2速ギヤの使用をお奨めします。
  セレクトレバーを“M”にし、パドルシフトレバーで2速にします。

タイヤチェーンは前輪に

- タイヤチェーンは、予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常用装備品です。タイヤチェーンは、前輪に装着してください。
- タイヤチェーンを取り付けると、後輪が滑りやすくなります。後輪が滑り出すと、ハンドルでお車の進路をコントロールすることが難しくなります。急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避け、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。

駐・停車するときには

坂道に駐車するときは

坂道に駐車する場合には、無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。次の処置をしてください。

1. 電動パーキングブレーキを確実にかけ、車が動き出さないことを確認します。

☞P.249参照

2. セレクトレバーを“P”に入れます。
3. 輪止め（タイヤストッパー）をします。

なお、急な坂道での駐車は避けてください。

車の移動はエンジンをかけて

坂道などで、エンジンをかけなくても車を動かせる場合でも、必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンがかかっていないときにブレーキペダルを踏むと硬く感じられることがあり、ハンドル操作が重くなるため、そのまま移動すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車するときはプッシュエンジンスイッチをOFFにして

- 仮眠するときは必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

ハンドルをいっぱいに回した状態を続けないで

車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱいに回した状態を続けないでください。
☞P.243参照

冷却ファンに注意

ボンネットを開ける場合は、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。やむを得ず、プッシュエンジンスイッチがONでボンネットを開ける際は、冷却ファンに注意してください。
エンジンの温度が高い状態では、エンジンが停止していてもプッシュエンジンスイッチをONにすると、エンジンルーム内の冷却ファンが作動することがあります。
回転している冷却ファンに触れるとけがをするおそれがあります。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムとは

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。
すべてのSRSエアバッグはプッシュエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。
運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
SRSニーエアバッグは運転席SRSエアバッグと同時に作動し、前方に移動する運転者の下肢への衝撃をやわらげる装置です。また、下肢の動きを受けとめることで姿勢の変化をおさえ、身体全体の保護効果を高めます。
SRSサイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。
SRSカーテンエアバッグは車両側方、または車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。
SRSシートクッションエアバッグは助手席SRSエアバッグと同時に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、助手席乗員の主に胸部や腹部への衝撃をやわらげる装置です。

シートベルトは必ず着用して

- SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛び出しなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバッグシステムの効果が十分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☞P.58、200参照

お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートはできるだけ後席に取り付けてください。やむを得ないときは、前向きチャイルドシートのみ助手席に取り付けることができます。
- 助手席に後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☞P.72、95参照

- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
- 12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用してください。
  チャイルドシートの使用方法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

燃料を給油するときには

給油前に必ず指定燃料をご確認ください

- 1.8L車の指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。
  2.4L車の指定燃料は無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）です。
- 指定燃料が入手できないときなどは、無鉛プレミアムガソリン（1.8L車）／無鉛レギュラーガソリン（2.4L車）を使用することもできますが、エンジンの性能を十分に発揮できないおそれがあります。
  2.4L車は、指定燃料がフューエルリッド（燃料給油口）に記載されています。
- 日本産業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオガソリンは使用できます。
- ガソリン添加剤を使用する場合は、スバル純正品のご使用をお奨めします。SUBARU販売店にご相談ください。
- 上記以外の燃料などを使用すると、エンジンの出力が低下したり、部品が損傷したりするおそれがあります。

給油時には必ず次のことをお守りください

- プッシュエンジンスイッチを必ずOFFにしてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- 給油時は火気厳禁です。
  タバコなどの火気を絶対に近づけないでください。引火して車両火災にいたるおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
- 燃料の取り扱いは屋外で行ってください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項をお守りください。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分や、静電気除去パッドに触れて身体の静電気を除去してください。
  静電気による火花が燃料に引火して車両火災にいたるおそれがあります。
- フューエルキャップを開けるときは、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
  キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がしたときは、その音が止まってからゆっくり開けてください。急に開けると給油口から燃料の噴き返しが発生し、車両火災になるおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど、給油操作は必ずお一人で行ってください。燃料給油口に他の人を近づけないでください。
- 給油するときは燃料給油口に給油ガンのノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かしたり、浅く挿入し継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油中は、車内のシートに戻らないでください（座ることで帯電することがあります）。
- 給油は、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。気温などの変化により燃料があふれ、車両火災になるおそれがあります。
- 給油後は、フューエルキャップを“カチッ”と音がするまで右に回し、確実に締まっていることを確認してください。キャップが確実に締まっていないと走行中に燃料が漏れて車両火災につながるおそれがあります。
- 車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。純正品を使わないと車両火災などを引き起こし、その結果重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。

給油時に気化した燃料を吸い込まないように注意してください

燃料の成分には有害な物質を含んでいるものもあります。気化した燃料を吸い込まないよう、注意してください。

こんなことにも注意を

車内にガスライター、スプレー缶などを放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にガスライターやスプレー缶などを放置しないでください。車内が高温になるためガスライターやスプレー缶などが爆発するおそれがあります。

排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワーリヤゲートを操作するときは

パワーリヤゲートの操作時は、次のことをお守りください。お守りいただけないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 周囲の安全を確かめ、障害物がないか、または身の回りのものが挟み込まれる危険がないことを確認してください。
- 車両後方に人がいるときは、安全のためパワーリヤゲートを開閉することを周囲の人に知らせるようにしてください。
- 坂道など傾斜している場所では、パワーリヤゲートが自動で開いた後、重さで下がってくることがあります。パワーリヤゲートを開けたときは、静止していることを確認してください。
- エンジン始動時や他の電装品を使用している、またはバッテリーが弱っているとき、パワーリヤゲートの電動制御が解除されることがあります。この場合、ブザーは鳴らず、パワーリヤゲートの作動が停止します。パワーリヤゲートが頭や顔にぶつからないよう、また、手や荷物を挟まないように注意してください。

ラジエーターが熱いときキャップを外さないで

ラジエーターやリザーバータンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が噴き出すおそれがあり危険です。

電装品を取り付けるときには

電装品を取り付けるときは、SUBARU販売店にご相談ください。種類や取り付け場所により、一部の機能に影響が出ることがあります。また、スバル純正品以外の部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ったりすると車両火災など思わぬ事故につながることがあります。

RF送信機の取り付けについて

RF送信機は、お車に搭載されるすべての電子・電装システムに悪影響を与える可能性がありますので、取り付けないでください。

車止めなどに注意して

次のような場合には、バンパーやマフラーなど車体下部を損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

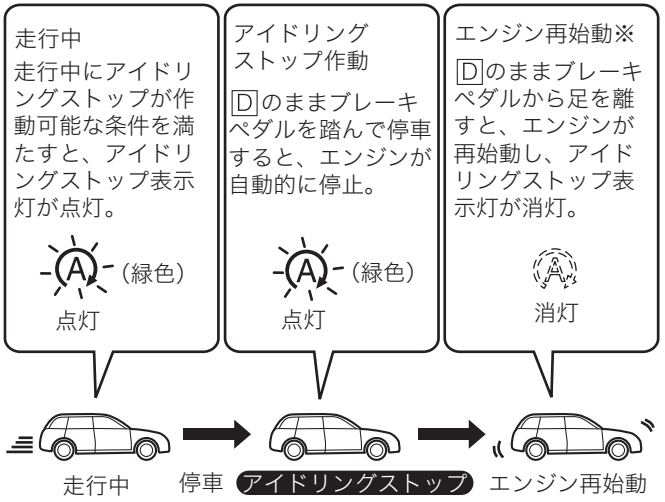
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある個所の通過

点検整備をするときは

SUBARU販売店はSUBARU車を点検整備するための設備、技術、知識のすべてを兼ね備えています。お客様が安心してお車にお乗りいただくためにも、点検整備はお近くのSUBARU販売店にご用命ください。

アイドリングストップ使用上の注意

アイドリングストップは操作や条件により、ブレーキペダルを踏んだままでも、安全確保のためにエンジンが停止、または再始動することがあります。作動をよく確認してご使用ください。
☞P.256参照

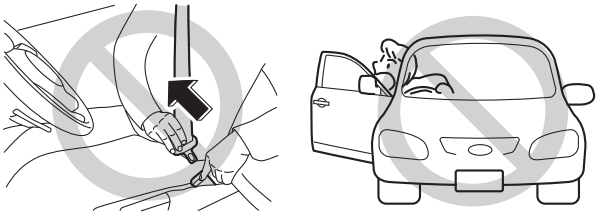


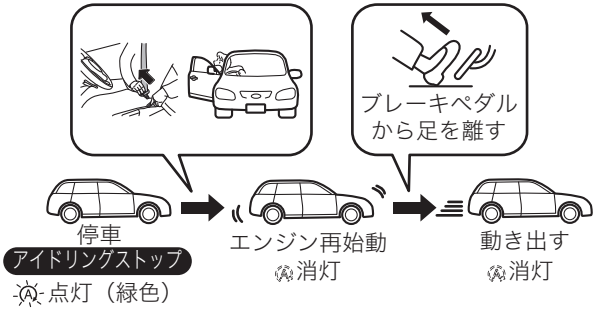
※ 全車速追従機能付クルーズコントロールまたはAVHによって停止保持している場合は、停止保持の解除時にエンジンが再始動します。

アイドリングストップ中に運転席シートベルトを外したり、運転席ドアを開けたりしないで

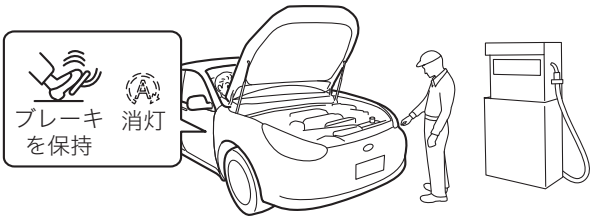
アイドリングストップ中に運転席シートベルトを外したり、運転席ドアを開けたりすると、ブレーキペダルから足を離さなくても、エンジンが自動的に再始動することがあります。ブレーキペダルから足を離すと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

車外に出るときは電動パーキングブレーキを確実にかけセレクトレバーを“P”にして、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。



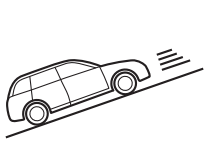


アイドリングストップ中にボンネットを開けないで



運転者が車内でブレーキペダルを踏んでいても、アイドリングストップ中にボンネットを開けると、安全を確保するためエンジンが完全に停止した状態になります。

この場合、始動操作をするまでエンジンが再始動せず、坂道でお車が動く、ハンドル操作が重くなるなどの可能性があり危険です。



坂道で動く

ハンドルが
重くなる

車両状態の記録（2.4L車）

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録する機能が装備されています。
走行状況に応じて、次のようなデータを記録することがあります。

- 車速
- エンジン回転数
- エンジン制御情報
- シフト情報
- 走行情報など

なお、本機能は会話などの音声や映像は記録しません。

車両データの情報開示

次の場合を除き、スバルは記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関など法的強制力のある要請に基づく場合
- スバルが訴訟で使用する場合

ただし、スバルは

- データを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

※ ここでいうスバルは、株式会社ＳＵＢＡＲＵを意味しています。

EDR（イベントデータレコーダー）

お車には、EDR（イベントデータレコーダー）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。
- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速
- SRSエアバッグおよび歩行者保護エアバッグ作動に関する情報

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

知 識
- EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。
- 通常走行時にはデータは記録されません。
- 個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されませんが、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。
- EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。

知 識
- スバルにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

EDRデータの情報開示

次の場合を除き、スバルはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関など法的強制力のある要請に基づく場合
- スバルが訴訟で使用する場合

ただし、スバルは
- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

※ ここでいうスバルは、株式会社ＳＵＢＡＲＵを意味しています。

1. 安全ドライブ

シートベルト
- シートベルトの正しい着用 …… 58
- フロントシートベルト …… 60
- リヤシートベルト …… 62
- シートベルト警報 …… 66
- プリテンショナー付シートベルト …… 68

SRSエアバッグシステム
- SRSエアバッグシステムについて …… 70
- SRSエアバッグが作動するとき、しないとき …… 77
- SRSエアバッグ警告灯 …… 84

歩行者保護エアバッグ
- 歩行者保護エアバッグについて …… 85
- 歩行者保護エアバッグが作動するとき、しないとき …… 90
- 歩行者保護エアバッグ警告灯 …… 93

お子さまの安全
- チャイルドシート …… 95
- チャイルドシートの取り付けかた …… 103

シートベルト

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法に従って走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。走行中はシートベルトを外さないでください。

⚠ 警 告

シートベルトの着用は、次のことを必ずお守りください。守らないと正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用する。
- 二人以上で一本のシートベルトを使用しない。
  - シートベルトは一人用です。
- タングプレートを正しいバックルに確実に装着する。

⚠ 警 告

- シートベルトはねじれたり、裏返しの状態で使用しない。
  - ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用する。
  - 柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかける。
  - 肩に十分にかかっていないと上半身が拘束されず十分な効果を発揮しません。
- 正しい運転（乗車）姿勢でシートベルトを正しく着用する。☞P.200参照
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しない。
  - 衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しない。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるませない。
- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用する。
  - 局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。

⚠ 警 告

– 妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。

腰骨のできるだけ低い位置

- シートベルトのバックルや巻き取り部に異物が入らないようにする。
  – タングプレートが完全に固定されず、走行中に外れるおそれがあります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させる。
  – 膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなど十分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはチャイルドシートを使用する。
  – シートベルトは大人用に設計されています。

⚠ 警 告

– 万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。
チャイルドシートの使用方法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
– お子さまは、後席に乗せてください。

- お子さまをシートベルトで遊ばせない。
  – シートベルトを身体に巻きつけて遊んだりすると、窒息するなどの重大な傷害につながるおそれがあります。
  – 万一、シートベルトが身体に巻きついて外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換する。
  – 装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずSUBARU販売店で交換してください。
  そのまま使用すると正常に働かず、十分な効果を発揮しません。

⚠ 警 告

- シートベルトを交換するときは、交換するシートベルト位置用として認可された、スバル純正品を使用する。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしない。
  - 衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注 意

- 炎天下などで室内が高温になっている場合、樹脂部分を持って着用する。
  - シートベルトの金属部分が熱くなり、やけどをするおそれがあります。

フロントシートベルト

シートベルトは、身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとすると、ベルトおよびタングが自動的にロックされます。また、衝突した際は、一定以上の負荷がかからないようになっています。

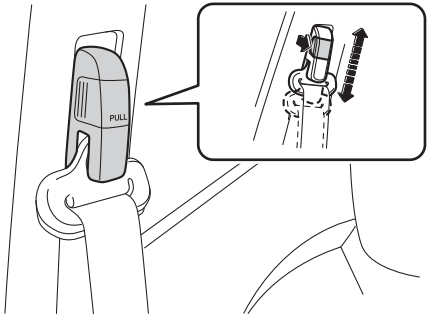
3点式シートベルト

着用のしかた

1. タングプレートを手で持って、ゆっくり引き出します。
   ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。
   それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2. ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。

3. ショルダーアジャスターを調整するときはノブを引きながら上下に動かして最適な位置を選び、固定します。



⚠ 警 告

ショルダーアジャスターを調整するときは、次のことをお守りください。守らないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に十分かかるようにできるだけ高い位置に調整する。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認する。

知 識

ショルダーアジャスターが上がらない場合、シートベルトが引き出せず固定された状態になっていることがあります。シートベルトが引き出せる状態にしてから操作してください。

4. 正しい姿勢で腰かけ、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

外すとき

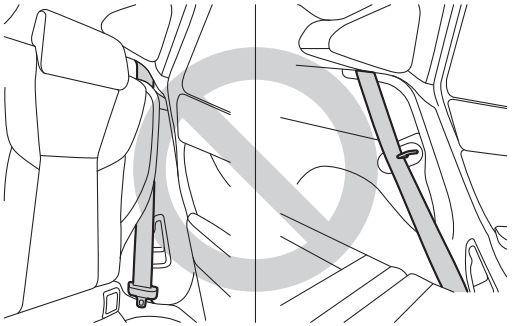
外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押し、タングプレートを手で持ってゆっくり巻き取ります。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

リヤシートベルト

3点式シートベルトが3名分装備されています。中央席には、格納できる3点式シートベルトが装備されています。
シートベルトは、身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとしたときは、ベルトが自動的にロックされます。
また、衝突した際は、一定以上の負荷がかからないようになっています（外側席のみ）。

⚠ 警 告

- リヤシートベルトを使用する前に、シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックの裏側に回り込んでいないか必ず確認する。
  - シートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

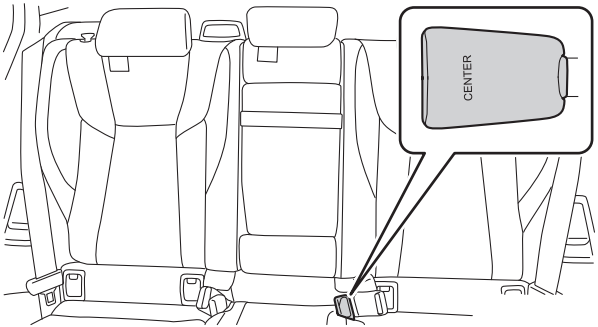


外側席用シートベルト

フロントシートベルトと同じ方法で着用および外します。
☞P.60参照

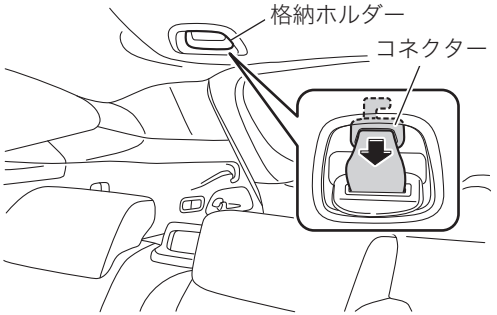
中央席用シートベルト

必ず中央席用のバックルを使ってください。バックルには「CENTER」印があります。

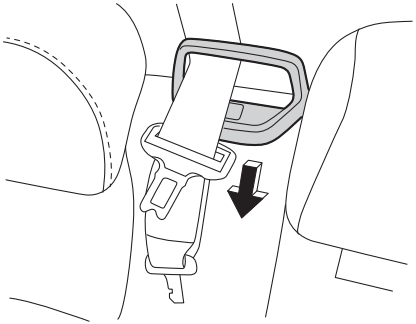


着用するとき

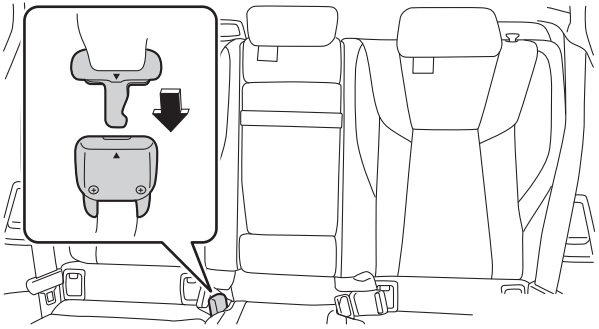
1. カーゴルームの格納ホルダーからシートベルトを引き出します。



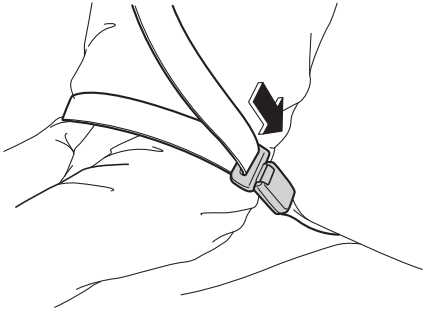
2. シートベルトを背もたれのガイドに通します。



3. 右側の小さいバックルとコネクターを▲マークが付いている面を合わせて結合します。



4. フロント3点式シートベルトと同じ要領で着用します。



⚠ 警 告

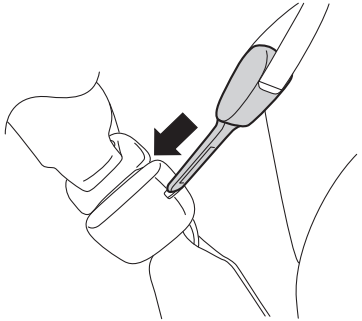
コネクターを結合しないで使用すると重大な傷害につながるおそれがあるため、必ずコネクターを結合して使用してください。

外すとき

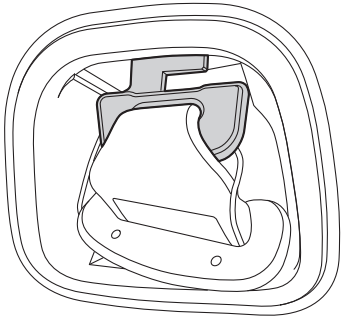
バックルの「PRESS」ボタンを押します。

格納するとき

1. 小さいバックルの解除ボタンをタングプレートなどを使って押し、コネクターと分離します。



2. シートベルトを巻き取り、コネクターをカーゴルームの格納ホルダーに差し込み固定します。



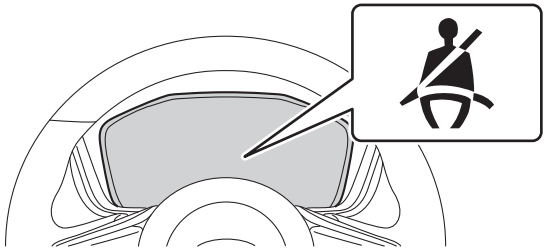
⚠ 注 意

- 使用しないときは、シートベルトを格納する。
- シートベルトの脱着時には、隣の乗員に金具が当たらないようにする。
- 巻き取りが早いので、コネクターを分離するときはシートベルトを手で持って行う。

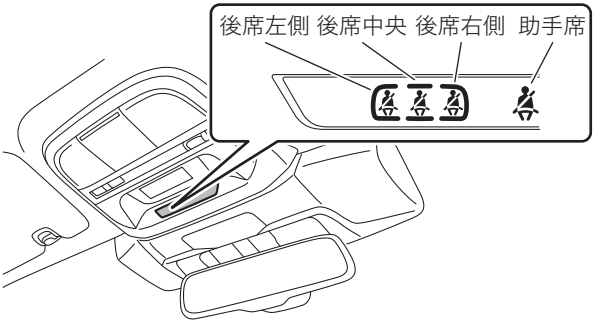
シートベルト警報

プッシュエンジンスイッチがONでシートベルトが未着用の場合、警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると警告灯は消灯します。シートベルトを着用せずに走行する、または走行中にシートベルトを外すと警告灯が点滅または点灯し、ブザーが鳴ります。

＜運転席＞



＜助手席、後席＞



運転席・助手席

プッシュエンジンスイッチがONで運転席、助手席（乗員がいるとき）いずれかのシートベルトが未着用の場合、メーターまたはオーバーヘッドコンソール内の警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると消灯します。

シートベルト未着用のまま車速約20 km/h以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。このとき車速が約20 km/h以下になっても、警告灯の点滅とブザーは、シートベルトを着用するまで約2分間続きます。
約2分間経過してもシートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。警告灯はシートベルトを着用するまで点灯します。

⚠ 警 告

- 助手席に水やその他の液体をこぼさない。
  － 液体をこぼした場合は、直ちに拭き取ってください。

⚠ 警 告

- 助手席を取り外したり、分解しない。
- 助手席の座面と背もたれの間に後席乗員の足をのせたり、物を入れたりしない。
- フロントシートの下に物を置かない。
- 助手席に強い衝撃を与えない。
- お車から離れるときに助手席に物を置きっぱなしにしたり、シートベルトのタングをバックルにはめたままにしたりしない。
- シートに尖ったものを置いたり、シート表面を刺したりしない。
- シートベルトのバックルや巻き取り部の近く、またはシートレール付近に磁石を置かない。

知 識

- 助手席に乗員がいない場合でも、座面に荷物などを置いたとき、センサーが感知して警告灯が点灯することがあります。
- 助手席に小柄な方が乗ったり、座布団などを使用したりすると、センサーが感知せず正常に作動しないことがあります。

後席

プッシュエンジンスイッチがONで後席（乗員がいるとき）いずれかのシートベルトが未着用のとき、オーバーヘッドコンソール内の警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると消灯します。

シートベルト未着用のまま走行した場合、または走行中にシートベルトを外した場合、警告灯が点灯します。さらに、車速約20 km/h以上の場合はブザーが鳴り、シートベルトを着用するまで、または約30秒間継続します。
停車中または車速約20 km/h以下で走行しているときは、シートベルトを外してもブザーは鳴りませんが、警告灯は点灯します。
警告灯はシートベルトを着用するまで点灯します。

⚠ 警 告

- 後席に水やその他の液体をこぼさない。
  - 水やその他の液体をこぼした場合は、直ちに拭き取ってください。
- 後席を取り外したり、分解しない。
- 後席に強い衝撃を与えない。
- 後席の座面に物を置いたまま背もたれを倒さない。
  - センサーの誤作動や破損のおそれがあります。
- シートに尖ったものを置いたり、シート表面を刺したりしない。

知 識

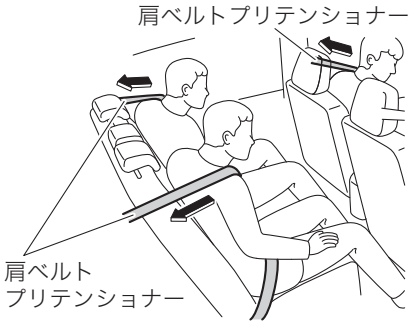
- 警告灯が点灯したときは、次の操作を行うと警告灯は消灯します。
  - 後席シートベルトを着用する（シートベルトのタングプレートをバックルに挿入する）
- 後席に乗員がいない場合でも、座面に荷物などを置いたとき、センサーが感知して警告灯が点灯することがあります。
- 走行中にタングプレートをバックルから抜くと、誤って隣の座席のバックルに差してしまった場合など、バックルに対応する座席に乗員がいなくてもブザーが鳴ります。
- 後席にお子さまや小柄な大人の方が乗ったり、チャイルドシートや座布団などを使用したりすると、センサーが感知せず正常に作動しないことがあります。

プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方または車両側方からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで乗員をシートにしっかり固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。
運転席のプリテンショナーは肩ベルトと腰ベルトに、助手席と後席の外側席のプリテンショナーは肩ベルトに装備されています。

＜運転席＞

＜助手席／後席＞



⚠ 注 意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ずお守りください。

- シートを正しい位置に調整する。
  ☞P.200参照
- シートベルトを正しく着用する。
  ☞P.58参照

次のような作業をするときは、必ずSUBARU販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき

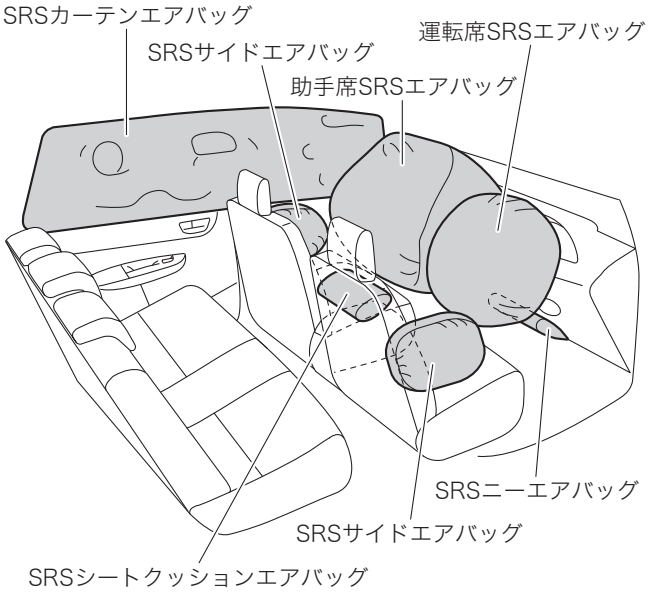
知 識

- プリテンショナー付シートベルトは、シートベルトを着用していない場合でも作動します。一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席および後席の外側席とも同時にSUBARU販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムについて

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。
すべてのSRSエアバッグはプッシュエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。
運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
SRSニーエアバッグは運転席SRSエアバッグと同時に作動し、前方に移動する運転者の下肢への衝撃をやわらげる装置です。また、下肢の動きを受けとめることで姿勢の変化をおさえ、身体全体の保護効果を高めます。
SRSサイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。
SRSカーテンエアバッグは車両側方、または車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。
SRSシートクッションエアバッグは助手席SRSエアバッグと同時に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、助手席乗員の主に胸部や腹部への衝撃をやわらげる装置です。



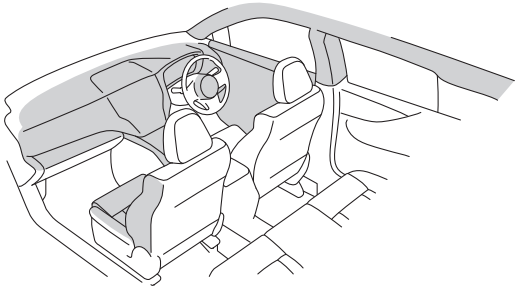
⚠ 警 告

SRSエアバッグシステムに関して次のことを必ずお守りください。
守らないと、システムが正常に作動しなかったり、衝突などのとき効果が十分に発揮されず、命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用し、シート位置・ハンドル位置を調整して正しい運転（乗車）姿勢をとる。
  - SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛び出しなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- 膝の上に物を抱えるなど、乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しない。
  - SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げるおそれがあります。
- スバル純正の専用シートカバー以外のものを前席シートに取り付けたり、敷いたりしない。
  - スバル純正の専用シートカバーを使用する場合には、付属の使用説明書をよく読み、正しい向き、位置に装着してください。

⚠ 警 告

- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺を強打したり衝撃を加えたりしない。



- SRSエアバッグ格納部が破損したり、ひび割れたりした場合は、SUBARU販売店で交換してください。

お子さまを乗せるとき

お子さまを乗せるときは次のことをお守りください。守らないと、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させる。
  - お子さまを助手席に乗せると、SRSエアバッグが膨らんだときに、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しない。

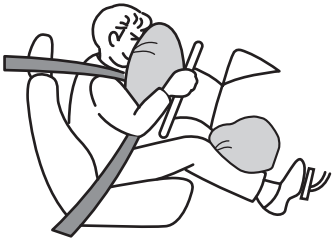
- 12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用する。
  - 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
  - チャイルドシートの使用方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警 告

- 助手席に後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けない。
  - 事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転席SRSエアバッグ・SRSニーエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグおよびハンドル下のパネル部に格納されたSRSニーエアバッグが瞬時に膨らみ、その後しぼみます。



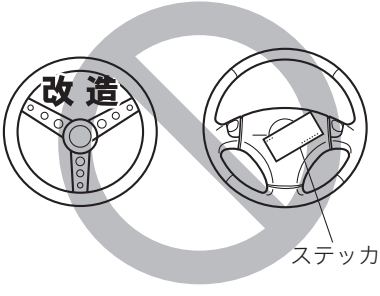
⚠ 警 告

運転席SRSエアバッグ・SRSニーエアバッグに関して次のことを必ずお守りください。
守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らない。

⚠ 警 告

－ SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。



- 運転席SRSエアバッグ・SRSニーエアバッグ格納部に身体（手、顔、胸など）を近づけない。

助手席SRSエアバッグ・SRSシートクッションエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグおよび助手席シートに格納されたSRSシートクッションエアバッグが瞬時に膨らみ、その後しぼみます。
助手席SRSエアバッグは、助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。

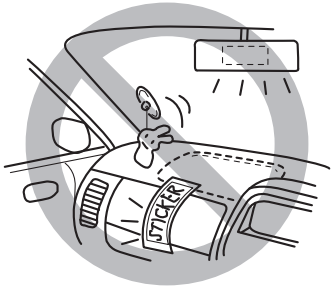
⚠ 警 告

助手席SRSエアバッグ・SRSシートクッションエアバッグに関して次のことを必ずお守りください。
守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

- 助手席SRSエアバッグ・SRSシートクッションエアバッグ格納部に身体（手、顔、胸など）を近づけたり、もたれかからない。

⚠ 警 告

- インストルメントパネルの上面またはその周辺にステッカー類を貼ったり、アクセサリー、ナビゲーションシステムや芳香剤など、硬い物や鋭利な物を置かない。
  - SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。
  - SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンエアバッグ

運転席、助手席各シートに格納されたSRSサイドエアバッグおよび左右のフロントピラー、ルーフサイドに格納されたSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、その後しぼみます。膨らむのは衝撃を受けた側のみです。
SRSサイドエアバッグとSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

⚠ 警 告

SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグに関しては、次の事項をお守りください。
守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- フロントシート背もたれのSRSサイドエアバッグ格納部に身体（手、足、顔）を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らない。

- お子さまなどに後席からフロントシートの背もたれを抱え込むような姿勢はさせない。

⚠ 警 告

- SRSサイドエアバッグ格納部周辺に物を置いたり、カップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けない。
  - SRSサイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

- ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リヤピラーおよびルーフサイド部や天井に近づかない。
  - SRSカーテンエアバッグが作動したときに頭部などに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。特にお子さまを乗せるときには注意してください。
- フロントガラス、ドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどSRSカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリーやハンズフリーマイクなどを取り付けない。

⚠ 警 告

– SRSカーテンエアバッグが作動したときに、飛ばされて危険です。

- フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部などSRSカーテンエアバッグ展開部は、強く叩くなど過度の力を加えない。
- 後席アシストグリップ部のコートフックには、ハンガーや重い物や鋭利な物をかけない。

– 服をかけるときは、ハンガーを使用せず直接コートフックにかけてください。

SRS エアバッグが作動するとき、しないとき

SRSエアバッグに関して次のことを必ずお守りください。

⚠ 警 告

- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れない。

– 構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。

– SRSエアバッグが作動すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます（SRSカーテンエアバッグ、SRSニーエアバッグ、SRSシートクッションエアバッグを除く）。
排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをするおそれがあります。

- 大きな衝撃を受けた場合、SRSエアバッグの作動の有無にかかわらず、必ずSUBARU販売店で点検を受ける。

– SRSエアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- SRSエアバッグは効果を発揮するために瞬時に膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。

⚠ 注 意

- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白煙が発生しますが、車両火災ではありません。また、人体への影響もありません。
  ただし、残留物が付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。まれに皮ふに刺激を感じる場合があります。

知 識

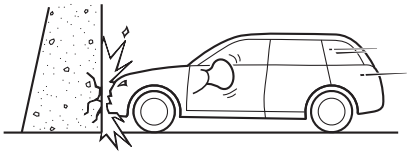
- SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません（SRSカーテンエアバッグを除く）。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  SUBARU販売店で交換してください。

運転席、助手席SRSエアバッグ、運転席SRSニーエアバッグおよび助手席SRSシートクッションエアバッグが作動するとき、しないとき

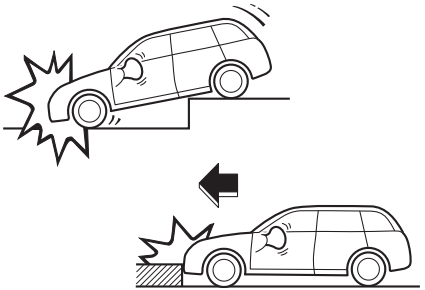
運転席、助手席SRSエアバッグ、運転席SRSニーエアバッグおよび助手席SRSシートクッションエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部、下肢などへの衝撃をやわらげる装置です。
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。
したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

作動するとき

- 次のようなときに作動します。
  - 約20 km/h～約30 km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、またはこれと同等以上の衝撃を受けたとき

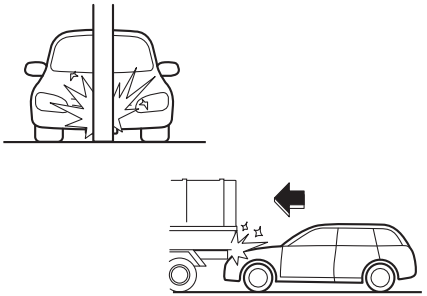


- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。
  - 深い穴や溝に落ちたり、縁石に衝突したときや、ジャンプしたり、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき

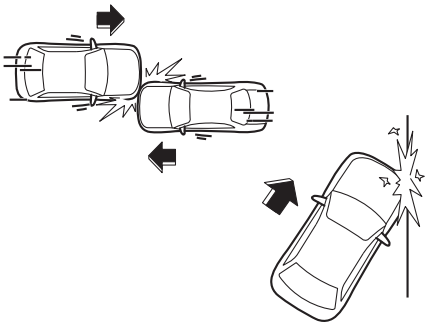


作動しにくいとき

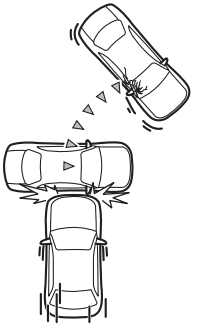
- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったときは作動しにくくなります。
  ー 電柱などに衝突したり、トラックの荷台にもぐり込んだとき



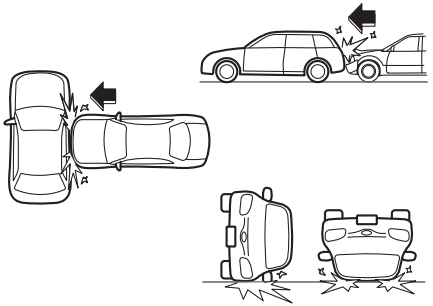
  ー 片側衝突（オフセット衝突）したり、斜め前方へ衝突したとき



  ー 駐車している車両など、衝突の衝撃により移動または変形するものに衝突したとき

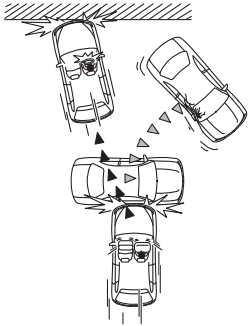


- また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもありますが、本来の効果は発揮されません。
  ー 後ろから衝突されたり、横方向から衝突されたり、横転や転覆したとき



作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。
  ー 一度SRSエアバッグが作動した後の衝突

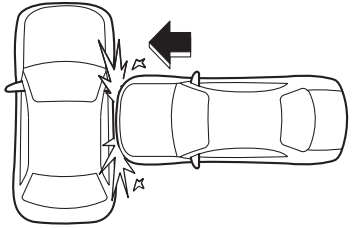


SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンエアバッグが作動するとき、しないとき

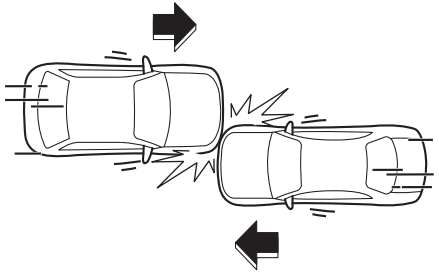
SRSサイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。
SRSサイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。
SRSカーテンエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。
SRSカーテンエアバッグは、車両側方、または車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。
SRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

作動するとき

- 次のようなとき衝撃が大きいと作動します。
  ー 側面に真横から衝突されたとき

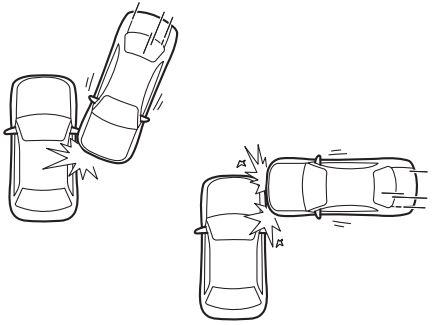


- 次のような場合も、衝突の部位、衝撃の大きさによっては作動することがあります。
  ー 片側衝突（オフセット衝突）のとき

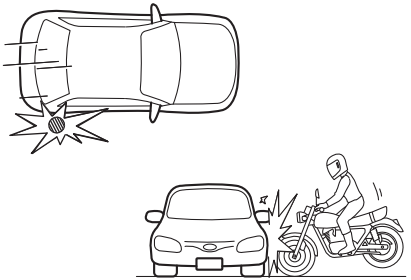


作動しにくいとき

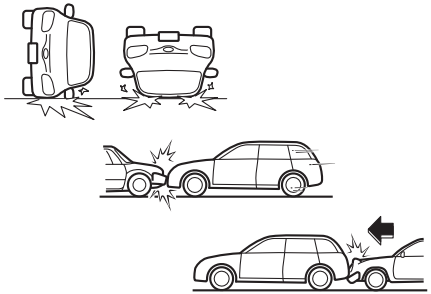
- 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります。
  衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるため、SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグは作動しにくくなります。
  ー 車両側面に斜めから衝突されたり、客室以外に側面から衝突されたとき



– 電柱などに衝突したり、側面にバイクが真横から衝突したとき

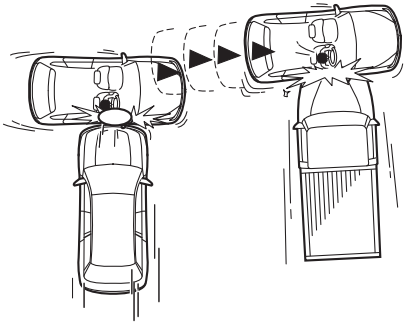


- 次のような場合はSRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。
  – 横転や転覆したり、停車中や走行中の車に正面から衝突したり、後ろから衝突されたとき



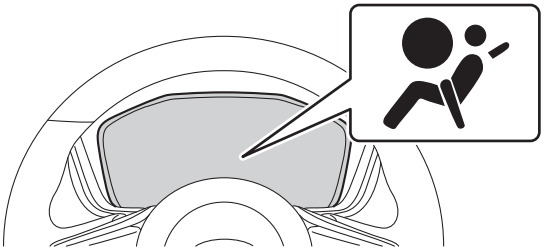
作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。
  – 一度SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグが作動した後の衝突



SRSエアバッグ警告灯

SRSエアバッグ警告灯は、SRSエアバッグシステム（シートベルトプリテンショナー含む）で兼用しています。
システムの異常を検知すると警告灯が点灯します。
プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。



⚠ 警 告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。SRSエアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。

- プッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- プッシュエンジンスイッチをONにして6秒以上経過しても、点灯しているとき

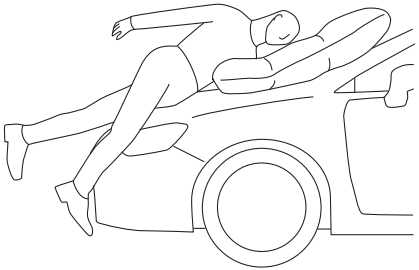
⚠ 警 告

- 走行中に点灯したとき

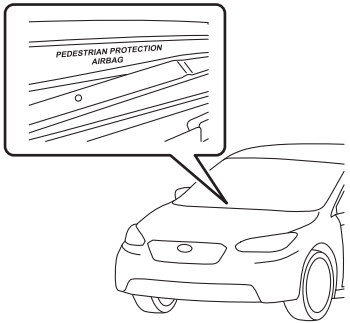
歩行者保護エアバッグ

歩行者保護エアバッグについて

歩行者保護エアバッグは、車両前面で歩行者と衝突した際に展開し、頭部への重大な傷害を軽減する装置です。
プッシュエンジンスイッチがONで、自車速が約25 km/h～約60 km/hで走行中のみ作動します。



カウルパネルの「PEDESTRIAN PROTECTION AIRBAG」マークの記載があるところから展開します。



⚠ 警 告

次のことを必ずお守りください。守らないと、衝突などのときに効果が十分に発揮されず、命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

- ボンネットとフロントガラスをまたぐようにステッカーなどを貼らない。
- ボンネットおよびカウルパネルの上に物を置かない。
- ボンネットおよびカウルパネルの上に雪などが積もった状態や、ゴミ、砂が付着した状態で走行しない。
- ボンネット、インストルメントパネル、フロントバンパー、カウルパネル部など、構成部品の周辺に衝撃を加えない。
- フロントバンパー部を手で押さない。
- フロントバンパー部に、傷やひび割れがあるときは、そのままの状態で走行しない。

⚠ 注 意

次のような場合は、歩行者保護エアバッグが誤って作動してしまったり、歩行者保護エアバッグのセンサー部品が壊れたりする可能性があります。

- 駐車時、発進時に他の車や、壁、ガードレールなどへの接触

知 識

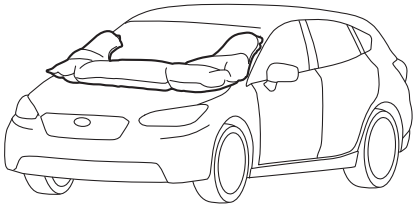
- 歩行者保護エアバッグは膨らんだ後は徐々にしぼみます。
- 歩行者保護エアバッグは一度作動すると2回目以降の衝突では作動しません。
- 歩行者保護エアバッグが作動した状態では走行しないでください。視界が妨げられて正常な走行ができないおそれがあります。やむを得ず走行する場合は必ず「歩行者保護エアバッグが作動したとき」の手順に従ってください。
☞**P.87**参照
- 歩行者保護エアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、衝突した歩行者は展開中の歩行者保護エアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- 歩行者保護エアバッグが作動すると、作動音とともに白煙のようなガスが発生しますが、車両火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。皮ふの弱い方などは、まれに皮ふが刺激される場合があります。
- 歩行者保護エアバッグが作動した場合はSUBARU販売店で交換してください。

知 識

- フロントバンパー部に、傷やひび割れがあるときはそのまま使用せず、SUBARU販売店で点検を受けてください。

歩行者保護エアバッグが作動したとき

歩行者保護エアバッグ展開後に車を動かす必要があるときは、次の手順に従ってください。



1. 車を安全な場所に移動し、プッシュエンジンスイッチをOFFにします。
2. 「歩行者保護エアバッグのたたみかた」に従ってエアバッグを折りたたみます。

☞P.88参照

3. お近くのSUBARU販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

- 歩行者保護エアバッグが作動した際は、EyeSightの視野に影響を与えるおそれがあります。

☞P.284参照

⚠ 注 意

- エアバッグ作動後車を移動するときは、「歩行者保護エアバッグのたたみかた」手順に従いたたんだ上で、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

☞P.88参照

知 識

事故が起きたときは、あわてずに適切な対処をしてください。

☞P.746参照

歩行者保護エアバッグのたたみかた

次の手順で、エアバッグを視界の妨げにならないようにたたみます。

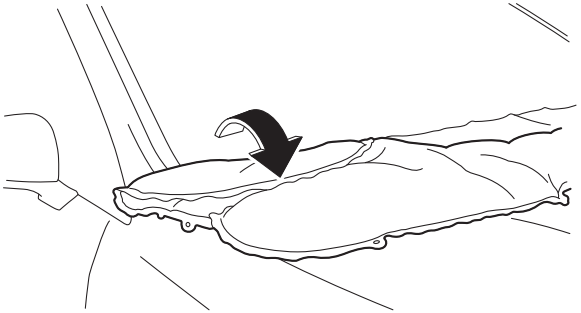
⚠ 注 意

- エアバッグの作動直後はカウルパネルの奥が熱くなっているので手を入れない。
  - ー エアバッグが作動した後温かく感じられることや、煙が出ることがあります。
- エアバッグをたたむときは、破損した部品などに注意する。
  - ー 尖ったふちや破損部に触れるとけがをするおそれがあります。

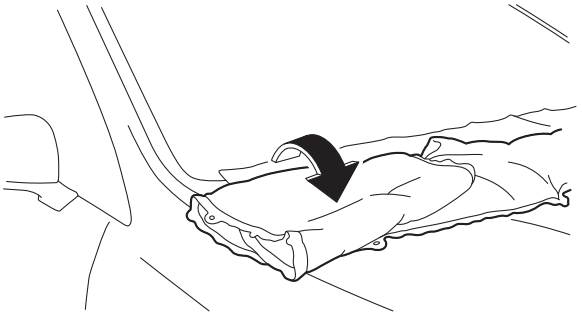
知 識

エアバッグに空気が残っている場合は、上から押して空気を抜きながらたたんでください。

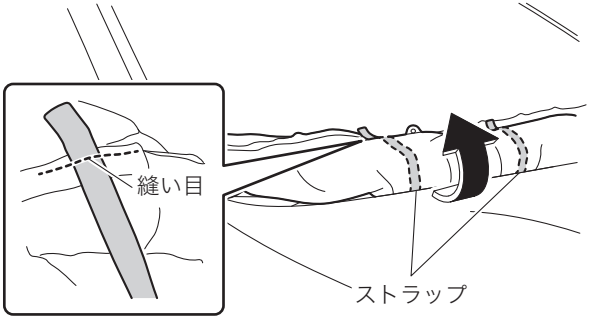
1. エアバッグの端の部分を縫い目に沿って折ります。



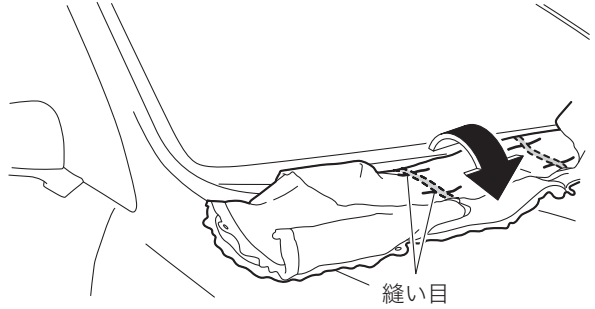
2. もう一度折ります。



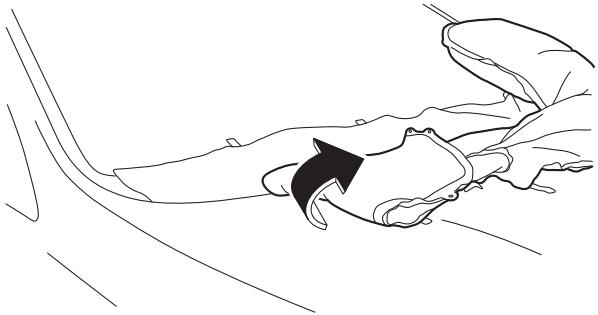
3. エアバッグの裏側に縫い付けられているストラップを引っ張り、縫い目をちぎって外します。



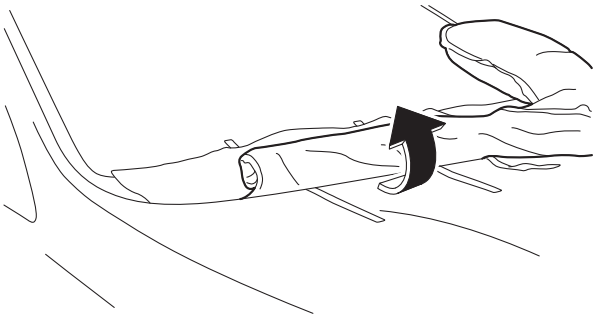
反対側（フロントガラス側）の布に縫い付けられているストラップも同様に外します。縫い目は2か所あります。

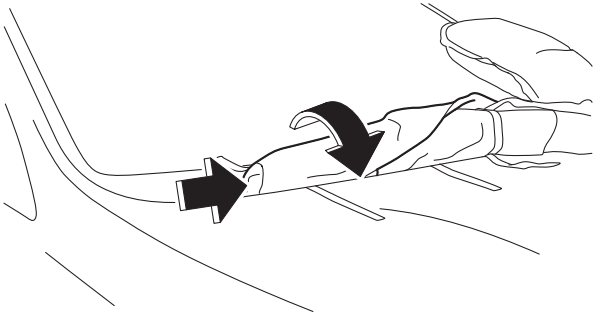


4. 手順1.、2.でたたんだ部分を車両内側に向かって折りたたみます。

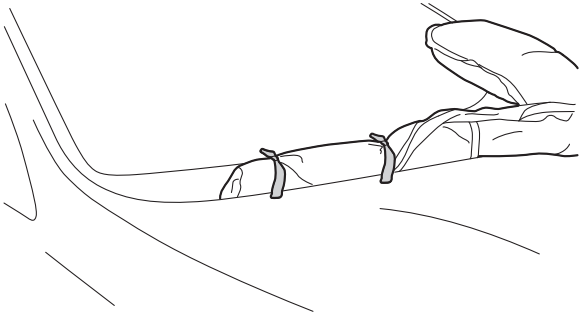


5. たたんだ部分をフロントガラス側に向かって丸め、フロントガラス側の布で包むようにしてできるだけ小さくまとめます。





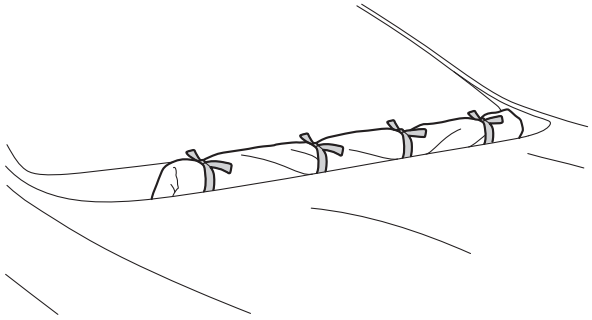
6. ストラップできつく縛ります。



知 識

走行時の風圧でほどけないよう、ストラップをしっかり結んでください。

7. 反対側も同じ手順でたたみ、視界を妨げないようボンネット側に押し込みます。



歩行者保護エアバッグが作動するとき、しないとき

作動するとき

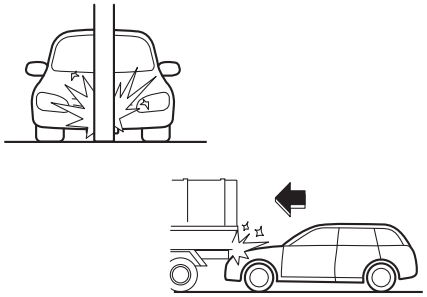
約25 km/h～約60 km/hで走行中、歩行者および、歩行者と同じまたはそれ以上の大きさ、重さの物と衝突したと判断したときに作動します（衝突したときにフロントバンパーに衝突の痕跡が残らない場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。軽い物、小さな動物、その他小さな物体との衝突でも、衝突状況・速度によっては作動する場合があります）。

警 告

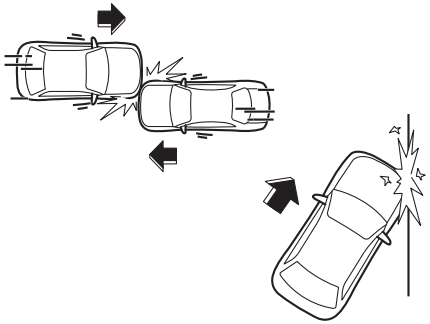
次の場合部品を交換する必要が生じる可能性がありますのでSUBARU販売店で点検を受けてください。

- 車両や路上の障害物とぶつかったとき。
  - 歩行者保護エアバッグが展開していなくても歩行者保護エアバッグ警告灯が点灯する場合があります。警告灯が点灯し続ける場合はシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- 歩行者保護エアバッグ警告灯の点灯有無にかかわらずぶつかった痕跡が確認されたとき。
- 深い水たまりに入り込んだとき。
  - フロントバンパー裏のセンサー部品とセンサー周辺付近のすき間に水が浸入してシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

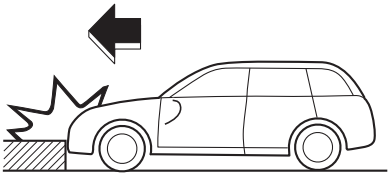
- 次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
  – 電柱などに衝突したり、トラックの荷台にもぐり込んだとき



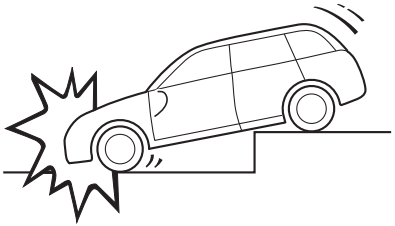
  – 片側衝突（オフセット衝突）したり、斜め前方へ衝突したとき



  – 縁石と衝突したときや駐車場のスロープ、うねりのある道路、突起物や落下物などにぶつけたとき



  – 深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にフロントバンパー前面を強くぶつけたとき



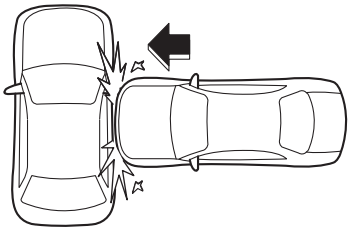
  – その他、深い水たまりや雪だまりに侵入したときや、車止め、買い物カート、自転車、動物（イヌ、シカ、イノシシなど）などと衝突したとき

作動しにくいとき

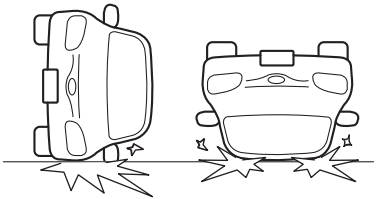
- 歩行者の体格、姿勢によっては作動しにくい場合があります。
- 次のような衝撃を受けたときも作動しないことがあります。
  - しゃがんでいる人、屈んでいる人とぶつかったとき
  - 転倒した人とぶつかったとき
  - 滑りやすい路面で横滑りしたり、タイヤが空転したりして車速が正確に検知できないとき

作動しないとき

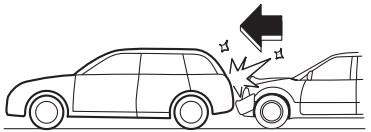
- 次のようなときは作動しません。
  - 作動速度範囲外で走行しているとき
  - 横たわっている人などに衝突したとき
  - 一度歩行者保護エアバッグが作動した後の衝突
  - フロントバンパー左右の角や側面に歩行者がぶつかったとき
- 次のような場合は歩行者保護エアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。
  - 横方向から衝撃を受けたとき



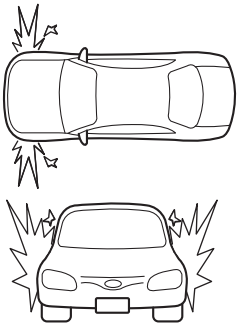
- 横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては作動することがあります。）



- 後方から衝撃を受けたとき

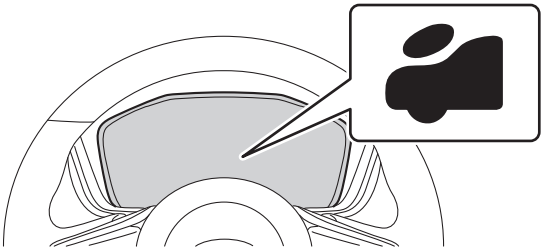


– 歩行者が車の側面やヘッドランプより外側とぶつかったとき



歩行者保護エアバッグ警告灯

システムの異常を検知すると警告灯が点灯します。
プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。



⚠ 警 告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。システムの異常を示している場合、正常に作動しないことがあります。
直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。

- プッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- プッシュエンジンスイッチをONにして6秒以上経過しても、点灯しているとき
- 走行中に点灯したとき

車両の整備作業やカー用品を装着するとき

車両の整備作業やカー用品の装着について、次のことをお守りください。

⚠ 警 告

- 4輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用する。
- 歩行者保護エアバッグセンサーが格納されているフロントバンパー部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用しない。
  - 衝突したときなどに誤作動したり、正常に作動しないおそれがありますので、必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。
- ボンネットを強く閉めたり、ボンネット上部に荷重を加える、強く叩くなどしない。
  - 歩行者保護エアバッグが損傷し、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 歩行者保護エアバッグの部品・配線を取り外したり修理しない。
  - 修理や交換作業が必要なときは、SUBARU販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ワイパー・ボンネット・サスペンション・エアロパーツ・ホイール・カウルパネルなどを加工したり、純正品以外に交換しない。
  - システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
  - 純正品の取り付けはSUBARU販売店にご相談ください。

⚠ 警 告

- 字光式ナンバープレートおよびナンバープレートベースなどのバンパーアクセサリー部品も純正品以外装着しない。
  - システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
  - 純正品の取り付けはSUBARU販売店にご相談ください。
- フロント側のナンバープレートの交換や取り付けを行う場合は、使用可能なボルトについてSUBARU販売店にご相談ください。
  - システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー、ボンネット、カウルパネル付近に部品を取り付けない。
  - システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 作業中、カウルパネル付近やフロントバンパー付近で手をついたり、強く押したりしない。
  - 衝突したときなどに誤作動したり、正常に作動しないおそれがあります。
- エンジンがかかっているときにフロントバンパー周辺部品に触れない、よりかからない。
  - 予期せぬ作動でけがをしたり、部品が損傷してシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- お車や歩行者保護エアバッグを廃棄するときは必ずSUBARU販売店にご相談ください。歩行者保護エアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまの安全

チャイルドシート

お子さまが乗車するときは、チャイルドシートを正しく使用し安全を確保してください。

知 識

チャイルドシートについて、ここでは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートを購入するときは、お車に適合するか確認してください。チャイルドシートの大きさによってはお車に取り付けできないことがあります。
- 認可表示を確認し、お子さまの年齢や体格に合わせて適切なチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートの取り付け方法および取り外し方法は、購入したチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- この車は、2006年10月1日施行の保安基準に適合した口アアンカレッジを標準装備しています。
- ECE R44※または、ECE R129※に適合したチャイルドシートを使用してください。
- i-Sizeチャイルドシートは、ECE R129に適合したチャイルドシートです。

※ ECE R44およびECE R129は、チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

チャイルドシートの種類

ECE R44に適合するチャイルドシート

ECE R44の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重によって次の5つの質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
0	10 kg以下
0+	13 kg以下
I	9 kg～18 kg
II	15 kg～25 kg
III	22 kg～36 kg

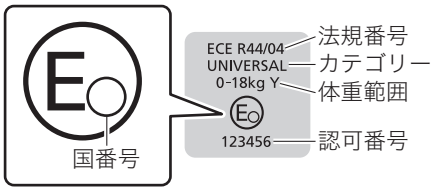
■シートベルト固定

車両のシートベルトを使用して座席に固定する、ユニバーサルチャイルドシートを使用することができます。
質量グループに一致した商品をお選びください。

知 識

- ECE R44に適合したチャイルドシートには認可マークが表示されています。認可マークに記載された体重の範囲を確認し、お子さまに合ったチャイルドシートをお選びください。

＜表示例＞



- 取り付けが可能な座席位置は「適合性一覧」で説明しています。
☞**P.98**参照

■ロアアンカレッジ固定

後席の外側席に装備された、専用のロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するISOFIXチャイルドシートを使用することができます。
ISOFIXチャイルドシートには次の固定具の商品があります。「適合性一覧」を確認し、取り付けが可能な固定具の商品をお選びください。
☞**P.98**参照

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	児童	前	狭幅
ISO/B3	児童	前	全幅

ECE R129に適合するチャイルドシート

ECE R129の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの身長および月齢によってサイズおよび取り付け向きを規定しています。
後席の外側席に装備された、専用のロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するi-Sizeチャイルドシートを使用することができます。

種類	取り付け向き	適用範囲
ベビーシート	後ろ向き	身長、月齢制限はありません
チャイルドシート	後ろ向き	
	前向き	身長76 cm以上※かつ月齢15か月以上
ジュニアシート	前向き	身長100 cm以上

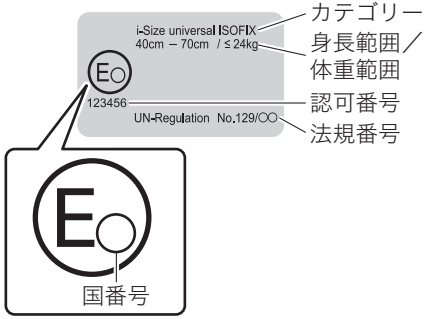
※ チャイルドシートによっては身長71 cmから前向きでの取り付けに対応しているものもあります。

知 識

- ECE R129に適合したチャイルドシートには認可マークが表示されています。認可マークに記載された身長、体重の範囲を確認し、お子さまに合ったチャイルドシートをお選びください。

知 識

<表示例>

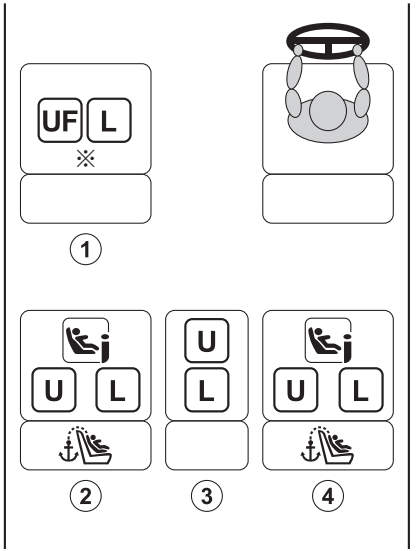


- 取り付けが可能な座席位置は「適合性一覧」で説明しています。
☞P.98参照

適合性一覧

それぞれのシートには、次のようなチャイルドシートを取り付けることができます。

UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きユニバーサルチャイルドシートに適している。
U	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサルチャイルドシートに適している。
L	レヴォーグ／レイバックへの取り付けに対応しているチャイルドシート（チャイルドシートに付属の対応車種リストをご確認ください）。
i-Size	i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートに適している。
	トップテザーアンカレッジを装備している座席。



※ 助手席シート調整
スライド：一番後ろ
シート高さ：一番上
背もたれ：一番起こす

座席位置の番号		①	②	③	④
座席位置		前席	後席		
		助手席	左側席	中央席	右側席
シートベルトで固定するタイプ	汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適する座席位置	UF	○	○※	○
ロアアンカレッジで固定するタイプ	i-Sizeチャイルドシートに適する座席位置	—	○	—	○
	横向き固定具（L1/L2）に適する座席位置	—	×	—	×
	搭載できる最大の後ろ向き固定具（R1/R2X/R2/R3）	—	R3	—	R3
	搭載できる最大の前向き固定具（F2X/F2/F3）	—	F3	—	F3
	搭載できる最大のブースター固定具（B2/B3）	—	B3	—	B3

記号の説明
○：取り付けられます。
UF：前向きチャイルドシートのみ取り付けられます。
×：取り付けられません。
—：ロアアンカレッジがありません。

※ サポートレッグ付きチャイルドシートは、フロアの形状により、使用できないものがあります。

推奨チャイルドシート

推奨チャイルドシートとは、市販のチャイルドシートのことです。

チャイルドシート	お子さまの身長あるいは体重	取り付け向き	固定方法	取り付け可能な座席位置			
				①	②	③	④
				助手席	後席左側	後席中央	後席右側
BRITAX BABY SAFE 3 i-SIZE	40〜83 cm 〜13 kg	後ろ向き	シートベルト	×	○	○	○
BRITAX BABY SAFE 3 i-SIZE with BRITAX FLEX BASE iSENSE			ISOFIX	×	○	×	○
BRITAX ADVANSAFIX i-SIZE	76〜102 cm 〜21 kg	前向き	ISOFIX	×	○	×	○
	100〜150 cm		シートベルト	○	○	○	○
			ISOFIX	×	○	×	○
BRITAX KIDFIX i-SIZE	100〜150 cm 15 kg〜36 kg	前向き	シートベルト	○	○	○	○
			ISOFIX	×	○	×	○
Graco Junior Plus NEXT	100〜150 cm	前向き	シートベルト	○	○	○	○

記号の説明
○：取り付けられます。
×：取り付けられません。

お子さまを乗せるとき

お子さまを乗せるときは次のことをお守りください。守らないと、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させる。
  - お子さまを助手席に乗せると、SRSエアバッグが膨らんだときに、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しない。

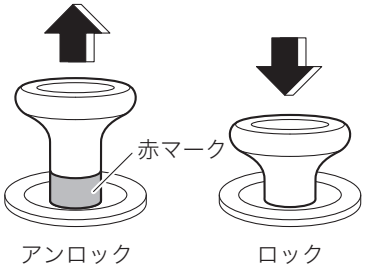
- 12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用する。
  - 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
  - チャイルドシートの使用方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警 告

- 助手席に後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けない。
  - 事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 背もたれが確実にロックされているか、ロックノブの赤マークが見えないことを確認する。
- 背もたれを前後に動かして確実に固定されていることを確認する。
  - 固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警 告



- チャイルドシートは確実に固定する。
  - 確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- チャイルドシート取り付け後は、チャイルドシートを取り付けたシートは動かさない。
  - 衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルドシートは、お子さまの年齢や体格に合ったものを使用する。
- お子さまを車の中に残したままにしない。特に乳児など小さなお子さまや身体の不自由な方は、絶対に車内に残さない。
  - 炎天下の車内は高温となり、熱中症など短時間のうちに重大な傷害に及ぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- チャイルドシートを使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定する。
  - ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 固定しないと、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレストを取り外した場合はカーゴルームに収納し、固定する。
  - ヘッドレストを車内に置いた場合、急停止または急カーブによりヘッドレストが乗員や物に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付けかた

取り付け、取り外し方法については、お客様が購入したチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
後席の外側席には、ISOFIX／i-Sizeチャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。

シートベルトでの固定のしかた

⚠ 警 告

- 助手席に後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けない。
  - 事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1. ヘッドレストを格納位置から一段引き上げます。

☞P.207参照

中央席に取り付けるときは、背もたれのガイドにシートベルトを通します。

☞P.63参照

やむを得ず助手席に取り付けるときは、シート位置を一番後ろ、一番上の位置で、背もたれを起こした状態に調整します。

☞P.202参照

⚠ 警 告

- 中央席に取り付けたとき、チャイルドシートが干渉し、外側席で正しくシートベルトを着用できない場合は、外側席には座らない。

⚠ 警 告

– シートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知 識

ヘッドレストがチャイルドシートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。

2. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けます。

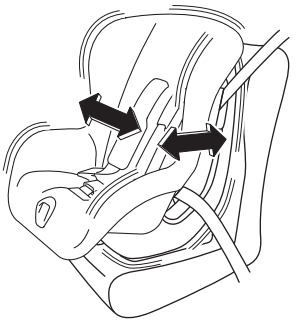
⚠ 警 告

シートベルトはねじれがないようにしてください。

知 識

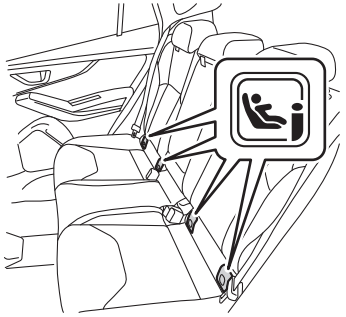
チャイルドシート背面と背もたれの隙間が出ないように、背もたれの角度を調整します。

3. チャイルドシートやシートベルトが確実に固定されていることを前後左右に動かして確認します。ぐらつきがある場合はやり直してください。



ロアアンカレッジの使いかた

ロアアンカレッジは、背もたれの下側のカバーを開くとあります。ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがカバーについています。



⚠ 警 告

- ISOFIX／i-Sizeチャイルドシートを取り付ける際は、次の部分に異物やシートベルトのかみ込みがないことを確認する。
  - ロアアンカレッジ
  - ベースシートのシート取り付け部
  - テザーベルトのフック

  シートベルトや異物がかみ込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

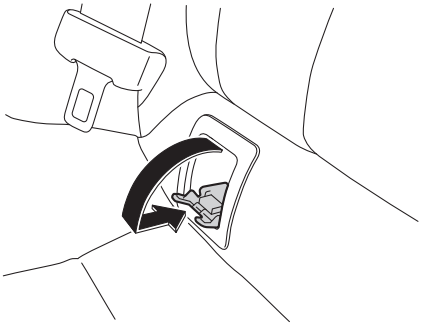
1. ヘッドレストを格納位置から一段引き上げます。

☞P.207参照

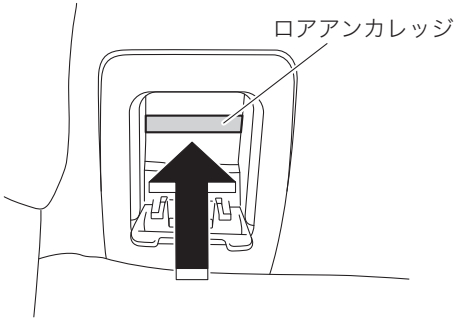
知 識

ヘッドレストがチャイルドシートに当たる場合は、取り外してください。

2. ロアアンカレッジのカバーを、裏の矢印が見えなくなるまで完全に押し込みます。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けます。



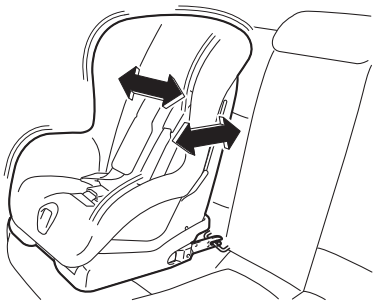
⚠ 注 意

- ロアアンカレッジに差し込むときは、確実に押し込む。
  - 正常に組み付けられずに走行すると、思わぬけがにつながるおそれがあります。
- チャイルドシート使用時以外はカバーを完全に閉じる。
  - カバーが開いたまま乗車するとカバーの破損や思わぬけがにつながるおそれがあります。

知 識

チャイルドシート背面と背もたれのすき間が出ないように、背もたれの角度を調整します。

4. チャイルドシートがしっかりと取り付けられていることを前後左右に動かして確認します。ぐらつきがある場合は再度取り付け状態を確認してください。



⚠ 注 意

可動部分に指や物を挟まないよう十分注意する。

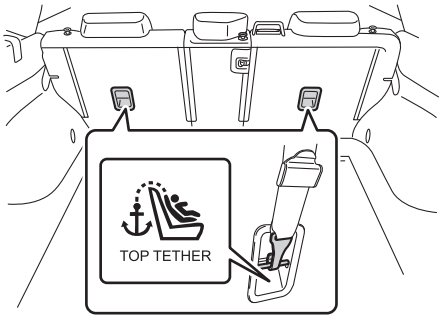
知 識

長期間チャイルドシートを取り付けることにより、シートに跡がつく場合があります。

トップテザーアンカレッジの使いかた

後席背もたれの後ろ側にトップテザーアンカレッジがあります。ヘッドレストを取り外し、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って使用してください。
☞P.207参照

テザーベルトのフックを、図のようにトップテザーアンカレッジに引っかけます。



2. メーター・ディスプレイ

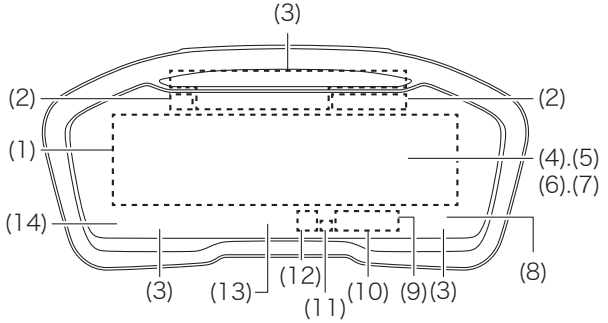
メーター
メーターの表示 …… 108

センターインフォメーションディスプレイ
センターインフォメーションディスプレイの表示 …… 120
操作方法 …… 121
ステータスバー …… 122
インフォメーションバー …… 122
車両情報の表示 …… 124
設定の変更（全項目）…… 125
設定の変更（走行）…… 130
設定のしかた …… 132
ショートカット …… 134
現在地ボタン …… 134
ドライバープロフィールボタン …… 134
エアコン操作バー …… 134
車両設定ボタン …… 134
デバイス管理ボタン …… 134
AVHボタン…… 135
アイドリングストップボタン …… 135
HOMEボタン…… 136
オープンソースソフトウェア情報 …… 136

警告灯・表示灯
警告灯 …… 137
表示灯 …… 145

メーター

メーターの表示



(1) 液晶メーター
(2) メーター表示情報
(3) 警告灯・表示灯エリア
(4) タコメーター（エンジン回転計）
(5) ECOゲージ
(6) 基本画面／EyeSight画面
(7) スピードメーター（速度計）
(8) フューエルメーター（燃料計）
(9) トリップメーター（区間距離計）
(10) オドメーター（積算距離計）
(11) SI-DRIVE／ドライブモードセレクト表示
(12) セレクトインジケーター／シフトポジション
(13) iマーク
(14) 水温計

ウェルカム画面・グッバイ画面

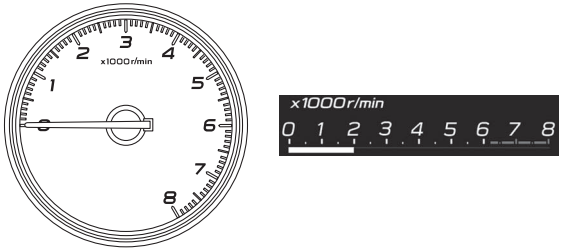
ドアを解錠し、運転席ドアを開けて閉めると、ウェルカム画面を表示します。
また、プッシュエンジンスイッチをONにするとメーターのすべての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。
プッシュエンジンスイッチをOFFにすると、グッバイ画面を表示します。

知 識

- ウェルカム画面は一度表示すると、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから一定時間が経過するまでは運転席ドアを開けても表示しません。
- ウェルカム画面、グッバイ画面は、プッシュエンジンスイッチをONにすると通常の表示に戻ります。
- キーレスアクセス機能またはアクセスキーのボタンでドアを施錠するとグッバイ画面を中断します。
- ウェルカム画面、グッバイ画面、メーターの初期作動をOFFに設定できます。
☞**P.125**参照

タコメーター（エンジン回転計）

毎分のエンジン回転数を示します。



⚠ 注 意

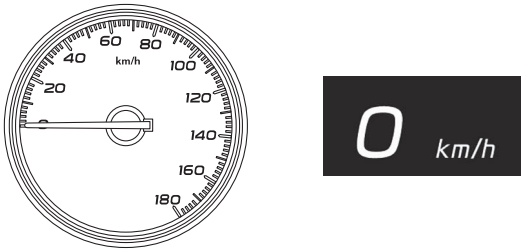
- エンジンの許容回転数を超えている範囲（レッドゾーン）に入らないように運転する。
  - レッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

知 識

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

スピードメーター（速度計）

お車の走行速度を示します。



ECOゲージ

トリップメーターをリセットしてからの平均燃費と瞬間燃費の差を表示します。平均燃費よりも瞬間燃費が良い場合は＋側、悪い場合は－側を表示します。

知 識

- ECOゲージはあくまでも目安です。
- トリップメーターをリセットすると、平均燃費を表示するまで約10秒かかります。表示するまでの間、ECOゲージは作動しません。

トリップメーター（区間距離計）

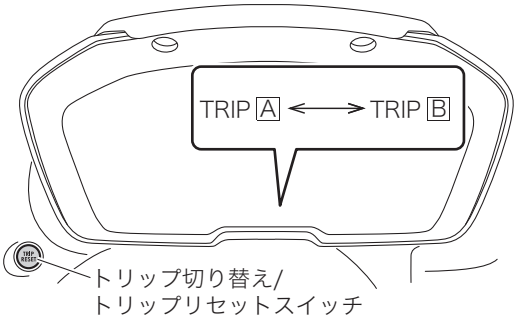
ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。

知 識

プッシュエンジンスイッチがON以外の状態でもトリップ切り替え／トリップリセットスイッチを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターを表示します。

トリップA、Bを切り替える

トリップ切り替え／トリップリセットスイッチを押すごとに表示が切り替わります。



トリップA、Bを0に戻す

トリップAまたはトリップBのうち、リセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え／トリップリセットスイッチを押し続けると0.0に戻ります。

オドメーター（積算距離計）

走行した総距離をkmで表示します。

6789 km

フューエルメーター（燃料計）

プッシュエンジンスイッチがONのとき、燃料の残量を示します。
ON以外の場合はトリップ切り替え／トリップリセットスイッチを押すと一定時間、燃料の残量を表示します。
☞P.110参照

知 識

- 目盛りが「E」に近づいたら早めに給油をしてください。
- 給油後の残量はエンジンを始動すると示します。また、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかります。
- 給油量が少ない場合（約15 L以下）、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかります。
- 目盛りと消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するので、目盛りが増減することがあります。

水温計

エンジン冷却水温の状態を表示します。

⚠ 注 意

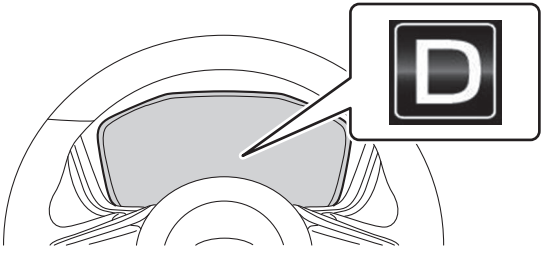
H付近のオーバーヒートゾーンに入るとオーバーヒートしています。安全な場所にお車を止め、処置を行ってください。
☞P.781参照

知 識

冷却水温によって水温計内のアイコンの色が変わります。

セレクトインジケーター／シフトポジション表示

セレクトレバーの位置、またはギヤ位置を表示します。
☞P.239、260、264参照

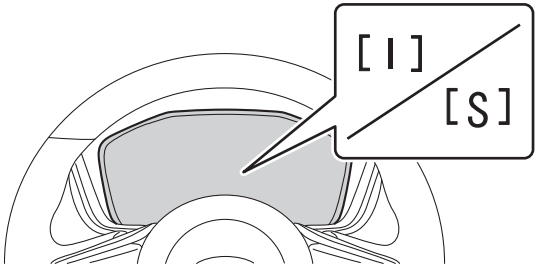


シフトアップ・ダウン可能表示

マニュアルモード時、シフトアップ、シフトダウンが可能な場合に◆印を表示します。

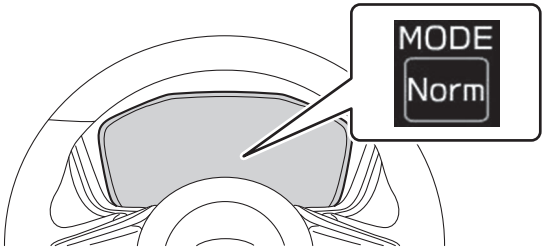
SI-DRIVE表示

SI-DRIVEの選択モードを表示します。



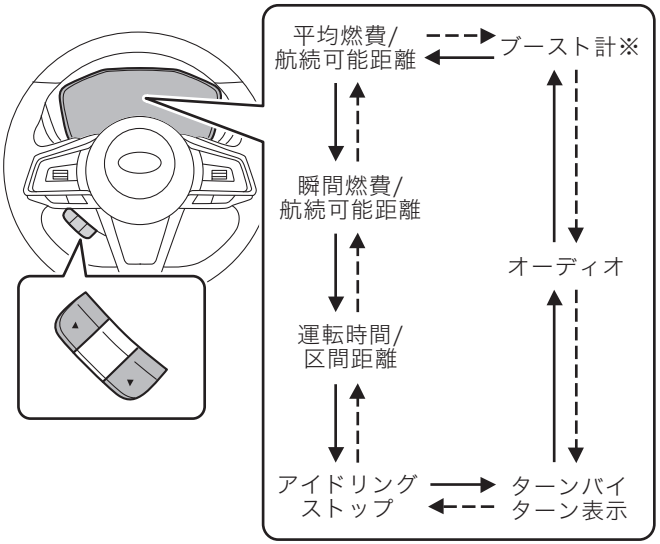
ドライブモードセレクト表示

ドライブモードセレクトの選択モードを表示します。
☞P.264参照



基本画面

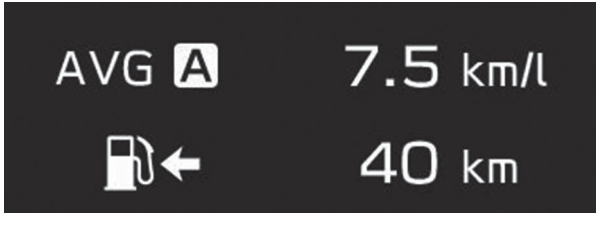
▲▼スイッチを手前に引いて切り替えます。
- ◄- - - -：▲（戻し）スイッチ
- ——►：▼（送り）スイッチ



※ 有無はグレードやオプションにより異なります。

平均燃費／航続可能距離

平均燃費はトリップメーターをリセットしてからの平均燃費を表示します。航続可能距離は残りの燃料で走行できるおおよその距離を表示します。



知 識

航続可能距離は、過去の燃費を元に計算されるため、実際の距離と異なる場合があります。

瞬間燃費／航続可能距離

瞬間燃費は現在の燃費を表示します。航続可能距離は残りの燃料で走行できるおおよその距離を表示します。

知 識

航続可能距離は、過去の燃費を元に計算されるため、実際の距離と異なる場合があります。

運転時間／区間距離

プッシュエンジンスイッチをONにしてから経過した時間と走行距離を表示します。表示範囲は00'（00分）～99 h59'（99時間59分）です。

アイドリングストップ

トリップメーターをリセットしてからの、アイドリングストップした積算時間と節約した燃料の目安を表示します。トリップA、トリップBそれぞれについて表示します。表示範囲は次のとおりです。

- 積算時間：
  00'00"（00分00秒）～9999 h59'59"（9999時間59分59秒）
- 燃料節約量：0 ml～9999.999 L

知 識

- トリップAまたはトリップBをリセットすると、積算時間および燃料節約量もリセットされます。
- アイドリングストップ作動によるエンジン停止中も、運転時間はカウントを続けます。

ターンバイターン表示

目的地への進行方向等をお知らせします。
☞P.643参照

オーディオ

オーディオ情報を表示します。
☞P.581参照

ブースト計

エンジンの吸気圧力（ブースト圧）とブースト圧のピーク値を表示します。

知 識

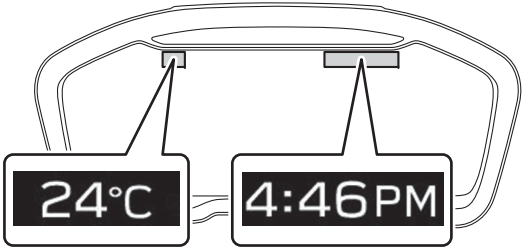
ピーク値をリセットできます。
☞P.125参照

EyeSight画面

EyeSightの作動状態に応じて情報を表示します。
☞P.284参照

メーター表示情報

メーター上部に外気温／時計を常時表示します。

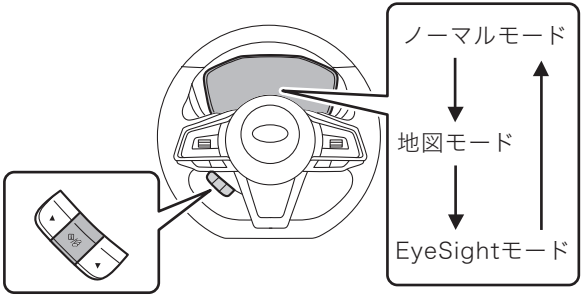


知 識

- 表示を方位計／航続可能距離、なしに設定できます。
  ☞P.125参照
- 外気温度計は外気温度センサー取り付け部の温度を表示していますので、実際の外気温度とは異なる場合があります。
  - 停車中や低速走行時、またはしばらく駐車した後にエンジンを再始動したときは、周囲の熱の影響を受けるため正しい温度が表示されないことがあります。
- 温度差のある場所に出入りしたときなど、外気温度計の表示の更新が遅れることがあります。

液晶メーター

3種類の画面モードを選択できます。
画面切り替えスイッチを引き続けるか、センターインフォメーションディスプレイの設定で切り替えができます。
☞**P.125**参照



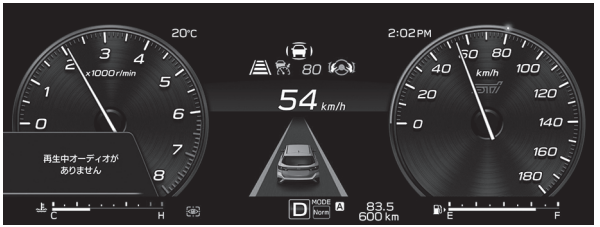
モードによって、計器類、基本画面、EyeSight画面等の表示場所が変わります。

知 識

割り込み画面を表示しているときは、画面モードの切り替えができません。

ノーマルモード

タコメーター（エンジン回転計）やスピードメーター（速度計）をアナログ調で表示します。

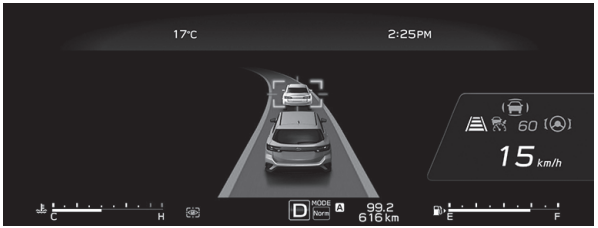


地図モード

スバル純正のナビゲーションシステムと連動して表示します。
☞**P.626**参照

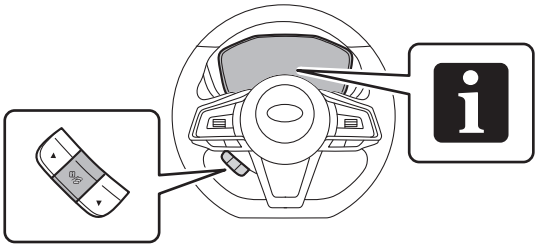
EyeSightモード

EyeSight作動状態や周囲の状況を表示します。
☞P.284参照



割り込み画面

異常などを検知すると、割り込み画面を表示し、お知らせや警告を行います。
割り込み画面が表示されたときは、画面および音声の指示に従ってください。
マークが点灯しているときに（インフォメーション）スイッチを引くと、割り込み画面を再表示できます。

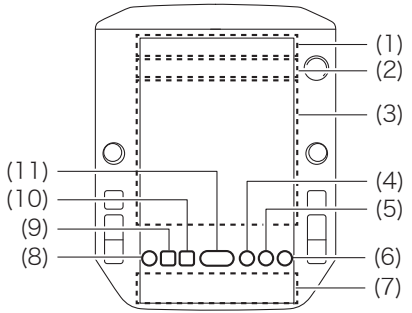


知 識

画面の指示に従って処置を行っても割り込み画面が消えない場合は、SUBARU販売店で点検を受けてください。

センターインフォメーションディスプレイ

センターインフォメーションディスプレイの表示



(1) ステータスバー
(2) インフォメーションバー
(3) メイン画面
(4) デバイス管理ボタン
(5) 現在地ボタン
(6) ドライバープロフィールボタン
(7) エアコン操作バー
(8) 車両設定ボタン
(9) AVHボタン
(10) アイドリングストップボタン
(11) HOMEボタン

⚠ 警 告

- 走行中に操作したり、画面を注視したりしない。
  - ハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。停車してから操作をしてください。

知 識

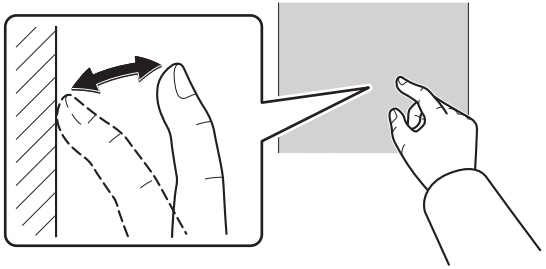
地図、テレビ、ラジオ、メディア、電話、アプリなどの項目については、ナビゲーションシステムの各項目を参照してください。

☞P.533参照

操作方法

タップ

画面を軽く叩きます。

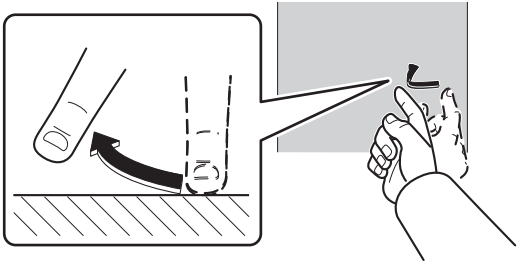


ロングタップ

画面に触れたまましばらく保持します。
長いリストをスクロールするときは、スクロールボタンに触れ続けることで連続してスクロールできます。

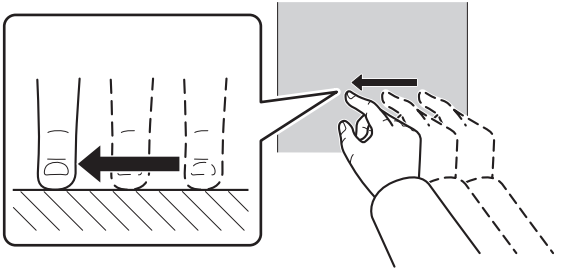
フリック

画面に触れ、指を滑らせながら離します。



ドラッグ

画面の項目に触れ、指を画面から離さずに滑らせます。



ステータスバー

外気温度や時計などの情報を表示します。

知 識

- 時計をタップすると、時刻および12H／24H表示の設定ができます。
  ☞P.125参照
- 外気温度計は外気温度センサー取り付け部の温度を表示していますので、実際の外気温度とは異なる場合があります。
  - 停車中や低速走行時、またはしばらく駐車した後にエンジンを再始動したときは、周囲の熱の影響を受けるため正しい温度が表示されないことがあります。
- 温度差のある場所に出入りしたときなど、外気温度計の表示の更新が遅れることがあります。

インフォメーションバー

オーディオ情報、ナビゲーション情報、ウィジェットを表示します。左右にフリックするか、＜または＞をタップすると表示が切り替わります。
また、異常などを検知すると割り込み画面を表示します。

ウィジェット

車両の情報を表示します。
最大3つの項目を選択できます。
☞P.125参照

アイコン	内容
水温	水温
油温	油温
AVG. A 車速	平均車速（トリップA／B）

アイコン	内容
アクセル開度	アクセル開度
勾配	勾配
方位	方位計
制限速度	制限速度
カレンダー	カレンダー
平均燃費	平均燃費（個人燃費）
OFF	OFF

知 識

平均燃費を選択すると、ドライバーモニタリングシステムで認識しているユーザーごとの平均燃費を表示します。
☞P.446参照

車両情報の表示

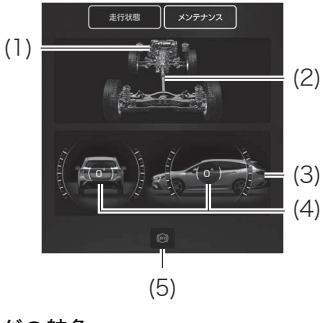
走行状態、メンテナンス情報を表示できます。

CarInfo

画面上部の[走行状態]または[メンテナンス]をタップして、画面を切り替えることができます。

走行状態

次の情報を表示します。



(1) ステアリングの舵角
(2) 動力の伝達状態
(3) 車両の姿勢
(4) 車両の角度
(5) VDC／AVHの作動状態

メンテナンス

エンジンオイル、オイルフィルター、タイヤ、定期点検の各項目について、メンテナンスのお知らせをするリマインダー画面を表示するよう設定できます。
☞**P.125**参照
設定したメンテナンス時期（日付・距離）の15日前または残り500 kmになると、該当するメンテナンス時期のお知らせ画面を表示します。

知 識

- エンジンオイル、オイルフィルター、タイヤは、工場出荷時にメンテナンス時期（距離のみ）が設定されています。
- メンテナンス時期のお知らせ画面は表示後15日経過または500 km走行するまで表示をし続けます。

1. 設定したい項目の設定アイコンをタップします。

2. [お知らせ日]または[お知らせ距離（残り）]をタップします。
3. 設定したい日付または距離を入力し、[設定]をタップします。

4. [×]ボタンをタップしてポップアップウインドウを閉じます。

知 識

- 日付または距離のどちらかを設定すると、メンテナンスのお知らせ画面を表示します。
- 日付のみを設定する場合、「年」「月」「日」のいずれかを「--」に設定すると、お知らせ画面は表示しません。
  - 「日」を31日に設定後、31日のない「月」を選択すると、自動で月の最終日に変わります。
- 前回設定した時期（日付・距離）を過ぎている場合、お知らせ時期は次のように表示します。
  - 設定した日付から15日経過すると「----年--月--日」を表示します。
  - 設定した距離から500 kmまでは「0000」を表示します。
  - 設定した距離から500 km以上走行すると「----」表示に変わります。
- [既定値に戻す]をタップすると、初期設定に戻ります。

設定の変更（全項目）

各種項目の設定を変更、または確認できます。

アイドリングストップ

アイコンをタップするとアイドリングストップのON／OFFを切り替えることができます。
☞**P.256**参照
ONにすると、アイコン内の表示灯が点灯します。

オートビークルホールド

アイコンをタップするとAVHのON／OFFを切り替えることができます。
☞**P.254**参照
ONにすると、アイコン内の表示灯が点灯します。

ビークルダイナミクスコントロール

アイコンをタップするとVDCのON／OFFを切り替えることができます。
☞**P.266**参照
OFFにすると、アイコン内の表示灯が点灯します。

ディスプレイオフ

アイコンをタップするとセンターインフォメーションディスプレイの表示をOFFにできます。

セキュリティモード

暗証番号を設定してディスプレイをロックすることができます。

設定

画面上部の[全般]、[サウンド]、[ナビゲーション]、[電話]、[車両]のうち、設定したい項目の種類を選択します。

全般

次の項目の設定を変更、または確認できます。

項目		設定
時計	日付と時刻	自動／手動※1
	表示形式	12H／24H
ディスプレイ	ディスプレイオフ	—
	イルミネーションコントロールダイヤル	ON／OFF
	明るさ／コントラスト	明るさ 1～11※2
		コントラスト 1～11
		初期状態
Wi-Fiセキュリティ情報※3		—

項目		設定
SUBARU クルマ de ネット	SUBARU クルマ de ネット	ON／OFF
	Wi-Fi名称（SSID）	—
	セキュリティタイプ	WPA2
		WPA／WPA2
	パスワード	—
	SSIDブロードキャスト設定	ON／OFF
	接続デバイス	—
リマインダー画面	メンテナンス	ON／OFF
	誕生日	ON／OFF
	記念日	ON／OFF
セキュリティモード	セキュリティモード作動	パスコード入力
	パスコード変更	—

項目		設定
メーター画面	メーター初期作動	ON／OFF
	メーター表示情報	外気温／時計
		方位計／航続可能距離
		なし
	ターンバイターン割り込み表示	ON／OFF
	メーター画面モード※4	ノーマル
		地図
		EyeSight
	メーター地図表示※4	3D
		2Dヘディングアップ
		2Dノースアップ
	PEAK値リセット※5	—
カメラ	ステアリング連動ガイド	ON／OFF
エアコン	エアコンボタン設定	A/C
		MAX A/C
		AUTO
		内外気
		SYNC
言語／Language		English
		日本語
ショートカット設定		ON／OFF
ウェルカム画面		ON／OFF

項目		設定
グッバイ画面		ON／OFF
ウィジェット	左／中央／右	アクセル開度
		平均燃費
		勾配
		水温
		油温
		AVG.A／B車速
		方位計
		制限速度
		カレンダー
		OFF
誕生日		名前／日付
記念日		名前／日付
休憩提案		ON／OFF
ソフトウェア更新		—
工場出荷状態に初期化		—
システム情報		—
オープンソースソフトウェア情報		—

※1: 時計を「手動」に設定したとき、時計が実際の時刻とずれていると、一部機能に影響が出ることがあります。
※2:「イルミネーションコントロールダイヤル」がOFFのときのみ設定できます。
※3: Apple CarPlayを使用すると表示されます。
※4: 車両設定ボタンからも変更できます。
※5: 設定の有無はグレードやオプションにより異なります。

サウンド

☞P.559参照

ナビゲーション

☞P.664参照

電話

☞P.549参照

車両

次の項目の設定を変更できます。

項目		設定
EyeSight	プリクラッシュブレーキ※2	設定ON
		設定OFF
	車間距離警報※2	遠い
		標準
		近い
	後退速度リミッター	低速
		中速
		高速
		OFF
	エマージェンシーレーンキープアシスト※2	ON／OFF
	車線逸脱防止機能※2	すべてON
		車線逸脱防止制御のみON
		警報音のみON
		すべてOFF
	クルーズコントロール加速レベル※1※2	エコ
		コンフォート
		スタンダード
		ダイナミック
	カーブ警報＆速度制御	ON／OFF
	料金所警報＆速度制御	ON／OFF
	先行車捕捉音	ON／OFF
	青信号お知らせ	ON／OFF
	先行車発進お知らせ	音声
		通知音
		OFF

項目		設定
EyeSight アシスト モニター	赤色インジケーター	ON／OFF
	黄色インジケーター	ON／OFF
	緑色インジケーター	ON／OFF
	青色インジケーター	ON／OFF
後退時 ブレーキ アシスト (RAB)	ソナー警報音※2	ON／OFF
	自動（被害軽減）ブレーキ	ON／OFF
ドライバー モニタリング システム	ドライバーモニタリング システム（DMS）※2	ON／OFF
	手動再認識	—
	ユーザー情報連動	ON／OFF
	ドアオープン連動シート後退※1	ON／OFF
	DMSユーザー登録	—
	ドライバーポジション再登録※1	—
	ドライバーポジション消去※1	—
	ユーザー消去	—
	全ユーザー消去	—

項目		設定
キーレス エントリー システム	ブザー吹鳴※3	ON／OFF
	ハザード	ON／OFF
	自動ロック時間	20秒
		30秒
		40秒
		50秒
		60秒
		OFF
	運転席ドアアンロック	運転席のみ
		全ドア
	リヤゲートアンロック	リヤゲートのみ
		全ドア
リヤデフォッガー		15分作動
		連続作動
室内灯消灯時間		10秒
		20秒
		30秒
		OFF
アンビエントライティング※1		ON／OFF
方向指示器ワンタッチ機能		ON／OFF
オートドア ロック／アンロック	オートドアロック	車速
		シフトレバー P以外
		OFF
	オートドアアンロック	エンジン停止
		運転席ドア開
		シフトレバー P
		OFF
リヤシートリマインダー		ON／OFF

項目		設定
ドアミラー設定※1	キー連動格納ドアミラー	ON／OFF
	リバース連動チルトダウンドアミラー	ON／OFF
パワーリヤゲート※1	パワーリヤゲートメモリー	ON／OFF
ビークルダイナミクスコントロール（VDC）※2		ON／OFF
オートビークルホールド（AVH）※2		ON／OFF
アイドリングストップ※2		ON／OFF
後側方警戒支援システム（SRVD）※2		ON／OFF
ドライブモードセレクト※1※2		Comfort
		Normal
		Sport
		Sport+
		Individual※4
ステアリング連動ヘッドランプ(SRH)※2		ON／OFF
警報音量※2		小
		中
		大
3D高精度地図データ		—

※1: 設定の有無はグレードやオプションにより異なります。
※2: 車両設定ボタンからも変更できます。
※3: パワーリヤゲート装備車は、パワーリヤゲート作動開始音を含みます。
※4: お好みに合わせて詳細を設定できます。

設定の変更（走行）

走行に関する項目の設定を簡単に変更できます。
車両設定ボタンをタップし、画面上部の[車両制御]、[走行アシスト]、[その他の設定]のうち、設定したい項目の種類を選択します。

車両制御

次の項目の設定を変更できます。

項目	設定
ビークルダイナミクスコントロール	ON／OFF
ドライブモードセレクト※1	Comfort
	Normal
	Sport
	Sport+
	individual※2
クルーズコントロール加速レベル※1	エコ
	コンフォート
	スタンダード
	ダイナミック
オートビークルホールド（AVH）	ON／OFF
ステアリング連動ヘッドランプ（SRH）	ON／OFF
アイドリングストップ	ON／OFF

※1: 設定の有無はグレードやオプションにより異なります。
※2: お好みに合わせて詳細を設定できます。

走行アシスト

次の項目の設定を変更できます。

項目	設定
プリクラッシュブレーキ	設定ON
	設定OFF
車間距離警報	遠い
	標準
	近い
エマージェンシーレーンキープアシスト	ON／OFF
車線逸脱防止機能	すべてON
	車線逸脱防止制御のみON
	警報音のみON
	すべてOFF
後側方警戒支援システム（SRVD）	ON／OFF
ドライバーモニタリングシステム	ON／OFF

その他の設定

次の項目の設定を変更できます。

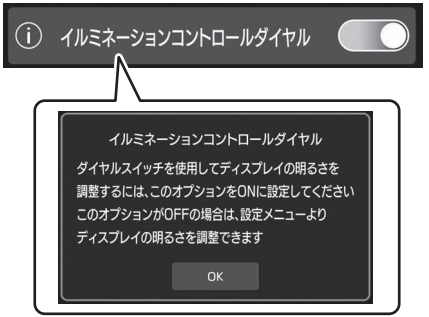
項目	設定
メーター画面モード	ノーマル
	地図
	EyeSight
メーター地図表示	3D
	2Dヘディングアップ
	2Dノースアップ
ソナー警報音	ON／OFF
警報音量	小
	中
	大

設定のしかた

設定したい項目を選択し、次のように操作して設定を変更します。設定中や設定後に前の画面に戻りたいときは、[戻る]をタップします。[×]をタップすると、ポップアップウインドウが閉じます。

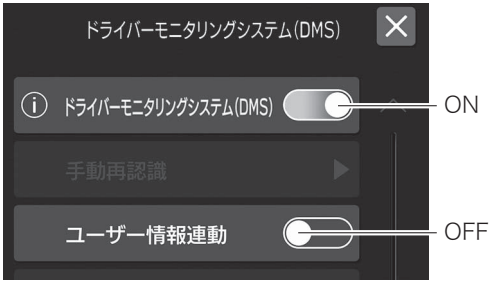
知 識

項目名の左側に[i]マークがある場合は、[i]マークをタップすると説明を表示します。



ON／OFFを切り替えるとき

項目名か右端のアイコンをタップします。



複数から選択するとき

選択したい項目の項目名か右端のアイコンをタップします。

日付や時刻を設定するとき

上下の矢印をタップして日付や時刻を合わせます。
設定後、[OK]をタップすると変更が反映されます。

文字を入力するとき

画面上のソフトキーボードをタップして入力します。
入力後、[次へ]をタップすると次の画面へ進めます。

バーで調整するとき

画面上のバーの設定したい場所をタップするか、アイコンをドラッグして調整します。
[初期状態]をタップすると初期の設定に戻ります。

ショートカット

お好みの機能のショートカットを登録できます。
☞P.546参照

現在地ボタン

現在地画面を表示できます。
☞P.626参照

ドライバープロフィールボタン

ドライバープロフィールを登録できます。
☞P.555参照

エアコン操作バー

エアコン、フロントシートヒーターの操作ができます。
☞P.206、504参照

知 識

ディスプレイをオフに設定すると、エアコン操作バーも非表示になります。操作したいときは、ディスプレイに触れると一定時間表示されます。

車両設定ボタン

一部項目の設定を手早く変更できます。
☞P.130参照

デバイス管理ボタン

☞P.547参照

AVHボタン

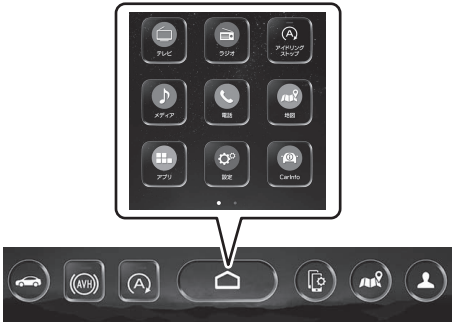
AVHのON／OFFを切り替えることができます。
☞P.254参照
ONにすると、アイコン内の表示灯が点灯します。

アイドリングストップボタン

アイドリングストップのON／OFFを切り替えることができます。
☞P.256参照
ONにすると、アイコン内の表示灯が点灯します。

HOMEボタン

タップするとホーム画面に戻ります。



オープンソースソフトウェア情報

センターインフォメーションディスプレイには、フリー／オープンソースソフトウェア（FOSS）を搭載しています。
使用許諾やソースコードは以下のURLから取得できます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/ivi/subaru/

警告灯・表示灯

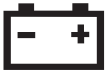
警告灯

警報や異常を検知すると警告灯や割り込み画面を表示します。
☞P.119参照
警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて「警告・注意・知識」の対処をしてください。なお、点灯、点滅しても消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生する場合は、SUBARU販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	シートベルト警告灯（赤色）	プッシュエンジンスイッチがONで運転席のシートベルトが未着用の場合、警告灯が点灯します。また助手席（乗員がいるとき）および後席のシートベルトが未着用の場合、オーバーヘッドコンソール内の警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると消灯します。 シートベルトを着用せずに走行すると警告灯が点滅または点灯し、ブザーが鳴ります。 ☞P.66参照	—

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	SRSエアバッグ警告灯（赤色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、約6秒後に消灯します。 • SRS エアバッグシステム（シートベルトプリテンショナー含む）のいずれかに異常があると点灯します。 ☞P.84参照	**⚠ 警 告** • 警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。SRS エアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。 直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。 －プッシュエンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき －走行中に点灯したとき －プッシュエンジンスイッチを ON にして 6 秒以上経過しても、点灯しているとき
	歩行者保護エアバッグ警告灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、約6秒後に消灯します。 • システムに異常があると点灯します。 ☞P.93参照	**⚠ 警 告** • 警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。システムの異常を示している場合、正常に作動しないことがあります。 直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。 －プッシュエンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき －プッシュエンジンスイッチを ON にして 6 秒以上経過しても、点灯しているとき －走行中に点灯したとき
	半ドア警告灯（赤色）	プッシュエンジンスイッチの状態に関係なくドアまたはリヤゲートが完全に閉じていないときに点灯します。	**⚠ 注 意** 警告灯が点灯したままの状態で走行しないでください。
	ボンネット開警告灯（赤色）	プッシュエンジンスイッチの状態に関係なくボンネットが完全に閉じていないときに点灯します。	**⚠ 注 意** 警告灯が点灯したままの状態で走行しないでください。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	燃料残量警告灯（黄色）	• 燃料残量が約 9 L 以下になると点灯します。 • フューエルメーター（燃料計）に異常があると点滅します。	**⚠ 注 意** 警告灯が点滅したときは、正しい燃料残量が表示されません。直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。 **知 識** • フューエルメーター（燃料計）のアイコンが黄色に点灯・点滅します。 • 点灯したときは、すみやかに給油してください。 • 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。
	ブレーキ警告灯（赤色）	プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、約2秒後に消灯します。 エンジン回転中、次の場合に点灯します。 • ブレーキフルードが著しく不足しているとき • ブレーキシステムに異常があるとき • EBD（エレクトロニックブレーキフォースディストリビューション）の電子制御システムに異常があるとき ーEBD の電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。	**⚠ 警 告** 警告灯が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。 **⚠ 注 意** ABS 警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム（ABS）にも異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）／ブレーキシステム警告灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、約2秒後に消灯します。 • ブレーキシステムに異常があると点灯します。 ☞P.245、252参照	**⚠ 警 告** 警告灯が点灯し続けたときはシステムに異常がありますので、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	ABS警告灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、約2秒後に消灯します。 • ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると点灯します。 ☞**P.248**参照	**⚠ 注 意** • 警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。 －プッシュエンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき －点灯したままのとき なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています（ABSとしては作動しません）。
	エンジン警告灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。 • エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点灯します。 • エンジン回転中、触媒を損傷する可能性があると点滅します。	**⚠ 注 意** • エンジン回転中に警告灯が点灯したときは、高速走行を避け、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。 • エンジン回転中に警告灯が点滅したときは、触媒を損傷する可能性があります。 触媒の損傷を防ぐため、次のことを行ってください。 －速度を落として走行する。 －急発進、急加速を避ける。 －急な上り坂を避ける。 －可能であれば荷物を減らす。 上記の処置をしても警告灯が点滅したままの場合、または点灯に変わった場合は、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	チャージ警告灯（赤色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。 • エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。	**⚠ 注 意** エンジン回転中に警告灯が点灯したときは、オルタネーターの駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	オイルプレッシャー警告灯（赤色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。	**⚠ 注 意** 走行中に警告灯が点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。 **知 識** • 警告灯はオイル量を示すものではありません。 －オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。
AT OIL TEMP	AT油温警告灯（赤色）	CVTのトランスミッションフルードの温度が高くなると点灯し、CVTに異常があると点滅します。	**⚠ 注 意** • 走行中に警告灯が点灯したときは、冷却のため直ちに安全な場所に停車し、セレクトレバーを“P”にしてエンジンを始動したままにしてください。消灯すれば走行できます。消灯しないときは、直ちにSUBARU販売店にご連絡ください。 • 警告灯が点滅したときは直ちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
AWD	AWD警告灯（黄色）	異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。 または４本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。 ☞P.244参照	**⚠ 注 意** • 警告灯が点滅したまま走行を続けると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。AWD警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、4本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。 • タイヤに異常がない場合には、システムに異常があるおそれがありますのですみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	ステアリング制御警告灯（赤色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約２秒後に消灯します。 • エンジン回転中、パワーステアリングおよび関連のシステムに異常があると点灯します。 • 車庫入れなどでハンドル操作を繰り返すと点灯することがあります。 ☞**P.243**参照	**⚠ 注 意** • 警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合があります。 • 警告灯が点灯し続けたときや割り込み画面が表示されたときは、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	電子制御ダンパーシステム警告灯（黄色）※	電子制御ダンパーシステムに異常があると点灯します。	**⚠ 注 意** 警告灯が点灯し、割り込み画面が表示されたときは、すみやかに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
	アイドリングストップ警告灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。 • アイドリングストップシステムに異常があると点灯します。 ☞**P.259**参照	**⚠ 注 意** 警告灯が点灯し続けたときは、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	VDC警告灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約２秒後に消灯します。 • VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。 ☞**P.267**参照	**知 識** • 次の場合は正常です。 －エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後再点灯しない －エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する －走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない • 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかることがありますが、これは異常ではありません。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	LEDヘッドランプ警告灯（黄色）	LEDヘッドランプに異常があると点灯します。	⚠ 注 意 警告灯が点灯したときは、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	オートヘッドランプレベラー警告灯（黄色）	エンジン回転中、オートヘッドランプレベラーの電子制御システムに異常があると点灯します。 ☞**P.275**参照	⚠ 注 意 警告灯が点灯したときは、光軸の自動調整が行われない場合があります。直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	広角単眼カメラ警告灯（黄色）	広角単眼カメラに異常があると点灯します。 ☞**P.331**参照	⚠ 注 意 警告灯が点灯したときは、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	前側方プリクラッシュブレーキ警告灯（黄色）	前側方プリクラッシュブレーキ／前側方警戒アシストに異常があると点灯します。 ☞**P.328**参照	⚠ 注 意 警告灯が点灯したときは、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	EyeSight X警告灯（黄色）	EyeSight X（高度運転支援機能）に異常があると点灯します。 ☞**P.500**参照	⚠ 注 意 警告灯が点灯したときは、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	RAB警告灯（黄色）	RABに異常があると点灯します。 ☞**P.417**参照	⚠ 注 意 警告灯が点灯し、割り込み画面が表示されたときは、すみやかに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
	SRVD警告灯（黄色）	SRVD システムに異常があると点灯します。 ☞**P.431**参照	⚠ 注 意 警告灯が点灯し、割り込み画面が表示されたときは、SUBARU販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
SRH	SRH警告灯（黄色）	SRHに異常があると点灯します。 ☞**P.434**参照	**⚠ 注 意** 警告灯が点灯したときは、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。
ADB	ADB警告灯（黄色）	ADBに異常があると点灯します。 ☞**P.437**参照	**⚠ 注 意** 警告灯が点灯し、割り込み画面が表示されたときは、SUBARU販売店で点検を受けてください。
	ドライバーモニタリングシステム警告灯（黄色）	ドライバーモニタリングシステムに異常があると点灯します。 SUBARU 販売店で点検を受けてください。 ☞**P.461**参照	—
Eye Sight	EyeSight 警告表示灯（黄色）	• EyeSight システムが故障したときに点灯または点滅します。 • 点灯または点滅しているときは、EyeSightシステムのすべての機能（プリクラッシュブレーキ、全車速追従機能付クルーズコントロールなどすべて）が使用できません。 ☞**P.422**参照	**⚠ 注 意** 走行中に EyeSight 警告表示灯とエンジン警告灯が同時に点灯したときは、高速走行を避け、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。エンジンなどに異常がある場合、EyeSightシステムは使用できません。 **知 識** • EyeSight警告表示灯が点灯または点滅したときは、安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてエンジンを止めてから、再びエンジンを始動してください。 • エンジンを再始動しても EyeSight 警告表示灯が点灯または点滅し続けるときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。この場合、EyeSightシステムのすべての機能が停止します。通常走行には支障ありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。

※ 表示灯の有無はグレードやオプションにより異なります。

表示灯

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	セキュリティ表示灯（赤色）	イモビライザー機能および盗難警報装置の作動状態に応じて点滅します。 ☞P.196参照	—
	電動パーキングブレーキ作動灯（赤色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、電動パーキングブレーキが解除されている場合は約2秒後に消灯します。 • 作動しているとき点灯します。 • 作動できない条件のときにスイッチを操作すると、約10秒間点滅しお知らせします。 • 異常があるときは、点滅します。 ☞P.249参照	**⚠ 警 告** • 作動灯が点滅し続けたときはシステムに異常がありますので、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。 • エンジン回転中に電動パーキングブレーキを解除しても作動灯が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車した上で SUBARU 販売店に連絡し、点検を受けてください。 **知 識** • 電動パーキングブレーキが作動中にプッシュエンジンスイッチをOFFにする、またはプッシュエンジンスイッチがOFFのときに電動パーキングブレーキを作動させた場合は、作動灯が約30秒間点灯し、その後消灯します。 • 頻繁に電動パーキングブレーキのスイッチ操作を繰り返した場合、作動灯が点滅し、電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）が点灯します。この場合は時間をおいて操作してください。 • エンジンを始動した直後に作動灯が点滅する場合がありますが、その後、電動パーキングブレーキを解除したときに消灯すれば正常です。

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	ウインカー表示灯（緑色）	ウインカーおよびハザードランプの点滅を示します。 ☞**P.253、752**参照	**知 識** ワット数の異なった電球を使用した場合や、電球が切れたときは表示灯の点滅が速くなります。すみやかに点検し、電球を交換またはお近くのSUBARU販売店へご相談ください。
	AVH表示灯（緑色）	AVHをONにすると点灯し、作動時に点滅します。 ☞**P.254**参照	—
	アイドリングストップ表示灯（緑色）	アイドリングストップの作動条件を満たしたとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。エンジンが再始動すると消灯します。 ☞**P.256**参照	—
	アイドリングストップOFF表示灯（黄色）	アイドリングストップの作動を OFF にすると、点灯します。 ☞**P.256**参照	—
	VDC 作動表示灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。 • VDC作動時に点滅します。 ☞**P.266**参照	—
	VDC OFF 表示灯（黄色）	VDCのTCS機能を作動停止状態にしたときに点灯します。 ☞**P.266**参照	—
	ライティングスイッチ表示灯（緑色）	• ランプ類が点灯しているときに点灯します。 ☞**P.269**参照 • ウェルカムライティング作動時にも点灯します。	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	ハイビーム／パッシング表示灯（青色）	ヘッドランプがハイビームのとき点灯します。また、パッシング時も点灯します。 ☞**P.272**参照	—
	フロントフォグランプ表示灯（緑色）	フロントフォグランプが点灯しているときに点灯します。 ☞**P.273**参照	—
	リヤフォグランプ表示灯（黄色）	リヤフォグランプが点灯しているときに点灯します。 ☞**P.273**参照	—
	低温表示灯（黄色）	• 外気温度が3 ℃以下になると点灯し、路面が凍結している可能性があることをお知らせします。 • 外気温度が5 ℃以上になると消灯します。	—
	制限速度表示灯	地図データまたはVICSから走行中道路の制限速度を取得したときに表示します。	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	全車速追従機能付クルーズ表示灯(白色)／(緑色)／(青色)	• (クルーズ)スイッチを押すと点灯します。 ☞P.337参照 • 全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされると白色から緑色に変わります。全車速追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、白色に戻ります。 ☞P.337参照 • EyeSight X(高度運転支援機能)作動中に、渋滞時ハンズオフアシストの作動条件が揃うと緑色から青色に変わります。 ☞P.466参照	—
	定速クルーズ表示灯(白色)／(緑色)	• (クルーズ)スイッチを押し、(車間設定)スイッチを長押しすると点灯します。 ☞P.404参照 • 定速クルーズコントロールがセットされると白色から緑色に変わります。 ☞P.404参照	—
	READY表示灯(白色)	クルーズコントロールがセット可能なときに点灯します。 ☞P.337、404参照	—
	HOLD表示灯(白色)	全車速追従機能付クルーズコントロールの停止保持中に点灯します。 ☞P.345参照	—
	先行車表示灯	全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中、先行車を認識している場合に点灯します。 ☞P.337参照	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	自車表示灯	ブレーキペダルを踏むか、ブレーキ制御が作動したとき、表示内のブレーキランプが赤く点灯します。	—
	車間設定表示灯(白色)	(車間設定)スイッチで設定した車間設定を表示します。 ☞P.344参照	—
	セット車速表示(白色)／(緑色)／(青色)	セット車速を表示します。 ☞P.337、404参照	—
	レーンキープ表示灯(白色)	• (レーンキープ)スイッチを押すと車線中央維持・先行車追従操舵機能がONになり、点灯します。(全車速追従機能付クルーズコントロールがONのときのみ) • 全車速追従機能付クルーズコントロールがOFFになると消灯します。 • 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動している間、表示灯が白色から緑色に変わります。 ☞P.359参照	—
	レーンキープ表示灯(緑色)	• (レーンキープ)スイッチを押すと車線中央維持・先行車追従操舵機能がONになり、点灯します。(全車速追従機能付クルーズコントロールがONのときのみ) • 全車速追従機能付クルーズコントロールがOFFになると消灯します。 • 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動している間、表示灯が白色から緑色に変わります。 ☞P.359参照	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	レーンキープ表示灯（青色）	渋滞時ハンズオフアシストが作動中に点灯します。 ☞**P.472**参照	—
	レーンキープ先行車表示灯（青色）	車線中央維持・先行車追従操舵機能が先行車を認識して作動中のときに点灯します。 ☞**P.359**参照	—
	車線表示灯（灰色）／（白色）／（白色破線）／（逸脱側黄色）／（青色）	• 車線中央維持・先行車追従操舵機能が区画線を認識して作動中のときは青色に点灯します。 • 車線逸脱抑制機能および車線逸脱警報をONにすると灰色に点灯します。 • 車線逸脱抑制機能がスタンバイ状態になったとき白色に点灯します。 • 車線逸脱抑制機能が作動し始めると逸脱側の車線が黄色に点灯します。 ☞**P.359**、**370**参照 • アクティブレーンチェンジアシストが作動中のときは、作動方向の車線表示灯が白色破線に変わります。	—
	EyeSight 一時停止表示灯（白色）	• エンジンを始動して約 10 秒経過するまでに（クルーズ）スイッチを押すと点灯し、エンジン始動後約 10 秒後に消灯します。 • EyeSight システムが一時停止しているときに点灯します。 • 点灯しているときは、定速クルーズコントロールを除く EyeSight システムのすべての機能が使用できません。 ☞**P.422**参照	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	車線逸脱警報OFF表示灯（黄色）	プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。	—
	プリクラッシュブレーキOFF表示灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。 • プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御がOFFのときに点灯します。 ☞**P.329**、**385**、**390**参照	—
	広角単眼カメラOFF表示灯（黄色）	広角単眼カメラが一時停止しているときに点灯します。 ☞**P.330**参照	—
	エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約10秒後、プッシュエンジンスイッチをOFFする前の状態に応じて消灯または点灯します。 • エマージェンシーレーンキープアシストをOFFにすると点灯します。 • 故障などでSRVD、エマージェンシーレーンキープアシストが使用できない、またはSRVDがOFFのときに点灯します。 ☞**P.381**参照	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約 10 秒後、消灯します。 • 故障などで緊急時プリクラッシュステアリングが使用できないときに点灯します。 • プリクラッシュブレーキ、またはSRVDがOFFのときに点灯します。 ☞P.318参照	—
	前側方プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約 10 秒後に消灯します。 • 前側方プリクラッシュブレーキ／前側方警戒アシストがOFFのとき点灯します。	—
	EyeSight X表示灯（白色）／（緑色）／（青色）	• EyeSight X（高度運転支援機能）の作動エリアと判定すると白色に点灯します。 • EyeSight X スイッチを押すと白色から緑色に変わり、EyeSight X（高度運転支援機能）作動中は緑色に点灯します。 • EyeSight X（高度運転支援機能）作動中に、渋滞時ハンズオフアシストの作動条件が揃うと緑色から青色に変わります。	—
	EyeSight X OFF表示灯（黄色）	• プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後約 10 秒後に消灯します。 • EyeSight X（高度運転支援機能）が一時停止しているときに点灯します。 • 点灯しているときは、ドライバー異常時対応システムを除く EyeSight X（高度運転支援機能）の機能が使用できません。	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	隣車線の車両検知表示	• アクティブレーンチェンジアシストが作動可能な道路を走行しているとき、前側方レーダーや後側方レーダーで周辺車両を検知すると点灯します。 • 点灯中はアクティブレーンチェンジアシストが作動できません。	—
	周辺車表示	アクティブレーンチェンジアシストが作動可能な道路を走行しているとき、前方の周辺車両の状況を表示します。	—
	隣接レーン表示	アクティブレーンチェンジアシストが作動可能な道路を走行しているときに点灯します。	—
	カーブ前速度制御表示灯	カーブ前速度制御作動中に点灯します。	—
	料金所前速度制御表示灯	料金所前速度制御作動中に点灯します。	—
RAB OFF	RAB OFF 表示灯／一時停止表示灯（黄色）	自動（被害軽減）ブレーキの作動後、セレクトレバーを “R” 以外にするまで点灯します。 また、RABが一時停止したとき、または自動（被害軽減）ブレーキをOFFにしたときに点灯します。 ☞P.411参照	—

表示灯	名称	点灯・点滅するとき	警告・注意・知識
	ソナー警報音OFF表示灯（黄色）	RABのソナー警報音が一時停止したとき、またはソナー警報音をOFFにしたときに点灯します。 ☞**P.411**参照	—
	SRVD OFF表示灯（黄色）	SRVDが一時停止したとき、またはSRVDをOFFにしたときに点灯します。 ☞**P.425**参照	—
	SRH OFF 表示灯（黄色）	SRHをOFFにしたときに点灯します。 ☞**P.433**参照	—
	ADB表示灯（緑色）	ヘッドランプが点灯し、ADBが作動しているとき点灯します。 ☞**P.434**参照	—
	ドライバーモニタリングシステム作動表示灯（緑色）	ドライバーモニタリングシステム作動中に点灯します。 ☞**P.446**参照	—
	ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯（白色）	ドライバーモニタリングシステムが一時停止しているときに点灯します。 ☞**P.446**参照	—
	ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯（黄色）	ドライバーモニタリングシステムを作動停止状態にしたときに点灯します。 ☞**P.446**参照	—

3. 運転の前に

解錠・施錠
キー ····· 156
解錠と施錠のしかた ····· 158
キーレスアクセスについて ····· 162
オートドアロック・アンロック機能 ····· 169
車内から施錠・解錠する ····· 170
その他の施錠・解錠 ····· 171

ドア・ウインドウの開閉
ドア ····· 175
パワーウインドウ ····· 176
フューエルリッド（燃料給油口）····· 179
パワーリヤゲート ····· 182
リヤゲート（パワーリヤゲート装備車以外）····· 190
電動ガラスサンルーフ ····· 192

セキュリティシステム
イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）·· 195
盗難警報装置 ····· 197

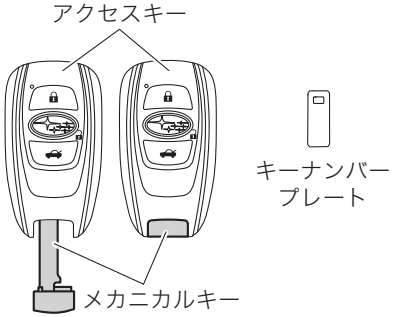
運転前の調整
正しい運転（乗車）姿勢 ····· 200
フロントシート ····· 202
リヤシート ····· 207
ステアリング ····· 214
ルームミラー ····· 215
ドアミラー ····· 221
ドライバーポジションメモリー ····· 225

運転前の点検
日常点検 ····· 229
雪や霜の除去 ····· 229

解錠・施錠

キー

ご購入時には、アクセスキーが2個とキーナンバープレートが付属しています。
キーはドアの解錠、施錠、エンジンの始動、停止などに使います。



メカニカルキーはアクセスキーが作動しないときに使います。☞P.767参照
キーナンバープレートは、車両修理やスペアキーを作る際に必要となりますので、大切に保管してください。

⚠ 注 意

アクセスキーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- パソコンや家電製品の近くに放置しない。
  - キーが誤作動し、電池切れの原因となります。

⚠ 注 意

- 水にぬらさない。
  - 水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、十分に乾かしてください。
- 強い衝撃を与えない。
- 磁気を帯びた物に近づけない。
- インストルメントパネルの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しない。
  - 電池の損傷や回路故障の原因になります。
- 超音波洗浄機などで洗浄しない。
- 湿気やホコリが多い場所に放置しない。

航空機内では無線機器の使用が禁止されています。キーのボタンを押さないでください。

知 識

- 追加のスペアキーが必要な場合は、SUBARU販売店にご相談ください。キーは最大7つまで登録できます。
- アクセスキーにはそれぞれ個別の識別コードがあります。☞P.195参照
- 盗難防止のため、キーナンバープレートは車内に置かないでください。また、万一に備えてキーナンバーをメモしておいてください。

知 識

- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため紛失したキーの登録を消去するようお奨めします。登録の消去は、SUBARU販売店でのみ行えます。
  SUBARU販売店にご相談ください。
- アクセスキーは車両との通信のために、常時受信動作をし、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが、約1年～2年です。
  ☞P.737参照

作動エリア

キーのボタン操作

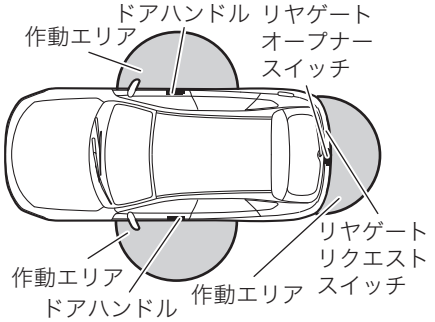
お車の周囲約1 m以内で作動します。

知 識

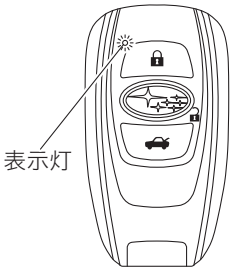
- 作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。アクセスキーの電池は1年～2年を目安に交換してください。
  ☞P.737参照
- 周囲の電波やノイズ状態によって作動距離が変わることがあります。

キーレスアクセス

前席のドアハンドルとリヤゲートオープナースイッチを中心に約40 cm～約80 cmが目安となります。



ドアが施錠している状態で前席のドアハンドルの作動エリアに入ると、アクセスキーのLEDの表示灯が点滅します。
キーレスアクセス機能を停止させている場合は、アクセスキーのボタンを押さないとLEDの表示灯は点滅しません。
☞P.164参照



知 識

- アクセスキーを車体に近づけ過ぎるとキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。
- アクセスキーを地面近くや地面から高い位置に置くと作動エリア内でもキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。
- アクセスキーが作動エリア内にあれば、アクセスキーを持たない方でもキーレスアクセス機能を使用できます。ただし、施錠・解錠操作ができるのは、アクセスキーを検知している作動エリアのドア（リヤゲート含む）のみです。
- アクセスキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所（例：TV塔や発電所、放送局、大型ディスプレイ、空港、電照看板、無線機器使用場所など）、携帯電話通話中は、作動エリアが狭くなる場合や、作動しないことがあります。このような場合は、アクセスキーが作動しないときの操作を行ってください。
☞**P.767**参照
- アクセスキーが作動エリア内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかったときは、ドアが解錠または施錠することがあります。解錠された場合は、施錠してください。ただしドアの開閉操作がない場合は、約30秒後に自動施錠されます。

解錠と施錠のしかた

次の操作で、すべてのドア（リヤゲート含む）が解錠・施錠します。解錠するとハザードランプが2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。
施錠するとハザードランプが1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。

知 識

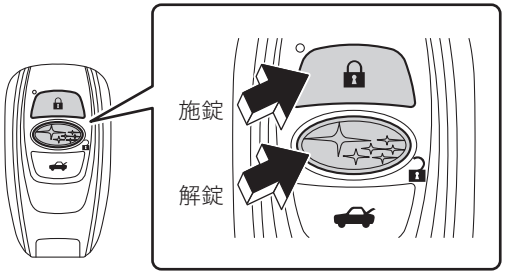
- プッシュエンジンスイッチがOFF以外では、キーレスアクセス機能またはアクセスキーのボタン操作による施錠はできません。
- 操作が早過ぎると施錠・解錠が完了していない場合があります。施錠後は後席のドアハンドルを引いて確認することをお奨めします。
- アクセスキーが車内にある場合は施錠できません。ただし、アクセスキーの状態、周囲の状況によって施錠しアクセスキーを閉じ込める可能性があります。施錠する際は、アクセスキーを持っていることを確認してください。
- 手袋をつけてドアハンドルを握ったり、ドアハンドルのタッチセンサーに触れた場合、施錠・解錠が遅れたり、施錠・解錠ができないことがあります。
- 半ドアで施錠操作を行った場合はハザードランプが5回点滅してブザーが5回鳴り、いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いていることをお知らせします。
- 解錠時や施錠時のブザーおよびハザードランプの点滅を作動なしに設定できます。
☞**P.125**参照
- SUBARU販売店で、ブザーの音量を設定できます。
☞**P.789**参照

知 識

- 施錠中にドアやリヤゲート、ボンネットが開けられたとき、警報音が鳴るように盗難警報装置を設定できます。
☞P.197参照

キーのボタンで解錠・施錠する

お車のまわりからアクセスキーのボタンを押します。



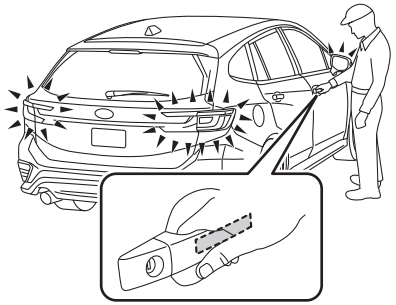
キーレスアクセス機能で解錠・施錠する

知 識

誤作動防止のため、施錠操作を行った後約3秒間はキーレスアクセス機能での解錠ができません。

ドアハンドルで解錠する

アクセスキーを携帯し、前席のドアハンドルを握ります。

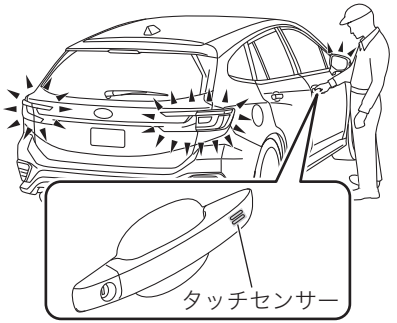


知 識

運転席ドアのみ解錠するように設定できます。
☞P.125参照

ドアハンドルで施錠する

アクセスキーを携帯し、すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドを閉めてから前席のドアハンドルのタッチセンサーに触れます。



リヤゲートから解錠する

アクセスキーを携帯し、リヤゲート中央のリヤゲートオープナースイッチを押します。

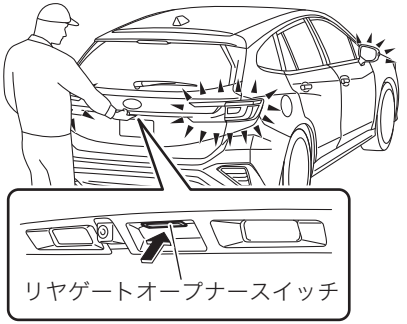
■パワーリヤゲート装備車以外

リヤゲートが少し開きます。

■パワーリヤゲート装備車

リヤゲートが自動で開きます。

☞P.182参照



知 識

リヤゲートのみ解錠するように設定できます。

☞P.125参照

ハンズフリーオープン機能で解錠する（パワーリヤゲート装備車）

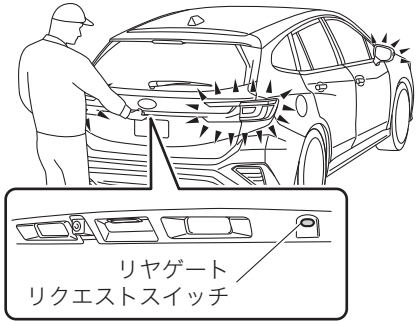
アクセスキーを携帯し、手や腕などをパワーリヤゲートのエンブレムにかざします。ブザーが鳴り始めたら手や腕などを離します。
☞P.184参照

知 識

リヤゲートのみ解錠するように設定できます。
☞P.125参照

リヤゲートから施錠する

アクセスキーを携帯し、すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドを閉めてから、リヤゲートリクエストスイッチを押します。



■ロックスイッチで施錠する（パワーリヤゲート装備車）
アクセスキーを携帯し、すべてのドア（リヤゲート除く）とフューエルリッドを閉めてから、パワーリヤゲートロックスイッチを押します。パワーリヤゲートが自動で閉じ、すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが施錠されます。
☞P.186参照

自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。自動施錠する約5秒前よりブザーでお知らせします。

知 識

自動施錠を作動なしに設定できます。また、作動までの時間を20秒／40秒／50秒／60秒に設定できます。
☞P.125参照

セレクトアンロック

SUBARU販売店で、アクセスキーのボタンで解錠したときに運転席のみを解錠するか、すべてのドアを解錠するか選択できるように設定できます。
この機能を「作動あり」にすると、次のように解錠します。

操作	解錠箇所
アクセスキーのボタンを1回押す	運転席ドアのみ
アクセスキーのボタンを2回押す	すべてのドア（リヤゲート含む）

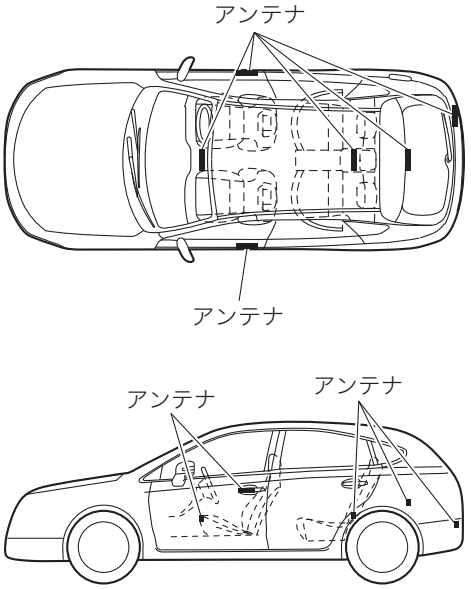
キーレスアクセスについて

アクセスキーは電波法の認証に適合しています。
電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
必ず日本国内でご使用ください。
キーレスアクセス&プッシュスタート機能は、134 kHzの電波を車両側発信アンテナから周期的に出力しています。

⚠ 警 告

- キーレスアクセス&プッシュスタートシステムにおいて、植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方は、車両側発信アンテナから約22 cm以内の範囲に植込み型心臓ペースメーカーなどを近づけない。
  - 車両側発信アンテナの電波により植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
    医療用電気機器を装着されている方は医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。
    医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 警 告



⚠ 注 意

キーレスアクセス&プッシュスタートシステムでは微弱な電波を使用しているため、次のような状況ではアクセスキー・車両間の通信の妨げとなり、施錠・解錠およびエンジンの始動ができなくなることがあります。

⚠ 注 意

- 近くに放送施設、送電線などの強い電波を発生する設備があるとき
- 他の車両のアクセスキーやリモコンキーなどの電波を発信するような製品を使用しているとき
- アクセスキーの近くに携帯電話などの無線通信機があるとき
- アクセスキーの近くに空気清浄機があるとき
- アクセスキーの電池が消耗しているとき
- アクセスキーを次のような製品と同時に携帯しているとき
  - 他の車両のアクセスキーやリモコンキーなど
  - パソコンや携帯情報端末
  - デジタルオーディオプレーヤー
  - ポータブルゲーム機器
- アクセスキーが次のような金属製の物に接していたり、覆われたりしているとき
  - アクセサリー
  - アルミ箔などの金属が貼られたカード
  - アルミ箔を使用したタバコの箱
  - 金属製の財布やカバン
  - 小銭
  - カイロ
  - CDやDVDなどのメディア
- 充電器など電子機器の近くにアクセスキーを置いたとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 純正用品以外の部品を取り付けたとき

⚠ 注 意

アクセスキーは、次の場所に絶対に放置または保管しないでください。

- 車室内（インストルメントパネルの上、物入れ、シートの上など）または荷室内
  - アクセスキーを車内に閉じ込めたり、電池が急激に消耗するおそれがあります。また、アクセスキーの位置によってはプッシュエンジンスイッチが切り替わらないことがあります。
- 車両周辺2 m以内（車庫での保管など）
  - アクセスキーと車両との通信が頻繁に繰り返され、アクセスキーの電池が急激に消耗するおそれがあります。また、車両のバッテリー上がりにつながるおそれがあります。

知 識

- アクセスキーを次の場所に置かないでください。アクセスキーを車内に閉じ込めたり、誤って警告を通知したり、通知できないことがあります。
  - インストルメントパネル上
  - フロア上
  - グローブボックス内
  - ドアトリムのポケット
  - リヤシート
  - カーゴルーム

キーレスアクセス＆プッシュスタート機能の停止

次の場合、キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止することができます。

- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方がお車に乗車するとき
- 長期間お車を使用しないとき、または機能自体を使用しないとき
- やむを得ずアクセスキーを車室内やお車の周辺に保管したいとき
- アクセスキーが車両と通信できる距離（車両周辺約2 m）に頻繁に入るとき

キーレスアクセス&プッシュスタート機能停止中は、キーのボタンで解錠・施錠してください。
エンジンを始動するときには、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れてから操作する必要があります。
☞P.767参照

知 識

設定変更はSUBARU販売店でもできます。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

機能を停止させるとき

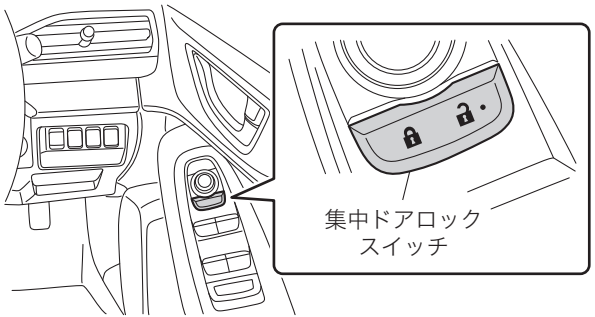
機能を停止するには、ドア開閉による方法とアクセスキーによる方法があります。

⚠ 注 意

- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方は、必ずドア開閉による方法で機能停止または復帰させる。
  - アクセスキーによる方法は誤操作により機能が復帰する可能性があります。

■ドア開閉による方法

1. 運転席に座りドアを閉めます。
2. 集中ドアロックスイッチの「解錠」を押します。
3. 手順2.の操作後、5秒以内に運転席ドアを開けます。
4. 手順3.の操作後、5秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチの「解錠」を2回押します。
5. 手順4.の操作後、10秒以内に運転席ドアを「閉める→開ける」の操作を2回行います。
6. 手順5.の操作後、10秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチの「解錠」を2回押します。
7. 手順6.の操作後、10秒以内に運転席ドアを「閉める→開ける」の操作を1回行います。
8. 手順7.の操作後、5秒以内にドアを閉めます。ブザー（ピー）が約2秒間鳴り、機能が停止します。

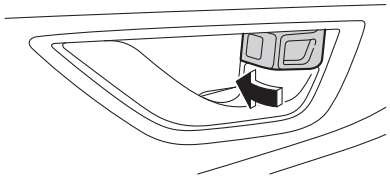


知 識

手順4.および6.では、集中ドアロックスイッチを確実に押してください。スイッチを押す間隔が短い場合、機能が停止しないときがあります。

■アクセスキーによる方法

1. 運転席のドアを開け、ドアロックノブを前側に押します。



2. アクセスキーの施錠ボタンおよび🚗ボタンを同時に5秒以上押します。

3. ブザー（ピー）が約2秒間鳴り、機能が停止します。

知 識

アクセスキーによる方法は、暗証コード式キーレスエントリーの暗証番号を登録すると使用できます。
☞P.171参照

機能を復帰させるとき

選択した機能停止手順をもう一度行うと、機能を復帰させることができます。
このときブザー（ピッ）が鳴ります。

知 識

- どちらの機能停止方法を行ったか分からなくなった場合、プッシュエンジンスイッチを押してください。
  - アクセスキーによる方法で機能を停止した場合、室内ブザー（ポーン）が鳴ります。
  - ドア開閉による方法の場合、ブザーは鳴りません。

節電機能

自動節電機能

アクセスキーの電池と車両のバッテリー保護のため、次の場合自動的に節電機能が働きます。

- すべてのドア（リヤゲート含む）を施錠した状態で2週間以上キーレスアクセス機能およびアクセスキーのボタンを使用しない場合
- すべてのドア（リヤゲート含む）を施錠した状態で作動エリア内にアクセスキーを10分以上放置した場合

■復帰方法

次のいずれかの操作で復帰します。

- 運転席のドアハンドルを握って解錠する。
- 運転席のドアハンドルのタッチセンサーに触れて施錠する。
- リヤゲートオープナースイッチを押して解錠する。
- リヤゲートリクエストスイッチを押して施錠する。
- ハンズフリーオープン機能で解錠する（パワーリヤゲート装備車）。
- アクセスキーのボタンで解錠または施錠する。

手動節電機能

アクセスキーの電池の消耗を抑えるため、アクセスキーによる電波の受信待機を停止します。

■設定方法

アクセスキーの施錠ボタンを押しながら解錠ボタンを2回押します。その際、アクセスキーのLED表示灯が4回点灯することを確認します。

■復帰方法

アクセスキーのいずれかのボタンを押します。

警告音および警告表示

キーレスアクセス&プッシュスタートでは誤操作や盗難を防止するため、異常などを検知すると警告音が鳴り、割り込み画面を表示します。

☞P.119参照

この場合は適切な処置を行ってください。

警告一覧表

室内ブザー警報	室外ブザー警報	状況	対処方法
ポーン、ポーン…（断続）	—	プッシュエンジンスイッチがACCでセレクトレバーが“P”のとき、運転席ドアを開けた。	• 運転席ドアを閉めてからプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。 －車両から離れるときは必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
		運転席ドアが開いているとき、プッシュエンジンスイッチをOFFにした。	運転席ドアを閉めてください。
ポーン	ピー（2秒間）	閉じ込み防止警告 集中ドアロックスイッチの「施錠」またはアクセスキーの施錠ボタンを押し、アクセスキーを車内に置いたままドアロックノブでドアを施錠しようとした。 ☞P.173参照	• アクセスキーを車外に持ち出した上で施錠操作を行ってください。 －室内にアクセスキーがある状態では施錠できません。 －警報音とともにすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが解錠されます。
—	ピー（2秒間）	キー置き忘れ警告 プッシュエンジンスイッチがOFFのとき、アクセスキーが車内にある状態でドアハンドルのタッチセンサーに触れた、またはリヤゲートリクエストスイッチ、パワーリヤゲートロックスイッチ※を押した。	• アクセスキーを車外に持ち出した上で施錠操作を行ってください。 －室内にアクセスキーがある状態では施錠できません。
—	ピッピッピッピッピッ（5回）	半ドア警告 プッシュエンジンスイッチがOFFのとき、いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いている状態でドアハンドルのタッチセンサーに触れた、またはリヤゲートリクエストスイッチ、パワーリヤゲートロックスイッチ※、アクセスキーの施錠ボタンを押した。	• ドアを確実に閉めて施錠操作を行ってください。 －いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いている状態では施錠できません。

室内ブザー警報	室外ブザー警報	状況	対処方法
ポーン	ピーーー（最長60秒間）	プッシュエンジンスイッチ切り忘れ警告 プッシュエンジンスイッチがOFF以外でセレクトレバーが“P”のとき、アクセスキーを携帯した状態でドアハンドルのタッチセンサーに触れた、またはリヤゲートリクエストスイッチ、パワーリヤゲートロックスイッチ※を押した。	• アクセスキーを車内に戻すか、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。 －プッシュエンジンスイッチをOFFにしないと施錠できません。
ポーン	ピッ ピッ ピッ（3回）	キー持ち出し警告 プッシュエンジンスイッチがOFF以外でセレクトレバーが“P”のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席ドアを閉めた。	プッシュエンジンスイッチをOFFにした上で車外に出てください。
		同乗者のキー持ち出し警告 プッシュエンジンスイッチがOFF以外で同乗者がアクセスキーを車外に持ち出し、運転席以外のドアを閉めた。	アクセスキーを車内に戻すか、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
ピーーー（連続）	—	セレクトレバー位置警告 • プッシュエンジンスイッチがOFF以外でセレクトレバーが“P”以外のとき、運転席ドアを開けた。 • プッシュエンジンスイッチが ON でセレクトレバーが“P”以外のとき、プッシュエンジンスイッチを押してACCにした。	• セレクトレバーを“P”にし、プッシュエンジンスイッチをOFFにした上で車外に出てください。 －プッシュエンジンスイッチが ON でセレクトレバーが“R”のときは、“R”のブザーが優先されます。
ピーーー（連続）	ピーーー（連続）	セレクトレバー位置警告 プッシュエンジンスイッチがOFF以外でセレクトレバーが“P”以外のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席のドアを閉めた。	• セレクトレバーを“P”にし、プッシュエンジンスイッチをOFFにした上で車外に出てください。 －プッシュエンジンスイッチが ON でセレクトレバーが“R”のときは、“R”のブザーが優先されます。
ポーン、ポーン…（約7秒間）	—	キーなし警告 車内にアクセスキーがない状態で走行した。	アクセスキーを携帯して走行してください。

※ パワーリヤゲート装備車

オートドアロック・アンロック機能

オートドアロック機能

車速約20 km/h以上になると、すべてのドア（リヤゲート含む）が自動で施錠されます。

知 識

- 解錠したいときは、集中ドアロックスイッチで解錠してください。
  - すべてのドア（リヤゲート含む）が施錠されている状態で、後席のドアロックノブで解錠すると、後席のドアを開閉したときにキー閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
- オートドアロック機能が作動する前に、集中ドアロックスイッチで施錠した場合は、オートドアロック機能は作動しません。
- オートドアロックの作動条件をセレクトレバー P以外、OFFに設定できます。
  ☞P.125参照

オートドアアンロック機能

車両停止時、運転席ドアを開けると、すべてのドア（リヤゲート含む）が自動で解錠されます。

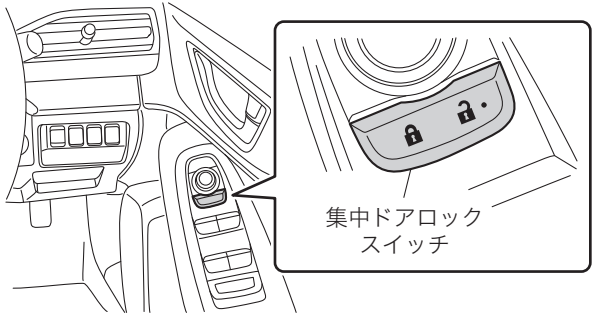
知 識

- SRSエアバッグが作動するような強い衝撃を受けた場合、すべてのドア（リヤゲート含む）が自動で解錠されることがあります。
  ☞P.746参照
- オートドアアンロック機能が作動する前に、集中ドアロックスイッチで解錠した場合は、オートドアアンロック機能は作動しません。
- オートドアアンロックの作動条件をエンジン停止、セレクトレバー P、OFFに設定できます。
  ☞P.125参照

車内から施錠・解錠する

すべてのドアを施錠・解錠する

運転席ドアの集中ドアロックスイッチの「施錠」を押すとすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが施錠されます。「解錠」を押すとすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが解錠されます。

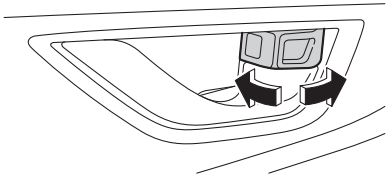


⚠ 注 意

- 集中ドアロックスイッチで施錠または解錠する。
  - ドアロックノブで運転席ドアを施錠または解錠しただけでは、集中ドアロックは作動しません。

各ドアを施錠・解錠する

ドアロックノブを後ろ側に引くと解錠され、前側に押すと施錠します。
運転席ドアは、ドアロックノブが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開きます。



⚠ 警 告

- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない。
  - 特に運転席はドアロックノブが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

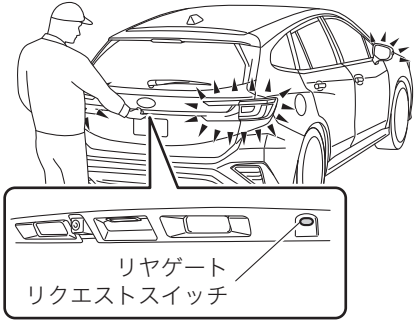
⚠ 注 意

- 運転席ドアを施錠する場合、ドアロックノブと同時にドア内側のドアハンドル（運転席側）を操作しない。
  - 運転席ドアが開かなくなる、または施錠できなくなる可能性があります。

その他の施錠・解錠

暗証コード式キーレスエントリーで解錠する

5ケタの暗証番号を登録しておくと、リヤゲートリクエストスイッチを押すことにより、アクセスキーを使わずにすべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドを解錠することができます。



暗証番号の登録方法

1. プッシュエンジンスイッチをOFFにします。
2. すべてのドア（リヤゲート含む）を閉めます。
3. アクセスキーの施錠ボタンを押し続けます（このときリヤゲートを含むすべてのドアとフューエルリッドが施錠されます）。
4. 手順3.の状態のまま5秒以内にリヤゲートリクエストスイッチを押し続けます。
5. 手順4.の状態のまま5秒以上経つとブザーが鳴り始めます。
6. 施錠ボタンとリヤゲートリクエストスイッチから手を離します。
7. ブザーが鳴ってから30秒以内にアクセスキーの解錠ボタンを押すと、ブザーが止まります。
8. 暗証番号を登録します。リヤゲートリクエストスイッチを、1ケタ目に設定したい数字の回数分押します（「32468」の場合：3回）。

知 識

- 盗難防止のため、5ケタとも同じ数字や12345の登録はできません。また、お車の登録番号や簡単なものは避けてください。
- 0を登録するときは10回リヤゲートリクエストスイッチを押してください。

9. ブザーが1回鳴るのを待ち、次の数字の回数分押します（「32468」の場合：2回）。
10. 手順9.を繰り返し、5ケタの数字を入力します。
11. ブザーが断続的に鳴り始めてから約30秒以内に番号の再確認のため、手順8.～10.までの操作を行います。
12. すべてのドア（リヤゲート含む）とフューエルリッドが解錠から施錠となったら登録完了です。

知 識

- 登録操作を間違えた場合は、一度ドアまたはリヤゲートをアクセスキーのボタンで解錠し、登録をキャンセルしてください。
  その後手順1.から登録操作を始めてください。ただし、手順11.で押し間違えた場合は、再度ブザーが鳴ってから、手順11.をもう一度やり直すことができます。
- 暗証番号を消去するときは、手順1.～9.と同じ手順で22222を登録します。
- 新しい暗証番号を登録したら必ず解錠することを確認してください。
- アクセスキーによる方法でキーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止している場合、暗証コード式キーレスエントリーの暗証番号は、消去できません。
  ☞P.165参照
- 次の場合は、同じ手順で暗証番号を登録しなおしてください。
  - 暗証番号を忘れてしまった
  - 暗証番号を変更したい
- 暗証番号は定期的に変更してください。
- 他人にお車を貸したときは、暗証番号が変更または消去されていないか確認してください。変更または消去されているときは、新しい暗証番号を登録しなおしてください。

解錠方法

手順8.～10.と同じ手順でリヤゲートリクエストスイッチを押してください。

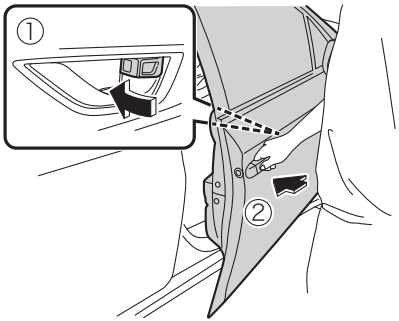
知 識

- アクセスキーが作動エリア内にあるときはキーレスアクセスの動作が優先されます。
- 解錠中に操作を間違えた場合は、5秒以上待って最初からやり直してください。
- 連続5回操作ミスをするとブザー（ピー）が約2秒間鳴り、5分間操作を受け付けません。

ドアロックノブで車外から施錠する

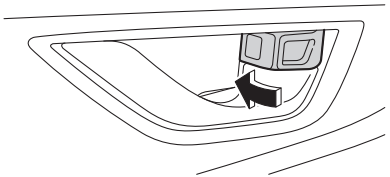
フロントドア

1. ドアロックノブを前側に押します。
2. ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。



リヤドア

ドアロックノブを前側に押してドアを閉めます。



知 識

操作したドアのみ施錠されます。

キーを差し込んで施錠・解錠する

アクセスキーが作動しないときは、メカニカルキーを使って運転席を解錠することができます。
☞P.767参照

知 識

- 盗難警報装置を作動させた状態でキーを差し込んで解錠した場合、盗難警報装置は解除されません。ドアを開けた場合、警報が作動します。
- キーを差し込んで施錠したときは、盗難警報装置は作動しません。
  ☞P.197参照

リヤゲートのみ開ける

☞P.182、190参照

キー閉じ込み防止機能

キーが車内に残された状態で、ドアが施錠されないようにする機能です。

知 識

SUBARU販売店で、キー閉じ込み防止機能を作動なしに設定できます。

キー閉じ込み防止機能が作動するとき

- 運転席のドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチの「施錠」を押したとき（プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき）
- キーを車内に置いたまま、ドアロックノブで施錠しドアを閉めたとき（キーレスアクセス＆プッシュスタート機能を停止していないとき）

知 識

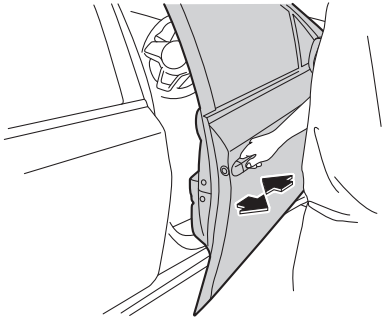
- 解錠したいときは、集中ドアロックスイッチで解錠してください。
  - すべてのドア（リヤゲート含む）が施錠されている状態で、後席のドアロックノブで解錠すると、後席のドアを開閉したときにキー閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
- キーレスアクセス＆プッシュスタート機能を停止したときは、ドアロックノブで施錠しても作動しません。
- メカニカルキーを使って施錠したときは作動しません。
- 車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

ドア・ウインドウの開閉

ドア

ドアの開閉

ドアを開けるときは、ドアハンドルを手前に引きます。
ドアを閉めるときは、確実に閉め、半ドアになっていないことを確認してください。



⚠ 注 意

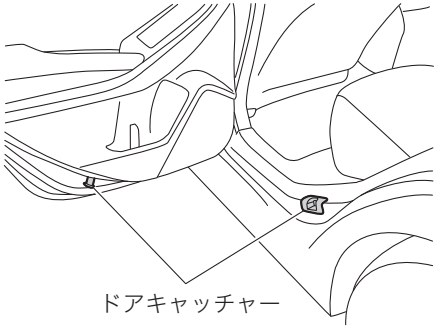
ドアを開閉する際は、次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

- 周囲の安全を十分に確認する。
- 予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持する。
- ドアは確実に閉める。

⚠ 注 意

– 半ドアでは開くことがあり危険です。

- 手や指、爪などを挟まないように注意する。
- リヤドアを閉めるときは、ドアキャッチャーへの衣類（丈の長いスカートなど）のかみ込みに注意する。



ドアキャッチャー

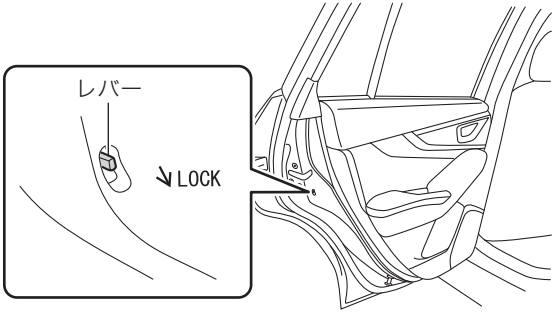
知 識

- お車から離れる場合はプッシュエンジンスイッチをOFFにして、キーを持っていることを必ず確認してからドアを施錠してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。

お子さまの誤操作防止機能(チャイルドプルーフ)

リヤドアを車内のドアハンドルで開けられなくする機能です。後席にお子さまを乗せたときに使用してください。

レバーを「LOCK」側に動かしてドアを閉めます。解除するときはレバーを戻します。
ドアを開けるには、ドアが解錠されている状態で車外のドアハンドルを引きます。



パワーウインドウ

パワーウインドウは、プッシュエンジンスイッチがONのとき使用できます。

⚠ 警 告

乗員の操作を含め、ウインドウの開閉操作の責任は運転者にあります。
パワーウインドウを開閉するときは次のことをお守りください。思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

- 開閉する前に窓から顔や手を出したり、窓に触ったりしていないことを確認する。
- 小さなお子さまにはスイッチを操作させない。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロック状態にしておく。
  ☞P.178参照
- 必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてキーを携帯し、お子さまも連れて車から離れる。

⚠ 注 意

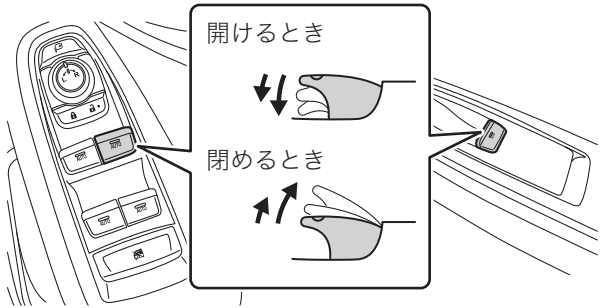
- ウインドウの全閉、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けない。
  – パワーウインドウの故障の原因になります。

知 識

- エンジンがかかっていないときに複数のウインドウを同時に開閉した場合、バッテリー電圧が低下していると自動全開（全閉）作動が停止することがあります。その場合、エンジンを始動してからもう一度操作をしてください。
- ウインドウを全閉または全開にした後スイッチを同じ方向に操作し続けるなど、負荷がかかるとブレーカーが作動してウインドウの開閉ができなくなることがあります。
  この場合、ブレーカー復帰後に必ずパワーウインドウの初期設定を行ってください。初期設定がされていないと、ウインドウの自動全開（全閉）およびウインドウ反転機能は作動しません。
  ☞P.179参照

開閉のしかた

スイッチを軽く押すと、押している間は開きます。
強く押すと、自動で開きます。途中で止めるには、スイッチを引きます。
スイッチを軽く引くと、引いている間は閉まります。
強く引くと、自動で閉まります。途中で止めるには、スイッチを押します。



リモート開閉機能

SUBARU販売店で、アクセスキーのボタンを長押しするとパワーウインドウの開閉ができるよう設定できます。
解錠ボタン：長押し約3秒後に開作動
施錠ボタン：長押し約3秒後に閉作動

オフディレイ機能

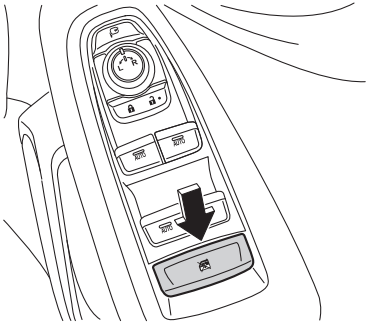
エンジンを止めた後でも約40秒間は開閉できます。

知 識

- 開閉ができる状態のときは、スイッチの照明が点灯しています。
- スイッチの照明が点灯している間に前席のドアを開けると、ウインドウの開閉はできなくなります。

ウインドウロック機能

お子さまなどの誤操作によるパワーウインドウの開閉を防止したいときに使用します。
運転席のロックスイッチを押して運転席以外のスイッチをロックできます。
ロック状態のときは、運転席で、照明が点灯しているスイッチのみ操作できます。



ウインドウ反転機能

ウインドウを閉めているときに窓枠とウインドウとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインドウの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

⚠ 注 意

ウインドウを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない部分があります。指などを挟まないようにしてください。

知 識

- 環境や走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドウに加わるとウインドウ反転機能が作動することがあります。
- ウインドウ反転機能が作動した後、数秒間はウインドウを閉めることができません。
- 異物を挟み込んでいないのにウインドウ反転機能が作動してウインドウを全閉にできないときは、スイッチを強く引き続けて反転機能を2回以上作動させ、一度スイッチを戻してから再度強く引き続け、全閉にしてください。それでも全閉にならない場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

ウインドウ巻き込み防止機能

ウインドウを開けているとき、異物を巻き込むと作動が停止します。

知 識

異物を巻き込んでいないのにウインドウ巻き込み防止機能が作動してウインドウを全開にできないときは、ウインドウ巻き込み防止機能が作動してから約4秒以内に一度スイッチを離してもう一度軽く押し続け、全開にしてください。それでも全開にならない場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

パワーウインドウの初期設定

パワーウインドウの機能が正常に作動しなくなったときは、初期設定をしてください。

初期設定のしかた

運転席、助手席および後席それぞれのスイッチで行います。

1. プッシュエンジンスイッチをONにします。
2. スイッチを下に押し続け、ウインドウを全開にします。全開後、約1秒間スイッチを下に押し続けます。
3. スイッチを上に引き続け、ウインドウを全閉にします。全閉後、約1秒間スイッチを上に引き続けます。

ウインドウが動かないなど初期設定ができない、または初期設定をしてもパワーウインドウが正しく作動しない場合は、SUBARU販売店で点検を受けてください。

フューエルリッド（燃料給油口）

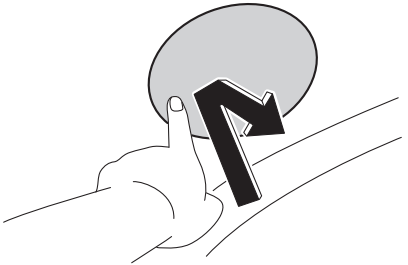
フューエルメーター（燃料計）に、フューエルリッド（燃料給油口）が右側にあることを示す表示があります。

指定燃料		タンク容量
1.8L車	無鉛レギュラーガソリン	約63 L
2.4L車	無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン	

フューエルリッドの開閉

開けるとき

1. 解錠操作をするか、プッシュエンジンスイッチをONからACCまたはOFFにしてフューエルリッドを解錠します。
2. フューエルリッドの左端中央を押してリッドを開きます。



知 識

- オートドアアンロック機能で解錠した場合も、同時に解錠されます。
- バッテリー上がりや故障などでフューエルリッドの解錠ができなくなった場合は、車室内から解錠することができます。☞P.766参照

閉めるとき

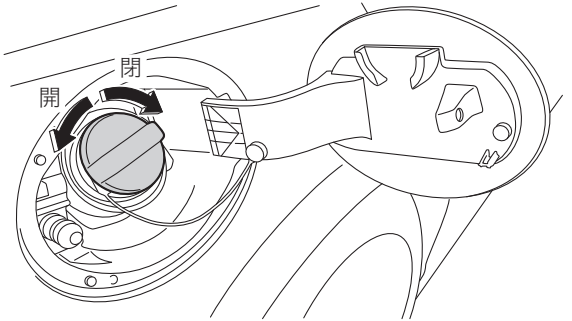
確実に閉まるまでフューエルリッドを手で押し付けます。

知 識

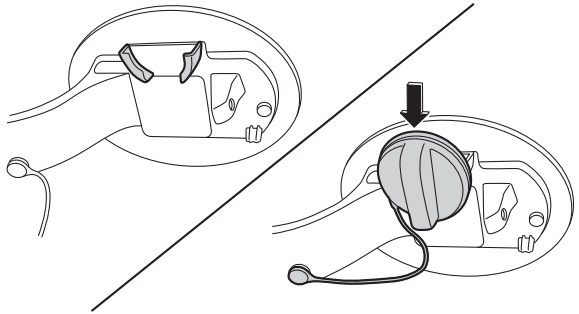
フューエルリッドを確実に閉めたことを確認してください。開いたままの場合、施錠操作をしたときにフューエルリッドが施錠されません。

フューエルキャップの開閉

フューエルキャップを左に回して開けます。給油後は、「カチッ」と音がするまで右に回して閉めます。



フューエルキャップを外したときは、フューエルリッド内側のフックにかけます。



⚠ 警 告

給油時には必ず次のことをお守りください。

- タバコなど一切の火気は近づけない。
- プッシュエンジンスイッチは必ずOFFにする。
- エンジンは必ず止める。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分や、静電気除去パッドに触れて身体の静電気を除去する。
  - 静電気による火花が燃料に引火して車両火災にいたるおそれがあります。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外す。
  - 急に開けると燃料が給油口から噴き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉める。
  - 閉まっていないと走行中に燃料が漏れて車両火災につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- フューエルキャップはお車に合った静電気除去機能を有するスバル純正品を使用する。
  ☞P.50参照

⚠ 注 意

セルフ給油のときは、給油ガンが自動停止した時点で止める。

知 識

燃料タンク内の水分を除去するときは、スバル純正水分除去剤の使用をお奨めします。

パワーリヤゲート

アクセスキーのボタンやスイッチを操作することで、自動で開閉できます。
開閉の作動を開始する前に、パワーリヤゲート作動開始音が鳴り、ハザードランプが点滅してお知らせします。

⚠ 警 告

- 走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。
  - 車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

パワーリヤゲートを開閉するときや荷物を出し入れするときは、次のことに注意してください。

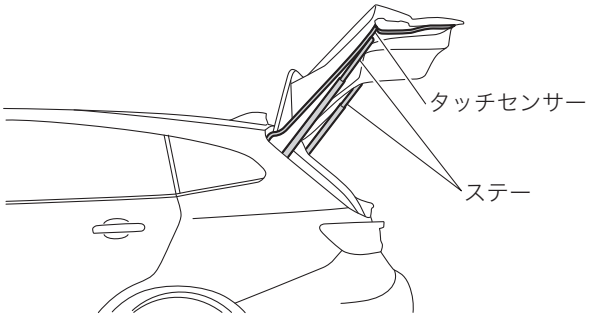
- 周囲の安全を確かめる。
  - お子さまがいる場合は特に注意してください。
- リヤゲートが頭や顔にぶつからないよう注意する。
- 走行の前には、リヤゲートを完全に閉める。
- 風の強いときは開閉に十分注意する。
  - 風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 作動中に無理な力をかけない。
  - 故障の原因となります。
- 排気管や排気ガスに触れないようにする。
  - エンジンをかけたままのときは、排気管や排気ガスの熱でやけどをするおそれがあります。

⚠ 注 意

- 雪などを取り除く。
  - 重みでリヤゲートが閉まることがあります。

また、次のことをお守りください。

- リヤゲートの両側についているタッチセンサーに傷をつけない。
  - タッチセンサーが故障すると、パワーリヤゲートが作動しなくなります。
- パワーリヤゲートステー部に手をかけたり、薄いビニール袋、テープなどをかみ込ませたり、傷をつけたりしない。
  - 異音や動作不良につながる場合があります。



- リヤゲートの作動が途中で停止したときは、頭や顔をぶつけたり手や荷物を挟んだりしないよう注意する。
  - エンジン始動時や他の電装品を使用しているとき、バッテリーが弱っているときは、パワーリヤゲートの作動が停止することがあります。このときブザーは鳴りません。

⚠ 注 意

- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けない。
  - リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなったり、パワーリヤゲートが正常に機能しなくなったりして、故障につながるおそれがあります。
- リヤゲートを長時間開けたままにしない。
  - ドア（リヤゲート含む）を開けている間は、ドアの開閉を検知するために電力を消費します。バッテリー上がりの原因となります。

知 識

- 停車し、セレクトレバーを“P”にしてから操作してください。
- アクセスキーを携帯せずに開けるには、オートドアアンロック機能、アクセスキーまたは集中ドアロックスイッチで解錠してから操作してください。
- 開閉ができないときは、ブザー（ピピピッ）が鳴ります。
- リヤゲートを閉め忘れたまま走行するとブザーが鳴ります。開作動中に走行すると、リヤゲートは閉作動します。
- パワーリヤゲートを閉めた直後に開けようとすると、ブザーが鳴り、開かない場合があります。少し時間をおいてから開けてください。
- 次のような場合、パワーリヤゲートが作動しないことがあります。
  - 傾斜している場所に停車しているとき
  - 風が強いとき
  - リヤゲートに雪が積もっているとき
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開けてください。
- バッテリー上がりや故障などでリヤゲートが開けられなくなった場合は、車室内から解錠して開けることができます。☞P.765参照
- バッテリー上がりおよびバッテリー交換後は、パワーリヤゲートが作動しないことがあります。パワーリヤゲートが動かなくなったときの対処をしてください。☞P.764参照
- パワーリヤゲート作動開始音を作動なしに設定できます。☞P.125参照

アクセスキーで開閉する

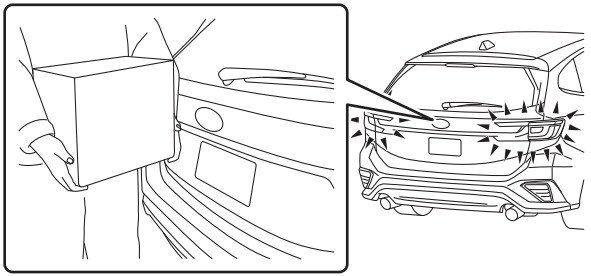
お車のまわりから🚗ボタンを押し続けます。

知 識

- 解錠したときは、解錠のブザーが鳴ります。
- この方法でリヤゲートを閉めたときは施錠されません。お車から離れるときは必ず施錠してください。
- SUBARU販売店でアクセスキーによるパワーリヤゲート開閉を2回押しで作動、作動なしに設定できます。
- 🚗ボタンを押してすぐに離すと、リヤゲートのみを解錠することができます。

ハンズフリーオープン機能で開ける

プッシュエンジンスイッチがOFFでパワーリヤゲートが閉まっているとき、アクセスキーを携帯して手や腕などをパワーリヤゲートのエンブレムにかざします。ブザーが鳴り始めたら手や腕などを離します。



⚠ 注 意

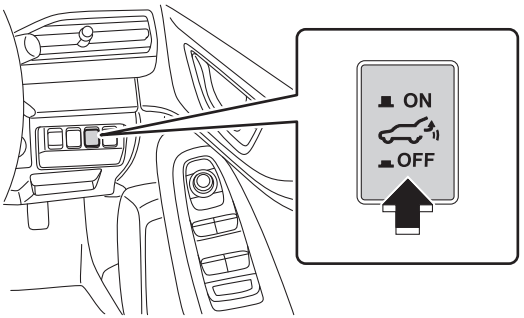
- エンブレムを取り外したり、周辺にものを貼り付けたりしない。
  - 誤作動するおそれがあります。
- 車両付近にアクセスキーがある場合、パワーリヤゲートの作動に注意する。
  - アクセスキーを携帯していなくても、エンブレムに人や物が近づくと、パワーリヤゲートが突然開いて思わぬけがをしたり、リヤゲートが破損するおそれがあります。

知 識

- 一時停止位置から動かすときなど、パワーリヤゲートが開いている場合はこの方法では動きません。
- 次の場合、作動はキャンセルされます。
  - ブザーが鳴り始める前に手や腕を離したとき
  - ブザーが鳴り始めても手や腕を離さなかったとき
  - エンブレムに触れたとき
- 洗車や除雪をするときは、ハンズフリーオープン機能をOFFにしてください。車両付近にアクセスキーがある場合、パワーリヤゲートが突然開くことがあります。
- 次の状況では、ハンズフリーオープン機能が正常に作動しないことがあります。他の方法で開閉してください。
  - 激しい雨が降っているとき
  - リヤゲートが汚れているとき
  - 車に雪が積もっているとき
- 衣服などによって手や腕を感知できないことがあります。

ハンズフリーオープン機能をOFFにするとき

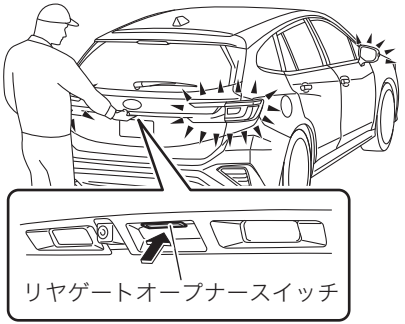
ハンズフリーオープン機能を作動させたくないときは、ハンズフリーパワーリヤゲートOFFスイッチを押すと機能を停止できます。



車体のスイッチで開閉する

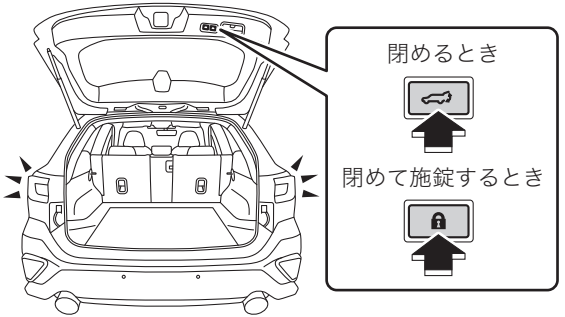
開けるとき

リヤゲートが解錠されているとき、またはアクセスキーを携帯しているとき、リヤゲートオープナースイッチを押します。



閉めるとき

閉めるだけのときは、パワーリヤゲートインナースイッチを押します。
閉めて施錠するときは、アクセスキーを携帯し、リヤゲート以外のすべてのドアとフューエルリッドを閉めてからパワーリヤゲートロックスイッチを押します。



⚠ 注 意

パワーリヤゲートロックスイッチで施錠したときは、リヤゲート全閉後、ブザー（ピッ）が鳴り、同時にハザードランプが点滅することを確認してください。

知 識

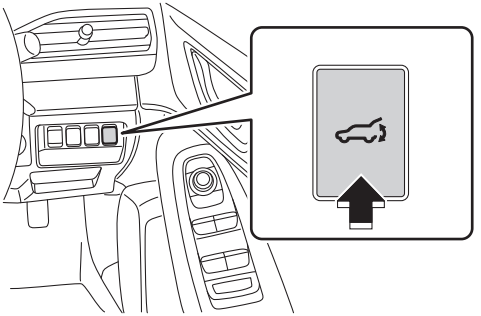
- パワーリヤゲートロックスイッチを操作したとき、アクセスキーの位置によってはキー閉じ込み防止機能が作動することがあります。
☞P.174参照

知 識

- パワーリヤゲートロックスイッチを2.5秒間長押しすると動作がキャンセルされます。

運転席のスイッチで開閉する

リヤゲートが解錠されているとき、またはオートドアロック機能や集中ドアロックで車内から施錠されているとき、パワーリヤゲート運転席スイッチを押し続けます。



手動で閉める

手動で閉めることもできます。ただし、パワーリヤゲートが半ドアの位置まで閉まるとリヤゲートオートクロージャーが働き、自動的に全閉になります。

⚠ 警 告

半ドア状態になると自動的に閉まりますので、指などを挟まないように注意してください。
重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

パワーリヤゲートの故障の原因となりますので、次のことをお守りください。

- リヤゲートオートクロージャーの作動中に無理な力をかけない。
- リヤゲートオートクロージャーを繰り返し作動させない。

一時停止機能

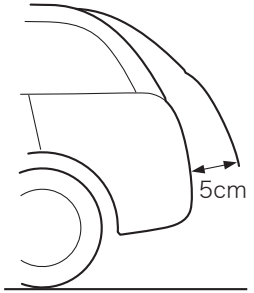
開作動中に次のいずれかの操作をするとパワーリヤゲートを任意の位置で止めることができます。
閉作動中は、同じ操作でリヤゲートが反転します。もう一度スイッチを押すと停止します。

- アクセスキーのボタンを押す
- パワーリヤゲート運転席スイッチを押す
- リヤゲートオープナースイッチを押す
- パワーリヤゲートインナースイッチを押す
- パワーリヤゲートロックスイッチを押す

一時停止後は、開ける操作をしても、パワーリヤゲートは閉作動します。

知 識

全閉位置から約5 cmまでは一時停止することができません。



手動操作オート移行機能

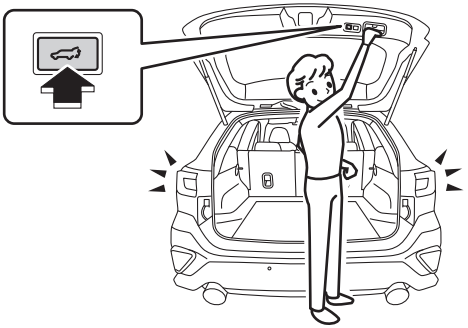
パワーリヤゲート一時停止状態で、開くまたは閉じる方向に一定以上の速度でリヤゲートを動かすと、オート作動します。

メモリーハイト機能

高さ制限のある駐車スペースに駐車するときやルーフに荷物を積んでいるときなど、リヤゲートの開く高さをお好みの位置に設定することができます。

登録のしかた

パワーリヤゲートを手動でお好みの高さにし、その状態を保ちながらパワーリヤゲートインナースイッチを押し続けます。登録が完了するとブザー（ピピーッ）が鳴り、同時にハザードランプが3回点滅します。



知 識

- 手動でお好みの高さに動かすときはゆっくり操作をしてください。
  - 一定以上の速さで動かすと、手動操作オート移行機能により、オート作動を開始する可能性があります。

知 識

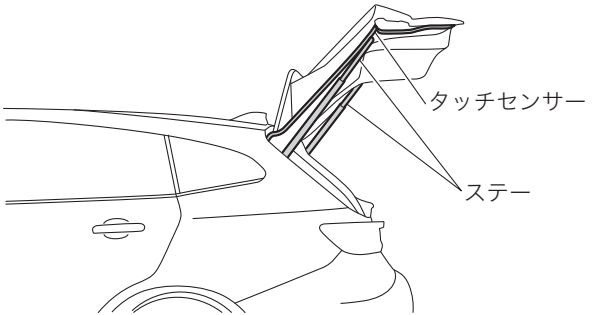
- リヤゲートの開く高さを登録したとき、メモリーハイト機能は自動的にONになります。
  センターインフォメーションディスプレイで機能をOFFにできます。
  ☞P.125参照

メモリー位置を変更する場合は、同じ手順で登録しなおしてください。

パワーリヤゲート反転機能

パワーリヤゲートの開閉中に異物の挟み込みやタッチセンサーへの接触を感知した場合、または障害物に干渉した場合、ブザー（ピピピッ）が鳴り、パワーリヤゲートが反対側に動きます。
また、パワーリヤゲートが自動で閉作動中に、次のいずれかの操作をするとパワーリヤゲートが反転します。

- アクセスキーのボタンを押す
- パワーリヤゲート運転席スイッチを押す
- リヤゲートオープナースイッチを押す
- パワーリヤゲートインナースイッチを押す
- パワーリヤゲートロックスイッチを押す



⚠ 注 意

パワーリヤゲートを操作するときは、次のことに注意してください。

⚠ 注 意

- パワーリヤゲート反転機能が3回連続して作動すると、パワーリヤゲートの電動制御が解除され、そのときの位置で停止するため、リヤゲートが顔や頭、障害物にぶつからないよう、また、手や荷物を挟まないように注意する。
- リヤゲートが完全に閉まる直前の部分では挟み込みを感知しない場合があるため、手や指などを挟まないよう注意する。
- パワーリヤゲート反転機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があるため、手や指などを挟まないよう注意する。

知 識

パワーリヤゲート反転機能が作動し、リヤゲートが開方向に動いた場合、リヤゲートは全開位置または登録した高さ（メモリーハイト機能がONのとき）まで開きます。

パワーリヤゲート落下防止機能

積雪などの重みによりリヤゲートの落下を感知すると、ブザー（ピッピッ）が鳴りリヤゲートが自動で閉まります。

知 識

- リヤゲートに積雪があるときは、パワーリヤゲートを操作する前に雪を取り除いてください。
- 落下防止機能が作動するとき、まれに音がすることがありますが、異常ではありません。

リヤゲート（パワーリヤゲート装備車以外）

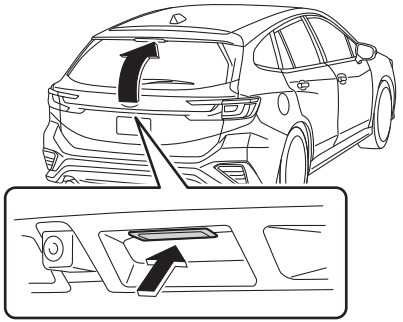
すべてのドアが解錠されているとき、リヤゲートを開閉できます。
リヤゲートのみ解錠することもできます。

リヤゲートのみ解錠するとき

お車のまわりから🚗ボタンを押します。

開けるとき

リヤゲートオープナースイッチを押してリヤゲートを少し持ち上げます。手で支えたままゆっくり開けます。



閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえ付けるように閉めます。
半ドアでないことを確認します。

⚠ 警 告

- 走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉める。
  - 車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

リヤゲートを開閉するときや荷物を出し入れするときは、次のことに注意してください。

- 周囲の安全を確かめる。
  - お子さまがいる場合は特に注意してください。
- リヤゲートが頭や顔にぶつからないよう注意する。
- 走行の前には、リヤゲートを完全に閉める。
- 風の強いときは開閉に十分注意する。
  - 風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 排気管や排気ガスに触れないようにする。
  - エンジンをかけたままのときは、排気管や排気ガスの熱でやけどをするおそれがあります。
- 雪などを取り除く。
  - 重みでリヤゲートが閉まることがあります。
- リヤゲートを支えているガスステー部に薄いビニール袋、テープなどがかみ込まないようにする。
- ガスステー部に傷をつけないように注意する。
  - ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けない。
  - リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。
- リヤゲートを長時間開けたままにしない。

⚠ 注 意

- ドア（リヤゲート含む）を開けている間は、ドアの開閉を検知するために電力を消費します。バッテリー上がりの原因となります。

知 識

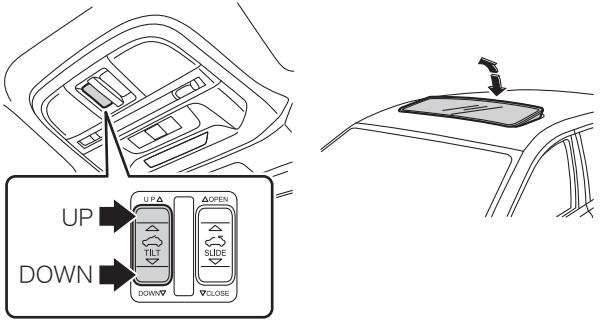
- リヤゲートオープナースイッチを押すと同時にリヤゲートを開けようとした場合、リヤゲートが開かないときがあります。
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開けてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。
- バッテリー上がりや故障などでリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、車室内から解錠することができます。
☞P.765参照

電動ガラスサンルーフ

サンルーフは、プッシュエンジンスイッチがONのときに使用できます。

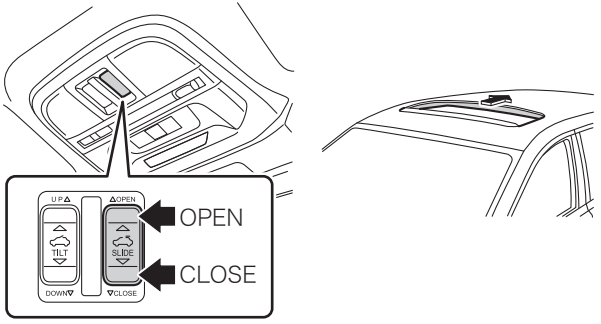
チルトアップ・チルトダウン

サンルーフが全閉のとき、チルトスイッチのUP側を押すと、サンルーフ後端が約3 cm開き（チルトアップ）ます。
途中で止めるには、スイッチを押します。
チルトスイッチのDOWN側を押すと、押している間サンルーフが閉まり（チルトダウン）ます。



スライド開閉

サンルーフがチルトアップしているときは、チルトダウンして完全にサンルーフを閉めます。
スライドスイッチのOPEN側を押すと、全開になります。
途中で止めるには、スイッチを押します。
スライドスイッチのCLOSE側を押すと、サンルーフが閉まります。
途中で止めるには、スイッチを押します。



⚠ 警 告

- 開口部から身体の一部や、物などを出さない。
  - 車外の物などに当たったり、万一のとき重大な事故になるおそれがあり危険です。特にお子さまには気をつけてください。
- 開閉するときに手や首を挟まないように注意する。
  - 特にお子さまには気をつけてください。

⚠ 警 告

- 必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてキーを携帯し、お子さまも連れて車から離れる。
  - お子さまがサンルーフを操作してけがをするおそれがあります。

⚠ 注 意

- 開口部やその周辺に荷物をのせるなど大きな力を加えない。
  - ルーフがへこむことがあります。
- 全開、全閉後にスイッチを押し続けない。
  - サンルーフの故障の原因になります。

知 識

- お車から離れるときや洗車するときは、サンルーフが完全に閉まっていることを確かめてください。
- 雨の後や洗車後に開けるときは、サンルーフ上の水を拭き取ってください。室内に水が入ることがあります。
- 降雪後は、サンルーフ上の雪を取り除いてから開けてください。
- キャリアなどを取り付けたときは、のせた荷物に当たらないように気をつけてください。
- サンルーフが正常に作動しなくなったときは、SUBARU販売店にご相談ください。

サンルーフ反転機能

サンルーフを閉めているときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し、自動で少し戻り止まります。

⚠ 注 意

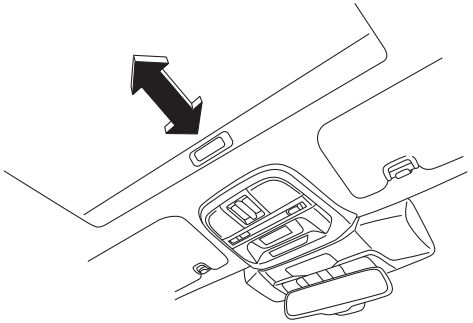
- 必ず安全を確かめて操作する。
  - サンルーフを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない部分があります。

知 識

環境や走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がサンルーフに加わると、サンルーフ反転機能が作動することがあります。

サンシェード

サンルーフをスライドで開けるときのみ連動して開きます。
サンルーフが全閉のときは、手で開閉できます。



知 識

- サンシェードを開閉するときは、全開か全閉で使用してください。
  途中で止めて使うと、走行中に音が出ることがあります。また、急ブレーキにより閉じることがあります。
- 炎天下で長時間駐車する場合は、サンシェードを閉めてください。
  サンシェードを開けたままにしておくと、車内が高温になります。

セキュリティシステム

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）

アクセスキーにはイモビライザー機能が装備されています。
アクセスキーにはそれぞれ個別の識別コードがあります。登録されているキーでのみエンジンを始動できます。

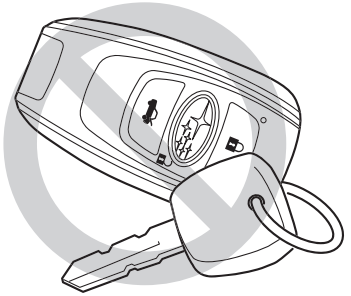
⚠ 注 意

イモビライザーはキーと車両の識別コードを電子的に照合します。次のことをお守りください。

- 磁気を帯びた機器の近くにキーを置かない。
  - 誤作動の原因になるおそれがあります。
- インストルメントパネルの上など高温になる場所にキーを置かない。
- キーを水にぬらさない。
- 次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。
  - キーに金属製の物が接しているとき
  - キーに他のキーの金属部が接しているとき

⚠ 注 意

- キーが他の車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵の物）と近いとき



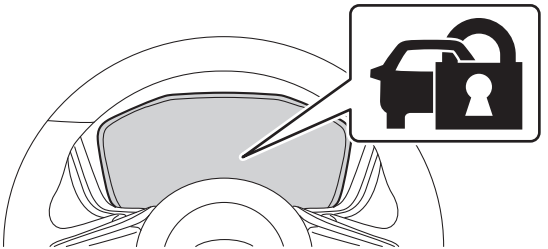
  - キーが他の信号発信機と近いときや接しているとき
- システムの改造や取り外しをしない。
  - システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- イモビライザーは、車両盗難を完全に防止することを保証するものではありません。

知 識

- イモビライザー機能は車両自体の盗難を防ぐ装置であり、車室内への侵入を防ぐ機能はありません。車から離れるときは必ずドアを施錠してください。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため紛失したキーの登録を消去するようお奨めします。登録の消去は、SUBARU販売店でのみ行えます。SUBARU販売店にご相談ください。
- イモビライザーのメンテナンスは不要です。

セキュリティ表示灯

セキュリティ表示灯は、イモビライザー機能の作動および盗難警報装置の状態を示します。
プッシュエンジンスイッチを押していないときはゆっくり点滅をしています。正規のアクセスキーを携帯し、プッシュエンジンスイッチを押すと消灯します。
盗難警報装置を「作動あり」に設定すると、作動状態に応じて点滅のパターンが変わります。
☞**P.199**参照



知 識

エンジン停止中、プッシュエンジンスイッチがACCまたはONでドアを開けるまたは閉めるとセキュリティ表示灯がゆっくり点滅します。このとき、アクセスキーを携帯していればエンジンを始動できます。

盗難警報装置

キーレスアクセス機能、キーのボタン操作、または暗証コード式キーレスエントリー以外でドア、リヤゲートやボンネットが開けられたとき、30秒間車両ホーンが鳴り、ハザードランプが点滅して周囲に異常を知らせるよう設定できます。
☞P.199参照

⚠ 注 意

- システムの改造や取り外しをしない。
  – システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

知 識

- 盗難警報装置は特定条件で作動し警報などで周囲に知らせる装置であり、盗難を防止するものではありません。
  車から離れるときは、車内に貴重品などを置かないでください。
- 30秒間鳴り続けた後も、ドアが開いたままになっている場合、警報が鳴り続けます。ドアを閉めると最長30秒後には警報は止まります。
- 盗難警報装置のメンテナンスは不要です。

盗難警報装置を監視状態（警報が作動する状態）にする

プッシュエンジンスイッチをOFFにして、すべてのドア（リヤゲート含む）およびボンネットを閉めます。キーレスアクセス機能またはキーのボタン操作で施錠すると約30秒の待機時間（監視を行なわない状態）の後、監視状態に入ります。

監視状態に入るとメーター内のセキュリティ表示灯が2回連続の点滅を繰り返します。メカニカルキーやドアロックノブで施錠したときには盗難警報装置は監視状態に入りません。
☞P.173、174参照

知 識

- 待機状態中は、セキュリティ表示灯が素早く点滅します。また、次のことを行った場合、監視状態に入りません。
  – キーレスアクセス機能、キーのボタン操作、または暗証コード式キーレスエントリーでドアを解錠したとき
  – いずれかのドア（リヤゲートも含む）を開けたとき
  – アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してACCにしたとき
- ボンネットを開けたままで施錠した場合は、監視状態に入りません。
  – ボンネットを閉めてから約30秒待機状態の後、監視状態に入ります。
- 自動施錠の機能が作動した場合にも盗難警報装置が待機状態から監視状態に入ります。
  ☞P.161参照

知 識

- 監視状態のままバッテリーが上がったときは、キーレスアクセス機能、キーのボタン操作、または暗証コード式キーレスエントリーでは解錠できません。メカニカルキーを使用して解錠してください。ただしバッテリーを充電したり新品に交換したりした場合は監視状態で復帰します。監視状態で復帰したときにドア（リヤゲート含む）またはボンネットが開いたままになっていると警報が作動します。警報の作動を停止する操作を行ってください。
- キーレスアクセス機能やキーのボタン操作による施錠や自動施錠時、ドアを施錠動作の直前で開くと警報が鳴り始める場合があります。
- パワーリヤゲートのみ開いている場合は、パワーリヤゲートロックスイッチを押して施錠すると約30秒の待機時間の後、監視状態に入ります（パワーリヤゲート装備車）。
- SUBARU販売店で30秒の待機時間をなしに設定できます。

盗難警報装置の監視状態を解除する

キーレスアクセス機能、キーのボタン操作、または暗証コード式キーレスエントリーで解錠すると監視状態が解除されます。解除されるとメーター内のセキュリティ表示灯はゆっくりと点滅します。

知 識

盗難警報装置が監視状態にあるとき、ドアの鍵穴にメカニカルキーを差して解錠したり、車内からキーを使わず解錠したりした場合、そのままドアを開けると警報が作動します。
☞P.170、174参照

警報を作動させてしまったときには

次のいずれかの操作をすると解除できます。

- アクセスキーのいずれかのボタンを押す
- アクセスキーを携帯し、プッシュエンジンスイッチを押してACCにする

警報の設定

盗難警報装置は作動あり／作動なしの設定を切り替えることができます。
次の方法で切り替えます。

1. 運転席に座り、すべてのドア（リヤゲート含む）およびボンネットが閉まっていることを確認します。
2. プッシュエンジンスイッチをON（エンジンがかかっていない状態）にします。
3. 集中ドアロックスイッチの「解錠」を押すと同時に運転席ドアを開け、そのまま10秒間保持すると設定が切り替わります。
4. 設定が切り替わるとホーンが鳴り、新しい設定をメーターに表示します。

   作動あり…ホーンが1回鳴ります。
   メーター表示“AL ON”
   作動なし…ホーンが2回鳴ります。
   メーター表示“AL OFF”

知 識

この設定は、SUBARU販売店でもできます。

警報の作動履歴

メーター内のセキュリティ表示灯が点滅して、警報が作動したことを運転者に知らせます。警報が作動した原因により点滅の回数が変わります。
プッシュエンジンスイッチをONにしたとき1秒間点灯した後に、次の点滅で運転者に知らせます。

- ドア（リヤゲートを含む）が開けられた場合：5回
- ボンネットが開けられた場合：3回

知 識

警報の作動履歴は、盗難警報装置を再度監視状態にすると消去されます。

室内灯点灯

SUBARU販売店で、室内灯のスイッチがDOOR位置にあるときに警報が作動すると室内灯が点灯するように設定できます。

運転前の調整

正しい運転（乗車）姿勢

無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシート位置、ハンドル位置およびミラー位置を調整します。
☞P.202、214、215、221参照
調整した位置をドライバーモニタリングシステムまたはドライバーポジションメモリーで登録できます（装備車のみ）。
☞P.225、446参照
シートベルトを正しく装着します。
☞P.58参照

⚠ 警 告

シートを調整するときは、次のことを必ずお守りください。守らないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- 必ず走行を始める前に調整を行う。
  - 運転席の調整は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなる、背もたれが倒れてハンドルに手が届かなくなる、運転への注意がそれて運転ミスを起こすなどの重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
- 調整後はシートを前後に動かして確実に固定されていることを確認する。
  - 不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が十分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて背もたれを必要以上に倒さない。
  - 万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
  - 正しい運転姿勢がとれないため危険です。
- フロントシートの下や周囲に物を置かない。
  - 物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にスバル純正品以外のアクセサリーを取り付けない。
- フロントシートの座面と背もたれの間に後席乗員の足をのせたり、物を入れたりしない。
  - SRSエアバッグやパワーシートが正常に作動しなくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手や足などを近づけないようにする。
  - 同乗者や荷物にも注意してシート調整を行ってください。手や足などを挟まれたり、荷物が損傷したりすることがあります。
- 前席ヘッドレストは前席専用、後席ヘッドレストは後席専用。
  - 入れ替えて使用しないでください。また、前席ヘッドレストには、角度調整機能があります。

知 識

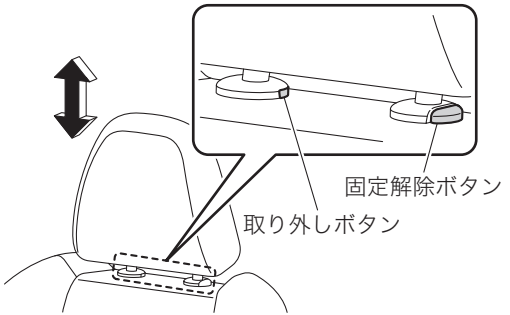
納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）やフロアマットの汚れ防止フィルムは取り外してから使用してください。

フロントシート

ヘッドレスト

高さ調整

- 上げるとき：
  最下段～1段目はそのままヘッドレストを引き上げます。
  1段目～3段目は固定解除ボタンを押したまま、引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときはヘッドレストを最上段にして、取り外しボタンを押したまま引き抜きます。
- 取り付けるときは、ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロックされるまで確実に押し下げてください。



⚠ 警 告

ヘッドレストを調整するときは次のことをお守りください。守らないと万一のとき頭や首を保護できないなど重大な事故につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは確実に取り付ける。
  – ヘッドレストを外しての走行や、固定できる高さを超えての使用はしないでください。
- ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整する。
- ヘッドレストの高さおよび角度調整は、走行中に行わない。
  – 思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- ヘッドレストを取り付ける際は、前後の向きを間違えないように注意する。
- 前席ヘッドレストは前席専用、後席ヘッドレストは後席専用。
  – 入れ替えて使用しないでください。また、前席ヘッドレストには、角度調整機能があります。

知 識

ヘッドレストが天井に当たって取り外しにくいときは、背もたれを倒すと取り外せます。

角度調整

ヘッドレストの角度を段階的に調整することができます。
ヘッドレストを前方いっぱいに倒して、手を離すと自動的に一番後ろの位置に戻ります。

調整後、ヘッドレストが後方にロックされていることを確認してください。

⚠ 警 告

- 前席に乗員がいるときヘッドレストを後ろ側から絶対に押さない。
  - 角度が変わり思わぬけがをするおそれがあります。

⚠ 注 意

- ヘッドレストに物を引っかけたり、つかまったりしない。
  - 十分な効果が発揮できなかったり、故障につながるおそれがあります。

パワーシート

シートのドア側のスイッチ操作で調整ができます。

⚠ 注 意

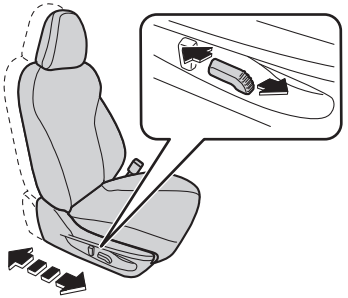
- 操作するときはスイッチ部に異物を挟まないように注意する。
  - 予期しないときに動くことがあります。
- 操作するときは背もたれに過度な力を加えない。
- 調整できる終点まで移動させた状態でスイッチを押し続けない。
- シートが人や物に当たった場合、それ以上無理に操作しない。
- 後方にスライドする際は、後席の乗員の足が挟まれないように注意する。

知 識

- 調整はエンジンがかかっているときに行ってください。バッテリー上がりの原因となります。
- 複数の調整を同時に行わないでください。

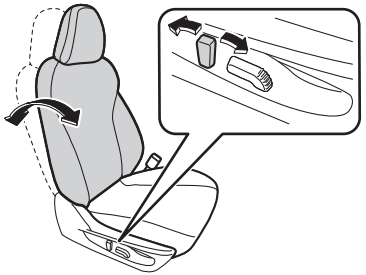
スライド調整（前後の調整）

スイッチ全体を前後に動かして調整します。



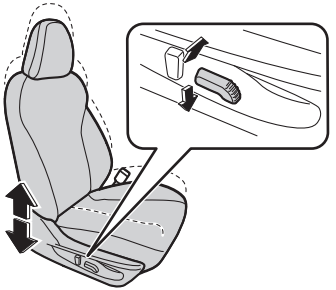
リクライニング調整（背もたれの角度調整）

リクライニングスイッチを前後に動かして背もたれの角度を調整します。



上下調整

スイッチの後ろ側を上下に動かしてシートの高さを調整します。

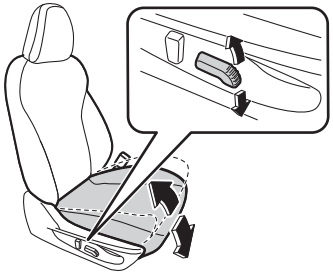


⚠ 注 意

上下に調整する際は、後席の乗員の足が挟まれないように注意する。

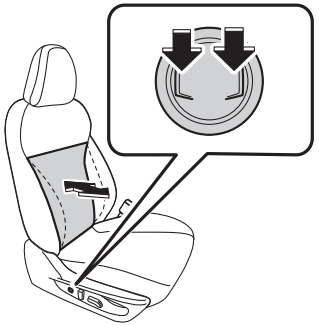
座面前側の高さ調整

スイッチの前側を上下に動かして前側の高さを調整します。



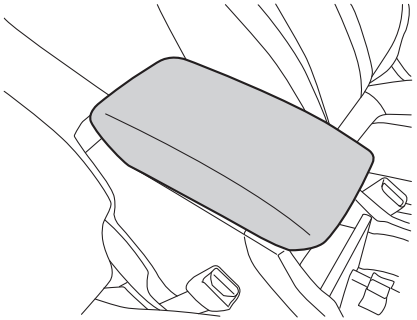
腰部張り出し調整（ランバーサポート）（運転席のみ）

スイッチの前後を押して、背もたれ腰部の張り出し量を調整します。



アームレスト

コンソールボックスと一体式のフロントアームレストです。



⚠ 注 意

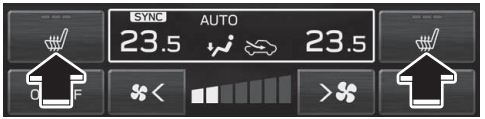
- アームレストの上に乗ったり、重い物をのせたりしない。
  - アームレストの損傷や思わぬけがをするおそれがあります。

シートヒーター

プッシュエンジンスイッチがONのときに使用できます。

シートヒーターの使いかた

エアコン操作バーのスイッチをタップすると、HIGH、MIDDLE、LOW、OFFの順に切り替わります。
作動中にロングタップ（約1秒）するとOFFにできます。



HIGH：
早く温めたいときに使います。温まったらLOWにしてください。
MIDDLE：
保温するときに使います。LOWでは弱いと感じるときに使用してください。
LOW：
保温するときに使います。通常はこの位置で使用してください。

⚠ 注 意

シートヒーターを使用する際は、次のことに注意してください。

- 長時間使い続けない。
  - やけどの原因になることがありますのでお子さま、皮ふの弱い方、身体の不自由な方などは特に注意してください。
- 毛布や座ぶとんなどをのせて使用しない。
- 水やその他の液体をこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取り、十分乾かしてから使用する。
- シートに硬い物や突起のある物をのせない。

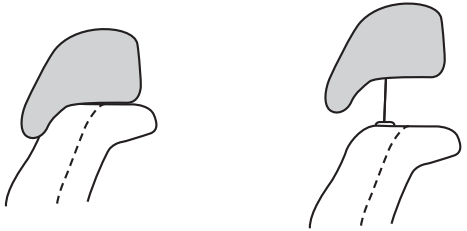
知 識

エンジンがかかっているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。

リヤシート

ヘッドレスト

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。
乗員がいないときは下げておくと後方視界がよくなります。

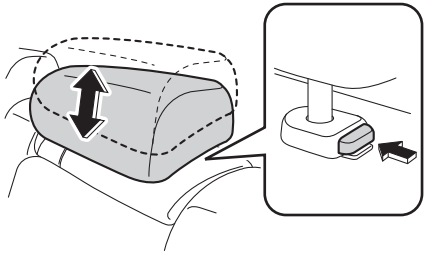


格納位置　　使用位置

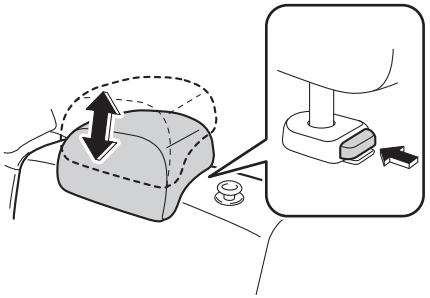
高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。
- 取り付けるときは、ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロックされるまで確実に押し下げてください。

＜中央席用＞



＜左右席用＞



⚠ 警 告

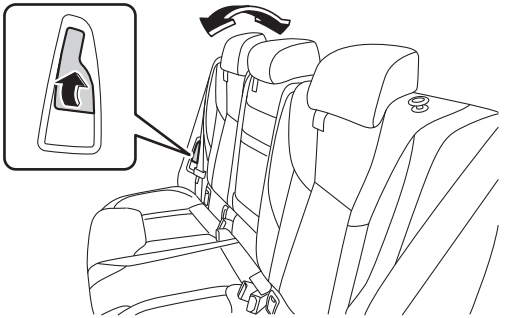
- ヘッドレストは確実に取り付ける。
  - ヘッドレストを外しての走行や、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- ヘッドレストを取り付ける際は、前後の向きを間違えないように注意する。
- 前席ヘッドレストは前席専用、後席ヘッドレストは後席専用。
  - 入れ替えて使用しないでください。また、前席ヘッドレストには、角度調整機能があります。

リクライニング調整（背もたれの角度調整）

レバーを引くと背もたれの角度調整ができます。

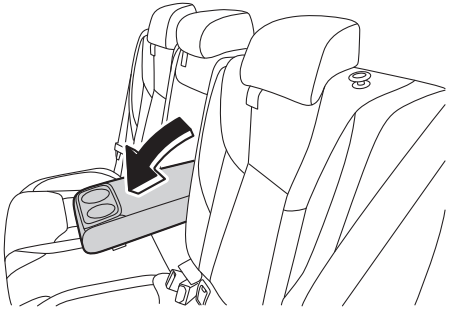


⚠ 注 意

- リクライニング操作後は、背もたれを前後に動かして、確実に固定されていることを確認する。
- 走行中は背もたれを倒さない。
  - 万一のとき、シートベルトが肩から外れ、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- ISOFIX方式のチャイルドシートを装着したときは、リクライニング操作を行わない。
- 後ろにリクライニングするときには、必ずトノカバーのフロントカバーを後ろ側に固定する。
  ☞**P.520**参照

アームレスト

引き出して、ひじかけとして使います。



⚠ 警 告

- シートベルトの着用は、アームレストに引っかけたりしない。
  - 万一の場合、シートベルト本来の機能が発揮できないなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

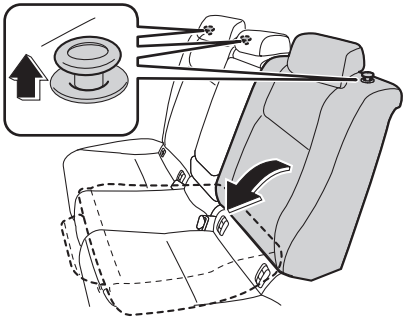
- アームレストの上に乗ったり、重い物をのせたりしない。
  - アームレストの損傷や思わぬけがをするおそれがあります。

4：2：4 分割リヤシートの背もたれを倒し、荷室として使うとき

リヤシートの背もたれを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。
左側席、右側席、中央席それぞれの背もたれを倒すことができます。

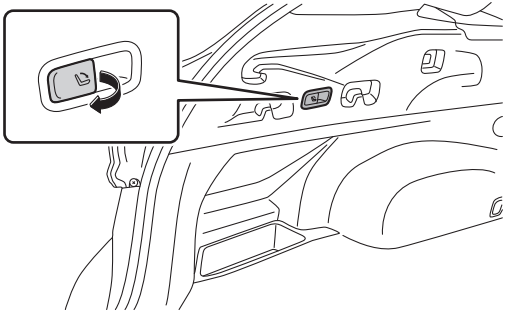
背もたれを倒すとき

背もたれ上部のロックノブを引き上げながら背もたれを倒します。



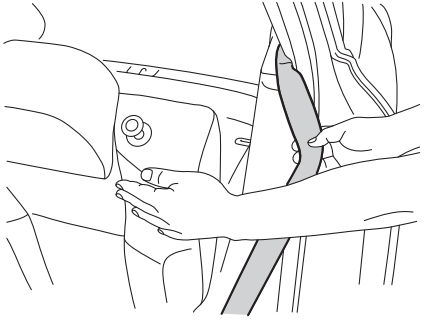
■リヤシート可倒スイッチ

荷室の左右にあるスイッチを引くと背もたれが前に倒れます。右側席の背もたれを倒すと、中央席の背もたれも同時に倒れます。



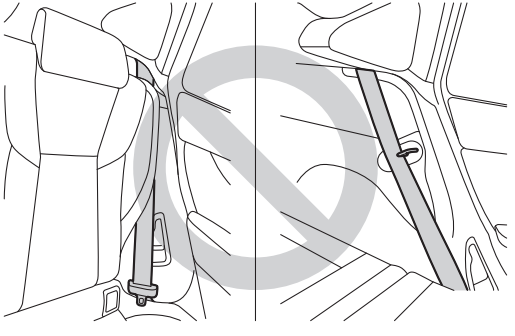
背もたれを元に戻すとき

シートベルトを挟み込まないようにベルトを外側に引き出しながら、反対の手で背もたれを起こし、確実にロックします。



⚠ 警 告

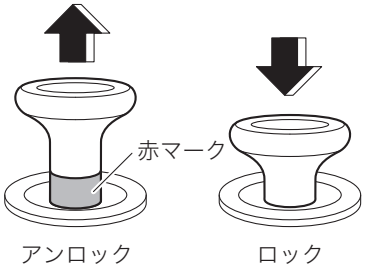
- 背もたれを元に戻すときは、シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックの裏側に回り込んでいないか必ず確認する。
  - シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれの裏側に回り込んでいるとシートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。



- 背もたれを倒して荷室として使用する場合は、人を乗せて走行しない。
  - 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長い物をのせたときは、荷物を固定する。
  - 急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し重大な傷害を受けることがあります。

⚠ 警 告

- 背もたれを元に戻したときは、ロックノブの赤マークが見えないことを確認し、前後に動かして確実に固定されていることを確認する。
  - 固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

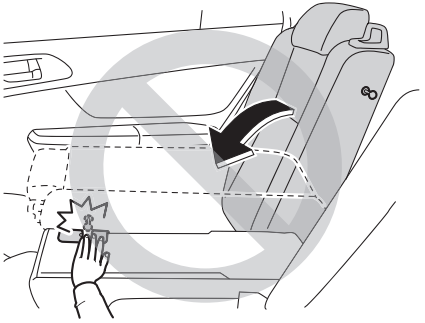


⚠ 注 意

- チャイルドシートを取り付けているときは、背もたれを倒さない。
  - 思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを倒したり起こしたりするときは、手や物を挟み込まないよう十分注意する。
- 必ず背もたれを支えた状態でロックノブを引く。
  - 背もたれはバネの力によって前に倒れます（中央席を除く）。

⚠ 注 意

- 可倒スイッチで背もたれを倒すときは、リヤシートに人がいないこと、物が置いていないことを確認する。
  - 背もたれが急に倒れ思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを倒すときは、中央席のシートベルトを格納し、物が置かれていないことを確認する。
  - 物を置いたまま背もたれを倒すとシートベルト警報のセンサーが誤作動したり、破損したりするおそれがあります。☞P.65参照
- 中央席の背もたれを倒してから隣の席の背もたれを倒すときは、固定装置に手を挟まないように注意する。



- 中央席の背もたれのみを起こすときは十分に注意する。
  - 反発力が強くかかります。
- 走行中、可倒スイッチに荷物などが当たらないよう注意する。
  - 背もたれが倒れる場合があります。

⚠ 注 意

- 背もたれ固定フックに荷物などをかけない。
  ー 背もたれが確実に固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

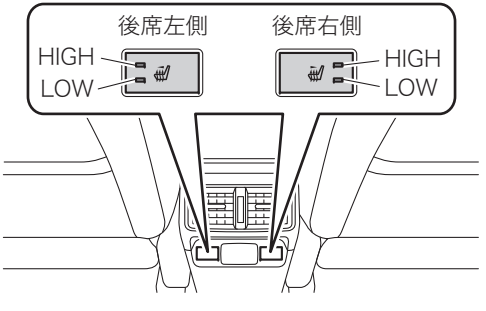
知 識

- 低温時や、坂道などで車両が傾いているときは、ロックノブや可倒スイッチを引いても背もたれが倒れないことがあります。このときは、手で倒してください。
- 中央席の背もたれだけを倒すときは、後席から背もたれを支えながらロックノブを引いて倒してください。

リヤシートヒーター

プッシュエンジンスイッチがONのとき、スイッチを押すとシートが温まります。
後席右側、後席左側ともに、スイッチを押すごとに、HIGH→LOW→OFFの順に切り替わります。
プッシュエンジンスイッチをOFFにすると、リヤシートヒーターもOFFになり、再度プッシュエンジンスイッチをONにしても自動でONにはなりません。

作動中は、スイッチの表示灯が点灯します。
- HIGH：2つ点灯
- LOW：1つ点灯
- OFF：消灯



⚠ 注 意

シートヒーターを使用する際は、次のことに注意してください。
- 長時間使い続けない。

⚠ 注 意

– やけどの原因になることがありますのでお子さま、皮ふの弱い方、身体の不自由な方などは特に注意してください。
- 毛布や座ぶとんなどをのせて使用しない。
- 水やその他の液体をこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取り、十分乾かしてから使用する。
- シートに硬い物や突起のある物をのせない。

知 識

エンジンがかかっているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。

リヤシートリマインダー（後席置き忘れ防止機能）

後席の乗員の存在や荷物の置き忘れを、運転者にお知らせする機能です。
条件のいずれかを満たしたときに、プッシュエンジンスイッチをOFFにすると警告音が鳴り、割り込み画面を表示します。

作動条件

- 後席のドアを開閉してから、30分以内にプッシュエンジンスイッチをONしたとき
- プッシュエンジンスイッチがONの状態で、後席のドアを開閉したとき
- 警告音が鳴り、画面を表示してから、30分以内にプッシュエンジンスイッチをONにしたとき
（この場合は、後席のドアを開閉しなくてもリヤシートリマインダーが作動します。）

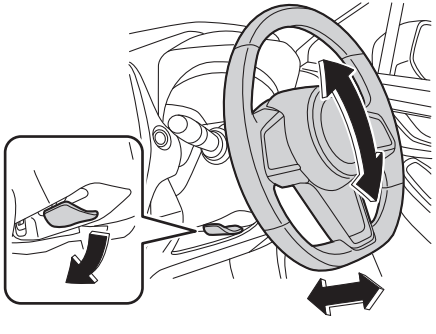
知 識

- リヤシートリマインダーは後席ドアの開閉を検知して、後席の乗員や荷物の置き忘れの可能性をお知らせするものです。乗員や荷物の有無とは関係なく作動する場合があります。
- リヤシートリマインダーの作動はOFFに設定できます。☞P.125参照
- バッテリーを取り外したときは、設定がリセットされます。

ステアリング

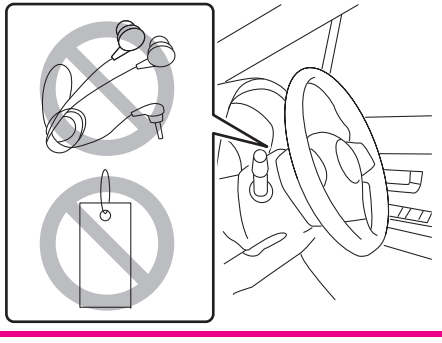
運転姿勢に合わせてハンドル位置を前後または上下に調整できます。

1. チルト／テレスコピックレバーを押し下げます。
2. ハンドル位置を合わせます。
3. チルト／テレスコピックレバーを引き上げます。
4. ハンドルが固定されたことを確認します。



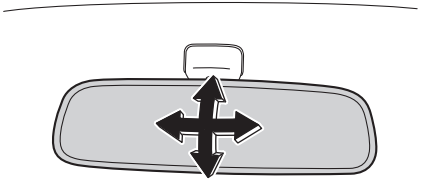
⚠ 警 告

- 調整は必ず走行前に行い、ハンドル位置を調整した後は、確実に固定する。
  - 固定が不十分な場合、ハンドル位置が突然変わり、重大な事故につながるおそれがあります。
  - 走行中に操作すると、ハンドルが動いて危険です。
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ひもやケーブルなどを引っかけたりしない。
  - スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。



ルームミラー

ミラー本体を動かして後方が十分確認できる位置に調整します。

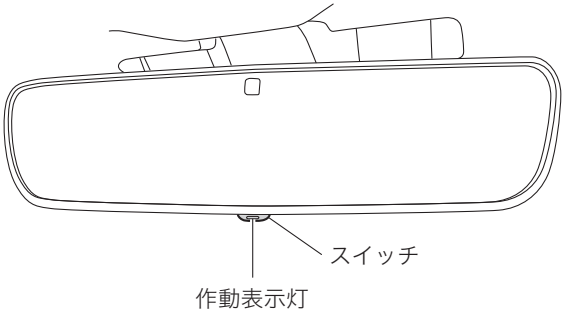


⚠ 警 告

- 各ミラーの調整は必ず走行前に行う。
  - 走行中に行うと思わぬ事故につながるおそれがあります。

自動防眩ルームミラー

後続車のヘッドランプの明るさに応じて鏡面の反射率を自動的に調整します。
作動を停止して通常のミラーとして使いたいときは、スイッチを押します。停止状態のときは作動表示灯が消灯します。



⚠ 注 意

- スプレー式のクリーナーなどを直接かけない。
  - 故障するおそれがあります。鏡面が汚れたときは柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーを染み込ませた布で汚れを落としてからから拭きしてください。

知 識

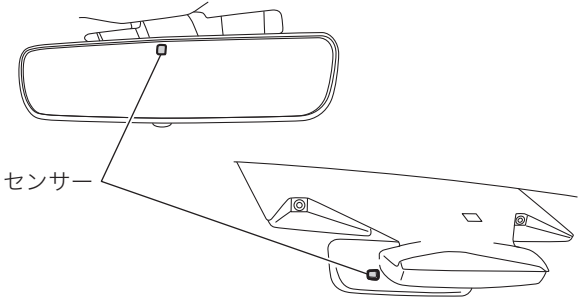
プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度ONにした場合は、OFFにする前の状態に関係なく自動防眩ルームミラーが作動状態になります。

後退時

自動防眩ルームミラーが作動状態で、セレクトレバーを“R”に入れると、自動的に防眩機能がキャンセルされ、視界を確保します。

センサー

自動防眩ルームミラーには前側と後側に明るさを検知するセンサーが取り付けられています。

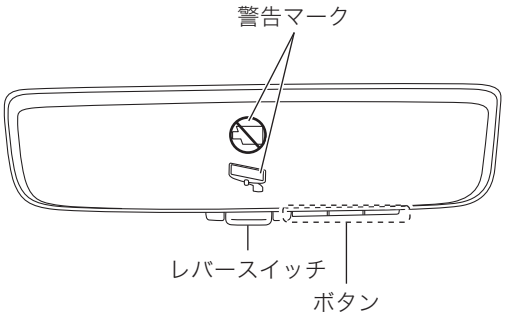


⚠ 注 意

センサー部にステッカー類を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けたりしない。

スマートリヤビューミラー

車両後方の映像をルームミラーの鏡面に映すディスプレイモードと、通常のルームミラーとして使用するミラーモードがあります。ディスプレイモードにすると、夕方や夜間にミラーが見えにくい場合や、乗員、荷物などにより視界が遮られる場合でも車両後方の安全確認ができます。

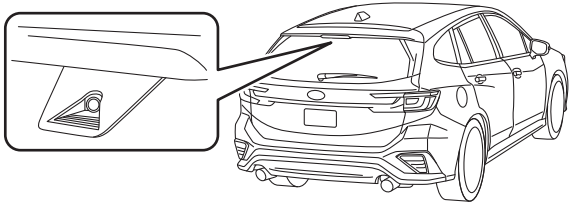


⚠ 警 告

- ディスプレイモード時の映像の距離感覚は、実際の距離とは異なる場合がある。
- ディスプレイモード時に映し出される映像の範囲には限界があるので、直接目視やドアミラーで周囲の安全を確認しながら運転する。
- カメラ、スイッチ、配線類を分解したり改造したりしない。

⚠ 警 告

– 万一煙が出たり異臭がしたりした場合には、SUBARU販売店で点検を受けてください。そのまま使用すると、事故、火災、感電の原因となります。



⚠ 注 意

- ミラーやカメラは精密機器のため、強い衝撃は与えない。
  – 故障や火災、感電の原因となります。
- カメラや配線類に火気を近づけない。
  – 故障や火災の原因となります。
- カメラに無理な力を加えない。
  – 故障の原因となります。また、カメラが外れるおそれがあります。
- エンジン停止中に長時間使用しない。
  – バッテリー上がりの原因となります。
- ディスプレイモード中に警告マークを表示したときは、すぐにミラーモードにする。

⚠ 注 意

– レバースイッチを押してもミラーモードにならないときは、左側、中央、右側のいずれかのボタンを10秒間押し続けると、ミラーモードにすることができます。
– しばらくたっても警告マークが消えない場合は、SUBARU販売店で点検を受けてください。

- ディスプレイモードに切り替わらないときは、ミラーモードで走行し、SUBARU販売店で点検を受ける。
  – ミラー本体が故障しているおそれがあります。
- ミラーモードとディスプレイモードでは、後方の見え方が異なります。
- 走行前にミラーモードにして、後方が十分確認できる位置に調整する。
  – ディスプレイモードで調整すると、反射したり、車内が映り込んだりして見えにくくなる場合があります。
- ミラーを90度以上回転させない。
  – 配線が切れるおそれがあります。
- 走行中に操作をしたり、ディスプレイモード時にミラーを凝視したりしない。
  – 思わぬ事故につながるおそれがあります。また、同乗者がミラーを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。
- カメラ前面のリヤガラスにステッカーやフィルムを貼らない。
- レバースイッチやボタンを強く操作しない。
  – 破損の原因となります。また、ミラーが落下するおそれがあります。

⚠ 注 意

- ミラーやカメラにスプレー式のクリーナーなどを直接かけない。
  - ミラーが故障するおそれがあります。鏡面が汚れたときは柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーをいったん布に付けてから汚れを落とし、その後洗剤を拭き取ってください。

知 識

- カメラはリヤゲート上部の室内側に搭載されています。カメラ前面のリヤガラスは常にきれいな状態に保ってください。油膜などが付着しているときは、取り除いてください。
- ディスプレイモード時にカメラに強い光が入ると、光源を中心に白い光の縦線が入る場合がありますが、故障ではありません。必要に応じてミラーモードにしてください。
- ディスプレイモード時に蛍光灯やLEDなどの照明の下で、画面にちらつきが出ることがありますが、故障ではありません。
- ディスプレイモード時の映像は実際の色合いとは多少異なることがあります。特に遠くにあるものや周囲が暗いときなどは、実際の色と異なる場合がありますが、故障ではありません。
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしたときは、OFFにする前のモードが保持されます。
- ディスプレイモード時にミラーが高温になることがありますが、故障ではありません。
- 無線機などのアンテナをルームミラー付近に取り付けると、ディスプレイモード時に映像が乱れることがあります。

知 識

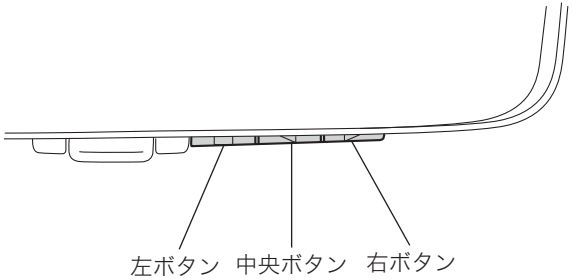
- ディスプレイモード時には、素早く動くものが映らない場合がありますが、故障ではありません。
- 雨天時はリヤワイパーを使用してください。ガラスに拭き残しができるときにはブレードラバーを交換してください。
  ☞P.732参照
- ディスプレイモード時にリヤワイパーを使用すると、映像がちらつくように見えることがありますが、故障ではありません。
- 周囲の光の乱反射などにより、映像がちらつくことがありますが、故障ではありません。
- カメラ前面のリヤガラスが曇ったときは、リヤウインドウデフォッガーを使用してください。曇りがとれるまでは、ミラーモードで使用してください。
  ☞P.511参照
- 周囲の光の反射などで見えにくいときは、ミラーモードで使用してください。
- ディスプレイモード時に焦点が合いにくいなど、映像がはっきり視認できないときは、ミラーモードで使用してください。
- 夕方やトンネルの走行時、立体駐車場などでヘッドランプが点灯するとミラーとカメラが夜間モードになり、まぶしさを防ぎます。

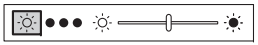
ディスプレイモード

鏡面にカメラ映像を映して使用するモードです。
プッシュエンジンスイッチがONのときにレバースイッチを手前に引いていると使用できます。

■スマートリヤビューミラー設定

映像の輝度と位置を調整することができます。いずれかのボタンを押すと設定項目が表示され、左ボタンを押すたびに設定項目が切り替わります。中央ボタン、右側ボタンで各項目の調整ができます。



項目	表示	設定	設定の内容
輝度調整		1～5	映像の輝度調整

項目	表示	設定	設定の内容
上下調整		−5°～0～5°	映像の上下調整
左右調整		−2°～0～2°	映像の左右調整
回転調整		−3°～0～3°	映像の回転調整

⚠ 注 意

- 設定を行う前に、ミラーモードで後方が十分確認できる位置に調整する。
- 輝度を高く設定すると、運転中に目が疲れる場合がある。

知 識

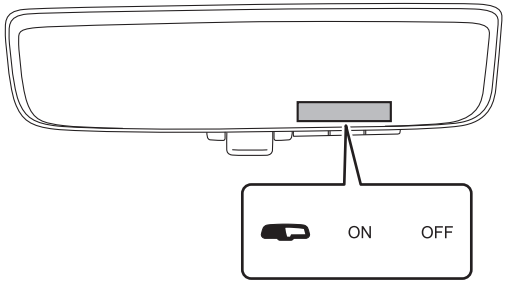
5秒間スイッチを操作せずにいると、設定項目の表示が消えます。

ミラーモード

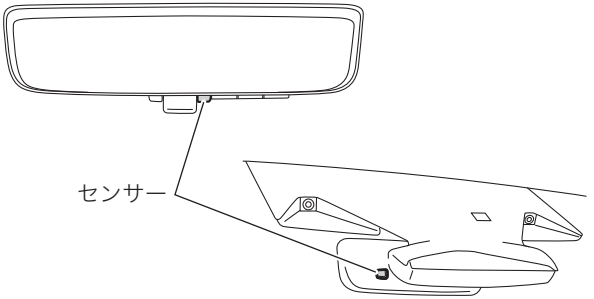
通常のルームミラーとして使用するモードです。
プッシュエンジンスイッチの状態に関係なく使用できます。
ディスプレイモードからミラーモードに切り替えるには、レバースイッチを押します。

■自動防眩機能

プッシュエンジンスイッチがONのとき、後続車のヘッドランプの明るさに応じて鏡面の反射率を自動的に調整し、まぶしさを低減します。
ミラーモードのときに左側、中央、右側のいずれかのボタンを押すと、自動防眩機能のON／OFFの変更ができます。
ON／OFFを切り替えると、鏡面に設定状態が5秒間表示されます。



前側と後側に明るさを検知するセンサーが取り付けられています。



⚠ 注 意

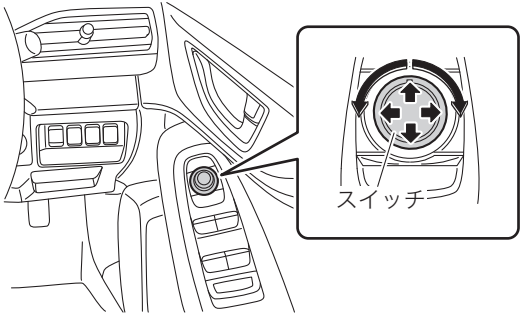
センサー部にステッカー類を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けたりしない。

ドアミラー

電動リモコンドアミラー

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき、ドアミラーの鏡面位置を調整できます。

1. スイッチをL側（助手席側）またはR側（運転席側）に回します。
2. スイッチを上下左右に動かして調整します。



⚠ 注 意

調整は必ず走行前に行ってください。

知 識

- ドライバーポジションメモリー装備車は、ドアミラーの鏡面位置を登録し呼び出すことができます。
☞P.225、446参照

知 識

- ドライバーポジションメモリー装備車は、解錠後やプッシュエンジンスイッチをOFFにした後も、しばらくの間は調整することができます。

リバース連動チルトダウンドアミラー

セレクトレバーを“R”にすると、助手席側鏡面が、車両側面下側付近を見やすくなるように自動で動きます。
チルトダウン状態のときに電動リモコンドアミラースイッチを操作して、鏡面位置を調整することができます。
☞P.221参照
ドライバーモニタリングシステムのユーザー情報連動機能またはドライバーポジションメモリーで、調整後の位置を登録することができます。
☞P.225、446参照
セレクトレバーを“R”以外にすると一定時間経過後、元の位置に戻ります。

知 識

- 車庫入れなどで、セレクトレバー “R”と“D”の切り替えを素早く繰り返した場合は、チルトダウンを継続します。
- 調整後の位置を登録している場合、セレクトレバーを“R”にすると登録した位置でチルトダウンしますが、設定の呼び出し後にシートの前後位置を大きく動かした場合は初期設定の位置に戻ります。
- チルトダウン時に、セレクトレバーを“D”にして一定速度を超えると、元の位置に戻ります。

知 識

- SUBARU販売店でリバース連動チルトダウンドアミラーで作動するミラーを両側に変更することができます。
- リバース連動チルトダウンドアミラーの作動をOFFに設定できます。
☞**P.125**参照

鏡面位置を調整したとき

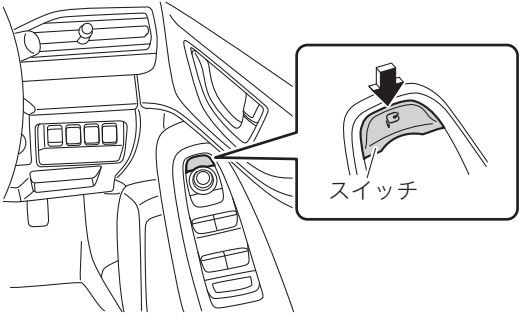
プッシュエンジンスイッチをOFFにするまで、調整した位置で作動します。プッシュエンジンスイッチをOFFにした後は、初期設定の位置、またはドライバーモニタリングシステムやドライバーポジションメモリーで呼び出した位置で作動します。

知 識

- リバース連動ラスト位置保持機能をONにすると、ドライバーモニタリングシステムやドライバーポジションメモリーの登録位置を呼び出している場合を除き、プッシュエンジンスイッチをOFFにした後も調整した位置を記憶します。
- SUBARU販売店でリバース連動ラスト位置保持機能をONに設定することができます。

電動格納式ドアミラー

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき、左右のドアミラーを同時に格納できます。
スイッチを押し込むと格納します。
もう一度押すと通常の使用位置に復帰します。



知 識

- ドライバーポジションメモリー装備車は、解錠後やプッシュエンジンスイッチをOFFにした後も、しばらくの間は格納・展開できます。
- 手動で格納または復帰操作をした後にプッシュエンジンスイッチをOFFからACCまたはONにした場合、格納スイッチの状態によってはドアミラーが動き出すことがあります。
- 手動で格納した場合は、スイッチ操作をするとモーター作動音だけが鳴り、ドアミラーが作動しないことがあります。その場合はもう一度格納スイッチを操作してください。

知 識

- 手動でドアミラーを通常位置より前方に倒した場合、格納スイッチの状態によってはプッシュエンジンスイッチをOFFからACCまたはONにしたときに、ドアミラーがさらに前方に倒れることがあります。そのときは、格納スイッチを押して格納→復帰の操作を行ってください。
- 格納状態から手動で通常位置に戻すとドアミラーがグラグラすることがあります。通常位置に戻すときは必ずスイッチを使用してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてからスイッチ操作で復帰させてください。
- 寒冷時は、作動の途中で止まることがあります。その場合はもう一度格納スイッチを押してください。スイッチを操作しても動かないときは、ドアミラーを手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して押して「格納⇔復帰」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。

キー連動格納ドアミラー

スイッチを展開位置にしておくと、ドアの施錠・解錠に連動してドアミラーが自動で格納・展開します。

知 識

キー連動格納ドアミラーの作動をOFFに設定できます。
☞P.125参照

■自動格納

プッシュエンジンスイッチをOFFにし、ドアを施錠するとドアミラーが自動で格納します。

■自動展開

ドアを解錠するとドアミラーが自動で展開します。

知 識

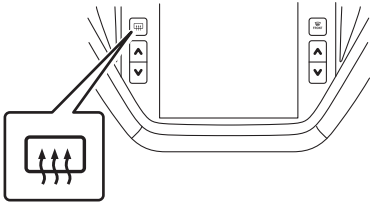
SUBARU販売店で、キー連動格納ドアミラーの展開タイミングをプッシュエンジンスイッチをACCまたはONにしたときに設定できます。

ヒーテッドドアミラー

ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使います。

ヒーテッドドアミラーの使いかた

プッシュエンジンスイッチがONのときにスイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し作動します。約15分後、自動的にOFFになります。
作動中に停止させるときは、スイッチをもう一度押します。



知 識

- 消費電力が大きいのでエンジンをかけて使用してください。
- 次の機能と連動します。
  - リヤウインドウデフォッガー
    ☞**P.511**参照
  - フロントワイパーデアイサー
    ☞**P.282**参照

知 識

- リヤウインドウデフォッガーに連動して、連続作動に設定できます。
  - 連続作動に設定を変更した場合は、15分間作動、2分間停止を繰り返します。ただし、2分間の作動停止中も表示灯は点灯しています。
    ☞**P.125**参照
- 霜や曇りが取れたら停止させてください。
  - エンジン作動中でも、連続作動を続けるとバッテリー上がりの原因になります。
  - 雪を溶かすような使いかたはしないでください。
- バッテリー電圧が低下すると、作動を停止します。

ドライバーポジションメモリー

シート位置、ドアミラーの鏡面位置を運転席ドア内側にある「1」または「2」のボタンおよびアクセスキーごとに登録し、呼び出すことができます。
次の設定が登録できます。

- シートの前後位置
- 背もたれの角度
- シートの高さ
- 座面前側の高さ
- ドアミラーの鏡面位置
- リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置

知 識

ユーザー情報に連動して呼び出したい場合は、ユーザー登録またはドライバーポジション再登録を行ってください。
☞P.453、459参照

登録のしかた

運転席ドアを閉め、シート位置とドアミラーの鏡面位置を調整してから、次のいずれかの方法で登録します。

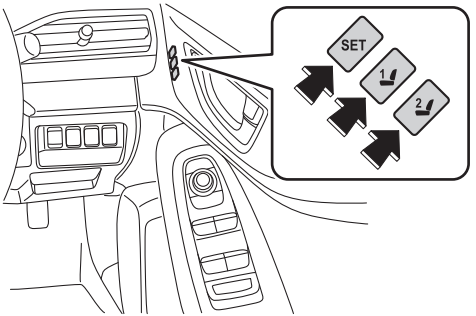
知 識

- リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置も合わせて登録する場合は、登録の前にセレクトレバーを“R”にして鏡面位置を調整し、“P”に戻してから行ってください。
☞P.221参照
- 一度登録した位置を変更したいときは、同じ手順で上書きすることができます。

ボタンごとに登録するとき

プッシュエンジンスイッチがONでセレクトレバーが“P”のとき登録できます。

1. 「SET」ボタンを押し、すぐに「1」または「2」のボタンを押します。
2. ブザー（ピッ）が鳴り、シート位置とドアミラーの鏡面位置が登録されます。



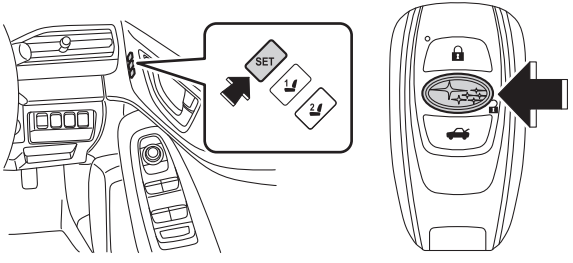
知 識

リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置をセレクトレバーを“R”にしたまま登録することもできます。必ずブレーキペダルを踏んだまま操作してください。

アクセスキーごとに登録するとき

プッシュエンジンスイッチがOFFでセレクトレバーが“P”のとき登録できます。

1. 「SET」ボタンを押しながらアクセスキーの解錠ボタンを押します。



2. 解錠のブザーとともにブザー（ピッ）が鳴り、シート位置とドアミラーの鏡面位置が登録されます。

知 識

- シート位置を登録するときは登録させたいアクセスキーのみ携帯してください。アクセスキーを2つ以上携帯していると正確に登録できない場合があります。
- リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置も合わせて登録する場合、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから時間を空けず登録を行ってください。

呼び出しかた

セレクトレバーが“P”のとき操作できます。

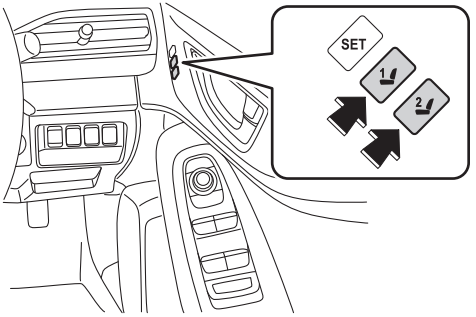
知 識

- 複数の呼び出しを同時に行うと、シート位置の呼び出しができないことがあります。
- 呼び出しを変更したい場合は、中止の操作をするか、動作が停止してから呼び出しを行ってください。
☞P.227参照

ボタンで呼び出すとき

運転席ドアを開けてから45秒以内に、またはプッシュエンジンスイッチがONのとき操作できます。

1. 「1」または「2」のボタンを押します。
2. ブザー（ピッ）が鳴り、シートとドアミラー鏡面が登録位置まで動きます。



知 識

登録された位置と、現在の位置が同じときは、ブザーが2回鳴ります。

アクセスキーで呼び出すとき

1. 登録済のアクセスキーを携帯します。
2. ドアが施錠された状態で、アクセスキーの解錠ボタンを押す、または運転席ドアのドアハンドルを握って解錠します。
3. 運転席ドアを開けるとブザー（ピッ）が鳴り、シートとドアミラー鏡面が登録位置まで動きます。

知 識

- 登録されているアクセスキーのみ、携帯してください。アクセスキーを2つ以上携帯している場合、呼び出されないことがあります。
- キーレスアクセス作動エリアに入った後、45秒経過してからドアを解錠した場合、呼び出しができないことがあります。
☞P.157参照

呼び出し中止のしかた

次のいずれかを操作すると、呼び出し動作を中止します。

- パワーシート調整スイッチ
- 「SET」ボタン
- 「1」または「2」のボタン
- 電動リモコンドアミラー操作スイッチ

⚠ 注 意

呼び出し中に異音などの異常を感じたときは、中止の操作をしてください。

消去のしかた

ボタンに登録したとき

上書き登録をします。

アクセスキーに登録したとき

プッシュエンジンスイッチがOFFのとき、運転席のドアを確実に閉め、次の操作を行います。

1. 「SET」ボタンを押しながらアクセスキーの施錠ボタンを押します。
2. ブザー（ピー）が鳴り、消去されます。

⚠ 警 告

- シート位置、ドアミラーの鏡面位置の登録、呼び出しおよび消去は、運転前に行う。
- 正しいシート位置で運転する。

⚠ 警 告

– シート位置が適切でない場合、運転に支障をきたしたり、シートベルトの効果が低下したりして、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合、死亡につながる事故が発生するおそれがあります。

⚠ 注 意

- シート位置を呼び出す場合は、乗員や荷物に注意する。
  – 手足を挟まれたり、荷物を損傷することがあります。
- アクセスキーで呼び出した場合は、シートが登録位置まで動いてから運転席に座る。

知 識

- バッテリーを交換した場合でも、登録したシート位置は消去しませんが、呼び出し位置にずれが生じることがあります。
- 使用し続けているうちに、呼び出し位置にずれが生じることがあります。
- 登録したシートの各調整位置が調整できる終点にあるとき、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。
- プッシュエンジンスイッチがOFFでシートやドアミラーの鏡面位置を調整した後、1分以内にバッテリーを外すと、シートの呼び出し位置にずれが生じることがあります。

運転前の点検

日常点検

運転の前に点検を行い、車両に異常がないことを確認してください。
☞P.714参照

雪や霜の除去

足まわりの点検

お車の下をのぞいて足まわり（ブレーキまわり、ブレーキホース、配線）に雪や氷のかたまりが付着していないか点検してください。
雪や氷が付着している場合は足まわりの部品に注意して取り除いてください。

⚠ 注 意

- 雪や氷を取り除く場合は鋭利なものや硬いもので叩いたりしない。
  - 各タイヤの内側にはABSの車輪速センサーを取り付けてあります。これらに傷をつけないように特に気をつけてください。

ブレーキの点検

ブレーキシステムに雪や氷が付着したまま凍結するとブレーキの効きが悪くなることがあります。
走行前に付着している雪や氷を取り除いてください。
走行を開始するとき、お車や道路の状況に十分注意してブレーキの効きを確認してください。効きが悪い場合には、回復するまで走行中にブレーキペダルを軽く踏み続けてください。
繰り返しペダルを踏み続けても、ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

ハンドルの点検

走行中、足まわりに雪が付着するとハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどきお車を止め、足まわりを確認し、雪を取り除いてください。

ランプ類の点検

ヘッドランプが汚れていたり雪が積もっていたりすると、正常に照らせません。
また、ウインカーやブレーキランプなどが汚れていると、自車の状況を周囲に知らせることができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。走行前にランプ類がきれいか確認してください。
雪や霜、氷が付着している場合は取り除いてください。

ルーフの雪の除去

走行する前にルーフに積もった雪を取り除いてください。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。

フロントガラス下側の雪の除去

雪がたまっているとワイパーブレードが定位置まで戻れず、作動し続けることがあります。作動し続けるとワイパーが損傷する場合がありますので、雪を除去してワイパーを使用してください。

ガラス面の雪や霜の除去

プラスチックの板などを使用し、雪や霜を取り除いてください。

ドア・リヤゲートを開けるときには

ドアやリヤゲートが凍結しているときに無理に開けると、ゴムがはがれたり、亀裂が発生することがあります。氷を溶かしてから開けてください。その後、すぐに水分を十分拭き取ってください。

知 識

ドアの鍵穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、電動リモコンドアミラー、パワーウインドウなどが凍って動かない場合はスイッチを押し続けないでください。装置を傷めたり、バッテリー上がりの原因となったりするおそれがあります。

ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、フロントはデフロスターまたはフロントワイパーデアイサー、リヤはリヤウインドウデフォッガーを使用してガラスを温めてください。無理にワイパーを作動させるとブレードラバーが切れることがあります。

☞P.282、511、511参照

4. 運転するとき

エンジンの始動と停止

エンジンをかける前に ····· 232
エンジンの始動 ····· 234
エンジンの停止 ····· 237
警告音および警告表示 ····· 237

運転のしかた

操作方法 ····· 239
ブレーキ ····· 245
パーキングブレーキ ····· 249
ウインカー（方向指示器）····· 253
ホーン ····· 253
AVH（オートビークルホールド）····· 254
アイドリングストップ ····· 256
マニュアルモード ····· 260
SI-DRIVE（SUBARU Intelligent Drive）····· 262
ドライブモードセレクト ····· 264
VDC（ビークルダイナミクスコントロールシステム）···· 266

ランプ類・ワイパーの使いかた

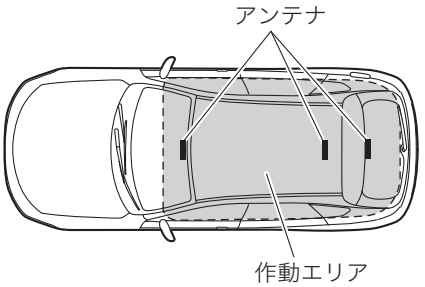
ランプ類 ····· 269
オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）····· 275
画面やスイッチ類の明るさ調整 ····· 276
ワイパー &ウォッシャー ····· 277
フロントワイパーデアイサー ····· 282

エンジンの始動と停止

エンジンをかける前に

エンジン始動の作動エリア

図の作動エリア内にアクセスキーがあるときにエンジンをかけることができます。



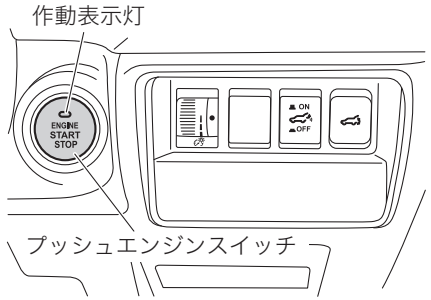
知 識

- 車外にアクセスキーがある場合でも、ガラス周辺に近づき過ぎたときはエンジンを始動できることがあります。
- アクセスキーを次の場所に置かないでください。正常に作動しなかったり、キーを車内に閉じ込んでしまったりするおそれがあります。
  - インストルメントパネル上
  - フロア上
  - グローブボックス内
  - ドアトリムのポケット内
  - リヤシート上
  - カーゴルーム内
- アクセスキーの電池が切れたときは、アクセスキーが作動しないときの操作を行ってください。その後すみやかに電池を交換するか、SUBARU販売店にご相談ください。
  ☞P.737、767参照

プッシュエンジンスイッチの切り替えかた

エンジンをかけずに切り替えたいときは、アクセスキーを携帯し、ブレーキを踏まずにプッシュエンジンスイッチを押します。スイッチを押すごとにOFF→ACC→ON→OFFの順に切り替わります。

スイッチの状態	作動表示灯	使用できる電装品
OFF	消灯	ハザードランプが使用できる
ACC	橙色	オーディオや電源ソケットなどが使用できる
ON	橙色(エンジン停止)	すべての電装品が使用できる
	消灯（エンジン回転中）	



知 識

- セレクトレバーを“P”にしていることを確認して操作してください。
  - セレクトレバーが“P”以外でプッシュエンジンスイッチをON以外にした場合はブザーが鳴ります。

ステアリングロックの解除

プッシュエンジンスイッチを押したとき、スイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅している場合は、ステアリングロックが解除されていません。
解除するには、ハンドルを左右に動かしながらプッシュエンジンスイッチを押します。

知 識

バッテリーが上がるとステアリングロックが解除できません。

ステアリングロックの初期化

バッテリー上がりおよびバッテリー交換後はステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動できない場合があります。

1. セレクトレバーを“P”にします。
2. プッシュエンジンスイッチをOFFにして運転席ドアを開→閉し、約10秒間保持します。
   システムが初期化され、ステアリングがロックします。

バッテリー上がり防止機能

セレクトレバーが“P”のとき、ACCにしたまま約20分、またはONにしたまま約30分放置するとバッテリー上がり防止のため自動的にプッシュエンジンスイッチがOFFになります。

⚠ 注 意

- プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのまま長時間放置しない。
  - セレクトレバーが“P”以外ではプッシュエンジンスイッチをOFFにすることはできません。
- バッテリー上がり防止機能に頼った使いかたをしない。
  - バッテリー上がりを完全に防ぐ機能ではありません。
  - バッテリー上がりの原因となります。

エンジンの始動

⚠ 警 告

始動する際は、次のことを必ずお守りください。守らないと思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあります。

- 走行中にエンジンを止めない。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンを始動したままにしない。
  - 車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 始動操作をしたときに、プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅している場合は、けん引等も含め絶対に車両の移動はしない。
  - ステアリングロックが解除されていない状態のため、ハンドル操作ができず思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

次の場合は車両の異常が考えられます。直ちにSUBARU販売店にご相談ください。

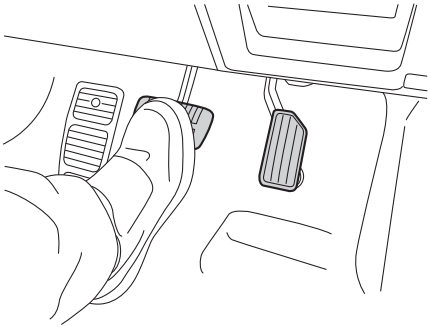
- プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が橙色に点滅している。

1. アクセスキーを携帯し運転席に座ります。
2. 正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、シートやハンドルの位置を調整してください。

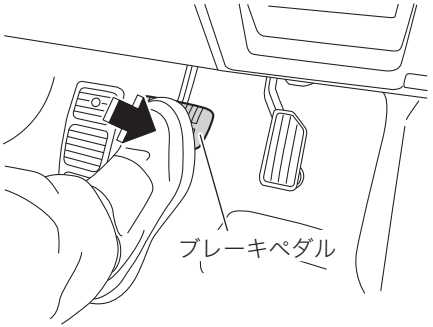
☞P.200参照

⚠ 注 意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、位置を確認する。



3. 電動パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
4. セレクトレバーが“P”であることを確認します（“N”でも始動できますが、安全のため“P”で始動してください）。
5. プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色になるまで、ブレーキペダルを踏み込みます（“N”で始動する場合、作動表示灯は緑色になりません）。



6. ブレーキペダルを確実に踏んだまま、プッシュエンジンスイッチを押します。

   エンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

⚠ 注 意

- 10秒以上プッシュエンジンスイッチを操作し続けない。
  – スターターが回り続けるため、故障の原因になります。

知 識

- プッシュエンジンスイッチをONにした後、スターターが回っている間にセレクトレバーを操作しないでください。
- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。

知 識

- 停車時にアクセルペダルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。
- 始動後、水温計の値が中央付近になるまでの間は、アイドリング回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計が動かない程度の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンが始動しにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際は、電装品をOFFにした方が、容易に始動します。
- セキュリティ表示灯が点灯してエンジンが始動しない場合は、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから再度始動操作を行ってください。
  - この操作でもエンジンが始動しない場合、車両の異常が考えられます。直ちにSUBARU販売店にご連絡ください。
- バッテリー交換などでバッテリー端子を再接続した直後は、エンジンが始動しないことがあります。その場合はプッシュエンジンスイッチをONにし、10秒以上経過してから始動してください。始動直後はアイドリングが不安定になることがありますが、異常ではありません。
- 周辺の電波状況によりエンジン始動ができないことがあります。そのときは、アクセスキーが作動しないときの操作を行ってください。
  ☞**P.767**参照

知 識

- エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルから足を離し、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。10秒放置してからもう一度ブレーキペダルを強く踏みながらプッシュエンジンスイッチを押してください。
- 通常の手順でエンジンが始動しない場合、次の方法で始動できることがありますが、緊急時以外はこの方法でエンジンを始動しないでください。
  - セレクトレバーを“P”にします。プッシュエンジンスイッチをACCにしてブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを約15秒以上押し続けます。
- エンジンが始動しない場合は、すみやかにSUBARU販売店にご連絡ください。
- エンジンがかかっていないときは、ブレーキペダルが硬く感じることがあります。
- ブレーキペダルを踏みながらプッシュエンジンスイッチを押すと最大10秒間スターターが回ります。エンジンが始動するとスターターは止まります。
- エンジンの始動時に警告灯が点灯する場合があります。
  点灯した場合は、走行前に一旦プッシュエンジンスイッチをOFFにして、10秒程度経過してからエンジンを再始動してください。
- 再始動後は、警告灯が消灯したことを確認し、車からいつもと違うにおいや音、振動がないかを確認してください。
- 走行前に警告灯・表示灯などに異常がないことを確認してください。
  ☞**P.137**参照

エンジンの停止

車両を完全に停止させてセレクトレバーを“P”にし、エンジン回転数がアイドリング状態まで下がってから、プッシュエンジンスイッチを押します。このときエンジンが停止し、プッシュエンジンスイッチがOFFになります。

⚠ 警 告

- 走行中はプッシュエンジンスイッチにさわらない。
  - 走行中にエンジンが停止すると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ブレーキペダルを踏むときに通常より強い力が必要となったり、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にエンジンが停止した場合、安全な場所で車両が停止するまでプッシュエンジンスイッチを操作したり、ドアを開けたりしない。
  - ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停止させた後、直ちにSUBARU販売店にご連絡ください。

⚠ 注 意

- エンジンを停止するときは必ずセレクトレバーを“P”にする。
  - “P”以外でエンジンを停止すると電源がACCになり、そのまま放置するとバッテリー上がりの原因となります。

知 識

走行中、プッシュエンジンスイッチを約3秒以上押し続ける、または素早く3回以上連続で押すと、エンジンを停止させることができます。緊急時以外は走行中にエンジンを停止させないでください。

警告音および警告表示

キーレスアクセス&プッシュスタートでは誤操作や盗難を防止するため、異常などを検知すると警告音が鳴り、割り込み画面を表示します。

☞P.119参照

この場合は適切な処置を行ってください。

警告一覧表

室内ブザー警報	室外ブザー警報	プッシュエンジンスイッチ内作動表示灯	状況	対処方法
ポーン	—	—	キーなし警告 車内にアクセスキーがない状態でプッシュエンジンスイッチを押した。	アクセスキーを携帯してプッシュエンジンスイッチを押してください。
ポーン	—	—	キーバッテリー残量警告 プッシュエンジンスイッチを OFF にした。	アクセスキーの電池残量が低下しているので、電池を交換してください。
ポーン	—	緑点滅 （最長15秒間）	ステアリングロック未解除 エンジン始動操作をしたが、ハンドルのロックが解除されていない。	ハンドルを軽く左右に回しながら、ブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。
ポーン	—	橙点滅	キーレスアクセス&プッシュスタート異常警告 電源システムやステアリングロックの異常が検出された。	直ちにSUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
ポーン	—	橙点滅	車速信号異常警告※ プッシュエンジンスイッチを OFF にしたときに車速信号の異常が検出された。	直ちにSUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
ポーン	—	橙点灯	通信ライン故障警告 プッシュエンジンスイッチまたは通信ラインが故障した。	直ちにSUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。

※ 車速信号異常警告は、キーレスアクセス&プッシュスタート異常警告として表示されます。

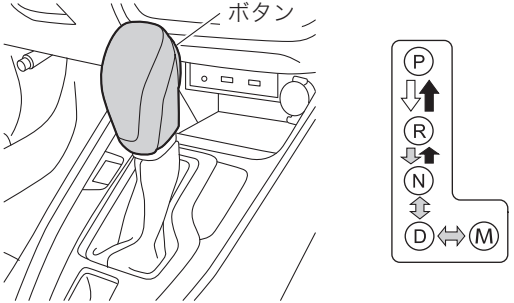
運転のしかた

操作方法

セレクトレバーの操作

P	**パーキング** 駐車およびエンジン始動位置	駐車するときは必ず電動パーキングブレーキをかけて “P” にしてください。
R	**リバース** 後退位置	ブザーが鳴り、運転者に “R” であることを知らせます。 外の人に音は聞こえませんので注意してください。
N	**ニュートラル** 中立位置	
D	**ドライブ** 通常走行位置	車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて自動的に変速します。
M	**マニュアル** マニュアルモード走行位置	手動で変速するときに使用します。 ☞P.260参照

レバーは各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。



⇩	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。
⇧	ボタンを押して操作します。
⇩ ⇧	ボタンを押さずに操作します。

⚠ 警 告

- 発進時、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作を絶対にしない。
  - 急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

セレクトレバーを操作する際は、次のことをお守りください。

- 車が完全に止まってから“P”、“R”に入れる。
  - トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- “P”以外でエンジンを止めない。
  - “P”以外ではプッシュエンジンスイッチがOFFになりません。
- 後退した後は、すぐに“R”から戻す習慣をつける。
- 切り返しのとき、“D”→“R”、“R”→“D”と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車を完全に止めてから行う。
- セレクトレバー周辺に物を置かない。
  - 誤操作の原因となります。
- “P”でエンジンを始動する。
  - “N”でも始動はできますが、安全のため“P”でかけてください。
- 走行中にAT油温警告灯が点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、セレクトレバーを“P”にしてエンジンをかけたままにする。
  - 冷却され警告灯が消灯すれば走行できます。
  - 警告灯が消灯しないときは、直ちにSUBARU販売店にご連絡ください。

⚠ 注 意

- AT油温警告灯が点滅したときは、直ちにSUBARU販売店で点検を受ける。

知 識

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置に節度をつけ、確実に行ってください。
- “P”のとき、先にセレクトレバーを手前に引いてブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- プッシュエンジンスイッチがOFFまたはACCのときは、ブレーキペダルを踏んでもレバーを“P”から他の位置に切り替えられません。
- プッシュエンジンスイッチがONで操作できないときは、シフトロックシステムなどの異常が考えられます。直ちにSUBARU販売店にご連絡ください。
  - 一時的にセレクトレバーを動かしたいときは、シフトロックを解除することもできます。

☞**P.763**参照

発進

1. ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

⚠ 警 告

- 発進時は、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作を絶対にしない。
  - 急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

2. セレクトレバーを“D”（前進）または“R”（後退）に入れます。
3. セレクトレバーの位置を確認します。
4. 電動パーキングブレーキを解除します。
5. 右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。

⚠ 注 意

- 後退するときには車の後方に人がいないこと、障害物がないことを確認する。
  - 車内でブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、または停車時にハンドルを操作するときは確実にブレーキペダルを踏む。
  - これらの状況下ではアイドリング回転が高くなり、クリープ現象が強くなります。

知 識

アクセルペダルを踏むと電動パーキングブレーキが自動解除されるアクセル自動解除機能があります。

走行

“D”で走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

⚠ 警 告

- 走行中はセレクトレバーを“N”にしない。
  - エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

強く加速する

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します（キックダウン）。
☞P.42参照

知 識

- セレクトレバーが“D”のとき、アクセルペダルを深く踏み込むと無段変速からAT車のような制御に切り替わります。
- 強く加速したときや急発進など、急なアクセル操作時にはまれにエンジンからノッキング音が聞こえることがありますが、一時的なものであり、異常ではありません。
- 低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています（暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります）。
- 急な上り坂の連続運転など、継続的に負荷のかかる走行を行った場合、車両の冷却性能を維持するためエンジン回転数または車速が自動的に低下することがあります。
  負荷が低下し、冷却性能を維持できる状態に戻るとエンジン回転数または車速は元に戻ります。

上り坂を走行する

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。
また、セレクトレバーを“M”にし、勾配に適したギヤを選択するとなめらかな走行ができます。
☞P.260参照

下り坂を走行する

エンジンブレーキを併用してください。
セレクトレバーが“D”または“M”で、パドルシフトレバーの左側の⊖レバーを手前に引くとシフトダウンできます。
2速または1速に入れると、さらに強いエンジンブレーキがかかります。
☞P.260参照

⚠ 注 意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行う。

雪道や凍結路を走行する

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
タイヤチェーンが必要な場合は、タイヤサイズに合ったものをあらかじめ用意しておいてください。
☞P.729参照
エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。なお、滑りやすい路面ではシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。

知 識

- 雪道や凍結路など滑りやすい道では、2速ギヤでの発進をお奨めします。
  ☞P.261参照
- 走行中に雪などが積もってワイパーの動きを妨げそうなときは、安全な場所に停車してプッシュエンジンスイッチをOFFにし、取り除いてください。

停車

1. “D”のままブレーキペダルを確実に踏みます。

知 識

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、坂道で“P”、“N”以外に入れた状態で、アクセルを吹かしながら車を停止させないでください。
  ー トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

2. 必要に応じて電動パーキングブレーキをかけます。
3. 長時間停車するときは“P”にします。
4. 再発進するときは、セレクトレバーが“D”にあることを確認して発進します。

⚠ 注 意

- 空吹かしをしない。
  ー 急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏む。

⚠ 注 意

- 急な上り坂で停車する場合は、ブレーキペダルを踏み込み、確実に電動パーキングブレーキをかける。
  - クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。
  ☞P.249参照
- AVH機能がONで急な坂道に停車したとき、電動パーキングブレーキ作動灯が点滅した場合はブレーキペダルを踏み続ける。
  - 車両が動き出すことがあります。
  ☞P.254参照

駐車

⚠ 注 意

- 車庫入れなどでハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまで回した状態を続けない。
  - 過熱を防止するためにハンドル操作が徐々に重くなり、警告灯が点灯することがあります。しばらくハンドル操作を控えると元に戻りますが、繰り返すと故障の原因となります。

1. 車を完全に止めます。
2. 電動パーキングブレーキを確実にかけます。
3. ブレーキペダルを踏んだままの状態でセレクトレバーを“P”にします。

⚠ 注 意

- 車が完全に止まらないうちにセレクトレバーを“P”に入れない。
  - トランスミッション損傷の原因となります。

4. エンジンを止めます。

☞P.237参照

⚠ 注 意

- 車から離れるときは、必ずセレクトレバーを“P”に入れ、エンジンを停止する。
  - “P”以外でエンジンを止め、車を放置するとバッテリー上がりの原因となります。

寒い場所に駐車するとき

ボンネット側を風下に向けてください。風の当たる部分は予想以上に低温となり、バッテリーの作動に影響するおそれがあります。
電動パーキングブレーキをかけておくと、電動パーキングブレーキが凍結することがあります。電動パーキングブレーキをかけずに次の要領で駐車してください。
- セレクトレバーを“P”に入れます。
- 輪止め（タイヤストッパー）をします。

屋外に駐車するときは、凍結を防ぐため、ワイパーを立てておいてください。

知 識

輪止め（タイヤストッパー）は車載されていませんので必要に応じて準備してください。

AWD車の運転

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。四輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪すべてに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮しますが、タイヤがしずみ込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
また、降雨や積雪時、凍結などにより滑りやすい路面では2WD（二輪駆動）車より安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
カーブや下り坂、降雨や積雪時、凍結などにより滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度と車間距離をとって慎重に走行してください。

警 告

AWD車を運転するときは次の事項を必ずお守りください。
守らないと操縦性・ブレーキ性能に影響し、車両の損傷や車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 4輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用する。
  ☞P.722、788参照
- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用する。
  ☞P.728参照

アクティブトルクスプリットAWD

1.8L車はアクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

VTD-AWD

2.4L車はVTD-AWDを採用しています。VTDとは、Variable Torque Distribution（不等＆可変トルク配分電子制御システム）の略です。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子制御し、あらゆる路面で安定した走行性能を発揮します。

ブレーキ

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

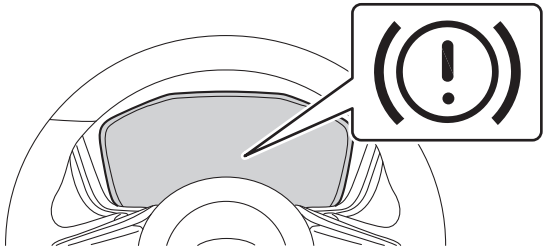
ブレーキブースター（制動力倍力装置）はブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。

知 識

- プッシュエンジンスイッチがOFFのときにブレーキペダルを踏むと、硬く感じられることがあります。
- ブレーキをかけたときにブレーキペダルが振動したり、音がしたりすることがありますが、異常ではありません。
- EyeSightの機能などでブレーキが作動した場合、ブレーキペダルが動くことがあります。
☞P.284参照

ブレーキシステム警告灯（黄色）

ブレーキブースターに異常があると点灯します。
プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。



ブレーキアシスト

ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、または速く踏み込んだときに、緊急制動と判断し、より大きな制動力を発生させます。

エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時にハザードランプを高速点滅させることで後続車に注意を促し、衝突される可能性を低減します。

⚠ 注 意

エマージェンシーストップシグナルはウインカーよりも優先されます。

知 識

SUBARU販売店でエマージェンシーストップシグナルを作動なしに設定できます。

エマージェンシーストップシグナルの作動条件

次のすべてが該当したとき、エマージェンシーストップシグナルは作動します。

- ハザードランプが点滅していない
- 車速が60 km/h以上
- システムが急ブレーキだと判断した

エマージェンシーストップシグナルの停止条件

次のいずれかが該当したとき、エマージェンシーストップシグナルは停止します。

- ハザードランプスイッチを押した
- ブレーキペダルを離した
- システムが急ブレーキではなくなったと判断した

ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。
危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。
ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

⚠ 注 意

ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。

またABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界がありますので常に安全運転を心がけてください。

- 次の道路状況でABSが作動した場合、制動距離が長くなることがあります。
  - マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
  - 道路のつなぎ目などの段差
  - 凹凸路、石畳などの悪路
  - 下り坂での旋回
  - 路肩に草や砂利が多い道路
  - 砂利道
  - 雪道（新雪路、圧雪路、凍結路などでチェーンを装着している場合）

⚠ 注 意

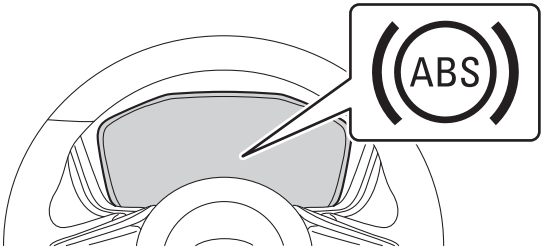
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しないので注意してください。

知 識

- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。これはABSが作動している状態を表し、異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- エンジンを始動した後、最初の発進時に次の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
  - エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
  - ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。
- ABSが作動しているときはハンドルの操作感がやや異なることがあります。

ABS警告灯

システムに異常があると点灯します。
プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。



⚠ 注 意

次の場合、システムの異常が考えられます。すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

- プッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 点灯したままのとき
- 走行中に点灯したとき
  - 同時にVDC警告灯が点灯したときは、VDCおよびABSは作動しません。通常のブレーキとしては作動しますが、滑りやすい路面では注意して走行してください。

ブレーキオーバーライド

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれた場合、ブレーキの制動力を優先させるブレーキオーバーライド機能を備えています。アクセルペダルが全開の状態でも、安全に止まれる可能性があります。また、アクセルペダルが固着して戻りにくい場合でも、ブレーキペダルを踏むことで確実に減速できます。

⚠ 警 告

- ブレーキオーバーライド機能を過信しない。
  - 万一のときに減速を可能にする機能であり、衝突を回避するものではありません。誤った使用をすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

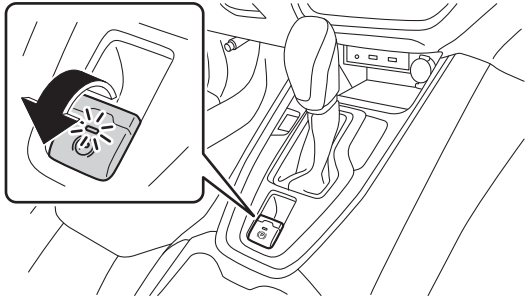
パーキングブレーキ

電動パーキングブレーキは、モーターでパーキングブレーキをかけるシステムです。

電動パーキングブレーキの使いかた

かけかた

プッシュエンジンスイッチの状態に関係なくかけることができます。
ブレーキペダルを踏み、電動パーキングブレーキスイッチを引きます。このとき、メーター内の電動パーキングブレーキ作動灯および電動パーキングブレーキスイッチ内の作動表示灯が点灯します。
作動できない条件のときにスイッチを操作すると、作動灯が約10秒間点滅してお知らせします。



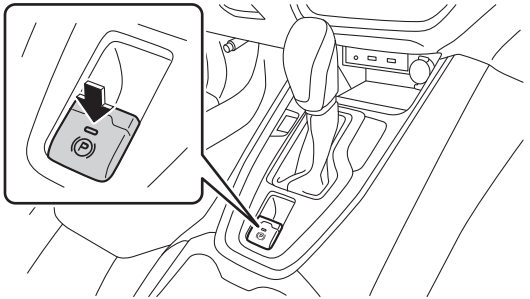
⚠ 警 告

システム異常により電動パーキングブレーキが作動しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。

- やむを得ず電動パーキングブレーキをかけずに駐車する場合は、水平な場所に止め、セレクトレバーを“P”にして輪止め（タイヤストッパー）をする。
  – セレクトレバーが“P”にならないときは、シフトロックを解除して“P”にすることもできます。
  ☞P.763参照

解除のしかた

プッシュエンジンスイッチがONのときに解除できます。
ブレーキペダルを踏み、電動パーキングブレーキスイッチを押します。このとき、メーター内の電動パーキングブレーキ作動灯および電動パーキングブレーキスイッチ内の作動表示灯が消灯します。



⚠ 警 告

ブレーキが過熱している状態や急な坂道で電動パーキングブレーキを使用すると、電動パーキングブレーキ作動灯が点滅することがあります。この場合、電動パーキングブレーキは作動しますが、車両が動き出す可能性があるため、セレクトレバーを確実に“P”にして輪止め（タイヤストッパー）をしてください。
また、次の場合はシステムの異常が考えられます。直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。

- 電動パーキングブレーキ作動灯が点滅し続けるとき
- エンジン回転中に電動パーキングブレーキを解除しても電動パーキングブレーキ作動灯が消灯しないとき

アクセルペダルで解除する

電動パーキングブレーキがかかっているとき、次の場合にアクセルペダルを踏み込むと、電動パーキングブレーキが自動的に解除されます（セレクトレバーが“P”、または“N”の場合を除く）。

- すべてのドアが閉まっている。
- 運転席シートベルトを装着している。

⚠ 警 告

- 電動パーキングブレーキを解除するとお車が動き出しますので、解除前には必ず周囲の安全を確認してください。
- 走行するときは電動パーキングブレーキを解除し、電動パーキングブレーキ作動灯が消灯していることを確認する。

⚠ 警 告

– システムに異常があり、電動パーキングブレーキが作動したまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗する場合や、ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

⚠ 注 意

- お車から離れるときは必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにする。
  – 電動パーキングブレーキが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキシステム（フットブレーキ）が故障した場合は、非常ブレーキとして電動パーキングブレーキスイッチを引き続けることで車両を停止させることができる。
  – 非常ブレーキを使用中は、メーター内の電動パーキングブレーキ作動灯および電動パーキングブレーキスイッチ内の作動表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- 非常ブレーキの使用は、緊急時のみにする。
  – 過度に使用するとブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

知 識

- 電動パーキングブレーキがかかっているときにプッシュエンジンスイッチをOFFにした、またはプッシュエンジンスイッチがOFFのときに電動パーキングブレーキをかけた場合は、電動パーキングブレーキ作動灯が約30秒間点灯し、その後消灯します。

知 識

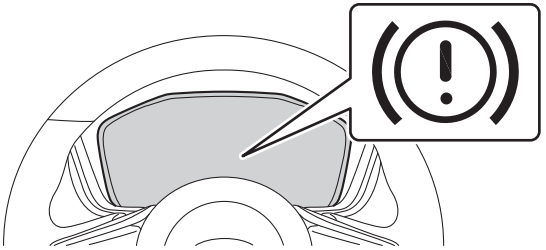
- 頻繁に電動パーキングブレーキスイッチの操作を繰り返した場合、電動パーキングブレーキ作動灯が点滅し、電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）が点灯します。この場合は時間をおいて操作してください。
- エンジンが始動した直後に電動パーキングブレーキ作動灯が点滅することがありますが、電動パーキングブレーキを解除したときに消灯すれば正常です。
- 電動パーキングブレーキがかかっているときは、アイドリングストップは作動しません。
- 電動パーキングブレーキの作動時にはモーター音が聞こえます。
- 非常ブレーキ作動時にエンジンルーム付近から音が聞こえることがありますが、VDCによるブレーキが作動している状態であり正常です。
- システム異常などによりかける／解除ができない場合、電動パーキングブレーキスイッチを操作すると電動パーキングブレーキ作動灯が点滅し、ブザーが鳴ります。
- スイッチ操作を途中で止めた場合や、極端にゆっくり操作した場合はシステムが異常を検知し電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）が点灯することがありますが、スイッチ操作後に消灯すれば正常です。
- 路面状態、ブレーキペダルの踏み加減によっては一時的に車両が保持されたり、ブレーキペダルが硬くなったりして通常の感覚と異なることがありますが異常ではありません。

知 識

- アイドリングストップ中に電動パーキングブレーキスイッチを操作すると、アイドリングストップの作動が解除され、エンジン再始動後に電動パーキングブレーキが作動します。電動パーキングブレーキ作動灯が点灯したことを確認し、ブレーキペダルから足を離してください。
- 次のようなときに電動パーキングブレーキがかかっている場合、電動パーキングブレーキ作動灯が点灯してから数分後に作動音がすることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキが過熱しているとき
  - 急勾配に停車しているとき
  - プッシュエンジンスイッチをOFFにした後に電動パーキングブレーキスイッチを操作したとき
- 長期間、電動パーキングブレーキを使用しない場合、駐車中に自動で電動パーキングブレーキが作動することがありますが、電動パーキングブレーキの作動をチェックしているためで正常です。
- 電動パーキングブレーキスイッチが故障し、電動パーキングブレーキを解除できない場合、アクセルペダルを踏んで解除してください。

電動パーキングブレーキ警告灯（黄色）

システムに異常があると点灯します。
プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。



⚠ 警 告

警告灯が点灯し続ける場合はシステムに異常がありますので、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。

知 識

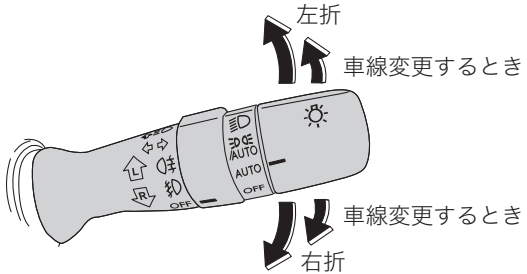
- エンジン始動後に点灯したままの場合、次の操作で消灯し、再度点灯しなければ正常です。
  - プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度ONにする。
  - 電動パーキングブレーキスイッチを操作する。
- 走行中に点灯しても、すぐに消灯しその後点灯しなければ正常です。

知 識

- 警告灯が点灯して電動パーキングブレーキを解除できない場合、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてしばらく待ってから再度エンジンを始動して操作すると、解除できることがあります。
- 電動パーキングブレーキスイッチの操作中にプッシュエンジンスイッチを押すと、システムが異常を判断し警告灯が点灯することがあります。
  - 警告灯が点灯した場合は、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動して電動パーキングブレーキの作動／解除を行い、警告灯が消灯すれば正常に復帰します。

ウインカー（方向指示器）

プッシュエンジンスイッチがONのとき、レバーを動かすとウインカーとメーター内の表示灯⬅➡が点滅します。
右折あるいは左折後、ハンドルを戻すとレバーが自動的に戻り消灯します。レバーが戻らないときは手で戻してください。
車線変更の合図をするときは、レバーを軽く押して保持します。
レバーを軽く押すと、押している間はウインカーとメーター内の表示灯が点滅します。

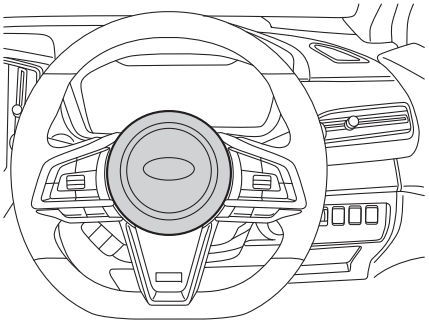


方向指示器ワンタッチ機能

レバーを軽く押して離すと3回点滅するように設定できます。
☞P.125参照

ホーン

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。
プッシュエンジンスイッチの状態に関係なく使用できます。



AVH（オートビークルホールド）

AVH（オートビークルホールド）は、信号待ちなどの停止時にブレーキペダルから足を離しても、車両の停止状態を保持する機能です。

⚠ 警 告

AVHを使用する際は、次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

- AVH表示灯が点滅するまでブレーキペダルを踏み続ける。
  - お車が停止状態を保持できず、動き出すおそれがあります。
- 次のようなときは、AVHを使用しない。
  - 急な坂道を走行しているとき
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - 駐車するとき
  - けん引されるとき
  - けん引するとき
  - 乗り降りするとき
  - 自動洗車機を使用するとき
  - 荷物などを積み下ろしするとき

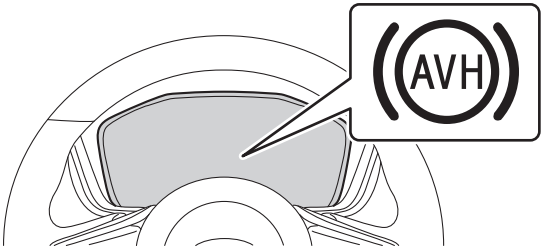
AVHの使いかた

センターインフォメーションディスプレイで、AVHをONにします。

☞P.125、135参照

AVHをONにすると、AVH表示灯が点灯します。

ブレーキを踏んで停車するとAVHが作動し、AVH表示灯が点滅します。このとき、ブレーキペダルから足を離しても停止状態を保持します。



知 識

プッシュエンジンスイッチをOFFにすると、AVHはOFFになります。

AVHの作動条件

AVHは、ブレーキペダルを踏んで車両が停止したとき、次の条件をすべて満たしていると作動します。

- 運転席のドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- セレクトレバーが“P”以外

知 識

- 停止状態を保持しているときに、次のような現象が起こることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキペダルを踏むと硬く感じる。
  - 保持中に作動音がする。
- 停車時にブレーキペダルを強く踏み込まないと、AVHが作動しないことがあります。
- アイドリングストップの作動条件を満たしているときは、アイドリングストップも作動します。

作動中の解除

次の場合、停止状態の保持が解除されます。

- アクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みなおす
- 電動パーキングブレーキをかける
- ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを“P”にする

また、次の場合は停止状態の保持が自動解除された後に、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。

- 停止状態の保持が10分以上継続したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 運転席のドアを開けたとき
- 急な坂道に停車したとき
- AVHシステムに問題が発生したとき
- プッシュエンジンスイッチをACCにしたとき

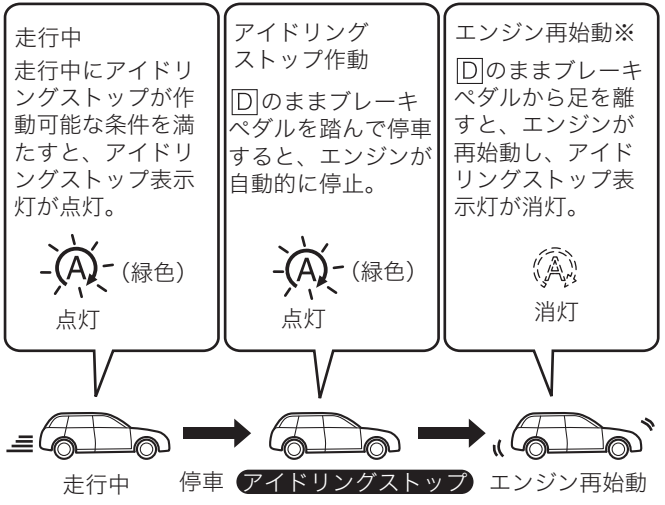
発進するには、電動パーキングブレーキを解除してください。
☞P.249参照

警 告

電動パーキングブレーキを解除するとお車が動き出しますので、解除前には必ず周囲の安全を確認してください。

アイドリングストップ

アイドリングストップとは、エンジン暖機後に運転中の信号待ちや渋滞などで車両が停止しているとき、燃費向上・排ガスの低減・アイドリング騒音低下のためにエンジンを自動停止させる機能です。また、解除時にエンジンを自動再始動させます。



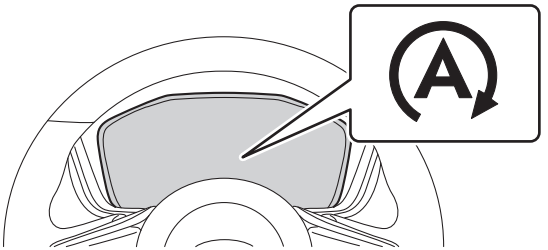
※ 全車速追従機能付クルーズコントロールまたはAVHによって停止保持している場合は、停止保持の解除時にエンジンが再始動します。

知 識

- 停車している間にアイドリングストップと再始動を繰り返すことはありません。
- 長時間停車するときや駐車するときは、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

アイドリングストップの作動

セレクトレバーが“D”で走行中、アイドリングストップが作動する条件を満たすと、メーター内のアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。
ブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップが作動し、エンジンが停止します。エンジン停止中、アイドリングストップ表示灯は点灯し続けます。
“D”のままブレーキペダルから足を離すと自動でエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します（AVH作動時を除く）。走行中に再度アイドリングストップする条件を満たすと、アイドリングストップ表示灯が点灯します。



⚠ 警 告

- アイドリングストップ中にボンネットを開けない。
  - 運転者が車内でブレーキペダルを踏んでいても、安全を確保するためエンジンが完全に停止した状態になります。この場合、始動操作をするまでエンジンが再始動せず、坂道でお車が動く、ハンドル操作が重くなるなどの可能性があり危険です。

知 識

- アイドリングストップ中に、セレクトレバーを“D”、“M”から“N”または“P”に操作しても、アイドリングストップは継続します。
  - ただし、その後、“D”、“M”に戻すとエンジンは再始動します。

アイドリングストップが作動しないとき

次のいずれかの場合、アイドリングストップは作動しません。

- エンジン始動直後（暖機されていないとき）
- 運転席ドアが開いているとき
- 運転席シートベルトを着用していないとき
- デフロスターまたはリヤウインドウデフォッガー使用時
- アイドリングストップ警告灯またはアイドリングストップOFF表示灯が点灯しているとき
- エンジン警告灯が点灯しているとき
- 電動パーキングブレーキが作動しているとき
- ボンネットが開いているとき
- トランスミッションフルードの油温が低い、または高いとき
- バッテリー状態が良好でないとき
- エアコンの設定温度と車内の温度の差が大きいとき
- エアコン使用時、風量が強いとき
- ハンドルをきったまま停車したとき

知 識

- 次の場合は、アイドリングストップが作動しないことがあります。
  - 急な坂道で停車したとき
  - 急ブレーキをかけて停止したとき
  - エンジン警告灯など、メーター内の警告灯が点灯・点滅しているとき
  - 標高が高い場所にいるとき
- 停車時、アイドリングストップが作動せずにアイドリングストップ表示灯が消灯したときは、ブレーキペダルの踏み込みが弱い場合があります。
- 次の場合、アイドリングストップするまで時間がかかるときがあります。
  - バッテリーが放電したとき
  - 水温が低いとき
  - バッテリー端子を再接続したとき
- SUBARU販売店でウインカーレバー操作時のアイドリングストップ非作動および自動解除を有効にできます。

アイドリングストップが自動解除するとき

次の状態になるとアイドリングストップの作動が自動的に解除され、エンジンが再始動します。

- 坂道でブレーキをゆるめ､車両が動きだしたとき
- ブレーキペダルを素早く踏み増ししたとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- セレクトレバーを“R”にしたとき
- セレクトレバーを“N”または“P”から“D”、“M”にしたとき
- ハンドル操作をしたとき
- デフロスターまたはリヤウインドウデフォッガーをONにしたとき
- エアコンが設定温度を維持できなくなったとき
- 電動パーキングブレーキスイッチを操作したとき
- 運転者が車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたりしたとき）
- バッテリーの放電が進んだとき
- AVHの停止保持を解除したとき

☞**P.255**参照

知 識

- アイドリングストップ中は、ブレーキペダルが硬く感じることがありますが、異常ではありません。
- 次のときはアイドリングストップが自動解除することがあります。
  - エアコンが作動しているとき
  - 電装品などの消費電力が多いとき

知 識

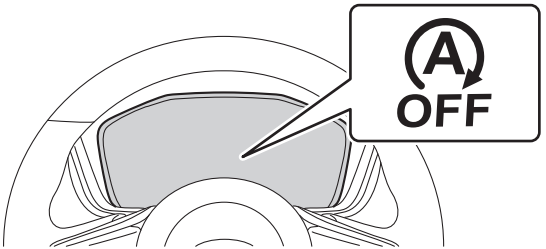
- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、電源ソケットの電圧が低下するので、使用している電装品によっては電装品の電源が一時的にOFFになることがあります。
- SUBARU販売店でウインカーレバー操作時のアイドリングストップ非作動および自動解除を有効にできます。

アイドリングストップの作動をOFFにするとき

センターインフォメーションディスプレイでアイドリングストップをOFFにできます。

☞**P.125**、**135**参照

アイドリングストップの作動をOFFにすると、アイドリングストップOFF表示灯が点灯します。



⚠ 注 意

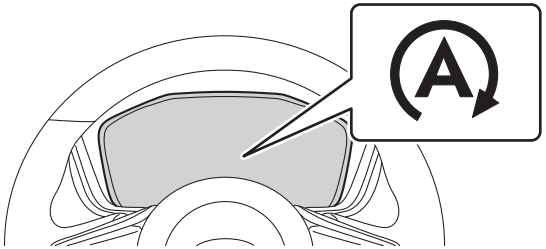
アイドリングストップのON／OFFを切り替えてもアイドリングストップOFF表示灯の点灯／消灯が切り替わらない場合は、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

知 識

- アイドリングストップ作動停止状態でプッシュエンジンスイッチをOFFした場合、エンジンを再始動するとアイドリングストップは作動可能な状態に戻ります。
- 車から離れるときはプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。バッテリー上がりの原因となります。

アイドリングストップ警告灯（黄色）

システムに異常があると点灯します。すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。
プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。



⚠ 注 意

エンジン始動後にアイドリングストップ警告灯が消灯しない場合は、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

アイドリングストップ表示

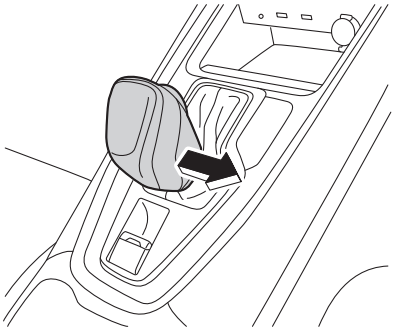
メーター内の基本画面にトリップメーターをリセットしてからのアイドリングストップした積算時間と節約した燃料の目安を表示します。
☞**P.113**参照

マニュアルモード

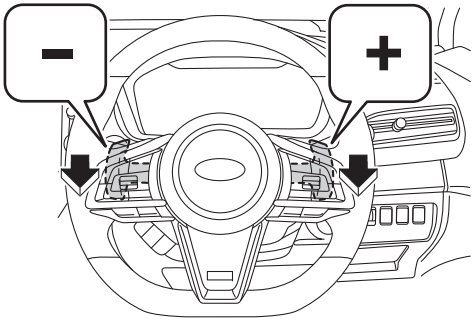
パドルシフトレバーを操作して手動で変速できます。

マニュアルモードの使いかた

セレクトレバーを“D”から“M”に動かすとマニュアルモードになり、シフトポジションを表示します。



ギヤをアップするときは、パドルシフトレバーの右側の⊕レバーを手前に引きます。ギヤをダウンするときは、パドルシフトレバーの左側の⊖レバーを手前に引きます。
ギヤ段は1速～8速です。
自動変速に戻したいときは、セレクトレバーを“D”にします。



知 識

- 次のような状況では、パドルシフトレバーで操作してもシフトダウンができません。
  - シフトダウンするとエンジンの回転がレッドゾーン付近になる車速（シフトダウン不可能な車速）で走行をしたとき。（パドルシフトレバーを操作すると“ピピ”とブザーが鳴り、シフトダウンができないことを運転者にお知らせします。）
  - 急な下り坂や登坂路の連続運転などで、継続的に車に負荷のかかる走行をしたとき。（油温や水温が上昇して保護モードになり、一時的にシフトダウンができない状況になります。負荷が低下し、油温や水温が正常な状態に戻ると保護モードが解除され、正常な状態に戻ります。）
- マニュアルモード時、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに近づくと自動でシフトアップします（2.4L車のドライブモードセレクトでパワーユニットを「S#」に設定しているときを除く）。

知 識

- 低車速の状態ではシフトアップができません。
- 車が停車すると、自動的にギヤは1速になります。
- 下り坂ではシフトダウンによるエンジンブレーキを併用することをお奨めします。

Dレンジパドルシフトマニュアル操作機能

走行中、“D”のままでも、一時的にパドルシフトレバーで変速できます。パドルシフトレバーを操作すると、シフトポジション表示にギヤ位置を表示します。その後しばらく走行すると通常の自動変速モード（“D”）に復帰します。下り坂やカーブの手前など、一時的にエンジンブレーキが必要なときに有効です。

⚠ 注 意

- パドルシフトレバーにアクセサリーなど物をかけない。
  - アクセサリーなどをかけるとレバーが不意に動き、シフトポジションが変わるおそれがあります。

知 識

操作時の走行状況により、自動変速モードへの復帰時間が異なります。

滑りやすい路面での発進（2速発進）

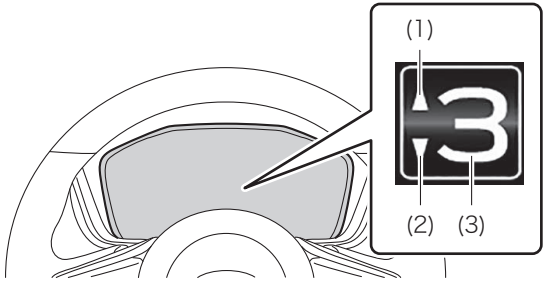
雪道など滑りやすい路面での発進は、マニュアルモードで2速を選択することにより、安全で容易に行えます。
ブレーキペダルを踏んだまま、パドルシフトレバーの右側の⊕レバーを手前に引き、ギヤを2速にします。このときシフトポジション表示は2速を表示します。

知 識

2速発進を選択すると、2速で固定されたままになります。変速するときは、パドルシフトレバーを操作してください。セレクトレバーを“D”にすると2速固定は解除され、自動変速モードに戻ります。

シフトポジション表示

ギヤ位置を表示します。
シフトアップが可能な場合は数字の横に“▲”、シフトダウンが可能な場合は数字の横に“▼”を表示します。
シフトアップ、シフトダウン可能表示が消えている状態ではシフトアップ・ダウンはできません。



(1) シフトアップ可能表示
(2) シフトダウン可能表示
(3) 変速ギヤ表示

SI-DRIVE (SUBARU Intelligent Drive)

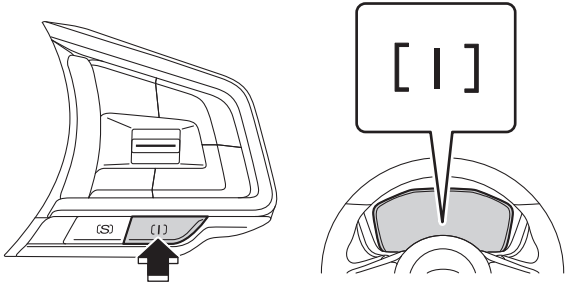
SI-DRIVEは、I（インテリジェントモード）、S（スポーツモード）の2つの走行モードを選べるシステムです。

SI-DRIVEの使いかた

プッシュエンジンスイッチをONにしたときは、前回のモードに関係なくI（インテリジェントモード）になります。

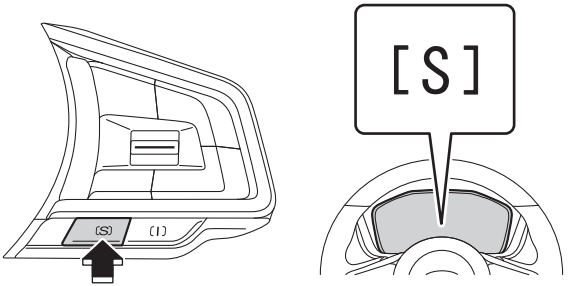
I（インテリジェントモード）

ストレスのない走行性と低燃費を両立させたモードです。市街地走行などの日常の使用に適しています。
メーターに［I］（インテリジェントモード表示）を表示します。
S（スポーツモード）からI（インテリジェントモード）に切り替えるには、Iスイッチを押します。



S（スポーツモード）

I（インテリジェントモード）よりも走行性を向上させ、場所を選ばない走行モードです。高速道路での巡航時や郊外の道を走行するのに適しています。
メーターに［S］（スポーツモード表示）を表示します。
S（スポーツモード）に切り替えるには、Sスイッチを押します。



知 識

エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯したときは、I（インテリジェントモード）になります。

走行中の制御

セレクトレバーが“D”で走行中、スムーズな走りを実現するための制御を行います。

登降坂制御

走行中の路面勾配による駆動力とエンジンブレーキ力を最適に制御し、登坂、降坂での運転をアシストします。

アダプティブ制御

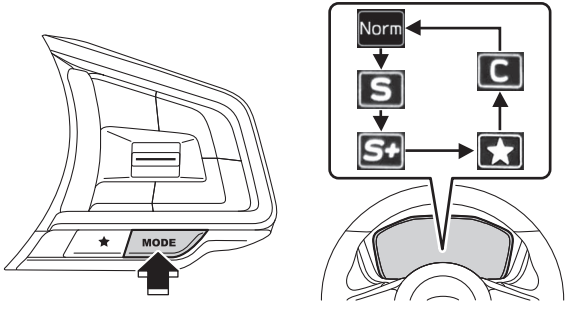
コーナリングの強さや連続性、アクセル操作などからスポーツ走行と判定した場合は、エンジンを高い回転数に保つことでエンジンブレーキの効きを高め、アクセルペダルを踏んだときのレスポンスを向上させます。

ドライブモードセレクト

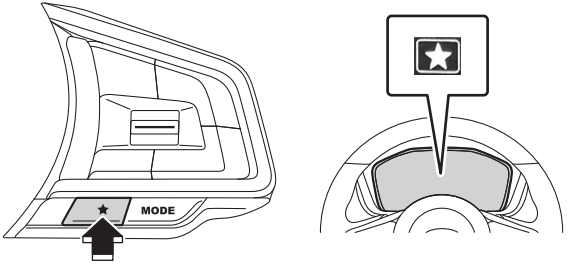
ドライブモードセレクトは、4つの走行モードを選択でき、お好みに合わせてカスタマイズした走行モードを作ることもできる機能です。

ドライブモードセレクトの使いかた

プッシュエンジンスイッチをONにしたときは、NORMALモードになります。MODEスイッチを押すと、SPORT、SPORT+、INDIVIDUAL、COMFORTの順に切り替わります。
メーターに選択したモードを表示します。



Individualスイッチを押すと、INDIVIDUALモードに切り替わります。



知 識

モードを選択すると、センターインフォメーションディスプレイに設定の内容を表示します。
センターインフォメーションディスプレイでモードを切り替えることもできます。
☞P.125参照

NORMAL

ストレスのない走行性と低燃費を両立させたモードです。市街地走行などの日常の使用に適しています。

SPORT

走行性を向上させ、スポーティーさと乗り心地を両立させたモードです。高速道路での巡航時や郊外の道を走行するのに適しています。

知 識

トランスミッションの制御が8段変速になります（2.4L車）。

SPORT+

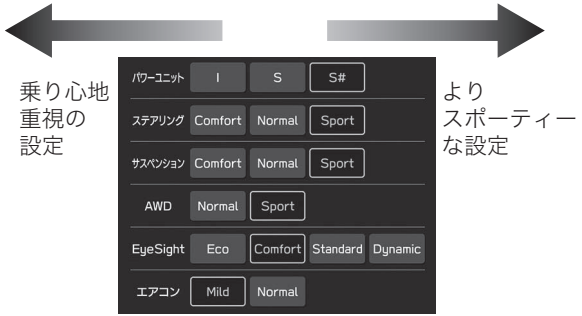
乗り心地よりもレスポンスを重視したモードです。山間部での走行や高速道路の合流、追い越し加速時などに適しています。
メーターにギヤ位置を表示します（2.4L車）。
ギヤ段は1速～8速です。

COMFORT

乗り心地と快適性を重視したモードです。エアコンも風量をやや弱め、乾燥を抑えたおだやかな設定になります。

INDIVIDUAL

各項目を設定することができます。
ドライバーモニタリングシステムが、ユーザー認識を完了している場合は、ユーザー情報に連動して設定を呼び出すことができます。
☞P.446参照



知 識

パワーユニットを「S」または「S#」に設定すると、トランスミッションの制御が8段変速になります。
「S#」の場合はメーターにギヤ位置を表示します（2.4L車）。

VDC（ビークルダイナミクスコントロールシステム）

VDCは、ブレーキ制御、エンジン出力制御により、横滑りなど車の不安定な挙動を抑えるシステムです。
作動中は、VDC作動表示灯が点滅します。

VDCの主な機能

トラクションコントロール（TCS）機能

トラクションコントロール（TCS）機能は、ブレーキ制御、エンジン出力制御により、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。

横滑りコントロール（VDC）機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、ブレーキ制御、エンジン出力制御により車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する機能です。

⚠ 注 意

VDCに関しては次の事項を必ずお守りください。
守らないとVDCが正常に作動しない、または思わぬ事故につながるおそれがあります。

- VDCを過信しない。
  - VDCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があります。
- VDCが作動するような路面では車速を十分に落として運転する。

⚠ 注 意

- サスペンション構成部品およびアクスルの脱着時は、必ずSUBARU販売店で点検を受ける。
- 雪道走行するときは、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行する。
  ☞P.728、729参照
- VDC装備車であってもカーブなどの手前では、十分に速度を落とす。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しない。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保つ。
  ☞P.788参照

知 識

- 次の場合はVDCが正常に作動している状態です。
  - ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じるとき
  - エンジンを始動した後の最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がするとき
  - エンジンを始動した後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じるとき
- VDCが作動しているときはハンドルの操作感がやや異なることがあります。
- 他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

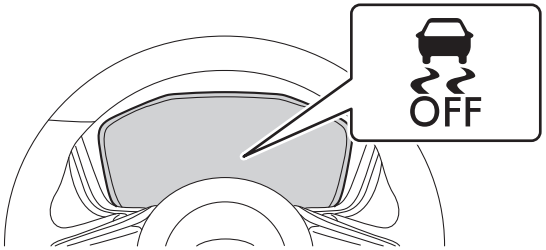
知 識

- タイヤ交換の際は、必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
  エンジンを始動したままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

VDCをOFFにするとき

センターインフォメーションディスプレイでVDCをOFFに設定すると、TCS機能を解除できます。
☞P.125参照
TCS機能をOFFにすると、VDC OFF表示灯が点灯します。

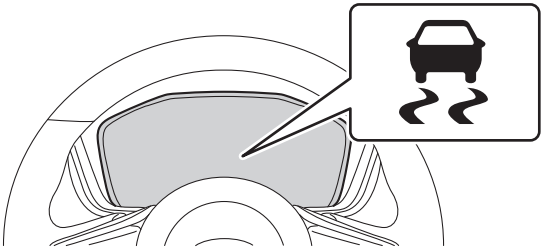
次のような特殊な状況下では、TCS機能を一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が、発進しやすい場合があります。
- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき
- ぬかるみや深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき



知 識

- TCS機能を解除しても一部のブレーキ制御は作動します。
  その場合、VDC作動表示灯は点滅します。
- エンジンを始動すると、TCS機能は自動的に作動可能状態になります。
- VDCをOFFにしても切り替わらない場合、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動してから操作してください。それでも切り替えできないときは、SUBARU販売店にご相談ください。

VDC警告灯／VDC作動表示灯



VDC警告灯

システムに異常があると点灯します。
プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

VDC作動表示灯

TCS機能作動時、またはVDC機能作動時に点滅します。
センターインフォメーションディスプレイに走行状態を表示している場合、画面内の表示灯が点滅します。

⚠ 注 意

- 次の場合は異常が考えられますので、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。
  - プッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しない
  - エンジン始動後、数分たっても消灯しない

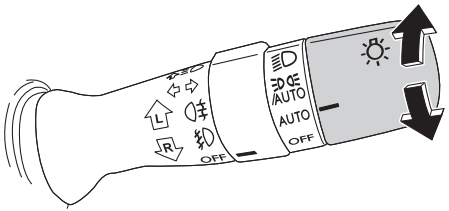
  プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンをかけた後に消灯する場合は、異常ではありません。
  上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- 警告灯が点灯したときは、VDCは作動しません。

ランプ類・ワイパーの使いかた

ランプ類

ランプの作動

スイッチは通常、AUTO位置にあります。AUTO位置のとき、プッシュエンジンスイッチをONにすると、ランプ類は周囲の明るさに応じて自動的に点灯または消灯します。周囲が暗いとき（走行中）は、手動での消灯はできません。



点灯のしかた

各スイッチ位置では、次の表のように点灯します。

スイッチ位置	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
	周囲の明るさにかかわらず、すべてのランプ類が点灯	
／AUTO	ポジションランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯	• （走行前※）ポジションランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯 • （走行中）すべてのランプ類が点灯
AUTO	消灯	すべてのランプ類が自動で点灯

※ 走行前の停車しているときの点灯状態です。

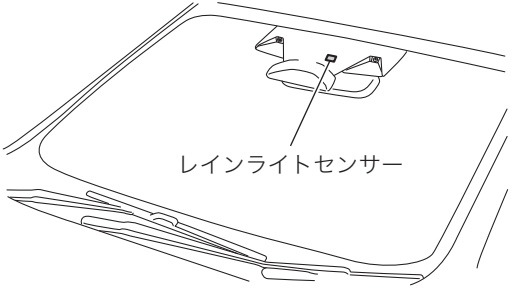
ランプ類が点灯しているときは、メータ内の（ライティングスイッチ表示灯）が点灯します。

⚠ 注 意

- エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させない。
  － バッテリー上がりの原因となります。
- 次の場合、オートライトが正常に作動しないことがあります。

⚠ 注 意

– レインライトセンサー上部を、ステッカー類を貼るなどしてふさいでいるとき



– 強い電磁波などがある場所を走行するとき

- スイッチがAUTO位置または⁝DOE⁝／AUTO位置で周囲が暗いのに点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがありますので、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。
  – スイッチを ≣D 位置にしてヘッドランプを点灯させてください。

知 識

- プッシュエンジンスイッチがOFFまたはACCでランプ類を点灯したいときは、スイッチを ≣D 位置または⁝DOE⁝／AUTO位置にします。

知 識

- スイッチが⁝DOE⁝／AUTO位置のときにプッシュエンジンスイッチをACCにすると、ポジションランプなどが点灯することがあります。
- 周囲が暗いとき（走行後）に停車して、ポジションランプだけを点灯するには、一度スイッチを⁝DOE⁝／AUTO位置以外に操作してから、再度⁝DOE⁝／AUTO位置にしてください。
- スイッチが⁝DOE⁝／AUTO位置では周囲が暗いとき（走行中）のみオートライトが作動します。
- オートライトについて
  – 短いトンネルでは、ランプ類は点灯しません。
  – 連続したトンネルの出口と入口の間隔が短いときはランプ類が点灯し続けます。
  – 昼間に濃い霧などが発生して視界が悪いにもかかわらず、自動でランプ類が点灯しない場合は、手動で点灯してください。
  – SUBARU販売店でオートライトの感度を、4段階で設定できます。

☞**P.789**参照

消灯のしかた

- AUTO位置では、周囲の明るさに応じて自動で消灯します。
- 各スイッチ位置から、次のように操作すると消灯します。
  – OFF位置にすると消灯※
  （手を離すとスイッチはAUTO位置に戻ります。）
  – プッシュエンジンスイッチをOFFにすると自動で消灯

※ 走行中はAUTO作動になり、手動ではヘッドランプを消灯できません。

ランプ類が消灯すると、メーター内の(ライティングスイッチ表示灯）は消灯します。

知 識

- 周囲が暗いときに、消灯してから再度スイッチをOFF位置に操作すると、消灯状態が解除され、ランプ類が自動的に点灯します。
- 周囲が暗いときに車を発進すると消灯状態が解除され、自動的に点灯します。
- スイッチがAUTO位置のとき、お車への乗降を容易にするため、ポジションランプなどが点灯します。（ウェルカムライティング機能）
☞P.271参照

■ワイパー連動ヘッドランプ機能

AUTO位置または／AUTO位置のとき、ワイパーが約9回作動すると、ヘッドランプが自動点灯します。

知 識

- スイッチが／AUTO位置のとき、停車中は点灯しません。
- 周囲の明るさによっては、ワイパー連動ヘッドランプ機能が作動しないことがあります。
- SUBARU販売店でワイパー連動ヘッドランプ機能を作動なしに設定できます。

ウェルカムライティング

お車への乗降を容易にするため、ポジションランプ、ドアミラーランプなどを点灯する機能です。

知 識

SUBARU販売店で、ドアミラーランプの点灯を作動なしに設定できます。

乗車時

プッシュエンジンスイッチがOFFでライティングスイッチがAUTO位置のとき、アクセスキーを携帯してお車に近づく、またはアクセスキーのボタンで解錠すると、ポジションランプ、ドアミラーランプなどが約30秒間点灯します。
運転席ドアを開けると、約30秒経過する前に消灯します（ドアミラーランプを除く）。
また、次の操作で消灯させることもできます。

- プッシュエンジンスイッチをONにする
- 施錠する
- ライティングスイッチを操作する

知 識

SUBARU販売店で乗車時のウェルカムライティングを作動なしに設定できます。また、消灯までの時間を10秒／20秒に変更できます。

降車時

ライティングスイッチがAUTO位置でヘッドランプが点灯しているとき、プッシュエンジンスイッチをOFFにすると、ポジションランプ、ドアミラーランプなどが約3分間点灯します。
ランプ類が消灯しているときは、AUTO位置にしてパッシングすると点灯します。
運転席ドアを開けて閉めると、約30秒で消灯します。
また、次の操作で消灯させることもできます。

- 施錠操作を2回繰り返す
- パッシングする
- プッシュエンジンスイッチをONにする
- ライティングスイッチをOFF位置まで回す

知 識

SUBARU販売店で降車時のウェルカムライティングを作動なしに設定できます。また、運転席ドアを開閉してから消灯するまでの時間を10秒／20秒に変更できます。

ランプ消し忘れ警報

プッシュエンジンスイッチがOFFでランプ類が点灯しているときに、運転席ドアを開けるとブザーが鳴り、ランプの消し忘れをお知らせします。

知 識

ウェルカムライティングによる点灯中はブザーが鳴りません。

バッテリー上がり防止機能

プッシュエンジンスイッチがOFFでランプ類を点灯させたときは、約10分経過するとランプ類が自動的に消灯します。
点灯中にドアを開閉したり、ライティングスイッチを操作したりすると、操作をしてから約10分後に消灯します。

⚠ 注 意

- バッテリー上がり防止機能に頼った使いかたをしない。
  - バッテリー上がりを完全に防ぐ機能ではありません。
  - バッテリー上がりの原因となります。

知 識

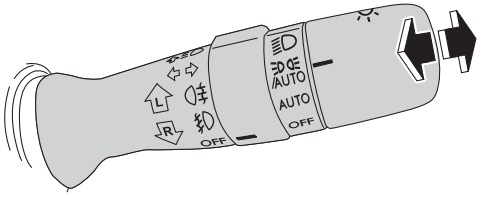
ドアを開閉するか、再度点灯操作をすると点灯します。

ロービーム（すれ違い用前照灯）／ハイビーム（走行用前照灯）の切り替えかた

位置または／AUTO位置でヘッドランプが点灯しているときに、レバーを前に押して離すとハイビームになり、レバーは元の位置に戻ります。再度レバーを押すか、手前に引いて離すとロービームになります。

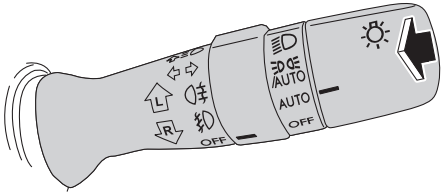
知 識

AUTO位置でレバーを前に押して離すとADBがONになります。ADBの作動については「ADB（アダプティブドライビングビーム）」を参照してください。
☞**P.434**参照



一時的にハイビームにする／パッシングするとき

ロービームのときまたはヘッドランプが消灯しているとき、レバーを手前に引くと引いている間ハイビームが点灯します。点灯中はメーター内のハイビーム／パッシング表示灯が点灯します。



フォグランプ（霧灯）

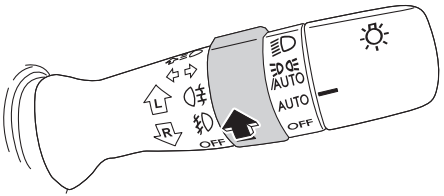
郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときに使用してください。

知 識

- フロントフォグランプはヘッドランプの代わりにはなりません。
  - 使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。
  - 郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

フロントフォグランプ

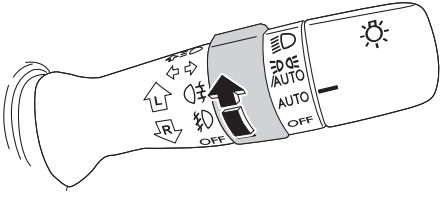
ランプ類が点灯しているとき、フォグランプスイッチを 位置まで回すとフロントフォグランプが点灯します。
フロントフォグランプ点灯中はメーター内のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。



リヤフォグランプ

フロントフォグランプが点灯しているとき、フォグランプスイッチを位置まで回すとリヤフォグランプが点灯します。

リヤフォグランプ点灯中は、メーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。
手を離すと、スイッチは自動で戻ります。
リヤフォグランプを消灯させる場合は、もう一度スイッチを位置まで回してください。



知 識

- リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車へ迷惑をかけることになります。
  - 郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

知 識

- リヤフォグランプの消し忘れを防止するため、ヘッドランプまたはフロントフォグランプが消灯するとリヤフォグランプも消灯します。
- リヤフォグランプは運転席側のみ装備されています。

オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）

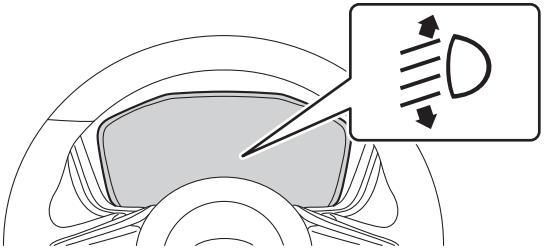
オートヘッドランプレベラーが付いています。
ヘッドランプの照射方向が変化して対向車や前を走る車の迷惑になるのを防ぐため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整します。

知 識

停車中に車両の姿勢が大きく傾いたとき、車両が自動で光軸を調整している場合があります。
照射方向が気になる場合はSUBARU販売店で点検を受けてください。

オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジン回転中、オートヘッドランプレベラーの電子制御システムに異常があると点灯します。

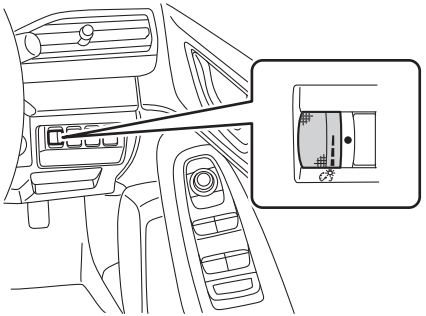


⚠ 注 意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、光軸の自動調整が行われない場合があります。直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

画面やスイッチ類の明るさ調整

ランプ類が点灯していて周囲が暗いときは、画面やスイッチ類の照明、アンビエント照明（装備車のみ）などが暗くなります。
明るさを調整するには、イルミネーションコントロールダイヤルを回します。
暗くするには、下方向に回します。明るくするには、上方向に回します。一番上まで回すと、最大の明るさで固定されます。



知 識

- オートディマーキャンセル機能により、周囲が明るいときはランプ類を点灯させても、暗くなりません。
  SUBARU販売店で、周囲の明るさに関係なく暗くなるように設定できます。また、周囲の明るさによって暗くなる感度も設定できます。
  ☞**P.789**参照

知 識

- センターインフォメーションディスプレイの明るさをイルミネーションコントロールと連動させずに独立して設定することができます。
  ☞**P.125**参照

ワイパー &ウォッシャー

プッシュエンジンスイッチがONのときに使用できます。

⚠ 注 意

- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しない。
  - ー ガラスやワイパーブレードに傷をつけることがあります。また、拭き残しの原因となります。
- 自動洗車機を使用する場合、必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにする。
  - ー ワイパーが作動し、上面ブラシに引っかかりワイパーなどが損傷するおそれがあります。
- 次の場合、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。
  - ー はっ水コーティングをしたとき
  - ー ガラス上部が汚れているとき、または凍結しているとき
- AUTO位置で、雨が降っているのにワイパーが作動しない、または雨滴量が変化しているのにワイパーの作動が調整されない場合は、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
  - ー ワイパースイッチをLOまたはHIに切り替えて使用してください。
- LO位置でワイパーが作動しない場合は、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
  - ー HI位置にしてワイパーを作動させてください。

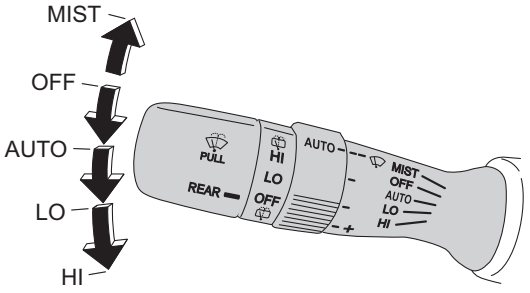
知 識

- 積雪などによりモーターに大きな負荷がかかった場合、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。ワイパーの作動が止まった場合は車を安全な場所に止めて、10分ほどワイパースイッチをOFFにしてください。ブレーカーが復帰して作動するようになります。
- ウォッシャースイッチを10秒以上操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。
  - ー ウォッシャー液量を点検してください。ウォッシャー液量が十分なのにウォッシャー液が噴射できないときは、ノズルの詰まりや故障のおそれがありますので、SUBARU販売店にご連絡ください。

  ☞P.718参照
- 次の場合、オートワイパーが作動しないことがあります。その場合はスイッチをLOまたはHIに切り替えてワイパーを使用してください。
  - ー 外気温が−15 ℃より低いとき
  - ー センサー周辺の温度が80 ℃より高いとき
  - ー 雨または雪が弱くセンサーが感知しないとき
- 次の場合、オートワイパーが誤作動したり、正常に作動しないことがあります。
  - ー センサーまたはフロントガラスに振動を与えたり、虫や泥などの汚れが付着したとき
  - ー 強い電磁波などがある場所を走行するとき

フロントワイパーの使いかた

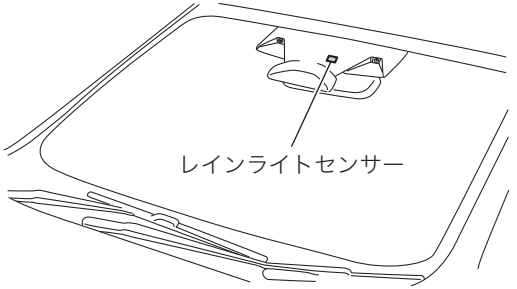
レバーを操作するとワイパーが作動します。



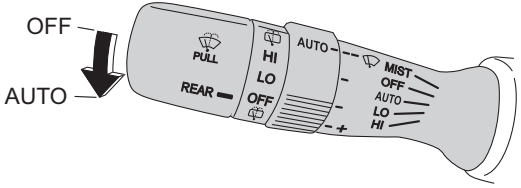
MIST	手動で作動
OFF	停止
AUTO	雨滴量により自動作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動

オートワイパー

レインライトセンサーが感知した雨滴量に応じてワイパーの作動を自動調整します。
ワイパーを使用しない場合は、レバーをOFF位置にしてください。



スイッチをAUTO位置にすると、雨滴量に応じて、次のようにワイパーが作動します。

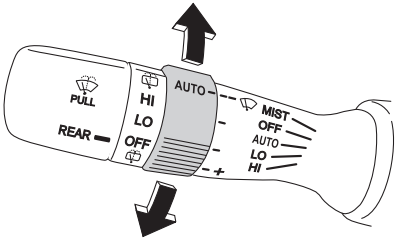


雨滴量	作動状態
なし	停止
少量	間欠作動 （車速に応じて変わります）
普通	低速連続作動
多量	高速連続作動

知 識

- AUTO位置にすると、ワイパーが1回作動します。
- SUBARU販売店でAUTO位置での作動を間欠作動に設定できます。間欠作動に設定したときは、リングを回すと間欠作動の間隔を調整できます。

リングを回すと、雨滴量に反応するセンサーの感度を次のように調整できます。



リング位置	感度
−側	低
＋側	高

■発進時1回払拭

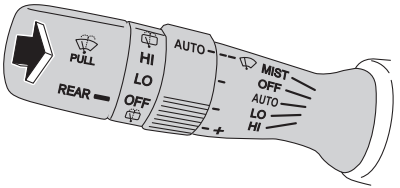
間欠作動の状態で車両を発進させると（5 km/h以上）ワイパーが1回作動します。

知 識

SUBARU販売店で発進時1回払拭機能を作動なしに設定できます。

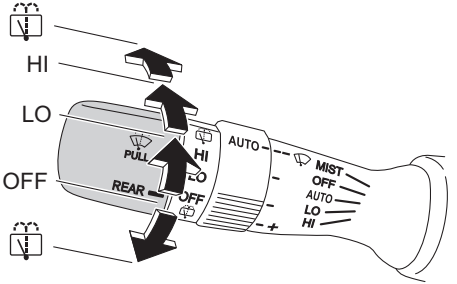
フロントウォッシャー

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが作動します。レバーから手を離すと、ワイパーが数回作動して停止します。



リヤワイパー／ウォッシャーの使いかた

スイッチを回すと作動します。



（上側）	連続作動中にウォッシャー液が噴射します。 手を離すとHIに戻ります。
HI	連続作動
LO	間欠（低速）作動 （車速に応じて変わります） セレクトレバーを“R”にすると連続作動になります。
OFF	停止
（下側）	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。 手を離すとOFFに戻ります。

⚠ 注 意

- 背面キャリアなど、リヤワイパーの動きを妨げる物を取り付けない。

  ー リヤワイパーが損傷するおそれがあります。

リバース連動機能

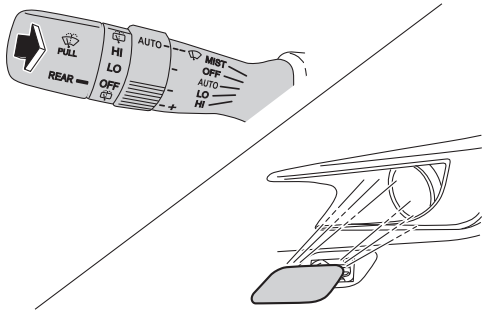
フロントワイパーが連続作動している場合、セレクトレバーを“R”にするとリヤワイパーが間欠作動します。

知 識

SUBARU販売店でリバース連動機能を作動なしに設定できます。

ヘッドランプウォッシャー

ヘッドランプが汚れたときに使用します。
プッシュエンジンスイッチがONでヘッドランプが点灯しているとき、フロントウォッシャーのスイッチを1秒以上手前に引くと、フロントウォッシャーと連動して作動します。ヘッドランプウォッシャーは約1秒間作動し、停止します。

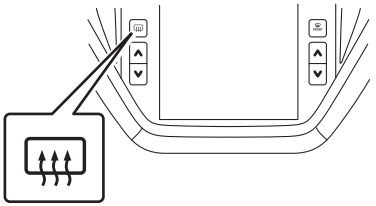


フロントワイパーデアイサー

凍結によってフロントワイパーが動かないとき、ガラスを温めてワイパーが作動できるようにします。
電熱線はフロントガラスの下部にプリントしてあります。

フロントワイパーデアイサーの使いかた

プッシュエンジンスイッチがONのときにスイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し作動します。約15分後、自動的にOFFになります。
作動中に停止させるときは、スイッチをもう一度押します。



知 識

- 消費電力が大きいのでエンジンをかけて使用してください。
- 次の機能と連動します。
  - ヒーテッドドアミラー
    ☞P.224参照

知 識

  - リヤウインドウデフォッガー
    ☞P.511参照
- 外気温度が5 ℃以上のとき、フロントワイパーデアイサーは作動しません。
- リヤウインドウデフォッガーに連動し、連続作動に設定できます。
  ☞P.125参照
- 連続作動に設定していても、次の条件のときは、15分後に停止します。このとき、ヒーテッドドアミラーとリヤウインドウデフォッガーは作動を継続します。
  - 外気温度が5 ℃以上のとき
  - SI-DRIVEがI（インテリジェントモード）のとき（装備車のみ）
  - ドライブモードセレクトがNORMALモードまたはCOMFORTモードのとき（装備車のみ）
  - ドライブモードセレクトがINDIVIDUALモードでパワーユニットを「I」に設定しているとき（装備車のみ）
  - 車速約15 km/h以下のとき
- 霜や曇りが取れたら停止させてください。
  - エンジン作動中でも、連続作動を続けるとバッテリー上がりの原因になります。
  - 雪を溶かすような使いかたはしないでください。
- バッテリー電圧が低下すると、作動を停止します。

5. 運転支援機能

EyeSight

EyeSightについて ····· 284
プリクラッシュブレーキ ····· 296
全車速追従機能付クルーズコントロール ····· 331
車線中央維持・先行車追従操舵機能 ····· 353
車線逸脱抑制機能 ····· 366
エマージェンシーレーンキープアシスト ····· 373
AT誤発進抑制制御 ····· 381
AT誤後進抑制制御 ····· 387
車線逸脱警報 ····· 391
ふらつき警報 ····· 395
青信号お知らせ ····· 398
先行車発進お知らせ ····· 399
EyeSightアシストモニター ····· 401
定速クルーズコントロール ····· 403
RAB（後退時ブレーキアシスト）····· 411
システム作動音一覧 ····· 418
EyeSightシステムの故障および一時停止 ····· 422
オープンソースソフトウェア情報 ····· 424

その他の運転支援機能

SRVD（後側方警戒支援システム）····· 425
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）····· 433
ADB（アダプティブドライビングビーム）····· 434
マルチビューモニター ····· 437
ドライバーモニタリングシステム ····· 446

EyeSight X

EyeSight X（高度運転支援機能）について ····· 462
渋滞時ハンズオフアシスト ····· 466
渋滞時発進アシスト ····· 477
アクティブレーンチェンジアシスト ····· 479
カーブ前速度制御 ····· 488
料金所前速度制御 ····· 490
ドライバー異常時対応システム ····· 492
EyeSight X（高度運転支援機能）の故障および一時停止···· 500
3D高精度地図データについて ····· 501

EyeSight

EyeSightについて

EyeSightはさまざまな機能によって、運転者の判断を助け、安全・快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。EyeSightはカメラを用いた画像処理により、先行車や障害物、車線などを認識します。
また、前側方レーダーにより出会い頭車両（自動二輪車、自転車除く）を、ソナーセンサーにより車両後方の障害物を、後側方レーダーにより車両後側方から接近する車両を認識します。

⚠ 警 告

運転者には安全運転の義務があります。EyeSightの各機能特性にかかわらず、常に交通ルール・マナーを守り運転してください。運転時は常に先行車との車間距離や周囲の状況、運転環境に注意しながら必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。

- EyeSightに頼った運転は絶対に行わない。
  - EyeSightの認識性能・制御性能には限界があります。
  - わき見運転やぼんやり運転など運転者の前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。また、あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。

EyeSightは、運転者の判断を補助し、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。

⚠ 警 告

警報や各種プリクラッシュブレーキ、緊急時プリクラッシュステアリングなどが作動した場合は、前方や周囲を確認の上、運転者の判断で適切な操作をしてください。

EyeSightの認識性能・制御性能には限界があります。それぞれのページに書かれている警告を必ずお読みの上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

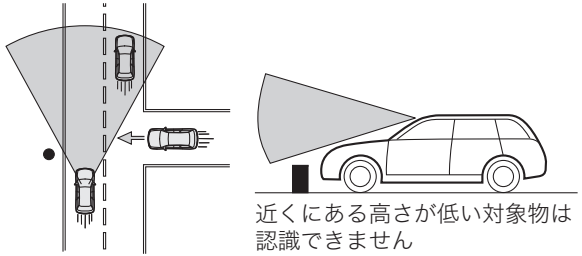
右ハンドル車のEyeSightは、左側通行を想定して設計しています。右側通行の道路で使用する場合は性能が十分に発揮できません。

⚠ 注 意

- 運転者にとって前方が見えにくい状況では、カメラも同様に前方の車両や障害物、車線を認識しづらくなる。
- EyeSight前方の物体認識はカメラと前側方レーダーの視野範囲に限られる。また、各センサーの視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでには数秒間かかる。

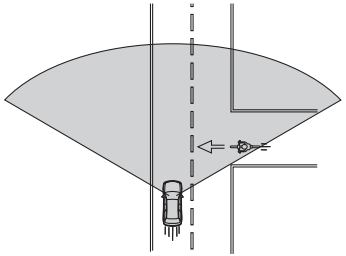
⚠ 注 意

ステレオカメラ視野範囲イメージ



近くにある高さが低い対象物は認識できません

広角単眼カメラ視野範囲イメージ



- 周辺環境や車両状態によって先行車や前方の自動二輪車、自転車、歩行者、路上の障害物、車線などが認識しづらくなる。
  また、認識しにくい状況ではEyeSightシステムが一時停止状態または機能が制限される場合がある。状況が改善され、しばらく走行すれば、再び機能は動作する。

⚠ 注 意

- 次の状況では、EyeSightシステムが一時停止状態または機能が制限される場合がある。状況が改善されれば再び機能は動作する。
  - ステレオカメラ前のフロントガラス（外側、内側）に汚れや曇りなどがあるとき
  - 炎天下で放置した後など車内の温度が高いとき、または極寒の環境で放置した後など車内の温度が低いとき
  - エンジンの始動直後
- 次の状況では先行車や前方の自動二輪車、自転車、歩行者、路上の障害物、車線などが認識しづらくなる。また、EyeSightシステムが一時停止状態になる場合がある。EyeSightシステムが一時停止状態になることが何回も発生する場合はSUBARU販売店に連絡し、点検を受ける。
  - カメラのレンズ部周辺に埃などの汚れが付着したとき
  - カメラに衝撃などが加わり、ずれや歪みが生じたとき
  - 1年以上など、車両を長期間放置したとき
- EyeSightシステムの動作に異常があるときはプリクラッシュブレーキ、エマージェンシーレーンキープアシスト、車線逸脱防止機能およびRAB（後退時ブレーキアシスト）をOFFにし、全車速追従機能付クルーズコントロール、車線中央維持・先行車追従操舵機能、定速クルーズコントロールを使用せずSUBARU販売店で点検を受ける。
  ☞P.125、130参照
- VDC警告灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ機能をOFFにする。

⚠ 注 意

– システムが正しく作動しない場合があります。また、全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロールを使用しないでください。

知 識

- EyeSightは、プリクラッシュブレーキ、前側方プリクラッシュブレーキ、ブレーキ踏み増し要求警報、エアバッグ、歩行者エアバッグが作動したとき、またはカメラの視界不良や位置・角度ずれによるEyeSightシステムの故障および一時停止が発生したときに、主に次のデータを記録・蓄積します。会話などの音声は記録しません。
  – ステレオカメラの画像情報
  – 広角単眼カメラの画像情報
  – 先行車との車間距離
  – 車速
  – ハンドルの操舵角
  – 進行方向に対しての横方向の動き
  – アクセルペダルの操作状況
  – ブレーキペダルの操作状況
  – セレクトレバーの位置
  – オドメーターの値
  – ABS、VDC機能、TCS機能の制御に関する情報
  – 前側方レーダー情報
  – 発生時刻

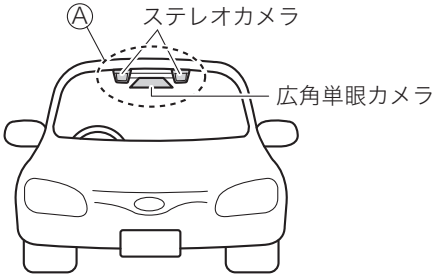
知 識

- スバルおよびスバルが委託した第三者は、記録されたデータを、車の研究開発目的に取得・流用することがあります。なお、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
  – お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
  – 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
  – 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

※ ここでいうスバルは、株式会社ＳＵＢＡＲＵを意味しています。

カメラの取り扱いについて

ステレオカメラ、広角単眼カメラは、フロントガラス部分に装着されています。



⚠ 注 意

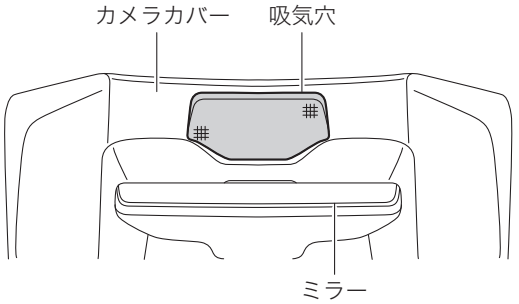
- カメラ前面の汚れを自動で判定する機能を備えていますが、万全ではない。
  状況によっては、カメラ前面の汚れ（曇りや油膜なども含みます）を判定できない場合がある。また、フロントガラスのカメラ付近に雪や氷などが付着したときも、判定できない場合がある。このような状況では、システムが正常に作動しない場合があるため、フロントガラス（イラストのカメラ前方Ⓐの部分）はいつもきれいにしておく。なお、ステレオカメラ前面の汚れを判定した場合は、定速クルーズコントロールを除くすべてのEyeSightシステムの機能が作動しない。
- カメラのレンズ部周辺が汚れた場合は、清掃などはおこなわず、SUBARU販売店で点検を行う。

⚠ 注 意

- カメラは精密部品のため、特にカメラのレンズ部周辺の取り扱いについては、次の注意事項を守る。
  - カメラのレンズ部には絶対に触れないでください。また、レンズ部は清掃しないでください。万一、レンズ部に触ってしまった場合は、必ずSUBARU販売店にご相談ください。
  - カメラカバー周辺のガラス内側を清掃するときは、ガラスにクリーナーなどを直接吹き付けずに、布などに付着させて清掃してください。
  - カメラに強い衝撃や力を加えないでください。
  - カメラを取り外したり、分解しないでください。
  - カメラの取り付け位置を変更したり、周辺構造物の改造をしないでください。

⚠ 注 意

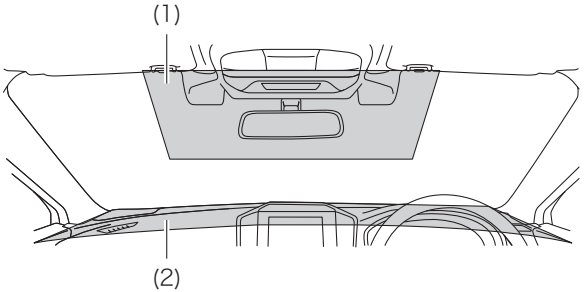
- カメラシステムが高温になると、冷却ファンが作動することがある。カメラカバーにある吸気穴はふさがない。また、吸気穴の中に物を入れない。カメラシステムが故障するおそれがある。



- カメラシステムの熱により、カメラカバーが熱くなる可能性があるので触らない。
- カメラカバーを叩く、強く押すなどの衝撃を加えるとEyeSightの機能が正常に作動しなくなるおそれがある。
- フロントガラス（外側、内側）、ルームミラー、カメラカバーおよびインストルメントパネル上面など、下図に示す禁止エリア（1）、（2）のグレー部にスバルが指定したアクセサリー用品以外の取り付けまたは設置をしない。
  - 禁止エリア外に置いた場合でも、光の反射やガラスへの映り込みなどによりEyeSightシステムの動作に異常があるときは移動させてください。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

- フロントガラス（外側、内側）にステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けないでください。
  やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、禁止エリア（1）のグレー部へは取り付けないようにしてください。カメラの視野に影響を与えるおそれがあります。
- 禁止エリア（2）のグレー部に物を置かないでください。
  フロントガラスへの映り込みによりカメラが安定した認識ができない場合があります。
- インストルメントパネルはケミカル剤などで光沢を持たせないでください。
  フロントガラスへの映り込みによりカメラが安定した認識ができない場合があります。

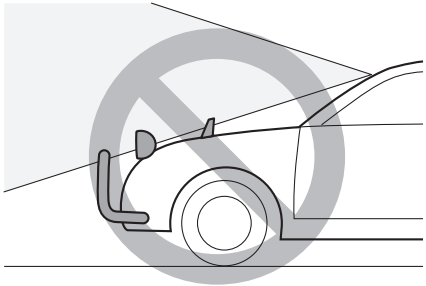


- スバル純正品以外のワイパーブレードを装着しない。
  - カメラの視野に影響を与えるおそれがあります。
- ワイパーブレードは早めに交換する。

⚠ 注 意

– 拭き残しによりカメラが安定した認識ができない場合があります。

- ボンネットやグリルの上など、車両前側にアクセサリー類を取り付けない。
  – カメラの視野に影響を与えるおそれがあります。



- カメラの視野範囲内にルーフに積んだ荷物が入らないようにする。
  – カメラの視野に影響を与えるおそれがあります。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。
- フロントガラス（外側、内側）は常にきれいな状態に保つ。
  – フロントガラスに曇りや汚れなどがあるとカメラが安定した認識ができない場合があります。
- 中央のエアコン吹き出し口に芳香剤などを取り付けない。
  – カメラ周辺のフロントガラスが冷えて曇る場合があります。

⚠ 注 意

- フロントガラスにスバルが指定したガラスコーティング剤以外は使用しない。
- フロントガラスにフィルムを貼らない。
- フロントガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、SUBARU販売店にご相談ください。
- フロントガラスを交換・修理する場合は、SUBARU販売店にご相談ください。
  – スバル純正品以外のフロントガラスを使用するとカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- 歩行者保護エアバッグが作動したときにエアバッグを展開させたまま走らない。
  – カメラの視野に影響を与えるおそれがあります。
  ☞**P.88**参照

前側方レーダーの取り扱いについて

前側方レーダーはフロントバンパーの内側に左右ひとつずつ取り付けられています。

<レヴォーグ>

<レヴォーグレイバック>

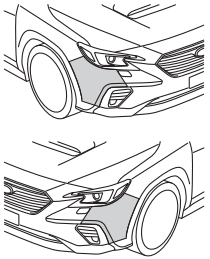
⚠ 注 意

EyeSightの正しい作動のため、次のことをお守りください。

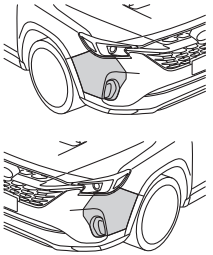
- 前側方レーダー付近のバンパー表面は、いつもきれいにしておく。
- 前側方レーダー付近のバンパー表面にステッカーなどを貼り付けない。
  - 詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

<レヴォーグ>



<レヴォーグレイバック>

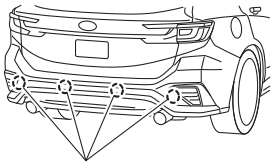


- 前側方レーダー付近のバンパーを改造しない。
- 前側方レーダー付近のバンパーを塗装しない。
- 前側方レーダー付近のバンパーへの強い衝撃を避ける。
  - 前側方レーダーの取り付け位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあるので強い衝撃を受けた際は、必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。
- 前側方レーダーを分解しない。
- 前側方レーダーの修理、交換、または前側方レーダー付近のフロントバンパーの修理、塗装、交換が必要になった場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

RABソナーセンサーの取り扱いについて

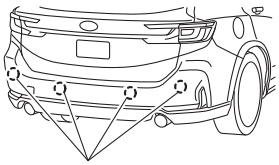
リヤバンパーに、4個のソナーセンサーが取り付けられています。

<レヴォーグ>



ソナーセンサー

<レヴォーグレイバック>



ソナーセンサー

⚠ 注 意

RABの正しい作動のため、次のことをお守りください。

- ソナーセンサーおよびリヤバンパー表面は、いつもきれいにしておく。
- ソナーセンサーおよびリヤバンパー表面にステッカーなどを貼り付けない。
- ソナーセンサーおよびリヤバンパーを改造しない。
- ソナーセンサーおよびリヤバンパーを塗装しない。
- ソナーセンサーおよびリヤバンパーへの強い衝撃を与えない。
  - 高圧洗車機などを使用するときは、ソナーセンサーに直接水をかけないでください。

⚠ 注 意

- 検知範囲に入った障害物を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。
- ソナーセンサーを分解しない。
- ソナーセンサーの修理、交換、またはリヤバンパーの修理、塗装、交換が必要になった場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

EyeSightの機能について

EyeSightには、次の機能があります。

プリクラッシュブレーキ

前方の車両や自動二輪車、歩行者、自転車などに衝突する可能性があるとき、車間距離警報により、運転者の回避操作を促します。それでも運転者の回避操作がない場合、衝突の直前にシステムが急ブレーキをかけ衝突被害を軽減、または衝突を回避します。

☞P.296参照

■緊急時プリクラッシュステアリング

前方の車両や自動二輪車、歩行者、自転車に衝突するおそれがあるとき、運転者に注意を促します。回避操作がない場合、システムがハンドル操作をし、衝突回避をアシストします。

☞P.310参照

■前側方プリクラッシュブレーキ

出会い頭車両（自動二輪車、自転車除く）に衝突する可能性があるとき、警報により、運転者の回避操作を促します。それでも運転者の回避操作がない場合、衝突の直前にシステムが急ブレーキをかけ衝突被害を軽減、または衝突を回避します。

☞P.318参照

ツーリングアシスト

渋滞走行や高速走行を含めた自動車専用道路での運転負荷軽減を目的とした運転支援システムです。全車速追従機能付クルーズコントロールと、それに連動して作動する車線中央維持・先行車追従操舵機能により、アクセル・ブレーキ・ハンドルをシステムが制御することで運転をアシストします。

■全車速追従機能付クルーズコントロール

運転者が設定したセット車速を保ちながら走行します。同一車線内にいる先行車を認識した場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。

☞P.331参照

■車線中央維持・先行車追従操舵機能

高速道路などで道路の区画線（白線など）を認識し、車線中央付近を走行するようにハンドル操作をアシストします。また、渋滞時は白線を認識していなくても、先行車の動きに合わせてハンドル操作をアシストします。車線中央維持・先行車追従操舵機能は、全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしているときのみ作動します。

☞P.353参照

車線逸脱抑制機能

高速道路や自動車専用道路を走行時、システムが区画線を認識し、車両が車線を逸脱しそうになるとシステムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストし、車線からの逸脱を抑制します。

☞P.366参照

エマージェンシーレーンキープアシスト

隣接車線の後方車両が接近しているにもかかわらず車両が車線を逸脱しそうになると、システムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストし、車線からの逸脱を抑制します。
☞P.373参照

AT誤発進抑制制御

セレクトレバーの位置の入れ間違いやペダルの踏み間違いによる誤った前進を抑制します。
☞P.381参照

AT誤後進抑制制御

後退時、アクセルペダルの急な踏み込みなどによる急な後退を抑制する後退飛び出し抑制制御と、後退時の車速を制限する後退速度リミッターの2つの機能があります。
☞P.387参照

車線逸脱警報

走行中、車線を逸脱しそうになると、注意を促します。
☞P.391参照

ふらつき警報

疲れやよそ見、ぼんやり運転、横風などによるふらつきを認識し、注意を促します。
☞P.395参照

青信号お知らせ

信号が青信号に変わっても自車が発進しない場合にお知らせします。
☞P.398参照

先行車発進お知らせ

先行車が発進しても自車が発進しない場合にお知らせします。
☞P.399参照

定速クルーズコントロール

先行車の有無にかかわらず、運転者が設定したセット車速を保ちながら走行します。追従走行は行いません。EyeSightシステムが一時停止状態でも使用可能な場合があります（この機能は全車速追従機能付クルーズコントロールから切り替えて使用します）。
☞P.403参照

RAB（後退時ブレーキアシスト）

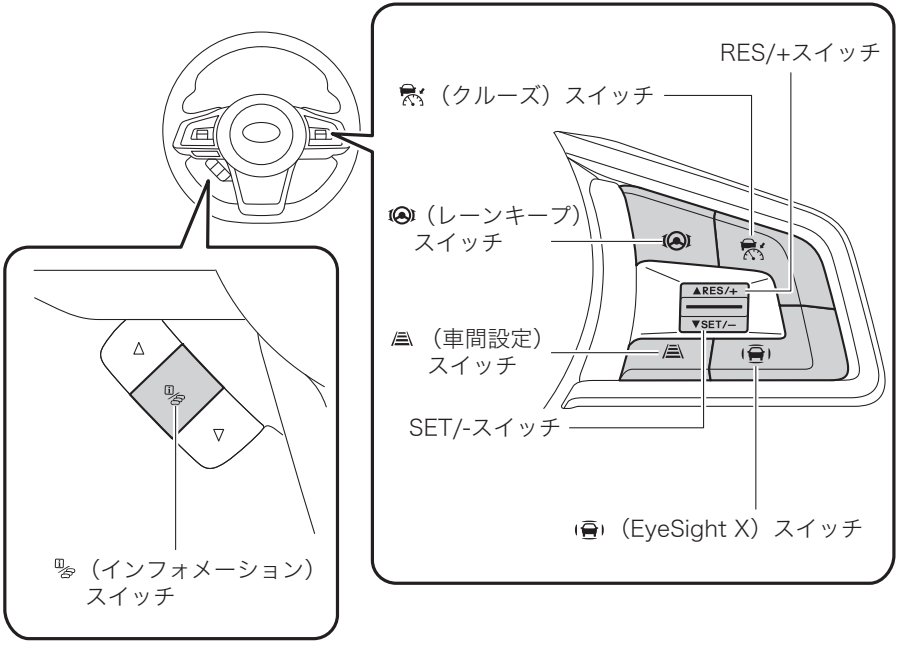
後退時に壁や障害物に衝突するおそれがあるときに、表示と警報音で知らせ、必要に応じてシステムがブレーキを作動させることで衝突を回避、または衝突の被害を軽減します。
☞P.411参照

知　識

EyeSightはエンジンがかかっていないときは作動しません（アイドリングストップによるエンジン停止時を除く）。

スイッチ構成

ステアリングスイッチ



■（クルーズ）スイッチ
- クルーズコントロール※のON、OFFができます。
このスイッチを押してメーター内に または が点灯している状態を「クルーズメインON」といいます。

☞P.337、404参照
- クルーズコントロール※のセット状態を解除できます。

☞P.347、408参照

※ 全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

■SET/−スイッチ
- クルーズコントロール※のセットができます。

☞P.337、404参照
- セット車速を下げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）

☞P.342、407参照

※ 全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

■RES/＋スイッチ
- クルーズコントロール※のセットができます。

☞P.337、404参照
- クルーズコントロール※のセット状態を解除後、解除前のセット車速に再びセットすることができます。

☞P.350、410参照
- セット車速を上げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）

☞P.341、406参照

※ 全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

■（車間設定）スイッチ
- 車間距離の設定を4段階に切り替えることができます。（全車速追従機能付クルーズコントロールのみ）

☞P.344参照
- クルーズメインONのとき、（車間設定）スイッチ※を押すと全車速追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えることができます。

※ 定速クルーズコントロールに切り替えるときは、約2秒以上押し続けてください。

■（レーンキープ）スイッチ
車線中央維持・先行車追従操舵機能のON／OFFを切り替えることができます。（全車速追従機能付クルーズコントロールがONの場合のみ）

☞P.359参照
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能がスタンバイ中は、が点灯します（白色）。
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動中は、が点灯します（緑色）。

■（EyeSight X）スイッチ
EyeSight X（高度運転支援機能）のON、OFFができます。

☞P.464参照

■（インフォメーション）スイッチ
次の場合に使用します。
- 割り込み画面を再表示できます。

☞P.119参照

プリクラッシュブレーキ

主に前方の車両や自動二輪車、歩行者、自転車など作動対象に衝突する可能性がある場合、運転者への警報による衝突回避の支援を行います。それでも運転者の衝突回避操作がない場合、衝突の直前にシステムが急ブレーキをかけ、衝突被害を軽減または衝突を回避します。また、運転者の衝突回避操作があった場合はプリクラッシュブレーキアシストにより衝突回避をアシストします。これらの機能は、追突車両だけでなく横断歩行者、横断自転車、右左折時の対向車両や対向自動二輪車、歩行者、対向自転車との衝突にも対応しています。
セレクトレバーが“D”、“M”または“N”のとき作動します。また、発進時などに誤ってアクセルペダルを踏み、前方の障害物に衝突する可能性がある場合、システムがブレーキをかけ、衝突を軽減または回避します（前側方プリクラッシュブレーキを除く）。

プリクラッシュブレーキの作動対象について

EyeSightは次のものをプリクラッシュブレーキの作動対象として認識します（機能によって作動対象が異なります）。

- 車両
- 自動二輪車
- 歩行者
- 自転車

歩行者認識について

EyeSightは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。歩行者の形状、輪郭が明瞭であるときに認識します。

⚠ 警 告

プリクラッシュブレーキは、条件によってはシステムが作動対象を認識できない場合があります。
特に、次の状況では、歩行者を作動対象と認識できない可能性が高くなります。

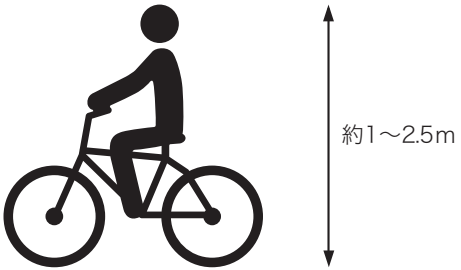
- 歩行者の体の一部が隠れているとき
- 集団で歩いているとき
- 壁際や障害物のそばにいるとき
- 傘などをさしているとき
- 背景と似た色合いで背景に溶け込んでいるとき
- 大きな荷物や、背の高いものを持っているとき、カートなどを押しているとき

⚠ 警 告

- 前かがみになっている、しゃがんでいる、横たわっているとき、急な姿勢変化（立ち上がる瞬間など）のとき
- 暗い場所にいるとき
- 横からすぐ目の前に割り込んできたり、すぐ目の前に飛び出してきたとき

自転車認識について

EyeSightは自転車を認識します。自転車認識は対象物の大きさや、形状、動きから行っています。
乗員、自転車の輪郭が明瞭であり、人間のような動きが検知できるときに認識します。



⚠ 警 告

プリクラッシュブレーキは、条件によってはシステムが作動対象を認識できない場合があります。
特に、次の状況では、自転車を作動対象と認識できない可能性が高くなります。

- 乗員や自転車の一部が隠れているとき
- 他の歩行者や自転車と集団で並走しているとき
- 壁際や障害物のそばにいるとき
- 背景と似た色合いで背景に溶け込んでいるとき
- 大きな荷物を積んでいるとき
- 乗員が立ちこぎや前かがみの姿勢で走行しているとき
- 暗い場所にいるとき
- 横からすぐ目の前に割り込んできたり、すぐ目の前に飛び出してきたとき
- 自車の前を高い速度で横断してきたとき

プリクラッシュブレーキの作動

⚠ 警 告

プリクラッシュブレーキの作動について

- プリクラッシュブレーキおよびプリクラッシュブレーキアシストを、日常の車両停止のために利用することは絶対にしない。
  - プリクラッシュブレーキはあらゆる状況で衝突を回避するものではありません。ブレーキの作動をプリクラッシュブレーキのみに頼っていると、衝突事故を起こす場合があります。
- 警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をする。
- プリクラッシュブレーキは、車両、自動二輪車、歩行者、自転車を作動対象として認識する。追突の回避、あるいは、追突の被害を軽減することを目的としているが、条件※によっては認識できない場合がある。横向きの車両や、対向から接近してくる車両、後退してくる車両、小動物や幼児、フェンス、壁や扉などに対しては作動しない可能性が高くなる。
- プリクラッシュブレーキは衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定しているので、その効果は様々な条件※により変わる。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではない。

⚠ 警 告

- プリクラッシュブレーキが作動したとき、アクセルペダルを操作してもプリクラッシュブレーキを継続する。プリクラッシュブレーキを解除するためには、アクセルペダルを急激にまたは深く踏み込む。
  ただし、アクセルペダルを最も奥まで踏み込んだときは、システムがブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いと判断して、プリクラッシュブレーキを継続することがある。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、システムによるブレーキが作動しない場合がある。
- 作動対象との速度差が約60 km/hより大きい場合、EyeSightの性能限界から衝突を回避することはできない。
  また、速度差が約60 km/h以下であっても、作動対象が割り込んできた場合やカメラの画角から外れた場合、視界、路面の滑りやすさなどの条件※の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともある。また、プリクラッシュブレーキアシストも同様に条件※の違いにより作動しないことがある。

※条件

- 作動対象との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- 対象物が作動対象以外の場合
  - 動物など

⚠ 警 告

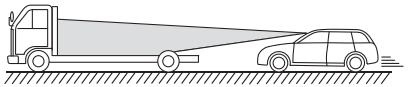
– ガードレール、電柱、木、フェンスや壁など
- 対象物が作動対象であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、作動対象とシステムが認識できない場合
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 車両などをけん引しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- カメラが認識しにくい状況について
  特に次の場合は止まりきれないことや、作動しない可能性が高くなる。
  – 作動対象がカメラの視界から外れたとき
  – 悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
  – 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
  – 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  – 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
  – 夜間の歩行者、自転車に接近したとき

⚠ 警 告

– ヘッドランプ照射範囲外に作動対象が存在するとき
– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
– フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、カメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
– 雨滴やフロントウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
– ルーフ上に積載したカヌーなどがカメラの視界を遮っているとき
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– 真っ暗で周囲に物がないとき
– 周囲一面が同じような色合いのとき（一面に雪景色など）

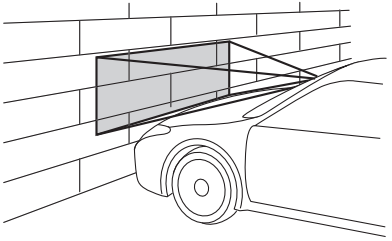
⚠ 警 告

– 前方の車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）



  – 荷台にあおりがない空荷のトラックなど
  – 後端から積荷が飛び出している車両など
  – 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
  – 車高の低い車両など
– 停車している車両の前に壁などがあるとき
– 車両の近くに別の物体があるとき
– 横向きの車両など
– 対向車両や後退してくる車両など
– 対象物の大きさや高さがカメラ認識限界より小さいまたは低いとき
  – 小動物や幼児など
  – しゃがんでいる人や横たわっている人など
– 対象物がフェンスや壁、シャッターなどのとき

⚠ 警 告



– 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
– 先行車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
– 作動対象が横からすぐ目の前に割り込んだり、すぐ目の前に飛び出してきたとき
– 自車が車線変更を行い、先行車のすぐ後ろに接近したとき
– 自車バンパーの近い位置に作動対象が存在するとき
– 速度差が約5 km/h以下の場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がカメラの視野範囲から外れる場合があります）
– 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
– 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき

• お客様ご自身でプリクラッシュブレーキの作動テストを絶対に行わない。
  – 止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- 次の状況では、システムが正しく動作しない。プリクラッシュブレーキをOFFにする。
  ☞P.329参照
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - カメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - スペアタイヤを使用しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - 歩行者保護エアバッグが作動したとき（カメラの視野に影響を与えるおそれがあります）
  - ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 定員を超えているとき

⚠ 警 告

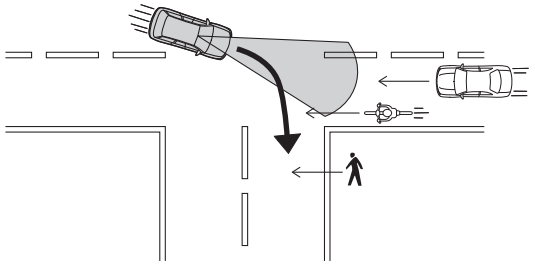
- メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なる（例：シフトポジション表示が実際と異なっている）など、メーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.788参照

※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.137参照

※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

右左折時のプリクラッシュブレーキの作動について



⚠ 警 告

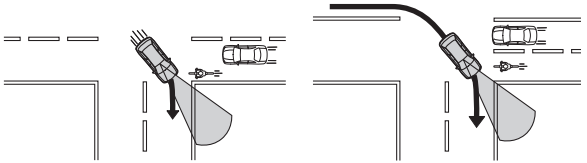
- 右左折時のプリクラッシュブレーキは、対向車両、対向自動二輪車、歩行者、対向自転車を作動対象として認識する。交差点内などで右左折する際に、隣接する対向車線上の対向車両との衝突の回避、あるいは、衝突の被害を軽減することを目的としているが、条件※によっては止まりきれないことや作動しないこともある。
- 右左折時に自車速が約25 km/hを超えている場合、本機能は作動しない。また、自車速が約25 km/h以下であっても、対象物が割り込んできた場合やカメラの画角から外れた場合、視界、路面の滑りやすさなどの条件※の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともある。

※条件

- 作動対象との速度差、車間距離、接近する角度や作動対象の挙動の変化、横方向のずれ具合
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- 対象物が作動対象以外の場合
  - 停止中または自車と同方向に走行している車両
  - 動物など
  - ガードレール、電柱、木、フェンスや壁など
- 対象物が作動対象であっても、自車が進行方向と同方向に方向指示を点灯していない場合
- 対象物が作動対象であっても、作動対象が路肩障害物の近くを走行している場合

⚠ 警 告

- 対象物が作動対象であっても、作動対象が自車線上にて停車・走行している場合
- 対象物が作動対象であっても、車両前面が見えない、夜間に作動対象がヘッドランプの無灯火などで見えにくい状況などによって、作動対象とシステムが認識できない場合
- 対象物が対向車両であっても、作動対象とシステムが認識する前に自車が対向車両の進行路に進入している場合
- 対象物が作動対象であっても、自車が対向車線に進入している場合



- 対象物が作動対象であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、作動対象とシステムが認識できない場合

特に次の場合は止まりきれないことや、作動しない可能性が高くなります。

- 車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
- 夜間の対向自動二輪車、歩行者、対向自転車に接近したとき

⚠ 警 告

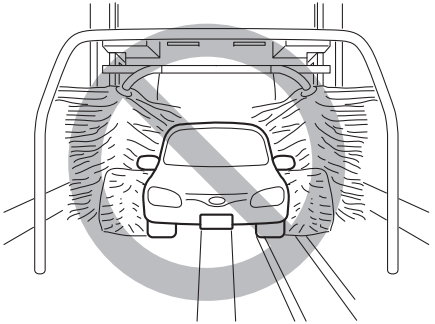
- ヘッドランプ照射範囲外に作動対象が存在するとき
- 対向車両の最前面が小さい、低い、または凹凸があるとき
- 横向きの車両など
- 後退してくる車両など
- 対向車両が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 作動対象が横からすぐ目の前に割り込んだり、すぐ目の前に飛び出してきたとき
- 自車バンパーの近い位置に作動対象が存在するとき
- 運転者が急ハンドルや、ハンドルを切り戻したとき
- 交差する角度が鋭角または大きく緩やかに変化する道路などに進入するとき
- クランクやカーブ、分岐が連続している道路などに進入するとき

⚠ 注 意

- 次のような場合は、プリクラッシュブレーキが予期しない作動をすることがあるので、必ずプリクラッシュブレーキをOFFにする。
  ☞P.329参照
  - けん引されるとき
  - キャリアカーに積載するとき
  - シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
  - リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
  - 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき

⚠ 注 意

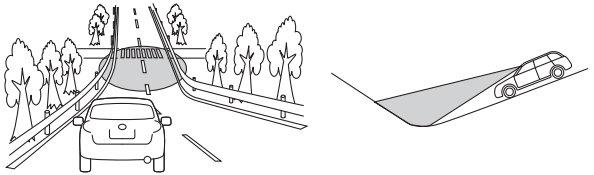
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 車両が移動するタイプの洗車機を使用するとき



- 次のような場合は、プリクラッシュブレーキが作動することがあるので安全運転に努める。
  - ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
  - 作動対象に接近して走行するとき
  - 前方の壁や路面に作動対象との区別がつきにくい映り込みやペイントなどがあるとき

⚠ 注 意

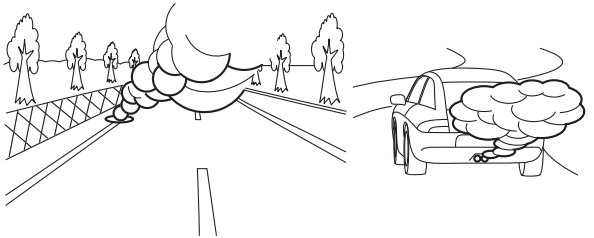
− 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき



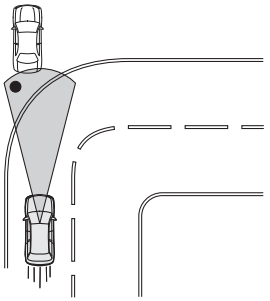
− 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
− 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
− 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
− カメラ前のフロントガラス（外側、内側）の汚れや曇りなどに強い光が反射し、発生した光の筋がカメラに映り込んだとき

⚠ 注 意

− 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき



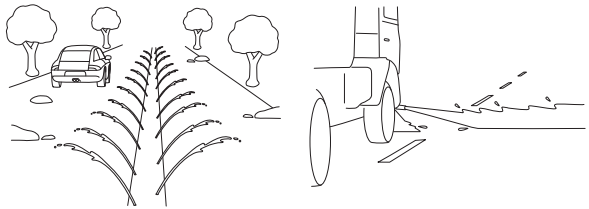
− カーブや交差点に作動対象や障害物があるとき



− 作動対象や障害物などの横すれすれを通過するとき
− 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

⚠ 注 意

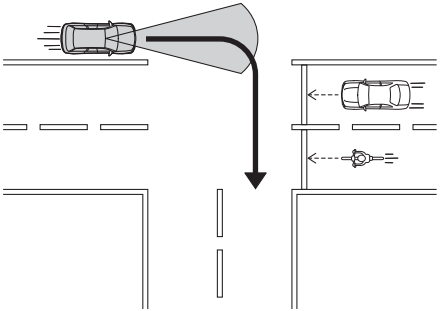
– 消雪パイプや散水車などの散水を通過するとき



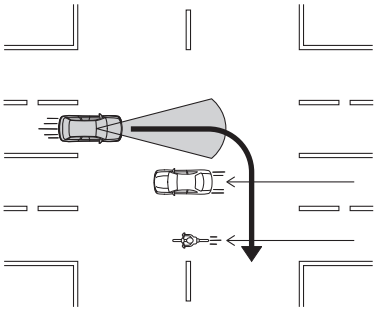
- プリクラッシュブレーキを解除するためには、アクセルペダルを急激にまたは深く踏み込む。ただし、アクセルペダルを最も奥まで踏み込んだときは、システムがブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いと判断して、プリクラッシュブレーキを継続することがある。この場合、アクセルペダルを踏み続けるか、再度踏み込む。
- 用品を装着したり荷物を積載し、これがフロントバンパー先端より前方に突出した場合、先端が長くなるため衝突を回避できないことがある。
- システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが引き込まれることがある。異常ではなく、さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできる。必要に応じてブレーキを踏み増しする。

⚠ 注 意

- 作動対象が接近していなくても以下の状況ではシステムが作動するおそれがある。
  – 右左折時、自車が対向車線に進入する直前に作動対象が交差点手前で減速または停止したとき

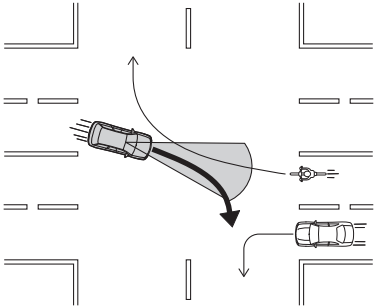


  – 右左折時、自車が対向車線に進入する直前に作動対象が通過したとき

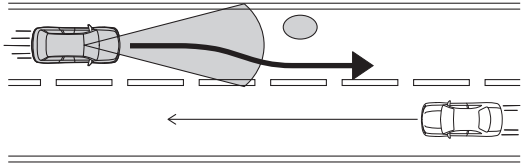


⚠ 注 意

– 右左折時、自車が対向車線に進入する直前に右左折する作動対象とすれ違ったとき



– 車線変更しようとしたり、障害物を避けようとしたりして、作動対象に急接近するように走行したとき

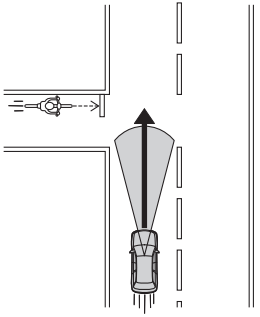


– 右左折時に、自車の前を歩行者が横断したり、横断する直前で歩行者が歩みを緩めたり、止まったとき

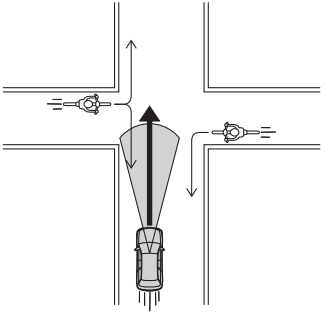
⚠ 注 意

– 右左折時に、自車の前で対向自動二輪車、対向自転車が急に止まったり、向きを変えるような動きをしたとき

– 作動対象が自車の前に飛び出してくる直前に、減速または停止したとき



– 作動対象が自車の前に飛び出してくる直前に、向きを変えて合流またはすれ違ったとき



知 識

システムによるブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。

走行中、前方に障害物があるとき、次の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。ブレーキ制御中はブレーキランプが点灯します。

(1) 車間距離警報：

衝突の可能性があると判断した場合に、ブザー（ピピピ…）とメーターの表示で注意を促します。ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとると解除します。

知 識

車間距離警報の作動タイミングを3段階に設定できます。
☞P.125参照

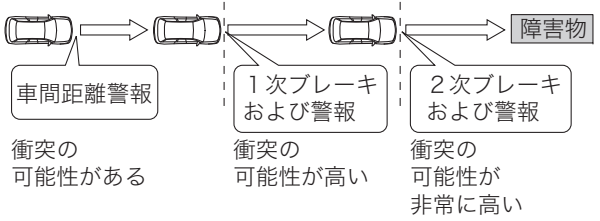
(2) 1次ブレーキおよび警報：

走行時に前方障害物に衝突する可能性が高いと判断した場合、ブザー（ピピピ…）とメーターの表示で注意を促し、ブレーキ制御を行い、また、エンジン出力を抑制します。運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

(3) 2次ブレーキおよび警報：

さらに衝突する可能性が非常に高いと判断した場合、ブザー（ピーーー）に変わり、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。その後、運転者による衝突回避操作の有無にかかわらず、衝突が回避できないと判断した場合、ブレーキ制御およびエンジン出力の抑制を継続します。

2次ブレーキにより車両が停止した場合は、車両を確実に停止させるためにブレーキペダルを踏んでください。



	システムによる ブレーキの強さ	メーターの表示	警報音
車間距離警報	ブレーキ制御なし		ピピピ…
1次ブレーキおよび警報	弱い		ピピピ…
2次ブレーキおよび警報	強い		ピーーー

知 識

- 2次ブレーキで停止した後、次の場合はブレーキ制御を解除します。
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - アクセルペダルを踏んだとき（セレクトレバーが“N”のとき以外）
  - セレクトレバーを“P”にしたとき
  - 停止後約2分間経過したとき
  - 電動パーキングブレーキが作動したとき
- 2次ブレーキで停止した後、次の場合は電動パーキングブレーキが作動します。
  ☞**P.249**参照
  - 停止後約2分間経過したとき
  - いずれかのドアを開けたとき
  - EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）
  ☞**P.422**参照
  - EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight（白色）が点灯している）
  ☞**P.422**参照
- 次の場合、プリクラッシュブレーキの1次ブレーキおよび2次ブレーキは作動しません。
  - 自車速が約1 km/h以下（セレクトレバーが“N”のときは約4 km/h以下）または約160 km/h以上のとき
  - 自車速100 km/h以上で走行中、対象物が自動二輪車、歩行者、自転車のとき
  - VDCが作動しているとき

知 識

- 先行車のブレーキランプ点灯を認識した場合は、認識しない場合と比べて若干早めに減速を開始します。
- 前方障害物との速度差が大きい場合など、1次ブレーキの継続時間が長いときは、警報効果を高めるため、ブレーキを強めたり弱めたりする場合があります。

プリクラッシュブレーキが作動すると、メーターにプリクラッシュブレーキが作動したことを通知する割り込み画面を一定時間表示します。

- 車両の停止までブレーキ制御が継続した場合
  停車後もブレーキペダルが踏まれない場合は運転者にブレーキペダルを踏むことを促すために割り込み画面を表示し、ブザー（ピー）が鳴ります。この画面はブレーキペダルを踏むまで約2分間表示されます。

- 車両の停止までブレーキ制御が継続しなかった場合
  メーターにプリクラッシュブレーキが作動したことを通知する割り込み画面を表示します。

プリクラッシュブレーキアシストの作動

プリクラッシュブレーキ作動後（前方障害物に衝突する可能性が高いと判断後）、運転者がブレーキペダルを踏み込んだとき、緊急制動と判断し、ブレーキアシストが作動します。

⚠ 注 意

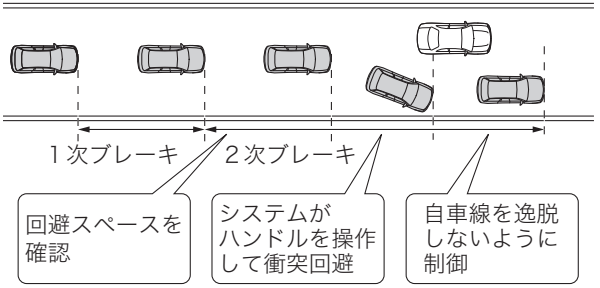
- 車間距離警報だけ作動している状態で運転者がブレーキペダルを踏んでも、プリクラッシュブレーキアシストは作動しない。
  － 運転者による通常の制動力で減速します。

知 識

プリクラッシュブレーキアシストは、自車速が約10 km/h以下または約160 km/h以上のときは作動しません。
☞P.246参照

緊急時プリクラッシュステアリングの作動

走行中、前方に障害物があるとき、衝突を回避するため、プリクラッシュブレーキ（1次ブレーキ／2次ブレーキ）が作動します。2次ブレーキ作動後、システムが区画線のある道路を走行中であることを判別し、自車線内に回避スペースがあるか判断します。また同時に後側方レーダーによって、後側方の接近車両の有無も確認します。2次ブレーキのみでは障害物に衝突する可能性が非常に高い場合、これらの情報から緊急時プリクラッシュステアリングが作動し、自車線内で障害物を回避するようにハンドルを制御します。障害物回避後は、自車線内を逸脱しないように車両停止までブレーキおよびハンドル制御を継続します。



⚠ 警 告

- 緊急時プリクラッシュステアリングは、車両、自動二輪車、歩行者、自転車を作動対象として認識する。
  追突の回避、あるいは追突の被害を軽減することを目的としているが、条件※によって対象を認識できない場合には作動できない可能性がある。

⚠ 警 告

- 緊急時プリクラッシュステアリングが作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でハンドル操作やブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をする。
- 緊急時プリクラッシュステアリングは、プリクラッシュブレーキでは衝突が避けられないと判断し、走行状況や、作動対象への作動条件を満たしている場合に作動するように設定しているため、その効果は様々な条件により変わる。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではない。
- 緊急時プリクラッシュステアリングは、プリクラッシュブレーキが解除された場合は、作動しない。また、プリクラッシュブレーキの減速度が十分に出ていない時は作動しない。
- 運転者がハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、システムによるハンドル操作が作動しない場合がある。
- 緊急時プリクラッシュステアリングは運転者がハンドルを持っていないと判断したときは作動しない。
- 自車速約80 km/hを超えている場合は、作動しない。また、自車速約80 km/h以下であっても、他の車両が急に割り込んだ場合や、視界、路面の滑りやすさなどの条件※の違いにより、衝突回避できないことや作動しないこともある。

※条件

- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- 対象物が作動対象であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、作動対象とシステムが認識できない場合

⚠ 警 告

- 対象物が作動対象と識別できた場合でも、姿勢や角度などによって横断、または横移動する可能性があるとシステムが判断した場合
- 対象物が作動対象と識別できた場合でも、横断しているときや、割り込み車両のような対象物が横移動していることが判断できた場合
- 自車前方の中央付近にいる作動対象と衝突するとき
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 車両などをけん引しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 障害物を作動対象として識別できていないとき
- 区画線が検出できていないとき
- 運転者のハンドル操作を検出できていないとき
- 直線路を走行していないとき
- 急勾配な路面を走行しているとき

⚠ 警 告

- ステレオカメラが認識しにくい状況について
  特に次の場合は衝突回避できないことや、作動しない可能性が高くなる。
  - 工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき
  - カーブがある道
  - 古い区画線が残っているとき
  - 路面に雪や水たまり、融雪剤が残っているとき
  - 路面にひび割れや補修の跡があるとき
  - 凍結路や積雪路など滑り易い路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
  - 対象物の近くへ、周辺の車両、自転車、歩行者が接近しているとき
  - 自車に対向車両、追い越し車両が接近しているとき
  - 作動対象が横方向に移動しているとき
  - 自車走行車線がステレオカメラから見て認識しづらいとき（区画線（白線など）が無いまたは消えかかっている。または区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい。または区画線の幅が細いなど）
  - 隣接車線の前方から車両が接近してきたとき
  - 自車線内に回避できるスペースがないとき
  - リヤバンパーの付近が汚れていたり、氷雪、泥などが付着していたりするとき

⚠ 警 告

  - リヤバンパーにキズ・へこみ・ズレなどがあるとき
  - 雪道、水たまりなど、ぬれた路面を走行し、自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げているとき
- お客様ご自身で緊急時プリクラッシュステアリングの作動テストを絶対に行わない。
  - 止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次の状況では、システムが正しく動作しない。緊急時プリクラッシュステアリングをOFFにする。
  ☞P.329参照
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
  - ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
  - ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
  - ハンドルを指定品以外に交換しているとき
  - 車両などをけん引しているとき
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき

⚠ 警 告

- スペアタイヤを使用しているとき
- ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 歩行者保護エアバッグが作動したとき（カメラの視野に影響を与えるおそれがあります）
- ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
- ステアリング制御警告灯が点灯しているとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 定員を超えているとき
- メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なる（例：シフトポジション表示が実際と異なっている）など、メーターに何らかの異常があるとき※3

⚠ 警 告

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.788参照

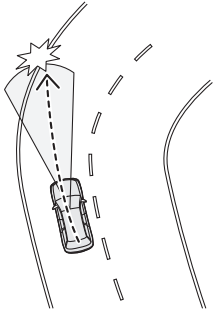
※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.137参照

※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
  - 路面がぬれて光が反射しているとき
  - 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
  - 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
  - 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき

⚠ 警 告

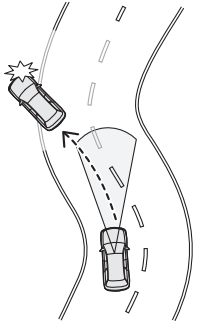
– カーブの形状が急激に変化するとき



– 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
– 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
– 車線の幅が変化したとき
– 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線がない、または消えかかっている
  - 区画線が黄色で描かれている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線が二重に描かれている
  - 区画線の幅が細いなど
  - 区画線以外の線が路面に描かれている
  - 区画線に壁やポールが隣接している

⚠ 警 告

– 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



– 高速道路のインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリア、パーキングエリア入口などの分岐レーンに差しかかったとき

– 路肩に縁石や側壁があるとき

⚠ 警 告

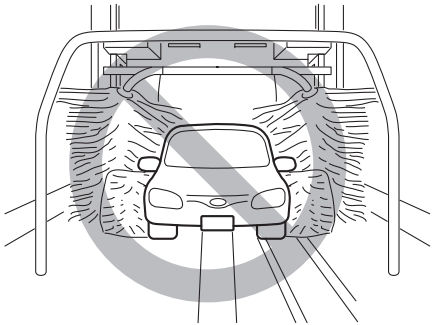
ー トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき

⚠ 注 意

次のような場合は、緊急時プリクラッシュステアリングが予期しない作動をすることがありますので、必ず緊急時プリクラッシュステアリングをOFFにしてください。

☞P.329参照

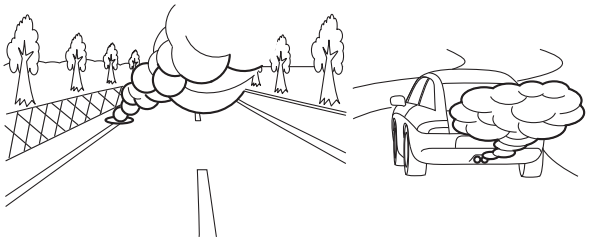
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 車両が移動するタイプの洗車機を使用するとき



⚠ 注 意

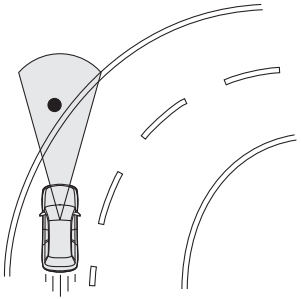
次のような場合は、緊急時プリクラッシュステアリングが作動することがありますので安全運転に努めてください。

- 作動対象に接近して走行するとき
- 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
- 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき



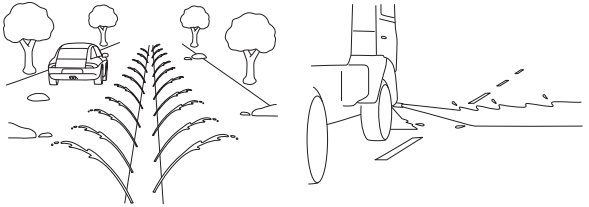
⚠ 注 意

- カーブや交差点に障害物があるとき



- 作動対象や障害物、草木などの横すれすれを通過するとき
- 遮蔽物からの急な飛び出し、自車横から急な割り込みに対しシステムが認識できないとき
- 障害物が急に移動し始めたとき
- 自車走行車線の区画線が無いが、隣接車線・沿道との間が、路面の色の違いで区分けされているとき
- 道路上の汚れ、亀裂、縁石などが、自車走行車線の区画線との区別がつきにくいとき
- 道幅が狭く、自車走行車線と対向車線の区画線の区別がつきにくいとき
- 消雪パイプや散水車などの散水を通過するとき

⚠ 注 意



- 緊急時プリクラッシュステアリングを解除するためには、ハンドル操作をするか、アクセルペダルを踏み込む。
- 用品を装着したり荷物を積載し、これがフロントバンパー先端より前方に突出した場合、先端が長くなるため衝突を回避できないことがある。

知 識

次のようなときは緊急時プリクラッシュステアリングは作動しません。

- プリクラッシュブレーキシステムがOFFのとき
- SRVDがOFFのとき
- 対象物が対向車両、対向自動二輪車、対向自転車のとき
- 作動対象が自車両の前を横断するとき
- 回避するための十分なスペースが無いとき、また回避スペース周辺に別の物体が検出されたとき
- 自車の前方、または後方より移動物が接近しているとき

知 識

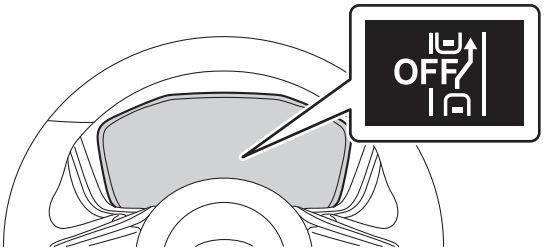
- 車線、区画線が検出できないとき
- ガードレールなどの構造物に対してプリクラッシュブレーキが作動しているとき
- システムがステアリング制御で回避しきれないと判断したとき
- ドライバー異常時対応システムが作動しているとき
- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）
  ☞**P.422**参照
- EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight（白色）が点灯している）
  ☞**P.422**参照

緊急時プリクラッシュステアリングが作動すると、メーターに緊急時プリクラッシュステアリングが作動したことを通知する割り込み画面を一定時間表示します。
☞**P.298**参照

緊急時プリクラッシュステアリングの一時停止および故障

緊急時プリクラッシュステアリングが一時停止すると、が点灯します。状況が改善されると正常復帰します。
また、極めて高温または低温の環境で使用したときや、バッテリー電圧の異常が発生したとき表示されます。

が長時間点灯し続ける場合は故障のおそれがありますので、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。



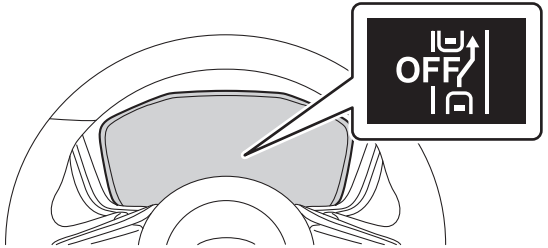
知 識

SRVDがOFFのときは、緊急時プリクラッシュステアリングは使用できません。その時は、が点灯します。

緊急時プリクラッシュステアリングOFF表示灯

- プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。
- 緊急時プリクラッシュステアリングをOFFにすると点灯します。

☞**P.329**参照



前側方プリクラッシュブレーキの作動

主に出会い頭車両（自動二輪車、自転車除く）に衝突する可能性がある場合、運転者への警報による衝突回避の支援を行います。それでも運転者の衝突回避操作がない場合、衝突の直前にシステムが急ブレーキをかけ、衝突被害を軽減または衝突を回避します。

セレクトレバーが“D”、“M”または“N”のとき作動します。

⚠ 警 告

- 前側方プリクラッシュブレーキを、日常の車両停止のために利用することは絶対にしない。
  - 前側方プリクラッシュブレーキはあらゆる状況で衝突を回避するものではありません。ブレーキの作動を前側方プリクラッシュブレーキのみに頼っていると、衝突事故を起こす場合があります。
- 警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をする。
- 前側方プリクラッシュブレーキは、交差車両（自動二輪車、自転車除く）を作動対象として認識する。
  出会い頭衝突の回避、あるいは被害を軽減することを目的としているが、条件※の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともある。
- 前側方プリクラッシュブレーキは衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定しているので、その効果は様々な条件※により変わる。
  そのため、常に同じ性能が発揮できるものではない。

⚠ 警 告

- 前側方プリクラッシュブレーキが作動したとき、アクセルペダルを操作しても前側方プリクラッシュブレーキを継続する。前側方プリクラッシュブレーキを解除するためには、アクセルペダルを急激にまたは深く踏み込む。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、システムによるブレーキが作動しない場合がある。
- 自車と作動対象の速度が作動範囲外の場合は、衝突回避することはできない。また、作動範囲内であっても、作動対象が急に飛び出してきた場合や周辺の道路環境、フロントバンパーの状態、路面の滑りやすさなどの条件※の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともある。
  前側方レーダーは、フロントバンパー側面に取り付けられているため、運転者の前方視界と異なる。そのため、接近してくる車両を運転者が認知できていた場合であっても、周囲環境（縁石、ガードレール、フェンスなどの遮蔽物）により、前側方レーダーで検出できず、作動しないことがある。

※条件

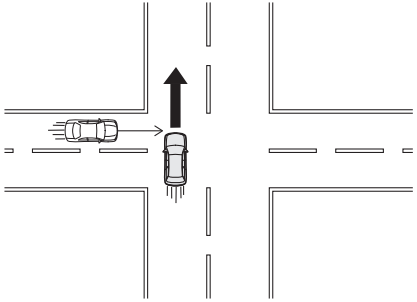
- 作動対象との速度差、距離、接近の状態
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- 対象物が作動対象以外の場合
  - 動物など
  - 自動二輪車、歩行者、自転車

⚠ 警 告

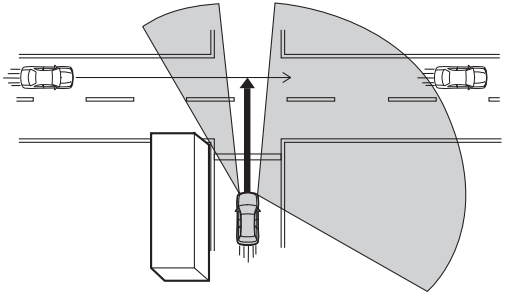
  - ガードレール、電柱、木、フェンスや壁などの静止物
- 対象物が作動対象であっても、動きや角度などによって、作動対象とシステムが認識できない場合
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が衝突回避操作をしたとシステムが判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 車両などをけん引しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 前側方レーダーが認識しにくい状況について
  特に次の場合は止まりきれないことや、作動しない可能性が高くなる。
  - 悪天候（強い雨、吹雪、濃霧など）のとき
  - 先行車や対向車両、出会い頭車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、センサーの周辺環境が良好でないとき
  - トンネル内やトラス橋などの、周囲がおおわれている環境
  - 出会い頭車両の前面と側面の面積が小さいとき（車高が低いなど）
  - 荷台にあおりがない空荷のトラックなど
  - 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）

⚠ 警 告

– 作動対象より先に自車が交差点を通過するとき



– 自車と出会い頭車両の間に遮蔽物（壁、フェンス、建物、ガードレール、電柱、標識、街路樹など）があるとき



– 対向車両や後退してくる車両、並走車両、合流車両など
– 対象物が前側方レーダーの認識できない大きさ、高さのとき

⚠ 警 告

– 作動対象が旋回、加速、減速したとき
– 自車が旋回（右左折）中とその直後
– 自車が車線変更中とその直後
– 自車バンパーの近い位置に作動対象が存在するとき
– 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
– 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき

- お客様ご自身で前側方プリクラッシュブレーキの作動テストを絶対に行わない。
  – 止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次の状況では、システムが正しく動作しない。前側方プリクラッシュブレーキの設定をOFFにする。
  ☞P.329参照
  – タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  – 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  – 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  – パンク修理キットで応急修理をしたとき
  – サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  – タイヤチェーンを装着しているとき
  – スペアタイヤを使用しているとき
  – 前側方レーダー付近を妨げるようなもの（ステッカーなど）を車体に取り付けたとき
  – 前側方レーダー付近が汚れていたり、氷雪、泥などが付着していたりするとき（作動対象へ正しく照射できず、認識できない）

⚠ 警 告

– 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
– フロントバンパーを衝突、傷つけてしまったとき
– エアバッグが作動したとき（フロントバンパーが変形しているおそれがあります）
– ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– 定員を超えているとき
– メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なる（例：シフトポジション表示が実際と異なっている）など、メーターに何らかの異常があるとき※3

前側方レーダーが認識しにくい状況について

- 次の状況では、作動対象が認識しづらくなる。認識しづらい状況では、前側方プリクラッシュブレーキ、前側方警戒アシスト、EyeSight X（高度運転支援機能）が一時停止状態になる場合があります。状況が改善され、しばらく走行すれば、再び機能は動作する。
  – 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など）
  – フロントバンパー上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないとき
  – フロントバンパーに雪や汚れ、霜、氷、土埃の付着や傷などがついて、前側方レーダーの電波を遮っているとき
  – 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  – 先行車や対向車両などの水や雪などの巻き上げや水蒸気、砂、煙、土埃などが舞い、視界が十分でないとき

⚠ 警 告

– 作動対象の前面、側面、後面のいずれかが小さい（例えばトレーラーなど）、低いとき
– 対象物がガラスや木材など電波を反射しにくい物体のとき
– 強い電波を発している設備（天文台など）周辺を走行しているとき
– 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどを通過するとき
– 急な上り坂、急な下り坂のとき

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.788参照
※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.137参照
※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

⚠ 注 意

次のような場合は、前側方プリクラッシュブレーキが予期しない作動をすることがありますので、必ず前側方プリクラッシュブレーキをOFFにしてください。
☞P.329参照

- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき

⚠ 注 意

- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 車両が移動するタイプの洗車機を使用するとき
- 道路が冠水しているとき

次のような場合は、前側方プリクラッシュブレーキが作動することがありますので安全運転に努めてください。

- ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
- 路面の勾配や舗装が急に変化する場所を走行するとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 車両や障害物、草木などの横すれすれを通過するとき
- 前方の壁や車両すれすれに停車するとき
- 消雪パイプや散水車などの散水を通過するとき

スバル指定以外のアクセサリー用品を装着したり荷物を積載し、これがフロントバンパー先端より前方に突出した場合、先端が長くなるため衝突を回避できないことがあります。

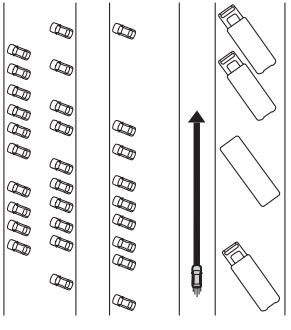
システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが引き込まれることがあります。異常ではなく、さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

近くに車両が接近していなくても以下の状況ではシステムが作動するおそれがあります。

- 電波を強く反射する物体（金属製の大型看板など）の横を通過するとき

⚠ 注 意

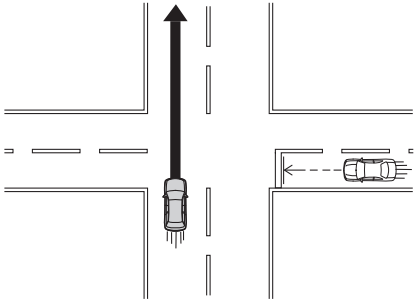
- ビル街やトンネルなど周囲を囲まれた周辺を通過するとき
- 停止車両（バス、トラック、乗用車など）の横を通過するとき
- 渋滞している車線の横を並走するとき
- サービスエリア、パーキングエリアなどの斜め駐車車両（バス、トラック、乗用車など）の横を通過するとき



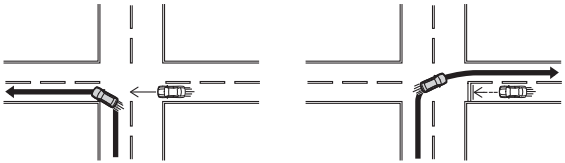
- 柵など（ブロック塀、金属製の柵、路面電車などの駅の壁など）の横を通過するとき
- 工事現場の横を通過するとき

⚠ 注 意

- 作動対象が、交差点手前で停止するとき

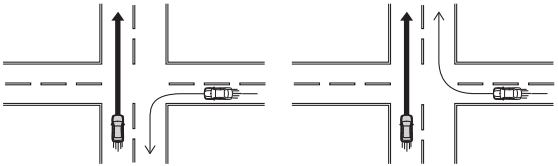


- 左右から作動対象が接近中に右左折するとき

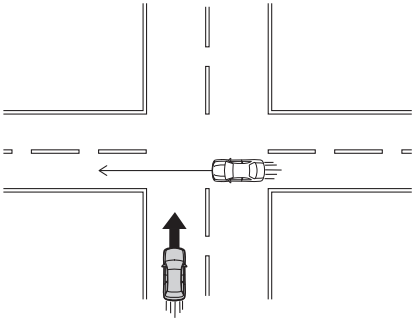


⚠ 注 意

- 交差点接近時に右から自車の方に右左折する車両があるとき



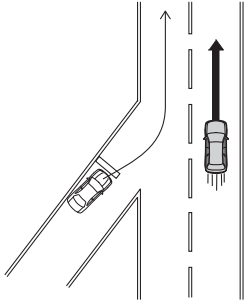
- 交差点接近時に、自車の遠方にある交差道路を通過する車両があるとき



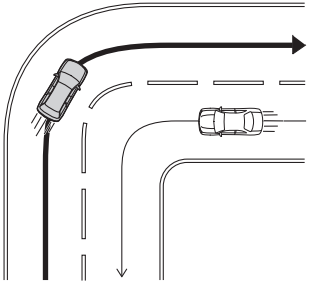
- 自車が隣車線の車両を追い抜く、または追い抜かれるとき
- 対向車線の車両が接近し、すれ違うとき
- 右左折の旋回時に作動対象が存在するとき

⚠ 注 意

- 自車に歩行者、自転車、台車などが接近してくるとき
- 後方から自車に向かって隣車線に合流車が接近してきたとき



- 除雪車両などの特殊車両横を通過するとき
- 斜め看板の横を通過したとき
- カーブですれ違う対向車が接近したとき

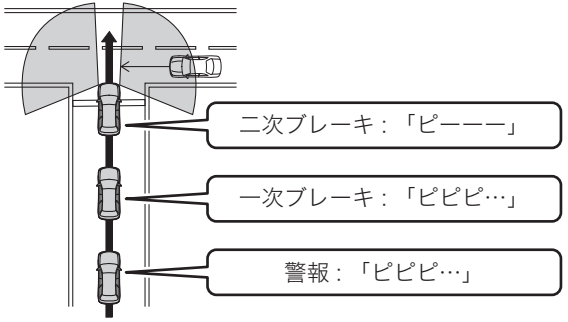


- 道路中央のポールや中央分離帯の横を通過したとき

⚠ 注 意

- 信号待ち時に自車前を横断する車両があるとき
- 前側方レーダーの搭載位置付近に障害物（生い茂った草や垂れ下がった枝など）があるとき

前側方レーダーによって前側方から接近する車両を検知し、見通しの悪い交差点や店舗駐車場からの出庫時など、事故が発生しやすいシーンでブレーキをアシストします。
また警報音、EyeSightアシストモニター、メーター、センターインフォメーションディスプレイ（フロントビュー表示時）への表示により、注意喚起を行います。



前側方から接近してくる車両（約5 km/h～約60 km/h）に次の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。ブレーキ制御中はブレーキランプが点灯します。

(1) 警報（自車速約1 km/h～約60 km/h）：
出会い頭車両との衝突の可能性があると判断した場合に、ブザー（ピピピ…）とメーターの表示で注意を促し、エンジン出力を抑制します。ブレーキペダルを踏んで減速し、衝突の可能性が低くなると解除します。

(2) 1次ブレーキおよび警報（自車速約1 km/h～約20 km/h）：
走行時に出会い頭車両に対して衝突する可能性が高いと判断した場合、ブザー（ピピピ…）とメーターの表示で注意を促し、ブレーキ制御を行い、また、エンジン出力を抑制します。運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

(3) 2次ブレーキおよび警報（自車速約1 km/h～約20 km/h）：
さらに衝突する可能性が非常に高いと判断した場合、ブザー（ピーーー）に変わり、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。その後、運転者による衝突回避操作の有無にかかわらず、衝突が回避できないと判断した場合、ブレーキ制御およびエンジン出力の抑制を継続します。2次ブレーキにより車両が停止した場合は、車両を確実に停止させるためにブレーキペダルを踏んでください。

	システムによるブレーキの強さ	メーターの表示	警報音
警報 (画面は右側からの車両を検知したとき)	ブレーキ制御なし		ピピピ…
1次ブレーキ	弱い		ピピピ…

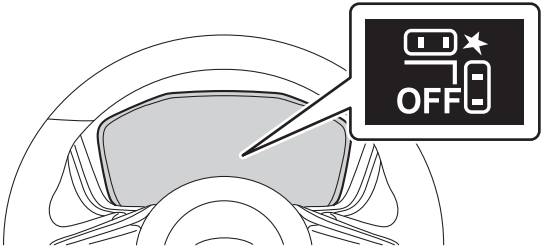
	システムによるブレーキの強さ	メーターの表示	警報音
2次ブレーキ	強い		ピーーー

前側方プリクラッシュブレーキが作動すると、メーターに前側方プリクラッシュブレーキが作動したことを通知する割り込み画面を一定時間表示します。
☞P.298参照

前側方プリクラッシュブレーキの一時停止

前側方プリクラッシュブレーキが一時停止すると、 が点灯します。状況が改善されると正常復帰します。
また、極めて高温または低温の環境で使用したときや、バッテリー電圧の異常が発生したとき表示されます。

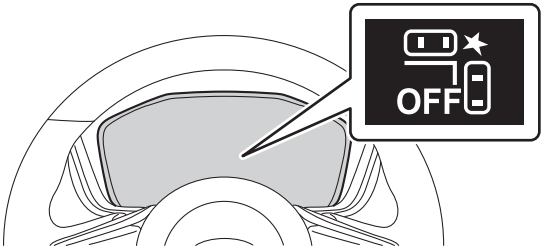
が長時間点灯し続ける場合は、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。



前側方プリクラッシュブレーキOFF表示灯

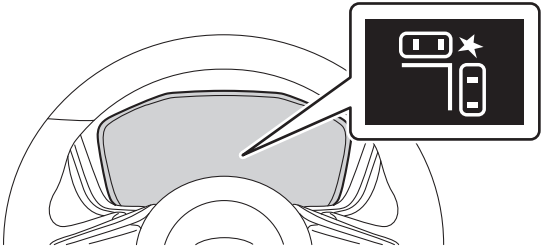
- プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。
- 前側方プリクラッシュブレーキをOFFにすると点灯します。

☞P.329参照



前側方プリクラッシュブレーキ警告灯

システムに異常が発生したときは が点灯します。SUBARU販売店で点検を受けてください。



プリクラッシュブレーキをOFFにするとき

自車の停車中に、センターインフォメーションディスプレイのEyeSight設定項目でプリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシスト、緊急時プリクラッシュステアリング、前側方プリクラッシュブレーキ含む）をOFFすることができます。

「プリクラッシュブレーキ」の項目で「設定OFF」を選択することでプリクラッシュブレーキがOFFになります。
☞P.125参照

プリクラッシュブレーキをOFFにすると、メーター内の が点灯します。

知 識

- プリクラッシュブレーキのON／OFF設定は、緊急時プリクラッシュステアリング、前側方プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御と連動します。
- プリクラッシュブレーキをOFFにしていても、再度エンジンを始動するとプリクラッシュブレーキはONになります。
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能作動中は、プリクラッシュブレーキをOFFにできません。

プリクラッシュブレーキOFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。
プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御をOFFにすると点灯します。

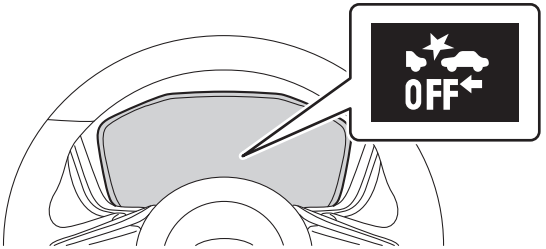
また、次の場合にも点灯します。

- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）

☞P.422参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（（白色）が点灯している）

☞P.422参照

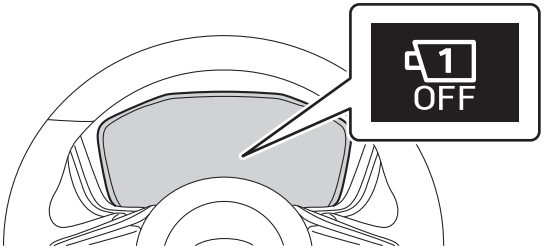


知 識

- が点灯した場合、およびも点灯します。
☞P.318、328参照
- が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリング、前側方プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御は作動しません。
- SRVDがOFFのときは、緊急時プリクラッシュステアリングは使用できません。その時は、が点灯します。

広角単眼カメラOFF表示灯

広角単眼カメラが一時停止すると、広角単眼カメラOFF表示灯が点灯します。状況が改善されると正常復帰します。
また、広角単眼カメラ前のガラス（外側、内側）が汚れている、曇っているなどの場合や、極めて高温または低温の環境で使用したときや、バッテリー電圧の異常が発生したとき表示されます。
広角単眼カメラOFF表示灯が長時間点灯し続ける場合は、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。



知 識

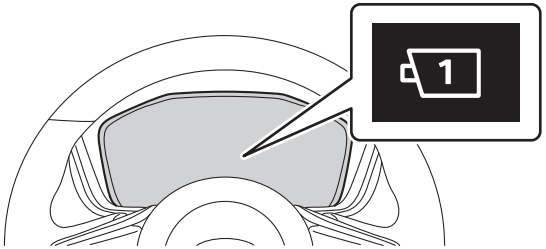
- が点灯していないときに が点灯している場合は、EyeSightシステムの視野範囲が狭くなります。そのためプリクラッシュブレーキの作動対象および作動範囲が制限されます。
- 広角単眼カメラ前のガラス外側が汚れている、曇っているなどの場合は、清掃を行ってください。

知 識

- 広角単眼カメラ前のガラス内側が曇っている場合は、しばらく走行するとその状況が解消され復帰します。また、デフロスターを使用することで効果的に状況が解消できる場合があります。
  ☞P.511参照
- 広角単眼カメラ前のガラス内側やレンズ部周辺が汚れている、または曇りが晴れない場合はSUBARU販売店で点検を受けてください。

広角単眼カメラ警告灯

システムに異常が発生したときは広角単眼カメラ警告灯が点灯します。SUBARU販売店で点検を受けてください。



知 識

- OFF が点灯していないときに 1 が点灯している場合は、EyeSightシステムの視野範囲が狭くなります。そのためプリクラッシュブレーキの作動対象および作動範囲が制限されます。
- エンジンを再始動しても 1 が点灯し続けるときは、広角単眼カメラの異常が考えられます。この場合、通常走行には支障ありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。

全車速追従機能付クルーズコントロール

全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。先行車をステレオカメラで認識し、運転者が設定した車速を上限に、先行車に対して追従走行を行います。先行車に追従して停止したときは、電動パーキングブレーキと連動して停止状態を保持します。
全車速追従機能付クルーズコントロールは、自車速が0 km/h～約120 km/hのときに使用できます。

⚠ 警 告

全車速追従機能付クルーズコントロールについては次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 全車速追従機能付クルーズコントロール機能を過信しない。
  - 全車速追従機能付クルーズコントロールの能力には限界があります。わき見運転やぼんやり運転、運転者の前方不注意や視界不良での運転操作の補助など、あらゆる走行状況を判断して自動的に運転する装置ではありません。また、追突を防止する装置ではありません。
    運転時は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして適切な車間距離を保ち、安全運転に努めてください。
- 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定する。

⚠ 警 告

- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。
  ☞「メンテナンスノート」参照

次の状況では、システムが正しく動作しません。全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

- タイヤの空気圧が適正でないとき※1
- 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
- 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
- ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
- ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
- パンク修理キットで応急修理をしたとき
- サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
- ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- スペアタイヤを使用しているとき
- ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2

⚠ 警 告

- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 定員を超えているとき
- 車両などをけん引しているとき
- メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.788参照

※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.137参照

※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

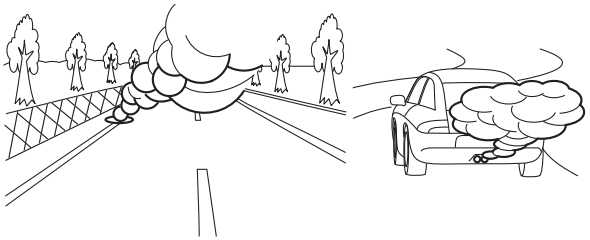
- 一般道（自動車専用道路以外）
  - 道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
- 急カーブがある道
- 凍結路や積雪路など滑り易い路面

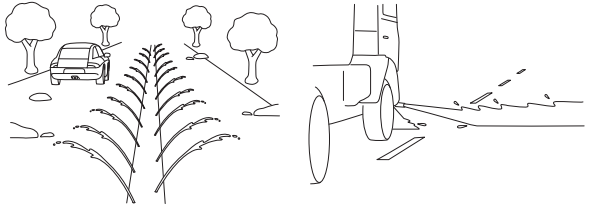
⚠ 警 告

– タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

- 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
  – 交通環境に沿った走行ができない場合があります。
- 急な下り坂
  – セットした車速を超えてしまう場合があります。
- 急な下り坂が続くとき
  – ブレーキが過熱するおそれがあります。
- 急な上り坂、下り坂を繰り返す道や陸橋など
  – 先行車を認識できなかったり、路面を認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
- インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
  – 先行車を認識できない場合があります。
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気、消雪パイプや散水車などの散水が前方にあるとき
  – 先行車を認識できなかったり、水などを先行車と認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。

⚠ 警 告





- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
- フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  – 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。

⚠ 警 告

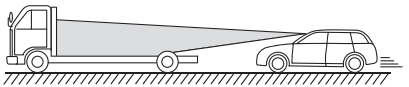
- フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないとき
  - 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。
- ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

次に挙げる物体または状況では、ステレオカメラでの認識が困難な場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの操作を行ってください。

- 速度差が大きい車両（低速走行車両、停止車両、対向車）
- 割り込み車両
- 自動二輪車、自転車、歩行者、動物など
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

⚠ 警 告

- 前方の車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります。）



  - 荷台にあおりがない空荷のトラックなど
  - 後端から積荷が飛び出している車両など
  - 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
  - 車高の低い車両など
- トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
- 自車バンパーの近い位置に物体があるとき

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないときは、必ず全車速追従機能付クルーズコントロールをOFFにしてください。また、降車する際は電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを“P”にしてください。

☞P.350参照

⚠ 警 告

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをONのままにしている場合、思わぬ場面でセットしてしまうなどして、事故につながるおそれがある。

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用するときは、同乗者や車のまわりの安全を十分確認してください。

- 車外からの操作は絶対にしない。

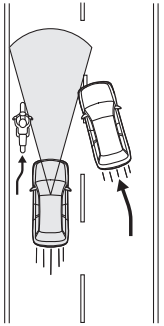
次のような道路形状や、自車の状況によっては、ステレオカメラが先行車を認識できない場合があります。また、隣車線の車や路側の物体を認識してしまうことがあります。このような状況下では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。使用中の場合は、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどしてください。

ステレオカメラによる先行車の認識状態は、先行車表示灯の点灯状態で確認できます。

☞P.337参照

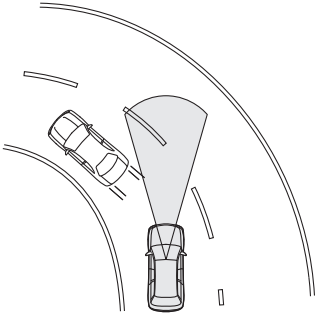
⚠ 警 告

- 先行車が割り込んできたときなど、車間距離が短い状態から追従を始めたとき



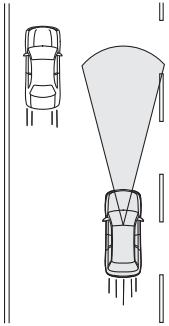
- カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路を走行しているとき

– 認識エリアから外れて認識できない場合があります。

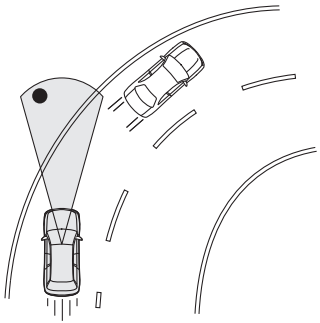


⚠ 警 告

- 先行車との位置が横にずれているとき



- 道路のすぐ脇にものがあるとき



- 先行車との速度差が大きいとき
- 前方に車両が割り込んできたとき
- 極端に車間距離が短いとき
- 自車が車線内で蛇行しているとき

⚠ 警 告

- 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- 車線規制や工事中などで、車線の幅が狭い道路を走行しているとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 自車の荷室やリヤシートに極端に重い荷物を積んだとき

全車速追従機能付クルーズコントロールの状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 先行車を認識していても速度差が大きいときや、急減速したとき
- 先行車に追従し緩やかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき

ブザー（ポーンやピピピッなど）の音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

- 先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき

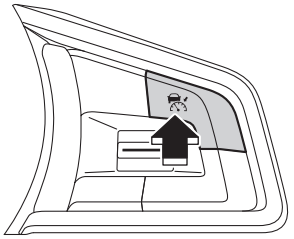
☞P.351参照

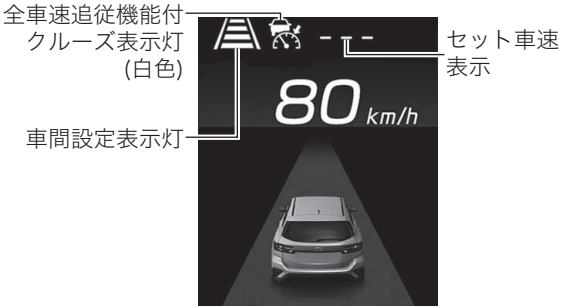
⚠ 注 意

- 追従走行開始後は、先行車の動きに合わせて制御を続け、先行車の停止に伴い自車も停止した場合は、停止状態を保持する。ただし、ステレオカメラが先行車を見失った場合は、停止しないことがある。必要に応じて運転者がブレーキペダルを踏み車間距離を保つ。
- 停止保持状態から何も操作せずに自動で発進することはない。
- 停止保持状態で自動解除される条件を満たしたときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの作動を解除するとともに、安全のため電動パーキングブレーキが自動的に作動する。
  ☞P.348参照
- 次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがある。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速する。
  - 車両の状態（積載量、乗員など）
  - 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
  - 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

全車速追従機能付クルーズコントロールの使用方法

1. 全車速追従機能付クルーズコントロールを作動可能（状態）にします。
   （クルーズ）スイッチを押します。
   全車速追従機能付クルーズコントロールがONになり、メーター内に（白色）と車間設定表示灯および自車表示灯が点灯します。
   また、--- km/hを表示します。





全車速追従機能付クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たすとセット可能になり、メーター内にREADYが点灯します。

- 運転席・助手席・後席のすべてのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- 電動パーキングブレーキを解除している（電動パーキングブレーキ作動灯消灯）
- セレクトレバーが“D”または“M”に入っている
- 走行中にブレーキペダルを踏んでいない、または停止中にブレーキペダルを強く踏んでいる
- EyeSightシステムが一時停止していない（EyeSightが点灯していない）

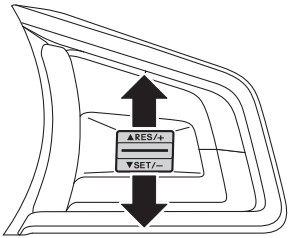
☞**P.422**参照

- 急な坂道でない
- ハンドルを大きく切っていない
- 自車速が0 km/h～約120 km/hのとき
- エンジン回転数が高回転ではない
- VDC機能およびTCS機能が作動していないとき

2. 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットします。

SET/－またはRES/＋スイッチを押します。

スイッチを押したときの車速をセット車速として、全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされ、制御を開始します。



セット車速が表示され、が白色から緑色に変わります。また、メーター内のREADYが消灯します。

先行車を認識していないときは定速走行します。

⚠ 警 告

制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

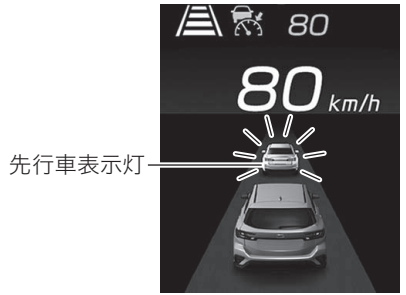
知 識

- 自車速が約30 km/h以下のときにセットした場合、セット車速は自動的に30 km/hに設定されます。
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。
- (クルーズ）スイッチを押しても、メーター内の が点灯しない場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールは作動しません。
- (クルーズ）スイッチを押してもメーター内の が点灯しないことが何回も発生する場合は、システムの異常が考えられます。SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。

知 識

- SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択している場合に全車速追従機能付クルーズコントロールをセットすると、メーター内の表示がギヤ位置から“D”に切り替わります。

先行車を認識すると、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が点灯し、所定の車間距離を保って追従走行します。このとき、セット車速が速度の上限になります。また、先行車を認識しなくなったときは、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が消灯します。

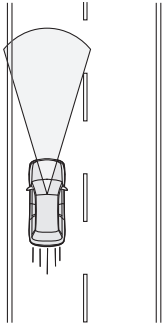


知 識

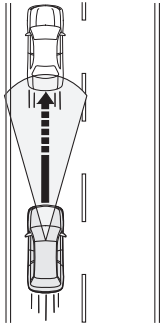
先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）をOFFに設定できます。
☞P.125参照

全車速追従機能付クルーズコントロールの作動

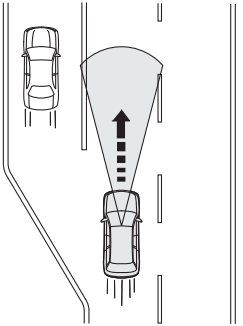
- 先行車を認識していないとき
  セット車速に応じた速度で定速走行します。



- 先行車を認識したとき
  セット車速を上限として、車速に応じた車間距離を保ちながら追従走行を行います。



- 先行車を認識しなくなったとき
  セット車速まで加速し、定速走行を行います。
  セット車速までの加速中に先行車を認識すると、再び追従走行を行います。



⚠ 注 意

システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが引き込まれることがあります。異常ではなく、さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

知 識

- 全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、ブレーキランプが点灯します。
- 先行車を認識していないときでも下り坂などではセット車速を保つため、全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。

知 識

- システムによるブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。
- 素早く加速したいとき、または加速が足りないときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- システムによるブレーキ作動中に先行車を認識しなくなったときは、ゆっくりとブレーキが解除されます。必要により、アクセルペダルを踏んで加速してください。
- 遠方に先行車になることができそうな物体を認識した場合、加速を早めに抑えます。
- 追従走行には、次の特性があります。
  - 先行車の車線変更を認識した場合、セット車速までの加速を早めに開始します。
  - 先行車のブレーキランプの点灯を認識した場合、認識しない場合と比べ、早めに減速を開始します。
  - 車速約60 km/h以上で追い越し車線側に車線変更する場合、ウインカーと連動してセット車速までの加速を早めに開始します。
  - 車速約10 km/h以上でウインカーレバーを操作した場合、周辺の状況に応じて、指示器方向の隣車線の車両を先行車として認識し、車速に応じた車間距離を保ちながら走行します。
- クルーズコントロール加速レベルを4段階に設定できます。☞P.125参照

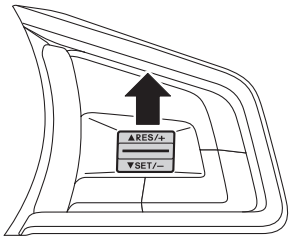
セット車速を上げるとき

■RES/+スイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、RES/+スイッチを次のように操作します。

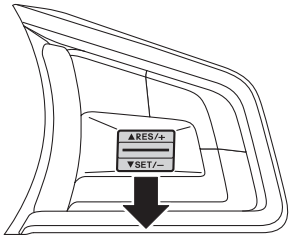
- RES/+スイッチを1回ずつ押します
  押すごとにセット車速が5 km/hずつ上がります。
- RES/+スイッチを押し続けます
  押している間、セット車速が1 km/hずつ上がります。

スイッチを操作するごとにメーター内のセット車速が変わります。



■アクセルペダルによる方法

1. アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
2. 希望の速度になったらSET/−スイッチを押します。
   スイッチを押したときの車速に再セットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。



⚠ 注 意

- 追従走行しているときは、先行車に合わせた車速で制御されるため、RES/＋スイッチを押して、先行車の速度以上にセット車速を上げても加速しない。
  − ただし、セット車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。
  − セット車速はメーター内を確認しながら変更してください。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを設定中でアクセルペダルを踏んでいるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ制御も警報も行わない。

⚠ 注 意

− ただしこのときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、プリクラッシュブレーキによる警報やブレーキ制御が作動することがあります。

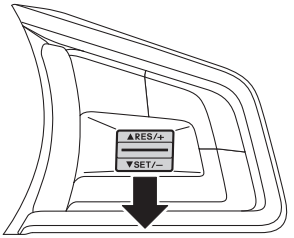
セット車速を下げるとき

■SET/−スイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、SET/−スイッチを次のように操作します。

- SET/−スイッチを1回ずつ押します
  押すごとにセット車速が5 km/hずつ下がります。
- SET/−スイッチを押し続けます
  押している間、セット車速が1 km/hずつ下がります。

スイッチを操作するごとにメーター内のセット車速が変わります。



■ブレーキペダルによる方法

1. ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。
   全車速追従機能付クルーズコントロールが解除され、が緑色から白色に戻ります。
2. 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、SET/－スイッチを押します。スイッチを押したときの車速にセットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。

一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。
全車速追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、は白色に変わります。加速が終了するとは緑色に戻ります。

一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。このとき、全車速追従機能付クルーズコントロールは解除されます。
メーター内にセット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。

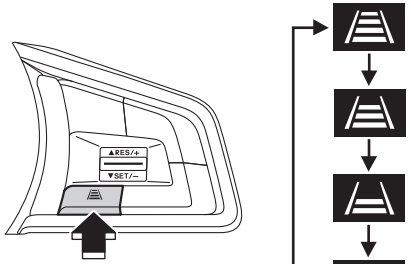
セット車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、RES/＋スイッチを押します。

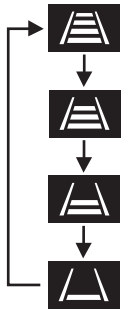
⚠ 注 意

通常、追従走行中は先行車の速度に合わせてシステムが加減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、システムを過信せずにアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

車間距離を変えるとき

先行車との車間距離を4段階で設定できます。
（車間設定）スイッチを押すごとに先行車との車間距離が切り替わります。





知 識

- 車間距離は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。

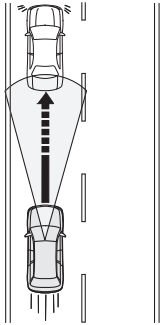
＜車間距離の目安＞

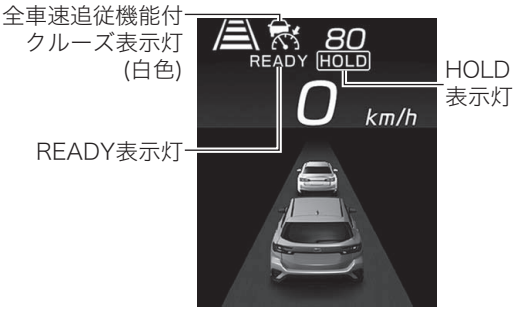
車間距離	自車の走行車速	
	約40km/h	約100km/h
	約30m	約60m
	約25m	約50m
	約20m	約40m
	約15m	約30m

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをOFFにし、再度ONにした場合は、OFFにする前に設定した車間距離の状態を保っています。

停止保持機能

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、先行車が停止すると、それに続いて自車も停止します。
先行車に続いて停止した場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールのセット状態が解除され、停止保持を開始します。このとき、メーター内のHOLDおよびREADYが点灯します。また、が緑色から白色に戻ります。





先行車の有無にかかわらず、自車の停止中にブレーキペダルを強く踏むとREADYが点灯します。このときRES/＋スイッチ、SET/－スイッチを操作すると停止保持を開始します。
停止保持を開始すると、HOLDが点灯し、READYが消灯します。READYはブレーキペダルから足を離すと再度点灯します。

⚠ 注 意

車両が停止してから停止保持に入るまで約3秒かかります。停止保持に移行するまで、車両が動き出す可能性がありますので、周辺に注意し必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

知 識

- ブレーキペダルを軽く踏んでいる場合、停止保持を開始できないことがあります。その場合READYは点灯しません。
- アイドリングストップが作動する条件を満たしているとき（アイドリングストップ表示灯（緑色）点灯）、停車するとブレーキペダルを踏まなくてもアイドリングストップが作動し、エンジンが自動停止します。アイドリングストップ中は表示灯が点灯を続けます。
☞P.256参照

停止保持状態から全車速追従機能付クルーズコントロールをセットする

■RES/＋スイッチ、SET/－スイッチによる方法

先行車が停止したままの状態でも、RES/＋スイッチ、SET/－スイッチを操作すると、全車速追従機能付クルーズコントロールをセットできます（HOLDおよびREADYが消灯し、が白色から緑色に変わります）。

- SET/－スイッチを押します。セット車速は自動的に30 km/hに設定されます。
- RES/＋スイッチを押します。停止保持前に設定したセット車速に再度設定されます。

☞P.350参照

知 識

- 全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされた状態で先行車が発進したときは自車も続いて発進し、追従走行を行います。ただし発進しなかったときは、約3秒後に再び停止保持状態に自動的に戻ります。
- 停止保持によりアイドリングストップが作動している場合、全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされた状態で先行車が発進したときは、エンジンが自動で再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。

■アクセルペダルによる方法

停止保持中にアクセルペダルを踏むと停止保持を解除します。このとき全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされた状態になります（停止保持前に設定した車速に再び設定されます）。

警 告

停止保持を解除すると車が動き出しますので、解除前には必ず周囲の安全を確認してください。

知 識

- アクセルペダルを極めて軽く踏んだ場合、停止保持が解除できず、セットできないことがあります。
- 停止保持によりアイドリングストップが作動している場合、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。

停止保持の解除

停止保持状態で次の操作をすると停止保持が解除され、同時に全車速追従機能付クルーズコントロールも解除されます。

- ブレーキペダルを踏む
- （クルーズ）スイッチを押す

☞P.347参照

- 電動パーキングブレーキスイッチを操作し、電動パーキングブレーキを作動させる

警 告

- （クルーズ）スイッチを押して停止保持を解除したときは、車両がクリープ走行を開始するため、ブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をする。

⚠ 警 告

- 停止保持中は車から離れない。
- 駐車するときは停止保持機能を使用しない。
  - 停止保持状態は電動パーキングブレーキの代わりではありません。
- 車外に出るときは、電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを“P”にしてからプッシュエンジンスイッチをOFFにする。

⚠ 注 意

次の場合は全車速追従機能付クルーズコントロールによる停止保持を解除します。

- 停止保持状態で約10分経過したとき（ブザー（ピ、ピ、ピ、ピ、ピ、ピピーン）が鳴る。）
- 自動解除条件を満たしたとき（ブザー（ピピーン）が鳴る。）☞P.348参照

停止保持を解除した後は、自動的に電動パーキングブレーキが作動して(Ⓟ)が点灯します。ただし、電動パーキングブレーキの解除条件（アクセル連動や電動パーキングブレーキのスイッチ操作など）が成立している場合は作動しません。

停止保持中にアクセルペダルを極めて軽く踏み続けた場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールによる停止保持は解除しますが、電動パーキングブレーキが作動しないことがあります。

電動パーキングブレーキ作動状態から全車速追従機能付クルーズコントロールをセットする

電動パーキングブレーキ作動状態では、例えばアクセルペダルを踏むなどして電動パーキングブレーキを解除した後、設定操作を行ってください。
☞P.249参照

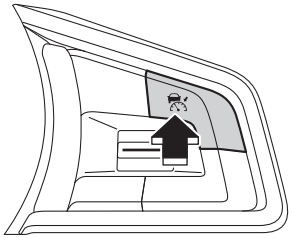
全車速追従機能付クルーズコントロールの解除方法

運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。メーター内は、セット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。

- ブレーキペダルを踏む。

- （クルーズ）スイッチを押す。



システムによる自動解除

次の場合、ブザー（ピピーン）が鳴り、全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除され、が緑色から白色に戻り、割り込み画面を表示します。システムによる自動解除が、車両が停止してから約1秒経過後、または停止保持中に発生した場合、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。（アイドリングストップ中はエンジンが再始動し、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。）

☞**P.345**参照

- 道路の勾配が急なとき
- VDC機能またはTCS機能が作動したとき
- セット中に自車速が約145 km/hを超えたとき
- ハンドルを大きく回したとき
- セレクトレバーを“D”または“M”以外にしたとき
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき
- 長時間連続でアクセル操作があったとき
- エンジン回転数が高回転になったとき
- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）

☞**P.422**参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（（白色）が点灯している）

☞**P.422**参照

- プリクラッシュ 2次ブレーキが作動したとき

⚠ 警 告

滑りやすい路面では全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しない。

- 思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

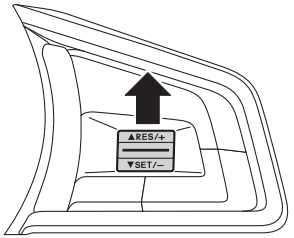
- 緊急時以外はセレクトレバーを“N”にしない。
  - セレクトレバーを“N”にすると全車速追従機能付クルーズコントロールは自動的に解除されますが、エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車両が停止してから約1秒経過する前にシステムによる自動解除が行われた場合、電動パーキングブレーキは作動しない。
  ☞P.346参照

知 識

- EyeSightシステムが故障した場合は、EyeSightが点灯し、割り込み画面を表示します。その場合は安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動してください。この操作をしても表示灯が点灯し続けるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。
  ☞P.422参照
- EyeSightシステムが一時停止した場合は、EyeSightが点灯し、割り込み画面を表示します。
  ☞P.422参照
- 全車速追従機能付クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。

解除からの復帰（セット車速の再セット）

前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再度セットする場合はRES/＋スイッチを押します。（メーター内が再度セット状態の表示になります）

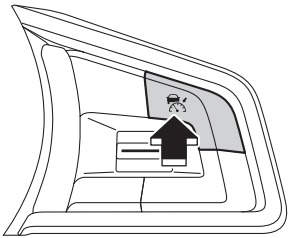


知 識

- 次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。
  - − (クルーズ）スイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
  - − 全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えたとき
- 前回のセット車速がメモリーされていない場合、RES/＋スイッチを押すと、現在の自車速がセットされます。
  ☞P.337参照

全車速追従機能付クルーズコントロールをOFFにするとき

全車速追従機能付クルーズコントロール解除中に (クルーズ）スイッチを押すと (白色）と車間設定表示灯および自車表示灯が消灯し、全車速追従機能付クルーズコントロールがOFFになります。



その他の機能

ブレーキ踏み増し要求警報

ブレーキ踏み増し要求警報は全車速追従機能付クルーズコントロールによる追従走行中に作動します。ブレーキ制御による減速では不十分と判断した場合、運転者に注意を促す機能です。
この機能が作動すると、ブザー（ピピピ…）が鳴り、割り込み画面を表示します。

ブレーキ踏み増し要求警報が作動した場合は、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

⚠ 警 告

ブザー（ピピーンやピピピ…など）の音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。

- アクセルペダルを踏んでいるとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき

短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しないことがあります。

- 先行車の車速と自車の車速の差が小さいとき
- 先行車の車速が自車の車速より速いとき
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき

次のような先行車に対しては認識が遅れて、ブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両
- 自車速より極端に車速が遅い車両

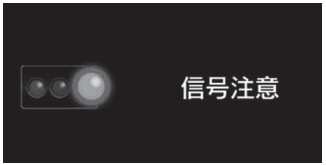
知 識

前方約130 m以内の同一車線上の先行車を認識します。ただし、交通環境、走行状態、先行車の状態によっては認識距離が短くなる場合があります。

信号認識機能

全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に信号認識機能が作動すると、ブザー（ピッ）が鳴り、割り込み画面を表示するとともに加速を緩やかにします。

信号認識機能は次の条件をすべて満たすと作動します。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしている
- 自車速がセット車速を下回っている
- 先行車を認識していない
- 赤信号を検知
- 矢印信号を検知していない



ただし、アクセルペダルやブレーキペダルを操作すると割り込み画面は消え、加速抑制制御も解除されます。

⚠ 警 告

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用する際は次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 自動車専用道路以外では使用しない。
  - 高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。
- 信号認識機能のみに頼った運転はしない。
  - 信号認識機能は赤信号を常にお知らせする機能ではありません。また、あらゆる状況で動作するものではありません。

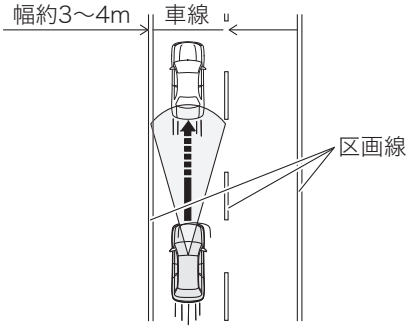
信号認識機能は、天候や道路の状況により検知しにくい場合があります。特に、次の状況では、システムが正しく動作しません。
- 信号と同じくらいの高さに赤い物体があるとき（鉄道用信号、高速道路の案内掲示板など）
- 信号機に雪が付着していたり、凍結しているとき
- 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- 合流時など、走行している道路以外の信号が見えるとき
- 自車と信号機との距離が離れているとき
- 自車と信号機との距離が近く、ステレオカメラの視野範囲から外れているとき
- 矢印信号の位置が特殊なとき（信号機の上方や信号機から離れた位置にあるとき）
- 赤信号や矢印信号が暗いとき

知 識

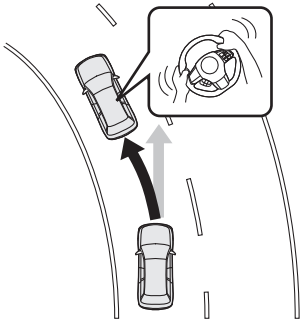
赤信号を認識して減速する機能はありません。

車線中央維持・先行車追従操舵機能

高速道路や自動車専用道路を走行時、ステレオカメラが区画線や先行車を認識して自車の車線維持走行を補助したり、電動パワーステアリングと協調してハンドル操作をアシストするシステムです。



この機能は全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしているときに使用できます。自車速0 km/h～約120 km/hで走行しているとき、システムが区画線または先行車を認識し、車両が車線の中央付近を維持するようにハンドル操作をアシストします。



⚠ 警 告

車線中央維持・先行車追従操舵機能は自動運転システムではありません。

- 車線中央維持・先行車追従操舵機能を過信しない。
  - わき見運転やハンドル手放し運転などを補助する装置ではありません。必ずハンドルを握って運転してください。
  - 車線中央維持・先行車追従操舵機能はあらゆる状況で作動するものではありません。車線の維持を車線中央維持・先行車追従操舵機能のみに頼っていると、車線のわきの障害物や隣車線の車に衝突するなどの事故につながるおそれがあります。
  - 運転時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境に注意し、安全運転に努めてください。
- システムの制御量や制御タイミングがお客様の運転操作の感覚と異なる場合は、安全な運転を支援できないため、車線中央維持・先行車追従操舵機能を使用しない。

⚠ 警 告

- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。
  ☞「メンテナンスノート」参照
- 次の状況では、システムが正しく動作しないため、車線中央維持・先行車追従操舵機能を使用しない。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤ、または摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
  - ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - スペアタイヤを使用しているとき
  - ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
  - ハンドルを指定品以外に交換しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）

⚠ 警 告

– ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
– 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
– ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– 定員を超えているとき
– 車両などをけん引しているとき
– メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※3

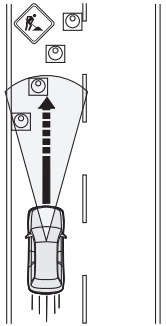
※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.788参照
※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.137参照
※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

- 車線中央維持・先行車追従操舵機能は、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定している。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるので、車線中央維持・先行車追従操舵機能を使用しない。

– 一般道（自動車専用道路以外）
道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

– 工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき



– 急カーブがある道
– 古い区画線が残っているとき
– 停止車両を避けるとき
– 路面に雪や水たまり、融雪剤が残っているとき
– 路面にひび割れや補修の跡があるとき
– 凍結路や積雪路など滑り易い路面
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
– インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
– 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき

⚠ 警 告

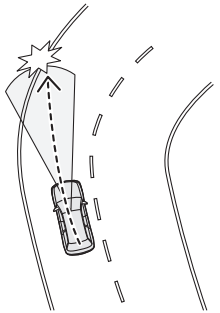
– フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
– フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき
– ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。

– 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
– 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
– 路面がぬれて光が反射しているとき
– 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
– 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
– 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき

⚠ 警 告

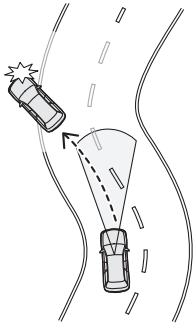
– カーブの形状が急激に変化するとき



– 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
– 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
– 車線の幅が変化したとき
– 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線がない、または消えかかっている
  - 区画線が黄色で描かれている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線が二重に描かれている
  - 区画線の幅が細いなど
  - 区画線以外の線が路面に描かれている
  - 区画線に壁やポールが隣接している

⚠ 警 告

– 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



– 高速道路のインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリア、パーキングエリア入口などの分岐レーンに差しかかったとき

– 路肩に縁石や側壁があるとき

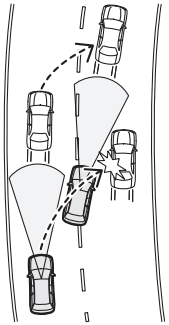
⚠ 警 告

– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき

– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

- 次の状況では、ステレオカメラでの先行車の認識がしづらくなり、先行車追従操舵機能が適切に動作できないおそれがある。また、先行車の動きや周囲の交通状況により、並走車やガードレールにぶつかるなど思わぬ事故につながるおそれがある。

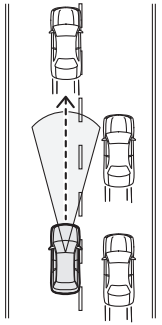
– 先行車が車線変更、右左折などをするとき



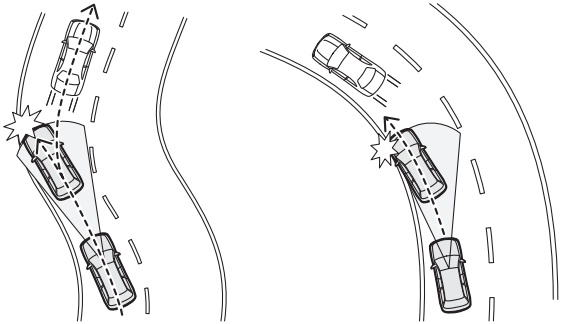
– 先行車がふらついて走行しているとき

⚠ 警 告

– 先行車が車線の中央を走らず、区画線をまたいだり、車線の端を偏走しているとき



– 先行車の挙動が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



– 先行車が路肩の停止車両や障害物を避けるとき

⚠ 警 告

– 自車線内または自車線近くの車両（自動二輪車など）を追い抜くとき

– 先行車の横を自動二輪車などが並走や、すり抜けて走行しているとき

– 先行車と自車の間に別の車両が割り込んできたとき

– 先行車がウインカー、ハザードランプ、リヤフォグランプを点灯しているとき

– 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき

– 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき

- 先行車が特殊な形状の車両のときや周囲の環境により、先行車追従操舵機能の継続が困難な場合がある。

– 先行車の最後面が小さい、低い、または凹凸のあるとき。荷台にあおりがない空荷のトラック、後端から積荷が飛び出している車両、特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）、車高の低い車両のとき

– 先行車が軽自動車、自動二輪車などの幅の狭い車両のとき

– 先行車と速度差がある（先行車が離れていってしまう）とき

– 悪天候（強い雨、降雪、濃霧など）で先行車が見えづらいとき

– 先行車の最後面に太陽光やヘッドランプなどの光が反射しているとき

– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

⚠ 警 告

– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

⚠ 注 意

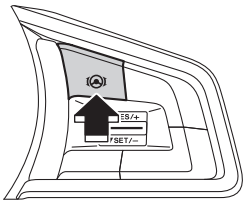
- 次に挙げる状況では、車線中央維持・先行車追従操舵機能の性能を十分に発揮できないことがある。また、車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動しないことや作動が解除されることがある。
  – 車両重量が極端に変化した直後
  – タイヤ交換直後やタイヤ空気圧調整直後
  – カメラ関係の調整・修理または交換をした直後
  – サスペンションや舵取り装置を修理・交換した直後
  – 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）や純正品以外のタイヤを装着しているとき
  – 横風を受けているとき
  – 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）
  – 路面の横断方向の勾配が大きいとき、または急激に変化するとき
  – 路面の凸凹、うねり、つなぎ目
  – 加減速度が大きいとき
  – 外気温が低いときのエンジン始動直後
  – 外気温が高いとき
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能を使用しないときは、必ず車線中央維持・先行車追従操舵機能をOFFにする。
  ☞P.364参照

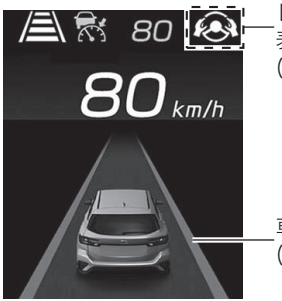
⚠ 注 意

– 車線中央維持・先行車追従操舵機能をONのままにしている場合、思わぬ場面で作動してしまうなどして、事故につながるおそれがあります。
- (レーンキープ）スイッチをONにすると、電動パワーステアリングの操作力が変化することがある。

車線中央維持・先行車追従操舵機能の使用方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中、(レーンキープ）スイッチを押します。
メーター内に(白色）および車線表示灯（灰色）が点灯します。





レーンキープ表示灯(白色)

車線表示灯(灰色)

⚠ 警 告

先行車追従操舵機能が作動しているとき（区画線を認識していないとき）は、先行車の車線変更などにも追従してハンドルを切る動きをします。常に周囲の並走車や障害物へ注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。ハンドル操作を先行車追従操舵機能のみに頼っていると、思わぬ事故につながります。

⚠ 注 意

ハンドルを強く握っていると、システムが運転者が操作したと判断しアシストを弱める場合があります。

知 識

- 約40 km/h以下では区画線と先行車を併用して作動することがあります。

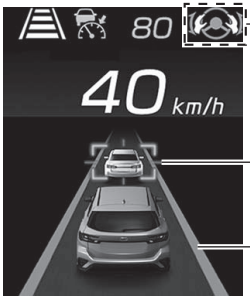
知 識

- は、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

車線中央維持・先行車追従操舵機能は、次の条件をすべて満たすと作動します。

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしている
- プリクラッシュブレーキをONにしている
- 自車速0 km/h～約120 km/hで走行している
- システムが区画線、または先行車を認識している（先行車追従操舵機能は、約60 km/h以上では作動しません。）
- 運転者がハンドルを操作している
- 直線または、緩やかなカーブを走行している
- 車線幅約3 m～約4 mの道路を走行している（区画線を認識しているとき）
- 車線の中央付近を走行している（区画線を認識しているとき）
- ドライバーモニタリングシステム作動表示灯（緑色）またはドライバーモニタリングシステムOFF表示灯が点灯している
- 運転者が前方を見ている

作動中は、が白色から緑色に切り替わります。その時、区画線を認識して作動している場合は車線表示灯が青色に点灯し、先行車を認識して作動している場合はレーンキープ先行車表示灯が青色に点灯します。



(緑色)

レーンキープ先行車表示灯(青色)

車線表示灯(青色)

知 識

- 車線表示灯は、認識状態により左右いずれかのみ青色になることがあります。
- 区画線を認識しておらず、先行車追従操舵によって車が制御されている場合は、車線表示灯は青色になりません。
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能はドライバーモニタリングシステムの設定をOFFにしていても、ドライバーモニタリングシステムの情報を利用しています。
☞P.446参照
- ドライバーモニタリングシステムが運転者の状態を正しく検知できないときや、故障や一時停止しているときには、車線中央維持・先行車追従操舵機能が使用できないことがあります。

車線中央維持・先行車追従操舵機能の解除方法

運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で車線中央維持・先行車追従操舵機能が一時的に解除されます。
一時解除中は、メーター内の が白色に変わり、レーンキープ先行車表示灯が消灯します。

- ブレーキペダルを踏む
- (クルーズ)スイッチを押して全車速追従機能付クルーズコントロールを解除する
- ウインカーレバーを操作し、その方向へハンドルを操作する

システムによる自動解除

次に挙げる状況などでは、車線中央維持・先行車追従操舵機能が一時的に解除されます。その際、ブザー(ピピーン)と割り込み画面により、運転者に機能が解除されたことをお知らせします。
一時解除中は、メーター内の が白色に変わり、レーンキープ先行車表示灯が消灯します。

- システムが両側の区画線および先行車をレーンキープの対象として認識できなくなったとき
- 全車速追従機能付クルーズコントロールがシステムにより自動解除されたとき

☞P.348参照

- 運転者が車線からそれるために、ハンドルを操作したと判断したとき
- 運転者がハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- 急カーブに進入しようとしているとき
- 急カーブを走行しているとき

- 本機能以外の車両側のシステム要因により、ハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき

(白色)

- 以下の条件で警報が作動中に、運転者がハンドルを強めに操作したとき
  - ドライバーモニタリングシステムが運転者の居眠り、わき見を検出している
  - ドライバーモニタリングシステムが故障または一時停止している
  - ドライバーモニタリングシステムが運転者の状態を検出できない状態が一定時間続いている

- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）

☞**P.422**参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight（白色）が点灯している）

☞**P.422**参照

- 一定時間、システムが運転者のハンドル操作を検知できなかったとき
  - システムがハンドル操作のないことを検知すると、割り込み画面を表示します。その状態がさらに続くと、警報音が鳴り、段階的に警告画面を表示します。

  - それでもシステムがハンドル操作を検知できなかった場合はハンドル操作要求の警告画面が表示され、ドライバー異常時対応システムが作動します。

☞P.492参照

- ドライバーモニタリングシステムが運転者の異常を検知したとき
  - ドライバーモニタリングシステムが運転者の異常を検知すると、警報音とともに割り込み画面を表示します。

  - それでも運転者のハンドル操作や前方を見ている状態が検知できない場合は次の警告画面が表示され、ドライバー異常時対応システムが作動します。

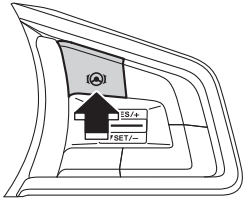
☞P.492参照

知 識

- 次のような場合にシステムが運転者のハンドル操作を正しく検知できず、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。
  - ー ハンドルにカバーを取り付けたとき
  - ー 運転者が手袋をしているとき
  - ー ハンドルに異物が付着しているとき
  - ー ハンドルのスポーク部などのセンサーが無い部分を握っているとき
  - ー ハンドルを片手で操作しているとき
- ドライバーモニタリングシステムが運転者の状態を正しく検知できない場合、故障または一時停止した場合に、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。

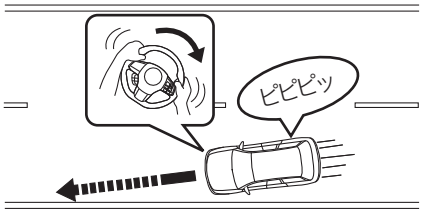
車線中央維持・先行車追従操舵機能をOFFにするとき

(レーンキープ）スイッチを押すとOFFとなり、メーター内の および車線表示灯が消灯します。



逸脱回避要求警報

車線中央維持機能の作動中に、車線を逸脱する可能性があると判断した場合、運転者に注意を促します。
逸脱回避要求警報が作動するとブザー（ピピピッ）が鳴り、割り込み画面を表示します。
逸脱回避要求警報が作動した場合は、ハンドルを操作して車線からの逸脱を回避してください。



⚠ 警 告

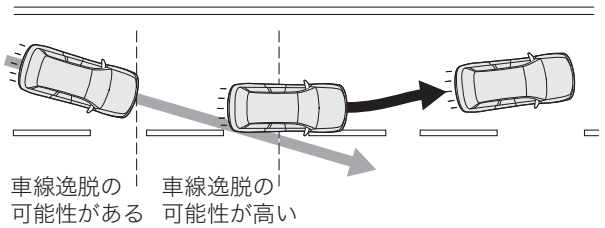
- 先行車追従操舵機能が作動中で区画線を認識していないときは、逸脱回避要求警報および車線逸脱警報は作動しない。
- 常に周囲に注意を払い、必要に応じてハンドルを操作する。車線逸脱の判断を警報のみに頼っていると思わぬ事故につながる。

知 識

この機能は、車線逸脱警報をOFFにしても作動します。
☞P.394参照

車線逸脱抑制機能

この機能はシステムが区画線を認識し、高速道路や自動車専用道路を自車速約60 km/h以上で走行時、車両が車線を逸脱しそうになるとシステムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストし、車線からの逸脱を抑制します。



⚠ 警 告

車線逸脱抑制機能は自動運転システムではありません。

- 車線逸脱抑制機能を過信しない。
  - わき見運転やハンドル手放し運転などを補助する装置ではありません。必ずハンドルを握って運転してください。
  - 車線逸脱抑制機能はあらゆる状況で作動するものではありません。車線の維持を車線逸脱抑制機能のみに頼っていると、車線のわきの障害物や隣車線の車に衝突するなどの事故につながるおそれがあります。
  - 運転時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境に注意し、安全運転に努めてください。

⚠ 警 告

- システムの制御量や制御タイミングがお客様の運転操作の感覚と異なる場合は、安全な運転を支援できないため、車線逸脱抑制機能を使用しない。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。
  ☞「メンテナンスノート」参照
- 次の状況では、システムが正しく動作しないため、車線逸脱抑制機能を使用しない。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤ、または摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
  - ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - スペアタイヤを使用しているとき
  - ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
  - ハンドルを指定品以外に交換しているとき

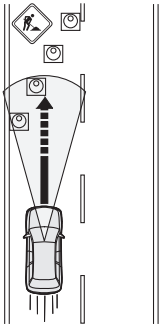
⚠ 警 告

– ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
– ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
– ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
– 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
– ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– 定員を超えているとき
– 車両などをけん引しているとき
– メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.788参照
※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.137参照
※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

⚠ 警 告

• 車線逸脱抑制機能は、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定している。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるので、車線逸脱抑制機能を使用しない。
– 一般道（自動車専用道路以外）
道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
– 工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき



– 急カーブがある道
– 古い区画線が残っているとき
– 停止車両を避けるとき
– 路面に雪や水たまり、融雪剤が残っているとき
– 路面にひび割れや補修の跡があるとき

⚠ 警 告

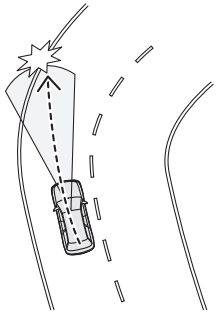
– 凍結路や積雪路など滑り易い路面
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
– インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
– 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
– フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
– フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき
– ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。

– 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
– 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
– 路面がぬれて光が反射しているとき
– 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
– 車間距離が短く、区画線が見づらいとき

⚠ 警 告

– 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき
– カーブの形状が急激に変化するとき



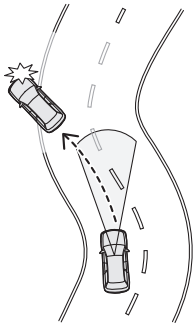
– 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
– 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
– 車線の幅が変化したとき
– 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき

- 区画線がない、または消えかかっている
- 区画線が黄色で描かれている
- 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
- 区画線が二重に描かれている
- 区画線の幅が細いなど
- 区画線以外の線が路面に描かれている

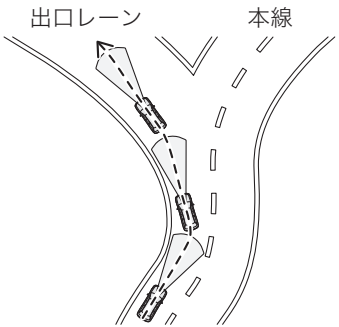
⚠ 警 告

• 区画線に壁やポールが隣接している

– 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



– 高速道路のインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリア、パーキングエリア入口などの分岐レーンに差し掛かったとき



⚠ 警 告

– 路肩に縁石や側壁があるとき

– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき

– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

⚠ 注 意

• 次に挙げる状況では、車線逸脱抑制機能の性能を十分に発揮できないことがある。また、車線逸脱抑制機能が作動しないことや作動が解除されることがある。

– 車両重量が極端に変化した直後

– タイヤ交換直後やタイヤ空気圧調整直後

– カメラ関係の調整・修理または交換をした直後

– サスペンションや舵取り装置を修理・交換した直後

– 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）や純正品以外のタイヤを装着しているとき

– 横風を受けているとき

– 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）

– 路面の横断方向の勾配が大きいとき、または急激に変化するとき

– 路面の凸凹、うねり、つなぎ目

– 加減速度が大きいとき

– 外気温が低いときのエンジン始動直後

– 外気温が高いとき

• 車線逸脱抑制機能を使用しないときは、必ず車線逸脱抑制機能をOFFにする。

☞**P.373**参照

⚠ 注 意

– 車線逸脱抑制機能をONのままにしている場合、思わぬ場面で作動してしまうなどして、事故につながるおそれがあります。

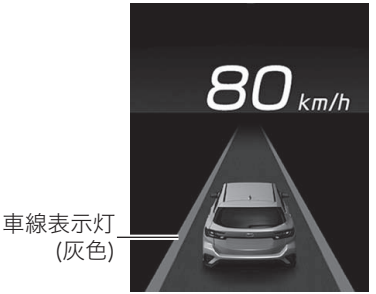
- 車線逸脱抑制機能をONにすると、電動パワーステアリングの操作力が変化することがある。

知 識

- 車線逸脱抑制機能が長時間連続で作動した場合は、警報音が鳴り、割り込み画面を表示します。
- ハンドルを操作せず、連続して車線逸脱抑制機能が作動した場合も警報音が鳴り、割り込み画面を表示します。このとき、作動回数によっては車線逸脱抑制機能の作動が終了しても、警報を続ける場合があります。
☞**P.119**参照
- 一定時間、車線逸脱抑制機能が作動していない、または車線逸脱抑制機能が解除されると警報が終了します。
☞**P.372**参照

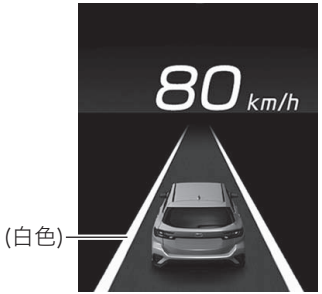
車線逸脱抑制機能の使用方法

センターインフォメーションディスプレイを操作して、車線逸脱抑制機能をONにします。EyeSight設定項目の「車線逸脱防止機能」で「すべてON」または「車線逸脱防止制御のみON」を選択すると、この機能がONになります。
☞**P.125**参照
車線逸脱抑制機能をONにすると、メーター内に車線表示灯（灰色）と自車表示灯が表示されます。

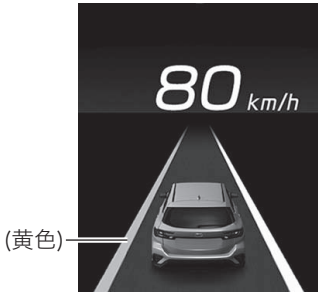


車線逸脱抑制機能は、次の条件をすべて満たすとスタンバイ状態になり、車線表示灯（白色）が点灯します。

- 自車速約60 km/h～約120 km/hで走行している
- システムが区画線を認識している
- 運転者がハンドルを操作している
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動していない
- 車線幅約3 m～約4 mの道路を走行している
- 直線、または緩やかなカーブを走行している
- 車線の中央付近を走行している



車線を逸脱しそうになると、車線逸脱抑制機能が作動を開始します。逸脱のおそれがある車線側の車線表示灯が白色から黄色に変わります。



知 識

- ハンドルに手を軽く添えた状態が続いたり、ハンドルを操作していない場合、機能が一時的に解除され、割り込み画面が表示されます。

知 識

- 車線逸脱抑制機能は、そのままでは車線から逸脱するとシステムが判断したときに作動します。そのため、車線逸脱警報に比べて早いタイミングで作動します（周囲の環境、道路状況によって異なります）。
- 車線表示灯は、スタンバイ状態または作動中に片側のみ表示されることがあります。
- 車線逸脱抑制制御およびエマージェンシーレーンキープアシストが両方ともONにしているときは、以下のように制御が切り替わります。
  - エマージェンシーレーンキープアシスト作動後、後方車両が接近しなくなった後でも、まだ自車が車線を逸脱しそうな場合は車線逸脱抑制制御に切り替わります。
  - 車線逸脱抑制機能が作動中に後方車両の接近を検知するとエマージェンシーレーンキープアシストに切り替わります。
- 車線逸脱抑制機能は、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。
- 次の場合は車線逸脱抑制機能は作動しません。
  - 全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に（白色）が点灯しているとき

車線逸脱抑制機能の解除方法

運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で車線逸脱抑制機能が一時的に解除されます。
一時解除中は、車線表示灯が灰色になります。
- ブレーキペダルを強く踏む
- ウインカーレバーを操作する
- 車線変更などのために、運転者がハンドルを操作したとシステムが判断したとき
- ハザードランプスイッチをONにする

システムによる自動解除

次に挙げる状況などでは、車線逸脱抑制機能が一時的に解除されます。その際、ブザー（ピピーン）と割り込み画面により、運転者に機能が解除されたことをお知らせします。
一時解除中は、車線表示灯が灰色になります。

- システムが区画線を認識できなくなったとき
- 自車速が約60 km/h未満になったとき、または約145 km/hを超えたとき
- VDC機能またはTCS機能が作動したとき
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき
- セレクトレバーを“D”、“M”以外にしたとき
- 一定時間、システムが運転者のハンドル操作を検知できなかったとき
  - システムがハンドル操作のないことを検知すると、割り込み画面を表示します。割り込み画面はシステムがハンドル操作を検知するまで表示し続けます。ハンドル操作を検知できない状態が続くと車線逸脱抑制機能が一時的に解除されます。

- 急カーブに進入しようとしているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 路面環境によりハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき
- 本機能以外の車両側のシステム要因により、ハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき

- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）

☞P.422参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight（白色）が点灯している）

☞P.422参照

知 識

次のような場合にシステムが運転者のハンドル操作を正しく検知できないことがあります。

- ハンドルにカバーを取り付けたとき
- 運転者が手袋をしているとき
- ハンドルに異物が付着しているとき
- ハンドルのスポーク部などのセンサーが無い部分を握っているとき
- ハンドルを片手で操作しているとき

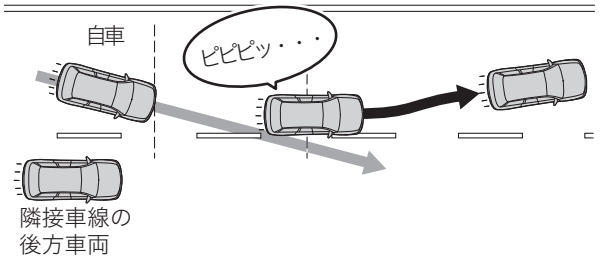
車線逸脱抑制機能をOFFにするとき

センターインフォメーションディスプレイを操作して、車線逸脱抑制機能をOFFにします。EyeSight設定項目の「車線逸脱防止機能」で「警報音のみON」または「すべてOFF」を選択すると、この機能がOFFになります。

☞P.125参照

エマージェンシーレーンキープアシスト

高速道路や自動車専用道路を自車速約60 km/h以上で走行時、隣接車線の後方車両が接近しているにもかかわらず車両が車線を逸脱しそうになるとシステムが車線逸脱回避方向にハンドル操作をアシストし、車線からの逸脱を抑制します。このときブザー（ピピピッ …）が鳴り、割り込み画面を表示します。



警 告

エマージェンシーレーンキープアシストは自動運転システムではありません。

- エマージェンシーレーンキープアシストを過信しない。
  - わき見運転やハンドル手放し運転などを補助する装置ではありません。必ずハンドルを握って運転してください。

⚠ 警 告

– エマージェンシーレーンキープアシストはあらゆる状況で作動するものではありません。車線の維持をエマージェンシーレーンキープアシストのみに頼っていると、車線のわきの障害物や隣車線の車に衝突するなどの事故につながるおそれがあります。

– 運転時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境に注意し、安全運転に努めてください。

- システムの制御量や制御タイミングがお客様の運転操作の感覚と異なる場合は、安全な運転を支援できないため、エマージェンシーレーンキープアシストを使用しない。
- エマージェンシーレーンキープアシストは、隣接車線上の車両（後方車両）に接近しているときに自車が車線から逸脱しそうになった場合のみ作動します。そのため、以下に対しては適切に動作しない。
  – 軽車両、自動二輪車、特殊な形状の車両
  – 自転車
  – 歩行者
  – 急に車両が現れた場合
  – 車両の一部が隠れている場合
  – その他、衝突の危険性がないとシステムが判断した場合
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。
  ☞「メンテナンスノート」参照
- 次の状況では、システムが正しく動作しないため、エマージェンシーレーンキープアシストを使用しない。
  – タイヤの空気圧が適正でないとき※1

⚠ 警 告

– 摩耗したタイヤ、または摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1

– 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1

– ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1

– ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1

– パンク修理キットで応急修理をしたとき

– サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）

– ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき

– タイヤチェーンを装着しているとき

– スペアタイヤを使用しているとき

– ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき

– ハンドルを指定品以外に交換しているとき

– ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）

– ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）

– ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき

– 事故や故障で自車の走行が不安定なとき

– ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2

– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき

– 定員を超えているとき

⚠ 警 告

– 車両などをけん引しているとき

– メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.788参照

※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.137参照

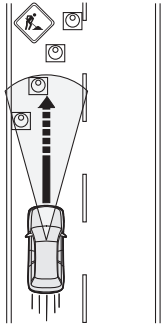
※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

- エマージェンシーレーンキープアシストは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定している。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるので、エマージェンシーレーンキープアシストを使用しない。

– 一般道（自動車専用道路以外）
道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

– 工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき



– 急カーブがある道

– 古い区画線が残っているとき

– 停止車両を避けるとき

– 路面に雪や水たまり、融雪剤が残っているとき

– 路面にひび割れや補修の跡があるとき

– 凍結路や積雪路など滑り易い路面
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

– インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき

– 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき

⚠ 警 告

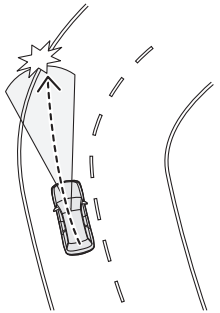
– フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
– フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき
– ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。

– 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
– 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
– 路面がぬれて光が反射しているとき
– 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
– 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
– 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき

⚠ 警 告

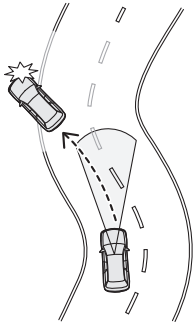
– カーブの形状が急激に変化するとき



– 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
– 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
– 車線の幅が変化したとき
– 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線がない、または消えかかっている
  - 区画線が黄色で描かれている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線が二重に描かれている
  - 区画線の幅が細いなど
  - 区画線以外の線が路面に描かれている
  - 区画線に壁やポールが隣接している

⚠ 警 告

– 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



– 高速道路のインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリア、パーキングエリア入口などの分岐レーンに差し掛かったとき

– 路肩に縁石や側壁があるとき

⚠ 警 告

– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

⚠ 注 意

- 次に挙げる状況では、エマージェンシーレーンキープアシストの性能を十分に発揮できないことがある。また、エマージェンシーレーンキープアシストが作動しないことや作動が解除されることがある。
  – 車両重量が極端に変化した直後
  – タイヤ交換直後やタイヤ空気圧調整直後
  – カメラ関係の調整・修理または交換をした直後
  – サスペンションや舵取り装置を修理・交換した直後
  – 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）や純正品以外のタイヤを装着しているとき
  – 横風を受けているとき
  – 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）
  – 路面の横断方向の勾配が大きいとき、または急激に変化するとき
  – 路面の凸凹、うねり、つなぎ目
  – 加減速度が大きいとき
  – 外気温が低いときのエンジン始動直後
  – 外気温が高いとき

⚠ 注 意

- エマージェンシーレーンキープアシストを使用しないときは、必ずエマージェンシーレーンキープアシストをOFFにする。
  ☞**P.381**参照
  ー エマージェンシーレーンキープアシストをONのままにしている場合、思わぬ場面で作動してしまうなどして、事故につながるおそれがあります。
- エマージェンシーレーンキープアシストをONにすると、電動パワーステアリングの操作力が変化することがある。
- エマージェンシーレーンキープアシストに用いている後側方レーダーの検知性能には限界がある。
  ☞**P.428**参照

エマージェンシーレーンキープアシストの使用方法

センターインフォメーションディスプレイを操作して、エマージェンシーレーンキープアシストをONにします。EyeSight設定項目の「エマージェンシーレーンキープアシスト」で「ON」を選択すると、この機能がONになります。
☞**P.125**参照
エマージェンシーレーンキープアシストをONにすると、メーター内の が消灯します。

以下の条件をすべて満たした場合にシステムは動作可能になります。ただし、以下の条件をすべて満たしている場合でも、区画線や後方車両を検出できず、エマージェンシーレーンキープアシストが作動できない場合があります。

- 自車速約60 km/h～約120 km/hで走行している
- システムが区画線を認識している
- 後側方からの接近車両を検出している
- SRVDをOFFにしていない
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動していない
- 運転者がハンドルを操作している
- 車線幅約3 m～約4 mの道路を走行している
- 直線、または緩やかなカーブを走行している
- 車線の中央付近を走行している

後方からの接近車両が存在する場合に、車線を逸脱しそうになると、エマージェンシーレーンキープアシストが作動を開始します。逸脱のおそれがある車線側を警告する割り込み画面を表示し、警報音（ピピピッ …）が鳴ります。

※ 画面は右側からの車両の接近を検知したとき

知 識

- SRVDがOFFのときはエマージェンシーレーンキープアシストは使用できません。その時は が点灯します。
- 後側方からの接近車両が検出できない場合、エマージェンシーレーンキープアシストは作動しません。
- エマージェンシーレーンキープアシストは、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。
- 車線逸脱抑制制御およびエマージェンシーレーンキープアシストが両方ともONにしているときは、以下のように制御が切り替わります。
  - エマージェンシーレーンキープアシスト作動後、後方車両が接近しなくなった後でも、まだ自車が車線を逸脱しそうな場合は車線逸脱抑制制御に切り替わります。
  - 車線逸脱抑制機能が作動中に後方車両の接近を検出するとエマージェンシーレーンキープアシストに切り替わります。
- 次の場合はエマージェンシーレーンキープアシストは作動しません。
  - 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動中のとき

エマージェンシーレーンキープアシストの解除方法

運転者の操作による解除

次のいずれかの操作でエマージェンシーレーンキープアシストが一時的に解除されます。

- ブレーキペダルを強く踏む
- 運転者のハンドル操作により、システムがアシスト不要と判断したとき

システムによる自動解除

次に挙げる状況などでは、エマージェンシーレーンキープアシストが一時的に解除されます。

- システムが区画線を認識できなくなったとき
- 自車速が約60 km/h未満になったとき、または約145 km/hを超えたとき
- VDC機能またはTCS機能が作動したとき

- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき
- セレクトレバーを“D”、“M”以外にしたとき
- 急カーブに進入しようとしているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 路面環境によりハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき
- 本機能以外の車両側のシステム要因により、ハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき
- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）

☞**P.422**参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight（白色）が点灯している）

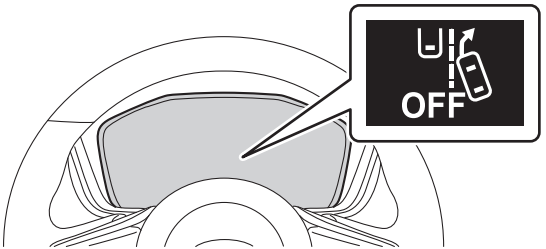
☞**P.422**参照

- エマージェンシーレーンキープアシストシステムが故障または一時停止したとき（LKA OFFが点灯している）

エマージェンシーレーンキープアシストの一時停止および故障

エマージェンシーレーンキープアシストが一時停止すると、LKA OFFが点灯します。状況が改善されると正常復帰します。
また、極めて高温または低温の環境で使用したときや、バッテリー電圧の異常が発生したとき表示されます。

LKA OFFが長時間点灯し続ける場合は故障のおそれがありますので、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。



エマージェンシーレーンキープアシストをOFFにするとき

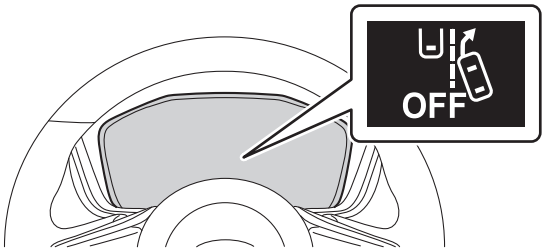
センターインフォメーションディスプレイのEyeSight設定項目でエマージェンシーレーンキープアシストをOFFすることができます。「エマージェンシーレーンキープアシスト」の項目で「OFF」を選択することで、エマージェンシーレーンキープアシストがOFFになります。

☞P.125参照

エマージェンシーレーンキープアシストをOFFにすると、メーター内の が点灯します。

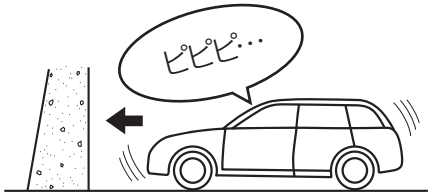
エマージェンシーレーンキープアシストOFF表示灯

- プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後、プッシュエンジンスイッチをOFFする前の状態に応じて消灯または点灯します。
- エマージェンシーレーンキープアシストをOFFにすると点灯します。



AT誤発進抑制制御

前方に障害物を認識している場合、停車または徐行状態から、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し発進を緩やかにします。



AT誤発進抑制制御が作動するとブザー（ピピピ…）が鳴り、割り込み画面を表示します。
この機能はセレクトレバーが“D”または“M”のとき作動します。

⚠ 警 告

- AT誤発進抑制制御を過信しない。
  - AT誤発進抑制制御は衝突を回避するものではありません。発進時はセレクトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。AT誤発進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- AT誤発進抑制制御は停止状態を保つものではない。
- AT誤発進抑制制御はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではない。また、衝突を回避するものではない。
- AT誤発進抑制制御は前方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進を緩やかにするものではない。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まない。
  - アクセルの調節をAT誤発進抑制制御のみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。

⚠ 警 告

- 遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、AT誤発進抑制制御をOFFにする。
  - 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラが遮断機を対象物と認識し、AT誤発進抑制制御が作動することがあります。

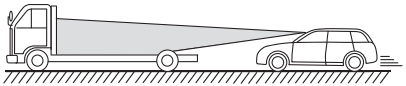
☞P.385参照

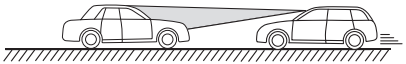
次の条件の違いにより作動しないことがあります。

- 対象物との距離、速度差、横方向のずれ具合
- ステレオカメラが認識しにくい状況について
  特に次の場合は作動しない可能性が高くなります。
  - 悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
  - 先行車や対向車両の水や雪などの巻き上げや水蒸気、砂、煙、土埃などが舞い、視界が十分でないとき
  - 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に対象物に接近するとき
  - 屋内の駐車場など暗い場所で対象物に接近するとき
  - ヘッドランプ照射範囲外に対象物が存在するとき
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
  - フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  - フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
  - 雨滴やフロントウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき

⚠ 警 告

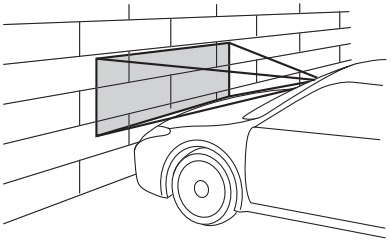
– ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき
– 対象物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両など）
– 対象物の大きさがステレオカメラの認識限界より小さいとき
  – 小動物や幼児など
  – しゃがんでいる人や横たわっている人など
– 対象物や前方の車両（トレーラーや対向車両など）の自車から一番近い面および最後面が小さいときや、接近し過ぎたとき（自車から一番近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）





⚠ 警 告

– 対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき



– 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
– 車両（自動二輪車、自転車含む）、歩行者などの対象物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
– 発進時に自車が進路変更を行い、対象物のすぐ後ろに接近したとき
– 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂のとき
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
– 夜間またはトンネル内で、先行車のテールランプが点灯していないとき
– 真っ暗で周囲に物がないとき
– 周囲一面が同じような色合いのとき（一面に雪景色など）

• 運転者のハンドル操作状態から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき

⚠ 警 告

安全のため、お客様ご自身でAT誤発進抑制制御の作動テストを行わないでください。作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

次のような場合は、必ずAT誤発進抑制制御をOFFにしてください。AT誤発進抑制制御が予期しない作動をする可能性があります。

☞P.385参照

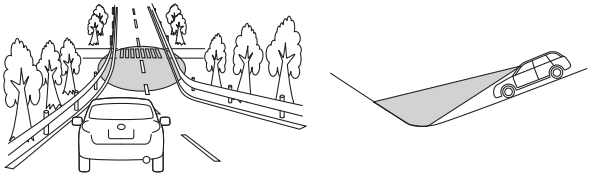
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき

次のような場合は、AT誤発進抑制制御が作動することがありますので安全運転に努めてください。

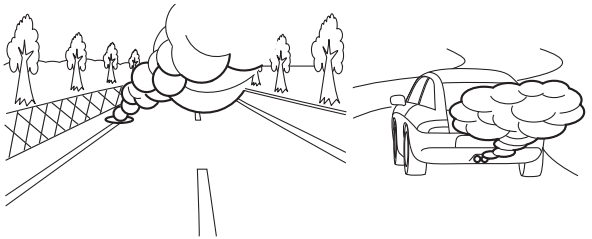
- 前車に接近して走行するとき
- ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
- 前方の壁や路面に作動対象との区別がつきにくい映り込みやペイントなどがあるとき

⚠ 注 意

- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

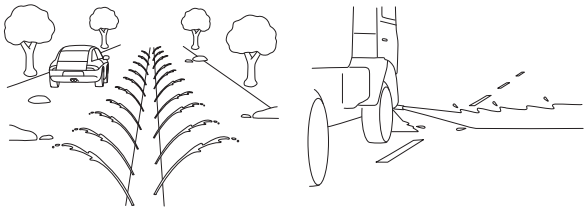


- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき

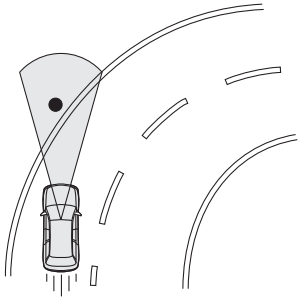


⚠ 注 意

- 消雪パイプや散水車などの散水を通過するとき



- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
- カーブや交差点に障害物があるとき



- 車両や障害物、草木などの横すれすれを通過するとき
- 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

知 識

- アクセルペダルを踏み続けたとき（約3秒以上）は、徐々に制御を解除します。
- OFF が点灯しているときは、AT誤発進抑制制御は作動しません。
☞P.329参照

AT誤発進抑制制御をOFFにするとき

自車の停車中に、センターインフォメーションディスプレイのEyeSight設定項目でAT誤発進抑制制御をOFFすることができます。

「プリクラッシュブレーキ」の項目で「設定OFF」を選択することでAT誤発進抑制制御がOFFになります。
☞P.125参照

AT誤発進抑制制御をOFFにすると、メーター内のOFFが点灯します。

知 識

- AT誤発進抑制制御のON／OFF設定は、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリング、前側方プリクラッシュブレーキおよびAT誤後進抑制制御と連動します。
- AT誤発進抑制制御をOFFにしても、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動するとAT誤発進抑制制御はONになります。
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能作動中は、プリクラッシュブレーキをOFFにできません。

プリクラッシュブレーキOFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。
プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御をOFFにすると点灯します。

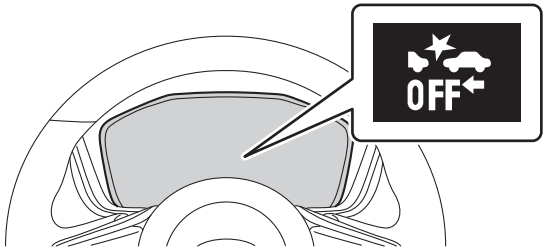
また、次の場合にも点灯します。

- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）

☞**P.422**参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight（白色）が点灯している）

☞**P.422**参照



知 識

- が点灯した場合、および も点灯します。
☞**P.318、328**参照

知 識

- が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリング、前側方プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御は作動しません。

AT誤後進抑制制御

AT誤後進抑制制御には、後退時の急な飛び出しを防ぐ後退飛び出し抑制と、後退時の速度を一定に保つ後退速度リミッターの機能があります。
これらの機能はセレクトレバーが“R”でブレーキペダルを踏んでいないとき作動します。
AT誤後進抑制制御はステレオカメラの物体認識を使用した制御ではありません。後方障害物の有無は制御に関係しません。

⚠ 警 告

- AT誤後進抑制制御を過信しない。
  - AT誤後進抑制制御は衝突を回避するものではありません。後進時はセレクトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。AT誤後進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- AT誤後進抑制制御は停止状態を保つものではない。
- AT誤後進抑制制御はあらゆる状況で、後退時の速度を緩やかにするものではない。また、衝突を回避するものではない。
- 安全のため、お客様ご自身でAT誤後進抑制制御の作動テストを行わない。
  - 作動せず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏んでいる最中は制御が作動しない。そのため、下り坂などでは設定された速度を超過する場合がある。お客様自身でブレーキペダルを踏み増すなど速度調整をする。

⚠ 警 告

- 万一、退避を要するような危険な状況に遭遇して、後進によって退避を行う必要がある場合なども、AT誤後進抑制制御は作動する。慌てずにアクセルペダルを深く踏み続けるか、AT誤後進抑制制御をOFFにする。
☞P.390参照

⚠ 注 意

次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

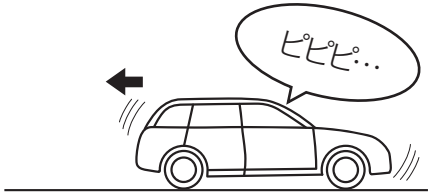
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安とする）
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

知 識

OFF が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御は作動しません。
☞P.329参照

後退飛び出し抑制

後退時、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し急な後退を抑制します。



後退飛び出し抑制が作動すると、ブザー（ピピピ…）が鳴ります。また、割り込み画面を表示します。

知 識

- アクセルペダルを深く踏み続けたとき（約3秒以上）は割り込み画面が消え、徐々に制御を解除します。
- AT誤後進抑制制御はステレオカメラの物体認識を使用した制御ではありません。後方障害物の有無は制御に関係しません。

後退速度リミッター

後退時、必要以上に加速しないよう車速を制限します。
制限速度は運転者が設定できます。

1. セレクトレバーを“R”にすると制限速度の設定値を表示します。

2. 制限速度を超過しそうになると、後退速度リミッターが作動します。

作動中はセレクトレバーを“R”にしたときよりも早い間隔でブザー（ポーンポーン…）が鳴ります。また、割り込み画面を表示します。

知 識

- 後退速度リミッターは機能の設定（低速／中速／高速／OFF）ができます。

設定	速度
低速	約10km/h
中速	約15km/h
高速	約20km/h
OFF	—

☞**P.125**参照

- アクセルペダルを深く踏み込むと制御を解除することができます（“速度制限中”の割り込み画面が消えます）。
  - アクセルペダルから足を離すと、再度後退速度リミッターが作動します。
  - 滑りやすい路面などでタイヤが空転したときは、後退速度リミッターが作動することがあります。
  - システムがアクセルの急踏みと判断した場合、後退飛び出し抑制が作動します。

AT誤後進抑制制御をOFFにするとき

自車の停車中に、センターインフォメーションディスプレイのEyeSight設定項目でAT誤後進抑制制御をOFFすることができます。

「プリクラッシュブレーキ」の項目で「設定OFF」を選択することでAT誤後進抑制制御がOFFになります。
☞P.125参照
AT誤後進抑制制御をOFFにすると、メーター内のが点灯します。

知 識

- AT誤後進抑制制御のON／OFF設定は、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリング、前側方プリクラッシュブレーキおよびAT誤発進抑制制御と連動します。
- AT誤後進抑制制御をOFFにしても、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動するとAT誤後進抑制制御はONになります。
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能作動中は、プリクラッシュブレーキをOFFにできません。

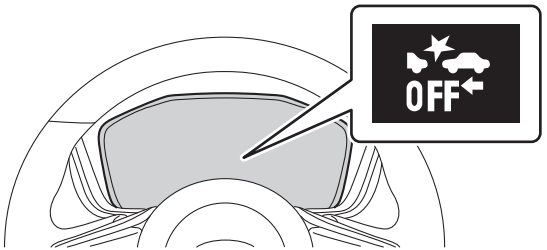
プリクラッシュブレーキOFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。
プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御をOFFにすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。
- EyeSightシステムが故障したとき（ （黄色）が点灯している）

☞P.422参照
- EyeSightシステムが一時停止したとき（ （白色）が点灯している）

☞P.422参照



知 識

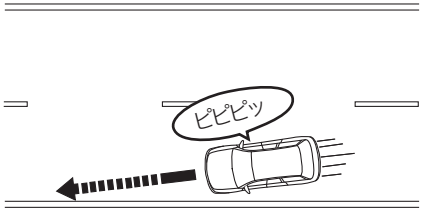
- が点灯した場合、 および も点灯します。
☞P.318、328参照

知 識

- OFF が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、緊急時プリクラッシュステアリング、前側方プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御は作動しません。

車線逸脱警報

自車速が約40 km/h以上のときに車線を逸脱しそうになると注意を促します。
車線逸脱警報が作動するとブザー（ピピピッ）が鳴り、割り込み画面を表示します。

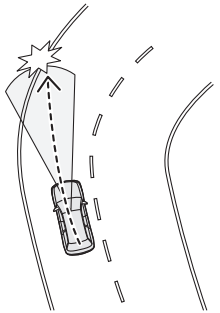


⚠ 警 告

- 車線逸脱警報はあらゆる状況で作動するものではない。また、逸脱を自動的に回避するものでもない。車線の維持を車線逸脱警報のみに頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがある。
  車線逸脱警報は区画線を認識している場合に警報するものであり、路肩や側溝など道路の端を認識して警報する機能ではない。
- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。
  - ー 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - ー 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
  - ー 路面がぬれて光が反射しているとき
  - ー 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
  - ー 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
  - ー 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき

⚠ 警 告

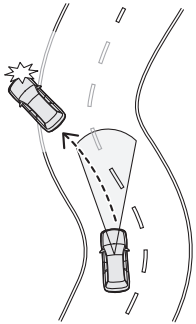
- ー カーブの形状が急激に変化するとき



- ー 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
- ー 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
- ー 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
- ー 車線の幅が変化したとき
- ー 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線がない、または消えかかっている
  - 区画線が黄色で描かれている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線が二重に描かれている
  - 区画線の幅が細いなど
  - 区画線以外の線が路面に描かれている
  - 区画線に壁やポールが隣接している

⚠ 警 告

– 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



– 路肩に縁石や側壁があるとき
– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– 路面に雪や水溜り、融雪剤が残っているとき
– 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
– フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
– フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき

⚠ 警 告

– ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

⚠ 注 意

次の場合、車線逸脱警報は作動しないまたは作動しにくい場合があります。

- 自車速が約40 km/h未満のとき
- ハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- 急カーブを走行しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- ウインカー作動中とレバーを戻した後の約3秒間
- 車線逸脱警報作動後、車線の内側に戻っていないとき
- 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）

知 識

- 次の場合、車線を誤って認識し、車線逸脱警報が作動することがあります。
  – ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
  – 雪とアスファルトの境目や道路の補修跡などがあるとき
  – ガードレールの影などがあるとき
  – 区画線が二重に描かれているとき
  – 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

知 識

- 車線逸脱警報は区画線への接近速度など車両状態から逸脱するタイミングを判断しているため、警報が作動する位置が変動することがあります。
- が点灯しているときは、車線逸脱警報は作動しません。
☞**P.394**参照

車線逸脱警報をON／OFFにするとき

センターインフォメーションディスプレイのEyeSight設定項目で車線逸脱警報をON／OFFすることができます。

「車線逸脱防止機能」の項目で「すべてON」または「警報音のみON」を選択することで車線逸脱警報がONになります。また「車線逸脱防止制御のみON」または「すべてOFF」にすることで車線逸脱警報がOFFになります。
☞**P.125**参照

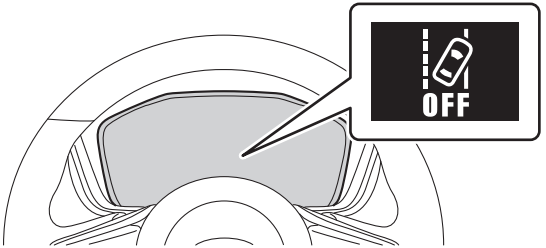
知 識

- 車線逸脱警報をOFFにすると、ふらつき警報もOFFになります。
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

車線逸脱警報OFF表示灯

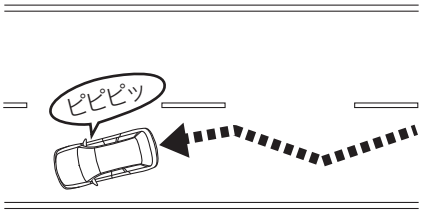
プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。

また、次の場合にも点灯します。
- EyeSightシステムが故障したとき（(黄色）が点灯している）
☞**P.422**参照
- EyeSightシステムが一時停止したとき（(白色）が点灯している）
☞**P.422**参照



ふらつき警報

車線内での車両の蛇行パターンからふらつきを認識し注意を促します。ふらつき警報が作動するとブザー（ピピピッ）が鳴り、割り込み画面を表示します。
車速が約60 km/hを超えると作動可能になります。車速が約40 km/hを下回ると作動を停止します。その後車速が約60 km/hを超えると、再び作動可能になります。

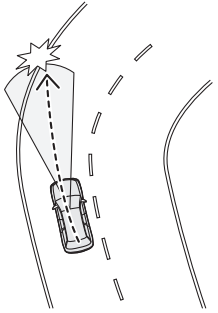


⚠ 警 告

- ふらつき警報はあらゆる状況で作動するものではない。また、ふらつきを自動的に修正するものでもない。自車がふらつかないようにすることをふらつき警報のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがある。
- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  - 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
  - 路面がぬれて光が反射しているとき
  - 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
  - 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
  - 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき

⚠ 警 告

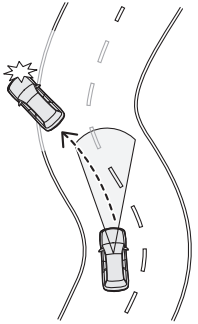
– カーブの形状が急激に変化するとき



– 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
– 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
– 車線の幅が変化したとき
– 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  • 区画線がない、または消えかかっている
  • 区画線が黄色で描かれている
  • 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  • 区画線が二重に描かれている
  • 区画線の幅が細いなど
  • 区画線以外の線が路面に描かれている
  • 区画線に壁やポールが隣接している

⚠ 警 告

– 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



– 路肩に縁石や側壁があるとき
– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
– 路面に雪や水溜り、融雪剤が残っているとき
– 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
– フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
– フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき

⚠ 警 告

– ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

⚠ 注 意

次の状況では、作動しない場合があります。

- カーブが連続する道を走行しているとき
- 車速が大きく変動するとき
- 車線変更をした直後のとき
- 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）

知 識

- ふらつきは過去数分間の走行データをもとに認識しています。ふらつきはじめてもすぐには認識できません。また、ふらつきがおさまった後もしばらくふらつき警報の作動が続くことがあります。
- ふらつき警報は運転者に注意を促す機能です。疲れたときやよそ見など、運転への集中力が落ちた際は、必要に応じてこまめに休憩をとることをお奨めします。
- 次の場合、ふらつき警報は作動しません。
  – 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動しているとき
  ☞P.353参照
  – が点灯しているとき
  ☞P.394参照

ふらつき警報をON／OFFにするとき

センターインフォメーションディスプレイのEyeSight設定項目でふらつき警報をON／OFFすることができます。

「車線逸脱防止機能」の項目で「すべてON」または「警報音のみON」を選択することでふらつき警報がONになります。また「車線逸脱防止制御のみON」または「すべてOFF」にすることでふらつき警報がOFFになります。

☞P.125参照

知 識

- ふらつき警報をOFFにすると、車線逸脱警報もOFFになります。
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

車線逸脱警報OFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。

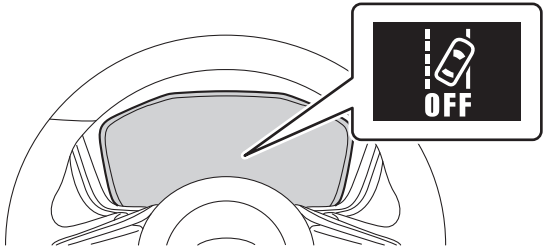
また、次の場合にも点灯します。

- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）

☞**P.422**参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight（白色）が点灯している）

☞**P.422**参照



青信号お知らせ

前方の信号が赤から青に変わった後も、自車が停止し続けた場合、ブザーと表示でお知らせします。先行車がいない状態で信号停止線で停車（信号距離約12 m～60 m、かつ自車がしばらく停車）すると信号が赤から青に切り替わり一定時間経過しても自車が発進しないときに作動します。

この機能はセレクトレバーが“D”、“M”または“N”のとき作動します。

この機能が作動するとブザー（ポピッ）が鳴り、割り込み画面を表示します。

⚠ 警 告

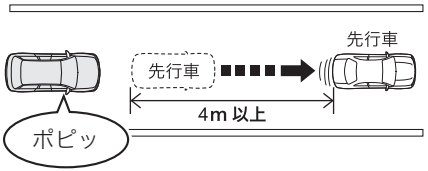
ブザーと表示でお知らせがあった場合でも、周囲の状況をよく確認してから自車を発進させてください。青信号お知らせのみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- 青信号お知らせのON／OFFの設定を変更できます。
  ☞P.125参照
- 次のような状況では、信号が切り替わっていなくても青信号お知らせが働いてしまう場合や、青信号が切り替わっても青信号お知らせが働かない場合があります。
  - 前方信号との間にオートバイなどが割り込んできたとき
  - 天候や道路形状などにより、信号を認識できないとき
  - ステレオカメラが信号を認識しなくなったとき
  - 信号機の周囲に赤もしくは青の発光体があるとき
- 次の場合、青信号お知らせは作動しません。
  - EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）
    ☞P.422参照
  - EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight（白色）が点灯している）
    ☞P.422参照

先行車発進お知らせ

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、ブザーもしくは音声と表示でお知らせします。先行車に続いて停車（車間距離が約12 m以内、かつ自車がしばらく停車）すると先行車を認識し続け、先行車が発進して約4 m以上進んでも自車が発進しないときに作動します。
この機能はセレクトレバーが“D”、“M”または“N”のとき作動します。
この機能が作動するとブザー（ポピッ）もしくは音声（先行車発進しました）が鳴り、割り込み画面を表示します。



知 識

ブザーと音声はカスタマイズで変更可能です

⚠ 警 告

ブザーもしくは音声と表示でお知らせがあった場合でも、周囲の状況をよく確認してから自車を発進させてください。先行車発進お知らせのみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- 先行車発進お知らせの音声／通知音／OFFの設定を変更できます。
  ☞P.125参照
- 次のような状況では、先行車が発進していなくても先行車発進お知らせが働いてしまう場合や、先行車が発進していても先行車発進お知らせが働かない場合があります。
  - 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
  - 天候や道路形状などにより、先行車を認識できないとき
  - ステレオカメラが先行車を認識しなくなったとき

知 識

- 次の場合、先行車発進お知らせは作動しません。
  - EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）
    ☞P.422参照
  - EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight（白色）が点灯している）
    ☞P.422参照

EyeSightアシストモニター

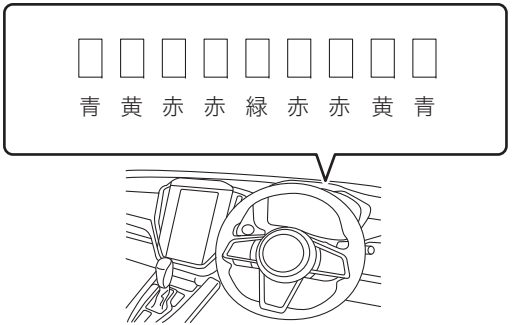
EyeSightシステムの作動状況をフロントウインドウ下部に投影します。
運転者は周辺の道路環境から視線を離さずに警告、表示を認識することができます。

LEDインジケーターは個別にON／OFFを設定することができます。
☞**P.125**参照

緑色と青色のインジケーターは、イルミネーションコントロールダイヤルを回すと、明るさを調整することができます。
周囲が暗いときは、調整した明るさに合わせて赤色、黄色のインジケーターも暗くなります。
☞**P.276**参照

EyeSightアシストモニターの作動

プッシュエンジンスイッチをONにすると、青→黄→赤→緑の順にLED点灯を行います。
EyeSightアシストモニターの設定がONになっている場合は、2回点灯します。
走行中、EyeSightの作動状況に応じて、LEDインジケーターを発光させ、フロントウインドウ下部に投影し、運転者に知らせます。



表示	状態
赤色点滅 (片側)	• 前側方プリクラッシュブレーキ警報が作動（左右片方）したとき（車両が接近している側が点滅、接近していない側は点灯） • 逸脱回避要求警報が作動したとき（逸脱している側が点滅、逸脱していない側は点灯） • エマージェンシーレーンキープアシストが作動したとき（車両の接近を検知している側が点滅、車両の接近を検知していない側は点灯）

表示	状態
赤色同時点滅（4灯）	• 車間距離警報、プリクラッシュブレーキ（1次ブレーキおよび2次ブレーキ）、緊急時プリクラッシュステアリング、前側方プリクラッシュブレーキ警報（左右両方）、前側方プリクラッシュブレーキ（1次ブレーキおよび2次ブレーキ）、ブレーキ踏み増し要求警報、AT 誤発進制御が作動したとき • 車線中央維持・先行車追従操舵機能作動時にシステムが運転者のハンドル操作を長時間、検出できない状態で自動解除されたとき • 渋滞時ハンズオフアシスト作動時に EyeSight システムが故障または一時停止したとき • カーブ前速度警報、料金所前速度警報が作動したとき • ドライバー異常時対応システムが作動しているとき
黄色点滅（片側）	• 前側方警戒アシストが作動（左右片方）したとき（車両が接近している側が点滅、接近していない側は点灯） • 車線逸脱警報が作動したとき（逸脱している側が点滅、逸脱していない側は点灯）
黄色点滅（交互）	ふらつき警報が作動したとき

表示	状態
黄色同時点滅	• 前側方警戒アシストが作動（左右両方）したとき • 車線中央維持・先行車追従操舵機能や車線逸脱抑制機能使用中、一定時間、ハンドル操作を検知できなかったとき • 車線中央維持・先行車追従操舵機能がシステムにより自動解除されたとき（速く点滅） • 車線逸脱抑制機能がシステムにより自動解除されたとき（速く点滅） • 車線逸脱抑制機能が長時間作動したとき • 渋滞時ハンズオフアシスト作動中に、制御対象エリア外、カーブ、料金所に接近したとき • 車線中央維持・先行車追従操舵機能作動中に、システムが運転者のわき見、居眠りを検知したときや、顔を検知できない状態が続いたとき • 車線中央維持・先行車追従操舵機能使用中、ドライバーモニタリングシステムが故障や一時停止をしたとき
緑色点灯	全車速追従機能付クルーズコントロール使用中で先行車を認識しているとき
青色点灯	渋滞時ハンズオフアシストが作動しているとき

定速クルーズコントロール

定速クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。運転者が設定した車速を保ちながら、一定の速度で走行することができます。

⚠ 警 告

定速クルーズコントロール中は車間距離を保つ追従走行を行いません。
先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

次の状況では、システムが正しく動作しません。定速クルーズコントロールを使用しないでください。

- ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※
- ホイールアライメントが規定値から外れているとき※

※ ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.788参照

次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので定速クルーズコントロールを使用しないでください。

- 交通量の多い道や急カーブのある道を走行しているとき
  - 道路状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
  - タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な下り坂の道を走行しているとき
  - セット車速を超えてしまう場合があります。
- 急な下り坂が続くとき
  - ブレーキが過熱するおそれがあります。
- 車両などをけん引しているとき
  - セット車速を維持できなくなる場合があります。
- 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

⚠ 注 意

クルーズコントロールを使用するときは、全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールのどちらのクルーズコントロールが選択されているかをメーター内で必ず確認してください。

- 全車速追従機能付クルーズコントロール…
- 定速クルーズコントロール…

知 識

- クルーズメインOFFの状態から（クルーズ）スイッチを押すと、全車速追従機能付クルーズコントロールがONになります。
- クルーズメインONのとき、（車間設定）スイッチ※を押すと、全車速追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えることができます。

知 識

※ 定速クルーズコントロールに切り替えるときは、約2秒以上押し続けてください。

- EyeSightシステムが一時停止中でも、定速クルーズコントロールは使用できます。

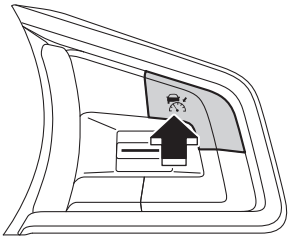
定速クルーズコントロールの使用方法

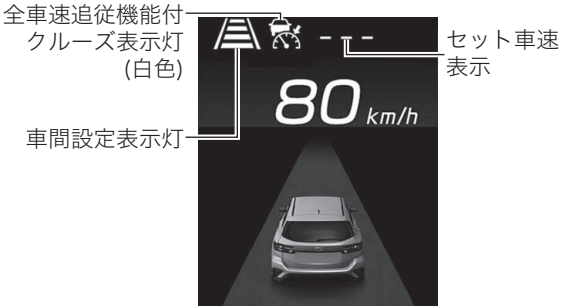
1. 全車速追従機能付クルーズコントロールを作動可能（状態）にします。

(クルーズ）スイッチを押します。全車速追従機能付クルーズコントロールがONになり、メーター内に(白色)、車間設定表示灯および自車表示灯が点灯します。

また、--- km/hを表示します。

(クルーズ）スイッチを押したときは常に全車速追従機能付クルーズコントロールとして起動します。

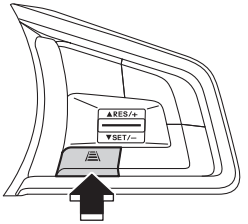




2. 定速クルーズコントロールに切り替えます。

(車間設定）スイッチを約2秒以上押し続けると、全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替わり、ブザー（ピッ）が鳴ります。

このときメーター内の車間設定表示灯が消灯し、(白色）に切り替わります。



定速クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たすとセット可能になり、メーター内にREADYが点灯します。

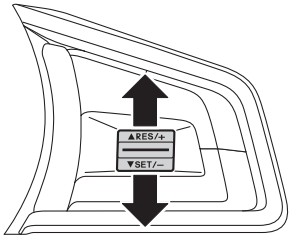
- 運転席・助手席・後席のすべてのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- 電動パーキングブレーキを解除している（電動パーキングブレーキ作動灯消灯）
- セレクトレバーが“D”または“M”に入っている
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 急な坂道でない
- ハンドルを大きく切っていない
- 自車速が約30 km/h～約120 km/hのとき
- エンジン回転数が高回転ではない
- VDC機能およびTCS機能が作動していないとき

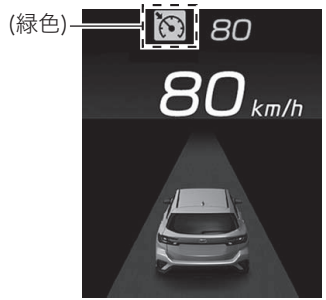
3. アクセルペダルを加減して希望する速度にします。

4. 希望する速度になったら、SET/－またはRES/＋スイッチを押します。

スイッチを押したときの車速がセット車速となり、定速走行します。

メーター内にセット車速が表示され、が白色から緑色に変わります。また、メーター内のREADYが消灯します。





⚠ 警 告

- 定速クルーズコントロール作動中は、ブレーキ踏み増し要求警報は作動しない。
- 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定する。

⚠ 注 意

- 定速クルーズコントロールでは、必要に応じて運転者がアクセル、ブレーキ操作をする。
  - システムによる先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御は行いません。

知 識

- 下り坂などでは、セット車速を保つため定速クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。

知 識

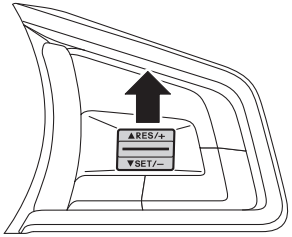
- 全車速追従機能付クルーズコントロールに戻したいときは、定速クルーズコントロールを解除して、(車間設定）スイッチを押します。切り替わるとブザー（ピッ）が鳴ります。
- SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択している場合に速度をセットすると、メーター内の表示がギヤ位置から“D”に切り替わります。
- クルーズコントロール加速レベルを4段階に設定できます。☞P.125参照

セット車速を上げるとき

■RES/＋スイッチによる方法

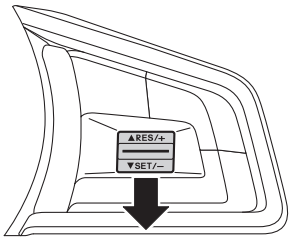
- RES/＋スイッチを1回ずつ押します
  押すごとにセット車速が5 km/hずつ上がります。
- RES/＋スイッチを押し続けます
  押している間、セット車速が1 km/hずつ上がります。

スイッチを操作するごとにメーター内のセット車速が変わります。



■アクセルペダルによる方法

1. アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
2. 希望の速度になったらSET/−スイッチを押します。
   スイッチを押したときの車速に再セットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。

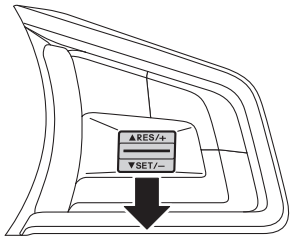


セット車速を下げるとき

■SET/−スイッチによる方法

- SET/−スイッチを1回ずつ押します
  押すごとにセット車速が5 km/hずつ下がります。
- SET/−スイッチを押し続けます
  押している間、セット車速が1 km/hずつ下がります。

スイッチを操作するごとにメーター内のセット車速が変わります。



■ブレーキペダルによる方法

1. ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。
   定速クルーズコントロールが解除され、が緑色から白色に戻ります。
2. 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、SET/−スイッチを押します。スイッチを押したときの車速にセットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。

一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

一時的に減速したいとき

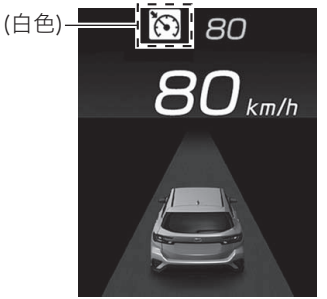
一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。
このとき、定速クルーズコントロールは解除されます。
メーター内にセット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。

セット車速に再びセットする場合はブレーキペダルから足を離し、RES/+スイッチを押します。

定速クルーズコントロールの解除方法

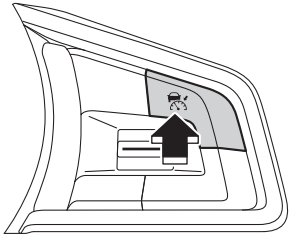
運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で定速クルーズコントロールが解除されます。メーター内は、セット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。



- ブレーキペダルを踏む。

- (クルーズ）スイッチを押す



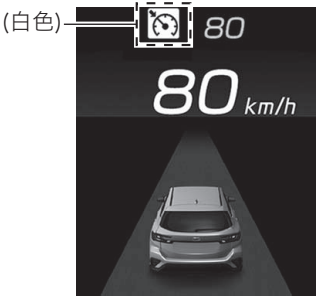
システムによる自動解除

次の場合、ブザー（ピピーン）が鳴り、定速クルーズコントロールが自動的に解除され、割り込み画面が表示されます。

- セレクトレバーを“D”または“M”以外にしたとき
- 自車速が約25 km/h以下になったとき（急な上り坂など）
- 自車速が約145 km/h以上になったとき
- VDC機能またはTCS機能が作動したとき
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき
- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight(黄色）が点灯している）

☞**P.422**参照

- ハンドルを大きく回したとき
- 道路の勾配が急なとき
- プリクラッシュ 2次ブレーキが作動したとき
- 長時間連続でアクセル操作があったとき
- エンジン回転数が高回転になったとき



⚠ 警 告

滑りやすい路面では、定速クルーズコントロールを使用しない。

- 思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

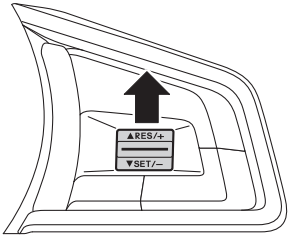
- 緊急時以外はセレクトレバーを“N”にしない。
  - セレクトレバーを“N”にすると定速クルーズコントロールは自動的に解除されますが、エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

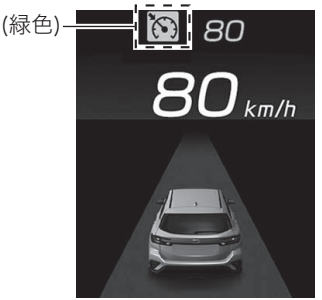
知 識

- EyeSightシステムが故障した場合はEyeSightが点灯し、割り込み画面を表示します。その場合は安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから再びエンジンを始動してください。この操作をしても表示灯が点灯し続けるときは、定速クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。
  ☞P.422参照
- 定速クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。

解除からの復帰（セット車速の再セット）

前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再びセットする場合はRES/＋スイッチを押します（メーター内が再びセット状態の表示になります）。
前回のセット車速がメモリーされている場合、自車速約30 km/h以上のときにセットできます。



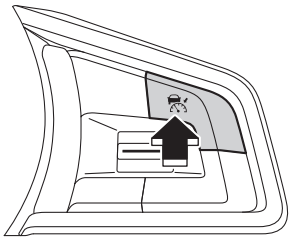


知 識

- 次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。
  - －（クルーズ）スイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
  - － 定速クルーズコントロールから全車速追従機能付クルーズコントロールに切り替えたとき
- セット車速に応じた車速で定速走行します。
- 前回のセット車速がメモリーされていない場合、RES/＋スイッチを押すと、現在の自車速がセットされます。
  ☞P.404参照

定速クルーズコントロールをOFFにするとき

定速クルーズコントロール解除中に（クルーズ）スイッチを押すと（白色）と自車表示灯が消灯し、定速クルーズコントロールがOFFになります。



RAB（後退時ブレーキアシスト）

RABは、後退時に後方の障害物を検知して表示と警報音で知らせ、衝突の可能性があると判断した場合はブレーキを作動させることで衝突を回避、または被害を軽減するシステムです。

警 告

- 安全運転を行う責任は運転者にある。後退時には、ブレーキペダルを踏める状態で、必ず目視によって周辺状況を確認する。
  - － RABの検知性能・制御性能には限界があります。天候や周囲の状況、車両の状態により、警報音やブレーキ制御の作動が遅れたり、作動しなかったり、衝突が回避できない場合があります。
  - － RABは、歩行者や動物、動いているものを認識するように設計されていません。
- RABだけに頼った後退は、絶対にしない。
  - － システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合、死亡事故に至るおそれがあります。
- 車両などをけん引するときは、必ずRABをOFFにする。
  - － RABが予期しない作動をし、事故につながるおそれがあります。
- 車両後部にアタッチメントパーツ（トレーラーヒッチ、サイクルキャリア、バンパーガード）を取り付けた場合は、必ずRABをOFFにする。
  - － システムの誤作動により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

- 踏切から緊急に脱出するときなど、RABを解除する必要があるときは、落ち着いてアクセルペダルを踏み続けるか、自動（被害軽減）ブレーキをOFFにする。
  - システムが遮断機を障害物として検知し、ブレーキが作動することがあります。
  ☞P.417参照
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するときは、必ずRABをOFFにする。
  - RABが予期しない作動をするおそれがあります。

⚠ 注 意

- RABは自車の真後ろに静止している車両や壁などを障害物として想定しています。次のようなものは、障害物として認識しないことがあります。
  - 歩行者
  - 動いているもの
  - 枝や遮断機など尖ったものや細いもの
  - 布や雪など音波を吸収するもの
  - 表面の角度が斜めになっているもの
  - 車両より小さいもの
  - 車両よりも高い位置や、地面近くの低い位置にあるもの
  - 自車の中心から左右に外れた位置にあるもの
  - 地面に対して垂直でないもの
  - 凹凸のあるものや表面が波打っているもの
- RABは次のような場合に作動しないことがあります。
  - 障害物に対して斜めに接近する場合

⚠ 注 意

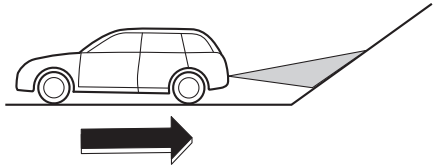
- ハンドルを大きく切っている場合

知 識

- RABは、システムによるブレーキが作動したときに、次のデータを記録します。個人情報（例：氏名・性別・年齢・作動場所）や、会話その他の音声データは記録しません。
  - 対象物からの距離
  - 車速
  - アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
  - セレクトレバーの位置
  - 外気温
  - ソナーセンサーの感度設定
- セレクトレバーを“R”にしたとき、すでにリヤバンパーのすぐ近くにあるものは認識しないことがあります。
- ソナーセンサーの取り扱いをお守りください。
  ☞P.291参照
- 次のときは、システムが正常に作動しないことがあります。
  - ソナーセンサー付近が極端に暑いとき、または寒いとき
  - 大雨などでソナーセンサーおよびソナーセンサー付近に大量の水がかかったとき
  - 霧や雪、強風、砂嵐など悪天候のとき
  - 他の車両のホーン、エンジン音、エアブレーキ音などの高周波音が近くで鳴っているとき
  - RABのソナーに近い周波数の音が近くで鳴っているとき

知 識

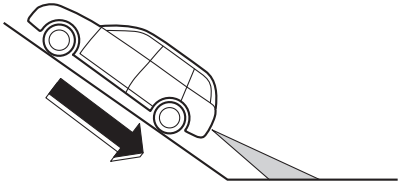
- 車両を改造したり、リヤバンパーに次のような部品を取り付けたりすると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。部品の取り付けなどが必要なときは、SUBARU販売店にご相談ください。
  - フォグランプ、フェンダーポール、ラジオアンテナなどの部品
  - ホーンやスピーカーなどの高周波音を出す部品
  - 字光式ナンバープレートなど
- 次のような状態のときは、システムが地面や壁などを障害物として検知することがあります。
  - 積載などにより、車高が極端に変わっているとき
  - 後退方向に極端な上り坂があるとき



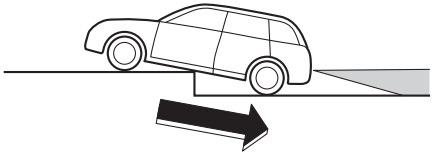
  - 後退方向に縁石があるとき
  - 草や砂利が多い道路や穴やわだちがある地面を後退しているとき

知 識

  - 狭いトンネルや狭い橋、狭い道路、狭いガレージなど、物や壁が車両に隣接した場所で後退しているとき
  - 極端な上り坂または下り坂を後退しているとき



  - 段差を後退しているとき



  - 路面がぬれているとき

知 識

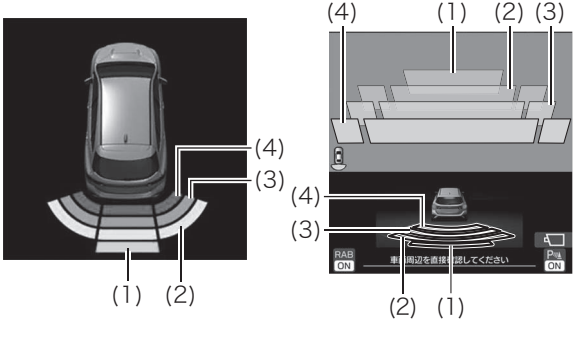
- 次のような状態のときは、システムが正常に作動してもブレーキが効きにくく、衝突を回避できないことがあります。
  - タイヤを正しく装着していないとき
  ☞P.722参照
  - 路面が滑りやすいとき
  - 急な坂道を走行しているとき
  - マンホールのフタの上などを走行しているとき
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - 車両やブレーキに異常があるとき

RABの作動

後退中に障害物を検知すると、ソナー警報音および自動（被害軽減）ブレーキが作動します。

ソナー警報音

後退中に障害物を検知すると、障害物との距離の範囲がメーターとセンターインフォメーションディスプレイのRAB画面、およびマルチビューモニターの後方確認画面に表示され、警報音が鳴ります。
警報音は障害物との距離によって中距離、接近、最接近の3段階に変化し、近づくほど間隔が短くなります。



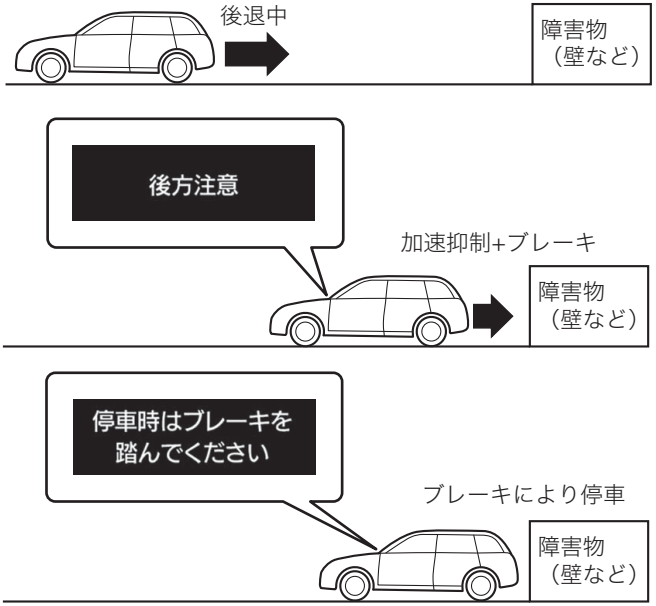
	警報パターン	障害物との距離の範囲	障害物との距離の表示	
			メーター	リヤビューモニター
(1)	遠距離警報	約90 cm～約150 cm	緑	緑
(2)	中距離警報	約70 cm～約90 cm	黄＋緑	黄
(3)	接近警報	約50 cm～約70 cm	橙＋黄＋緑	橙
(4)	最接近警報	約50 cm以下	赤＋橙＋黄＋緑	赤

知 識

ソナー警報音の音量を設定できます。
☞P.125参照

自動（被害軽減）ブレーキ

車速約1.5 km/h～約15 km/hで後退を続けたとき、衝突の危険があると判断されると、衝突を回避するために自動的にエンジン出力を抑制し、強いブレーキが作動します。
警報音に加え、割り込み画面を表示します。
自動（被害軽減）ブレーキによる停車後は、安全のためブレーキペダルを踏んでください。ブレーキペダルを踏むまで割り込み画面を表示し、警報音を継続します。このとき、RABが一時停止します。セレクトレバーを“R”以外にすると復帰します。



警 告

システムによるブレーキで停車した後はすぐにブレーキペダルを踏んでください。お車が動き出すおそれがあります。

知 識

- ソナー警報音が鳴っていても、自動（被害軽減）ブレーキは作動しないことがあります。

知 識

– ソナー警報音と自動（被害軽減）ブレーキでは検知できる範囲や作動条件が異なります。

- 加速抑制中にアクセルペダルを踏み続けると、RABをキャンセルすることができます。
- RABによる停車中にアクセルペダルを踏んだとき、RABは作動しません。
- 次の場合は、RABが解除され、電動パーキングブレーキが作動します。
  – 車両が停止してから2分が経過したとき
  – いずれかのドアを開けたとき
  – RAB警告灯が点灯したとき
  – RAB OFF表示灯／一時停止表示灯が点灯したとき
  ☞**P.249**参照
- 障害物を検知できなくなったときは、RABがキャンセルされます。

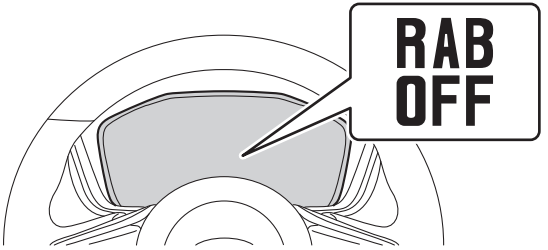
RABの一時停止

自動（被害軽減）ブレーキが一時停止するとき

自動（被害軽減）ブレーキの作動後、セレクトレバーを“R”以外にするまで、および次のようなときには、自動（被害軽減）ブレーキが一時停止します。

- ソナーセンサーに氷や雪、泥などが付着したとき
- リヤバンパーのすぐ近くに物がある状態でセレクトレバーを“R”にしたとき
- RABのソナーに近い周波数の音を検知したとき
- VDCをOFFにしたとき

このとき、RAB OFF表示灯／一時停止表示灯が点灯します。

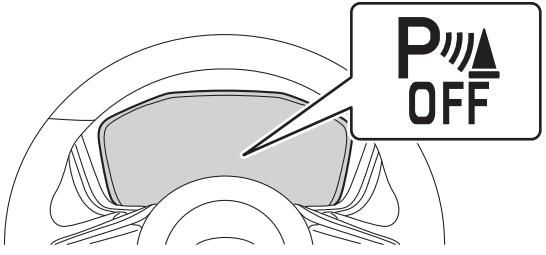


ソナー警報音が一時停止するとき

次のようなときには、ソナー警報音が一時停止します。

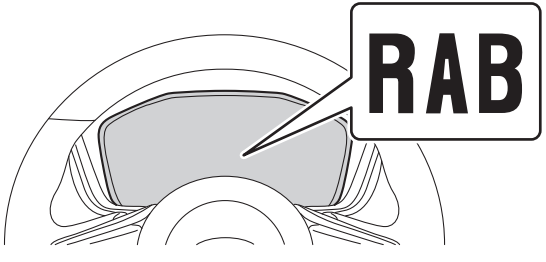
- ソナーセンサーに氷や雪、泥などが付着したとき
- RABのソナーに近い周波数の音を検知したとき

このとき、ソナー警報音OFF表示灯が点灯します。



RAB警告灯

システムに異常があると点灯します。SUBARU販売店にご連絡ください。



RABをON／OFFにするとき

センターインフォメーションディスプレイでソナー警報音、自動（被害軽減）ブレーキのON／OFFを切り替えることができます。☞P.125参照
マルチビューモニターに表示されるRAB画面の下のアイコンをタップして切り替えることもできます。

(1) 自動（被害軽減）ブレーキの作動あり／作動なし
(2) ソナー警報音の作動あり／作動なし

ソナー警報音をOFFにすると、リヤビュー画面のアイコンの「ON」が「OFF」に変わり、ソナー警報音OFF表示灯が点灯します。
自動（被害軽減）ブレーキをOFFにすると、リヤビュー画面のアイコンの「ON」が「OFF」に変わり、RAB OFF表示灯／一時停止表示灯が点灯します。

システム作動音一覧

ブザー（音）	状態	参照先
ピーーー	プリクラッシュブレーキ：2次ブレーキおよび警報が作動したとき	☞P.298
	自動（被害軽減）ブレーキ（RAB）：ブレーキが作動したとき	☞P.415
	緊急時プリクラッシュステアリングが作動したとき	☞P.310
	前側方プリクラッシュブレーキの2次ブレーキおよび警報が作動したとき	☞P.318
ピピーン	全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールが自動解除されたとき	☞P.348、409
	全車速追従機能付クルーズコントロールによる停止保持中に自動的に電動パーキングブレーキが作動したとき	☞P.348
	車線中央維持・先行車追従操舵機能が自動解除されたとき	☞P.361
	車線逸脱抑制機能が自動解除されたとき	☞P.372
	渋滞時発進アシストが解除されたとき	☞P.476
	アクティブレーンチェンジアシストが解除されたとき	☞P.485
	EyeSight X（高度運転支援機能）が自動解除されたとき	☞P.464
ピピーン…	車線中央維持・先行車追従操舵機能がハンドル操作長時間非検出時に自動解除されたとき	☞P.361
	渋滞時ハンズオフアシスト作動中にEyeSightシステムが故障したとき	☞P.476
	渋滞時ハンズオフアシスト作動中にEyeSightシステムが一時停止したとき	
	ドライバー異常時対応システム（車線維持制御非作動）	☞P.492

ブザー（音）	状態	参照先
ピピピ…	プリクラッシュブレーキ：1次ブレーキおよび警報が作動したとき	☞P.298
	プリクラッシュブレーキ：車間距離警報が作動したとき	
	前側方プリクラッシュブレーキの1次ブレーキおよび警報が作動したとき	☞P.318
	全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ踏み増し要求警報が作動したとき	☞P.351
	AT誤発進抑制制御が作動したとき	☞P.381
	AT誤後進抑制制御の後退飛び出し抑制が作動したとき	☞P.388
	自動（被害軽減）ブレーキ（RAB）：加速抑制が作動したとき	☞P.415
	料金所前速度警報が作動したとき	☞P.491
	カーブ前速度警報が作動したとき	☞P.489
ポンポーン	渋滞時ハンズオフアシスト作動中に制御対象外エリアに接近したとき	☞P.472
	渋滞時ハンズオフアシスト作動中に料金所に接近したとき	
	渋滞時ハンズオフアシスト作動中にカーブに接近したとき	
ポンポーン…	車線中央維持・先行車追従操舵機能作動中に、ハンドル操作が長時間検出されないとき	☞P.361
	車線中央維持・先行車追従操舵機能作動中に、運転者が前方を見ている状態が長時間検知されないとき	
	車線逸脱抑制機能が長時間作動したとき、または複数回作動したとき	☞P.366
	渋滞時ハンズオフアシスト作動中に制御対象外エリアにさらに接近したとき	☞P.472
	渋滞時ハンズオフアシスト作動中に料金所にさらに接近したとき	
	渋滞時ハンズオフアシスト作動中にカーブにさらに接近したとき	

ブザー（音）	状態	参照先
ピピピッ	車線中央維持・先行車追従操舵機能作動中に、逸脱回避要求警報が作動したとき	☞P.365
	車線逸脱警報が作動したとき	☞P.391
	ふらつき警報が作動したとき	☞P.395
	前側方警戒アシストが作動したとき（走行時）	☞P.444
ピ、ピ、ピ、ピ、ピ、ピピーン	全車速追従機能付クルーズコントロールによる停止保持が約10分間継続し自動的に電動パーキングブレーキが作動するとき	☞P.346
ピッ	全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に • 先行車を認識したとき※1 • 先行車を認識しなくなったとき※1 • 赤信号を認識したとき	☞P.337、352
	全車速追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えたとき	☞P.404
	EyeSightシステムが故障したとき	☞P.422
	EyeSightシステムが一時停止したとき	☞P.422
	RABが故障したとき	☞P.417
	RABが一時停止したとき	☞P.416
	アクティブレーンチェンジアシスト準備中	☞P.479
	機能使用制限通知	☞P.492
ポピッ	• 先行車発進お知らせが作動したとき※2 • 青信号お知らせが作動したとき※3	☞P.398、399
ポーンポーン…	後退速度リミッターが作動しているとき	☞P.388
ポッポッポッポッポッ …	ソナー警報音（RAB）：中距離警報	☞P.414
ポポポポポ…	ソナー警報音（RAB）：接近警報	
ポーーー	ソナー警報音（RAB）：最接近警報	
ピピピッ …	エマージェンシーレーンキープアシストが作動したとき	☞P.378

ブザー（音）	状態	参照先
ポンピーン	渋滞時ハンズオフアシストが“非作動→作動”となったとき	☞P.476
ピンポーン	渋滞時ハンズオフアシストが“作動→非作動”となったとき	
ピピッ	EyeSight X（高度運転支援機能）が使用できない状態で(EyeSight X) スイッチを押したとき	☞P.464
ピンピーン…	ドライバー異常時対応システム（車線維持制御作動）	☞P.492

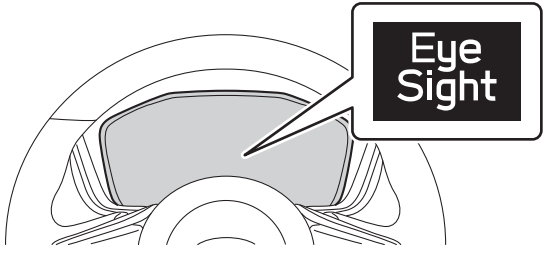
※1: 先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）をOFFに設定できます。
※2: 先行車発進お知らせをブザーもしくは音声でお知らせする設定ができます。またOFFにすることができます。
※3: 青信号お知らせをOFFにすることができます。
☞P.125参照

EyeSight システムの故障および一時停止

EyeSightシステムの異常を検知すると、メーター内の表示灯でお知らせします。表示内容を確認し、適切な処置を行ってください。

故障（ステレオカメラの位置・角度ずれ含む）

ブザー（ピッ）が鳴り、Eye Sight（黄色）が点灯または点滅します。
また、割り込み画面を表示します。



⚠ 注 意

走行中にEye Sightとエンジン警告灯が同時に点灯したときは、高速走行を避け、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。エンジンなどに異常がある場合、EyeSightシステムは使用できません。

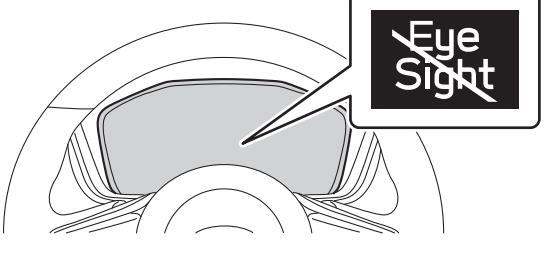
知 識

- Eye Sightが点灯または点滅したときは、安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてエンジンを止めてから、再びエンジンを始動してください。
- エンジンを再始動してもEye Sightが点灯または点滅し続けるときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。この場合、EyeSightシステムのすべての機能が停止します。通常走行には支障ありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。

一時停止

ブザー（ピッ）が鳴り、Eye Sight（白色）が点灯します。
また、割り込み画面を表示します。

原因が解消されると一時停止が解除され、自動的にEyeSightが復帰します。



表示画面	原因	処置
一時停止 カメラ視界不良 EyeSight	ステレオカメラが前方を認識しにくい • フロントガラスの汚れ、曇り • 悪天候時 • 前方からの強い光	• ステレオカメラ前のガラス外側が汚れている、曇っているなどの場合は、清掃を行ってください。 • ステレオカメラ前のガラス内側が曇っている場合は、しばらく走行するとその状況が解消され復帰します。また、デフロスターを使用することで効果的に状況が解消できる場合があります。 ☞P.511参照 • 悪天候や前方からの光が強い場合、その状況が解消されしばらく走行すると復帰します。 • ステレオカメラ前のガラス内側やレンズ部周辺が汚れている、または曇りが晴れない場合はSUBARU販売店で点検を受けてください。
一時停止 カメラ温度範囲外 EyeSight	低温または高温時	EyeSightが使用可能な温度になると復帰します。 室内が常温でも復帰しない場合、SUBARU販売店で点検を受けてください。
一時停止 EyeSight	• EyeSight起動中のとき • 車両が極端に傾いていると判断したとき • エンジン始動後、プリクラッシュ2次ブレーキが3回作動したとき • エンジンが停止したとき（アイドリングストップによる停止を除く） • 停車中または極めて低い速度で走行中にハンドル操作を行い、電動パワーステアリングが過熱防止状態になったとき • 走行中にボンネットが開いたとき	原因が解消されると復帰します。このとき、復帰に時間がかかる場合があります。 原因が解消して時間がたっても復帰しない場合、SUBARU販売店で点検を受けてください。
	エンジンシステム始動時からブレーキペダルを踏んだまま、VDC警告灯／VDC作動表示灯が点灯し続けているとき	ブレーキペダルから足を離すと復帰します。それでも復帰しない場合、SUBARU販売店で点検を受けてください。

知 識

EyeSightが点灯しているときは、次のような現象が発生します。

- 定速クルーズコントロールを除くすべてのEyeSightシステムの機能が使用できません。

オープンソースソフトウェア情報

EyeSightには、オープンソースソフトウェア（OSS）を搭載しています。
使用許諾やソースコードは以下のURLから取得できます。
https://oss.veoneer.com/subaru

その他の運転支援機能

SRVD（後側方警戒支援システム）

SRVDは、隣接車線の後方から接近する車両や、後退時に左右から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時や後退時の後側方確認をアシストするシステムです。

⚠ 警 告

SRVDについて次のことをお守りください。守らないと思わぬけがや重大な事故につながるおそれがあります。

- 車線変更や後退時には必ず目視で周辺状況を確認する。
  - 道路、天候、交通状況などにより、隣接車線に車両が存在する場合や、左右から接近する車両が存在する場合でも、SRVDが作動しなかったり、作動が遅れたりする場合があります。
- SRVDを過信しない。
  - 安全な車線変更や後退の可否を判断したり、車両や障害物との接触を自動的に防ぐ機能ではありません。
  - SRVDを過信すると最悪の場合、死亡事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- リフトアップするときや、シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するときは、SRVDが予期しない作動をするおそれがあるため必ずSRVDをOFFにしてください。

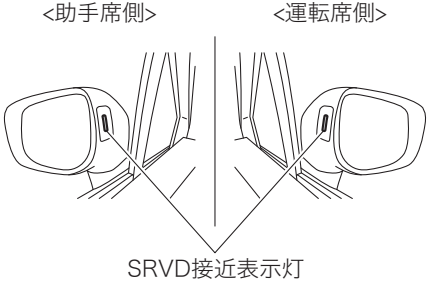
⚠ 注 意

- 次の場合は、必ずSRVDをOFFにしてください。後側方レーダーの電波が遮られるため、システムが正常に作動しない可能性があります。
  - 車両などをけん引するとき
  - 車両後部に自転車またはスキー・スノーボード固定用のリヤキャリアなどを装着するとき

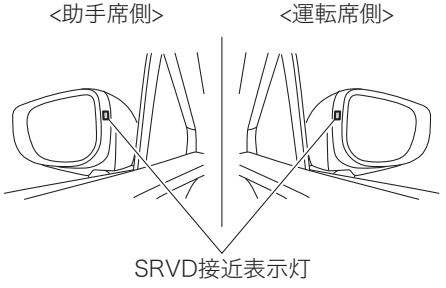
SRVDの作動

ドアミラーのSRVD接近表示灯が点灯、点滅して運転者に危険を知らせます。

<レヴォーグ>



<レイバック>

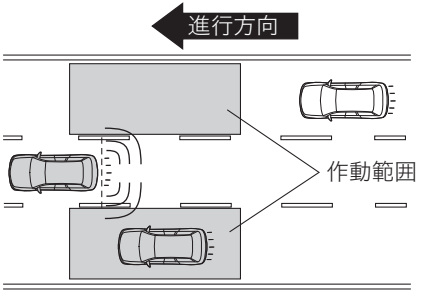


知 識

- 強い日差しのもとでは、SRVD接近表示灯が見えにくいことがあります。
- 後方車両からのヘッドランプによって、SRVD接近表示灯が見えにくくなることがあります。
- ランプ類が点灯していて周囲が暗いとき、イルミネーションコントロールダイヤルに連動してSRVD接近表示灯が減光します。
☞P.276参照

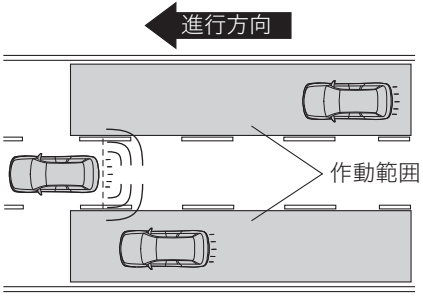
死角検知機能

車速約12 km/h以上で走行中、ピラー左右後方の死角にある車両を検知すると、SRVD接近表示灯が点灯します。運転者がSRVD接近表示灯の点灯した側にウインカーレバーを操作した場合は、SRVD接近表示灯が点滅して警告します。



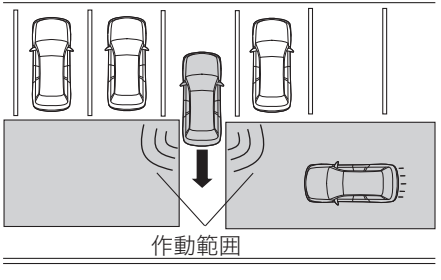
車線変更支援

車速約12 km/h以上で走行中、隣接する左右車線内に高速で接近する車両を検知すると、SRVD接近表示灯が点灯します。運転者がSRVD接近表示灯の点灯した側にウインカーレバーを操作した場合は、SRVD接近表示灯が点滅して警告します。



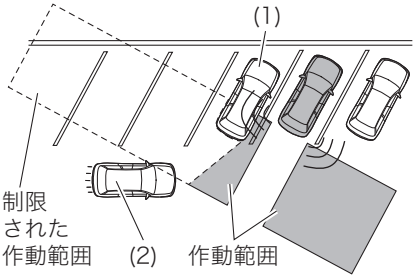
後退時支援

後退時に左右から接近してくる車両を検知すると、接近状態に応じてSRVD接近表示灯が点滅し、警報音が鳴ります。
マルチビューモニターの接近車両お知らせアイコンが点滅します。
☞**P.444**参照



■接近する車両を検知しにくいとき

後退時において、駐車枠線が斜めに引かれた駐車スペースに駐車している場合は、周囲の駐車している車両によりSRVDの作動範囲が制限されます。



(1) 駐車している車両
(2) 接近する車両

⚠ 警 告

周囲の駐車している車両によりSRVDの作動範囲が制限され、接近する車両の検知ができない場合や、遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において目視によって周辺状況を確認してください。

知 識

- 後側方レーダーの検知性能には限界があります。次のような場合にはSRVDの検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。
  - 後側方レーダー付近のリヤバンパーが変形、損傷したとき
  - リヤバンパーの後側方レーダー付近に雪、氷、泥が付着しているとき
  - 雨、雪、霧など悪天候のとき
  - 雪道、水たまりなど、ぬれた路面を走行するとき
- 次のような車両などに対しては、後側方レーダーが検知しないか、検知しにくいことがあります。
  - 小型の二輪車、自転車、歩行者、道路上および道路端の構造物
  - レーダーの電波が反射しにくい形状の車両（車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど）
  - 隣車線後方の検知エリアや、後退時の左右側方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両（接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています）
  - 自車との速度差がかなり大きい車両
  - 自車とほとんど速度差がなく、長い時間並走している車両
  - 対向車
  - 2車線隣にいる車両
  - 自車よりもかなり遅い速度で隣車線を走行中に、急激に速度を上げて自車を追い越そうとする車両
- 次のような場合は、SRVD接近表示灯の点灯／点滅および警報音の警告が遅れるか、作動しないことがあります。
  - 車両が、2車線隣の車線から隣車線に車線変更してきたとき
  - 急勾配を走行している、または急勾配の上り下りが連続した坂道を走行しているとき

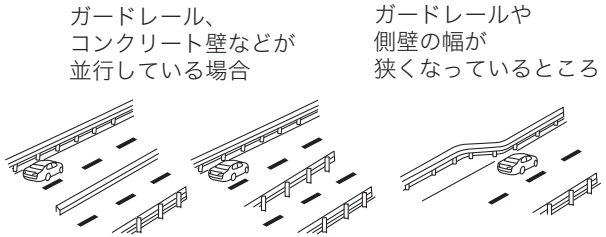
知 識

- 自車と隣車線の車両が、互いの車線の端を走行しているとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近しているとき
- 回転半径が小さいとき（急カーブや交差点を曲がるときなど）
- 走行車線と隣接する車線間で高低差があるとき
- SRVDをONにした直後
- セレクトレバーを“R”に入れた直後
- 荷室に非常に重い荷物を載せているとき

- 後退時、次のような場合はSRVD接近表示灯の点滅および警報音の警告が遅れるか、作動しないことがあります。
  - 傾斜のある駐車スペースから出るとき
  - 隣に大型車両が駐車しているとき
  - 勾配がついた路面で後退しているとき
  - 後退速度が速いとき
- 後退時において、駐車枠線が斜めに引かれた駐車スペースに駐車している場合は、次のような現象が発生する可能性があります。
  - SRVD接近表示灯の点滅および警報音の警告が遅れるか、作動しない
  - 車両前方を通過する車両を検知して、SRVD接近表示灯が点滅し、警報音が鳴る
- 次のような場合には、2車線横の車両を検知することがあります。
  - 自車が車線端に寄って走行しているとき
  - 2車線横の車両が車線端に寄って走行しているとき

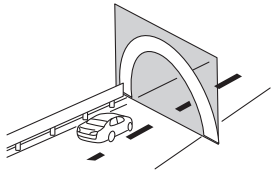
知 識

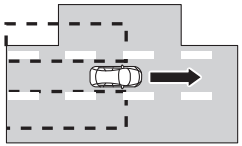
- 道路上および道路端に構造物（ガードレール、トンネル、側壁など）があるとき、SRVD接近表示灯が点灯することがあります。
  - ガードレールやコンクリート壁などが並行している場合
  - ガードレールや側壁の幅が狭くなっているところ
  - トンネルの出入口やトンネル内の側壁、非常駐車帯や待避所



知 識

トンネルの出入口やトンネル内の側壁、非常駐車帯や待避所



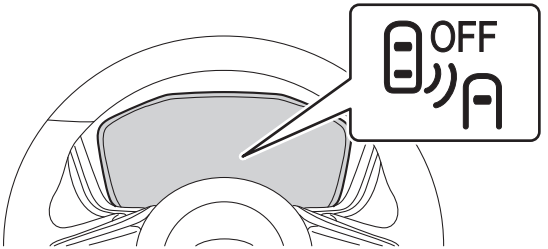


- 後退している方向に建物や路壁などがあるとき、SRVD接近表示灯が点滅し、警報音が鳴ることがあります。
- 市街地の交差点を曲がるとき、多車線の交差点を曲がるときなどに、SRVD接近表示灯が点滅することがあります。
- 警報音の音量を設定できます。
☞**P.125**参照

SRVDの一時停止

次のようなときには、SRVDが一時停止します。
- 極めて高温または低温の環境で使用したとき
- バッテリー電圧の異常が発生したとき
- 後側方レーダーの取り付け角度が著しく変化していると判断したとき
- 後側方レーダーの検知性能が低下したとき

このとき、SRVD OFF表示灯が点灯します。
状況が改善されると正常復帰しますが、SRVD OFF表示灯が長時間点灯し続ける場合は、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。



SRVDをOFFにするとき

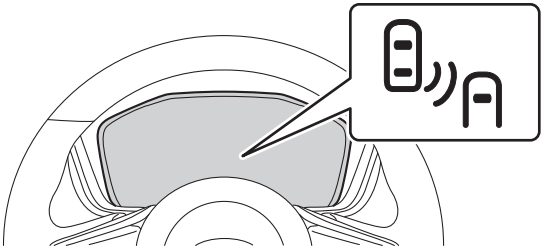
センターインフォメーションディスプレイでSRVDをOFFに設定できます。
☞**P.125**参照
SRVDをOFFにすると、SRVD OFF表示灯が点灯します。
復帰したときは、左右のドアミラーのSRVD接近表示灯が数秒間点灯します。

知 識

- SRVDをOFFにすると、EyeSightの一部機能がOFFになります。
  ☞**P.284**参照
- プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度ONにした場合は、OFFにする前のSRVD ON／OFF状態が保持されます。

SRVD警告灯

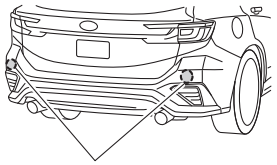
システムに異常があると点灯します。SUBARU販売店で点検を受けてください。



後側方レーダーの取り扱いについて

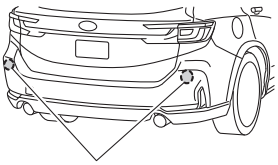
後側方レーダーはリヤバンパーの内側に左右ひとつずつ取り付けられています。

＜レヴォーグ＞



後側方レーダー

＜レヴォーグレイバック＞



後側方レーダー

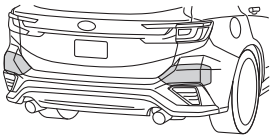
⚠ 注 意

SRVDの正しい作動のため、次のことをお守りください。

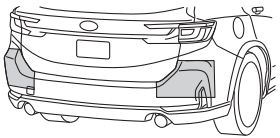
- 後側方レーダー付近のバンパー表面は、いつもきれいにしておく。
- 後側方レーダー付近のバンパー表面にステッカーなどを貼り付けない。
  - 詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

＜レヴォーグ＞



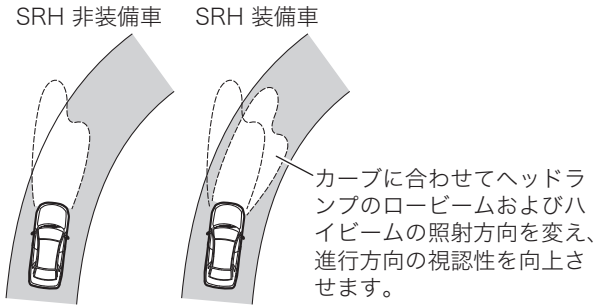
＜レヴォーグレイバック＞



- 後側方レーダー付近のバンパーを改造しない。
- 後側方レーダー付近のバンパーを塗装しない。
- 後側方レーダー付近のバンパーへの強い衝撃を与えない。
  - 後側方レーダーの取り付け位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあるので強い衝撃を受けた際は、必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。
- 後側方レーダーを分解しない。

SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）

SRH（ステアリング連動ヘッドランプ／Steering Responsive Headlight）は、車両の前進時にハンドルの操作や車速に合わせてヘッドランプの光軸を自動で調整し、コーナーや交差点で進行方向を照らして視認性を高める機能です。車速が約8 km/h以上のときに作動します。

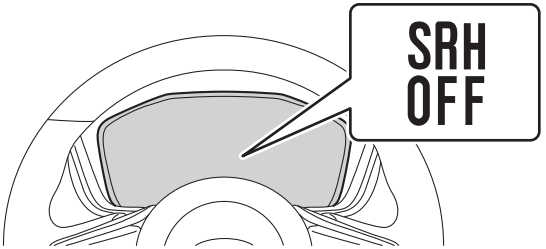


SRHをOFFにするとき

センターインフォメーションディスプレイでSRHをOFFに設定できます。

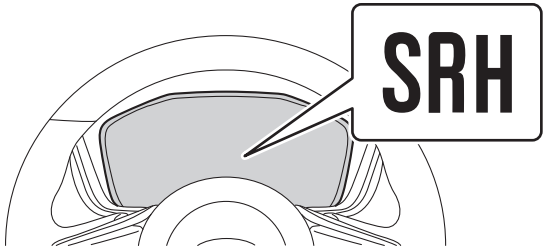
☞**P.125**参照

SRHをOFFにすると、SRH OFF表示灯が点灯します。



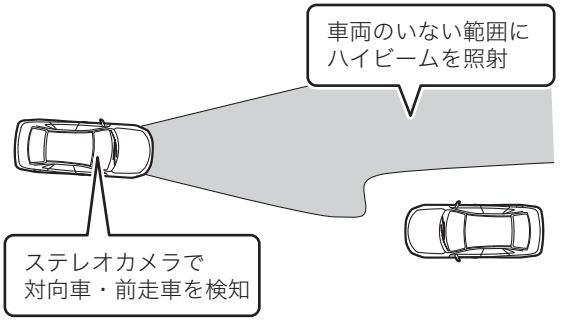
SRH警告灯

システムに異常があると点灯します。すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。



ADB（アダプティブドライビングビーム）

ADB（アダプティブドライビングビーム）は、フロントガラス上部に取り付けられたステレオカメラにより、対向車や先行車など、他の車両を眩惑しないように自動的に照射範囲を制御しながらハイビームによる最大の視界を確保する機能です。



⚠ 警 告

- ADBを過信しない。
  - 運転者は常に自らの責任で周囲の状況に応じてライティングスイッチを操作してください。

⚠ 注 意

ADBを正しく作動させるために、ステレオカメラの取り扱いをお守りください。
☞P.287参照

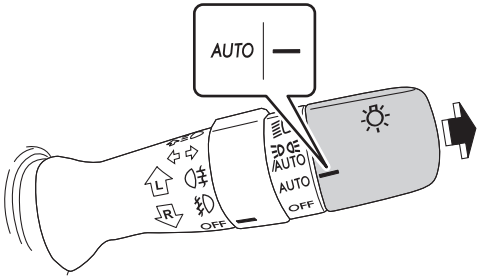
知 識

SUBARU販売店でADBを作動なしに設定できます。

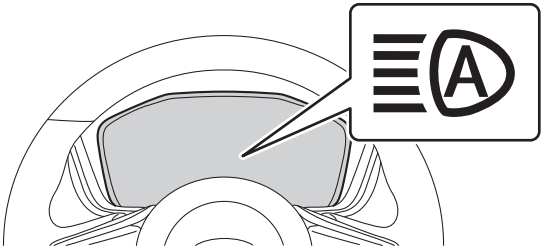
ADBの使いかた

次の手順で機能がONになります。

1. ライティングスイッチをAUTO位置にします。
2. ライティングスイッチのレバーを前方へ押し、ハイビームにします。



オートライトによってヘッドランプが点灯すると作動し、ADB作動灯（緑色）が点灯します。



知 識

／AUTO位置ではONになりません。

ADBの作動

車速約30 km/h以上で暗い場所を走行しているとき、前方に車両がいない場合はハイビームが点灯します。先行車または対向車がランプを点灯している場合は、その部分を自動的に遮光します。
高速走行時（約100 km/h以上のとき）は自動的に光軸を上向きに調整し、より遠くを照らします。
車速が約15 km/h以下になったとき、または車両前方が明るいときは、ロービームに切り替えます。

知 識

- EyeSightが故障または一時停止しているときは、ADBは作動せずにロービームとなります。ハイビームにするときは手動で操作してください。
- 次の状況では、ADBが正しく作動しない場合があります。
  - 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
  - 他車が前方を横切ったとき
  - 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグランプにより、ADBが正しく作動しない場合があります。
- 街灯や信号、広告などの照明、または標識、看板などの反射物によりADBが正しく作動しない場合があります。
- 次の原因によりADBが正しく作動しない場合があります。
  - 対向車または先行車のランプの明るさや色
  - 対向車または先行車のランプが泥や雪などで汚れて見えないとき
  - 対向車または先行車の動きや向き
  - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
  - 対向車または先行車が二輪車のとき
  - 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
  - 乗車人数や荷物の量
  - ステレオカメラ認識範囲の制約による反応遅れ
- ADBは、対向車のヘッドランプ、先行車のテールランプなどの光源、あるいは街灯などの明るさをステレオカメラが認識します。したがって、遮光範囲が運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。

知 識

- 自転車などの軽車両のランプは検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
  - 悪天候時（霧、雪、砂嵐、大雨など）
  - フロントガラスが汚れているときや、曇っているとき
  - フロントガラスにひび割れや破損があるとき
  - 周囲にヘッドランプやテールランプなどに似た光があるとき
  - 対向車または先行車が無灯火（電球切れなど）のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
  - 急激な明るさの変化が連続するとき
  - 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき
  - 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
  - コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
  - 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
  - パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
  - エンジン始動直後

ADBの解除

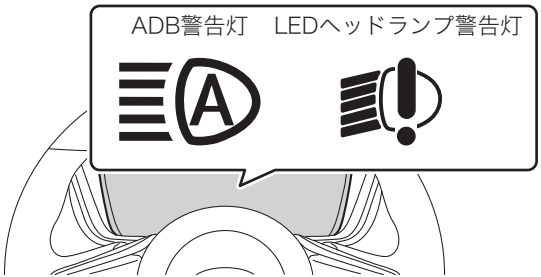
再度レバーを前に押して離します。ハイビームになります。
ハイビーム点灯中は、レバーを手前に引いて離し、ロービームにすることもできます。

知 識

ライティングスイッチを 位置または／AUTO位置にすると、ADBは解除されます。この場合、再度ライティングスイッチをAUTO位置にすると、ADBが自動的にONになります。

ADB警告灯（黄色）

システムに異常があると点灯します。また、LEDヘッドランプ警告灯が点灯したときは、ADBは使用できません。SUBARU販売店で点検を受けてください。



マルチビューモニター

車両の死角を確認できるカメラ映像をセンターインフォメーションディスプレイに表示する機能です。
発進時または走行中の車両前方の確認、後退時の車両後方の確認、駐車中の周囲の確認ができます。

警 告

- カメラ映像の距離感覚は、実際の距離とは異なる場合がある。
- カメラ映像の範囲には限界があるので、直接目視やドアミラーで周囲の安全を確認しながら運転する。
  - カメラ映像のみを見て運転すると、お車をぶつけるなど思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 次のような状況では、サイドビューモニターを使用しない。
  - ドアミラーを格納しているとき
  - 運転席または助手席のドアが完全に閉まっていないとき

知 識

- 次のような場合には、カメラ映像が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
  - 暗いところ（夜間、トンネルなど）
  - カメラ付近が極端に高温または低温のとき
  - レンズカバーが汚れているとき
  - 直接カメラに強い光が入るとき（映像に白い縦線など影響が出る事があります）
  - 雨天時など、レンズカバーに水滴がついたとき、または湿度が高いとき

知 識

– 蛍光灯などの照明の下

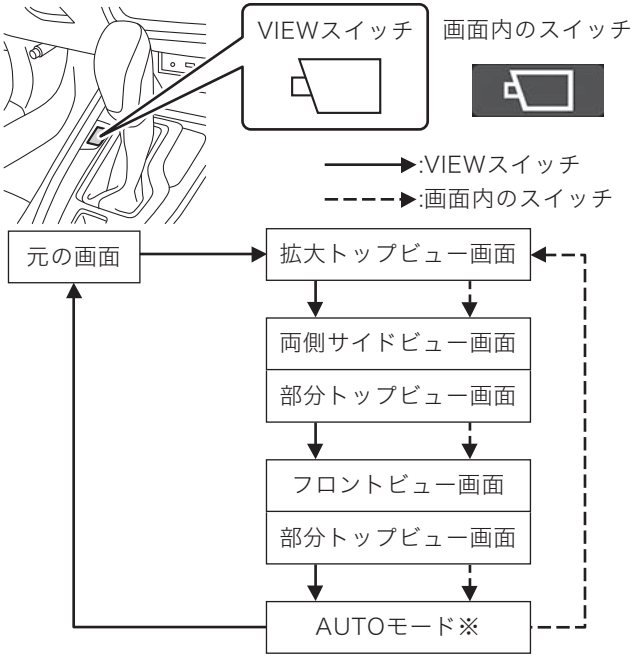
- カメラ映像は実際の色合いとは多少異なることがあります。
- 次のような場合は、カメラの故障が考えられます。
  SUBARU販売店にご相談ください。
  – 画面が切り替わらない
  – カメラステータスインジケーターが表示されない
  – 画面が青画、黒画になる
  – 画面上に“ ”、“ ”、“ ”が表示される

表示のしかた

スイッチ操作、またはセレクトレバーの操作により表示・切り替えができます。

前方を確認する

セレクトレバーが“D”、“M”、“N”のときに、VIEWスイッチを押します。
VIEWスイッチ、または画面上の切り替えスイッチを押すごとに画面が切り替わります。
最後に画面を切り替えてから約3分間経過すると元の画面に戻ります。



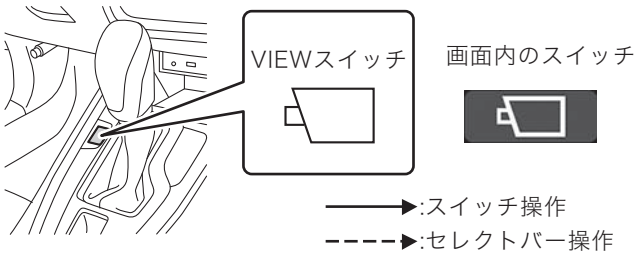
※ AUTOモードを選択すると、フロントビュー画面と部分トップビュー画面に[AUTO]アイコンが点灯します。車速が15 km/h以下になるとフロントビュー画面と部分トップビュー画面に自動的に画面が切り替わります。車速が20 km/h以上になると元の画面を表示します。

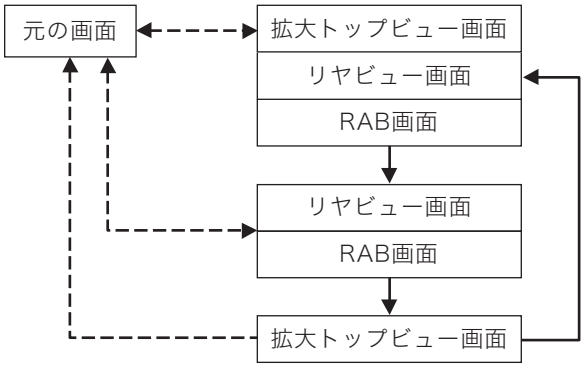
知 識

- カメラ映像を表示してから次の条件を満たすと、表示を中断して元の画面に戻ります。
  - 電動パーキングブレーキを作動させたとき
  - 車速が約20 km/h以上になったとき
  - センターインフォメーションディスプレイを操作して画面を切り替えたとき
  - セレクトレバーを“P”にしたとき
- 車速が約20 km/h以上でVIEWスイッチを押したときは、拡大トップビュー以外の画面を表示します。
- 映像の表示を中断した場合は、次に表示するときに前回表示した画面を表示します。
- AUTOモードでフロントビュー画面と部分トップビュー画面表示中にホームボタンなどを押すと、元の画面が表示されます。[AUTO]アイコン点灯中は車速が15 km/h以下になると再び自動的に画面が切り替わります。

後方を確認する

セレクトレバーを“R”にします。(メーターのシフトポジション表示が“R”に変化すると、カメラ映像を表示します。)
表示中にVIEWスイッチ、または画面上の切り替えスイッチを押すと画面が切り替わります。





知 識

- カメラ映像を表示してからセレクトレバーを“R”以外にすると、すぐに元の画面に戻ります。
- 映像の表示を中断した場合は、次に表示するときに前回表示した画面を表示します。

停車中に周囲を確認する

セレクトレバーが“P”のときにVIEWスイッチを押します。3Dビュー映像を表示します。
映像は45°ずつ回転し、一周します。
途中で止めるには、画面上の切り替えスイッチをタップします。
画面上の切り替えスイッチをタップするごとに、表示角度が切り替わります。
もう一度VIEWスイッチを押すか、カメラ映像を表示してから約3分間経過すると元の画面に戻ります。

— 切り替えスイッチ

警 告

- 必ず直接目視やミラーで周囲の安全を確認する。
  - 3Dビュー映像は、各カメラの映像を合成しているため、実際とは異なります。死角にある障害物などは映りません。

知 識

- センターインフォメーションディスプレイを操作して画面を切り替えると、表示を中断します。
- 映像の表示を中断した場合は、次に表示するときに前回表示した角度で表示します。

カメラ映像の見かた

カメラ映像には、距離や車両の進行方向の目安となるガイド線や、接近車両の情報を表示します。

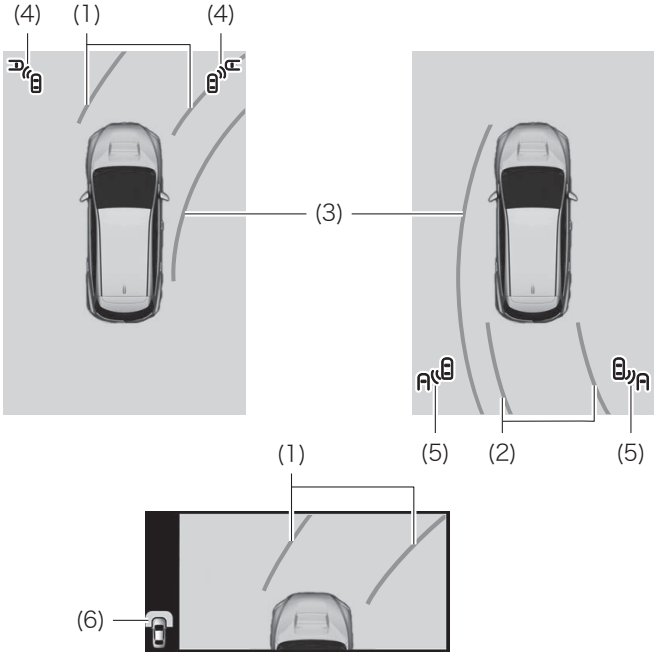
⚠ 注 意

- 運転時は、ガイド線に頼らず直接目で確認する。
  - 搭乗人数や積載状態により車両が路面に対して傾いている場合など、実際の位置とガイド線の指示が異なる場合があります。

知 識

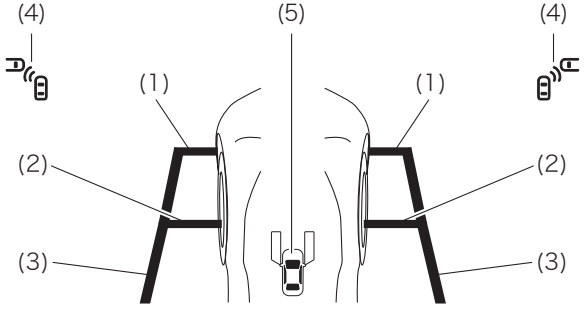
- ステアリング連動の方向目安線は「カメラ」の項目で表示をOFFに設定できます。
  ☞P.125参照
- ディスプレイの明るさやコントラストは調整できます。
  ☞P.125参照
  - カメラ画像の明るさやコントラストはディスプレイの設定に連動しています。

トップビュー画面（拡大・部分）



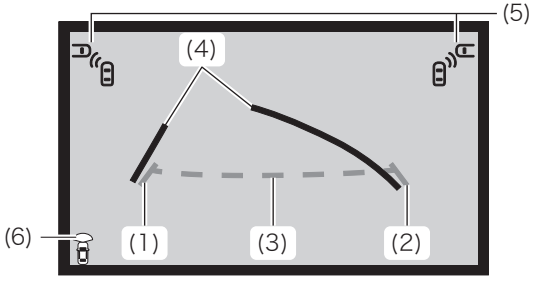
(1) ステアリング連動の方向目安線（前進）
(2) ステアリング連動の方向目安線（後退）
(3) ステアリング連動の方向目安線（側方）
(4) 接近車両お知らせアイコン（前側方警戒アシスト）
(5) 接近車両お知らせアイコン（後退時支援）
(6) カメラステータスインジケーター

サイドビュー画面



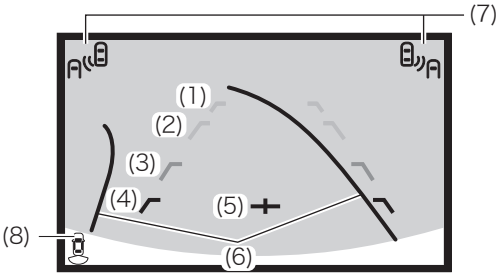
(1) フロントバンパーの先端から約30 cm
(2) フロントタイヤの中心
(3) タイヤ外側から約30 cm
(4) 接近車両お知らせアイコン（前側方警戒アシスト）
(5) カメラステータスインジケーター

フロントビュー画面



(1) 車両左外側から約30 cm
(2) 車両右外側から約30 cm
(3) フロントバンパーの先端から約50 cm
(4) ステアリング連動の方向目安線（橙）
(5) 接近車両お知らせアイコン（前側方警戒アシスト）
(6) カメラステータスインジケーター

リヤビュー画面



(1)〜(4) 距離・車幅マーカー
(1) バンパーから約3 m（緑）
(2) バンパーから約2 m（緑）
(3) バンパーから約1 m（黄）
(4) バンパーから約0.5 m（赤）
(5) バンパーから約0.5 mと車両中心を示す十字線（赤）
(6) ステアリング連動の方向目安線（橙）
(7) 接近車両お知らせアイコン（後退時支援）
(8) カメラステータスインジケーター

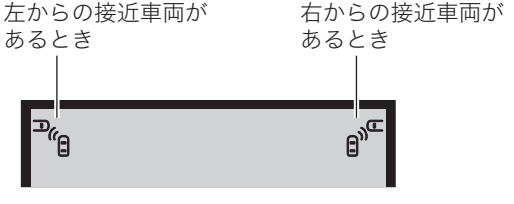
RAB画面

後退時ブレーキアシスト（RAB）が検知した障害物との距離の範囲を表示します。
☞**P.411**参照

接近車両お知らせアイコン

前側方警戒アシスト

前方確認画面を表示中、左右から接近する車両の存在をアイコンでお知らせします。
セレクトレバーが“D”または“M”で停車中の場合は、アイコンが点灯します。
車速約20 km/h以下で走行中の場合は、アイコンが点滅し、割り込み画面と警報音およびEyeSightアシストモニターの表示で注意を促します。
☞P.318、401参照



⚠ 警 告

- 必ず目視によって周辺状況を確認する。
  - レーダーの検知性能には限界があり、天候や周囲の状況によっては車両を検知できないことがあります。システムを過信すると重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警 告

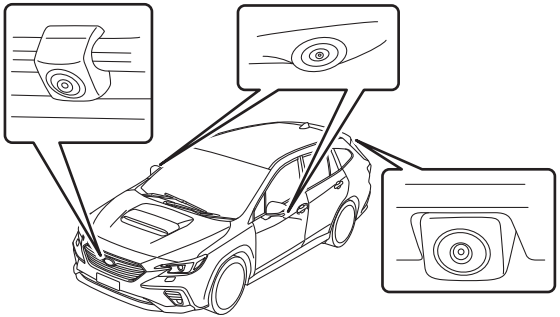
- 接近する車両の速度が5 km/h以下または60 km/h以上のときは作動しません。

後退時支援

後方確認画面を表示中、SRVDが車両後方の左右から接近する車両を検知するとアイコンが点滅します。
☞P.425参照

カメラの取り扱いについて

サイド、フロント、リヤのそれぞれのカメラが装着されています。



⚠ 警 告

- カメラ、スイッチ、配線類を分解したり改造したりしない。
  - 万一煙が出たり異臭がした場合には、SUBARU販売店で点検を受けてください。そのまま使用すると、事故、火災、感電の原因となります。

⚠ 注 意

- 高圧洗車機を使用する場合は、カメラ周辺部に直接水をかけない。
  - レンズに水が入り、結露などが発生したり、故障や火災、感電の原因となります。
- カメラは精密機器のため、強い衝撃は与えない。
  - 故障や火災、感電の原因となります。

⚠ 注 意

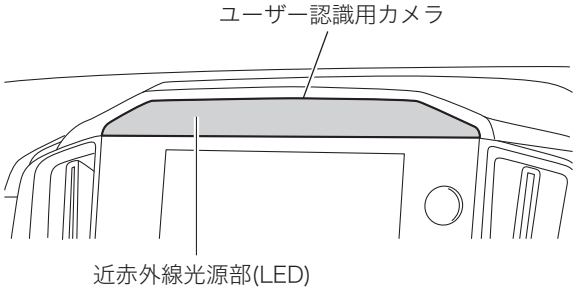
- カメラに泥などが付着して固まったり、雪などで凍り付いてしまっているときに、棒などでたたいて泥や氷を落とさない。
  - 故障や火災、感電の原因となります。水またはぬるま湯をかけて洗い流し、柔らかい布で拭き取ってください。
- カメラや配線類に火気を近づけない。
  - 故障や火災の原因となります。
- エンジン停止中に長時間使用しない。
  - バッテリー上がりの原因となります。

知 識

- アルコール、ベンジン、シンナーなどでカメラを拭かないでください。変色などの原因となります。汚れを落とすときには、薄めた中性洗剤を染み込ませた布で拭き、柔らかい布でから拭きをしてください。
- ボディワックスをかける場合は、ワックスがカメラにつかないよう注意してください。もし、ついてしまった場合にはきれいな布に水で薄めた中性洗剤を含ませ、拭き取ってください。
- レンズカバーは傷がつきにくいよう、ハードコートしていますが、ボディ洗車する場合やレンズカバーを拭き取る場合に、傷をつけないように注意してください。
- レンズカバーに洗車ブラシなどは使用しないでください。カメラ映像が見づらくなることがあります。

ドライバーモニタリングシステム

ドライバーモニタリングシステム作動表示灯（緑色）が点灯しているとき、ユーザー認識用カメラにより、運転者の状態を認識して安全運転を支援する機能です。走行中に運転者が一定時間以上目を閉じたり、顔の向きを前方から大きく外したりするなどして、居眠りや脇見などをしているとシステムが判断した場合は、警報音や警告表示で注意を促します。
また、ユーザー登録すると、登録した運転席シート位置やドアミラーの鏡面位置などを自動的に呼び出します。



⚠ 注 意

ドライバーモニタリングシステムの認識性能には限界があります。ドライバーモニタリングシステムを過信した運転は行わないでください。

- 運転者が眠気を感じているかどうか、安全運転に集中しているかどうかを検出することはできません。

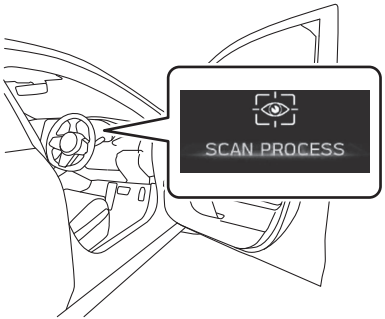
⚠ 注 意

- 運転者が起きているか、眠っているか、運転能力が落ちているか、安全運転に専念しているかをシステムが判断することはできません。
- 状況によっては、システムが運転者の状態を正確に検出することができないことがあります。

知 識

- ユーザー認識用のカメラは、写真・音声・動画の保存を行うことはありません。
- 近赤外線光源部は赤いLED光が見えることがありますが、異常ではありません。
- 赤いLED光はIEC62471規格に準拠しており、人体に影響を及ぼすおそれはありません。
- 呼び出し可能な設定の詳細は「ユーザー情報連動機能」を参照してください。
☞P.452参照

1. プッシュエンジンスイッチがOFFのとき、ドアを開けるとメーターにスキャン画面が表示されます。運転席に座り、正面を向いたまましばらく待ちます。



知 識

ドアの開閉を短時間の間に繰り返した場合は、スキャン画面が表示されないことがありますがシステムは作動しています。

2. 運転者を認識すると、Hello画面を表示します。

3. 登録済みのユーザーを認識した場合は、ユーザー名を表示します。

このとき、ユーザー情報に基づいて各種設定を呼び出します。
☞P.452参照

知 識

ユーザー情報連動機能は、ユーザー登録をして認識が完了している場合のみ作動します。

4. 運転者を認識している状態でプッシュエンジンスイッチをOFFにしたとき、ドアを開けて閉めるとセンターインフォメーションディスプレイにSee You画面を表示します。

知 識

登録推奨画面が表示される場合は、「ユーザーの登録・消去」を参照してください。
☞**P.453**参照

認識されないときは

認識ができない場合、「個人認識を中止しました」と表示されることがあります。

カメラと顔の間に遮る物などがある場合は、原因を取り除いてから、手動再認識を行ってください。
☞**P.125**参照

知 識

次のような場合、ドライバーモニタリングシステムが正常に動作しないことがあります。

- 車室内へ太陽光が入り込んでいる場合
  - ユーザー認識用カメラが直接（またはガラス越し）太陽光に照らされているとき
  - 太陽光（強い近赤外線成分の光を含む）により、顔に影が生じているとき
  - 顔を照らす太陽光（強い近赤外線成分の光を含む）の強さが瞬間的に大きく変動しているとき

知 識

- 車室内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）がある場合
- 目や鼻、口など顔が正常に認識できない場合
  - サングラスなどのレンズの種類によりカメラが目を認識できないとき
  - メガネやサングラスのレンズへの映り込みやフレームにより目が隠れているとき
  - 身に着けているものや髪の毛などにより顔の一部が隠れているとき
  - カバーやアクセサリーなどにより、ユーザー認識用カメラおよび近赤外線光源部（LED）と顔との間が遮られているとき
- ユーザー認識用カメラおよび近赤外線光源部（LED）に汚れや傷がついている場合
  - 汚れや指紋などがついたときは、柔らかい布でから拭きするか、固く絞った布などで軽く拭き取ってください。
  - カメラ周辺に硬いものが触れないよう注意してください。
- 助手席の方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在する場合

次のような場合、登録済みのユーザーを正しく認識できないことがあります。

- ユーザー登録が正しくできていない場合
  - 成功頻度が低い場合は、一度ユーザーを削除し、再度登録を行ってください。
  - できるだけ目を閉じない状態で登録してください。
  - メガネとコンタクトレンズを頻繁に切り替えている場合は、それぞれでの登録をお奨めします。
- ユーザー認識中によそ見をしている場合
  - ユーザー認識は乗車した直後から開始されます。できるだけ正面を向いてください。
- 双子など、顔の特徴が似ている人物の一人が登録されている場合
  - もう一人が乗車した際に誤ってユーザー認識されることがあります。

ユーザー認識について、次のような特徴があります。

- プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから経過した時間が短いなどの場合は、運転席ドアを開けてもスキャン画面が表示されないことがあります。この場合でもドアを閉めるとユーザー認識を開始しますが、スキャン画面は表示されません。
- ユーザー認識が完了している状態でプッシュエンジンスイッチをOFFにし、運転席ドアを開けないまま長時間経過してからプッシュエンジンスイッチをONにすると、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前のユーザー認識状態に戻ります。
- セレクトレバーが“P”以外のときは、ユーザー認識が完了してもシート位置は切り替わりません。
- 走行中はユーザー認識を行いません。

知 識

- シート位置、ドアミラーの鏡面位置を動かしているときは、ユーザー認識が完了しても登録したシート位置、ドアミラーの鏡面位置、リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置を呼び出すことはできません（ドライバーポジションメモリー装備車）。
- シート位置、ドアミラーの鏡面位置の呼び出し中に次の操作を行うと、シート位置、ドアミラーの鏡面位置の呼び出しを中止します（ドライバーポジションメモリー装備車）。
  - パワーシート調整スイッチを操作したとき
  - ドアミラーの調整スイッチを操作したとき
  -「SET」ボタンを押したとき
  -「1」または「2」ボタンを押したとき
  - セレクトレバーを“P”以外にしたとき

脇見・居眠り警報

走行中に運転者が一定時間以上目を閉じたり、顔の向きを前方から大きく外したりするなどして、居眠りや脇見などをしているとシステムが判断したときに注意を促します。脇見・居眠り警報は、ユーザー情報連動機能の状態にかかわらず作動します。

脇見警報

運転者が脇見をしているとシステムが判断したとき、運転者に注意を促します。
脇見警報が作動するとブザーが鳴り、割り込み画面を表示します。前方に先行車や障害物を検知しているときは、通常よりも早く脇見警報が作動します（プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときを除く）。

居眠り警報

運転者のまぶたの閉じ具合をシステムが判断して、運転者に注意を促します。
居眠り警報が作動するとブザーが鳴り、割り込み画面を表示します。

システムが判断した運転者の状態	メーター	センターインフォメーションディスプレイ	警報音
居眠り 強い眠気	居眠り警告を表示	居眠り警告を表示	ピピピピピ・・・（運転者が目を開けるまで鳴り続ける）
			ピピピピピ
軽い眠気	休憩提案を表示	通常通り	ピッ
眠気なし	通常通り	通常通り	なし

知 識

- 次の場合は、脇見警報は作動しません。
  - 停車中
  - 低速走行時
  - ウインカーが作動しているとき
  - セレクトレバーが“R”のとき
- 次のような場合は、正しく検知できず居眠り警報や脇見警報のブザーが鳴ることがあります。
  - 伏し目となったとき
  - 笑ったり、目を細めたりしたとき
  - 目をしばらく閉じたり、頻繁に瞬きをしたりしたとき
  - 前に乗り出したり、運転姿勢をくずしたりしたとき
- 警報のブザーが鳴り続ける場合は、ドライバーモニタリングシステムを一度OFFにしてください。
- ドライバーモニタリングシステムがOFFの場合でも、車線中央維持・先行車追従操舵機能がONの場合は、居眠り警報および脇見警報が作動します。
- 警報のブザーが頻繁に鳴る場合は、SUBARU販売店で点検を受けてください。
- センターインフォメーションディスプレイにも休憩提案を表示するよう設定できます。
  ☞P.125参照

ユーザー情報連動機能

ユーザー登録をしているときは、次の設定を自動的に呼び出すことができます。

知 識

- ユーザー情報連動機能をOFFに設定できます。
  ☞P.125参照
  – ユーザーごとに設定を変えることはできません。
- ユーザー情報連動をOFFに設定しているときは、次の項目を選択できません。
  – 手動再認識
  – ドアオープン連動シート後退（装備車のみ）
  – ユーザー登録
  – ドライバーポジション再登録（装備車のみ）
  – ドライバーポジション消去（装備車のみ）

ドライバーポジション

登録したシート位置、ドアミラーの鏡面位置を呼び出します。

- シートの前後位置
- 背もたれの角度
- シートの高さ
- 座面前側の高さ
- ドアミラーの鏡面位置
- リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置

警 告

シート位置、ドアミラーの鏡面位置の登録、呼び出しおよび消去は、必ず運転前に行ってください。運転中に登録、呼び出しおよび消去の操作を行うと、事故の原因になるおそれがあります。

メーター

ユーザーが前回降車する直前に選択していた基本画面を表示します。

センターインフォメーションディスプレイ

ウィジェットの項目として平均燃費を選択したとき、ユーザーの平均燃費を表示します。

知 識

- ドライバーモニタリングシステムがOFF、一時停止中、および故障しているときは、表示灯が灰色になります。

知 識

- 個人燃費計をリセットするときは、ユーザー情報の上書き登録を行ってください。
  ☞P.455参照

エアコン

ユーザーが前回降車する直前に選択していたエアコン送風温度や吹き出し口などの設定を呼び出します。

知 識

ユーザー認識が完了しているときにMAX A/CがONのままプッシュエンジンスイッチをOFFにして降車した場合は、MAX A/CをONにする前の設定に戻ります。

ドライブモードセレクト

INDIVIDUALモードを選択したとき、ユーザーの設定を呼び出します。

ドライバーモニタリングシステムのON／OFF状態

ユーザーが前回降車する直前に選択していたドライバーモニタリングシステムのON／OFF状態を呼び出します。

ドアオープン連動シート後退

ユーザー情報連動機能がONのとき、ドアを解錠して運転席ドアを開けたときにシートが前寄りの位置にある場合に、運転席シートを後退させて乗り込みやすくするように設定できます。
☞P.125参照

⚠ 注 意

ドア連動シート後退が作動したときは、シートが後退位置まで動いてから運転席に座ってください。

知 識

ドライバーポジションメモリーでアクセスキーにシート位置を登録している場合、ドアオープン連動シート後退は作動しません。

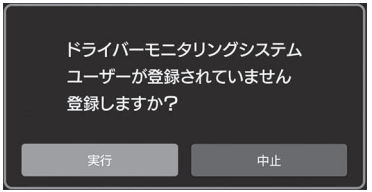
ユーザーの登録・消去

知 識

- 次の条件をすべて満たすとき、ユーザー登録推奨画面が表示されます。
  - プッシュエンジンスイッチがON
  - セレクトレバーを“P”以外から“P”にした
  - 運転者がユーザー登録をしていない
  - ユーザー登録数が4人以下
  - ドライバーモニタリングシステム作動表示灯（緑色）が点灯している

知 識

– ユーザー情報連動がON



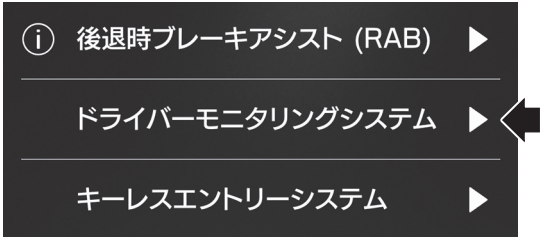
[実行]をタップすると、「ユーザー登録のしかた」手順2.の画面が表示されます。登録手順にそって登録を行ってください。

- ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯、ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯、ドライバーモニタリングシステム警告灯（黄色）が点灯しているときには次の項目を選択できません。
  – ユーザー登録
  – ユーザー消去
  – 全ユーザー消去

1. センターインフォメーションディスプレイのホーム画面から[設定]をタップします。

2. 画面上部のボタンで[車両]を選択します。

3. [ドライバーモニタリングシステム]をタップします。



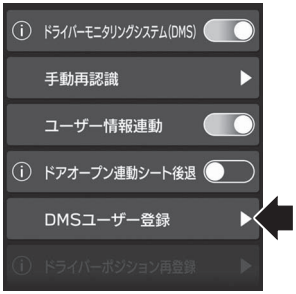
ユーザー登録のしかた

正しい運転姿勢がとれるようにシート位置、ドアミラーの鏡面位置を調整してから登録してください。

知 識

リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置を登録する場合は、登録の前にセレクトレバーを“R”にして鏡面位置を調整し、“P”に戻してから行ってください（装備車のみ）。
☞**P.221**参照

1. [DMSユーザー登録]をタップします。

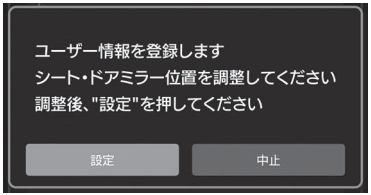


2. 登録したい番号をタップします。

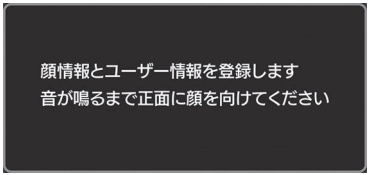
知 識

すでに登録済みの番号を選択すると、上書き登録ができます。
上書き登録を行うと、個人燃費計はリセットされます。

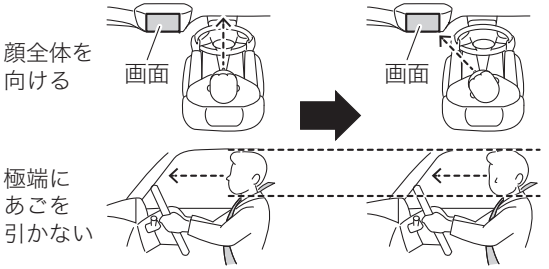
3. [設定]をタップします。



4. 運転席に座ったまま、顔を正面に向けて待ちます。



なかなか登録されないときは、顔を正面に向けた後、センターインフォメーションディスプレイ側に向けてください。

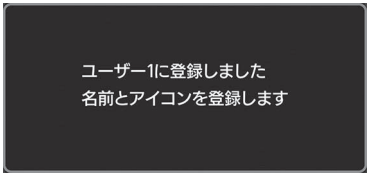


知 識

- 「登録できませんでした再登録してください」と表示された場合、もう一度手順2.からやりなおしてください。
- 次のような場合、ユーザー登録が正しくできない場合があります。
  - 目を閉じた状態で行った場合
  - 車室内へ太陽光が入り込んでいる場合
  - 車室内に近赤外線を使用する機器がある場合
  - メガネやサングラス、マスク、マフラーを着用している場合
  - 顔とシステムとの間に遮る物がある場合

詳しくは「認識されないときは」で説明しています。
☞P.448参照

5. 音が鳴り、画面が切り替わると顔の登録は完了です。



6. 名前を入力し、アイコンを設定します。

知 識

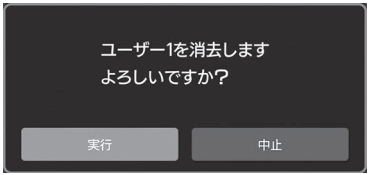
他のユーザーが使っているアイコンは使用できません。

ユーザー消去のしかた

1. [ユーザー消去]をタップします。

2. 消去したいユーザーをタップします。

3. [実行]をタップします。



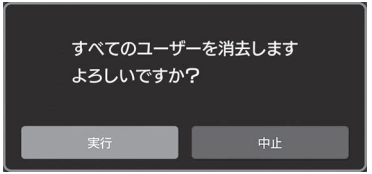
全ユーザー消去のしかた

知 識

- ユーザー消去はセンターインフォメーションディスプレイの初期化でもできます。初期化を行うと、すべての登録状態が消去されます。
- ドライバーモニタリングシステムがOFFのときは初期化を行うことができません。

1. [全ユーザー消去]をタップします。

2. [実行]をタップします。



ドライバーポジションの登録・消去

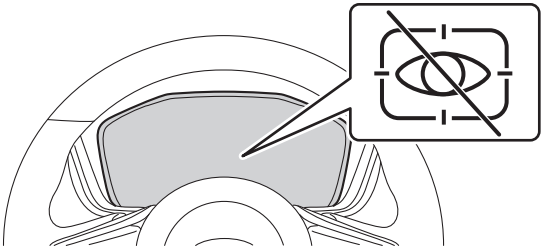
ユーザー登録を行ったとき、シート位置、ドアミラーの鏡面位置が同時に登録されます。シート位置、ドアミラーの鏡面位置の設定を変更したいときは、再登録します。
ユーザー情報に連動して呼び出したくない場合は、消去もできます。
☞P.125参照

知 識

- リバース連動チルトダウンドアミラーの鏡面位置を登録する場合は、登録の前にセレクトレバーを“R”にして鏡面位置を調整し、“P”に戻してから行ってください。
  ☞P.221参照
- ユーザー情報連動をOFFに設定しているとき、またはドライバーモニタリングシステムOFF表示灯、ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯、ドライバーモニタリングシステム警告灯（黄色）が点灯しているときは次の項目を選択できません。
  - ドライバーポジション再登録
  - ドライバーポジション消去
- 登録済みのユーザーが運転席に座り、ユーザー認識が完了しているときのみ、ドライバーポジションの登録・消去ができます。

ドライバーモニタリングシステムの一時停止

ドライバーモニタリングシステムが一時停止すると、ドライバーモニタリングシステム一時停止表示灯が点灯します。

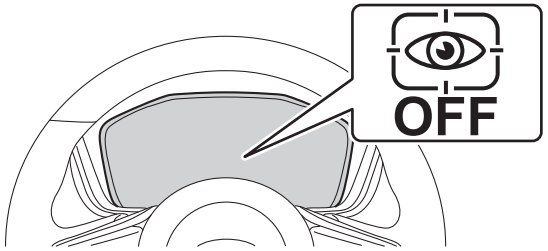


知 識

- ドライバーモニタリングシステムは次のような場合に一時停止します。
  - ドライバーモニタリングシステム本体の温度が高い、または低いとき
  - メガネやサングラスなどの着用により、システムが目を正しく検出できないとき
  - 障害物によってシステムが眉毛、目、鼻、口のいずれかを正しく検出できないとき
  - ユーザー認識用カメラおよび近赤外線光源部（LED）が障害物で覆われ、正しく運転者を検出できないとき

ドライバーモニタリングシステムをOFFにするとき

センターインフォメーションディスプレイでドライバーモニタリングシステムをOFFにできます。
☞P.125参照
ドライバーモニタリングシステムをOFFにすると、ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯が点灯します。



知 識

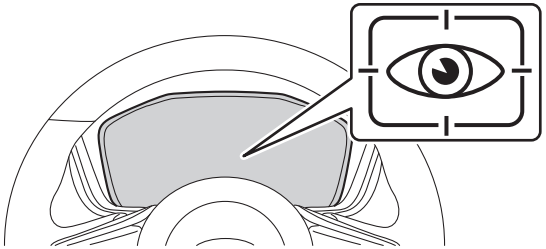
- ドライバーモニタリングシステムをOFFにすると、ユーザー認識が完了しているときはユーザー情報として、ユーザーを認識していないときは車両の前回設定として記憶します。

知 識

- 停車中に運転席ドアを開閉すると、ドライバーモニタリングシステムは自動的にONに切り替わります（ユーザー情報連動がONのとき）。その後、登録済みのユーザーを認識するとユーザー情報連動機能に記憶しているON／OFF状態に切り替わります。登録済みのユーザーが認識できない場合は、前回ユーザーを認識していなかったときのON／OFF状態に切り替わります。
- ドライバーモニタリングシステムをOFFにした後、運転席ドアを開けたままでドライバーモニタリングシステムをONにすると、ユーザー認識が正しく行えないことがあります。
- ドライバーモニタリングシステムをOFFにしても、ユーザー情報連動およびドアオープン連動シート後退のON／OFFは切り替わりません。
- ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯が点灯していても、車線中央維持・先行車追従操舵機能を使用しているときは、ドライバーモニタリングシステムの情報を利用し運転者の状態を認識します。
  その際、割り込み画面でお知らせする場合があります。

ドライバーモニタリングシステム警告灯（黄色）

システムに異常があると点灯します。
SUBARU販売店で点検を受けてください。



オープンソースソフトウェア情報

ドライバーモニタリングシステムには、フリー／オープンソースソフトウェア（FOSS）を搭載しています。
使用許諾やソースコードは以下のURLから取得できます。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/DMS_0101/

EyeSight X

EyeSight X（高度運転支援機能）について

EyeSight X（高度運転支援機能）は、高速道路や自動車専用道路を走行中、作動条件が整ったときに運転操作や車線変更などの支援を可能にする高度運転支援機能です。ドライバーモニタリングシステム、3D高精度地図データと高精度GPSを利用することで、運転者の状態や道路環境に適したより高度なアクセル、ブレーキ、ハンドルの制御が可能となり、安心して快適に運転していただくため運転者を支援します。

⚠ 警 告

運転者には安全運転の義務があります。EyeSight X（高度運転支援機能）の各機能特性にかかわらず、常に交通ルール・マナーを守り運転してください。運転時は常に先行車との車間距離や周囲の状況、運転環境に注意しながら必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。

- EyeSight X（高度運転支援機能）に頼った運転は絶対に行わない。
  - EyeSight X（高度運転支援機能）の認識性能・制御性能には限界があります。
  - わき見運転やぼんやり運転など運転者の前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。また、あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。

⚠ 警 告

EyeSight X（高度運転支援機能）は、運転者の判断を補助し、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。

EyeSight X（高度運転支援機能）の認識性能・制御性能には限界があります。それぞれのページに書かれている警告を必ずお読みの上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

右ハンドル車のEyeSight X（高度運転支援機能）は、左側通行を想定して設計しています。右側通行の道路で使用する場合は性能が十分に発揮できません。

EyeSight X（高度運転支援機能）は、EyeSightの機能を使用します。「EyeSightについて」のページを必ずお読みの上、正しくご使用ください。

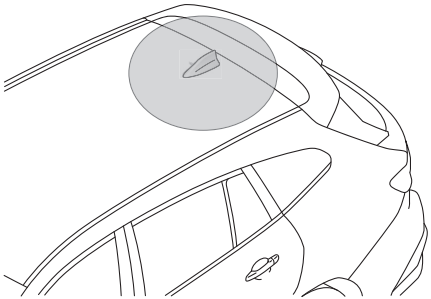
☞P.284参照

EyeSight X（高度運転支援機能）のGPS性能には限界があります。EyeSight X（高度運転支援機能）の作動エリア（高速道路や自動車専用道路）でない道路を走行中であっても、システムが作動エリアと判定（ が点灯）した場合には、EyeSight X（高度運転支援機能）を使用しないでください。

☞P.466参照

⚠ 注 意

- 次の状況ではEyeSight X（高度運転支援機能）が作動しないことや、予期しない作動をすることがある。
  - 3D高精度地図データの更新が完了していない、新しい道路や、工事によって変更された道路
  - GPS電波が届きにくい区間（トンネル内、立体交差、高層建造部、山間部など）
  - ルーフアンテナ付近（グレー部）が遮蔽されている（ルーフキャリアに金属製の物が置かれ電波が遮断される場合など）



- ハンドル全周にはハンドルを持っていることを検出するためにセンサーが組み込まれている。故障を防ぐため、次のことを守る。
  - ハンドルに水、飲み物などが付着した場合、すぐに拭き取ってください。また、ぬれた手でハンドルを操作しないでください。ハンドルがぬれている状態ではEyeSight X（高度運転支援機能）が正しく働かない場合があります。

⚠ 注 意

  - ハンドルを持っていることを検出するセンサーが正しく働かなくなるおそれがあるため、ハンドル表面に変色やシミ、傷をつけないでください。また、ハンドルにカバーなどを取り付けないでください。
- EyeSight X（高度運転支援機能）の動作に異常があるときは渋滞時ハンズオフアシスト、渋滞時発進アシスト、アクティブレーンチェンジアシスト、カーブ前速度制御、料金所前速度制御、ドライバー異常時対応システムを使用せずSUBARU販売店で点検を受ける。

知 識

次のような場合には、システムが運転者のハンドル操作を正しく検知できず、ハンドルを操作していても警告が表示されることがあります。

- ハンドルにカバーを取り付けたとき
- 運転者が手袋をしているとき
- ハンドルに異物が付着しているとき
- ハンドルのスポーク部などのセンサーが無い部分を握っているとき
- ハンドルを片手で操作しているとき

EyeSight X（高度運転支援機能）の機能について

EyeSight X（高度運転支援機能）には、次の機能があります。

渋滞時ハンズオフアシスト

0～約50 km/hで渋滞走行中、ハンドルから手を放して走行することができます。

渋滞時発進アシスト

先行車に続いて停車してから運転者の操作なしで先行車に追従して再発進します。

アクティブレーンチェンジアシスト

約70 km/h～約120 km/hで走行時、運転者がウインカーレバーを操作すると操舵支援を行い、車線変更をアシストします。

カーブ前速度制御

カーブを安全な速度で通過するためにカーブに合わせた適切な速度に制御します。

料金所前速度制御

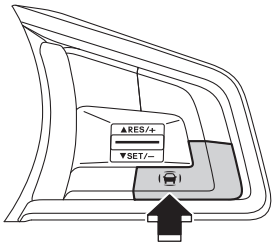
料金所を安全な速度で通過するために、ETCゲート通過に適した速度に制御します。

ドライバー異常時対応システム

運転者がハンドルを操作していることを検知できない状態が長時間続いた場合に異常状態と判定し、ハザードランプやホーンで周囲に知らせながら、徐々に減速して車両を停止させ、すべてのドア（リヤゲート含む）が自動で解錠します。
この機能は車線中央維持・先行車追従操舵機能作動中に長時間ハンドルから手を放した場合や、システムが渋滞時ハンズオフアシストを継続できないと判断した場合などに作動します。

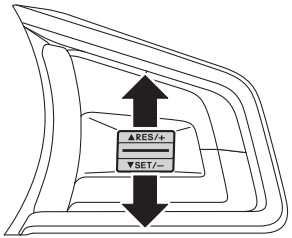
EyeSight X（高度運転支援機能）の使用方法

1. システムがEyeSight X（高度運転支援機能）の作動エリアと判定したら、（白色）が点灯します。
2. （EyeSight X）スイッチを押します。が緑色に変わり、（白色）および（白色）が点灯します。



EyeSight X（高度運転支援機能）が作動できないエリア（が消灯している状態）で（EyeSight X）スイッチを押した場合は、表示とブザー（ピピッ）でお知らせします。

3. SET/－またはRES/＋スイッチを押します。作動条件が揃うと が緑色に変わり、(白色）が(緑色）に変わります。EyeSight X（高度運転支援機能）が作動可能状態となります。
また、EyeSight X（高度運転支援機能）が作動中に渋滞時ハンズオフアシストの作動条件が揃ったときは、および が青色に変わり、(緑色）が(青色）に変わります。

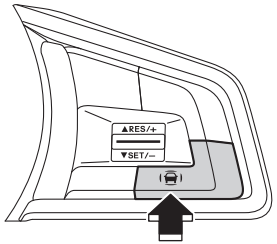


知 識

- EyeSight X（高度運転支援機能）の作動エリアを走行していても作動エリアと判定されるまでに時間がかかる場合があります。
- 単一車線の道路を走行しているときは、EyeSight X（高度運転支援機能）は作動開始できません。
- 定速クルーズコントロールが作動しているときは作動エリアと判定されません。
- 以下の場合はEyeSight X（高度運転支援機能）のすべての機能が使用できません。
  – ドライバーモニタリングシステムが故障したとき
  ☞**P.461**参照
- 以下の場合はドライバー異常時対応システムを除くEyeSight X（高度運転支援機能）の機能が使用できません。
  – ドライバーモニタリングシステムが一時停止しているとき
  ☞**P.459**参照
  – ドライバーモニタリングシステムをOFFにしているとき
  ☞**P.460**参照

EyeSight X（高度運転支援機能）を解除するとき

EyeSight X（高度運転支援機能）作動中に(EyeSight X)スイッチを押すとが白色に変わり、EyeSight X（高度運転支援機能）が解除されます。



渋滞時ハンズオフアシスト

高速道路や自動車専用道路を0 km/h～約50 km/hで走行時、EyeSight X（高度運転支援機能）がONで、車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動中に、運転者が前方を見ている状態をドライバーモニタリングシステムによって検出した場合に、ハンドルから手を放しても警告が出ずに車線中央維持機能が作動し続ける機能です。
本機能は渋滞時での使用を前提としているため、システムが先行車を認識できていない場合は作動しません。

⚠ 警 告

渋滞時ハンズオフアシストは自動運転システムではありません。
運転者には安全運転の義務があります。渋滞時ハンズオフアシストの作動に伴う責任は運転者にあります。常に周囲に注意を払い、必要に応じて直ちにハンドルを操作できるようにしてください。

- 渋滞時ハンズオフアシストを過信しない。
  - わき見運転や居眠りまたはその他運転以外のことを運転者ができるようになる自動運転システムではありません。
  - 落下物を避けたり、隣車線の並走車両が横からぶつかってくるのを避けたりなど、車線を維持する以外の機能はありません。
    また、あらゆる状況で車線維持ができるものではありません。常に周囲に注意を払い、必要に応じて直ちにハンドルを操作できるようにしてください。

⚠ 警 告

– 渋滞時ハンズオフアシストは、自車速約50 km/h以下で使用可能となります。自車速が約50 km/hを超えたり、機能が自動解除された場合は、直ちにハンドルを操作してください。
– 運転時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境に注意してください。並走する他車両や壁などに近づいた場合や、隣車線から他車両が割り込んできた場合などには、渋滞時ハンズオフアシストに頼らず速やかにハンドル操作やブレーキ操作を行ってください。

- システムの制御量や制御タイミングがお客様の運転操作の感覚と異なる場合は、安全な運転を支援できないため、渋滞時ハンズオフアシストを使用しない。
- ドライバーモニタリングシステムの認識性能には限界がある。ドライバーモニタリングシステムを過信した運転は行わない。
  – 居眠り、わき見を検知できないことがあります。
  – 運転者が前方を見ている状態を検知できないことがあります。
- ステアリング制御警告灯（赤色）が点灯したときは、直ちにハンドル操作を行う。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。
  ☞「メンテナンスノート」参照
- 次の状況では、システムが正しく動作しないため、渋滞時ハンズオフアシストを使用しない。
  – タイヤの空気圧が適正でないとき※1

⚠ 警 告

– 摩耗したタイヤ、または摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
– 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
– ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
– ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
– パンク修理キットで応急修理をしたとき
– サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
– ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
– タイヤチェーンを装着しているとき
– スペアタイヤを使用しているとき
– ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
– ハンドルを指定品以外に交換しているとき
– ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
– ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
– ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
– 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
– ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
– ステアリング制御警告灯（赤色）が点灯しているとき
– 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき

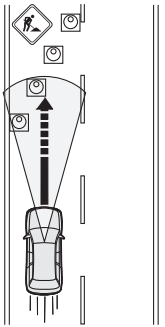
⚠ 警 告

– 定員を超えているとき
– 車両などをけん引しているとき
– メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.788参照
※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.137参照
※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

⚠ 警 告

- 渋滞時ハンズオフアシストは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定している。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるので、渋滞時ハンズオフアシストを使用しない。
  – 工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき



  – 急カーブがある道
  – 古い区画線が残っているとき
  – 停止車両を避けるとき
  – 路面に雪や水たまり、融雪剤が残っているとき
  – 路面にひび割れや補修の跡があるとき
  – 凍結路や積雪路など滑り易い路面
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  – インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき

⚠ 警 告

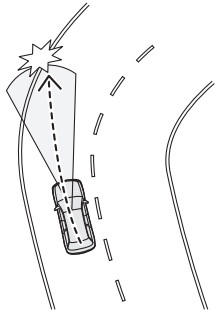
– 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
– フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃の付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
– フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき
– ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

• 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。

– 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
– 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
– 路面がぬれて光が反射しているとき
– 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
– 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
– 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき

⚠ 警 告

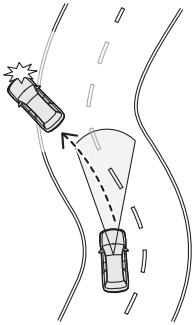
– カーブの形状が急激に変化するとき



– 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
– 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
– 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
– 車線の幅が変化したとき
– 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  • 区画線がない、または消えかかっている
  • 区画線が黄色で描かれている
  • 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  • 区画線が二重に描かれている
  • 区画線の幅が細いなど
  • 区画線以外の線が路面に描かれている
  • 区画線に壁やポールが隣接している

⚠ 警 告

– 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）



– 高速道路のインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリア、パーキングエリア入口などの分岐レーンに差し掛かったとき

– 路肩に縁石や側壁があるとき

⚠ 警 告

– トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき

– フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

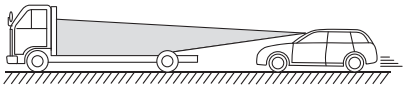
- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの先行車の認識がしづらくなり、システムが適切に動作できないおそれがある。

  – 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき

  – 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき

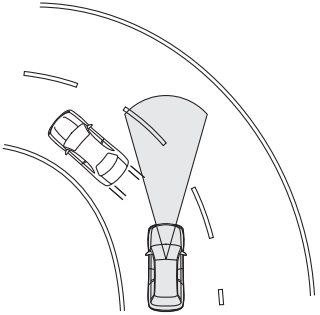
  – 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

  – 前方の車両の最後面が小さい（例えばトレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
  （最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります。）



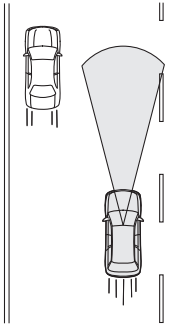
⚠ 警 告

- トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
- 自車バンパーの近い位置に物体があるとき
- 悪天候（強い雨、降雪、濃霧など）で先行車が見えづらいとき
- フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
- カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路を走行しているとき

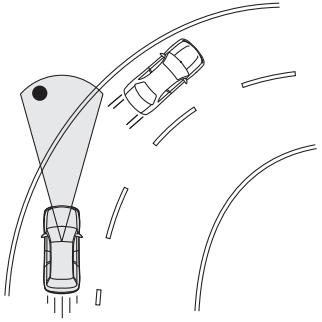


⚠ 警 告

- 先行車との位置が横にずれているとき



- 道路のすぐ脇にものがあるとき



- 先行車との速度差が大きいとき
- 前方に車両が割り込んできたとき
- 極端に車間距離が短いとき
- 自車が車線内で蛇行しているとき

⚠ 注 意

次に挙げる状況などでは、渋滞時ハンズオフアシストが作動しないことや、作動が解除されることがあります。

- 料金所付近、分岐路、合流路、急カーブ、トンネルなどに接近もしくは走行しているとき
- 車線幅が約3 m未満の車線を走行しているとき
- 車両重量が極端に変化した直後
- タイヤ交換直後やタイヤ空気圧調整直後
- カメラ関係の調整・修理または交換をした直後
- サスペンションや舵取り装置を修理・交換した直後
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）や純正品以外のタイヤを装着しているとき
- 横風を受けているとき
- 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）
- 路面の横断方向の勾配が大きいとき、または急激に変化するとき
- 路面の凸凹、うねり、つなぎ目
- 加減速度が大きいとき
- 外気温が低いときのエンジン始動直後
- 外気温が高いとき

知 識

状況によっては、ドライバーモニタリングシステムが運転者の状態を正確に検出できないことがあります。
☞P.446参照

渋滞時ハンズオフアシストの使用方法

渋滞時ハンズオフアシストは以下の条件のときに作動します。

- 一部を除く、高速道路や自動車専用道路の本線を走行している
- EyeSight X（高度運転支援機能）が作動している
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動している
- 自車速が0 km/h～約50 km/hで走行している
- 車線中央付近を走行している
- 運転者がハンドルを操作している
- 運転者が前方を見ている
- 急カーブ、料金所、レーン減少、トンネルが近くない
- トンネル内を走行していない
- ステレオカメラで認識した車線情報と、3D高精度地図ユニットで取得した地図情報が一致している
- システムが区画線および先行車を認識している

渋滞時ハンズオフアシストが作動開始するとブザー（ポンピーン）が鳴り、および が青色に変わり、(緑色）が (青色）に変わります。

システムが渋滞時ハンズオフアシストを継続できなくなると判断した場合、ブザー（ポンポーン）が鳴り、割り込み画面を表示し、運転者へハンドル操作を促します。割り込み画面が表示された場合は速やかにハンドルを操作してください。割り込み画面は次の順に2段階で表示します（状況により割り込み画面1の表示をしない場合があります）。
警告に従わずハンドル操作がないと判断された場合は、ドライバー異常時対応システムが作動します。
☞**P.492**参照

項目	割り込み画面1	割り込み画面2
制御対象外エリア接近		
カーブ接近		

項目	割り込み画面1	割り込み画面2
料金所接近		
車速範囲外、区画線接近		

項目	割り込み画面1	割り込み画面2
ハンドル操作要求		

渋滞時ハンズオフアシストの解除方法

運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で渋滞時ハンズオフアシストは解除され、ブザー（ピンポーン）が鳴ります。

- (クルーズ）スイッチを押す
- (レーンキープ）スイッチを押す
- (EyeSight X）スイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む

システムによる自動解除

次に挙げる状況などでは、渋滞時ハンズオフアシストが解除され、ブザーが鳴ります。機能が解除された際はすみやかにハンドルを操作してください。

- EyeSight X（高度運転支援機能）がシステムにより自動解除されたとき
- 一部を除く、高速道路や自動車専用道路の本線を走行していないとき
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能がシステムにより自動解除されたとき
- 自車速が約50 km/hを超えたとき
- 車線中央付近を走行していないとき
- 一定時間以上、運転者が前方や周囲を確認していないとき
- 急カーブ、料金所、レーン減少
- ステレオカメラで認識した車線情報と、3D高精度地図ユニットで取得した地図情報が一致していないとき
- 停車中、自動発進待機でなくなったとき
- ステレオカメラが区画線および先行車を認識できなくなったとき
- 3D高精度地図ユニットが位置情報を判別できなくなったとき
- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight(黄色）が点灯している）

☞P.422参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight(白色）が点灯している）

☞P.422参照

- EyeSight X（高度運転支援機能）が故障したとき（(黄色）が点灯している）

☞P.500参照

- EyeSight X（高度運転支援機能）が一時停止したとき（OFF(黄色）が点灯している）

☞P.500参照

知 識

次のような場合には、システムが運転者のハンドル操作を正しく検知できないことがあります。

- ハンドルにカバーを取り付けたとき
- 運転者が手袋をしているとき
- ハンドルに異物が付着しているとき
- ハンドルのスポーク部などのセンサーが無い部分を握っているとき
- ハンドルを片手で操作しているとき

渋滞時発進アシスト

高速道路や自動車専用道路を走行時、EyeSight X（高度運転支援機能）の作動中に、先行車に続いて停車してから約10分以内であれば、運転者の操作なしで先行車に追従して再発進します。

⚠ 警 告

- 渋滞時発進アシストはあらゆる状況で作動するものではない。発進時は周囲の状況をよく確認する。渋滞時発進アシストのみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがある。
- ドライバーモニタリングシステムの認識性能には限界がある。ドライバーモニタリングシステムを過信した運転は行わない。
  - ー 居眠り、わき見を検知できず発進することがあります。
  - ー 運転者が前方を見ている状態を検知できず発進できないことがあります。
- ステレオカメラ・前側方レーダーの認識性能には限界がある。ステレオカメラ・前側方レーダーを過信した運転は行わない。
  - ー 物体が検知できず発進することがあります。
  - ー 物体がないにも関わらず発進できないことがあります。

⚠ 注 意

次に挙げる状況などでは、渋滞時発進アシストは作動しない場合があります。

- 豪雨、積雪などの悪天候時
- 先行する車両が存在しないとき

⚠ 注 意

- 自車と先行車の間にバイクなどがすり抜けたとき
- 自車と先行車の間に物体を検知したとき

知 識

- 居眠り、わき見を検知した場合は が緑色から白色に変わり、HOLD表示灯が点灯し停止保持に移行します。その後運転者が前方を見ている状態が確認された場合、渋滞時発進アシストに復帰します。
- 自車と先行車との間に物体を検知した時は が緑色から白色に変わり、HOLD表示灯が点灯し停止保持に移行します。その後は渋滞時発進アシストに復帰しません。
- 停止保持状態が解除されない場合はSET/－またはRES/＋スイッチを操作して発進してください。発進可能な状況であれば発進します。約3秒間経過しても発進可能な状況にならなければ再び停止保持に移行します。
- 周囲の環境によってはステレオカメラが割り込み車両を検知できない場合があります。

次のような場合、ドライバーモニタリングシステムが正常に動作しないことがあります。

- 車室内へ太陽光が入り込んでいる場合
  - ー ユーザー認識用カメラが直接（またはガラス越し）太陽光に照らされているとき
  - ー 太陽光（強い近赤外線成分の光を含む）により、顔に影が生じているとき
  - ー 顔を照らす太陽光（強い近赤外線成分の光を含む）の強さが瞬間的に大きく変動しているとき

知 識

- 車室内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）がある場合
- 目や鼻、口など顔が正常に認識できない場合
  - サングラスなどのレンズの種類によりカメラが目を認識できないとき
  - メガネやサングラスのレンズへの映り込みやフレームにより目が隠れているとき
  - 身に着けているものや髪の毛などにより顔の一部が隠れているとき
  - カバーやアクセサリーなどにより、ユーザー認識用カメラおよび近赤外線光源部（LED）と顔との間が遮られているとき
- ユーザー認識用カメラおよび近赤外線光源部（LED）に汚れや傷がついている場合
  - 汚れや指紋などがついたときは、柔らかい布でから拭きするか、固く絞った布などで軽く拭き取ってください。
  - カメラ周辺に硬いものが触れないよう注意してください。
- 助手席の方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在する場合

次のような場合、運転者の状態を正しく検出できず渋滞時発進アシストが解除され停止保持に移行する場合があります。

- 伏し目となったとき
- 笑ったり、目を細めたりしたとき
- 目をしばらく閉じたり、頻繁に瞬きをしたりしたとき
- 前に乗り出したり、運転姿勢をくずしたりしたとき

☞**P.450**参照

知 識

- 環境によってステレオカメラが割り込み車両を検知できない場合があります。

☞**P.284**参照

前側方レーダーが割り込み車両を検出しづらい環境は以下の通りです。

- 雨や雪が強いとき
- バンパー面に汚れが付着しているとき

割り込みを誤検出しやすい環境は以下の通りです。

- ガードレールや壁との距離が近いとき
- 隣車線の車両との距離が近いとき

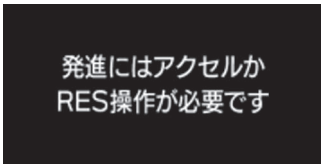
渋滞時発進アシストは以下のように作動します。

- 発進待機中にドライバーモニタリングシステムが居眠り、わき見と判断、またはドライバーの顔が正常に検知できないと判断したときは停止保持に移行します。
- 発進待機中に車両の割り込みを検出した場合、停止を保持します。停止保持中にRES/＋またはSET/－スイッチを押すと、先行車が発進したときは自車も続いて発進し、追従走行を行います。ただし発進しなかったときは、約3秒後に再び停止保持状態に自動的に戻ります。
- 停止時間が約10分を超えた場合には、電動パーキングブレーキ（EPB）が作動し、全車速追従機能付クルーズコントロール機能がキャンセルされます。

渋滞時発進アシストは、次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- 一部を除く、高速道路や自動車専用道路の本線を走行している
- EyeSight X（高度運転支援機能）がONになっている
- 先行車に続いて停止しているとき
- ドライバーモニタリングシステムで、居眠り、わき見が検出されていない
- ステレオカメラで認識した車線情報と、3D高精度地図ユニットで取得した地図情報が一致している
- 自車と先行車との間に物体を検知していない場合

割り込み車両を検出し、発進待機が自動的に解除され、発進待機に戻れない場合は、ブザー（ピピーン）が鳴り、割り込み画面を表示します。



アクティブレーンチェンジアシスト

高速道路や自動車専用道路を約70 km/h～約120 km/hで走行時、EyeSight X（高度運転支援機能）および車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動中に、運転者がウインカーレバーを操作すると、ウインカーが点滅している方向に車線変更を行うようにハンドル操作をアシストします。

⚠ 警 告

アクティブレーンチェンジアシストは自動運転システムではありません。

- アクティブレーンチェンジアシストを過信しない。
  - わき見運転やハンドル手放し運転などを補助する装置ではありません。必ずハンドルを握って運転してください。
  - アクティブレーンチェンジアシストはあらゆる状況で作動するものではありません。車線変更をアクティブレーンチェンジアシストのみに頼っていると、車線のわきの障害物や隣車線の車に衝突するなどの事故につながるおそれがあります。
  - 車線変更時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境を必ず目視で確認してください。
    道路、天候、交通状況などにより、隣接車線に車両が存在する場合や、左右から接近する車両が存在する場合などでも、アクティブレーンチェンジアシストが作動してしまう場合があります。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。
  ☞「メンテナンスノート」参照

⚠ 警 告

- 次の状況では、システムが正しく動作しない。アクティブレーンチェンジアシストを使用しない。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※1
  - 摩耗したタイヤ、または摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
  - ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
  - ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
  - ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - スペアタイヤを使用しているとき
  - ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
  - ハンドルを指定品以外に交換しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに氷雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき

⚠ 警 告

  - ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 定員を超えているとき
  - 車両などをけん引しているとき
  - メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
☞P.788参照

※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
☞P.137参照

※3: メーターの機能、動作
☞P.108参照

- アクティブレーンチェンジアシストは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定している。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるので、アクティブレーンチェンジアシストを使用しない。
  - 一般道（自動車専用道路以外）
    道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
  - 工事などによる車線規制や仮設の車線があるとき
  - 急カーブがある道
  - 古い区画線が残っているとき

⚠ 警 告

- 停止車両を避けるとき
- 路面に雪や水たまり、融雪剤が残っているとき
- 路面にひび割れや補修の跡があるとき
- 凍結路や積雪路など滑り易い路面
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃などの付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
- フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないため、ステレオカメラが車線を認識できないおそれがあるとき
- ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

• 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線の認識が困難な場合があり、システムが適切に動作できないおそれがある。

- 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- 路面がぬれて光が反射しているとき

⚠ 警 告

- 車線内に道路標示（矢印や文字など）が存在しているとき
- 車間距離が短く、区画線が見づらいとき
- 隣車線から車が割り込んできたとき、または前方の車が車線変更したとき
- カーブの形状が急激に変化するとき
- 区画線の上にガードレールなどの影が重なっているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
- 車線の幅が狭いとき、あるいは広いとき
- 車線の幅が変化したとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線がない、または消えかかっている
  - 区画線が黄色で描かれている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線が二重に描かれている
  - 区画線の幅が細いなど
  - 区画線以外の線が路面に描かれている
  - 区画線に壁やポールが隣接している
- 区画線の形状が急激に変化するとき（カーブの出入り口、クランク、カーブが連続している道路など）
- 路肩に縁石や側壁があるとき
- トンネルの出入り口や高架下など明るさが変化するとき
- フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

⚠ 警 告

– 高速道路のインターチェンジ、ジャンクション、サービスエリア、パーキングエリア入口などの分岐レーンに差し掛かったとき

⚠ 注 意

アクティブレーンチェンジアシストの正しい作動のため、次のことをお守りください。

- 前側方レーダーおよび後側方レーダー付近のバンパー表面は、いつもきれいにしておく。
- 前側方レーダーおよび後側方レーダー付近のバンパー表面に、ステッカーなどを貼り付けない。

前側方レーダーおよび後側方レーダーの検知性能には限界があります。次のような場合には検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。

- 前側方レーダーおよび後側方レーダー付近のフロントバンパーまたはリヤバンパーが変形、損傷したとき
- 前側方レーダーおよび後側方レーダー付近のフロントバンパーまたはリヤバンパーに雪、氷、泥が付着しているとき
- 雨、雪、霧など悪天候のとき
- 雪道、水たまりなど、ぬれた路面を走行するとき
- 先行車や自車両、後続車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、センサーの周辺環境が良好でないとき

⚠ 注 意

次のような車両などに対しては、前側方レーダーおよび後側方レーダーが検知しないか、もしくは検知しにくいことがあります。

- 小型の自動二輪車
- 前側方レーダーおよび後側方レーダーの電波が反射しにくい形状の車両（車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど）
- 自車との速度差がかなり大きい車両
- 自車とほとんど速度差がなく、長い時間並走している車両
- 2車線隣にいる車両
- 自車よりもかなり遅い速度で隣車線を走行中に、急激に速度を上げて自車を追い越そうとする車両

次に挙げる状況などでは、アクティブレーンチェンジアシストの性能を十分に発揮できないことがあります。また、アクティブレーンチェンジアシストが作動しないことや作動が解除されることがあります。

- エンジン始動後、左右どちらかまたは左右両方の後側方レーダーが一度も遠方の車両などを検知していないとき
- 料金所付近、分岐路、合流路、急カーブなどに接近もしくは走行しているとき
- カメラで区画線を白色の破線と正しく認識できない時（区画線がかすれている、2重線になっている、逆光時など）
- 車線幅が約3 m未満の車線を走行しているとき
- 車両重量が極端に変化した直後
- タイヤ交換直後やタイヤ空気圧調整直後
- カメラ関係の調整・修理または交換をした直後

⚠ 注 意

- サスペンションや舵取り装置を修理・交換した直後
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）や純正品以外のタイヤを装着しているとき
- 横風を受けているとき
- 路面勾配が急激に変化するとき（上り坂、下り坂）
- 路面の横断方向の勾配が大きいとき、または急激に変化するとき
- 路面の凸凹、うねり、つなぎ目
- 加減速度が大きいとき
- 外気温が低いときのエンジン始動直後
- 外気温が高いとき

知 識

- 自車両周辺の状況によって、アクティブレーンチェンジアシストを継続することができないと判断した場合、元の走行車線に向けて操舵を行うことがあります。
- 次のような場合は、アクティブレーンチェンジアシストの作動が遅れるか、作動しないことがあります。
  - 車両が、2車線隣の車線から隣車線に車線変更したとき
  - 車両が、隣車線から2車線隣の車線に車線変更したとき
  - 急勾配を走行している、または急勾配の上り下りが連続した坂道を走行しているとき
  - 隣車線の車両が、車線の端を走行しているとき
  - 2車線横の車両が車線端に近寄って走行しているとき
  - 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近しているとき

知 識

- 走行車線と隣接する車線間で高低差があるとき
- EyeSight X（高度運転支援機能）が有効になってもエンジン始動後、左右両方の後側方レーダーが一度も遠方の車両などを検知していないときは（レーダーのシステムチェック）一定時間後に割り込み画面を表示します。

アクティブレーンチェンジアシストの使用方法

アクティブレーンチェンジアシストは、次の条件をすべて満たしているとき、ウインカーレバーを操作すると作動します。

☞P.253参照

- EyeSight X表示灯が緑色のとき
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動している
- 自車の走行している車線と、車線変更先の車線を認識している（車線変更先の隣接レーン表示が点灯している）
- エンジン始動後、左右両方の後側方レーダーが遠方の車両などを検知したことがある

- 自車速が約70 km/h～約120 km/hのとき
- 片側2車線以上の高速道路や自動車専用道路を走行している
- 運転者がハンドルを操作している
- 車線変更先となる隣車線や後方に車両を検知していない（隣車線の車両検知表示が点灯していない）
- 運転者が前方を見ている

アクティブレーンチェンジアシストは以下のように作動します。

1. アクティブレーンチェンジアシストが作動可能な道路を走行しているとき、隣接レーン表示が点灯します。車線変更したい方向の隣接レーン表示が点灯している状態で、運転者が車線変更したい側にウインカーレバーを操作します。

☞**P.253**参照

2. 走行している車線で1秒間待機し、システムが車線変更可能かを判断します。車線変更したい方向の隣車線の車両検知表示が点灯している場合は、車線変更できません。

3. システムが車線変更可能と判断したら車線変更方向の車線表示灯が破線となり、隣の車線に進入するまで車線変更をアシストします。

4. 隣の車線に完全に進入すると、車線中央維持・先行車追従操舵機能に移行します。

知 識

- ウインカーレバーを軽く押して作動したときは、車線変更後にウインカーを自動消灯します。
- ウインカーレバーを右折・左折の位置まで操作して作動したときは、車線変更後にレバーを戻してウインカーを消灯してください。
☞**P.253**参照

アクティブレーンチェンジアシストの解除方法

運転者の操作による解除

次のいずれかの操作でアクティブレーンチェンジアシストが解除されます。

- ブレーキペダルを踏む
- （クルーズ）スイッチを押して全車速追従機能付クルーズコントロールを解除する
- （レーンキープ）スイッチを押して車線中央維持・先行車追従操舵機能を解除する
- （EyeSight X）スイッチを押してEyeSight X（高度運転支援機能）を解除する

システムによる自動解除

次に挙げる状況などでは、アクティブレーンチェンジアシストが解除されることがあります。その際、ブザー（ピピーン）と割り込み画面により、運転者に機能が解除されたことをお知らせします。

- システムが自車線の両側の区画線および車線変更先の区画線を認識できなくなったとき
- 全車速追従機能付クルーズコントロールがシステムにより自動解除されたとき

☞P.348参照

- 車線中央維持・先行車追従操舵機能がシステムにより自動解除されたとき

☞P.361参照

- 車速が作動車速の範囲外となったとき
- 運転者が車線変更の進路からそれるために、ハンドルを操作したと判断したとき
- 運転者がハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- 急カーブに進入しようとしているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 本機能以外の車両側のシステム要因により、ハンドル操作アシストの継続が困難と判断したとき
- EyeSightシステムが故障したとき（EyeSight（黄色）が点灯している）

☞P.422参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（EyeSight（白色）が点灯している）

☞P.422参照

- EyeSight X（高度運転支援機能）が故障したとき（（黄色）が点灯している）

☞P.500参照

- EyeSight X（高度運転支援機能）が一時停止したとき（OFF（黄色）が点灯している）

☞P.500参照

システム判断による車線変更中止

次に挙げる状況では、ブザー（ピピーン）が鳴り、アクティブレーンチェンジアシストによる車線変更が中止されたことを運転者にお知らせします。
その際、車両の位置に応じて元の車線か変更先の車線いずれかに向かって制御します。必要に応じてハンドルを操作してください。

- 運転者がウインカーを消灯もしくは進行方向と逆側に点滅させたとき
- 一定時間、システムが運転者のハンドル操作を検知できなかったとき
  アクティブレーンチェンジアシスト作動中にハンドル操作を検知できなかった場合は、割り込み画面を表示します。

- ドライバーモニタリングシステムが運転者の居眠りを検知したとき
  アクティブレーンチェンジアシスト作動中に運転者の居眠りを検知した場合は、割り込み画面を表示します。

- 自車周辺に接近してくる車両を検出したとき

知 識

- 次のような場合には、システムが運転者のハンドル操作を正しく検知できないことがあります。
  - ハンドルにカバーを取り付けたとき
  - 運転者が手袋をしているとき
  - ハンドルに異物が付着しているとき
  - ハンドルのスポーク部などのセンサーが無い部分を握っているとき
  - ハンドルを片手で操作しているとき
- ドライバーモニタリングシステムが運転者の状態を正しく検知できない場合、車線変更を中止することがあります。
  ☞P.446参照

カーブ前速度制御

高速道路や自動車専用道路を走行時、EyeSight X（高度運転支援機能）の作動中に、カーブの手前でカーブ曲率に合わせた適切な速度に制御します。

⚠ 警 告

カーブ前速度制御を過信しない。

- カーブ前速度制御はあらゆる状況で作動するものではありません。カーブ前速度制御のみに頼った走行をしていると、車線のわきの障害物や先行車、隣車線の車に衝突するなどの事故につながるおそれがあります。
- 運転時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境に注意しながら必要に応じてアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。
- カーブ前速度制御の作動中でも、道路状況によっては車線中央維持・先行車追従機能が解除されることがあります。必ずハンドルを握って運転してください。

⚠ 注 意

次に挙げる状況では、カーブ前速度制御の性能を十分に発揮できないことがあります。また、カーブ前速度制御が作動しないことや作動が解除されることがあります。

- EyeSight X（高度運転支援機能）が作動開始した直後
- カーブ前速度制御をONにした直後
- 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- 凍結路や積雪路、水たまりなど滑りやすい路面を走行しているとき

⚠ 注 意

- 短時間の間に複数回車線変更したとき
- 分岐点や合流点を走行しているとき
- 交差点形状のジャンクションに進入するとき
- カーブの形状が急激に変化するとき
- カーブの形状が大きく緩やかに変化するとき
- クランクやカーブ、分岐が連続している道路などに進入するとき

知 識

- EyeSight X（高度運転支援機能）のセット車速を上限として制御します。
- 高精度GPSの電波の受信状態によっては現在走行している車線が判定しきれず、警報のみ作動することがあります。

カーブ前速度制御の使用方法

センターインフォメーションディスプレイのEyeSight設定項目の「カーブ警報＆速度制御」で機能をON／OFFすることができます。
☞P.125参照
カーブ前速度制御は以下の条件のときに作動します。
- 一部を除く、高速道路や自動車専用道路の本線を走行している
- EyeSight X（高度運転支援機能）が作動している

カーブ前速度制御が作動すると、メーターにカーブ前速度制御作動中の通知を表示します。

⚠ 警 告

カーブ前速度制御は、メーターにカーブ前速度制御作動中の通知が表示されているときのみ作動します。通知が表示されていない場合はカーブ前速度制御が作動していないため、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。

カーブ前速度制御の減速では不十分と判断した場合、ブザー（ピピピ…）が鳴り、割り込み画面を表示し、運転者に注意を促します。警報が作動した場合は、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

次の場合、警報は作動しません。
- アクセルペダルを踏んでいるとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- カーブ前速度制御をOFFしているとき

料金所前速度制御

高速道路や自動車専用道路を走行時、EyeSight X（高度運転支援機能）の作動中に料金所が近づくと、料金所の手前でETCゲート通過に適した速度に制御します。

⚠ 警 告

- 料金所前速度制御を過信しない。
  - 料金所前速度制御はあらゆる状況で作動するものではありません。料金所前速度制御のみに頼った走行をしていると、料金所のわきの障害物や先行車、隣車線の車に衝突するなどの事故につながるおそれがあります。
  - 運転時は、先行車や並走車との距離や周囲の状況、周辺環境に注意しながら必要に応じてアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。
- 事前にETCカードの確認をし、正しく通行できる状態で使用する。
- スマートICには対応していない。
- ETCゲートの開閉は検知しないため、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をする。
- ETCを装着していない場合には周囲の安全を確認の上、ブレーキを踏んで料金所で停車する。

⚠ 注 意

次に挙げる状況では、料金所前速度制御の性能を十分に発揮できないことがあります。また、料金所前速度制御が作動しないことや作動が解除されることがあります。

- EyeSight X（高度運転支援機能）が作動開始した直後

⚠ 注 意

- 料金所前速度制御をONにした直後
- 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- 凍結路や積雪路、水たまりなど滑りやすい路面を走行しているとき
- 分岐点や合流点を走行しているとき
- 料金所への進入直前に車線を変更したとき
- 分岐などによって料金所のある道路と料金所のない道路が並走になるとき

知 識

- EyeSight X（高度運転支援機能）のセット車速を上限として制御します。
- ETCゲートの通過後は緩やかに加速を開始します。周囲の状況に応じてアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、適切な加減速を行ってください。

料金所前速度制御の使用方法

センターインフォメーションディスプレイのEyeSight設定項目の「料金所警報＆速度制御」で機能をON／OFFすることができます。
☞P.125参照
料金所前速度制御は以下の条件のときに作動します。
- 一部を除く、高速道路や自動車専用道路を走行している
- EyeSight X（高度運転支援機能）が作動している

料金所前速度制御が作動すると、メーターに料金所前速度制御作動中の通知を表示します。

⚠ 警 告

料金所前速度制御は、メーターに料金所前速度制御作動中の通知が表示されているときのみ作動します。通知が表示されていない場合は料金所前速度制御が作動していないため、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。

料金所前速度制御の減速では不十分と判断した場合、ブザー（ピピピ…）が鳴り、割り込み画面を表示し、運転者に注意を促します。警報が作動した場合は、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

次の場合、警報は作動しません。
- アクセルペダルを踏んでいるとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 料金所前速度制御をOFFしているとき

ドライバー異常時対応システム

運転者が急病などで運転ができなくなったときの様々な事故のリスクを下げることを目的として、運転者のハンドル操作状態やドライバーモニタリングシステムによりドライバー異常を検知し、車線内で減速、停車させる運転支援システムです。車線中央維持・先行車追従操舵機能作動中に運転者のハンドル操作や前方を見ている状態を長時間検知できない場合や、システムが渋滞時ハンズオフアシストを継続できないと判断した場合、音と表示で運転者にハンドル操作の要求警告を行います。それでも運転者のハンドル操作や前方を見ている状態を検知できない場合は、システムがドライバー異常と判定してハンドル操作の要求警告を継続し、減速やハザードランプの点滅、ホーンを鳴らすなど、後続車や周囲の車両へ運転者の異常を知らせながら車線内で停車させ、すべてのドア（リヤゲート含む）が自動で解錠します。
また、停車後は先進事故自動通報（ヘルプネット）によって自動でヘルプネットセンターに位置情報を送信し、通報を行います。
☞P.676参照

⚠ 警 告

ドライバー異常時対応システムは自動運転システムではありません。運転者には安全運転の義務があります。ドライバー異常時対応システムの作動に伴う責任は運転者にあります。

- ドライバー異常時対応システムを過信しない。手放し運転やわき見運転ができるようになったり、体調が悪い場合に代わりに自動的に運転するシステムではない。ハンドル操作の要求警告があった場合には、直ちにハンドルを操作する。

⚠ 警 告

- ドライバー異常時対応システムの作動後に異常から回復できた場合は、周囲と車両の安全を確認の上、運転を再開するか、安全な場所へ退避する。停車時または降車時には電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを“P”にする。
- 運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどして本システムがドライバー異常と判断できない場合には、作動しない。
- 本システムはハンドルの操作状態やドライバーモニタリングシステムで運転者の異常を検知している。異常のない運転者が意図的にハンドルを操作しない場合や、目を閉じたり顔の一部が隠れている場合にも、システムが作動する。ハンドル操作の要求警告があった場合には、直ちにハンドルを操作する。
- ドライバー異常時対応システムを故意に作動させない。思わぬ事故につながるおそれがある。また、体調がすぐれない場合は運転をしない。

⚠ 注 意

- 3D高精度地図データによって急カーブ中であるとシステムが判断している場合は、停車させずに制御を継続する。
- 急カーブなどで、システムにより車線維持制御が解除された場合は、車線の維持ができず車線から逸脱することがある。
- システムによるドライバー異常判断前に車線中央維持・先行車追従操舵機能または渋滞時ハンズオフアシストが解除された場合は、ドライバー異常時対応システムは作動しない。

⚠ 注 意

- 減速制御、車線維持制御はシステムが継続できないと判断した場合は、解除されることがある。
- 次に挙げる状況などでは、ステレオカメラでの区画線などの認識が困難になり、減速制御や車線維持制御が適切に作動しないことがある。
  - 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- プリクラッシュブレーキの作動が可能な状況では、本システムに優先して作動する。

知 識

- 次のような場合には、システムが運転者のハンドル操作を正しく検知できず、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。
  - ハンドルにカバーを取り付けたとき
  - 運転者が手袋をしているとき
  - ハンドルに異物が付着しているとき
  - ハンドルのスポーク部などのセンサーが無い部分を握っているとき
  - ハンドルを片手で操作しているとき
- ドライバーモニタリングシステムが運転者の状態を正しく検知できない場合、故障または一時停止した場合に、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。

ドライバー異常時対応システムは、次のいずれかの条件で作動を開始します。

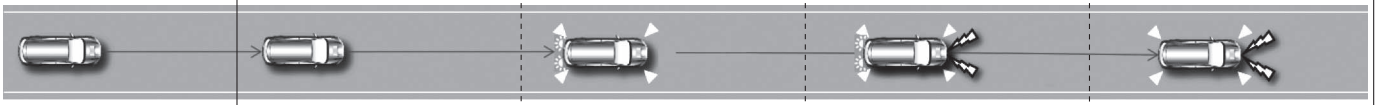
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能の作動中に、システムが運転者のハンドル操作を検知できない状態が続き、ハンドル操作の要求警告が作動したとき
- 車線中央維持・先行車追従操舵機能の作動中に、ドライバーモニタリングシステムが運転者の状態を長時間検知できない状態が続いたときや、運転者の居眠り、わき見を検知して、ハンドル操作の要求警告が作動したとき

☞P.361参照

- 渋滞時ハンズオフアシストが作動中に、システムが渋滞時ハンズオフアシストを継続できないと判断し、ハンドル操作の要求警告が作動したとき

☞P.476参照

ドライバー異常時対応システムは、以下の作動段階に分かれます。

<table>
<tr><td>車線中央維持・
先行車追従操舵機能
渋滞時ハンズオフ
アシスト</td><td colspan="4">ドライバー異常時対応システム</td></tr>
<tr><td></td><td>(1)</td><td>(2)</td><td>(3)</td><td>(4)</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4">  </td></tr>
<tr><td></td><td>・ハンドル操作の要求警告
・緩やかな減速
・ハプティックブレーキ</td><td>・減速
・ハザードランプ
・ハプティックブレーキ
・アクセル操作無効化</td><td>・減速
・ハザードランプ
・ホーン
・ハプティックブレーキ
・アクセル操作無効化</td><td>・停止保持
・ハザードランプ
・ホーン
・アクセル操作無効化
・すべてのドア解錠
（リヤゲート含む）
・先進事故自動通報
（ヘルプネット）</td></tr>
<tr><td></td><td> </td><td colspan="2"> </td><td> </td></tr>
</table>

知 識

- ハプティックブレーキとは運転者に注意を促すための短時間の連続ブレーキです。
- 自車速が約30 km/h以上の場合、ハプティックブレーキが作動します。

ドライバー異常時対応システムの各段階は以下のように作動します。

(1) ハンドル操作要求

運転者のハンドル操作や前方を見ている状態を検知できなかった場合、ハンドル操作の要求警告を行います。
ハンドル操作の要求警告は、ブザー（ピンピーン…またはピピーン…）と警告画面を表示します。車両を緩やかに減速させ、ハプティックブレーキが作動します。

(2) 減速＋ハザードランプ＋アクセル操作無効化

ハンドル操作の要求警告を継続しても運転者のハンドル操作や前方を見ている状態を検知できなかった場合は、運転者が異常状態にあると判断します。
車両を減速させ、運転者によるアクセルペダルの操作が無効になり、引き続きハプティックブレーキが作動したまま、ブザー（ピンピーン…またはピピーン…）と警告画面を表示します。ハザードランプにより後続車や周囲に緊急事態を知らせます。

知 識

(2)の状態でドライバー異常時対応システムを解除した場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールのセット車速が現在の車速に変更されます。

(3) 減速＋ハザードランプ＋ホーン＋アクセル操作無効化

(2)で警告を継続しても運転者のハンドル操作や前方を見ている状態を検知できなかった場合は、警告画面表示、ハザードランプ点滅、アクセル操作の無効化を継続します。ホーンにより後続車や周囲に緊急事態を知らせ、車両を減速、停車させます。

知 識

- ドライバー異常時対応システムによりホーンが鳴った後は、ドライバー異常時対応システムを解除しても次の機能が使用できなくなります。エンジン再始動後は使用可能になります。
  - 全車速追従機能付クルーズコントロール
  - 車線中央維持・先行車追従操舵機能
  - 定速クルーズコントロール
  - EyeSight X（高度運転支援機能）のすべての機能
- 意図的なアクセル操作をシステムが検出したときは、一時的にアクセルが有効になります。

(4) 停止保持

車両が停車すると、すべてのドア（リヤゲート含む）が自動で解錠され、停車状態を保持します。

車線維持制御は解除され、電動パーキングブレーキが作動します。ブザー（ピピーン…）と警告画面を表示します。引き続き運転者によるアクセルペダルの操作は無効のまま、ハザードランプ、ホーンにより後続車や周囲に緊急事態を知らせます。

また同時に先進事故自動通報（ヘルプネット）によって、自動でヘルプネットセンターに位置情報を送信し、通報を行います。

☞P.676参照

知 識

可能な限り減速制御と車線維持制御は継続しますが、状況により制御が解除されることがあります。減速制御や車線維持制御が解除された場合でも、ドライバー異常時対応システムはブザーや警告画面の表示、ハザードランプやホーンにより後続車や周囲へ緊急事態を知らせ続けます。

ドライバー異常時対応システム作動時の表示および解除方法

作動段階	メーター表示	警報音	作動状況	解除方法
(1) ハンドル操作要求		ピンピーン…	システムが車線維持できる状態です。	• 前方を見ている状態でのハンドル操作 • 強めのハンドル操作
		ピピーン…	システムが車線維持できなくなった状態です。	
(2) 減速＋ハザードランプ＋アクセル操作無効化		ピンピーン…	• 減速制御中です。 • システムが車線維持できる状態です。 • アクセル操作は無効です。	• 前方を見ている状態でのハンドル操作 • 強めのハンドル操作 • スイッチ操作 （クルーズ）スイッチ、 （レーンキープ）スイッチ
		ピピーン…	• 減速制御中です。 • システムが車線維持できなくなった状態です。 • アクセル操作は無効です。	

作動段階	メーター表示	警報音	作動状況	解除方法
(3) 減速＋ハザードランプ＋ホーン＋アクセル操作無効化		ピンピーン…	• 減速制御中です。 • システムが車線維持できる状態です。 • アクセル操作は無効です。	• 前方を見ている状態でのハンドル操作 • 強めのハンドル操作 • スイッチ操作 （クルーズ）スイッチ、 （レーンキープ）スイッチ
		ピピーン…	• 減速制御中です。 • システムが車線維持できなくなった状態です。 • アクセル操作は無効です。	
(4) 停止保持		ピピーン…	• 停止状態を保持します。 • 車線維持制御は解除されます。 • 電動パーキングブレーキが作動します。 • すべてのドア（リヤゲート含む）が解錠されます。 • アクセル操作は無効です。 • 先進事故自動通報（ヘルプネット）によって通報を行います。	• 前方を見ている状態でのハンドル操作 • 強めのハンドル操作 • スイッチ操作 （クルーズ）スイッチ、 （レーンキープ）スイッチ

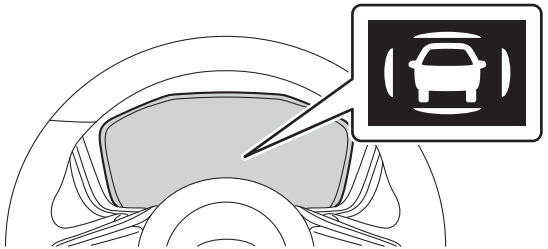
ドライバー異常時対応システム作動中にEyeSightが故障または一時停止した場合の表示

作動段階	メーター表示	警報音	作動状況
(1) ハンドル操作要求		ピピーン…	**EyeSightシステムが一時停止したとき** ドライバー異常時対応システムは継続しますが、車線維持制御は解除されます
(2) 減速＋ハザードランプ＋アクセル操作無効化 (3) 減速＋ハザードランプ＋ホーン＋アクセル操作無効化		ピピーン…	
(4) 停止保持		ピピーン…	
(1) ハンドル操作要求 (2) 減速＋ハザードランプ＋アクセル操作無効化 (3) 減速＋ハザードランプ＋ホーン＋アクセル操作無効化		ピピーン…	**EyeSightシステムが故障したとき** メータ表示での警告のみ継続します。その他の制御は解除されます。 （ホーン／ハザードランプは作動していた場合は継続します）

EyeSight X（高度運転支援機能）の故障および一時停止

EyeSight X（高度運転支援機能）の故障

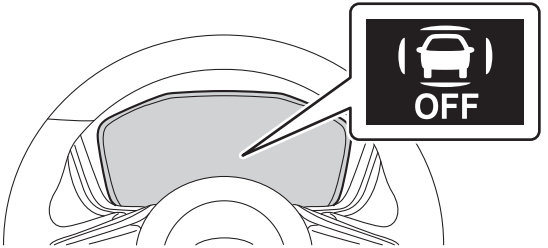
EyeSight X（高度運転支援機能）の異常を検知すると、メーター内の（黄色）が点灯します。（黄色）が点灯したときは、EyeSight X（高度運転支援機能）のすべての機能が使用できません。（黄色）が点灯したときは、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。



EyeSight X（高度運転支援機能）の一時停止

EyeSight X（高度運転支援機能）が一時停止すると、メーター内の（黄色）が点灯します。（黄色）が点灯したときは、ドライバー異常時対応システムを除くEyeSight X（高度運転支援機能）の機能が使用できません。
原因が解消されるとEyeSight X（高度運転支援機能）の一時停止が解除され、自動復帰します。

（黄色）が長時間点灯し続ける場合は故障のおそれがありますので、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。



知 識

EyeSight X（高度運転支援機能）は次のような場合に一時停止します。

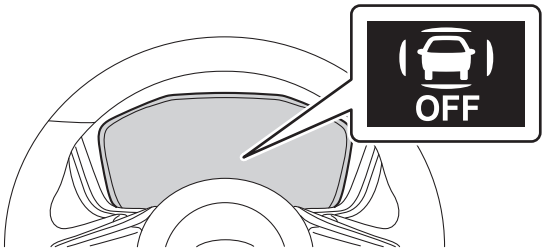
- EyeSightシステムが一時停止している
- ドライバーモニタリングシステムが一時停止している
- 前側方レーダーもしくは後側方レーダーが一時停止している
- SRVDがOFFのとき

知 識

- ドライバーモニタリングシステムがOFFのとき
- 3D高精度地図ユニットが一時停止している

EyeSight X OFF表示灯

- プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約10秒後に消灯します。
- EyeSight X（高度運転支援機能）が一時停止しているときに点灯します。



3D高精度地図データについて

3D高精度地図データとは、ナビゲーションシステムの地図データとは異なる、より高い精度で実際の道路と一致している地図のデータです。

3D高精度地図データVer情報の確認

お車の現在の3D高精度地図データVer情報は、センターインフォメーションディスプレイでご確認いただけます。
☞P.125参照

3D高精度地図データの更新

3D高精度地図データが新しいほど、より多くの自動車専用道路上でEyeSight X（高度運転支援機能）の使用が可能です。3D高精度地図データの更新サービスは、年四回提供予定の有償の更新サービスとなります。更新にはSUBARU専用機器の接続が必要となりますので、お近くのSUBARU販売店にお問い合わせください。

3D高精度地図データ更新情報の確認

3D高精度地図データの更新情報および更新内容は、SUBARUホームページのアフターサービス内にてご確認いただけます。
以下のURLからアクセスしてください。
https://www.subaru.jp/afterservice/

オープンソースソフトウェア情報

3D高精度地図ユニットには、オープンソースソフトウェアを搭載しています。
ライセンス情報は、以下のURLから取得してください。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/HDL_S_License/

ライセンス情報

3D高精度地図データのライセンス情報は、以下のURLから取得してください。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/map/HDL_S_License/

6. 装備品の使いかた

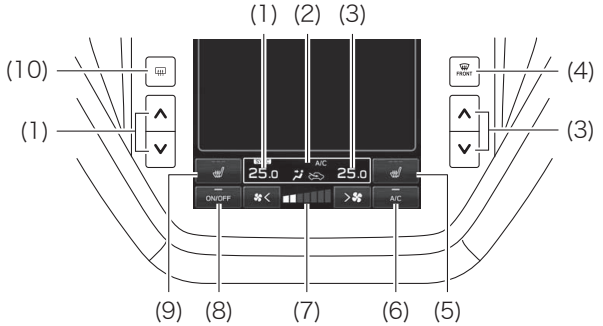
エアコン
表示とスイッチ ····· 504
エアコンの使いかた ····· 505
吹き出し口 ····· 512
感知センサー ····· 514
エアコンフィルター ····· 515

室内装備
カップホルダー ····· 516
ボトルホルダー ····· 517
サンバイザー ····· 517
小物入れ ····· 518
サブトランク ····· 520
トノカバー ····· 520
電源ソケット ····· 523
USB & AUX ····· 524
アシストグリップ（回転式）····· 525
カーゴフック ····· 526
買い物フック ····· 526
室内の照明 ····· 527

エアコン

表示とスイッチ

センターインフォメーションディスプレイ下部のエアコン操作バーに、エアコンの状態が表示されています。
☞**P.120**参照
画面の操作、ディスプレイ横のスイッチでエアコンの操作ができます。また、一部の操作は音声でもできます。
☞**P.688**参照



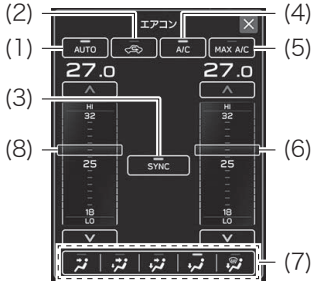
(1) 設定温度（助手席）
(2) エアコン状態表示
(3) 設定温度（運転席）
(4) デフロスター
(5) シートヒーター（運転席）
(6) エアコンボタン
(7) 風量
(8) [ON/OFF]
(9) シートヒーター（助手席）
(10) リヤウインドウデフォッガー／ヒーテッドドアミラー（フロントワイパーデアイサーと連動）

知 識

エアコンボタンとして表示するボタンを、A/C、MAX A/C、AUTO、内外気、SYNCから設定できます。
☞**P.125**参照

ポップアップウインドウ

エアコン状態表示をタップすると、ポップアップウインドウが開きます。
各種設定ができます。



(1) [AUTO]
(2) 内気循環・外気導入切替えアイコン
(3) [SYNC]
(4) [A/C]
(5) [MAX A/C]
(6) 設定温度（運転席）
(7) 吹き出し口
(8) 設定温度（助手席）

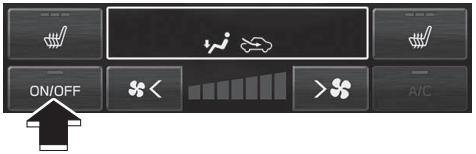
エアコンの使いかた

知 識

エンジンがかかっているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。

ON／OFFのしかた

[ON/OFF]をタップします。
OFFにすると設定温度などの表示が消えます。



知 識

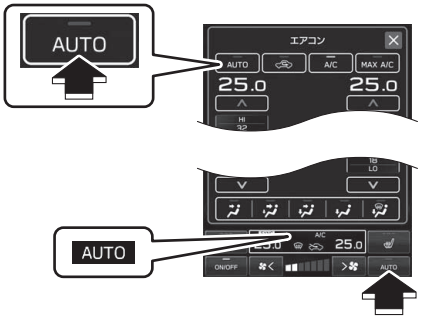
- 冬季などでエンジンが冷えているときは、しばらくの間、デフロスター吹き出しの外気導入になり、ファンは低速回転で作動します。
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。

知 識

- 停車中にエアコンを使用しているときは、アイドリング回転が高くなります。クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルを確実に踏んでください。
- エアコンをOFFにしていても、外気導入を使用していると走行風だけの空調ができます。
  - 走行風による空調では、室内を外気温度より低くすることはできません。
- プッシュエンジンスイッチをONにしたときは、前回OFFにしたときの状態で作動します（MAX A/CがONのときを除く）。

オートでの使いかた

ポップアップウインドウを開き、[AUTO]をタップします。
エアコンボタンをAUTOにしている場合は、ボタンをタップします。
希望温度を設定すると、各機能を自動的にコントロールし、室内を快適に保ちます。
エアコン操作バーに「AUTO」と表示します。

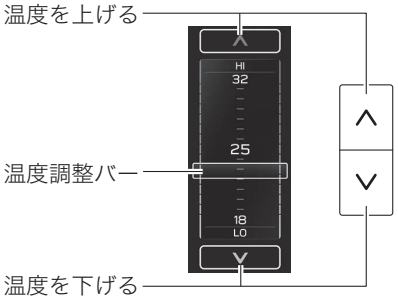


次の操作をすると、オートが解除され、操作した項目の設定が固定されます。このとき「AUTO」の表示が消えます。

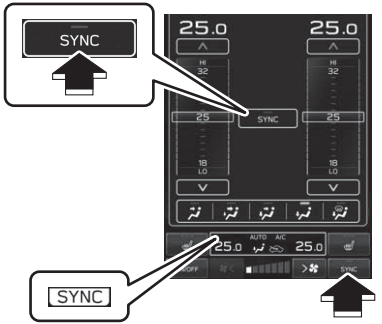
- デフロスターをONにする
- 風量を変える
- 吹き出し口を変える
- MAX A/CをONにする

温度調整のしかた

運転席側、助手席側の送風温度を別々に設定できます。
温度調整スイッチを押して、希望温度に合わせます。
または、ポップアップウインドウを開き、タップまたはドラッグして、温度調整バーを希望温度に合わせます。
LOまたはHIに設定したときは、それぞれ最大冷房または最大暖房となります。



SYNC表示灯が点灯しているときは、助手席側の設定温度が運転席側と連動します。連動させるには、ポップアップウインドウを開き、[SYNC]をタップします。
エアコンボタンをSYNCにしている場合は、ボタンをタップします。



知 識

運転席側と助手席側の設定温度の差が大きい場合、温度を調整しきれないことがあります。

風量調整のしかた

風量表示の[＜]、[＞]をタップして調整します。
[＜]をタップすると弱まり、[＞]をタップすると強まります。

吹き出し口の切り替えかた

ポップアップウインドウを開き、設定したい吹き出し口を選びます。

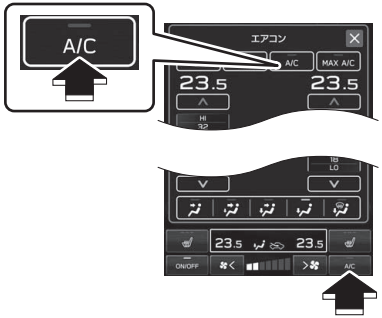
上半身に送風	上半身を主に足元にも少し送風	上半身および足元に送風	足元に送風	足元に送風およびフロントガラスの曇り取り

知 識

- 降雪時はフロントガラスの凍結を防止するため で走行することをお奨めします。
- を選択すると自動的に外気導入、除湿機能がONになる場合があります（内気循環を選択時は外気導入に切り替わらずに、内気循環状態を維持します）。

冷房・除湿機能の使いかた

ポップアップウインドウを開き、[A/C]をタップしてON／OFFを切り替えます。エアコンボタンをA/Cにしている場合は、ボタンをタップします。

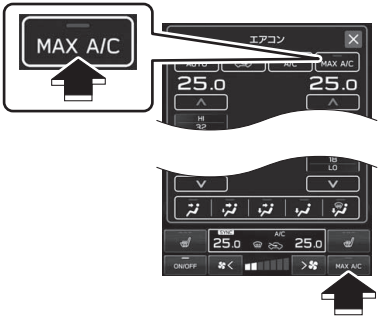


知 識

- 次の場合、冷房・除湿機能が作動しないことがあります。
  - 室内の温度が低いとき
  - 外気温度が0 ℃付近まで下がったとき
- 冷房・除湿機能は装置の各部をオイルで潤滑にするためにも月に2、3回程度作動させてください。また、長時間作動させていない場合は、エンジンを低回転（またはアイドリング）の状態で、数分間冷房または除湿暖房を行ってください。
- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。SUBARU販売店で点検を受けてください。

急速冷房のしかた

ポップアップウインドウを開き、[MAX A/C]をタップします。エアコンボタンをMAX A/Cにしている場合は、ボタンをタップして表示灯を点灯させます。
自動的に冷房ON、設定温度LO、風量最大、上半身へ送風、内気循環になります。

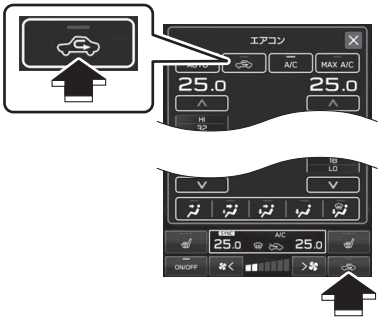


知 識

- MAX A/CをOFFにしたときは、MAX A/CをONにする前の設定に戻ります。
- エアコンやプッシュエンジンスイッチをOFFにすると、次にONにしたときはMAX A/CをONにする前の設定で作動します。

内気循環・外気導入の切り替えかた

外気を遮断したいときや、早く冷房したいとき、特に外気温が高いときに冷房の効きを高めたいときは、一時的に内気循環を使用してください。
ポップアップウインドウを開き、アイコンをタップします。
エアコンボタンを内外気にしている場合は、ボタンをタップして表示灯を点灯させます。



⚠ 注 意

- ガラスが曇りやすくなるので、内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使う。
  - 内気循環で使用する場合は、除湿機能を働かせて使用してください。

知 識

- 外気導入を選択中、設定温度や状況によって内気も取り入れることがあります。

知 識

- バッテリーの接続を外してから再接続したとき、またはバッテリー電圧が低下したとき、エアコン状態表示の内外気アイコンやエアコンボタン（内外気）内の表示灯が点滅することがありますが、異常ではありません。ただし、エンジン始動時に必ずアイコンや表示灯が点滅する場合は電気系統の異常が考えられますので、お近くのSUBARU販売店で点検を受けてください。

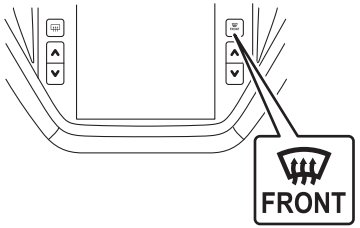
エアコンをOFFにしたとき

アイコンをタップして内気循環を選択していた場合は、内気循環の状態を保ちます。
それ以外の場合は外気導入に固定されます。

曇りや霜の取りかた

フロントガラス、フロントドアガラス

デフロスタースイッチを押します。
効果的に曇りを取るために、自動的に外気導入、除湿機能作動にセットされます。
停止させるときは、スイッチをもう一度押します。デフロスターをONにする前の設定に戻ります。



知 識

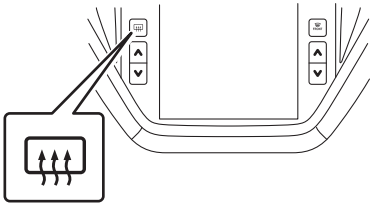
足元にも送風したいときは吹き出し口を に切り替えます。

リヤウインドウ

リヤガラスの内側が曇ったときは、リヤウインドウデフォッガーを使用します。
電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

■リヤウインドウデフォッガーの使いかた

プッシュエンジンスイッチがONのときにスイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し作動します。約15分後、自動的にOFFになります。
作動中に停止させるときは、スイッチをもう一度押します。



注 意

リヤガラスを車内から拭くときは、ガラス洗浄剤を使わず、柔らかい布などで、電熱線に沿って軽く拭く。

知 識

- 消費電力が大きいのでエンジンをかけて使用してください。
- 次の機能と連動します。

知 識

– ヒーテッドドアミラー
☞P.224参照
– フロントワイパーデアイサー
☞P.282参照

- 連続作動に設定できます。
  – 連続作動に設定を変更した場合は、15分間作動、2分間停止を繰り返します。ただし、2分間の作動停止中も表示灯は点灯しています。
  ☞P.125参照
- 曇りが取れたら停止させてください。
  – エンジン作動中でも、連続作動を続けるとバッテリー上がりの原因になります。
  – 雪を溶かすような使いかたはしないでください。
- バッテリー電圧が低下すると、作動を停止します。

ドアミラー

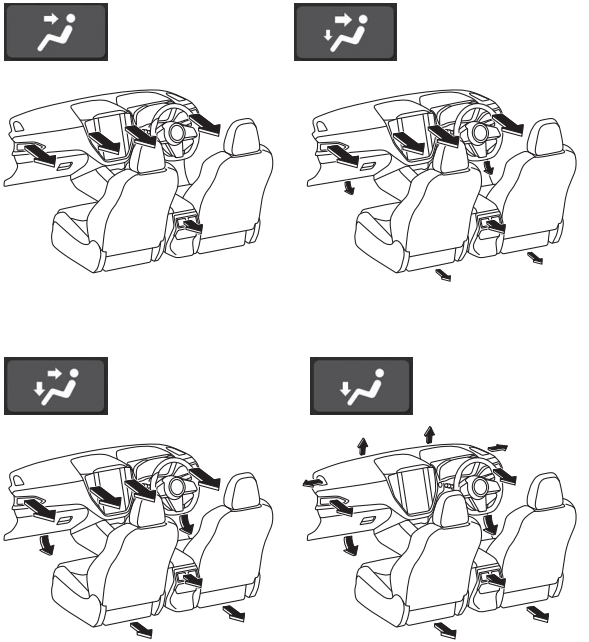
ヒーテッドドアミラーを使用します。
☞P.224参照

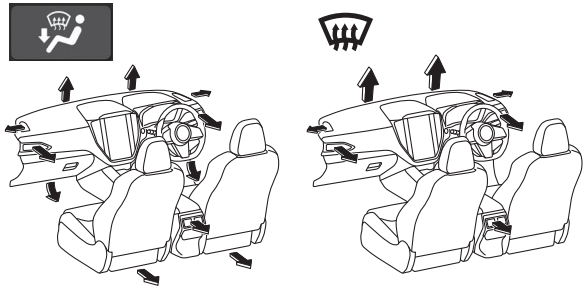
フロントワイパー

フロントワイパーデアイサーを使用します。
☞P.282参照

吹き出し口

吹き出し口を手動で選択すると図のように送風します。
左右および後席用の吹き出し口からは、常時送風します。
送風を止めるときは、吹き出し口を閉じてください。



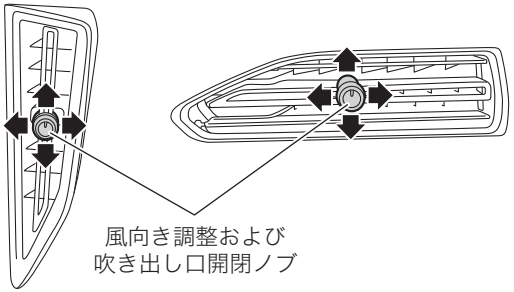


吹き出し口の調整

中央、左右および後席用の吹き出し口は開閉および風向きの調整ができます。

中央、左右吹き出し口

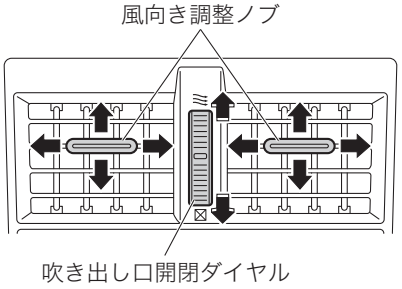
吹き出し口のノブを上下左右に動かして風向きを調整します。
また、ノブを回すと吹き出し口を開閉することができます。



	開：吹き出し口が開きます。
	閉：吹き出し口が閉じます。

後席用吹き出し口

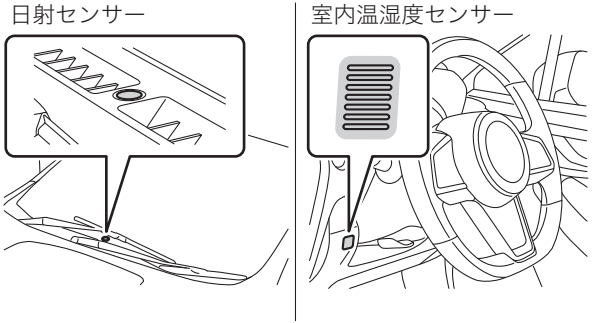
コンソールボックスの後ろ側にあります。
吹き出し口のノブを左右に、また、吹き出し口全体を上下に操作して風向きを調整します。また、ダイヤルで吹き出し口の開閉を切り替えることができます。



	開：吹き出し口が開きます。
	閉：吹き出し口が閉じます。

感知センサー

日差しの強さ、室内温度および湿度、外気温度を感知するセンサーが付いています。
外気温度センサーはフロントバンパー裏側にあります。



⚠ 注 意

- 室内に装備されている日射センサーおよび室内温湿度センサーに衝撃を与えたり、水をかけたり、上に物を置いたりしない。
  − 温湿度制御にずれが発生する原因となります。

エアコンフィルター

快適にお使いいただくため、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

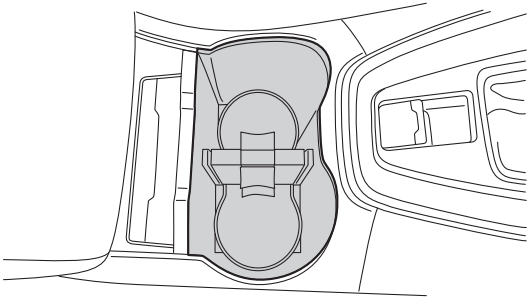
交換時期：12,000 km走行ごとまたは1年ごと（どちらか早い方で実施）
☞**P.735**参照

室内装備

カップホルダー

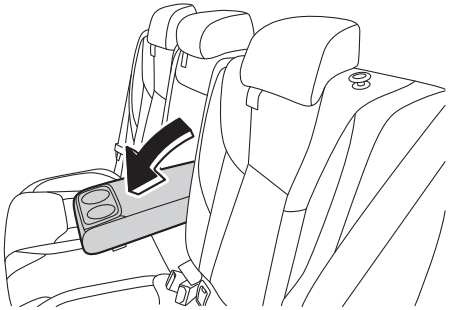
前席用

センターコンソールにあります。
照明装備車は、ランプ類が点灯しているとき、照明が点灯します。
仕切りは外すことができ、空いたスペースを小物入れとして使用できます。



後席用

アームレストにあります。
引き出して使用します。
☞P.209参照



⚠ 警 告

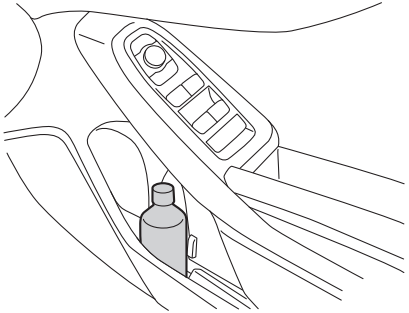
- 飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行う。
  - 走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。

知 識

後席乗降時にはアームレストを収納してください。アームレストの上に乗ったり、ぶつけたりすると損傷の原因となります。

ボトルホルダー

左右のフロントドアおよびリヤドアに各1つの小物入れ兼用のボトルホルダーがあります。



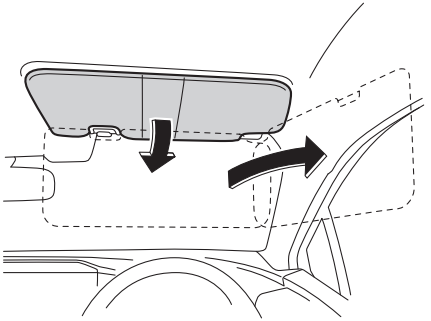
⚠ 警 告

- 飲み物が入ったままフタをしていないペットボトル、またはフタをすることができない容器（缶やカップなど）を入れない。

  ー 飲み物がこぼれるおそれがあります。

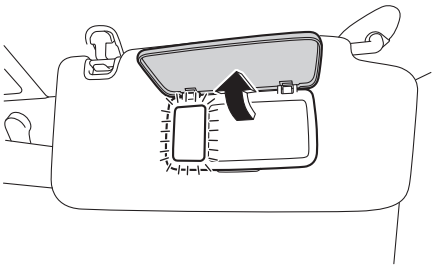
サンバイザー

太陽光がまぶしいときにサンバイザーを下ろします。
横に回すときはフックから外して使用します。
運転席側にはチケットホルダーが付いています。



バニティミラー

運転席、助手席サンバイザー裏側に鏡がついています。
フタを開けると照明が点灯します。



⚠ 注 意

走行中は必ずバニティミラーのフタを閉める。

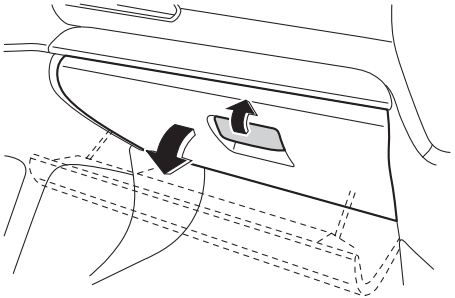
小物入れ

⚠ 注 意

- 走行中はフタやカバーを必ず閉める。
  - 走行中にフタが開いていると、フタに身体が当たったり、物が飛び出すなどして思わぬけがをするおそれがあります。

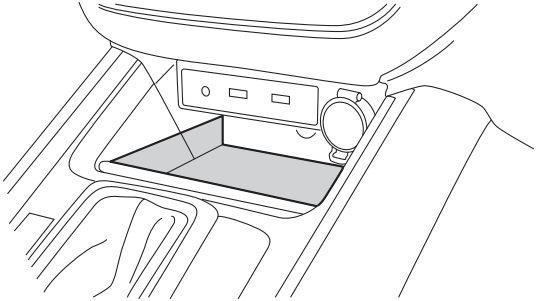
グローブボックス

取っ手を引いて開けます。ランプ類が点灯しているとき、照明が点灯します。



センタートレイ

インストルメントパネル中央下にあります。ランプ類が点灯しているとき、照明が点灯します。

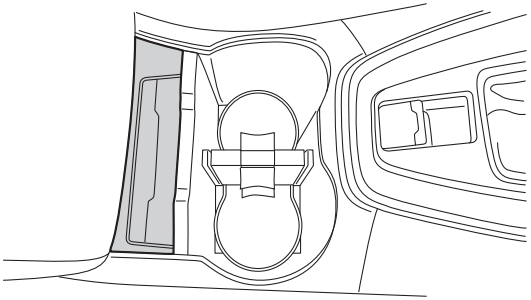


⚠ 注 意

- センタートレイ内に転がりやすい物などを入れない。
  - 走行中トレイ内の物が飛び出すなどして思わぬけがをするおそれがあります。

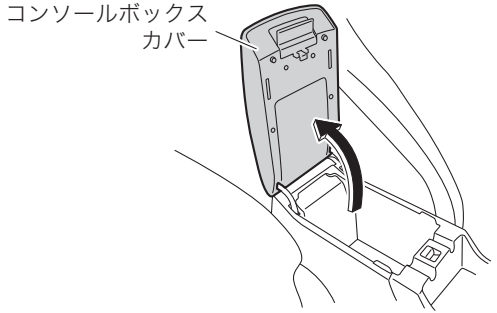
センターコンソールトレイ

センターコンソール後側にあります。



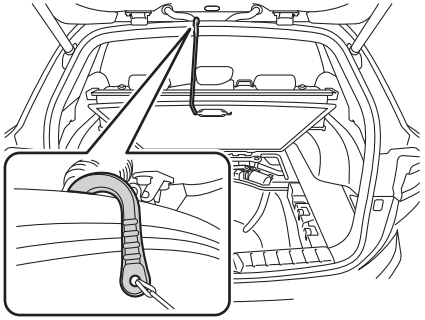
コンソールボックス

コンソールボックスカバーを引き上げるとコンソールボックスを使用できます。



サブトランク

カーゴルームのリッド（フタ）を開けると、荷物などを収納できます。カーゴルームのリッド（フタ）を開けたままにしておきたいときは、裏側にあるフックをリヤゲート開口部の上側（ロープ取り付け位置の真上）にしっかりと引っかけます。
フックがかかりにくい場合は、フックをかける部分を乾いた布でよく拭き取ってください。



トノカバーを取り外したときは、サブトランク内に収納できます。
☞P.520参照

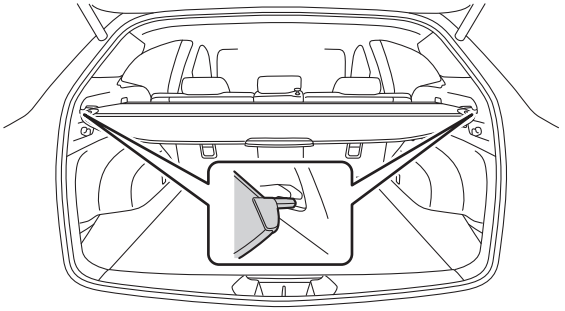
⚠ 注 意

- カーゴルームのリッド（フタ）を戻すときは、先にフックを元の位置に収納する。
  – リヤゲートに挟まると破損するおそれがあります。

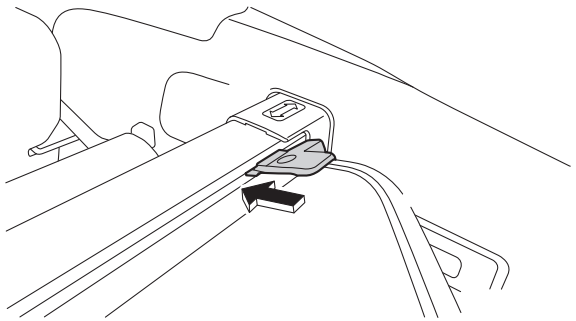
トノカバー

使用するときには

トノカバー中央部を持ち、一度斜め上に持ち上げてからゆっくりとフックの手前まで引き、下げるようにして両側のフックに引っかけます。



戻すときは中央部を持ち、一度手前に引いたまま持ち上げるようにしてフックから外し、ゆっくりと巻き戻します。
引くときと同様に一度斜め上に持ち上げて確実にはめ込みます。

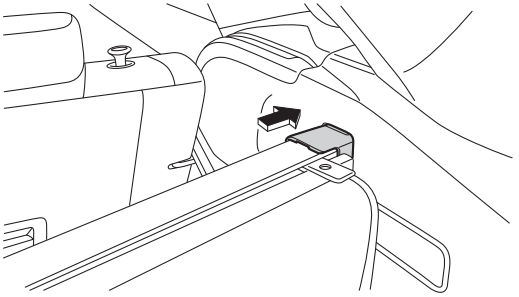


⚠ 注 意

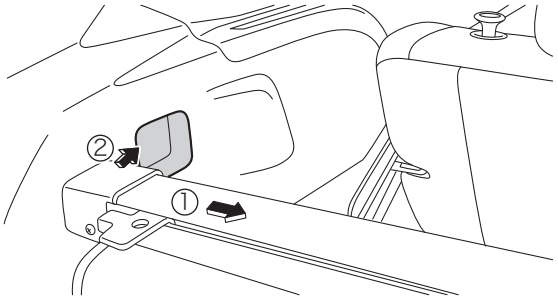
- トノカバーの上に物をのせない。
  - トノカバーが損傷したり、物が落下して思わぬけがをするおそれがあります。

取り付けるには

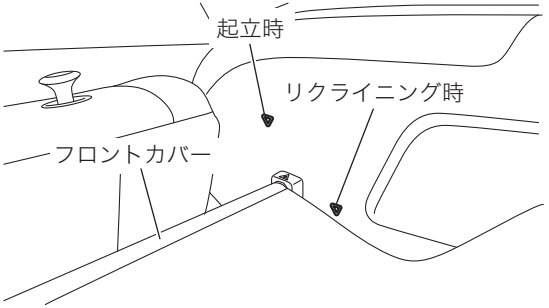
1. トノカバーの右端を凹みに差し込みます。



2. トノカバーのケースをしっかり持ち、右方向に押し込みながら、左端を凹みに固定して取り付けます。



3. フロントカバーをリヤシートの後ろ側に固定します。
フロントカバーの右端を▼マークに合わせて固定し、右方に押し込みながら左端を固定します。
固定位置は2か所あります。
リヤシートを後ろへリクライニングして使用するときは後ろ側、リクライニングしないときは前側で固定します。



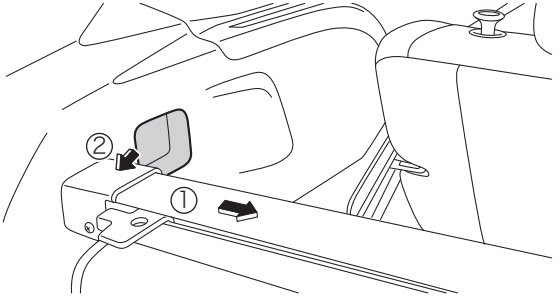
⚠ 注 意

- フロントカバーの固定位置の変更は、走行前に行う。
- フロントカバーを前側に固定したままリヤシートを後ろへリクライニングしない。

ー トノカバーが損傷するおそれがあります。

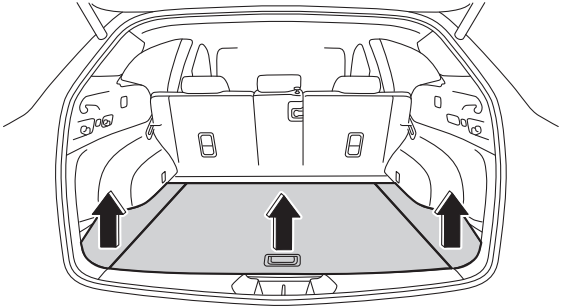
取り外すには

トノカバーを巻き戻した状態で行います。
フロントカバーを右方向に押し込み、左端から取り外します。
トノカバーのケースをしっかり持ち、右方向に押し込み、左端から取り外します。

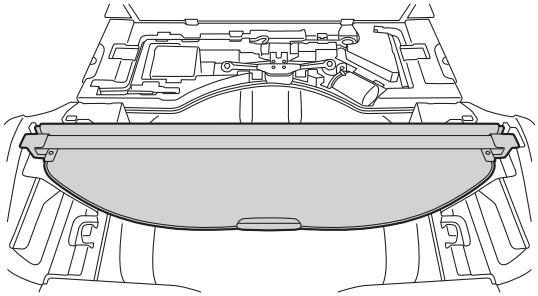


収納するには

1. カーゴルームのリッド（フタ）を開けます。

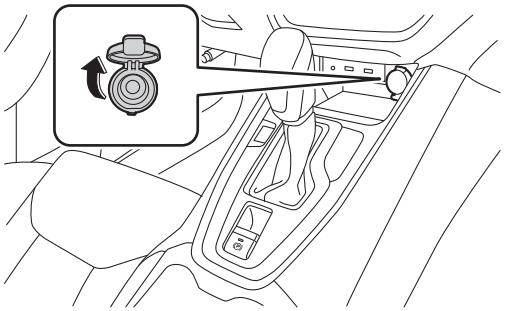


2. フロントカバーを巻き取り、トノカバー全体を図のように収納します。



電源ソケット

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき12 V直流電源が取り出せます。
自動車用電気製品の電源ソケットとしてご使用ください。



⚠ 注 意

ご使用の際は、次のことをお守りください。

- 電気製品は必ず12 V-120 W以下のものを使用する。
- 電源ソケットから電源を取るときは、スバル純正品の使用をお奨めします。
- タコ足配線はしない。
  - 発火することがあります。
- 銀紙、コインなどの金属や異物を入れない。
- 電源ソケットに合ったプラグを使用する。
  - プラグが合わないと、接触不良やプラグが抜けなくなる原因となります。

⚠ 注 意

- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用しない。
  ー バッテリー上がりの原因となります。

知 識

アイドリングストップからエンジンが再始動すると電圧が低下し、電装品の電源が一時的にOFFになることがあります。

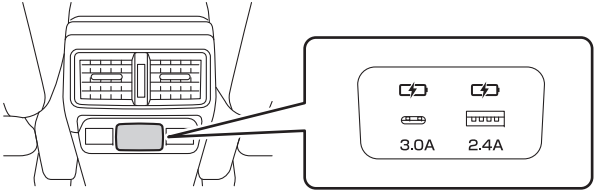
USB & AUX

USB & AUX（前席用）

データの読み込み、充電が行えます。
☞P.539参照

USB電源（後席用）

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき5 V直流電源が取り出せます。USB電源による動作／充電に対応したモバイル機器、電気製品への電源供給用途としてご使用ください。
Type-A形状とType-C形状があります。



⚠ 注 意

USB電源を使用するときは次のことをお守りください。
感電または故障の原因につながるおそれがあります。

- Typeの異なるUSB端子を使用しない。

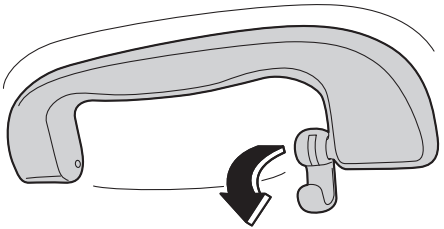
⚠ 注 意

– 動作不良、または故障の原因になります。

- 使用前に、使用機器の取扱説明書などをよく確認する。
  – 最大定格5 V／2.4 A（Type-A）、5 V／3.0 A（Type-C）出力を前提としています。
  – 最大定格を超える電力を要求する機器を接続した場合、保護機能が働くため動作／充電できないことがあります。
  – 機器の種類や使用状況によっては、故障したり、データが破損や損失するおそれがあります。
- 必ず使用機器の専用のケーブルを使用する。
  – 機器専用ケーブル以外では、動作／充電ができない場合があります。
- 機器によっては動作／充電できないことがある。
- 充電完了後はすみやかに接続機器を取り外す。
- USBハブは接続しない。
- USB端子内に金属類、異物を差し込んだりしない。
- 水などの液体をかけない。
- 接続したケーブルに足をとられないように注意する。
  – 転倒するなど思わぬけがをしたり、機器が故障するおそれがあります。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用しない。
  – バッテリー上がりの原因となります。
- 故障した機器を接続しない。
  – 発煙、発火の原因となります。

アシストグリップ（回転式）

走行中、シートに座っている状態で身体を支えるときに使用します。
リヤシート左右のアシストグリップにはコートフックがあります。



⚠ 警 告

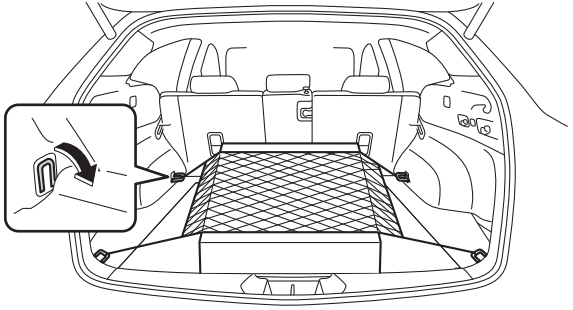
- コートフックにハンガーや鋭利な物をかけない。
  – SRSカーテンエアバッグが作動したときにこれらの物が飛び、重大な傷害につながるおそれがあります。
  服をかけるときはハンガーを使わず、服をそのままコートフックにかけてください。
- アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しない。

⚠ 注 意

- 重いものや大きなものをアシストグリップやコートフックにかけない。
  - アシストグリップやコートフックが折れたり、走行中に外れたりすることがあります。
    最大荷重：約5 kg（コートフック）

カーゴフック

カーゴルームに4か所取り付けてあります。
カーゴルームネットなどを引っかけるときに使用します。

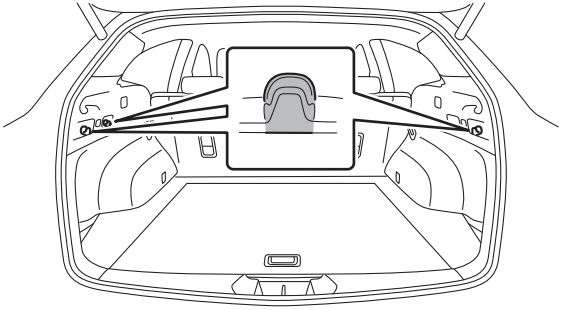


⚠ 注 意

カーゴフックを使うときは、カーゴルームネットなど軽量物の固定、引っかけの用途だけに使用してください。
許容引っ張り荷重：50 kg

買い物フック

カーゴルームの左右に付いています。
買い物袋などが転がらないようにするときに使用します。
袋の底を床につけ、手さげ部分をフックに巻き付けて使ってください。



⚠ 注 意

買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに使用してください。
最大荷重：約3 kg

室内の照明

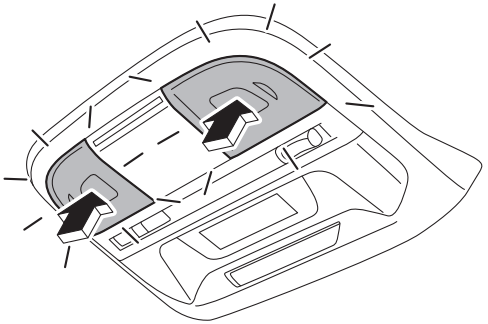
知 識

- お車から離れるときには消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。
- エンジンが停止した状態で、長時間点灯したままにしないでください。

– バッテリー上がりの原因になります。

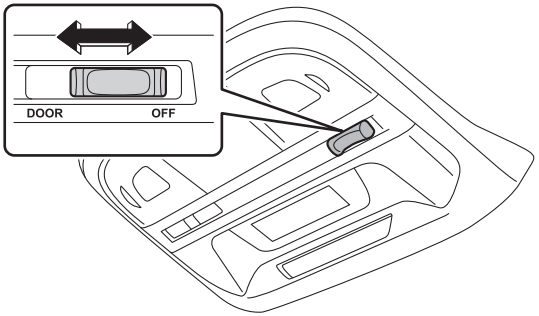
スポットマップランプ

車内の天井前側（前席上部）にあります。
スポットマップランプの外側を押すとランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。
夜間にお車を止めて地図を見るときなどに便利です。



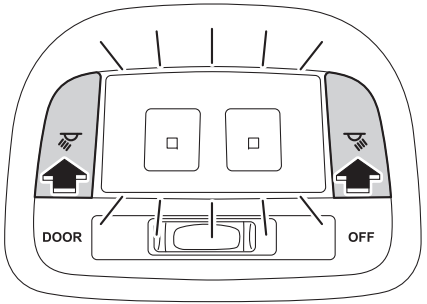
ドア連動切り替えスイッチ

スイッチの位置により切り替えができます。
DOOR：
ドア開閉などに連動して自動的に点灯します。
☞**P.529**参照
OFF：
自動点灯はしません。



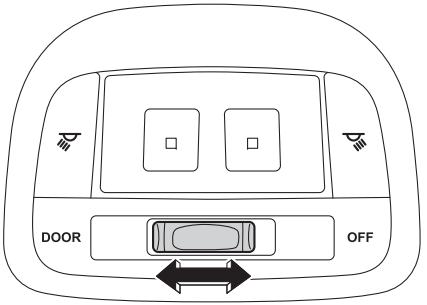
後席スポットマップランプ

スイッチを押すとランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。



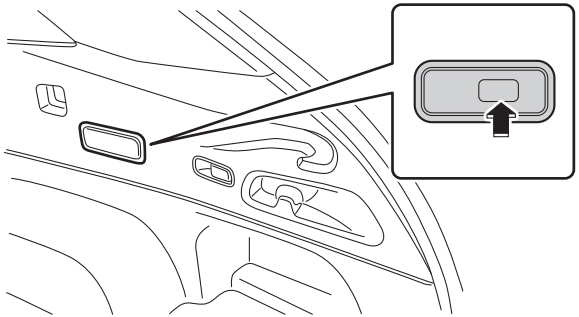
ドア連動切り替えスイッチ

スイッチの位置により切り替えができます。
DOOR：
ドア開閉などに連動して自動的に点灯します。
☞**P.529**参照
OFF：
自動点灯はしません。



カーゴルームランプ

カーゴルームランプの後ろ側を押してスイッチを切り替えます。
押すごとにOFFとONが切り替わります。
OFF：
常に消灯します。
ON：
リヤゲートを開けると点灯し、閉めると一定時間経過後、消灯します。



ドア連動点灯

知 識

室内灯のドア連動を作動なしに設定できます。また、消灯時間を10秒／20秒に設定できます。
☞P.125参照

スポットマップランプ、後席スポットマップランプ

スイッチをDOOR位置にしているとき、次の操作を行うといったん点灯し、約30秒後に徐々に消えていきます。
- プッシュエンジンスイッチをONからOFFにする
- いずれかのドア（スポットマップランプはリヤゲート除く）を開けて閉める
- キーレスアクセス機能、キーのボタン、暗証コード式キーレスエントリーで解錠する
- 施錠時、アクセスキーを携帯し車両に近づく

次の場合、約30秒経過する前に消灯します。
- プッシュエンジンスイッチをACCまたはONにしたとき
- キーレスアクセス機能、キーのボタンで施錠したとき
- パワーリヤゲートロックスイッチで施錠したとき（パワーリヤゲート装備車）

知 識

パワーリヤゲートロックスイッチで施錠したときは、施錠時にスポットマップランプ、リヤゲートが閉まったときに後席スポットマップランプが消灯します。

カーゴルームランプ

スイッチをONにしているとき、リヤゲートを開けると点灯し、閉めると約30秒後に徐々に消えていきます。

次の場合、約30秒経過する前に消灯します。
- プッシュエンジンスイッチをACCまたはONにしたとき
- キーレスアクセス機能、キーのボタンで施錠したとき
- パワーリヤゲートロックスイッチで施錠したとき（パワーリヤゲート装備車）

知 識

パワーリヤゲートロックスイッチで施錠したときは、リヤゲートが閉まったときに消灯します。

バッテリー上がり防止機能

プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから約20分経過すると、スイッチを操作しても室内灯は点灯しなくなります。点灯していた場合は、自動的に消灯します。
プッシュエンジンスイッチをOFFにしてからドアを開閉したり、解錠などの操作をしたりすると、操作をしてから約20分後に点灯しなくなります。
ドアを開閉したり、解錠などの操作をしたりすると復帰します。

⚠ 注 意

- バッテリー上がり防止機能に頼った使いかたをしない。
  - バッテリー上がりを完全に防ぐ機能ではありません。
  - バッテリー上がりの原因となります。

知 識

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき、この機能は作動しません。

アンビエント照明

ランプ類が点灯しているときに点灯します。

知 識

アンビエント照明をOFFに設定できます。
☞P.125参照

7. ナビゲーションシステム・SUBARU STARLINK

ナビゲーションシステムをお使いいただく上で
使用上のご注意 …… 533
安全のために …… 536

基本操作
ナビゲーションシステムの基本操作 …… 537

設定
Bluetooth® の設定 …… 547
ドライバープロフィールの設定 …… 555
全般の設定 …… 557
サウンドの設定 …… 559

ハンズフリー
ハンズフリー（Bluetooth携帯電話を使ったハンズフリーシステム）
…… 561

アプリ
アプリをお使いになる前に …… 574
Apple CarPlay …… 577
Android Auto …… 579

オーディオ
オーディオの基本操作 …… 581
AM／FMラジオ …… 585
CD（ディーラーオプション） …… 587
DVD（ディーラーオプション） …… 588
USBメモリー …… 593
iPod/iPhone …… 595
Bluetoothオーディオ …… 598
AUX …… 601
Apple CarPlay …… 603
Android Auto …… 605
テレビ …… 607
ステアリングスイッチ …… 613
オーディオ操作情報 …… 615

ナビゲーション
地図画面の操作 …… 626
地図画面に表示される情報 …… 630
目的地を探す …… 634
ルートを設定する …… 641
ルート案内画面 …… 643
メニュー画面 …… 647
メモリ地点 …… 648
ルートを変更する …… 651
VICS …… 654
ETC（ディーラーオプション） …… 659
ナビゲーションの設定 …… 664
GPS（GLOBAL POSITIONING SYSTEM）について … 669
地図データについて …… 671

SUBARU STARLINKコネクティッドサービス
SUBARU STARLINK コネクティッドサービスについて …… 676
基本機能 …… 677
ご利用について …… 678
つながる安心ベーシック …… 680
つながる安心プレミアム …… 681
リモートサービス＋ …… 684
車内Wi-Fi （SUBARU クルマ de ネット） …… 687
オープンソースソフトウェア情報 …… 687
おことわり …… 687

音声操作システム
音声操作システムの操作 ····· 688
ご参考に
商標・著作権 ····· 694
オープンソースを適用したソースコード入手について ··· 702
VICS情報有料放送サービス契約約款 ····· 702

ナビゲーションシステムをお使いいただく上で

使用上のご注意

操作する前に使用上のご注意をよくお読みください。

運転を開始する前に画面内の自車位置が正しい位置にあることを確認してください。
正しい自車位置にないまま走行を開始すると、現在地表示が実際の車両の位置と異なることがあります。

本章で説明している仕様や画面は、仕様変更やソフトウェアの更新などによりお車と一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。

⚠ 警 告

- センターインフォメーションディスプレイを分解したり改造して使用しないでください。事故、火災、感電の原因となります。
- 実際の交通規則に従って走行してください。ナビゲーションによるルート案内のみに従って走行すると、実際の交通規則に違反する可能性があり、交通事故の原因となります。
- 運転者は走行中にセンターインフォメーションディスプレイを操作したり画面を注視しないでください。必ず安全な場所に停車してから操作してください。交通事故の原因となります。
- 運転者は走行中にテレビやビデオを見ないでください。前方不注意となり事故の原因となります。テレビやビデオは安全のため、走行中は表示されません。テレビやビデオを見るときは、必ず安全な場所に停車してご覧ください。

⚠ 警 告

- 運転者は走行中に携帯電話（スマートフォン）を操作しないでください。交通事故の原因となります。
- 画面が表示されない、音が出ないなどの異常が発生した場合は、センターインフォメーションディスプレイを使用しないでください。事故、火災、感電の原因となります。
- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量（アンペア数）のヒューズを使用してください。規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。
- センターインフォメーションディスプレイに水がかかったり異物が入ると、煙が出たり異臭がすることがあります。そのような異常が発生した場合は、直ちに使用を中止し、SUBARU販売店にご相談ください。そのまま使用し続けると、事故、火災、感電の原因となります。
- 雷が鳴りだしたらアンテナ線やセンターインフォメーションディスプレイに触れないでください。落雷により感電の危険性があります。
- 直射日光が車室内に入るとセンターインフォメーションディスプレイに反射してまぶしく感じることがあります。走行に十分ご注意ください。
- 運転者は走行中にヘッドホンやイヤホンを使用しないでください。車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となります。

⚠ 注 意

- お車のバッテリー上がりを防ぐために、センターインフォメーションディスプレイはエンジンをかけた状態でご使用ください。
- 運転中は、安全運転の妨げにならない音量に設定してください。車外の音が聞こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。
- 電源をONにするときは、音量に注意してください。電源をONにしたときに突然大きな音が出ると、聴力障害などの原因となることがあります。
- センターインフォメーションディスプレイに強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 音声が割れる、ゆがむなどの異常が発生した場合は、センターインフォメーションディスプレイを使用しないでください。火災の原因となります。
- 極端な高温や低温でのご使用は誤作動や故障の原因となります。特に夏季は車室内が高温になることがありますので、ドアガラスを開けるなどして温度を下げてからご使用ください。
- 画面スイッチ内側に結露が発生した場合、正しく動作しないことがあります。その場合は、結露が消えるまで画面スイッチを操作しないでください。
- ディスプレイに飲み物などをこぼしたときは、すぐに拭き取ってください。このまま放置しておくと、故障の原因となります。

⚠ 注 意

- ディスプレイには、指紋の跡が残ったりほこりなどが付着しやすい性質があるため、ときどき清掃してください。清掃するときは、電源を切り、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどい場合、中性洗剤にひたした布をよく絞ってから拭き取ってください。濡れた布や有機溶剤（ベンジン、エタノール、シンナーなど）、酸性やアルカリ性洗剤は使用しないでください。画面が変質したり、塗装がはげることがあります。また、硬い物で画面をたたいたりこすったりしないでください。

知 識

- 地図データの使用によるお客様や他の人々への損害に対して株式会社ＳＵＢＡＲＵは責任を負いかねます。
- 地図データの表示や内容に誤りがあったことによる交換や返品はお受け致しかねます。
- 地図データに含まれる機能は、お客様の目的を達成するために適していることを保証するものではありません。
- 安全のため、走行中は画面スイッチが暗くなり操作できなくなる機能があります。
- 機器やメディアが接続されていない場合は、画面スイッチが暗くなり、操作できません。
- 購入後、はじめて使用する場合やお車のバッテリーを長期間接続していなかった場合、自車位置が正しく表示されないことがあります。その場合、GPSが正しい位置を測位するまでしばらくお待ちください。

知 識

- センターインフォメーションディスプレイは精密機器のため、記録されたデータが静電気、電気的ノイズ、振動などにより消去されることがあります。購入後に記録したデータを別で保管することをお奨めします。
- 強力な電気的ノイズを発生する電気機器をセンターインフォメーションディスプレイの近くで使用すると、その影響で画面が乱れることがあります。その場合、電気機器を遠ざけるか、ご使用を控えてください。
- 気温が低いときや、エンジンをかけた直後は画面が明るく表示されることがあります。これは、LEDの特徴であり、故障ではありません。気温が上がると通常の明るさに戻ります。
- 偏光レンズを使用したサングラスなどを装着すると、画面が暗く見えたり、見えにくくなります。その場合、違う角度から画面を見るか、サングラスを外すか、画質調整画面で調整してください。
- ディスプレイに直射日光が当たると画面が見えにくくなることがあります。
- 液晶画面に保護フィルムを貼り付けないでください。画面スイッチが正常に操作できなくなります。
- 画面スイッチを指以外（爪、手袋を着けたまま、ボールペンなど）で操作すると、正しく動作しないことがあります。
- タップしている場所以外が選択されたり、タップしても反応しないなどセンターインフォメーションディスプレイが正常に動作しないときは、他の指や手の一部が画面に触れていないか確認してください。
- システムパネル表面上の傷は目立ちやすいため丁寧に取り扱ってください。

知 識

- 無線通信を使用する機器を車内に設置すると、Bluetooth機器、ラジオ放送受信機、ナビゲーションなどの無線通信を使用する機能が正常に動作しないことがあります。

お車を手放すときは

車両に登録されている情報は、個人情報を含んでいることがあります。お車を手放すときは、必ず登録した情報を削除してください（工場出荷状態に初期化）。

☞P.557参照

ただし、初期化だけでは個人情報を完全に消去できません。個人情報の完全な消去はSUBARU販売店にご相談ください。

安全のために

安全にお使いいただくために、次の内容に従ってください。

センターインフォメーションディスプレイは、目的地に到着するまでのサポートをするものです。運転者には、安全運転をして乗員の安全を守る全責任があります。

安全運転を妨げるような使いかたはしないでください。運転中は常に、交通規則に従って安全運転を心がけてください。

使用する前に本書をよく読み、使用方法を理解してください。使用方法を理解していない人に使わせないでください。

⚠ 警 告

- 安全のため、運転者は走行中にセンターインフォメーションディスプレイを操作しないでください。道路状況や交通状況に十分注意しないと交通事故の原因となります。

⚠ 警 告

- 運転中は交通規則に従い、常に道路状況に注意してください。道路上の交通標識が変更されている場合、一方通行指示などの最新情報がルート案内に反映されない場合があります。

運転中は、音声案内に従い、安全な状況でのみ少しの間だけ画面を見るようにしてください。ただし、音声案内にすべてを頼るのではなく、あくまでも参考としてください。正常に自車位置を特定できない場合、音声案内が誤っていたり、遅れたり、音声案内されないことがあります。

センターインフォメーションディスプレイ内のデータは不完全な場合があります。運転規制（左折禁止や通行止め）などの道路状況は頻繁に変更されます。そのため、指示に従う前に、指示の内容が安全かつ合法であるか確認してください。

基本操作

ナビゲーションシステムの基本操作

起動画面

⚠ 警 告

エンジン作動中で停車しているときは、安全のため必ず電動パーキングブレーキをかけてください。

1. プッシュエンジンスイッチをACC、またはONにすると、起動画面が表示されセンターインフォメーションディスプレイが起動します。

- 数秒後に、「注意」画面を表示します。

2. [OK]をタップします。

知 識

プッシュエンジンスイッチをOFFにしても、一定時間オーディオなどの操作が可能です。運転席ドアを開けると停止します。
ただし、バッテリーが弱っているときは、プッシュエンジンスイッチOFFと同時に機能を停止します。

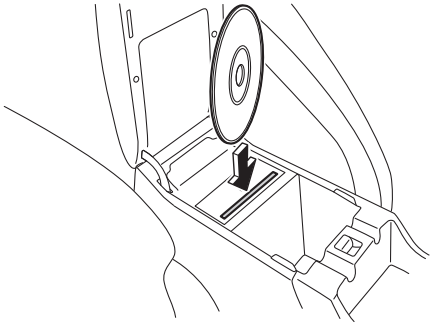
ディスクを入れる／取り出す（ディーラーオプション）

ディスクを入れる

⚠ 注 意

- プレーヤー部を分解したり、油を差したりしないでください。挿入口にはディスク以外のものを挿入しないでください。
- 異物がディスク挿入口に入っていると、ディスクの再生や取り出しができなくなることがあります。無理にディスクを取り出すと、ディスクやプレーヤーが破損するおそれがあります。異物が入った場合やディスクが取り出せない場合は、SUBARU販売店にご相談ください。
- ディスクの挿入口に手や指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

1. 挿入口にディスクを挿入します。



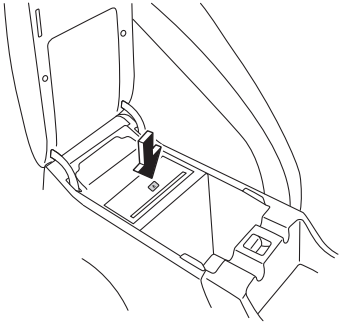
- 挿入後、自動で再生を開始します。

知 識

- 使用できるディスクについては、「DVDプレーヤーとディスクについて」をご確認ください。
☞P.616参照
- ディスク挿入時は、ラベル面を車両前方にして、ゆっくりと差し込んでください。
- 悪路走行などで激しく振動している場合、ディスクを正しく認識できず、正常に動作しないことがあります。振動がおさまってしばらくすると正常な動作に戻ります。
- 気温が低いときにエアコンをつけた直後など、プレーヤーの読み取りレンズに露（水滴）が生じることがあります。その場合、しばらくの間、換気、または除湿してからご使用ください。しばらくしても正常な動作に戻らないときは、SUBARU販売店にご相談ください。

ディスクを取り出す

1. ⏏を押すと、ディスクが排出されます。

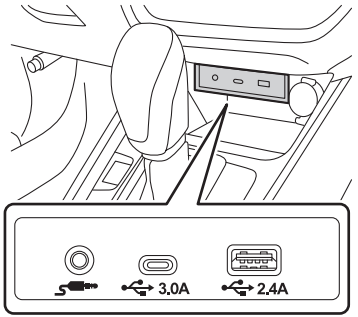


知 識

- プッシュエンジンスイッチがOFFのときでも、ディスクを取り出すことができます。
- ディスクが排出されてから10秒以内にディスクを取り出さなかった場合、ディスクがスロットに自動的に引き込まれます。

USBメモリーやポータブルオーディオ機器を接続する／取り外す

1. 差込口に機器を接続します／取り外します。



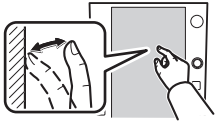
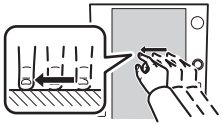
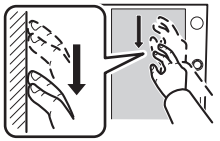
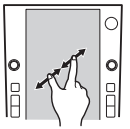
- 機器の電源がONにならないときは、電源を入れてください。

知 識

- 使用できるUSBメモリーについては、「USBメモリーについて」をご確認ください。
☞P.621参照
- 使用できるiPod/iPhoneについては、「iPod/iPhoneについて」をご確認ください。
☞P.622参照
- 市販のUSBハブには対応していません。
- 携帯電話などを接続すると、機器によって充電が開始されます。
☞P.524参照

センターインフォメーションディスプレイの操作

センターインフォメーションディスプレイは、指で直接画面に触れて操作します。

操作方法	操作概要	主な使いかた
	タップ操作： 1回触れて離します。	いろいろな設定を変更したり選択します。
	ロングタップ操作： 画面に触れたまましばらく保持します。	• リストをスクロールします。 • 再生している曲を早送り／早戻しします。
	ドラッグ操作： 画面に触れたまま指を移動します。	• 画面のページをスクロールします。 • 地図画面をスクロールします。
	2本指ドラッグ操作: 2 本の指で画面に触れたまま、指を縦に移動します。	地図画面が3Dヘディングアップ表示のときに、3D の角度を変更します。
	フリック操作： 画面に触れて、指を軽くはじくように払います。	• 画面のページをスクロールします。 • 地図画面をスクロールします。
	ピンチ操作： 画面に触れたまま 2 本の指を広げます(ピンチアウト)。 画面に触れたまま 2 本の指を狭めます(ピンチイン)。	地図画面の縮尺を変更します。

知 識

標高の高い場所では、フリックがスムーズに動かない場合があります。

画面操作について

センターインフォメーションディスプレイは、主に画面内のスイッチで操作します。

画面スイッチをタップしたときに応答音（ビープ音）が鳴ります。応答音（ビープ音）を出力する／しないを設定できます。☞P.559参照

⚠ 注 意

- 画面保護のため、指でタップしてください。
- 指以外の物を使って画面をタップしないでください。
- 画面の汚れは、メガネ拭き用の布などを使って拭き取ってください。ベンジンやアルカリ性溶液などを使用すると画面が損傷するおそれがあります。

知 識

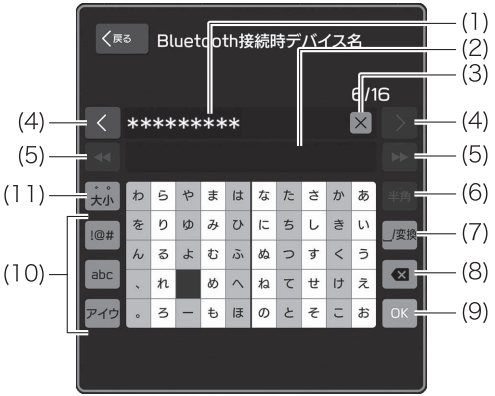
- スイッチが反応しない場合は、一度画面から指を離し再度タップしてください。
- 操作できない画面スイッチは、暗く表示されます。
- 画面が冷えている場合、画面が暗くなったり、再生動画が乱れることがあります。
- 低温時、地図画面が表示されなかったり、入力したデータが消えることがあります。また、画面スイッチの反応が鈍くなることもあります。
- 画面に×が表示されているときは、×をタップするとポップアップウインドウ表示前の画面に戻ることができます。
- 手袋などを着用して画面を操作すると、反応しないなど正常に操作できない場合があります。

文字の入力／リスト画面の操作

文字を入力する

情報を入力する場合、次の画面で文字を入力できます。

＜日本語入力（タイプA）＞



＜日本語入力（タイプB）＞

(1)	入力した文字を表示します。 タイプAのみ：表示部分をタップすることで、カーソルの位置を移動することができます。
(2)	変換候補を表示します。 変換候補をタップして入力します。
(3)	入力した文字を削除します。
(4)	カーソルの位置を移動します。
(5)	変換候補表示をスクロールします。
(6)	全角と半角を切り替えます。
(7)	カーソルの位置に空白を入力します。 • ひらがなの入力中にタップすると、変換候補を表示します（タイプA）。
(8)	タップするごとに、一文字ずつ削除します。
(9)	入力した内容を確定します。
(10)	キーボードを「ひらがな」、「カタカナ」、「アルファベット」、「記号」に切り替えます。
(11)	濁点、半濁点または促音に切り替えます。
(12)	表示されていない変換候補を表示します。

＜英数・記号入力（タイプA）＞

＜英数入力（タイプB）＞

＜記号入力（タイプB）＞

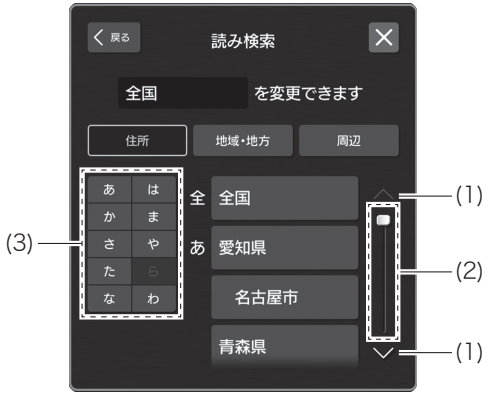
(1)	入力した文字を表示します。 タイプＡのみ：表示部分をタップすることで、カーソルの位置を移動することができます。
(2)	入力した文字を削除します。
(3)	カーソルの位置を移動します。
(4)	タップするごとに、一文字ずつ削除します。
(5)	入力した内容を確定します。
(6)	カーソルの位置に空白を入力します。
(7)	全角と半角を切り替えます。
(8)	キーボードを「ひらがな」、「カタカナ」、「アルファベット」、「記号」に切り替えます。
(9)	大文字と小文字を切り替えます。
(10)	キーボードのページを切り替えます。

知　識

ソフトウェアキーボードが表示される状況により、キーボード画面の意匠が異なったり、入力方法が制限されたりすることがあります。

リスト画面を操作する

リスト画面はドラッグもしくはフリックでスクロールすることができます。
☞P.540参照



(1)	次のページ／前のページに切り替えます。
(2)	表示しているリストの位置を示します。 スクロール：スライダーをスライドすると、リストを素早くスクロールすることができます。 ジャンプ※：スライダーレールの任意の位置をタップすると、タップした位置までリストをジャンプすることができます。
(3)	一部のリスト画面では、ショートカットスイッチが表示されます。例えば［あ］や［あ行］をタップするたびに、「あ→い→う」とリストを切り替えることができます。

※ 一部のリスト画面では操作できません。

画面の調整

明るさを調整する

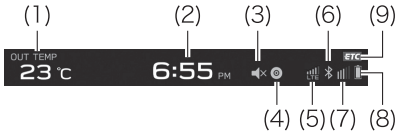
画面の明るさを調整できます。
☞P.126参照

地図画面を昼色と夜色に切り替える

ライティングスイッチの位置、イルミネーションコントロールダイヤル、周囲の明るさによって、地図画面が昼色、または夜色に切り替わります。

ステータスバー

Bluetooth接続状態などを画面に表示します。



(1)	外気温表示
(2)	時計表示 タップすると時計設定画面を表示します。 ☞**P.125**参照
(3)	オーディオ音声がミュート（消音）状態のときに表示します。
(4)※1	ディスクが挿入されているときに表示します。
(5)	SUBARU クルマ de ネット受信レベル表示 SUBARU クルマ de ネット機能がOFFのときは表示されません。 ☞**P.678**、**687**参照
(6)	Bluetooth接続されているときに表示します。
(7)	Bluetooth携帯電話／機器の電波受信レベル表示 Bluetooth 携帯電話／機器が接続されていない場合は表示されません。 受信レベルは、Bluetooth携帯電話／機器に表示されている受信レベルと一致しないことがあります。 Bluetooth携帯電話／機器の機種によっては、受信レベルが表示されないことがあります。
(8)	Bluetooth携帯電話／機器の電池残量表示 電池残量は、Bluetooth携帯電話／機器に表示されている電池残量と一致しないことがあります。
(9)※2	ETCカードが挿入されているときに表示します。

※1: ディーラーオプションのDVDプレーヤー装着時
※2: ディーラーオプションのETC車載器装着時

ホーム画面

ショートカットアイコンを追加する

ホーム画面のショートカット設定がONになっていると、さまざまな機能のショートカットアイコンをホーム画面に追加できます。

☞P.557参照

1. をタップします。
2. [ショートカット]をタップします。
3. 追加したい機能をタップします。
4. 追加したいショートカット機能をタップします。
   - 機能によっては、次の画面に進んで必要な情報を入力します。
5. ホーム画面にショートカットアイコンが表示されていることを確認します。

知 識

- ショートカットアイコンを追加すると、ホーム画面を最大4ページまで使用できます。ページはフリックで切り替えることができます。
- Apple CarPlayやAndroid Autoを使用中、ホーム画面にApple CarPlayやAndroid Autoのショートカットアイコンが表示されます。
  ☞P.577、579参照

ショートカットアイコンを移動する／消去する

ホーム画面のショートカット設定がONになっていると、ホーム画面のスイッチを移動／消去することができます。

☞P.557参照

■ショートカットアイコンを移動する

1. 移動するショートカットアイコンをロングタップして、編集モードに切り替えます。
2. 移動する位置にスライドします。
   - ショートカットアイコンを他のページに移動するときは、移動先のページ側の端にスライドします。
3. をタップして編集モードを終了します。

■ショートカットアイコンを消去する

1. 消去するショートカットアイコンをロングタップして、編集モードに切り替えます。
2. 消去するショートカットアイコンを「ショートカット削除」表示部にスライドします。
3. をタップして編集モードを終了します。

設定

Bluetooth® の設定

Bluetooth携帯電話／機器をはじめて登録する

ハンズフリー機能またはBluetoothオーディオを使用するには、まずBluetooth携帯電話／機器を登録する必要があります。

☞P.549参照

- 一度携帯電話／機器を登録すると、ハンズフリー機能やBluetoothオーディオ、Apple CarPlay対応機器の場合はApple CarPlayを使用できます。
- 走行中は登録操作をすることはできません。

1. Bluetooth携帯電話／機器をBluetooth接続可能な状態にします。
   - Bluetooth携帯電話／機器のBluetooth接続設定がOFFの場合、登録することはできません。
2. をタップします。
3. 「Bluetooth携帯電話／機器を登録する」の手順2.～6.に従って操作します。

☞P.549参照

対応プロファイル

使用できるBluetoothの仕様およびプロファイルは次のとおりです。

機器の種類	仕様	機能	必須条件	推奨条件
Bluetooth携帯電話／機器	Bluetooth Specification	Bluetooth携帯電話／機器の登録	Ver. 2.1	Ver. 5.0

機器の種類	プロファイル	機能	必須条件	推奨条件
Bluetooth携帯電話	HFP (Hands-Free Profile)	ハンズフリー機能	Ver. 1.0	Ver. 1.8
	PBAP (Phone Book Access Profile)	電話帳の転送	Ver. 1.0	Ver. 1.2.3
	MAP (Message Access Profile)	Bluetooth 携帯電話のメッセージ機能	—	Ver. 1.4.2
	SPP (Serial Port Profile)	アプリ機能	—	Ver. 1.2
Bluetooth機器	A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)	Bluetoothオーディオ機能	Ver. 1.0	Ver. 1.3.2
	AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile)		Ver. 1.0	Ver. 1.6.2

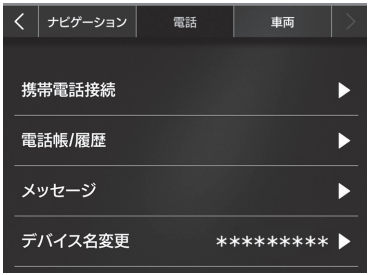
知 識

- HFPに対応していないBluetooth携帯電話は、Bluetooth携帯電話の登録やPBAP／MAP／SPPのみのサービスを利用できません。
- Bluetooth携帯電話／機器の仕様やプロファイルが推奨条件より低い、または互換性がない場合は、正しく動作しないことがあります。
- アプリケーションがスムーズに動作しないなど、動作が不安定なときは、Bluetooth携帯電話／機器とのBluetooth接続を切断、またはUSBケーブルを取り外して再接続してください。改善されないときは、Bluetooth携帯電話／機器を再起動してください。
  - Bluetooth接続の切断
    ☞**P.551**参照
  - USBケーブルの取り外し
    ☞**P.539**参照

Bluetooth携帯電話／機器の設定

1. ⌂をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [電話]をタップします。
4. 設定する項目をタップします。

電話設定画面



(1)	Bluetooth携帯電話／機器の登録 ☞**P.549**参照
	Bluetooth携帯電話／機器の接続または切断 ☞**P.551**参照
	Bluetooth携帯電話／機器の消去 ☞**P.553**参照
(2)	電話帳／履歴のダウンロード設定 ☞**P.554**参照
	電話帳表示の並べ替え ☞**P.565**参照
	お気に入りリストの消去 ☞**P.566**参照
(3)	メッセージ機能の設定 ☞**P.555**参照
(4)	Bluetooth携帯電話／機器に表示される名称の変更

Bluetooth携帯電話／機器を登録する

Bluetooth携帯電話／機器は、7台まで登録できます。
ハンズフリー機能（HFP）とBluetoothオーディオ機能（AVP）は、同時に登録されます。

走行中は登録することができません。

1. をタップします。
2. [登録]をタップします。
   - メッセージが表示された場合は、画面の指示に従ってください。

3. 画面に表示される指示に従って、Bluetooth携帯電話／機器を操作します。

- 〈／〉: 携帯電話操作指示がスクロールします。
- [中止]：登録を中止します。
- Bluetooth携帯電話／機器側の操作は、Bluetooth携帯電話／機器の取扱説明書をご覧ください。

4. 登録したいBluetooth携帯電話／機器を操作してBluetooth登録します。

- SSP（Secure Simple Pairing）に対応しているBluetooth携帯電話／機器の場合、PINコードを入力する必要はありません。ただし、Bluetooth携帯電話／機器の種類によっては、登録確認メッセージが表示される場合があります。確認メッセージに従って操作してください。

知 識

Bluetooth携帯電話／機器の登録を消去した後に再び登録するときは、Bluetooth携帯電話／機器内の情報を削除してから登録してください。

5. 次の画面が表示されることを確認します。

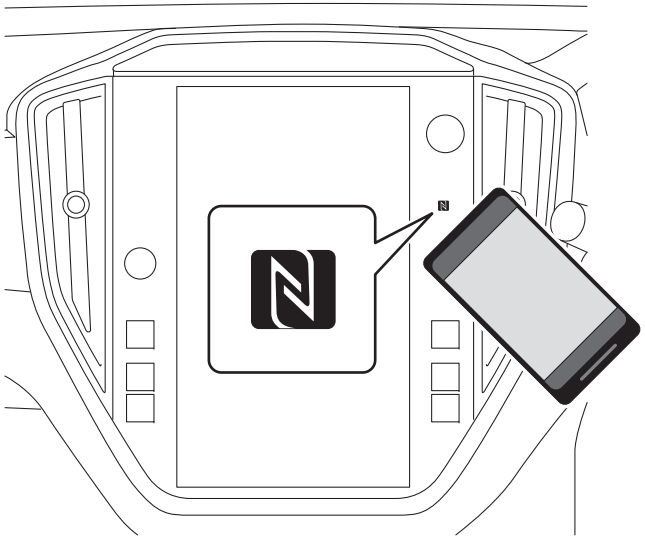
- [中止]：登録を中止します。
- 携帯電話の電話帳データを転送するかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。

6. 接続された機器の名称が表示されることを確認します。

- エラーメッセージが表示された場合は、画面に従って再度操作してください。

知 識

NFCに対応しているBluetooth携帯電話／機器は、NFCマークに近づけることで登録が完了します。



Bluetooth携帯電話／機器を接続する／切断する

Bluetooth携帯電話／機器（HFP対応のBluetooth携帯電話やAVP対応のポータブルオーディオ機器）は7台まで登録できます。

2台以上のBluetooth携帯電話／機器を登録している場合、接続するBluetooth携帯電話／機器を選択してください。

1. をタップします。
2. 接続、または切断するBluetooth携帯電話／機器をタップします。

- Bluetooth携帯電話／機器の名前の左にある☆をタップすると、☆(黄色）に変わり、タップした機器がお気に入りとして登録され、リストの一番上に移動します。
  お気に入りに登録した機器はプッシュエンジンスイッチをACCまたはONにすると自動で接続されます。

☞P.553参照

- 接続中のBluetooth携帯電話／機器は青色の枠で表示されます。また、Bluetooth携帯電話／機器の名前の右に使用中の機能がアイコンで表示されます。
- 接続したいBluetooth携帯電話／機器がリストに表示されていない場合、[登録]をタップしてBluetooth携帯電話／機器を登録してください。

☞**P.549**参照

3. Bluetooth携帯電話／機器を接続するには「接続設定」の[Bluetooth]をONにします。

- すでに「接続設定」の[Bluetooth]がONの場合、[接続]をONにするとBluetooth携帯電話／機器が接続されます。[接続]をOFFにすると切断します。
- 「接続設定」ではBluetooth携帯電話／機器が接続されているときに使用可能な機能を選択できます。
- 接続失敗のメッセージが表示されたら、画面の案内に従って再度接続してください。

(1)	「接続設定」でONになっている機能の接続／切断
(2)	Bluetooth携帯電話／機器の接続／切断 [Bluetooth]がONの状態で[Apple CarPlay]をONにすると、[Bluetooth]は自動でOFFになります。
(3)※	Apple CarPlayのON／OFF [Apple CarPlay]がONの状態で[Bluetooth]をONにすると、[Apple CarPlay]は自動でOFFになります。
(4)	Android AutoのON／OFF

※ 対象機器を操作して機能を有効にすると表示されます。

知 識

- Bluetoothオーディオ使用中は、Bluetooth携帯電話／機器の接続に時間がかかることがあります。
- Bluetooth携帯電話／機器の機種によっては、Bluetooth携帯電話／機器側の操作が必要になることがあります。
- 次の画面で[携帯電話接続]または[デバイス接続]をタップしても、登録済携帯電話画面が表示されます。
  - 電話画面
    ☞**P.561**参照
  - Bluetoothオーディオ操作画面
    ☞**P.598**参照

自動で接続する

Bluetooth携帯電話／機器を接続可能な場所に置いておく必要があります。

- プッシュエンジンスイッチをACC、またはONにすると、登録したBluetooth携帯電話／機器が近くにあるか検索します。
- 近くにあるBluetooth携帯電話／機器がお気に入りに登録されていれば、自動で接続されます。

☞P.551参照

- お気に入りに登録されているBluetooth携帯電話／機器がない場合、最後に接続されたBluetooth携帯電話／機器に接続します。

手動で接続する

自動接続に失敗したときは、手動で接続してください。
「Bluetooth携帯電話／機器を接続する／切断する」の手順に従って操作してください。

☞P.551参照

通信切断時の再接続について

プッシュエンジンスイッチがACC、またはONのとき、Bluetoothの通信状態によってBluetooth携帯電話／機器の接続が切断された場合、自動で再接続します。

- Bluetooth携帯電話／機器を手動で切断した場合は、手動で再接続してください。

知 識

Bluetooth携帯電話／機器をドライバープロフィールに登録している場合、ドライバープロフィール切り替えの確認メッセージが表示されることがあります。

☞P.556参照

Bluetooth携帯電話／機器の登録を消去する

1. をタップします。
2. [削除]をタップします。
3. 削除したいBluetooth携帯電話／機器の をタップします。
4. 確認メッセージが表示されたら、[実行]をタップします。

知 識

Bluetooth携帯電話／機器を削除しても、Bluetooth携帯電話／機器内の情報は削除されません。Bluetooth携帯電話／機器を操作して情報を削除してください。

電話帳／履歴データのダウンロードを設定する

電話帳／履歴データの自動ダウンロード設定をONにすると、接続されているBluetooth携帯電話の電話帳／履歴データが自動でダウンロードされます。

1. 電話設定画面を表示します。
☞P.549参照
2. [電話帳／履歴]をタップします。
3. 「電話帳／履歴自動ダウンロード」のON／OFFを切り替えます。

知 識

- 接続されたBluetooth携帯電話のプロファイルが電話帳データのダウンロードに対応していないことがあります。詳しくは、SUBARU販売店にお問い合わせください。
- 電話帳の連絡先は、接続されたBluetooth携帯電話1台につき2,000件までダウンロードされます。また電話番号は、連絡先1件につき5つまでダウンロードされます。

知 識

- 電話帳をダウンロードするためには、Bluetooth携帯電話の通知設定を有効にする必要があります。詳しくは、接続されているBluetooth携帯電話の取扱説明書をご覧ください。電話帳がダウンロードされていないと、メッセージ機能が正しく作動しません。
☞P.569参照
- Bluetooth携帯電話から電話帳データをダウンロードしても、Bluetooth携帯電話のお気に入りリストはダウンロードされません。現時点では、Bluetooth携帯電話からのお気に入りリストの転送に対応していません。お気に入りリストに登録するためには、電話帳の連絡先から登録してください。
☞P.566参照

メッセージの設定

1. 電話設定画面を表示します。
☞P.549参照
2. [メッセージ]をタップします。
3. 設定する項目をタップします。

(1)	メッセージを受信したときの通知をON／OFFします。
(2)	メッセージの自動ダウンロード機能をON／OFFします。
(3)	返信用メッセージを編集します。 ☞P.572参照

ドライバープロフィールの設定

ドライバープロフィールを登録すると、使用状況や好みに合わせてカスタマイズされたナビゲーション、ラジオ、サウンドなどの設定内容がドライバーごとに記憶されます。
家族など複数のドライバーで車両を利用する場合、他のドライバーが設定を変更しても、プロフィールを切り替えることで自分が設定した内容を呼び出すことができます。
また、プロフィールにBluetooth携帯電話／機器を登録しておくと、Bluetooth携帯電話／機器が接続されたときに自動でプロフィールを切り替えることができます。

知 識

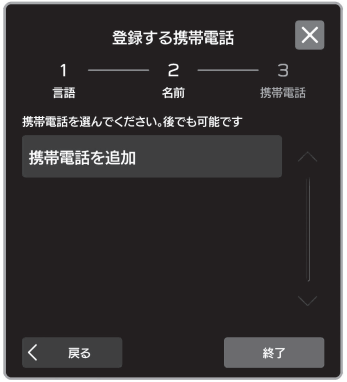
ドライバーごとに記憶されず、共通で記憶される設定もあります。そのため、前に使用したドライバーが変更した設定が残っている場合があります。

ドライバープロフィールを登録する

ドライバープロフィールは4名まで登録できます。

1. をタップします。
2. [追加]をタップします。
3. 言語をタップし、[次へ]をタップします。
4. [ドライバー名]をタップします。
5. ドライバーの名前を入力し、[次へ]をタップします。
6. 表示された名前を確認し、[次へ]をタップします。

7. [携帯電話を追加]をタップします。



- 「Bluetooth携帯電話／機器を登録する」の手順3.～6.に従ってBluetooth携帯電話／機器を登録します。
☞P.549参照
- [終了]：Bluetooth携帯電話／機器を登録しないで終了します。
- すでにBluetooth携帯電話／機器が登録されている場合は、Bluetooth携帯電話／機器を選択します。

8. 登録したBluetooth携帯電話／機器をタップし、[終了]をタップします。

9. ドライバーの名前が表示されることを確認します。

知 識

Bluetooth携帯電話／機器を登録するとプロフィールを自動で切り替えることが可能になります。
☞P.556参照

ドライバープロフィールを切り替える

ドライバープロフィールを自動で切り替える

プロフィールの登録時にBluetooth携帯電話／機器を登録しておくと、Bluetooth携帯電話／機器が接続されたときにプロフィールの切り替えを確認するメッセージが表示されます。[実行]をタップするとプロフィールが切り替わります。

知 識

- プロフィールに登録したBluetooth携帯電話／機器が車内にあっても、別のBluetooth携帯電話／機器が接続中の場合は自動でプロフィールは切り替わりません。手動で切り替えてください。
- 車内に接続可能なBluetooth携帯電話／機器が複数ある場合は、ドライバー以外のプロフィールへの切り替えを確認するメッセージが表示されることがあります。その場合は、[中止]をタップして手動で切り替えてください。

ドライバープロフィールを手動で切り替える

1. をタップします。
2. ドライバーの名前をタップし、[はい]をタップします。

> **知 識**
> プロフィールを手動で切り替えた場合、プロフィールに登録しているBluetooth携帯電話／機器に自動で接続されません。

ドライバープロフィールを編集する

1. をタップします。
2. [編集]をタップします。
3. 編集したいプロフィールをタップします。
4. 「ドライバープロフィールを登録する」の手順3.～8.に従って操作します。

☞P.555参照

ドライバープロフィールを削除する

1. をタップします。
2. [編集]をタップします。
3. 削除したいプロフィールの をタップします。
4. 確認メッセージが表示されたら、[実行]をタップします。

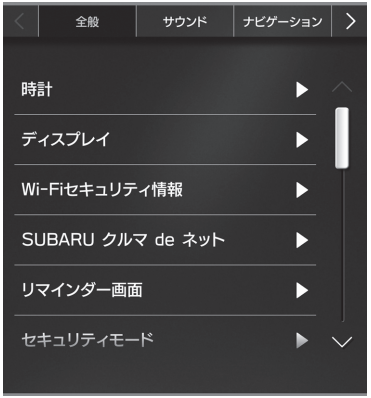
全般の設定

1. をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [全般]をタップします。
4. 設定する項目をタップします。

以下の項目については、「全般」を参照してください。

☞P.126参照

- [時計]
- [ディスプレイ]
- [SUBARU クルマ de ネット]
- [リマインダー画面]
- [セキュリティモード]
- [メーター画面]
- [カメラ]
- [エアコン]
- [言語／Language]
- [ウェルカム画面]
- [グッバイ画面]
- [ウィジェット]
- [誕生日]
- [記念日]



[Wi-Fiセキュリティ情報]※	ワイヤレス Apple CarPlay で使用する Wi-Fi® セキュリティタイプを表示します。
[ショートカット設定]	ホーム画面のショートカット機能をON／OFFします。
[休憩提案]	休憩提案のポップアップウインドウ表示をON／OFFします。
[ソフトウェア更新]	通信モジュール（DCM）を使用してシステムプログラムのバージョンを更新します。 ☞**P.558**参照
[工場出荷状態に初期化]	すべての設定項目を初期化します。初期化すると、自動で再起動します。初期化を完了するには、再起動した後、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから約３分後にACCまたはONにします。

[システム情報]	システムの情報を表示します。
[オープンソースソフトウェア情報]	ソフトウェアの使用許諾、オープンソースの使用許諾を表示します。

※ Apple CarPlayを使用すると表示されます。

システムプログラムを更新する

システムプログラムの更新については、SUBARU販売店にお問い合わせください。

システムプログラムは、通信モジュール（DCM）を使用してお客様が更新することもできます。システムプログラムの更新は、更新プログラムをダウンロードしてインストールします。※

インストール中は、機能が制限されることがありますのでご注意ください。

※ システムプログラムの更新内容によっては、ラジオやテレビのチャンネルプリセットや、音量設定が初期化されることがあります。

更新プログラムのダウンロード

更新プログラムは自動的にダウンロードされます。
ダウンロードが完了すると、インストールを確認するメッセージが表示されます。
☞**P.559**参照

更新プログラムのインストール

⚠ 注 意

- 更新プログラムをインストールするときは、安全な場所に停車してください。
- 更新プログラムのインストール中は、主な機能は使用できません。リヤビューモニターカメラの画像は表示されますが、一時的に非表示になることがあります。

1. インストールを確認するメッセージが表示されたら[実行]をタップします。
   - プログラムの更新には数分かかります。
   - [後で]：インストールを延期できます。

知 識

プログラムの更新中に画面がちらつくことがありますが、故障ではありません。

2. インストールが完了すると表示される確認画面で[OK]をタップします。
3. プッシュエンジンスイッチをOFFにしてお車から降ります。
4. 運転席のドアを閉めてロックし、キーの干渉を防ぐためにお車から3 m以上離れます。
5. 5分以上経過してから再度エンジンをかけます。
   - 新しいプログラムが適用されます。

サウンドの設定

1. ⌂ をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [サウンド]をタップします。
4. 設定する項目をタップします。

(1)	[音設定]：音設定画面を表示します。 ☞P.583参照
	[高音域補完]※：高音域補完のON／OFFを設定します。 高音域補完は、圧縮音源の高音域を補正することで、本来のサウンドにより近いサウンドを実現します。
	[バーチャルバス]※：バーチャルバスを設定します。 バーチャルバスは、低音域を増幅し、より迫力のある重低音を実現します。
	[ダイナミックビートエンハンサー]※:ダイナミックビートエンハンサーを設定します。 ダイナミックビートエンハンサーは、データ圧縮で失われた音域を補正し、メリハリのあるサウンドを実現します。
	[車速連動ボリューム]※:車速連動ボリュームを設定します。 車速連動ボリュームは、車速に応じて再生音量を自動調整します。
	[AUXボリュームゲイン] : AUX接続時の再生音量を調整します。
(2)	ナビゲーション案内音声のON／OFFを設定します。
(3)	ナビゲーションの案内音量を設定します。
(4)	タップしたときの応答音（BEEP音）のON／OFFを設定します。ロングタップしたときの応答音は設定できません。
(5)	タップしたときの応答音(BEEP音)の音量を設定します。
(6)	ハンズフリーの着信音量を設定します。
(7)	ハンズフリーの受話音量を設定します。
(8)	ハンズフリーの送話音量を設定します。
(9)	メッセージの受信音量を設定します。
(10)	メッセージの読み上げ音量を設定します。
(11)	音声操作システムの応答音量を設定します。
(12)	オーディオソースの音量を記憶する／しないを設定します。 記憶すると、プッシュエンジンスイッチをACC、またはONにしたときに、前回使用したオーディオソースの音量で再生されます。

※ 装着されているアンプのタイプによっては設定できません。

ハンズフリー

ハンズフリー（Bluetooth携帯電話を使ったハンズフリーシステム）

ハンズフリー操作画面

ハンズフリー操作画面は、次の方法で表示できます。

- 、[電話]の順にタップします。
- ステアリングスイッチの を押します。

電話の操作	Bluetooth携帯電話の登録 ☞P.549参照
	電話をかける ☞P.564参照
	電話を受ける ☞P.567参照
	通話する ☞P.567参照
メッセージ機能	メッセージ機能を使う ☞P.569参照
電話の設定	Bluetooth携帯電話の設定 ☞P.549参照

知 識

Apple CarPlayやAndroid Autoを使用中はハンズフリー操作画面が表示されず、Apple CarPlayやAndroid Autoの電話のアプリケーション画面が表示されます。

ハンズフリーをお使いになる前に

ハンズフリーシステムを使うと、ハンドルから手を放すことなく、電話をかけたり受けることができます。

このシステムは、Bluetooth通信に対応しています。Bluetoothは、ケーブルやクレードルを使って接続せずに携帯電話を使用できる無線データ通信です。

ここでは、ハンズフリー機能の操作方法を説明します。

⚠ 警 告

- 運転中は、Bluetooth携帯電話本体の操作をしないでください。
- Bluetooth通信用の車両側アンテナはセンターインフォメーションディスプレイに内蔵されています。植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器をお使いの方は、通信アンテナにこれらの医療用電気機器が近づくような姿勢をとらないようにしてください。
- 植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、Bluetooth機器をお使いになる前に、医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。データ通信に伴う電波により、医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注 意

Bluetooth携帯電話を車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。

知 識

- Bluetooth非対応の携帯電話では、ハンズフリー機能を使用できません。また、Bluetooth携帯電話の機種によっては、使用できる機能が制限される場合があります。
- 次のような場合、ハンズフリー機能を使用できないことがあります。
  - Bluetooth携帯電話の電源が入っていない。
  - 通話エリア外にいる。
  - Bluetooth携帯電話が接続されていない。
  - Bluetooth携帯電話の電池残量が不足している。
- ハンズフリー機能と他のBluetooth機能を同時に使用すると、次のような問題が生じる場合があります。
  - Bluetooth接続が途切れる。
  - 通話中の音声にノイズが混じる。
- 通話相手の音声は、フロントスピーカーを通して聞こえます。通話中や音声操作システムを使用しているときは、オーディオ音声がミュート（消音）されます。
- 通話時は、通話相手と交互にお話しください。通話相手と同時に話した場合、こちらの音声が相手に聞こえないことがあります（故障ではありません）。
- 受話音量はできるだけ小さく調整してください。通話相手の音声が車外に漏れたり、エコーが聞こえることがあります。通話の際には、マイクに向かってはっきりとお話しください。
- 次のような場合は、通話相手側にこちらの音声が聞こえにくくなることがあります。
  - 悪路を走行している（走行時に騒音が発生するため）。

知 識

– 高速で走行している。
– ドアガラスを開けて走行している。
– エアコンの吹き出し口から出た風が、直接マイクに当たっている。
– エアコンの送風音が大きい。
– 使用するBluetooth携帯電話やネットワークの影響により、音質が悪化している。

• 一部の機能は音声でも操作できます。
☞**P.688**参照

Bluetooth携帯電話を登録／接続する

ハンズフリー機能を使用するためには、Bluetooth携帯電話を登録する必要があります。
☞**P.549**参照

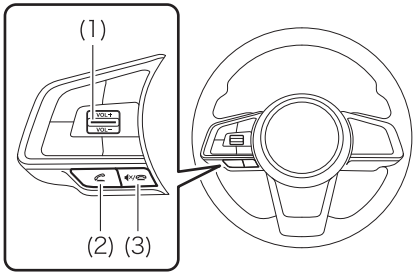
Bluetooth携帯電話の状態表示について

Bluetooth携帯電話の状態を画面右上に表示します。
☞**P.545**参照

ステアリングスイッチとマイクを使用する

■ステアリングスイッチ

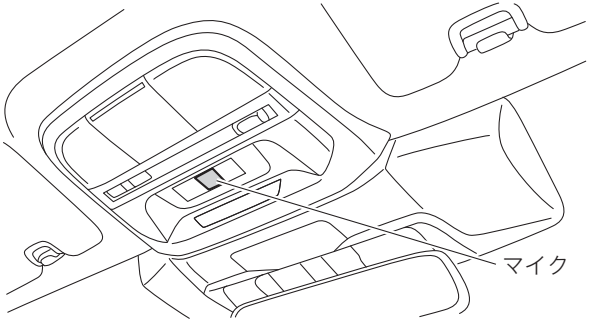
オフフックスイッチ／オンフックスイッチを押すことで、ハンドルから手を放すことなく電話を受けたり通話を終了することができます。



(1) 音量調整スイッチ
  • 上側に押すと、音量が大きくなります。
  • 下側に押すと、音量が小さくなります。
(2) オフフックスイッチ
(3) オンフックスイッチ

■マイク

マイクは、通話するときに使用します。



電話帳データについて

- 次のデータは、登録した電話機ごとに保存されます。他の電話機を接続したときは、表示することはできません。
  - 電話帳データ
  - 通話履歴データ
  - お気に入りデータ
  - すべての電話設定

知 識

電話機の登録が消去されたときは、上記のデータも消去されます。

電話をかける

Bluetooth携帯電話を登録すると、ハンズフリーシステムを使って電話をかけることができます。電話をかけるには次のようにいくつかの方法があります。

1. ハンズフリー操作画面を表示します。

☞P.561参照

2. 電話のかけかたを選択します。

- 通話履歴からかける
☞P.565参照
- お気に入りからかける
☞P.565参照
- ダイヤル入力してかける※
☞P.566参照
- 電話帳からかける
☞P.566参照
- メッセージ送信者にかける
☞P.573参照
- 施設にかける
☞P.639参照
- 音声操作システムでかける
☞P.688参照

※ 走行中は操作できません。

知 識

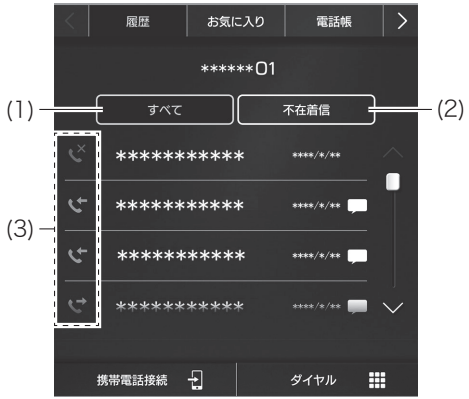
Bluetooth接続したiPhoneを操作してSiriを起動すると、接続したiPhoneの電話番号の通話中画面が表示されます。Siriを使ってiPhoneを操作することができます。

通話履歴から発信する

1. ハンズフリー操作画面を表示します。

☞P.561参照

2. [履歴]をタップし、連絡先をタップします。
   - 発信画面が表示されます。



(1)	通話履歴をすべて表示します。
(2)	不在着信履歴を表示します。
(3)	履歴の種類をアイコンで表示します。 ：不在着信履歴 ：着信履歴 ：発信履歴

知 識

- ステアリングスイッチの を押すと一番上に表示されている連絡先に発信します。
- 電話帳に登録してある電話番号から着信した場合、名称を表示します。
- Bluetooth携帯電話の機種によっては、国際電話が利用できない場合があります。

連絡先の表示順を変更する

連絡先の表示順は、姓または名順に並び替えることができます。

1. 電話設定画面を表示します。

☞P.549参照

2. [電話帳／履歴]をタップします。
3. [並び順]をタップします。
4. 希望の並び順をタップします。

お気に入りから発信する

お気に入りリストに登録した連絡先に発信できます。

お気に入りリストの登録方法は「電話帳から発信する」を参照してください。

☞P.566参照

最大で15個の連絡先をお気に入りリストに登録することができます。

1. 電話画面を表示します。

☞P.561参照

2. [お気に入り]をタップし、連絡先をタップします。

3. 発信したい番号の をタップします。
   - 発信画面が表示されます。

知 識

お気に入りリストは、Bluetooth携帯電話と同期していません。現時点では、Bluetooth携帯電話からのお気に入りリストの転送に対応していません。お気に入りリストに登録するためには、電話帳の連絡先から登録してください。
☞P.566参照

■すべてのお気に入りを削除する

1. 電話設定画面を表示します。

☞P.549参照

2. [電話帳／履歴]をタップします。
3. [お気に入り全削除]をタップし、[実行]をタップします。

ダイヤル発信する

1. 電話画面を表示します。

☞P.561参照

2. [ダイヤル]をタップします。
3. 電話番号を入力し、[発信]をタップします。
   - 発信画面が表示されます。

知 識

接続されたBluetooth携帯電話の機種によっては、追加でBluetooth携帯電話の操作が必要な場合があります。

電話帳から発信する

接続したBluetooth携帯電話からダウンロードした電話帳データを利用して、発信できます。

1. 電話画面を表示します。

☞P.561参照

2. [電話帳]をタップし、連絡先をタップします。
   - ☆をタップすると、☆が★（黄色）に変わり、お気に入りリストに登録されます。

   ☞P.565参照
   - タップするごとに、☆または★（黄色）に切り替わります。
3. 発信したい電話番号の をタップします。
   - 接続したBluetooth携帯電話の電話帳データによって、自宅、職場、携帯、その他に種別して表示されます。
   - 発信画面が表示されます。

知 識

- ダウンロードされた最大2,000件の連絡先が電話帳に表示されます（電話番号は連絡先1件につき5つまで）。
- 「電話帳／履歴自動ダウンロード」をONにすると、Bluetooth携帯電話の電話帳と履歴のデータを自動でダウンロードします。
  ☞P.554参照

電話を受ける

着信画面の操作

着信時には、着信音が鳴り着信中画面を表示します。

1. [応答]をタップ、またはステアリングスイッチの を押すと、通話を開始します。

着信を拒否する：[拒否]をタップ、またはステアリングスイッチの を押します。
着信音量を調整する：VOLUMEノブを回す、またはステアリングスイッチのVOL+/VOL−スイッチを押します。

知 識

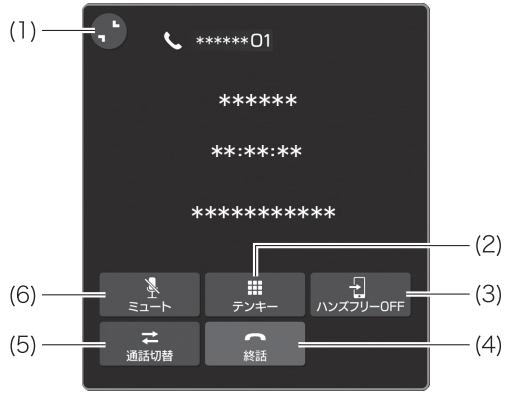
- 国際電話の場合、Bluetooth携帯電話の機種によっては、相手の名称や電話番号が正しく表示されない場合があります。

知 識

- 着信音量はサウンド設定画面からも調整することができます。

通話中の操作

通話中は次の画面を表示します。この画面では、次の内容を操作できます。



(1)	通話中画面の表示サイズを縮小します。
(2)	キーボードを表示して、トーン信号を発信することができます。

(3)	センターインフォメーションディスプレイでのハンズフリー通話からBluetooth携帯電話本体での通話に切り替える場合、[ハンズフリー OFF]をタップします。 Bluetooth 携帯電話本体での通話からセンターインフォメーションディスプレイでのハンズフリー通話に切り替える場合、[ハンズフリー ON]をタップします。
(4)	通話を終了します。
(5)	ステアリングスイッチの を押して通話を保留にしたとき：保留を終了します。
(6)	こちらの音声が通話相手に聞こえないようにします。

知 識

- ステアリングスイッチの を押すと通話を終了します。
- ステアリングスイッチの を押すと通話を保留にします。再度ステアリングスイッチの を押すと保留を終了します。
- Bluetooth携帯電話を直接操作しても、Bluetooth携帯電話本体とハンズフリー通話の切り替えが可能です。
- Bluetooth携帯電話の機種によって、転送方法や操作が異なります。
- Bluetooth携帯電話の操作については、Bluetooth携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
- 通話音量は、VOLUMEノブを回す、またはステアリングスイッチのVOL＋/VOL－スイッチを押して調整します。

通話中に別の機能を使用するとき

をタップすると、通話中画面のサイズが縮小され、他の機能を使用できるようになります。

- をタップすると、通話中画面のサイズが拡大されます。

割込通話の操作

通話中に第三者から着信が入った場合、着信中画面を表示します。

1. [応答]をタップ、またはステアリングスイッチの を押すと、着信相手との通話を開始します。

- 通話していた相手は保留になります。

割込通話を拒否する場合：[拒否]をタップ、またはステアリングスイッチの を押します。ステアリングスイッチの を長押しすると割込通話と元の通話の両方を切断します。

2. 割込通話画面が表示されることを確認します。

- [通話切替]：通話相手を変更します。[通話切替]や通話相手の名前をタップ、またはステアリングスイッチの☎を押すたびに、通話相手が切り替わります。
- [グループ通話]※をタップ、またはステアリングスイッチの☎を長押しすると三者通話を開始します。
- [終話]をタップ、またはステアリングスイッチの☎を押すと、二者で通話しているときは、通話を終了して保留していた相手との通話に戻り、三者で通話しているときは、両者との通話を終了します。
- ステアリングスイッチの☎を長押しするとすべての通話を切断します。

※ 接続されたBluetooth携帯電話会社によっては、この機能は使用できません。

Bluetooth携帯電話のメッセージ機能

Bluetooth携帯電話で受信したメッセージをセンターインフォメーションディスプレイに転送し、メッセージの確認および返信することができます。

接続されたBluetooth携帯電話の機種によっては、受信したメッセージが受信箱に転送されないことがあります。

Bluetooth携帯電話がメッセージ機能に対応していない場合、この機能は使用できません。

接続されたBluetooth携帯電話の機種によっては、画面の表示が異なったり、一部の機能が操作できないことがあります。

この機能を使用するためには、「電話帳／履歴自動ダウンロード」をONにする必要があります。
☞**P.554**参照

知 識

Bluetooth携帯電話の機種によっては、接続されている携帯電話の設定を変更する必要があります（例：iOSなどの場合は、「通知を表示」をONにする必要があります）。詳しくは、接続されているBluetooth携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

1. ハンズフリー操作画面を表示します。

☞**P.561**参照

2. [メッセージ]をタップします。

3. メッセージ画面が表示されることを確認します。

- ✉：未読アイコン
- メッセージを受信する

☞P.570参照

- メッセージを表示する

☞P.571参照

- メッセージに返信する

☞P.572参照

- ショートメッセージを送信する

☞P.572参照

- 送信者に電話をかける

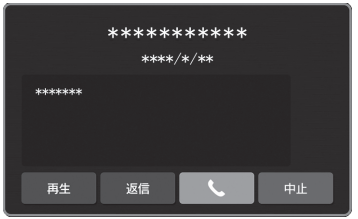
☞P.573参照

メッセージを受信する

SMS／MMSのメッセージを受信すると、通知音が鳴りメッセージ受信画面が表示され、センターインフォメーションディスプレイで操作できるようになります。

1. [再生]をタップします。

- 次の画面が表示され、メッセージを読み上げます。



(1) (2) (3) (4)

(1)	メッセージを読み上げます。 • [停止]をタップすると読み上げを停止します。
(2)※	メッセージに返信します。
(3)	送信者に電話をかけます。
(4)	メッセージの読み上げ画面を終了します。

※ 接続されたBluetooth携帯電話によっては、この機能は使用できません。

- [無視]をタップすると、元の画面に戻ります。

■未読メッセージがある場合

次の画面が表示されます。

- [受信リスト]：メッセージリストを表示します。
- [無視]：元の画面に戻ります。

知 識

メッセージを受信するBluetooth携帯電話や登録状況によっては、一部の情報が表示されないことがあります。

メッセージを表示する

1. メッセージ画面を表示します。

☞P.569参照

2. リストからメッセージをタップします。
3. 表示されたメッセージを確認します。

☞P.570参照

知 識

- 接続されたBluetooth携帯電話の機種によっては、追加でBluetooth携帯電話の操作が必要な場合があります。
- 接続されたBluetooth携帯電話で受信したメッセージのみ表示されます。
- テキストメッセージは、走行中は表示されません。
- メッセージの読み上げ音量は、VOLUMEノブを回す、またはステアリングスイッチのVOL＋/VOL－スイッチを押して調整することができます。

メッセージに返信する※

※ 接続されたBluetooth携帯電話によっては、この機能は使用できません。

1. メッセージ画面を表示します。

☞P.569参照

2. リストからメッセージをタップします。
3. [返信]をタップします。
4. メッセージをタップします。
5. [送信]をタップします。
   - [変更]：メッセージを変更します。
   - [中止]：メッセージの送信を中止します。

知 識
10個の返信用メッセージが用意されています。

ショートメッセージを送信する

1. 通話履歴画面、お気に入り画面または電話帳画面を表示します。

☞P.565、565、566参照

2. 電話番号の横の をタップします。
3. メッセージをタップします。
4. [送信]をタップします。
   - [変更]：メッセージを変更します。
   - [中止]：メッセージの送信を中止します。

返信用メッセージを編集する

■電話設定画面から編集する

1. 電話設定画面を表示します。

☞P.549参照

2. [メッセージ]をタップします。
3. [返信]をタップします。
4. [編集]をタップします。
5. 編集するメッセージをタップします。
6. メッセージを入力して、[OK]をタップします。

■メッセージ画面から編集する

1. メッセージ画面を表示します。

☞P.569参照

2. リストからメッセージをタップします。
3. [返信]をタップします。
4. 編集するメッセージの横の をタップします。
5. メッセージを入力して、[OK]をタップします。

返信用メッセージを削除する

1. 電話設定画面を表示します。

☞P.549参照

2. [メッセージ]をタップします。
3. [返信]をタップします。
4. [編集]をタップします。
5. 削除するメッセージの横の⊗をタップします。

返信用メッセージを追加する

1. 電話設定画面を表示します。

☞P.549参照

2. [メッセージ]をタップします。
3. [返信]をタップします。
4. [追加]をタップします。
5. メッセージを入力して、[OK]をタップします。

送信者に電話をかける

メッセージ送信者に電話をかけることができます。

1. メッセージ画面を表示します。

☞P.569参照

2. 送信者の横の をタップします。
   - 発信画面が表示されます。

アプリ

アプリをお使いになる前に

ここでは、スマートフォン（iPhoneやAndroid端末）を接続してアプリケーションを使用する際の注意事項を説明しています。

⚠ 警 告

- 安全のため、運転者は運転中にスマートフォンを操作しないでください。
- スマートフォンを接続したり、操作する際は、安全な場所に停車してください。

⚠ 注 意

- スマートフォンを車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 接続したスマートフォンに強い力を加えないでください。故障の原因になります。
- スマートフォンをUSBで接続する場合は、USB差込口に異物を入れないでください。故障の原因となります。

知 識

- アプリケーションによっては、安全のため走行中に使用できる機能が制限されます。
- スマートフォンはできるだけセンターインフォメーションディスプレイの近くに置き、運転の妨げにならないように確実に固定してください。

知 識

- スマートフォンをUSBで接続する場合は、スマートフォンに付属の純正ケーブル、または同等のケーブルを使用してください。
- スマートフォンをUSBで接続した場合、プッシュエンジンスイッチがACC、またはONのときには、接続されたスマートフォンが充電されます。
- スマートフォンをUSBで接続する場合、プッシュエンジンスイッチをACC、またはONにしてもスマートフォンを認識しないことがあります。このようなときはスマートフォンを取り外して、接続し直してください。
- スマートフォンまたは接続機器との接続状態によっては、センターインフォメーションディスプレイに表示される情報が異なることがあります。
- スマートフォンの操作については、スマートフォンの取扱説明書をご覧ください。
- スマートフォンのアプリケーションの操作手順に従って操作してください。
- アプリケーションがスムーズに動作しないなど、動作が不安定なときは、スマートフォンとのBluetooth接続を切断、またはUSBケーブルを取り外して再接続してください。改善されないときは、スマートフォンを再起動してください。
  - Bluetooth接続の切断
    ☞P.551参照
  - USBケーブルの取り外し
    ☞P.539参照

知 識

- 一部の機能は音声でも操作できます。
☞P.688参照

アプリを使用するための設定

アプリケーションを使用するためには、アプリケーションをスマートフォンにインストールする必要があります。

- お使いのスマートフォンのOSに合わせて、アプリケーションをダウンロードしてください。
  - iPhone：App Store
  - Android端末：Google Playストア
- ご利用のアプリケーションによっては、アカウントの登録やあらかじめログインしておく必要があります。

知 識

- 最新バージョンのアプリケーションを使用してください。
- Apple CarPlayでは、アプリケーションのインストールは必要ありません。Apple CarPlayの操作の詳細については、「Apple CarPlay」をご覧ください。
☞P.577参照

アプリから提供されるコンテンツについて

アプリケーションのコンテンツサービスを使用するために必要な条件

- アプリケーションの最新バージョンがスマートフォンに対応しており、お使いのスマートフォンにダウンロードされていること。
- アプリケーションの利用には別途通信業者との契約が必要です。
- スマートフォンのデータ通信プランに加入していること。
  お使いのスマートフォンのデータ通信プランによっては、追加で通信費用が発生する場合があります。また、データ通信プランが定額制でない場合、通信費用が高額になる可能性があります（Wi-Fi® 接続を除く）。
- 3G、4G、Wi-Fi®、または4G LTE無線ネットワークを使用したインターネット接続ができること。

知 識

- 製品の仕様変更により、取扱説明書の内容と機能が異なることがあります。
- お使いのスマートフォンのデータ利用制限を超えないように注意してください。制限を超えると、追加で通信費用が発生する場合があります。
- アプリケーションの内容、名称およびサービスは予告なく変更または終了されることがあります。また、次のいずれかによって影響を受けることがあります。
  - スマートフォンのファームウェアのバージョンアップ
  - アプリケーションのバージョンアップ

知 識

- 一部のアプリケーションでは、GPS衛星と無線通信回線からの信号を使用しているため、次のような場所では正常に動作しないことがあります。
  - トンネルの中
  - 地下駐車場
  - 無線通信の範囲外となるような地域
  - 無線通信ネットワークが混雑している場所や、通信が制限されている場所
- 通信環境の悪化により一時的にアプリケーションが利用できなくなる場合があります。
- アプリケーションのダウンロードやサービスコンテンツ利用時にかかる通信料および通話料は利用者の負担となります。
- アプリケーションの使用におけるスマートフォンや、その他の機器のデータ消失については責任を負いかねます。
- アプリケーションのコンテンツの内容については、株式会社ＳＵＢＡＲＵは責任を負いかねます。
- アプリケーションは、スマートフォンやスマートフォンのアプリケーション、基地局側の要因で作動しない場合があります。株式会社ＳＵＢＡＲＵはその点について責任を負いかねます。

アプリケーションの通信規格

ワイヤレスApple CarPlayの接続には、Wi-Fi® 通信を使用します。車両側のWi-Fi® 通信規格は以下のとおりです。

- 対応通信方式：
  - IEEE802.11a
  - IEEE802.11b
  - IEEE802.11g
  - IEEE802.11n
  - IEEE802.11ac
- 対応セキュリティ方式：
  - WPA™
  - WPA2™
  - WPA3™

知 識

- WPA、WPA2およびWPA3は、Wi-Fi Alliance® の登録商標です。
- Wi-Fi® 通信で使用可能な周波数帯は国や地域により異なるため、5 GHzの周波数帯を使用できない場合があります。

アプリ画面を表示する

アプリ画面を表示するためには、⌂、[アプリ]の順にタップします。

Apple CarPlay

Apple CarPlayはApple CarPlay対応機器を接続することで、マップ、ミュージック、電話などの機能を使用することができます。対応しているアプリケーションを使用することもできます。

- サービスや操作の詳細については、Apple CarPlayのサイトで確認してください（https://www.apple.com/jp/ios/carplay/）。

Apple CarPlayアプリケーションを使用するには、Apple CarPlay対応機器を登録して無線で接続してください。
アプリケーションを使用する際は、「アプリをお使いになる前に」に記載している注意事項も併せてご覧ください。
☞P.574参照

⚠ 警 告

- Wi-Fi® 通信用の車両側アンテナはセンターインフォメーションディスプレイに内蔵されています。植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器をお使いの方は、通信アンテナにこれらの医療用電気機器が近づくような姿勢をとらないようにしてください。
- 植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、Wi-Fi® 機器をお使いになる前に、医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。データ通信に伴う電波により、医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

知 識

- Apple CarPlayを使用するためには、Apple CarPlay対応機器の機能制限設定でCarPlayをONにします。

知 識

- 液晶メーターを地図モードに設定しAppleマップでルート案内を開始すると、メーターにもAppleマップを表示できます。
  ☞P.118参照
  表示される地図は操作できません。
  地図表示をナビゲーションシステムの地図に戻すときは、ナビゲーションシステムでルート案内を開始するか、Apple CarPlayを無効にしてください。
  ☞P.578、641参照

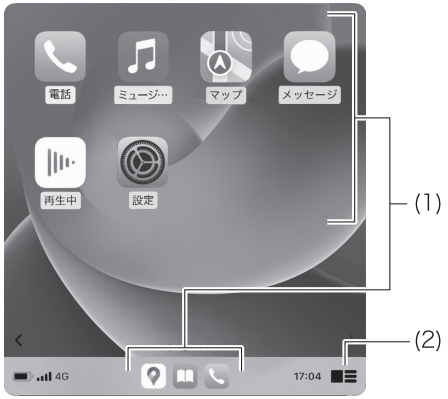
Apple CarPlay対応機器を接続する

1. Apple CarPlay対応機器を接続します。
   ☞P.551参照
2. Apple CarPlayの使用確認メッセージが表示されたら、[はい]をタップします。
   - Apple CarPlay画面が表示されます。
   - [いいえ]をタップすると、Apple CarPlayは起動しません。USB差込口に接続するとiPod/iPhoneとして認識されます。
     ☞P.595参照
     Bluetoothで接続するとBluetoothオーディオとして認識されます。
     ☞P.598参照

操作のしかた

ホーム画面もしくはアプリ画面で[Apple CarPlay]をタップして、Apple CarPlay画面を表示します。
☞P.576参照

<操作画面>※



※ 表示される画面は、接続するApple CarPlay対応機器によって異なります。

(1)	アプリケーションのスイッチを表示します。 タップしてアプリケーションを操作します。
(2)	Apple CarPlayのホーム画面を切り替えます。

対応機器について

iOS 16.3.1以降に対応しています。

Apple CarPlayを有効にする

1. をタップします。
2. 「登録済携帯電話」からApple CarPlayとして接続する機器をタップします。
3. 「接続設定」で[Apple CarPlay]をタップしてONにします。

Apple CarPlayを無効にする

1. をタップします。
2. 「登録済携帯電話」からApple CarPlayとして接続している機器をタップします。
3. 「接続設定」で[Apple CarPlay]をタップしてOFFにします。

Android Auto

Android AutoはAndroid Auto対応機器を接続することで、マップ、MUSIC、電話などの機能を使用することができます。対応しているアプリケーションを使用することもできます。

- サービスや操作の詳細については、以下のAndroid Autoのサイトで確認してください。
  - https://www.android.com/auto/
  - https://support.google.com/androidauto/

Android Autoアプリケーションを使用するためには、Android Auto対応機器をUSB差込口に接続します。
アプリケーションを使用する際は、「アプリをお使いになる前に」に記載している注意事項も併せてご覧ください。
☞P.574参照

知 識

- Android Autoを使用するときは、純正ケーブルを使用してください。
- Android Autoを使用するためには、Android Auto対応機器が新しい車の接続を受け入れるように設定されていることを確認してください。
- Android Auto対応機器によっては、Android Autoの音声認識機能のトークバック音量が他の機能の音量と異なる場合があります。そのような場合は、お好みの音量に調整してください。

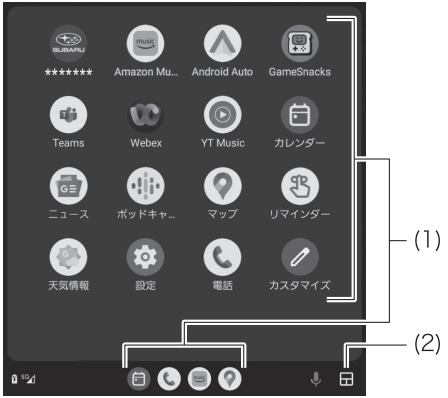
Android Auto対応機器を接続する

1. Android Auto対応機器をUSB差込口に接続します。
☞P.539参照
2. Android Autoの使用確認メッセージが表示されたら、[はい]をタップします。
   - Android Auto画面が表示されます。
   - [いいえ]をタップすると、Android Autoが起動しません。

操作のしかた

ホーム画面もしくはアプリ画面で[Android Auto]をタップして、Android Auto画面を表示します。
☞P.576参照

<操作画面>※



※ 表示される画面は、接続するAndroid Auto対応機器によって異なります。

(1)	アプリケーションのスイッチを表示します。 タップしてアプリケーションを操作します。
(2)	Android Autoのホーム画面を切り替えます。

対応機器について

Android 11.0以降に対応しています。

Android Autoを有効にする

1. をタップします。
2. 「登録済携帯電話」からAndroid Autoとして接続する機器をタップします。
3. 「接続設定」で[Android Auto]をタップしてONにします。

Android Autoを無効にする

1. をタップします。
2. 「登録済携帯電話」からAndroid Autoとして接続している機器をタップします。
3. 「接続設定」で[Android Auto]をタップしてOFFにします。

オーディオ

オーディオの基本操作

オーディオ機能は、プッシュエンジンスイッチをACC、またはONにすると操作できます。

⚠ 注 意

バッテリー上がりを防ぐため、エンジンをかけた状態でご使用ください。

知 識

一部の機能は音声でも操作できます。
☞P.688参照

オーディオのON／OFF

VOLUMEノブ：メッセージが表示されるまで押し続け、数秒経過するとオーディオがOFFになります。再度押し続ける、または画面をタップすると表示されるをタップすると、ONになります。

オーディオがONになるとホーム画面が表示され、前回、最後に使用したオーディオソースに切り替わります。

ノブを回すと、音量が調整できます。

オーディオがONの状態で押すと、オーディオ音声をミュート（消音）します。

知 識

オーディオがOFFの状態でプッシュエンジンスイッチをOFFにした場合、再びプッシュエンジンスイッチをACC、またはONにしても、オーディオはOFFのままです。また、音量をミュート（消音）にした状態でプッシュエンジンスイッチをOFFにした場合、プッシュエンジンスイッチをACC、またはONにすると、ミュートのままで前回停止した位置から再生します。

オーディオソースを選ぶ

ラジオ操作画面を表示する

1. ⌂をタップします。
2. [ラジオ]をタップします。
3. [FM]、[AM]または[交通情報]をタップします。

メディア操作画面を表示する

1. ⌂をタップします。
2. [メディア]をタップします。
3. 表示したいオーディオソースをタップします。

テレビ操作画面を表示する

1. ⌂をタップします。
2. [テレビ]をタップします。

音質を調整する

音設定画面を表示する

1. ⌂をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [サウンド]をタップします。
4. [オーディオ]をタップします。
5. [音設定]をタップします。

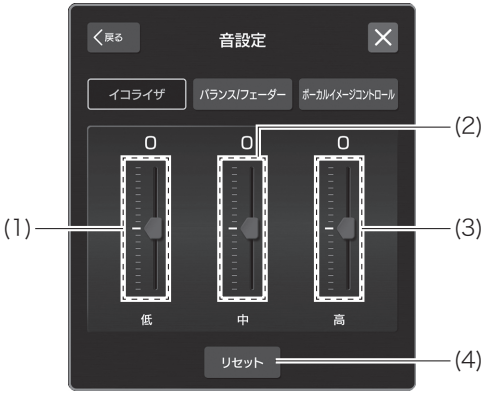
イコライザを設定する

音質は、低域・中域・高域の出力レベルに大きく影響されます。また、音楽のジャンルなどによっても最適な出力レベルは異なります。

1. 音設定画面を表示します。

☞P.583参照

2. [イコライザ]をタップします。
3. 調整したい項目を設定します。



(1)	低音域を調整します。
(2)	中音域を調整します。
(3)	高音域を調整します。
(4)	設定した項目をすべて初期状態に戻します。

バランス／フェーダーを設定する

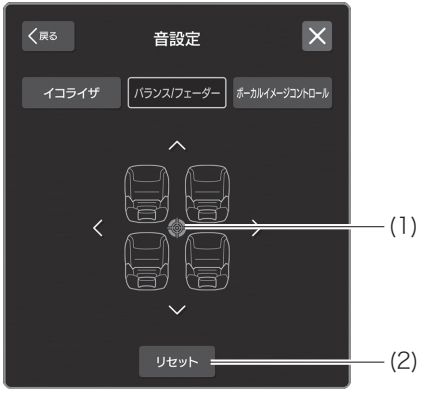
音のバランスは、左右のステレオチャンネルや前後の音量レベルが重要です。

バランス／フェーダーは、ステレオで録音された音楽やステレオ放送を聞く場合に調整できます。左右のどちらかに調整すると、片側の音量は上がり、反対側の音量は下がります。

1. 音設定画面を表示します。

☞P.583参照

2. [バランス／フェーダー]をタップします。
3. 調整したい項目を設定します。



(1)	前後左右のスピーカーの音量バランスを調整します。
(2)	設定した項目をすべて初期状態に戻します。

ボーカルイメージコントロールを設定する※

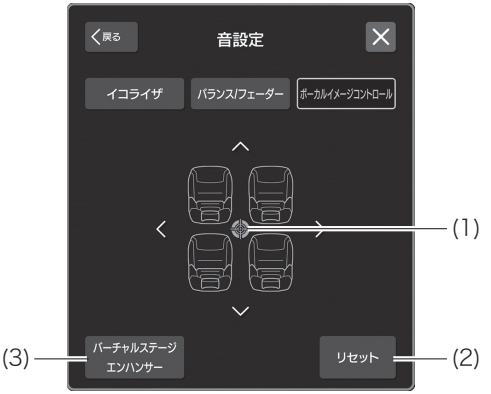
※ 装着されているアンプのタイプによっては設定できません。

ボーカルを含む音域の音量バランスを制御することで、ボーカルの位置を擬似的に移動することができます。

1. 音設定画面を表示します。

☞P.583参照

2. [ボーカルイメージコントロール]をタップします。
3. 調整したい項目を設定します。



(1)	ボーカルの位置を前後左右に調整します。
(2)	設定した項目をすべて初期状態に戻します。

(3)	バーチャルステージエンハンサーを設定します。 バーチャルステージエンハンサーは、より臨場感のあるサウンドに調整します。 バーチャルステージエンハンサーが OFF 以外の場合、ボーカルイメージコントロールでの前後方向の設定ができなくなります。

AM／FMラジオ

操作のしかた

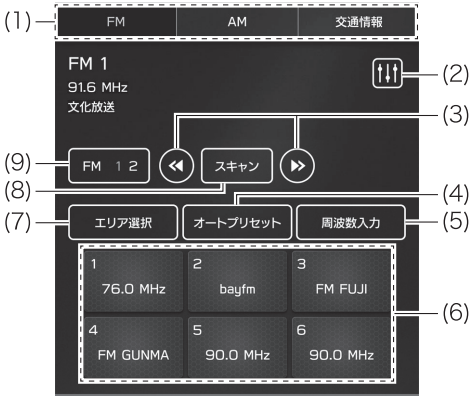
AM／FMラジオ画面は、ラジオ操作画面で[AM]または[FM]をタップすると表示できます。

☞P.582参照

＜操作パネル＞

(1)	回すと音量が切り替わります。 押すとオーディオ音声をミュート（消音）します。 押し続けるとオーディオの電源がOFFになり、再度押し続けるとONになります。
(2)	回すと周波数が切り替わります。 押し続けると、音設定画面を表示します。 ☞P.583参照

＜操作画面＞



(1)	ラジオのモードを選択します。 • [交通情報] をタップしたときは、1620　kHz または 1629 kHzの周波数をタップします。
(2)	音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照
(3)	タップするたびに周波数が切り替わります。 ロングタップすると、放送局を受信するまで周波数が切り替わります。
(4)	受信可能な周波数を、プリセットスイッチに 6 局まで自動で記憶します。
(5)	周波数入力画面を表示します。 周波数から放送局を検索します。
(6)	プリセットスイッチに記憶されている放送局を受信します。 • プリセットスイッチに記憶されている周波数が、収録されている放送局名に対応している場合は、放送局名を表示します。 • プリセットスイッチに「局名切替」が表示されている場合は、タップするごとに局名を切り替えます。
(7)	選択した地域の放送局を表示します。 •「オート」を選択しているときは、GPSの自車位置情報を使用して、自動的に現在地の放送局を表示します。 • [プリセット書き込み]をタップすると、選択したエリアの放送局情報を、プリセットスイッチに書き込みます。
(8)	タップすると、放送局を受信するまで周波数を切り替え、見つかった放送局を 10 秒間受信する動作を繰り返します。もう一度タップすると、受信している放送局を選局します。
(9)※	タップするたびにプリセットスイッチのリストが切り替わります。

※ FMラジオのみ

放送局を記憶する

プリセットスイッチに放送局を記憶することができます。

1. 記憶したい放送局を受信します。
2. 記憶させたいプリセットスイッチをロングタップします。
   • 記憶させたプリセットスイッチに違う放送局を記憶するときは、同様に操作します。

CD（ディーラーオプション）

操作のしかた

CD操作画面は、次の方法で表示できます。

- ディスクを挿入します。

☞P.538参照

- メディア操作画面で[CD/DVD]をタップします。

☞P.582参照

知 識

使用できるディスクについては、「DVDプレーヤーとディスクについて」をご確認ください。

☞P.616参照

＜操作パネル＞

(1)	回すと音量が切り替わります。 押すとオーディオ音声をミュート（消音）します。 押し続けるとオーディオの電源がOFFになり、再度押し続けるとONになります。
(2)	回すと曲が切り替わります。 押し続けると、音設定画面を表示します。 ☞P.583参照

＜操作画面＞

(1)	オーディオソースを切り替えます。
(2)	カバーアートを表示します。
(3)	音設定画面を表示します。 ☞P.583参照
(4)	再生位置を表示します。 スライダーをスライドすると再生位置を変更できます。

(5)	タップすると曲が切り替わります。 ロングタップすると早送り／早戻しします。
(6)	CD内の曲をランダム再生します。 再度タップすると解除します。
(7)	オーディオCD：タップするごとに、すべての曲をリピート再生→再生中の曲をリピート再生→リピート解除の順に切り替わります。 MP3／WMA／AACファイル収録ディスク：タップするごとに、フォルダ／アルバムをリピート再生→再生中の曲をリピート再生→リピート解除の順に切り替わります。
(8)	曲の検索画面を表示します。 [アーティスト]や[アルバム]などの再生モードから再生方法を変更できます。
(9)	再生／一時停止します。

知 識

- 音楽ファイル（CD-DA）とMP3／WMA／AACファイルが混在しているディスクの場合、音楽ファイル（CD-DA）のみを再生します。
- CD-TEXT（ディスクのタイトル名や曲名など）が記録されている場合、それらを表示できます。
- 再生するディスクや音楽ファイルによっては、カバーアートが表示されないことがあります。

DVD（ディーラーオプション）

ディスクの映像は、停車中にご覧になることができます。走行中は音声だけになります。ディスクの映像をご覧になるときは、必ず安全な場所に停車してご覧ください。

DVDではディスクのソフト制作者の意図により、再生状態が決められていることがあります。本機では、ソフト制作者が意図した内容に従って再生されるため、操作したとおりに機能が働かないことがあります。必ず、ディスクの取扱説明書も併せてご覧ください。

操作のしかた

DVD操作画面は、次の方法で表示できます。

- ディスクを挿入します。

☞P.538参照

- メディア操作画面で[CD/DVD]をタップします。

☞P.582参照

知 識

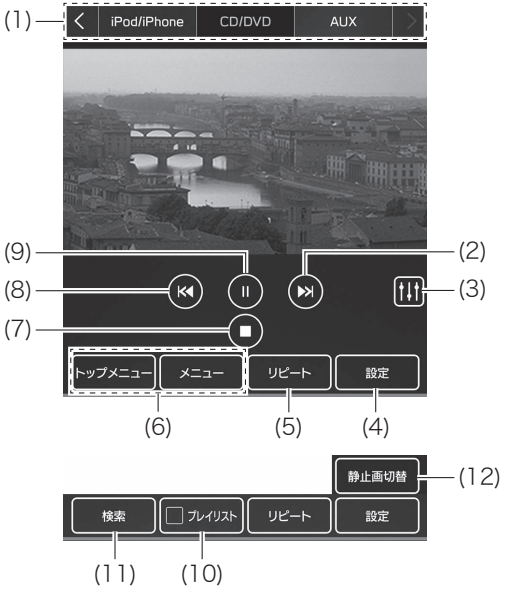
使用できるディスクについては、「DVDプレーヤーとディスクについて」をご確認ください。

☞P.616参照

＜操作パネル＞

(1)	回すと音量が切り替わります。 押すとオーディオ音声をミュート（消音）します。 押し続けるとオーディオの電源がOFFになり、再度押し続けるとONになります。
(2)	回すとチャプターが切り替わります。 押し続けると、音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照

＜操作画面＞



(1)	オーディオソースを切り替えます。
(2)	タップすると次のチャプターに切り替わります。 ロングタップすると映像を早送りします。 一時停止中にロングタップするとスロー再生します。
(3)	音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照

(4)	設定画面を表示します。 ☞P.591参照
(5)	再生中のチャプター／タイトルを繰り返し再生します。
(6)※1	メニュー画面を表示します。 メニュー画面は次のスイッチで操作します。 • 、、、：メニュー項目を選択します。 • [決定]：選択した項目を実行します。 • [番号]：番号入力画面を表示します。 • [戻る]：DVD操作画面に戻ります。
(7)	再生を停止します。
(8)	タップするとチャプターを頭出しします。 連続してタップすると前のチャプターに切り替わります。 ロングタップすると映像を早戻しします。 一時停止中にロングタップするとスロー逆再生します。
(9)	再生／一時停止します。
(10)※2	プレイリスト再生とタイトル再生を切り替えます。 • プレイリスト：プレイリスト再生 • プレイリスト：タイトル再生
(11)※2	タイトルリスト画面を表示します。 再生したいタイトル／プレイリストをタップします。 • [番号指定]：タイトル／プレイリストの番号を入力して検索します。
(12)※3	静止画を切り替えます。

※1: DVDビデオのみ
※2: DVD-VRのみ
※3: 静止画再生中のみ

⚠ 警 告

DVDビデオでは、迫力のある効果音を得るために、通常の会話シーンの音量を小さくして録音されているものがあります。このようなディスクで、会話シーンのときに音量調整を行うと、効果音のシーンやDVDビデオ以外のモードにしたとき、音量が大き過ぎることがありますので、注意してください。音量が大き過ぎると運転の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知 識

- 視聴制限レベルが設定されているディスクでは、成人向けの内容や暴力シーンなど、お子さまに見せたくない場面に視聴制限を設定することができます。
  ☞P.592参照
  視聴制限を設定すると、再生するにはパスコードの入力が必要です。
- メニュー画面について、表示される項目や操作方法はディスクによって異なります。詳しくは、ディスクの取扱説明書をご覧ください。
- ディスクにより操作できなかったり、異なる動作をすることがあります。

設定画面の操作

1. [設定]をタップします。

2. 設定する項目をタップします。

(1)※1	入力したタイトル番号を再生します。
(2)※1	入力したチャプター番号を再生します。
(3)	再生中に音声言語、字幕言語、アングル※1を切り替えます。 [切替]をタップするごとに切り替わります。
(4)	「ノーマル」、「フルワイド」、「シネマ」のいずれかの画面サイズをタップします。
(5)※1	初期設定画面を表示します。 ☞P.592参照
(6)※2	再生画面上部に再生中のタイトル番号、チャプター番号、再生時間を表示する機能のON／OFFを設定します。

※1: DVDビデオのみ
※2: DVD-VRのみ

知 識

ディスクにより操作できなかったり、異なる動作をすることがあります。

初期設定画面の操作

1. [初期設定]をタップします。
2. 設定する項目をタップします。

(1)	視聴制限レベルが設定されているディスクでは、成人向けの内容や暴力シーンなど、お子さまに見せたくない場面に視聴制限を設定することができます。 ☞P.592参照 視聴制限を設定すると、再生するにはパスコードの入力が必要です。
(2)	再生画面上部に再生中のタイトル番号、チャプター番号、再生時間を表示する機能のON／OFFを設定します。

視聴制限を設定する

1. 初期設定画面で[視聴制限設定]をタップします。
2. [実行]をタップします。
3. パスコードを入力して[OK]をタップします。
4. [視聴制限設定]をタップします。
5. 視聴制限レベルを選択します。

視聴制限を変更する

1. 初期設定画面で[視聴制限設定]をタップします。
2. 現在のパスコードを入力して[OK]をタップします。
   - パスコードを間違えたときは、再度入力してください。
3. [視聴制限設定]をタップします。
4. 視聴制限レベルを選択します。

パスコードを変更する

1. 初期設定画面で[視聴制限設定]をタップします。
2. 現在のパスコードを入力して[OK]をタップします。
   - パスコードを間違えたときは、再度入力してください。
3. [パスコード変更]をタップします。
4. 新しいパスコードを入力して[OK]をタップします。

USBメモリー

USBメモリーに保存した音楽ファイルや動画ファイルを再生できます。

操作のしかた

USBオーディオ操作画面は、次の方法で表示できます。

- USBメモリーを接続します。

☞P.539参照

- メディア操作画面で[USB]をタップします。

☞P.582参照

知 識

使用できるUSBメモリーについては、「USBメモリーについて」をご確認ください。

☞P.621参照

＜操作パネル＞

(1)	回すと音量が切り替わります。 押すとオーディオ音声をミュート（消音）します。 押し続けるとオーディオの電源がOFFになり、再度押し続けるとONになります。
(2)	回すとファイルが切り替わります。 押し続けると、音設定画面を表示します。 ☞P.583参照

＜操作画面（音楽ファイル）＞

＜操作画面（動画ファイル）＞

(1)	オーディオソースを切り替えます。
(2)	カバーアートを表示します。
(3)	音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照
(4)	再生位置を表示します。 スライダーをスライドすると再生位置を変更できます。
(5)	タップするとファイルが切り替わります。 ロングタップすると早送り／早戻しします。
(6)	USBメモリー内のファイルをランダム再生します。 再度タップすると解除します。
(7)	タップするごとに、すべてのファイルをリピート再生※→フォルダ／アルバムをリピート再生→再生中のファイルをリピート再生→リピート解除の順に切り替わります。
(8)	再生ファイルの検索画面を表示します。 [アーティスト]や[アルバム]などの再生モードから再生方法を変更できます。 動画ファイルの操作画面に切り替える場合は、再生モードから[ビデオ]を選択します。
(9)	再生／一時停止します。
(10)	動画再生を停止します。
(11)	動画設定画面を表示します。 [画面サイズ]：動画再生サイズを変更します。 • [オリジナル]をタップすると、動画本来のサイズで表示します。 • [フルワイド] をタップすると、センターインフォメーションディスプレイの幅に合わせて動画のサイズを調整して表示します。 [再生情報表示]：動画再生画面上に、再生中動画の情報を表示します。

※ [検索]から[フォルダ]を選択している場合に操作できます。

⚠ 警 告

安全のため、運転者は運転中にUSBメモリーを操作しないでください。

⚠ 注 意

- USBメモリーを車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。
- USBメモリーが接続されているときに、USBメモリーの上に乗ったり、物を上に置かないでください。故障の原因となります。
- USBメモリーの差込口にUSBメモリー以外のものを入れないでください。故障の原因となります。

知 識

再生する機器や音楽ファイルによっては、カバーアートが表示されないことがあります。

iPod/iPhone

iPod/iPhoneをUSB差込口に接続すると、iPod/iPhoneの音楽ファイルを再生できます。再生するファイルをリストから選択したり、ランダム再生に切り替えることができます。

iPod/iPhoneを接続する

1. iPod/iPhoneをUSB差込口に接続します。

☞**P.539**参照

- Apple CarPlay画面が表示された場合、接続済携帯電話画面でApple CarPlayを無効にしてください。

☞**P.551**参照

知 識

使用できるiPod/iPhoneについては、「iPod/iPhoneについて」をご確認ください。

☞**P.622**参照

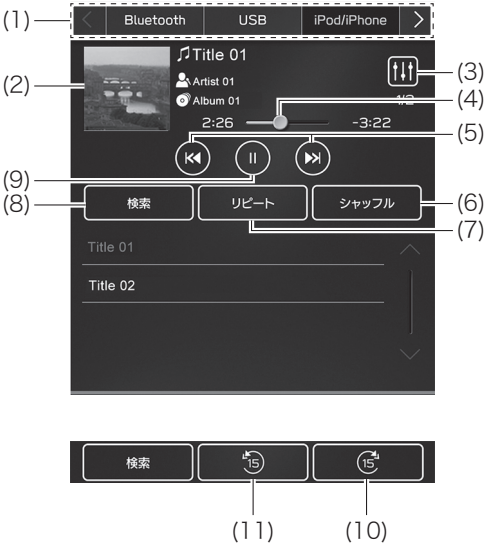
操作のしかた

メディア操作画面で[iPod/iPhone]をタップして、iPod/iPhone操作画面を表示します。
☞**P.582**参照

＜操作パネル＞

(1)	回すと音量が切り替わります。 押すとオーディオ音声をミュート（消音）します。 押し続けるとオーディオの電源がOFFになり、再度押し続けるとONになります。
(2)	回すと曲が切り替わります。 押し続けると、音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照

＜操作画面＞



(1)	オーディオソースを切り替えます。
(2)	カバーアートを表示します。
(3)	音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照
(4)	再生位置を表示します。 スライダーをスライドすると再生位置を変更できます。

(5)	タップすると曲が切り替わります。 ロングタップすると早送り／早戻しします。
(6)	iPod/iPhone内の曲をランダム再生します。 再度タップすると解除します。
(7)	タップするごとに､アルバムをリピート再生→再生中の曲をリピート再生→リピート解除の順に切り替わります。
(8)	曲の検索画面を表示します。 [アーティスト]や[アルバム]などの再生モードから再生方法を変更できます。
(9)	再生／一時停止します。
(10)※	一定の秒数で早送りします。
(11)※	一定の秒数で早戻しします。

※ オーディオブックまたはポッドキャストの再生時に操作できます。

⚠ 警 告

安全のため、運転者は運転中にiPod/iPhoneを操作しないでください。

⚠ 注 意

- iPod/iPhoneを車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。
- iPod/iPhoneが接続されているときに、iPod/iPhoneの上に乗ったり、物を上に置かないでください。故障の原因となります。
- iPod/iPhoneケーブルの差込口にケーブル以外のものを入れないでください。故障の原因となります。

知 識

- 純正のiPod/iPhoneケーブルを使用してiPod/iPhoneを接続すると、iPod/iPhoneを充電できます。
- iPod/iPhoneを再生する場合は、純正のiPod/iPhoneケーブルを使用して接続し、センターインフォメーションディスプレイで操作してください。iPod/iPhoneを直接操作した場合、一部の機能が操作できないことがあります。また、iPod/iPhoneの機種によっても、一部の機能が操作できないことがあります。
- iPod/iPhoneの機種や音楽ファイルによっては、カバーアートが表示されないことがあります。
- iPod/iPhoneが接続されている状態で他のオーディオソースからiPod/iPhoneに切り替えたとき、最後に再生していたところから再生されます。
- iPod/iPhoneを直接操作すると、曲が正しく選択されなかったり、正しく表示されないことがあります。

Bluetoothオーディオ

Bluetoothオーディオは、ワイヤレス通信を使ってポータブルオーディオ機器に収録されている音楽ファイルを車のスピーカーから再生する機能です。

Bluetoothに対応しているポータブルオーディオ機器に収録されている音楽ファイルを再生できます。

知 識

Apple CarPlayやAndroid Autoを使用中のBluetooth携帯電話／機器は、Bluetoothオーディオを使用できません。

操作のしかた

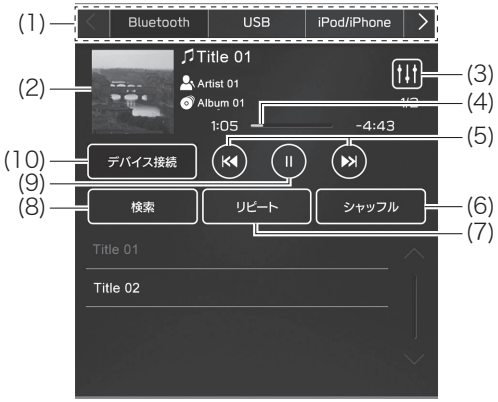
メディア操作画面で[Bluetooth]をタップします。
☞**P.582**参照

Bluetooth機器の機種によっては、一部の機能が制限されたり、Bluetoothオーディオ操作画面が実際の画面と異なることがあります。

＜操作パネル＞

(1)	回すと音量が切り替わります。 押すとオーディオ音声をミュート（消音）します。 押し続けるとオーディオの電源がOFFになり、再度押し続けるとONになります。
(2)	回すと曲が切り替わります。 押し続けると、音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照

＜操作画面＞



(1)	オーディオソースを切り替えます。
(2)	カバーアートを表示します。
(3)	音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照
(4)	再生位置を表示します。
(5)	タップすると曲が切り替わります。 ロングタップすると早送り／早戻しします。
(6)	Bluetooth 機器に収録されている曲をランダム再生します。 再度タップすると解除します。
(7)	タップするごとに、フォルダ／アルバムをリピート再生→再生中の曲をリピート再生→リピート解除の順に切り替わります。
(8)	曲の検索画面を表示します。 [アーティスト]や[アルバム]などの再生モードから再生方法を変更できます。
(9)	再生／一時停止します。
(10)	デバイス接続画面を表示します。 ☞**P.601**参照

⚠ 警 告

- 安全のため、運転者は運転中にBluetooth機器を操作しないでください。
- Bluetooth通信用の車両側アンテナはセンターインフォメーションディスプレイに内蔵されています。植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器をお使いの方は、通信アンテナにこれらの医療用電気機器が近づくような姿勢をとらないようにしてください。
- 植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、Bluetoothオーディオをお使いになる前に、医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。データ通信に伴う電波により、医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注 意

Bluetooth機器を車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。

知 識

- 接続した機器によっては、一時停止中に ⏸ をタップすると再生を開始したり、再生中に ▶ をタップすると一時停止することがあります。
- 次の場合、Bluetoothオーディオは使用できません。
  - Bluetooth機器の電源が切れている
  - Bluetooth機器が接続されていない
  - Bluetooth機器の電池残量が不足している
- Bluetoothオーディオ使用中は、ハンズフリー接続に時間がかかることがあります。
- Bluetooth機器の操作については、機器の取扱説明書をご覧ください。
- プッシュエンジンスイッチがACC、またはONのときに、Bluetooth接続がネットワークの状況により切断された場合、自動で再接続します。
- Bluetooth接続を手動で切断した場合は自動で再接続されません。再度、手動で接続してください。
- Bluetooth機器を接続すると、機器の情報が登録されます。お車を手放すときは、初期化してください。
  ☞**P.557**参照
- Bluetooth機器や音楽ファイルによっては、カバーアートが表示されないことがあります。
- Bluetooth機器を接続したときに自動で再生されない場合、機器側の操作が必要な場合があります。
- 本機に対して、すべてのBluetooth機器の動作を保証するものではありません。

知 識

- 接続しているBluetooth機器によっては、オーディオ機能の操作ができない、表示内容が接続機器と一致しない、音楽が再生されるまでに時間がかかることがあります。
- Bluetooth機器の音楽再生アプリケーションによっては、Bluetoothオーディオが正しく動作しないことがあります。
- 接続しているBluetooth機器の仕様やプロファイルが推奨条件より低い、または互換性がない場合、Bluetooth機器の機能が正しく動作しないことがあります。
- Bluetooth機器を金属で囲われた場所や車両側のBluetoothモジュールから遠く離れた場所に置くと、再生音質が低下したり無線接続が切断されることがあります。

Bluetooth機器を接続する

Bluetoothオーディオを使用するためには、Bluetooth機器を登録する必要があります。

登録機器を追加する

1. Bluetoothオーディオ操作画面で[デバイス接続]をタップします。
2. Bluetooth機器を登録します。

☞P.549参照

接続する機器を選ぶ

1. Bluetoothオーディオ操作画面で[デバイス接続]をタップします。
2. 接続するBluetooth機器をタップします。

AUX

操作のしかた

AUX操作画面は、次の方法で表示できます。

- ポータブルオーディオ機器を接続します。

☞P.539参照

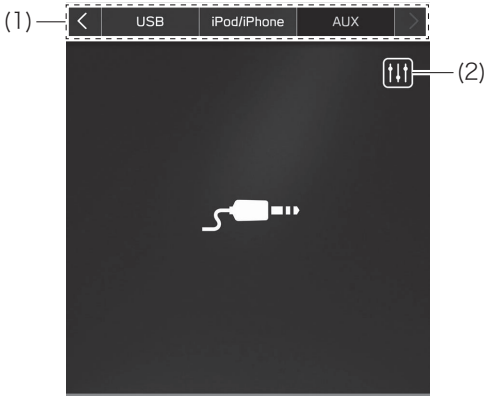
- メディア操作画面で[AUX]をタップします。

☞P.582参照

<操作パネル>

(1)	回すと音量が切り替わります。 押すとオーディオ音声をミュート（消音）します。 押し続けるとオーディオの電源がOFFになり、再度押し続けるとONになります。
(2)	押し続けると、音設定画面を表示します。 ☞P.583参照

＜操作画面＞



(1)	オーディオソースを切り替えます。
(2)	音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照

⚠ 警 告

安全のため、運転者は運転中にポータブルオーディオ機器を操作しないでください。

⚠ 注 意

- ポータブルオーディオ機器を車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。

⚠ 注 意

- ポータブルオーディオ機器が接続されているときに、ポータブルオーディオ機器の上に乗ったり、物を上に置かないでください。故障の原因となります。
- ポータブルオーディオ機器の差込口にポータブルオーディオ機器以外のものを入れないでください。故障の原因となります。

Apple CarPlay

Apple CarPlay対応機器がApple CarPlayとして接続されているとき、音楽ファイルを再生できます。

Apple CarPlay対応機器を接続する

1. Apple CarPlay対応機器を接続します。

☞P.551参照

2. Apple CarPlayの使用確認メッセージが表示されたら、[はい]をタップします。
   - Apple CarPlay画面が表示されます。
   - [いいえ]をタップすると、Apple CarPlayは起動しません。USB差込口に接続するとiPod/iPhoneとして認識されます。

☞P.595参照

Bluetoothで接続するとBluetoothオーディオとして認識されます。

☞P.598参照

知 識

Apple CarPlayを使用するためには、Apple CarPlay対応機器の機能制限設定でCarPlayをONにします。

操作のしかた

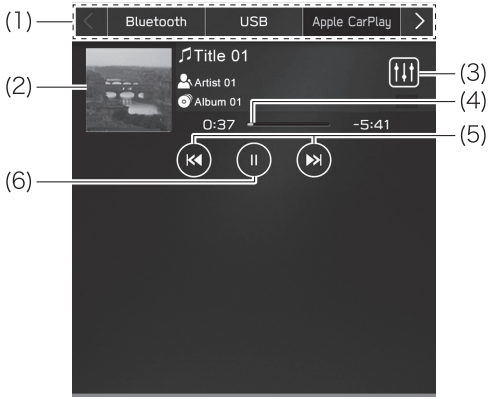
メディア操作画面で[Apple CarPlay]をタップして、Apple CarPlay操作画面を表示します。

☞P.582参照

<操作パネル>

(1)	回すと音量が切り替わります。 押すとオーディオ音声をミュート（消音）します。 押し続けるとオーディオの電源がOFFになり、再度押し続けるとONになります。
(2)	回すと曲が切り替わります。 押し続けると、音設定画面を表示します。 ☞P.583参照

＜操作画面＞



(1)	オーディオソースを切り替えます。
(2)	カバーアートを表示します。
(3)	音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照
(4)	再生位置を表示します。
(5)	タップすると曲が切り替わります。 ロングタップすると早送り／早戻しします。
(6)	再生／一時停止します。

⚠ 警 告

- 安全のため、運転者は運転中にApple CarPlay対応機器を操作しないでください。

⚠ 警 告

- Wi-Fi® 通信用の車両側アンテナはセンターインフォメーションディスプレイに内蔵されています。植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器をお使いの方は、通信アンテナにこれらの医療用電気機器が近づくような姿勢をとらないようにしてください。
- 植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、Wi-Fi® 機器をお使いになる前に、医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。データ通信に伴う電波により、医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注 意

Apple CarPlay対応機器を車室内に放置しないでください。
炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。

知 識

- 純正のApple CarPlay対応機器ケーブルを使用してApple CarPlay対応機器をUSB差込口に接続すると、Apple CarPlay対応機器を充電できます。
- Apple CarPlay対応機器を再生する場合は、センターインフォメーションディスプレイで操作してください。Apple CarPlay対応機器を直接操作した場合、一部の機能が操作できないことがあります。また、Apple CarPlay対応機器の機種によっても、一部の機能が操作できないことがあります。
- Apple CarPlay対応機器の機種や音楽ファイルによっては、カバーアートが表示されないことがあります。

知 識

- Apple CarPlay対応機器が接続されている状態で他のオーディオソースからApple CarPlay対応機器に切り替えたとき、最後に再生していたところから再生されます。
- Apple CarPlay対応機器を直接操作すると、曲が正しく選択されなかったり、正しく表示されないことがあります。

Android Auto

Android Auto対応機器がAndroid Autoとして接続されているとき、音楽ファイルを再生できます。

Android Auto対応機器を接続する

1. Android Auto対応機器をUSB差込口に接続します。

☞P.539参照

2. Android Autoの使用確認メッセージが表示されたら、[はい]をタップします。
   - Android Auto画面が表示されます。

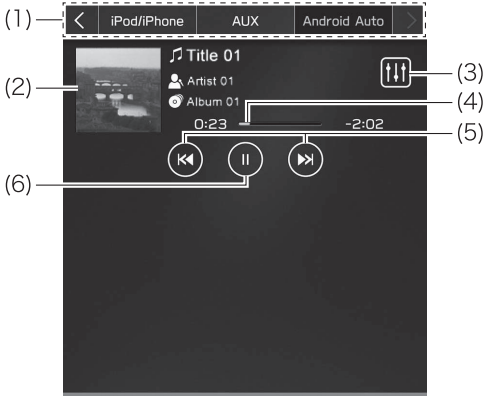
操作のしかた

メディア操作画面で[Android Auto]をタップして、Android Auto画面を表示します。
☞P.582参照

＜操作パネル＞

(1)	回すと音量が切り替わります。 押すとオーディオ音声をミュート（消音）します。 押し続けるとオーディオの電源がOFFになり、再度押し続けるとONになります。
(2)	回すと曲が切り替わります。 押し続けると、音設定画面を表示します。 ☞P.583参照

＜操作画面＞



(1)	オーディオソースを切り替えます。
(2)	カバーアートを表示します。
(3)	音設定画面を表示します。 ☞P.583参照
(4)	再生位置を表示します。
(5)	タップすると曲が切り替わります。
(6)	再生／一時停止します。

⚠ 警 告

安全のため、運転者は運転中にAndroid Auto対応機器を操作しないでください。

⚠ 注 意

- Android Auto対応機器を車室内に放置しないでください。炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。
- Android Auto対応機器が接続されているときに、Android Auto対応機器の上に乗ったり、物を上に置かないでください。故障の原因となります。
- USBケーブルの差込口にケーブル以外のものを入れないでください。故障の原因となります。

知 識

Android Auto対応機器の種類や音楽ファイルによっては、カバーアートが表示されないことがあります。

テレビ

テレビの映像は、停車中にご覧になることができます。走行中は音声だけになります。テレビの映像をご覧になるときは、必ず安全な場所に停車してご覧ください。

知 識

- B-CASカードを使用せずに地上デジタル放送を視聴できる新RMP方式※を採用しており、B-CASカードを付属していません。

  ※ 新RMP方式とは、地上デジタル放送のコンテンツ権利保護専用方式です。詳しくは、以下のサイトをご覧ください。
  一般社団法人地上放送RMP管理センター
  http://www.trmp.or.jp/

- 放送局が新RMPに関する情報を更新した際は、更新情報を取得するまでの間（最大30秒）テレビが視聴できない場合があります。

はじめて使うときの設定

はじめてテレビをお使いになるときや、引っ越しをした場合は、居住地域やチャンネルを登録してください。

1. ⌂をタップします。
2. [テレビ]をタップします。
3. [エリア設定]をタップし、お住まいの地域をタップします。
4. [郵便番号設定]をタップし、郵便番号を入力します。
5. [OK]をタップします。
6. [はい]をタップします。
   - 放送局のスキャン後、放送局一覧画面が表示されます。

操作のしかた

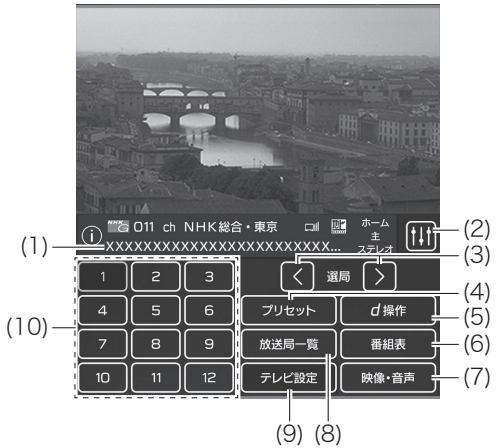
テレビ操作画面を表示します。

☞P.582参照

＜操作パネル＞

(1)	回すと音量が切り替わります。 押すとオーディオ音声をミュート（消音）します。 押し続けるとオーディオの電源がOFFになり、再度押し続けるとONになります。
(2)	回すとプリセットスイッチに記憶されている放送局が切り替わります。 押し続けると、音設定画面を表示します。 ☞P.583参照

＜操作画面＞



(1)	選択している放送局の番組内容を表示します。 • ⓘが表示されているときは、ⓘをタップすると詳細な番組内容を表示します。
(2)	音設定画面を表示します。 ☞**P.583**参照
(3)	プリセットされている放送局を切り替えます。 • ロングタップすると、受信可能なチャンネルを検索します。
(4)	プリセットの表示モードを変更します。 • タップするたびに、ホーム、お出かけ、エリアの順に切り替えます。 ☞**P.611**参照
(5)	データ放送の操作画面を表示します。 ☞**P.610**参照
(6)	番組表を表示します。 • [番組表切替]※：番組表をワンセグ放送用とフルセグ放送用とで切り替えます。 ※「地デジ・ワンセグ受信モード」を「自動」に設定している場合のみ • ▼：時間帯枠の中ですべての番組を表示できない場合に表示されます。タップすると番組がリスト表示されます。 • ＜／＞：放送局を切り替えます。 • [前日]／[翌日]：番組表の日付を切り替えます。 • [表示切替]：番組表の表示を複数サービス、1サービス、プライマリーサービスの順に切り替えます。 －複数サービス：1チャンネルの全番組を表示します。 －1サービス：1チャンネルの1番組を表示します。 －プライマリーサービス：3チャンネルを1番組ずつ表示します。 • [更新]：番組表を更新します。 • 番組をタップすると、番組の詳細情報を表示します。選択した番組が放送中の場合は、[視聴]をタップすることで番組を見ることができます。
(7)	映像・音声設定画面を表示します。 ☞**P.612**参照
(8)	放送局一覧を表示します。
(9)	テレビ設定画面を表示します。 ☞**P.611**参照

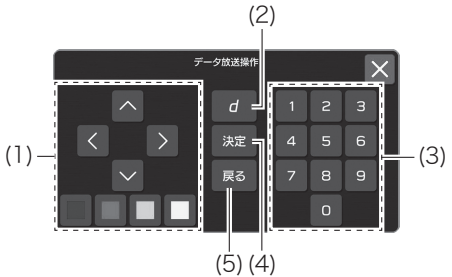
(10)	プリセットされている放送局を受信します。 • ロングタップすると、現在選択されている放送局をプリセットスイッチに登録します。

知 識

データ放送の操作は、受信したデータ放送により異なります。操作は、画面に表示される指示に従ってください。

データ放送の操作

データ放送とはデジタルテレビ映像の他に、図形や文字の情報を付加した放送です。受信するデータ放送により、番組の内容と関係ないニュースや天気、交通情報などの独立した情報や番組に連動した情報を見ることができます。



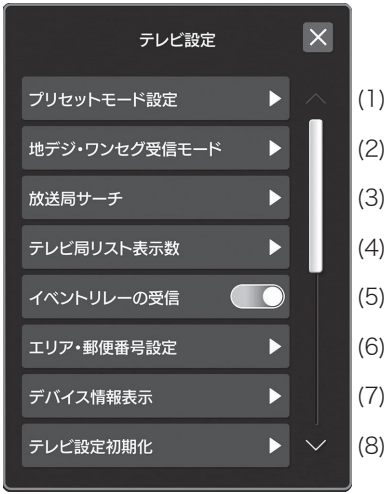
(1)	色ボタンとカーソルでデータ放送を操作します。
(2)	データ放送画面を表示／解除します。
(3)	10キー（テンキー）で数字を入力し、データ放送を操作します。
(4)	カーソルで選択した項目や入力した数字を決定します。
(5)	データ放送操作画面をひとつ前に表示させていた画面に戻します。

知 識

- ワンセグ放送のデータ放送には対応していません。
- データ放送の操作は、受信したデータ放送により異なります。操作は、画面に表示される指示に従ってください。

受信に関する設定画面

1. [テレビ設定]をタップします。
2. 設定する項目をタップします。



(1)	プリセットモードを切り替えます。 •「ホーム」：初回に設定したチャンネルが表示されます。普段ご覧になるときは、このモードを使用します。 •「お出かけ」：ホームとは別にプリセットスイッチにチャンネルを記憶することができます。旅先などで使用すると便利です。 •「エリア」：自分がいる地域の放送局が分からないとき、このモードを使用すると、その地域で放送されているチャンネルがプリセットスイッチに表示されます。
(2)	地上デジタル放送、ワンセグ放送を切り替えます。 •「地デジ」：受信状態に関わらず地上デジタル放送を受信します。 •「ワンセグ」：受信状態に関わらずワンセグ放送を受信します。 •「自動」：地上デジタル放送が受信できなくなった場合、自動でワンセグ放送に切り替わります。地上デジタル放送が受信可能になると、ワンセグ放送から自動で切り替わります。
(3)	走行中に地上デジタル放送の受信状態が不安定になった場合、より受信感度がよい中継局や系列局を自動で検索して受信することができます。 •「中継局」：受信できなくなった場合、その地点の周辺にある中継局を検索します。 •「中継局＋系列局」：受信できなくなった場合、その地点の周辺にある中継局を検索します。中継局が見つからない場合は、系列局を検索します。
(4)	放送局一覧画面で1ページに表示する放送局の数を「6（番組名有り）」、「12（番組名無し）」のいずれかで設定します。
(5)	「イベントリレーの受信」をONにすると、スポーツ中継などの番組が他のチャンネルで延長して放送される場合、自動でチャンネルが切り替わります。

(6)	データ放送で地域情報を受信するために、居住地域を設定する必要があります。引っ越しをされたときは必ず設定してください。 ☞P.608参照
(7)	地上デジタル放送を受信するためのIDを確認できます。 • ＜／＞：放送局を切り替えます。
(8)	次の内容を初期化することができます。 •「ホームエリア設定初期化」：ホームプリセットに登録されている放送局設定を初期化します。 •「お出かけエリア設定初期化」：お出かけプリセットに登録されている放送局設定を初期化します。 •「テレビ視聴設定初期化」：TV設定を初期化します。 •「全設定初期化」：すべての設定を初期化します。 初期化する場合、[はい]をタップします。

知 識

「地デジ・ワンセグ受信モード」を「自動」に設定すると、自動で切り替わった番組が、ご覧になっていた番組と異なることがあります。また、ワンセグ放送のサービスを行っていない放送局をご覧になっている場合は、ワンセグ放送に切り替わりません。

映像や音声に関する設定画面

1. [映像・音声]をタップします。
2. 設定する項目をタップします。

(1)	地上デジタル放送では、マルチビュー放送※で複数の映像を提供する場合があります。タップするごとに映像が切り替わります。 ※ 同一のチャンネルで主番組と副番組の複数番組が送られる放送
(2)	地上デジタル放送では、複数の音声を提供している場合があります。タップするごとに、音声が切り替わります。
(3)	地上デジタル放送では、複数の字幕を提供している場合があります。タップするごとに、第一言語、第二言語、非表示の順に切り替わります。
(4)	タップするごとに、オート、ノーマル、ワイド、フルの順に画面サイズが切り替わります。
(5)	タップするごとに、主／副音声、主音声、副音声の順に切り替わります。

(6)	地上デジタル放送では、放送と独立して文字スーパー（天気予報やニュースなどを字幕で放送するサービス）を提供しています。タップするごとに、第一言語、第二言語、非表示の順に文字スーパーが切り替わります。

知 識

「映像」の設定で映像を切り替えた場合、同時に音声と字幕も切り替わることがあります。

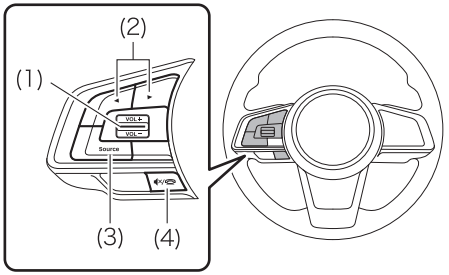
緊急警報放送（EWS）について

EWS（Emergency Warning System）とは、緊急警報信号を送信し、地震や津波などの情報をお知らせする放送です。緊急警報放送は、警戒宣言、津波警報、知事からの要請があった場合に放送されます。

緊急警報放送を受信した場合、メッセージを表示します。[OK]または[視聴する]をタップすると緊急警報放送をご覧いただけます。

ステアリングスイッチ

オーディオの主要機能をステアリングスイッチで操作できます。



(1)	VOL＋/VOL－スイッチ
(2)	◀/▶スイッチ
(3)	Sourceスイッチ
(4)	×/ スイッチ

VOL＋/VOL－スイッチ

モード	操作	機能
音量調整	押す	1ステップずつ変更します。
	押し続ける	連続して変更します。

◀/▶スイッチ

モード	操作	機能
AM／FMラジオ	押す	プリセットスイッチに記憶させた放送局を切り替えます。
	押し続ける	スイッチを放した時点で一番近くの受信可能な放送局を受信します。
音楽CD※、MP3／WMA／AACディスク※、DVD※、USBメモリー、iPod/iPhone、Bluetoothオーディオ、Apple CarPlay	押す	曲／ファイル／チャプターが切り替わります。
	押し続ける	早送り／早戻しします。
Android Auto	押す	曲が切り替わります。
テレビ	押す	プリセットスイッチに記憶させた放送局を切り替えます。

※ ディーラーオプションのDVDプレーヤー装着時

Sourceスイッチ

モード	操作	機能
すべてのモード	押す	オーディオをONにする、またはオーディオソースを切り替えます。
	押し続ける	オーディオをOFFにします。

🔇×/📞スイッチ

モード	操作	機能
すべてのモード	押す	オーディオを消音します。

オーディオ操作情報

⚠ 注 意

損傷を防ぐため：

- 飲み物をこぼさないように注意してください。
- ディスク挿入口※に異物を入れないでください。

※ ディーラーオプションのDVDプレーヤー装着時

知 識

携帯電話を車室内、または車両の近くで使用すると、スピーカーから雑音が出ることがありますが、故障ではありません。

ラジオについて

ラジオの受信状態は、環境に影響されます。

例えば、FMラジオの場合、近くの建物や地形により電波がさえぎられ受信できないことがあります。AMラジオの場合、送電線や電話線の影響で受信できないことがあります。ラジオは受信範囲に限りがあります。放送局から離れるほど、電波は弱くなります。車が移動することにより、受信状態は常に変わります。

ラジオの受信については次の点をご了承ください。

FMラジオ

フェージングと電波の途切れ：一般的にFMラジオが受信できる範囲は40 kmです。一旦、受信範囲から外れると、電波が弱くなり音声が途切れます。

マルチパス：FMの電波は、複数の経路から同じ電波を受信（放送局からの直進波と地形による反射波による）することがあります。この場合、電波は互いに打ち消し合い、フラッター（ガーガー、バリバリといった雑音）が生じたり、受信できなくなります。

電波障害とフラッター障害：建物や木、その他の大きな物体によって信号が遮断されることで発生します。低音レベルを上げることで改善される場合があります。

放送局スワッピング：聞いているFM放送局の電波が途切れたり弱くなると、近くの同系列の放送局を受信できることがあります。はじめに聞いていた放送局の受信状態が良くなれば、再度受信できます。

AMラジオ

フェージング：AMラジオの電波は上層大気圏（電離層）で反射されます。特に夜間に反射されやすくなります。その結果、放送局から送信される遠方からの電波に干渉され音声の波形の強弱が崩れ、受信障害を及ぼすことがあります。

放送局電波干渉：上層大気圏（電離層）で反射した電波と近くの放送局から送信している電波が同じ周波数のとき、互いに干渉して受信障害を及ぼすことがあります。

電波障害：AMラジオの電波は、高圧線や電気モーターなどからの電気的ノイズを受けやすい性質があります。その結果、受信障害を及ぼすことがあります。

DVDプレーヤーとディスクについて（ディーラーオプション）

- 極端な高温では、DVDプレーヤーを使用しないでください。暑い日には、プレーヤーを使用する前に車室内の温度をエアコンを使用して下げてください。
- 悪路走行などの振動により、音飛びが発生することがあります。
- DVDプレーヤーの内部に水分が入ると、ディスクを再生できないことがあります。その場合は、ディスクを取り出して、乾くまでお待ちください。

⚠ 警 告

DVDプレーヤーで使用している不可視レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。プレーヤーは正しく操作してください。

音楽CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT
	COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable	COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable

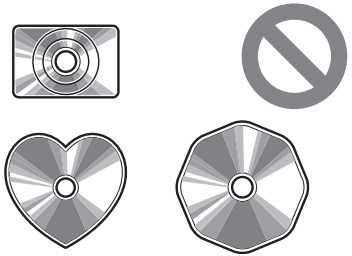
DVDビデオ	DVD VIDEO	
DVD-R DVD-RW DVD-R DL	DVD R	DVD RW
	DVD R DL	
DVD+R DVD+RW DVD+R DL	RW DVD+R	
	RW DVD+ReWritable	
	RW DVD + R DL	

- 上記マークのあるディスクのみ使用できます。
- 次の製品は、再生できないことがあります。
  - SACD
  - dts CD
  - コピーコントロールCD
  - ビデオCD
  - DVDオーディオ
  - DVD-RAM

⚠ 注 意

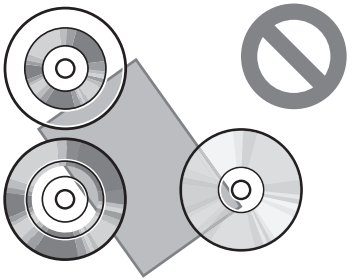
- イラストにあるような特殊形状のディスクや、透明／半透明ディスク、変形したディスク、ラベルの貼られたディスクは使用しないでください。使用すると、プレーヤーが損傷したり、ディスクを取り出せなくなることがあります。

＜特殊形状ディスク＞

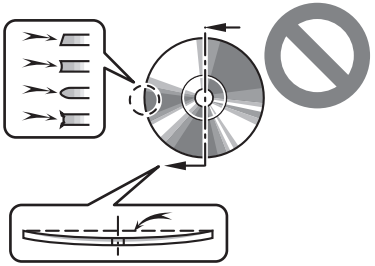


⚠ 注 意

＜透明／半透明ディスク＞

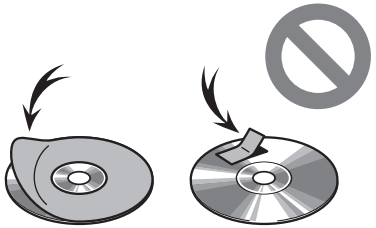


＜変形したディスク＞



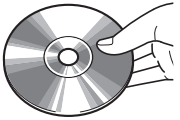
⚠ 注 意

<ラベルが貼られたディスク>



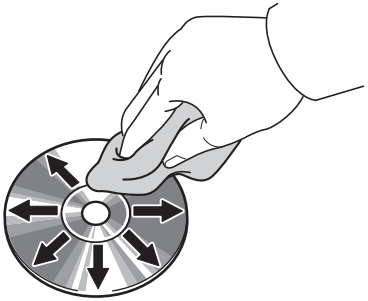
- 8 cmディスクには対応していません。アダプタ等を使用しても再生できません。機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。
- DualDiscには対応していません。機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。
- 保護リングを取り付けたディスクを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが損傷したり、ディスクを取り出せなくなることがあります。
- プリンタブルディスク（ラベル印刷に対応したディスク）は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となります。

正しい持ち方



間違った持ち方

- ディスク挿入時は、ディスクを注意して取り扱ってください。ディスクは端を持ち、曲げないようにしてください。また、記録面には指紋をつけないよう注意してください。
- 汚れや傷、反り、小さな穴やその他の損傷により、音飛びや繰り返し再生が発生することがあります（小さな穴は、ディスクをライトに近づけて確認してください）。
- 使用しないときは、ディスクをプレーヤーから取り出してください。湿気や熱、直射日光を避けるため、ディスクはプラスチックケースに入れて保管してください。



ディスクのお手入れ：水で湿らせた、柔らかくて糸くずの出ない布で拭いてください。円を描くようにではなく、中心から端に向かってまっすぐ拭いてください。その後、別の柔らかく糸くずの出ない布で水気を拭き取ってください。レコードクリーナーや帯電防止剤は使用しないでください。

CD-R/RWとDVD±R/RWディスクについて

- 「ファイナライズ処理」（従来のプレーヤーで再生できるようにすること）がされていないディスクは再生できません。
- 音楽CDレコーダーやパソコンで記録する際のディスク特性や、ディスクの傷や汚れ、DVDプレーヤーの汚れや結露などによって、再生できないことがあります。
- アプリケーションの設定や環境によって、パソコンで記録したディスクが再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください（詳細は、アプリケーションメーカーへ確認してください）。
- ディスクは、直射日光や高温、その他の保存条件によって、損傷することがあります。損傷したディスクは、再生できません。
- CD-RWを挿入すると、従来のCDやCD-Rよりも再生に時間がかかります。
- DDCD（Double Density CD）システムで記録されたCD-R/CD-RWは再生できません。

DVDについて

カラーテレビ方式は、NTSC方式に対応しています。SECAM方式に対応したディスクは再生できません。

地域番号（リージョンコード）：ディスクには、表示させることができるプレーヤーの地域（国）を表す地域番号が表示されているものがあります。

地域番号が表示されているディスクでは、その表示の中に「2」（日本を含む番号）が含まれていない、または「ALL」（全世界向け）と表示されていないディスクは、再生することができません。
このようなディスクを再生しようとしたときは、エラーメッセージを画面に表示します。

また、地域番号の表示がないディスクでも地域が制限されていることがありますので、その場合は、再生できないことがあります。

■ディスクに表示されているマークについて

マーク	意味
NTSC/PAL	カラーテレビの方式
	音声のトラック数 • 数字は収録されている音声数
	字幕の言語数 • 数字は収録されている言語数
	アングルの数 • 数字は収録されているアングル数
 	選択することができる画面モード •「16：9」はワイド画面、「4：3」は標準画面

マーク	意味
 	再生可能な地域番号 •「ALL」は全世界向け、数字は地域番号

DVDプレーヤーの用語について

■DVDビデオディスク

動画の記憶されているDVDビデオでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつである「MPEG2」（エムペグ2）が採用され、映像データが平均約1/40に圧縮して記憶されています。

また、画像の形状に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されています。音声情報は、PCMの他、ドルビーデジタルを用いて記憶させることができ、より臨場感のある音声を楽しむことができます。

さらに、マルチアングル・マルチランゲージなどさまざまな付加機能も用意されており、より高度に楽しむことができます。

■視聴制限

「国ごとの規制レベルに合わせ、その国の視聴制限に対応し、ディスクの再生を制限する」というDVDビデオの機能のひとつです。視聴制限は、ディスクによって異なり、全く再生されないことや、過激な場面を飛ばしたり、別の場面に差し替えて再生されることがあります。
DVDビデオでは、1～8のレベルで視聴制限を設定できます。

- レベル1：子ども向けのディスクのみを再生できます（一般向けと成人向けのディスクは再生できません）。
- レベル2～8：子ども向けと一般向けのディスクのみを再生できます（成人向けのディスクは再生できません）。
- OFF：すべてのディスクを再生できます。

■マルチアングル

DVDビデオの機能のひとつで、同じ場面を別のアングル（カメラの位置）から楽しむことができます。

■マルチランゲージ（多言語）

DVDビデオの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕を複数の言語から選択できます。

■地域番号（リージョンコード）

DVDプレーヤーとディスクは、販売地域ごとに再生可能な地域番号（リージョンコード）が設けられています。再生させるディスクに表示されている番号に、プレーヤーに設定されている地域番号が含まれていない場合は、ディスクを再生できません。
地域番号（リージョンコード）については、「ディスクに表示されているマークについて」をご確認ください。
☞**P.620**参照

■音声

ディスク再生時の音声は、リニアPCM・ドルビーデジタル・MPEGオーディオに対応しており、他のデコード方式には対応していません。

■タイトルとチャプター

DVDに収録されている映像や音声は、タイトルやチャプターによっていくつかの区切りに分けられています。

■タイトル

DVDに収録されている映像や音楽の、大きく分けた区切りです。通常、一作品、一アルバム、一音声プログラムがタイトルとして割り当てられています。

■チャプター

タイトルよりも小さな区切りの単位です。タイトルは、いくつかのチャプターから構成されています。

USBメモリーについて

- USBコミュニケーションフォーマット：USB 2.0 LS (1.5 Mbps)/FS (12 Mbps)/HS (480 Mbps)
- ファイルフォーマット：FAT32/NTFS/HFS+/EXT4
- 通信クラス：Mass storage class

iPod/iPhoneについて

このシステムは下記iPod touch、iPhoneを使用できます。

Made for
- iPhone 12 Pro Max
- iPhone 12 Pro
- iPhone 12
- iPhone 12 mini
- iPhone 11 Pro Max
- iPhone 11 Pro
- iPhone 11
- iPhone XS Max
- iPhone XS
- iPhone XR
- iPhone X
- iPhone 8 Plus
- iPhone 8
- iPhone 7 Plus
- iPhone 7
- iPhone SE
- iPhone 6s Plus
- iPhone 6s
- iPhone 6 Plus
- iPhone 6
- iPod touch（7th generation）
- iPod touch（6th generation）
- 使用できるモデルに該当していても、機種やソフトウェアバージョンなどにより使用できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- iPodビデオには対応していません。
- 動作確認済みの機種については、SUBARU販売店でご確認ください。

ファイルの仕様について

規格	サンプリング周波数／ビットレート	チャンネル	拡張子
MPEG-4 AAC LC	8-48 kHz sampling rate 8-320 kbps CBR, VBR	Mono and stereo	.m4a, .aac
MPEG-4 HE AAC	16-48 kHz sampling rate 8-320 kbps CBR, VBR	Mono and stereo	.m4a, .aac
MPEG-4 HE AAC v2	16-48 kHz sampling rate 8-320 kbps CBR, VBR	Mono and stereo	.m4a, .aac
MP3	8-48 kHz sampling rate 8-320 kbps CBR, VBR	Mono, Stereo, and Joint	.mp3
WMA2/7/8/9/9.1/9.2	16-48 kHz sampling rate 8-320 kbps CBR, VBR	Mono and stereo	.wma
PCMWAVE	8 bit and 16 bit 8000, 16000, and 44100 Hz sampling frequency	Mono and stereo	.wav
FLAC	44.1 kHz, 48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz, 176.4 kHz, 192 kHz sampling rate 16 bit, 24 bit	Mono and stereo	.flac
ALAC	44.1 kHz, 48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz, 176.4 kHz, 192 kHz sampling rate 16 bit, 24 bit	Mono and stereo	.m4a

- VBR（Variable Bit Rate）に対応しています。
- MP3（MPEG Audio Layer 3）、WMA（Windows Media Audio）、AAC（Advanced Audio Coding）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
- CD-R※、CD-RW※、DVD±R※、DVD±RW※、USBメモリー、Bluetooth機器に収録したAAC／AAC+ v2／MP3／WMAファイルを再生できます。

※ ディーラーオプションのDVDプレーヤー装着時

- ISO 9660レベル1、レベル2（Romeo、Joliet）で書き込まれたディスク※を再生できます。

※ ディーラーオプションのDVDプレーヤー装着時

- AAC／AAC+ v2／MP3／WMAファイルに名前をつけるときは、適切なファイル拡張子（.mp3／.wma／.m4a）をつけてください。
- .mp3／.wma／.m4aの拡張子がついたファイルを、それぞれAAC／AAC+ v2／MP3／WMAファイルとして再生します。雑音や再生エラーを防ぐために、適切な拡張子を使用してください。
- マルチセッションCD※を再生するときは、最初のセッションのみ再生できます。

※ ディーラーオプションのDVDプレーヤー装着時

- ID3タグ Ver.1.0、Ver.1.1、Ver.2.2、Ver.2.3のMP3ファイルに対応しています。他のフォーマットでは、ディスクタイトル※や曲名、アーティスト名を表示できません。

※ ディーラーオプションのDVDプレーヤー装着時

- WMA／AACファイルは、ID3タグと同様にWMA／AACタグをつけることができます。WMA／AACタグには、曲名やアーティスト名のような情報を含まれます。
- iTunesで保存したAACファイルを再生できます。

- MP3／WMAファイルの音質は、通常ビットレートが高いほど良くなります。安定した音質で再生するために、最低でも128 kbpsのビットレートで記録されたディスク※（USBメモリー）を推奨します。

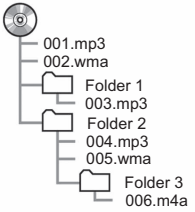
※ ディーラーオプションのDVDプレーヤー装着時

- MP3／WMAプレーヤーは、パケットライトデータ転送（UDFフォーマット）を使用して記録されたディスク※からMP3／WMAファイルを再生できません。パケットライトソフトウェアでなく「プリマスタリング」で記録されたディスク※を使用してください。

※ ディーラーオプションのDVDプレーヤー装着時

- MP3i（MP3 interactive）やMP3PROのデータは再生できません。
- VBR（Variable Bit Rate）として記録されたファイルを再生するとき、早送りや早戻し操作をすると再生時間が正しく表示されないことがあります。
- AAC／AAC+ v2／MP3／WMAファイルが含まれないフォルダは、読み取ることができません。
- 3階層までのフォルダに含まれるAAC／AAC+ v2／MP3／WMAファイルを再生できます。ただし、多数のフォルダの階層で記録されたタイトル※（USBメモリー）は、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。2階層以下のフォルダで記録されたタイトル※（USBメモリー）の再生を推奨します。

※ ディーラーオプションのDVDプレーヤー装着時



- 使用したAAC／AAC+ v2／MP3／WMA圧縮ソフトやパソコンによって、再生順が変わることがあります。
- WMA（Windows Media Audio）はマイクロソフト社の音声圧縮フォーマットです。MP3よりも小さいサイズに圧縮することができます。WMAファイルの対応規格は7、8、または9です。

  本製品は、Microsoft Corporationと複数のサードパーティの一定の知的財産権によって保護されています。本製品以外での前述の技術の利用もしくは配布は、Microsoftもしくは権限を有するMicrosoftの子会社とサードパーティによるライセンスがない限り禁止されています。
- MP3（MPEG Audio Layer3）は音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。MP3を使用すれば、元のファイルを約1/10のサイズに圧縮することができます。

圧縮ファイルについて（動画ファイル）

■動画コーデック

	ファイルの種類	プロファイル
WMV9	WMV	• シンプルプロファイル • メインプロファイル • アドバンストプロファイル
MPEG4	MPEG4	• シンプルプロファイル • アドバンストシンプルプロファイル
H.264/AVC	MPEG4	• ベースラインプロファイル • メインプロファイル • ハイプロファイル
H.265/HEVC	MPEG4	• メインプロファイル • メイン10プロファイル

■オーディオコーデック

	ファイルの種類	対応サンプリング周波数（kHz）	対応ビットレート※（kbps）	チャンネル
MP3	WMV MPEG4	MPEG1 Layer3: 32/44.1/48 MPEG2 LSF Layer3: 16/22.05/24	MPEG1 Layer3: 32-320 MPEG2 LSF Layer3: 8-160	ステレオ ジョイントステレオ デュアルチャンネル モノラル
WMA Ver.7/8/9	WMV	32/44.1/48	Ver. 7/8: 48-192 Ver. 9（9.1/9.2）: 48-320	ステレオ
AAC	MPEG4	11.025/16/22.05/24/32/44.1/48	16-320	ステレオ モノラル

※ 可変ビットレート（VBR: Variable Bit Rate）に対応しています。

ナビゲーション

地図画面の操作

現在地画面

または、ホーム画面で[地図]をタップすることで、現在地画面を表示できます。

(1)	地図画面の表示サイズを拡大／縮小します。
(2)	車の現在地（自車位置マーク）を表示します。
(3)	走行履歴を表示します。 ☞P.647参照
(4)	メニュー画面を表示します。 ☞P.647参照
(5)	現在地または、選択地点をメモリ地点に登録します。 ☞P.648参照
(6)	スクロール画面が表示されているときにタップすると、現在地画面を表示します。 現在地画面が表示されているときにタップすると、現在地の情報を表示します。[座標]をタップすると、座標情報画面が表示されます。
(7)	目的地設定画面を表示します。 ☞P.634参照
(8)	地図の縮尺を切り替えます。 ☞P.628参照
(9)	地図更新画面を表示します。 ☞P.671参照
(10)	VICS情報の有無と情報が提供された時刻を表示します。 ☞P.654参照
(11)	GPS信号を受信中はGPSマークを表示します。
(12)	走行中道路の制限速度を表示します。
(13)	タップするたびに、地図の向きをノースアップ表示／ヘディングアップ表示／3Dヘディングアップ表示に切り替えます。 ☞P.628参照

知 識

- 運転中、自車位置マークは画面上に固定され、地図が移動します。

知 識

- 自車位置マークは、GPSからの信号を受信して自動で配置されます。しかし、新設道路など実際の地図データと異なる道路を走行すると、自車位置マークが正しく表示されないことがあります。その場合でも、GPS信号を受信後に自動で補正されます。
- 走行履歴は約1,000 kmまで表示します。
- 新車時やバッテリー交換、または工場出荷状態に初期化したあとは、実際の現在地と異なる場所に自車位置マークが表示されていることがありますが、しばらく走行すると自動で修正されます。
- 液晶メーターを地図モードに設定すると、メーターにも地図を表示できます。
  ☞P.118参照
  表示される地図は操作できません。

地図をスクロールする

地図画面は、次の方法でスクロールすることができます。

- 地図上の任意の地点をタップします。
- 地図上に触れたまま、地図をスクロールしたい方向に指を動かします（ドラッグ）。

☞P.540参照

- 地図上に触れて、地図をスクロールしたい方向に指を軽くはじくように払います（フリック）。

☞P.540参照

スクロール画面

(1)	選択地点をカーソル表示します。
(2)	カーソル位置の地点確認画面を表示します。 ☞P.640参照
(3)	カーソル位置の地点情報を表示します。

地図の縮尺を切り替える

地図の縮尺は、次の方法で切り替えることができます。

- [広域]／[詳細]をタップします。
- 2本の指で地図上に触れたまま、指を広げます（ピンチアウト）。

☞P.540参照

- 2本の指で地図上に触れたまま、指を狭めます（ピンチイン）。

☞P.540参照

- 地図の縮尺表示をタップし、表示される一覧から任意の縮尺をタップします。

知 識

- [広域]／[詳細]をロングタップすると、連続して縮尺を変更することができます。
- スクロール画面で縮尺を変更した場合、現在地画面に戻る際に、変更前の縮尺に戻ります。
- 市街図収録エリアでは、50 mまたは25 mの縮尺に変更すると、市街図を表示できます。

地図の向きを切り替える

ノースアップ表示、ヘディングアップ表示または3Dヘディングアップ表示に地図の向きを切り替えることができます。

1. 、または をタップします。
   - タップするごとに、ノースアップ表示・ヘディングアップ表示・3Dヘディングアップ表示に切り替わります。
   - ノースアップ表示のスクロール画面では、地図の向きを切り替えることができません。

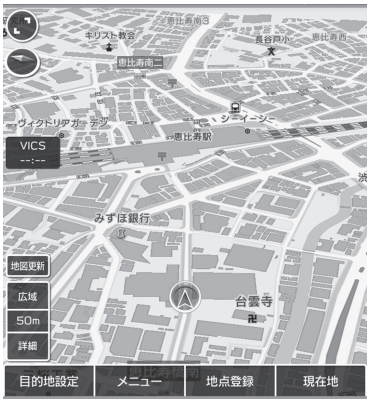
＜ノースアップ表示＞

- 常に北が上向きになるように地図を表示します。

<ヘディングアップ表示>

- 車の進行方向が常に上向きになるように地図を表示します。

<3Dヘディングアップ表示>



- 車の進行方向が常に上向きになるように地図を表示します。
- 2本指で上下にドラッグすると、3Dの角度を変更できます。

知 識

液晶メーターを地図モードに設定した場合、メーターに表示される地図の向きを個別に設定できます。
☞P.126参照

地図画面に表示される情報

施設マーク

ガソリンスタンドやレストランなどの施設マークを地図上に表示することができます。

知 識

- 地図の縮尺が800 m以下のときに表示することができます。
- 施設マークは表示のON／OFFを設定することができます。
☞P.647参照

交通情報

交通状況の影響を受ける道路区間では、道路が異なる色で表示されたり、交通状況の種類を示す記号が表示されたりします。

知 識

交通情報を表示させる道路を「全て」、「高速道のみ」、「一般道のみ」、「非表示」から選択できます。
☞P.655参照

その他の情報

運転中の状況によっては、ポップアップウインドウが表示されることがあります。

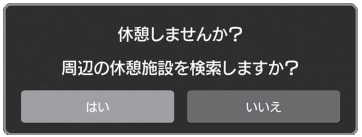
燃料残量警告

燃料残量が少なくなると、画面に警告メッセージが表示されます。

- [はい]：ガソリンスタンドを検索します。
- [いいえ]：メッセージを消去します。

休憩提案

ドライバーの状態にもとづいて、休憩が必要であるとシステムが判断した場合、画面に休憩提案メッセージが表示されます。



- [はい]：周辺の休憩施設を検索します。
- [いいえ]：メッセージを消去します。
- 休憩提案メッセージは、表示のON／OFFを設定することができます。

☞P.557参照

逆走検知案内

高速道路・都市高速・有料道路で逆走のおそれがある場合、警告メッセージと音声で案内します。

- 逆走検知案内は、ON／OFFを設定することができます。

☞P.665参照

知 識

- 次のような場合、逆走注意案内が行われないことがあります。
  - ナビゲーションシステム、またはナビゲーションシステムの各種センサーが故障している。

知 識

- GNSSアンテナ上に障害物があり、GNSS信号が正常に受信できない。
- トンネル、高架橋、高層ビルなどの遮蔽物により、GNSS信号が正常に受信できない。
- ナビゲーションシステムが逆走対象道路を走行中であることを特定できない。
- 地図データに情報のない道路を走行している。
- 急激な回転をした。
- 自車位置修正、方位修正が行われた直後。
- 地図更新が行われた直後。
- 高速道路上でナビゲーションシステムの電源をONにした直後。
- リバース走行している。
- 低速で走行している。
- 周囲に分岐車線・合流車線のない高速道路上で逆走している。
- 形状が複雑なIC付近を走行している。
- SA／PA進入路からの逆走以外の方法でSA／PA内から逆走している。（SA／PA内での一方通行の違反やスマートICの逆走など）

• 次のような場合、誤って逆走注意案内が行われることがあります。

- 自車位置を逆走対象道路上と誤認識し、Uターン動作をした。
- 自車位置マークが正しい位置にない。
- 地図データに情報のない道路を走行している。

知 識

- 急激な回転をした。
- 自車位置修正、方位修正が行われた直後。
- 地図更新が行われた直後。
- 料金所手前などのUターンが禁止されている場所で、逆走とはならないUターンを行った。
- 重大事故発生時などの警察・道路管理会社の誘導によりUターンを行った。

高速道路略図

高速道路・都市高速・有料道路の走行中は、高速道路略図を表示します。

(1)	施設の名称を表示します。
(2)	現在地からの距離を示します。
(3)	表示区間をスクロールします。
(4)	施設の簡易地図を表示します。
(5)	表示区間の道路の名称を表示します。
(6)	高速路線マップを表示／解除します。
(7)	自車が走行している区間に戻ります。
(8)	VICS情報を取得している場合は、VICS情報が表示されます。 ☞**P.656**参照
(9)	施設にある設備を表示します。
(10)	渋滞状況を色で示します（赤色：渋滞、橙色：混雑、緑色：順調）。

＜高速道路略図の表示／非表示を変更する＞

メニュー画面の[画面分割]から変更できます。

☞**P.647**参照

知 識

高速道路略図自動表示のON／OFFを設定できます。

☞**P.665**参照

目的地を探す

知 識

一部の機能は音声でも操作できます。

☞P.688参照

地図で探す

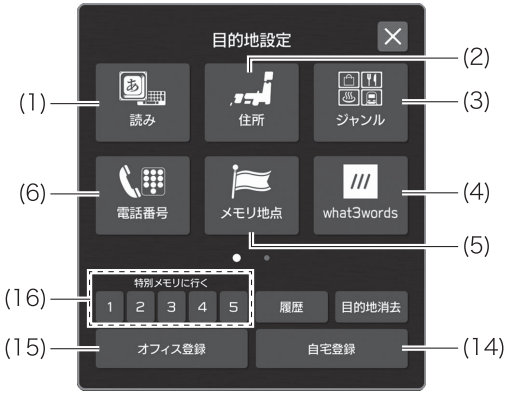
1. 地図画面を操作して、目的地にカーソルを合わせます。
2. [ここに行く]をタップします。
   - カーソルを合わせた地点に施設情報がある場合は、[情報]をタップすることで施設情報画面を表示できます。
3. 地点確認画面が表示されます。

☞P.640参照

目的地設定画面で探す

1. 地図画面で[目的地設定]をタップします。
   - 目的地設定画面は、左右にドラッグまたはフリックすることで切り替えることができます。

<目的地設定画面1>



<目的地設定画面2>

(1)	施設名称や地名から検索した地点の地図を表示します。 ☞**P.636**参照
(2)	住所を指定した地点の地図を表示します。 ☞**P.636**参照
(3)	指定したエリアの周辺から、指定したジャンルで検索した地点の地図を表示します。 ☞**P.636**参照
(4)	what3wordsで検索した地点の地図を表示します。 ☞**P.637**参照
(5)	選択したメモリ地点の地図を表示します。 ☞**P.637**参照
(6)	電話番号で検索した地点の地図を表示します。 ☞**P.637**参照
(7)	フリーワードで検索した地点の地図を表示します。 ☞**P.637**参照
(8)	郵便番号から検索した地点の地図を表示します。 ☞**P.638**参照
(9)	施設のジャンルから検索した地点の地図を表示します。 ☞**P.638**参照
(10)	書籍などに掲載されたマップコードで指定した地点の地図を表示します。 ☞**P.638**参照
(11)	直前にいた地点の地図を表示します。
(12)	過去の目的地履歴から選択した地点の地図を表示します。 ☞**P.638**参照
(13)	目的地を消去します。
(14)	任意の地点を検索し、自宅として登録します。 ☞**P.649**参照
(15)	任意の地点を検索し、オフィスとして登録します。 ☞**P.649**参照
(16)	特別メモリに登録した地点までのルートを検索します。 • 特別メモリを目的地にすると、直ちにルート案内を開始します。 • あらかじめ特別メモリを登録しておく必要があります。 ☞**P.648**参照
(17)	自宅として登録した地点までのルートを検索します。 • 自宅を目的地にすると、直ちにルートを表示します。 • あらかじめ自宅を登録しておく必要があります。 ☞**P.649**参照
(18)	オフィスとして登録した地点までのルートを検索します。 • オフィスを目的地にすると、直ちにルートを表示します。 • あらかじめオフィスを登録しておく必要があります。 ☞**P.649**参照

名称で探す

目的地を名称の読みで探すことができます。

1. [目的地設定]をタップします。
2. [読み]をタップします。
3. 名称をひらがなで入力し、[検索]をタップします。
   - 名称は分かっている部分だけ入力して検索することができます。
4. 目的の地点名称をタップします。
   - [地域]：検索エリアを変更して、検索結果を絞り込むことができます（住所、地域、現在地周辺など）。
   - [ジャンル]：目的地のジャンルを指定して、検索結果を絞り込むことができます。
5. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

住所で探す

目的地の住所で探すことができます。

1. [目的地設定]をタップします。
2. [住所]をタップします。
3. 住所を入力、選択し、[検索]をタップします。
4. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

- [番地指定]で詳細番地を入れなかった場合は、地点確認画面で[周辺住所]をタップすると、詳細な番地を選択することができます。

ジャンルで探す

指定したジャンルの地点を、選択したエリアの周辺から検索できます。

1. [目的地設定]をタップします。
2. [ジャンル]をタップします。
3. 検索したいジャンルをタップします。
4. 詳細なジャンルをタップします。
5. [検索]をタップします。
   - ジャンルを5つまで選択できます。
   - [エリア]：検索エリアを変更して、検索結果を絞り込むことができます（目的地周辺、住所、現在地周辺からエリアを指定し、[セット]をタップします）。
6. 目的の地点名称をタップします。
   - [距離順]または[種類順]から並び順を選択することができます。
   - [ルート沿い考慮]：検索エリアをルート沿いに限定し、検索結果を絞り込むことができます（ルートを設定しているときだけタップすることができます）。
7. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

what3wordsで探す

what3wordsを入力して、目的地を探すことができます。

1. [目的地設定]をタップします。
2. [what3words]をタップします。
3. 3ワードアドレスを入力し、[検索]をタップします。
   - 各ワードの間に「・」を入力します。
4. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

メモリ地点で探す

メモリ地点を登録している場合、登録されているメモリ地点から探すことができます。

- メモリ地点の登録方法

☞P.648参照

1. [目的地設定]をタップします。
2. [メモリ地点]をタップします。
3. 目的地をタップします。
   - [マーク順]、[登録順]または[50音順]から並び順を選択することができます（50音順に正しく並べ替えるためには、各メモリ地点に名称読みを入力する必要があります）。

   ☞P.649参照
4. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

電話番号で探す

目的地を電話番号で探すことができます。

1. [目的地設定]をタップします。
2. [電話番号]をタップします。
3. 電話番号を入力し、[検索]をタップします。
   - 市外局番から入力します。
   - 入力した電話番号に該当する地点がないとき、または個人住宅などのときは、周辺地域の地図が表示されます。
   - 同じ電話番号で複数の地点がある場合、電話番号検索候補表示リスト画面が表示されます。表示したい地点をタップしてください。
4. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

- 入力した電話番号に該当する地点が見つからない場合は、地点確認画面で[住所一覧]をタップすると、周辺の住所を選択することができます。

フリーワードで探す

自由にキーワードを入力して、目的地を探すことができます。

1. [目的地設定]をタップします。
2. [フリーワード]をタップします。
3. キーワードを入力し、[検索]をタップします。
   - 文字を入力するたびに、キーワード候補が表示されます。候補をタップすると、キーワードが自動入力されます。
4. 目的の地点名称をタップします。
   - [距離順]、[名称順]または[一致順]から並び順を選択することができます。

- [現在地周辺]：検索エリアを自車周辺に限定し、検索結果を絞り込むことができます。
- [ルート沿い考慮]：検索エリアをルート沿いに限定し、検索結果を絞り込むことができます（ルートを設定しているときだけタップすることができます）。ルート沿いを考慮したリストを表示しているときは、ルートを通って道なり距離と、ルートに対して左右どちらの方向にあるかを表示します。

5. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

郵便番号で探す

目的地を郵便番号で探すことができます。

1. [目的地設定]をタップします。

2. [郵便番号]をタップします。

3. 郵便番号を入力し、[検索]をタップします。

4. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

- 地点確認画面で[住所一覧]をタップすると、より詳細な住所に絞り込むことができます。

施設で探す

表示されているジャンルから目的地を探すことができます。

1. [目的地設定]をタップします。

2. [施設]をタップします。

3. ジャンルをタップします。

4. エリアをタップします。

5. 目的の地点名称をタップします。

6. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

マップコードで探す

マップコードを入力することで、該当地点を素早く呼び出すことができます。

1. [目的地設定]をタップします。

2. [マップコード]をタップします。

3. マップコードを入力し、[検索]をタップします。

4. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

目的地の履歴で探す

目的地に設定した地点は自動で記憶され、履歴から地図を呼び出すことができます。

1. [目的地設定]をタップします。

2. [履歴]をタップします。

3. 表示したい履歴をタップします。

- [履歴消去]：不要な履歴を選択して消去することができます。
- [前回出発地]：前回の出発地点の地図を表示します。

4. 地点確認画面が表示されます。

☞P.639参照

詳細情報を見る

指定した地点に情報が登録されている場合、詳細情報を表示することができます。この画面からルート探索、地点登録などができます。

目的地設定画面から地点を指定した場合

目的地設定画面から地点を検索したときは、地点確認画面が表示されます。

☞P.634参照

(1)※1	表示地点に収録されている電話番号や、メモリ地点に登録されている電話番号に電話をかけます。
(2)※2	現在の目的地をすべて消去し、表示地点を新しい目的地としてルートを探索します。
(3)※3	表示地点を目的地として、ルートを探索します。
(4)※2	表示地点を目的地に追加して、ルートを探索します。 • 目的地追加画面で、目的地を追加する区間をタップします。 • 目的地は5か所まで追加できます。
(5)	表示地点をメモリ地点に登録します。
(6)※1	住所を選択して、より詳細に地点を絞り込むことができます。
(7)※1	番地を選択して、より詳細に地点を絞り込むことができます。
(8)※1	表示地点と提携している駐車場を表示します。 • 検索される駐車場は、設定した車両情報により異なります。また、車両情報が設定されていないときは、車両情報を考慮せずに、駐車場が検索されます。 －車両情報の設定方法 ☞P.668参照

※1: 地点によっては表示されないことがあります。
※2: 目的地がすでに設定されているときに表示されます。
※3: 目的地が設定されていないときに表示されます。

地図上のマークを指定した場合

地図上のマークにカーソルを合わせ、[情報]をタップすると施設情報画面が表示されます。

- 選択した地点がメモリ地点に登録されているときは、メモリ地点情報画面が表示されます。
- 選択した地点が目的地として登録されているときは、目的地情報画面が表示されます。

＜地図上のマークをタップしたとき＞

＜メモリ地点をタップしたとき＞

＜目的地をタップしたとき＞

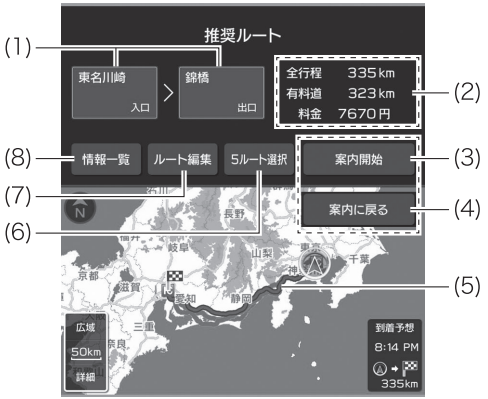
(1)※1	表示地点に収録されている電話番号や、メモリ地点に登録されている電話番号に電話をかけます。
(2)※2	現在の目的地をすべて消去し、表示地点を新しい目的地としてルートを探索します。
(3)※3	表示地点を目的地として、ルートを探索します。
(4)※2	表示地点を目的地に追加して、ルートを探索します。 • 目的地追加画面で、目的地を追加する区間をタップします。 • 目的地は5か所まで追加できます。
(5)	表示地点をメモリ地点に登録します。
(6)	表示しているメモリ地点の登録情報を修正します。 ☞**P.649**参照
(7)	表示している地点をメモリ地点から削除します。
(8)	目的地から消去します。

※1: 地点によっては表示されないことがあります。
※2: 目的地がすでに設定されているときに表示されます。
※3: 目的地が設定されていないときに表示されます。

ルートを設定する

ルート設定画面

目的地を設定すると、現在地から目的地までのルートが探索され、ルート設定画面が表示されます。ルート案内中にルートを変更することもできます。



(1)	有料道路を通るルートの場合、乗降ICを変更できます。 ☞**P.652**参照
(2)	出発地から行き先までのルート概要を表示します。
(3)※1	現在選択されているルートで案内を開始します。 • ロングタップすると、設定したルートのデモ走行を開始します。
(4)※2	ルート案内に戻ります。

(5)	現在選択されているルートを表示します。
(6)※1	「推奨」、「有料優先」、「一般優先」、「距離優先」、「別ルート」からルートを選択します。 • 推奨：時間・距離・道路形状・ルート学習などから、最も推奨するルートを探索します。 • 有料優先：有料道路を優先して通るルートを探索します。 • 一般優先：一般道を優先して通るルートを探索します。 • 距離優先：総距離が一番短くなるルートを探索します。 • 別ルート：推奨となるべく異なる道を通るルートを探索します。
(7)	目的地の並び順変更など、ルートを編集することができます。 ☞P.651参照
(8)	出発地から行き先までの間に通る道路名、区間距離、通過予想時刻などの情報を確認できます。 • をタップすると、選択した地点周辺の地図を確認することができます。

※1: ルート案内開始前に表示されます。
※2: ルート案内中に表示されます。

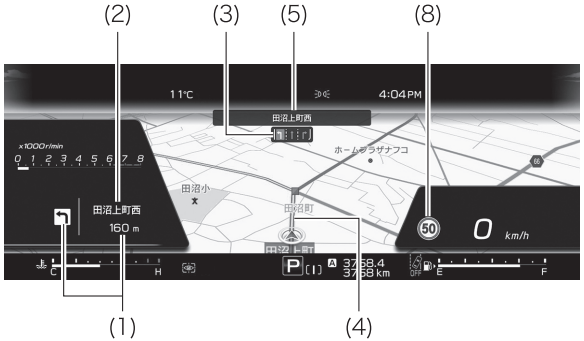
⚠ 警 告

運転中は交通規則に従い、常に道路状況に注意してください。道路上の交通標識が変更されている場合、最新情報がルート案内に反映されない場合があります。

知 識

- 目的地までのルート案内は、必ずしも最短ルート、渋滞していないルートではありません。
- 指定された場所に道路データがない場合、ルート案内されないことがあります。
- 設定した目的地が道路上にない場合、目的地に最も近い道路上の地点が目的地に設定されます。

ルート案内画面



- 液晶メーターを地図モードに設定すると、メーターにも情報を表示できます。

☞P.118参照

(1)	次の案内地点までの距離と曲がる方向を表示します。 メーター画面の「ターンバイターン割り込み表示」をONにすると、メーター内にも表示されます。 ☞P.126参照
(2)	次の案内地点の名称を表示します。
(3)	推奨するレーン（車線）を青色で表示します。
(4)	目的地までのルートを表示します。
(5)	走行中の道路名や交差点名などを表示します。
(6)	目的地までの到着予想時刻／残距離を表示します。 • 目的地を 2 か所設定しているときは、タップするごとに、次の目的地と最終目的地の到着予想時刻／残距離表示を切り替えます。 • 目的地を3か所以上設定しているときは、リストから表示したい目的地をタップし到着予想時刻／残距離表示を切り替えます。
(7)	VICS情報の有無と情報が提供された時刻を表示します。 タップすると、交通情報が発生している場所の地図を表示します。
(8)	走行中道路の制限速度を表示します。

知 識

- 車両が案内ルートから外れたときは、ルートが再探索されます。
- 地図データのない場所では、走行できないルートを案内することがあります。

知 識

- 一部の機能は音声でも操作できます。
  ☞P.688参照
- ルート案内中にApple CarPlayやAndroid Autoの地図アプリケーションのルート案内機能を使用すると、ナビゲーションシステムのルート案内は中止します。

レーンリスト

分岐する交差点の手前（約700 m以内）では、レーンリストを表示します。
レーンリストは、走行する交差点の名称とレーンを4つまで表示し、走行を推奨するレーンを青色で表示します。

＜レーンリストを表示／非表示にする＞

[推奨レーン案内表示]／[推奨レーン案内解除]をタップします。

知 識

推奨レーン案内自動表示のON／OFFを設定できます。
☞P.665参照

交差点拡大図表示

交差点に近づくと、その地点の拡大図を表示します。

＜交差点拡大図を非表示にする＞

拡大図の ✕ をタップします。

＜交差点拡大図を表示する＞

[拡大図表示]をタップします。

知 識

- 地図データに情報のない交差点では、交差点拡大図は表示されません。
- 拡大図を3Dで表示（3D交差点拡大図表示）する／しないを設定できます。
  ☞P.665参照
  ただし地図データに情報がある場合のみ、3D交差点拡大図が表示されます。

立体的な拡大図表示

分岐地点を分かりやすくするために、立体的な拡大図が表示されることがあります。

＜立体的な拡大図を非表示にする＞

拡大図の ✕ をタップします。

＜立体的な拡大図を表示する＞

[拡大図表示]をタップします。

知 識

- 地図データに情報のある地点で表示されます。
- 立体的な拡大図には以下の種類があります。
  - 立体的な交差点
  - 複雑な交差点
  - 高速道路の分岐地点

知 識

－ 高速道路の入口

ターンリスト

目的地までのルート上にある分岐地点の情報を表示します。

(1)	案内ポイントでの案内する方向や、経由地点を表示します。
(2)	分岐する交差点・インターチェンジ・ジャンクション名称・区間の距離・路線番号・経由地点名を表示します。
(3)	施設情報の表示区間をスクロールします。
(4)	走行中の道路名称を表示します。
(5)	自車が走行している区間に戻ります。 • 表示区間をスクロールしているときに表示されます。

<ターンリストの表示／非表示を変更する>

メニュー画面の[画面分割]から変更できます。

☞**P.647**参照

知 識

- 地図データに情報のない交差点・インターチェンジ・ジャンクション名称、路線番号は表示されません。
- ターンリスト自動表示のON／OFFを設定できます。
☞**P.665**参照

メニュー画面

地図画面の表示内容変更や、ルート変更などの操作ができます。

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。

(1)	地図上に表示する施設マークを変更できます。 • 周辺施設画面に表示されているジャンルの中から地図上に施設マークを表示する／表示しないをタップして切り替えます。 • [全解除]：選択したジャンルすべての施設マークを非表示に変更します。 • [表示設定]：周辺施設画面に表示するジャンルを変更できます。 • 5種類まで選択できます。
(2)	メモリ地点の登録、修正、または消去できます。 ☞**P.648**参照
(3)	ターンリストと高速道路略図の表示／非表示を変更できます。 • [ターンリスト解除]：ターンリストを非表示にします。 • [地図&ターンリスト]：ターンリストを表示します。 • [高速道路略図解除]：高速道路略図を非表示にします。 • [地図&高速道路略図]：高速道路略図を表示します。
(4)	探索条件を変えて、目的地までのルートを再探索します。 ☞**P.653**参照
(5)	ルート設定画面を表示します。 ☞**P.641**参照
(6)	ルート案内を中止／再開します。
(7)	VICS情報の表示や、表示の設定を変更できます。 ☞**P.654**参照
(8)	ETC情報を表示できます。 ☞**P.663**参照
(9)	ナビゲーション設定画面を表示します。 ☞**P.664**参照
(10)	地図画面の走行履歴の表示／非表示を変更できます。 • [通った道を表示]：走行履歴を表示します。 • [通った道の表示を解除]：走行履歴を非表示にします。

知 識

一部の機能は音声でも操作できます。
☞**P.688**参照

メモリ地点

自宅、オフィス、特別メモリ、メモリ地点、迂回メモリを登録することができます。

自宅、オフィス、特別メモリ、メモリ地点に登録した地点を目的地に設定できます。

通りたくない地点を迂回メモリとして登録しておくと、そのエリアを迂回するルートを探索します。

自宅、オフィスおよび特別メモリは、走行中でも呼び出すことができます。

自宅、オフィスは1か所まで、メモリ地点は400か所まで、特別メモリは5か所まで、迂回メモリは10か所まで登録することができます。

地点を登録する

現在地をメモリ地点に登録する

1. [地点登録]をタップします。
   - 登録した地点にマークが表示されます。

地図からメモリ地点に登録する

1. 登録したい地図上の地点にカーソルを合わせます。
2. [地点登録]をタップします。
   - 登録した地点にマークが表示されます。

場所を検索して登録する

1. [メニュー]をタップします。
2. [メモリ地点登録・編集]をタップします。
3. 登録したい地点の種類をタップします。
4. [登録]をタップします。
5. 検索方法をタップして、場所を探します。

☞P.634参照

6. [セット]をタップします。
   - 特別メモリを登録するときは、登録先の番号をタップします。
   - 検索した地点が登録され、登録地点編集画面が表示されます。

   登録地点の情報を修正するときは、「登録地点を修正する」の手順6. を参照してください。

☞P.649参照

7. [完了]をタップします。

目的地設定画面からオフィスまたは自宅を登録する

オフィスまたは自宅は、目的地設定画面からも登録できます。

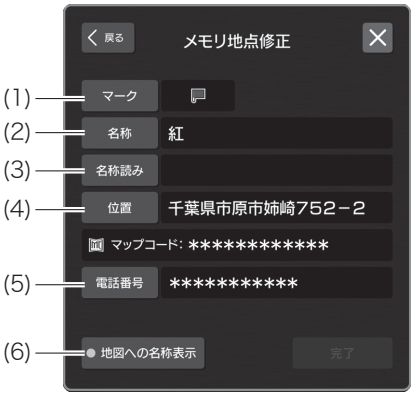
1. [目的地設定]をタップします。
2. [オフィス登録]または[自宅登録]をタップします。
   - オフィスまたは自宅がすでに登録されているときは、登録済みのオフィスまたは自宅を消去してから登録します。
   ☞P.650参照
3. 登録方法をタップします。
   - [現在地周辺]：現在地周辺の地図を表示します。
   - [目的地履歴]：目的地履歴から地図を表示します。
   - [住所指定]：住所を入力して地図を表示します。
   - 表示された地図が目的の地点からずれているときは、地図上で詳細な地点を指定してください。
4. [セット]をタップします。

登録地点を修正する

登録済み地点の名称や位置などの情報を修正することができます。

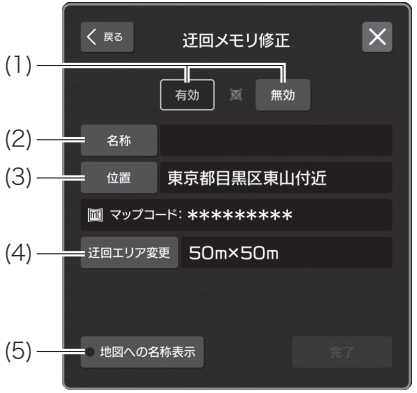
1. [メニュー]をタップします。
2. [メモリ地点登録・編集]をタップします。
3. 修正したい地点の種類をタップします。
4. [修正]をタップします。
5. 修正したい登録地点をタップします（メモリ地点／特別メモリ／迂回メモリ）。
6. 登録地点の情報を修正します。

＜自宅／オフィス／メモリ地点／特別メモリ地点＞



(1)	地図上に表示されるマークを変更します。 • 音声付きマークを選択すると、登録地点から約500 mの位置に近づいたときに効果音を鳴らすことができます。
(2)	登録地点の名称を変更することができます。 • 自宅／オフィスは名称を変更することができません。
(3)	名称の読みかたを変更することができます。
(4)	登録地点の位置を修正することができます。
(5)	登録地点の電話番号を変更することができます。
(6)	地図上に名称を表示する／しないを設定することができます。

＜迂回メモリ＞



(1)	選択した迂回エリアの有効／無効を変更できます。
(2)	登録地点の名称を変更することができます。
(3)	登録地点の位置を修正することができます。
(4)	迂回エリアの範囲を変更することができます。
(5)	地図上に名称を表示する／しないを設定することができます。

7. [完了]をタップします。

登録地点を消去する

登録済み地点を消去することができます。

1. [メニュー]をタップします。

2. [メモリ地点登録・編集]をタップします。

3. 消去したい地点の種類をタップします。

4. [消去]をタップします。

5. 消去したい登録地点をタップし、[消去]をタップします（メモリ地点／特別メモリ／迂回メモリ）。

6. [はい]をタップします。

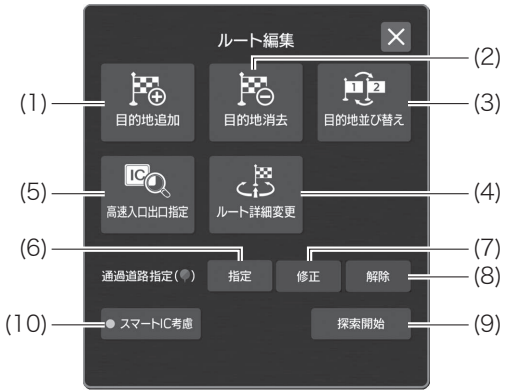
ルートを変更する

知 識

一部の機能は音声でも操作できます。
☞P.688参照

案内中のルートを編集する

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。
2. [全ルート]をタップします。
3. [ルート編集]をタップします。



(1)	目的地を検索して追加することができます。 ☞P.634参照
(2)	設定済みの目的地から不要な目的地を消去することができます。 • [消去]：タップした目的地だけを消去します。 • [全消去]：目的地をすべて消去します。
(3)	設定済みの目的地を並び替えることができます。 • [選択]：タップした順番に並び順を設定します。 • [解除]：タップした地点の並び順設定を解除します。 • [全解除]：並び順の設定をすべて解除します。 • [完了]：設定した並び順で確定します。
(4)	目的地を複数設定しているときは、それぞれの区間で探索条件を選択することができます。 「推奨」、「有料優先」、「一般優先」、「距離優先」、「別ルート」からルートを選択します。 • [推奨]：時間・距離・道路形状・ルート学習などから、最も推奨するルートを設定します。 • [有料優先]：有料道路を優先して通るルートを設定します。 • [一般優先]：一般道を優先して通るルートを設定します。 • [距離優先]：総距離が一番短くなるルートを設定します。 • [別ルート]：推奨となるべく異なる道を通るルートを設定します。 • [探索開始]：設定した条件でルート探索を開始します。
(5)	有料道路を使用するルートが設定されているときは、出口ICまたは入口ICを指定することができます。 ☞P.652参照
(6)	目的地までのルートに、通りたい道路を２か所まで指定して追加することができます。 • 地図上で通りたい道路をタップし、[セット]をタップします。 • 選択した道路の詳細なデータが収録されていない場合は、設定できないことがあります。

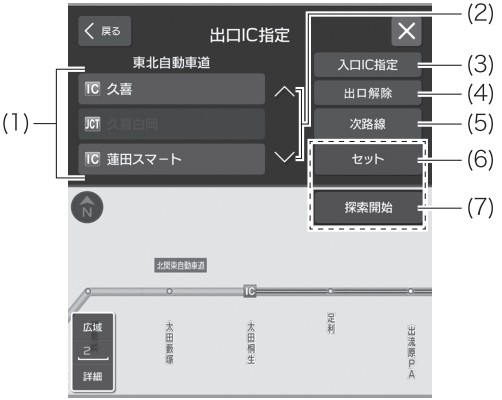
(7)	設定した指定道路を修正することができます。 • 地図上で通りたい道路をタップし、[セット]をタップします。 • 指定道路が2か所設定されているときは、リストから修正したい道路の[修正]をタップします。
(8)	設定した指定道路を解除することができます。 • 指定道路が2か所設定されているときは、リストから解除したい道路の[解除]をタップします。すべての指定道路を解除するときは、[全解除]をタップします。
(9)	ルート設定を変更後、ルート探索を開始します。
(10)	スマート IC を乗降 IC の対象とするルート探索を ON／OFFします。

目的地を追加する

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。
2. [全ルート]をタップします。
3. [ルート編集]をタップします。
4. [目的地追加]をタップします。
5. 目的地の検索方法を選び、追加したい地点の地点確認画面を表示します。
6. [目的地確定]をタップします。
7. 目的地を追加する区間の[ここに追加]をタップします。
   • 目的地は5か所まで追加できます。

乗降IC（出口ICまたは入口IC）を指定する

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。
2. [全ルート]をタップします。
3. [ルート編集]をタップします。
4. [高速入口出口指定]をタップします。



(1)	出口ICまたは入口ICを指定します。
(2)	ICリストをスクロールします。
(3)	出口IC指定画面と入口IC指定画面を切り替えます。
(4)	指定した出口ICまたは入口ICを解除します。
(5)	路線を変更してリストを更新します。
(6)	指定したICを利用するルートに変更します。
(7)※	指定したICを利用するルートを探索します。

※ ルート設定画面から乗降ICを指定する場合に表示されます。
☞P.641参照

知 識

- 設定されているルートで使用されている入口または出口によっては、乗降ICが指定できない場合があります。
- 目的地の追加、削除、または並べ替えをすると、指定した乗降ICは解除されます。
- スマートIC考慮ルート探索が機能している場合は、スマートICを乗降ICとして指定することもできます。

ルートを再探索する

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。
2. [再探索]をタップします。
3. 再探索の方法をタップします。

[推奨]	時間・距離・道路形状・ルート学習などから、最も推奨するルートを探索します。
[有料優先]	有料道路を優先して通るルートを探索します。
[一般優先]	一般道を優先して通るルートを探索します。
[距離優先]	総距離が一番短くなるルートを探索します。
[別ルート]	推奨となるべく異なる道を通るルートを探索します。
[次の 消去]	次の経由地点を消去してルートを探索します。 • 目的地が複数設定されているときに表示されます。
[指定[IC]解除]	次のIC指定を解除してルートを探索します。 • ICを指定しているときに表示されます。
[次の 解除]	次の指定道路を解除してルートを検索します。 • 通過道路を指定しているときに表示されます。
[スマートIC考慮]	スマートICを考慮したルートを探索します。
[一般道から探索]／[有料道から探索]	有料道路と並行している一般道路を走行中に、有料道路の方がルート表示されている、またはその逆のときに、もう一方の道路からルートを探索します。 • 有料道路と一般道路が並行している場所のように、案内可能な別の道路があるときのみ表示されます。また、ルートから外れたときは表示されません。
[回避ルート探索]	気象・災害情報エリアを回避するルートを探索します。 • 目的地案内中に気象・災害情報を受信したときのみ表示されます。

VICS

VICS（Vehicle Information and Communication System：道路交通情報通信システム）は、渋滞や事故・工事・所要時間・駐車場混雑状況などの道路交通情報をリアルタイムに送信し、ナビゲーションなどの車載のモニターに表示するシステムです。また、道路交通情報の提供を通して、安全性の向上・交通の円滑化による環境の保全などを促進することを目的としています。

VICS・交通情報

VICS記号／渋滞情報／規制情報は1.6 kmスケール図以下の地図で表示できます。

(1)	渋滞情報／規制情報	渋滞情報：渋滞の長さと混雑状況を線の長さと色（赤色：渋滞／橙色：混雑／青色：順調／黒色：通行止め）で、地図上に矢印で表示します。 リアルタイムで受信した現況情報は実線で、過去の交通情報を元にした統計情報は点線で表示されます。
(2)	VICS記号	規制情報、駐車場、サービスエリア・パーキングエリアの情報を記号で表示します。 ☞**P.656**参照 地図画面上のVICS記号をタップすると、詳細な情報を表示できます。
(3)	タイムスタンプ	VICS 情報の有無と情報が提供された時刻を表示します。 VICS情報がない場合、[--：--] を表示します。 • ルートを設定していないとき： 灰色で表示します。 • ルートを設定しているとき： ルート上、直近の渋滞状況を色で表示します（赤色：渋滞、橙色：混雑、黄色：規制、白色：渋滞／混雑／規制以外、灰色：未受信または不明）。 タイムスタンプをタップすると、ルート上に発生している交通情報を音声案内で確認することができます。

知 識

緊急情報を受信した場合は、他の情報より優先して割り込み表示します。

新旧ルート比較

VICS情報が受信され、渋滞・規制情報が考慮されたルートが新たに見つかったとき、新ルートと元ルートの比較と分岐点までの距離を表示します。

- [元ルート]：元ルートで案内します。
- [新ルート]：新ルートで案内します。

知 識

ルート比較が表示された後、何も操作しなかった場合は、元ルートで案内します。

VICS情報の表示設定

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。
2. [VICS]をタップします。
3. [表示設定]をタップします。
4. VICS・交通情報を表示する道路をタップします。
   - 全て：高速道路と一般道路に表示します。
   - 高速道のみ：高速道路だけに表示します。
   - 一般道のみ：一般道路だけに表示します。
   - 非表示：交通情報を表示しません。

知 識

一般道のみに設定している場合でも、高速道路略図表示中では、高速道路略図にVICS／交通情報が表示されます。
☞P.633参照

表示するVICS・交通情報を選択する

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。
2. [VICS]をタップします。
3. [表示設定]をタップします。
4. 表示するVICS・交通情報をタップします。
   - 渋滞・混雑（現況情報）：現況情報で渋滞や混雑している道路を表示します。
   - 空き道（現況情報）：現況情報で空いている道路を表示します。
   - 規制情報：規制がある道路を表示します。
   - 駐車場：駐車場情報を表示します。
   - 充電施設：充電施設情報を表示します。
   - 渋滞・混雑（統計情報）：過去の交通情報を元に、渋滞や混雑が予想される道路を表示します。
   - 空き道（統計情報）：過去の交通情報を元に、空いていることが予想される道路を表示します。

知 識

選択した画面スイッチは、スイッチ左横の表示灯が点灯します。再度タップすると表示灯が消灯し選択が解除されます。

VICS記号の種類

VICS情報を受信すると、次のような記号を地図上に表示します。

	事故
	故障車
	路上障害
	工事
	火災
	雨
	凍結
	雪
	作業
	通行止め
	右折禁止
	左折禁止
	直進禁止
	片側交互通行
	チェーン規制
	進入禁止
	対面通行
	車線規制
	徐行
	入口閉鎖
	入口規制
	出口規制

	大型通行止め
	速度規制（数字は制限速度）
	イベント開催中
	イベント開催外
※1	特別警報
※2	気象速報
※1	災害速報
	注意（通常：青色、災害注意：黒色）
	駐車場（空車：青色、混雑：橙色、満車：赤色、不明：黒色）
	駐車場（閉鎖）
	臨時駐車場 （空車：青色、混雑：橙色、満車：赤色、不明：黒色）
	臨時駐車場（閉鎖）
	SA／PA情報 （空車：青色、混雑：橙色、満車：赤色、不明：黒色）
	SA／PA情報（閉鎖）
	充電施設（空車：青色、混雑：橙色、満車：赤色、不明：黒色）

※1: 対象となる範囲を赤色で表示する場合があります。
※2: 対象となる範囲を黄色で表示する場合があります。

緊急情報

緊急情報を受信すると自動で緊急情報画面を表示します。

(1)	次ページ／前ページを表示します。
(2)	緊急情報を受信した地点の地図を表示します。
(3)	緊急情報の詳細な内容を表示します。

地図上の緊急情報対象エリア表示を解除する

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。
2. [VICS]をタップします。
3. [表示設定]をタップします。
4. [緊急情報エリア表示を解除]をタップします。

知 識

緊急情報が更新された場合や、新たに緊急情報を受信した場合は、エリア表示がONになります。

VICSの文字・図形・緊急情報を見る

文字や図形のVICS情報や緊急情報を表示させることができます。

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。
2. [VICS]をタップします。
3. 表示させたい情報をタップします。
   - FM図形：図形情報の広域情報を表示します。
   - FM文字：文字情報の広域情報を表示します。
   - FM緊急：緊急情報を表示します。
   - 割込情報（VICS呼出）：VICSで受信した割り込み情報を表示します。
   - 割込情報（ETC2.0呼出）：ビーコンで受信した割り込み情報を表示します。
4. [FM図形]／[FM文字]をタップしたときは、見たい情報の番号をタップします。

知 識

- 全情報画面が複数のページにおよぶときは、[∧]、[∨]をタップすると、ページを送ります。
- すべての情報が取得されていないときは、現在取得している情報の先頭ページ、または最終ページが表示されます。
- [目次]をタップすると、VICS情報目次画面に戻ります。
- [文字]／[図形]をタップすると、VICS文字情報目次画面とVICS図形情報目次画面を切り替えます。

VICSを設定する

VICS放送局の検出方法を変更することができます。

- 通常は[自動]でご使用ください。自動で受信されない場合のみ、手動で放送局を選択してください。
- 新規エリアについては周波数を手動で選択しないと受信できない場合があります。

1. ⌂をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [ナビゲーション]をタップします。
4. [VICS/ETC設定]をタップします（ディーラーオプションのETC車載器装着時）。
5. [VICS選局]をタップします。
6. 放送局を探す方法をタップします。
   - [自動選局]：現在地エリアのVICS放送局に自動で切り替えます。
   - [手動選局]：VICS放送局を手動で設定します。
   - – 放送局リストから、放送局を選択できます。
   - – [∧]／[∨]をタップし、周波数を設定できます。

知 識

- VICS選局画面では、受信状態を確認することができます。
  - – 受信中：VICSを受信しています。
  - – 検出中：VICSを確認しています。そのままお待ちください。
  - – 未受信：VICSが受信できていません。地域を切り替えるか周波数を変更してください。

VICSの問い合わせ先について

次の内容は、SUBARU販売店にご相談ください。
- VICS車載機の調子や使用方法、受信の可否に関して
- 地図表示の内容に関して
- VICS情報の受信エリアや内容の概略に関して

次の内容は、VICSセンターまでご連絡ください。
- 文字表示の内容に関して
- 簡易図形表示の内容に関して
- VICSの概念、サービス提供エリアに関して

VICSセンター

お問い合わせ窓口：お客様相談窓口
電話番号：0570-00-8831
平日9：30～17：45
（土曜・日曜・祝日・年末年始休暇を除く）

※ 全国どこからでも市内通話料金でご利用になれます。

※ PHS、IP電話等からはご利用できません。

※ お電話のお問い合わせにつきましては、内容の正確な確認のため、録音させていただいております。

FAX番号：03-3562-1719（24時間受付）
ホームページ：
次のアドレスでも連絡先をご覧いただけます。
https://www.vics.or.jp/

連絡先およびアドレスは、予告なしに変更・休止することがあります。ご了承ください。

ETC（ディーラーオプション）

ETCシステムについて

ETC（Electronic Toll Collection）システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。

路側無線装置と車両のETC車載器との間で通信を行い、料金はお客様が登録されたETCカードの引き落とし口座から後日引き落とされます。

ETCを利用する前に

ETCサービスを利用する際には、次の点に注意してください。

⚠ 警 告

安全のため、運転者は走行中にETCカードの抜き差し、およびETC車載器の操作を極力しないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。停車させてから操作をしてください。

⚠ 注 意

その他、ETC車載器を用いたサービス（スマートICなど）には、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

ETCカードを挿入する前

⚠ 警 告

ETCカードの有効期限切れにご注意ください。
ETCカードの有効期限が切れていると、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。お手持ちのETCカードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。

⚠ 注 意

ETCカードは必ずエンジン始動後に挿入してください。ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。

ETCカードを挿入した後

⚠ 警 告

ETCを利用する際は、あらかじめETCカードが確実にETC車載器に挿入されていることと、ETC車載器が正常に作動していることを確認してください。
開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

ETC車載器がETCカードを認証するまでには数秒かかるため、料金所手前でETCカードを挿入すると、エラーの原因となる場合があります。

料金所を通過するときは

⚠ 警 告

- ETC車載器と路側無線装置との通信、あるいはETC車載器とETCカードとの通信が正常に行われなかった場合、ETCレーンに設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 通行料金の請求を受ける料金所で、ETC車線が閉鎖されている場合は、係員のいる車線（一般車線、または混在車線）でETCカードでの支払いが可能です。無理な車線変更は危険ですので、おやめください。
  ETC車線の機器の点検などにより、ETC車線を閉鎖している場合がありますのでご注意ください。
- ETCレーンの進入は、十分な車間距離をとり、約20 km/h以下の安全な速度で進入してください。
- ETCレーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。
- ETCレーンで、開閉バーが開かないなどの理由で停止された場合には、危険ですので絶対に車を後退させないでください。料金所での案内、または係員へ知らせた後、その案内に従ってください。

⚠ 注 意

- ETCカードをETC車載器に挿入し忘れてETC車線を通過された場合などは、速やかに、当該道路を管理する道路事業者（高速道路会社など）に通行の状況を連絡してください。

⚠ 注 意

- 入口料金所のETC車線で通信エラーなどにより、通行券を受け取られた場合には、出口料金所での料金のお支払いは、係員のいる車線（一般車線、または混在車線）で、一旦停車して、ETCカードと通行券を係員にお渡しください。
- 料金をお支払いいただく料金所で異常が発生した場合は、料金所での案内、または係員へ知らせた後、その案内に従ってください。
- 入口料金所をETCで通行した場合、出口料金所でETC車線がご利用できないとき、あるいは設置されていないときは、係員のいる一般車線で一旦停止して、ETCカードを係員にお渡しください。
- 有料道路の利用開始から利用終了までは、同一のETCカードを継続してご使用ください。
  料金所以外にも路側アンテナが設置されている箇所があり、ETCカードには走行中、通行料金の計算に必要な情報が記録されます。途中でカードを入れ替えると正しく料金が計算されない場合があります。
- ETC無線通信ができなかった際に、再度無線通信を行うためのリカバリーアンテナが設置されている料金所があります。対応方法については、料金所係員の指示に従ってください。

知 識

- 領収書はその場では発行されません。通行時、その場で証明が必要な場合は係員のいる車線（一般車線、または混在車線）で一旦停止の上、ETCカードで料金清算し通常の利用明細書を受け取ってください。現在、ETCで無線走行されたときの利用証明書を、インターネットによりお客様のプリンターから印刷できます。詳細は道路事業者にお問い合わせください。
- 均一料金制の有料道路では、出口部に設置された路側無線装置（フリーフローシステム）との通信により料金が払い戻される場合があるため、出口通過までETC車載器にETCカードを挿入しておく必要があります。

スマートICについて

⚠ 警 告

- スマートICは、ETC専用インターチェンジです。所定の方法で車両に取り付け・セットアップされたETC車載器に、有効なETCカードを確実に挿入し、ETCシステムをご利用可能な場合に通行できます。
- 運営時間、出入方向および対象車種などに制約がありますのでご注意ください。
- スマートICでは、車が停止した状態で通信のやりとりが行われ、開閉バーが開くシステムとなっておりますので、必ず開閉バーの手前で一旦停止してください。なお、一旦停止してもバーが開かない場合には、車線に設置された通信開始ボタンを押してください。
- 開閉バーが開かない場合は、開閉バーの手前で停車してインターホンなどで係員を呼び、案内に従ってください。

⚠ 注 意

通行止めなどが実施された場合や道路を管理する上で必要な場合、やむを得ず、予告なく出入口が閉鎖されることがあります。この場合、最寄りのICをご利用ください。

ETCカードの有効期限案内について

ETCカードの有効期限が当月、または切れている場合、音声と画面表示で案内されます。
ETCカードを挿入する、または挿入した状態で車両のプッシュエンジンスイッチをACC、またはONにすると、「ETCカードの有効期限が切れています」などと案内されます。

⚠ 警 告

本機能は、ETCカードの有効期限を確認するための補助手段として使用してください。ETCを使用する前は、必ずETCカードに記載されている有効期限を確認してください。

知 識

この機能を使用するためには、ETC画面で「ETC音声案内」をONにしておく必要があります。
☞P.667参照

ETC画面を表示する

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。
2. [ETC]をタップします。
3. ETC画面が表示されます。
   - [履歴情報表示]：ETCカードの利用履歴を表示します。
   - [登録情報表示]：ETCの登録情報を表示します。

知 識

- [履歴情報表示]は、ETC車載器にETCカードが挿入されていないとタップできません。
- ETCゲート付近で履歴を表示させると、ETCシステムが通信できないことがあります。
- 履歴は最大100件まで表示され、古い履歴から自動で消去されますが、使用するETCカードの種類により最大件数は異なります。
  ETCカード発行会社にご確認ください。

ETCカードの履歴情報を表示する

1. 地図画面で[メニュー]をタップします。
2. [ETC]をタップします。
3. [履歴情報表示]をタップします。
   - 「ETC履歴情報」画面で[詳細]をタップすると、選択した履歴の詳細を確認することができます。
   - ∧／∨：履歴表示を切り替えます。
   - [最新]：最新の履歴に戻ります。

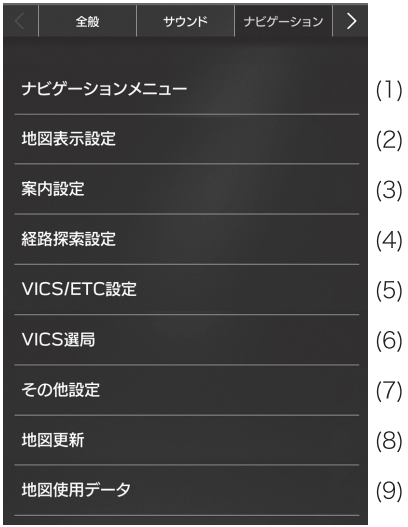
ETC画面のステータス通知について

ETC車載器の状況に応じて、ETCステータス通知表示とイラストが画面に表示されます。

ETC車載器の状況	ETCステータス通知表示
ETCカード挿入済みの場合	「ETCカード挿入済み」
ETCセットアップ完了の場合	「セットアップ完了」
ETCカード未挿入の場合	「ETCカード未挿入」
ETCカード確認中の場合	「ETCカード確認中」
ETC未セットアップの場合	「未セットアップ」
ETCカード異常の場合	「ETCカード異常」
システム異常の場合	「システム異常」

ナビゲーションの設定

1. をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [ナビゲーション]をタップします。
4. 設定する項目をタップします。

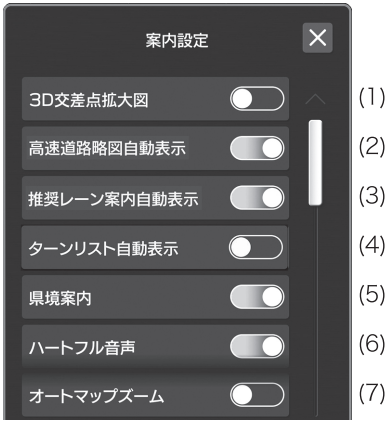


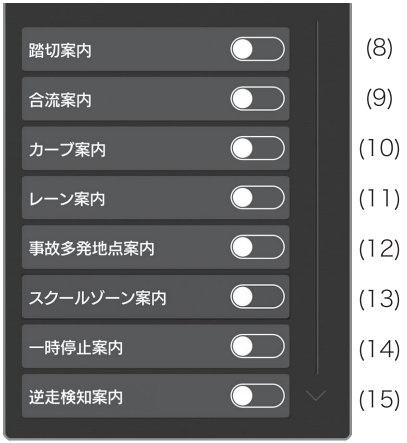
(1)	メニュー画面を表示します。 ☞**P.647**参照
(2)	地図色、文字サイズを設定します。
(3)	案内表示を設定します。 ☞**P.665**参照
(4)	ルートを探索する際の条件を設定します。 ☞**P.666**参照
(5)※1	VICSやETCを設定します。 ☞**P.667**参照
(6)※2	VICS情報の放送局を設定します。 • [自動選局]：現在地の放送局が受信され、移動すると自動で放送局が切り替わります。 • [手動選局]：[∧]もしくは[∨]をタップして周波数を指定するか、受信したい都道府県をタップします。
(7)	自車位置、車両情報などを設定します。 ☞**P.668**参照
(8)	地図データを更新します。 ☞**P.671**参照
(9)	地図データの情報を表示します。

※1: ディーラーオプションのETC車載器を装着している場合
※2: ディーラーオプションのETC車載器を装着していない場合

案内設定をする

1. をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [ナビゲーション]をタップします。
4. [案内設定]をタップします。



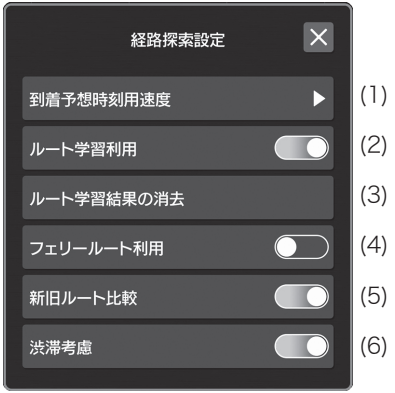


(1)	交差点拡大図を3Dで表示する／しないを設定します。
(2)	高速道路略図を自動で表示する／しないを設定します。
(3)	レーンリストを自動で表示する／しないを設定します。
(4)	ターンリストを自動で表示する／しないを設定します。
(5)	県境を通過したとき、音声案内する／しないを設定します。

(6)	自宅として登録した地点を目的地に設定してルート案内を開始し、到着したとき、「お疲れ様でした」と音声案内する／しないを設定します。 • あらかじめ自宅を登録しておく必要があります。 ☞P.649参照
(7)	ルート案内中に交差点に近づいたとき、自動で地図を拡大する／しないを設定します。
(8)	踏切に近づいたとき、音声案内する／しないを設定します。
(9)	合流地点に近づいたとき、音声案内する／しないを設定します。
(10)	カーブに近づいたとき、音声案内する／しないを設定します。
(11)	レーンに注意が必要なとき、音声案内する／しないを設定します。
(12)	事故多発地点に近づいたとき、音声案内する／しないを設定します。
(13)	学校に近づいたとき、音声案内する／しないを設定します。
(14)	一時停止が必要な交差点に近づいたとき、音声案内する／しないを設定します。
(15)	高速道路・都市高速・有料道路で逆走のおそれがあるとき、警告メッセージと音声で案内する／しないを設定します。

経路探索設定をする

1. ⌂ をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [ナビゲーション]をタップします。
4. [経路探索設定]をタップします。

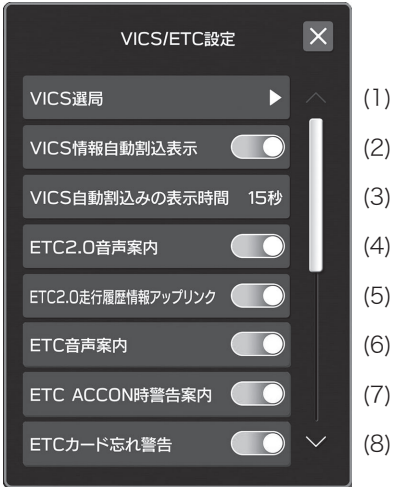


(1)	目的地への到着予想時刻の計算に使用する速度を、道路種別ごとに設定します。
(2)	いつも通る道を考慮したルート探索のON／OFFを設定します。
(3)	ルート学習したデータを消去します。
(4)	フェリーを使用することを考慮したルート探索の ON／OFFを設定します。

(5)	新しいルートが見つかったとき、新旧ルート比較表示する／しないを設定します。
(6)	渋滞を考慮したルート探索のON／OFFを設定します。

VICS／ETCを設定する（ディーラーオプションのETC車載器装着時）

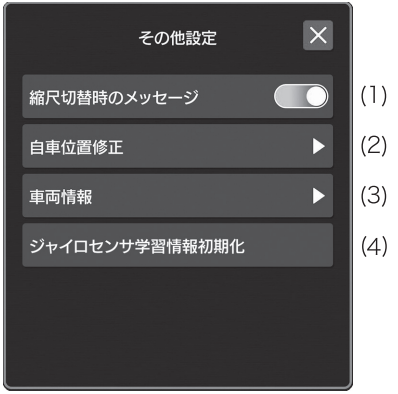
1. をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [ナビゲーション]をタップします。
4. [VICS/ETC設定]をタップします。



(1)	VICS情報の放送局を設定します。 • [自動選局]：現在地の放送局が受信され、移動すると自動で放送局が切り替わります。 • [手動選局]：[∧]もしくは[∨]をタップして周波数を指定するか、受信したい都道府県をタップします。
(2)	緊急情報を受信したとき、緊急情報を表示する／しないを設定します。
(3)	VICS情報の割り込み表示時間を設定します。
(4)	ETC2.0の情報を受信したとき、音声案内する／しないを設定します。
(5)	走行履歴をアップリンクする／しないを設定します。
(6)	ETC車載器を利用するときに、音声出力する／しないを設定します。
(7)	プッシュエンジンスイッチをOFFからACC、またはONにして20秒以上経過したとき、カードの差し忘れなどを音声で警告する／しないを設定します。
(8)	ETCカードが挿入されている状態で、車両のプッシュエンジンスイッチをOFFにしたとき、カードの抜き忘れを音声で警告する／しないを設定します。

その他の設定をする

1. ⌂ をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [ナビゲーション]をタップします。
4. [その他設定]をタップします。



(1)	地図の縮尺変更時に、メッセージ表示する／しないを設定します。
(2)	自車位置を修正します。 • 修正したい位置にカーソルを合わせ [セット] をタップし位置を修正します。 • 方向修正矢印をタップして自車の向きを修正し、[セット]をタップして修正を完了します。
(3)	車両の全長、全幅、全高、ナンバープレートの種別を設定します。

(4)	ジャイロセンサ学習情報を初期化します。メッセージを確認し、［実行］をタップします。

GPS（GLOBAL POSITIONING SYSTEM）について

現在位置表示の誤差について

現在位置の表示は、GPS情報と各種センサー、地図データなどを基に行っていますが、GPS衛星からの電波の受信状態が良くないときや、2個以下のGPS衛星からの電波しか捕捉できないときなどには誤差が生じることがあります。この誤差は、補正などによってなくすことはできません。

ナビゲーションシステムの精度について

このナビゲーションシステムは、衛星信号、車両のさまざまな信号、地図データなどを用いて現在位置を表示しています。しかし、衛星の状態、道路形状、車両状態やその他の状況により、正確な位置が表示されない場合があります。

グローバルポジショニングシステム（GPS）は、米国国防総省が開発・運用しているシステムで、通常4個以上、場合により3個の人工衛星を利用して、正確な現在位置を知ることができるものです。GPSシステムでは、ある程度の誤差を生じます。案内をしている間、常時補正をしていますが、最大100メートル程度の誤差が生じるおそれがあります。一般的に、その誤差は数秒以内に補正されます。

GPS信号が物理的に妨げられると、地図画面上の車両の位置が正確に表示されない場合があります。トンネル内、高層ビルやトラックの近くを通過した場合、あるいはインストルメントパネル上に物を置いている場合などに、GPS信号が受信できないおそれがあります。

GPS衛星が修理中や改良中の場合、信号を送信できないことがあります。

ナビゲーションシステムは、GPS信号の受信状態が良い場合でも、自車位置が正しく表示されなかったり、場合によっては、不適切なルート案内をすることがあります。

- 次の場合、現在位置が正しく表示されないことがあります。
  - 角度の小さなY字路を走行しているとき
  - 曲がりくねった道を走行しているとき
  - 砂、砂利、雪道などの滑りやすい道路を走行しているとき
  - 長い直線道路を走行しているとき
  - 高速道路と一般道が並走しているとき
  - フェリー、車両運搬車などで移動したあと
  - 高速走行中、長距離のルート探索を行ったとき
  - 切り返しを繰り返し行ったあとや、駐車場のターンテーブルで回転をしたあと
  - 屋内の駐車場を出るときや駐車するとき
  - ルーフキャリアを装着したとき
  - タイヤチェーンを装着して走行しているとき
  - タイヤが摩耗しているとき
  - タイヤ（1本、または複数）を交換したあと
  - 工場出荷時の仕様よりも小さい、または大きいタイヤを使用しているとき
  - 4本のタイヤのいずれかが指定の空気圧でないとき
- 次の場合、不適切なルート案内をすることがあります。
  - ルート案内中の交差点で曲がらなかったとき
  - 複数の目的地を設定して、それらのいずれかを取り消した場合、前の目的地に戻って自動再探索することがあります。
  - ルート案内をしていない交差点で曲がったとき
  - ルート案内をしていない交差点を通過するとき
  - 再探索時のルートの表示が、次の右左折までに間に合わないことがあります。
  - 高速走行時の再探索は、時間がかかることがあります。再探索中、迂回路を表示することがあります。
  - 再探索しても、ルートが変らないことがあります。
  - Uターン禁止の場所で、Uターンするルートの案内が行われることがあります。
  - 1つの場所に複数の名称がある場合、それらを同時に案内することがあります。
  - ルート探索できないとき
  - 目的地へのルートに砂利、未舗装路や細街路が含まれている場合、ルート案内が表示されないことがあります。
  - 目的地が、通りの反対側に表示されることがあります。
  - ルートの一部に、時間や季節やその他の理由によって車両の進入を禁止する規制があるとき
  - ナビゲーションシステムに収録されている地図データが最新でない場合、正しい道路が表示されないことがあります。

知 識

タイヤの回転データを使用しており、車両の工場出荷時のタイヤで動作するように設計されています。当初装着されていたタイヤの直径よりも大きい、または小さいタイヤを装着すると、現在位置が不正確に表示されることがあります。タイヤの空気圧もタイヤの直径に影響するため、4本すべてのタイヤの空気圧が正しいことを確認してください。

⚠ 注 意

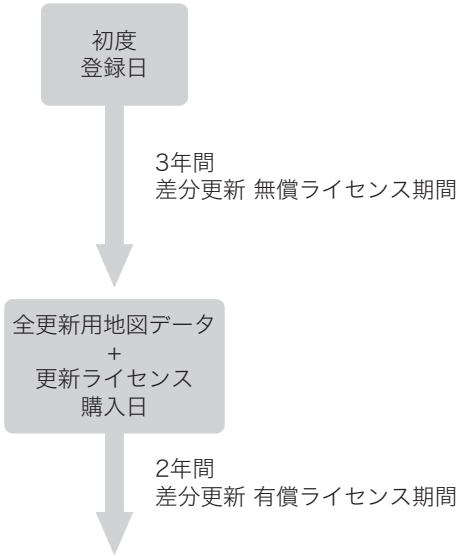
窓に着色加工をすると、GPS信号の受信が妨げられるおそれがあります。窓の着色には、多くの場合金属物質を含んでおり、それによってインストルメントパネル内のGPSアンテナの受信が妨げられます。着色加工しないことを推奨します。

地図データについて

地図更新用の地図データは、差分更新用地図データと全更新用地図データの2種類あります。更新方法はそれぞれのデータで異なります。

- 差分更新用地図データ：新規開通など変更された道路情報が収録されている地図データです。
  更新方法：通信モジュール（DCM）を使用して更新できます。
  ☞P.673参照
  配信頻度：月に1回配信されます。
  更新ライセンス：初度登録日から3年間は無償で差分更新サービスを利用できます。無償期間経過後は、地図ポータルサイト（https://subaru-maps.com）から全更新用地図データ＋更新ライセンスを購入することで2年間の差分更新サービスを利用できます。

※ 差分更新サービスの有効期間中に追加で購入することはできません。



- 全更新用地図データ：変更された道路情報に加え、ナビの目的地設定に便利な地名・施設情報（飲食店、ガソリンスタンドや観光地名および電話番号など）が収録されている詳細な地図データです。
  更新方法：地図ポータルサイト（https://subaru-maps.com）から全更新用地図データを購入して更新できます。
  ☞**P.674**参照
  配信頻度：1年に2回配信されます。

知 識

- 地図データは日本全国を対象としています。
- 道路・地名・施設情報・料金などは日々刻々と変化しており、その性質上、道路の抜け、道路形状・道路名称・施設名称・料金の間違いなどを完全にゼロにすることはできません。
- 地図更新ライセンスの有効期限は、通信モジュール（DCM）を使ってサーバーに接続するとセンターインフォメーションディスプレイで確認することができます。
- 全更新用地図データと差分更新用地図データの配信タイミングの違いにより、全更新用地図データの道路情報が最新とならない場合があります。地図データを全更新した後は、差分更新も行ってください。

購入できる地図データについて

地図ポータルサイトから次の地図データを購入できます。

- 全更新用地図データ＋更新ライセンス
  全更新用地図データに加えて、2年間継続して差分更新用地図データを取得することができます。
  – 無償更新期間経過後に購入可能です。
  – 全更新用地図データをお車にインストールすることで差分更新サービス（購入日から2年間）を利用できます。購入後、速やかにインストールしてください。
  – 差分更新用地図データは、通信モジュール（DCM）を使用してダウンロードおよびインストールしてください。
- 全更新用地図データのみ
  全更新用地図データのみのご購入です。

地図を更新する

通信モジュール（DCM）を使って地図を差分更新する

■地図画面から更新する

1. ⌂をタップします。
2. [地図]をタップします。
3. 地図画面の[地図更新]に New が表示されていることを確認します。
4. [地図更新]をタップします。
5. [更新開始]をタップします。
   - [自動更新]をONにしておくと、通信モジュール（DCM）に接続された状態で更新地図を検知したときに地図を自動更新します。
6. 更新完了後、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてお車から降ります。
7. 運転席のドアを閉めてロックし、キーの干渉を防ぐためにお車から3 m以上離れます。
8. 5分以上経過してから再度エンジンをかけます。
   - 新しい地図データが適用されます。

■設定画面から更新する

1. ⌂をタップします。
2. [設定]をタップします。
3. [ナビゲーション]をタップします。
4. [地図更新]をタップします。
5. [差分更新]をタップします。
6. [更新開始]をタップします。
   - [自動更新]をONにしておくと、通信モジュール（DCM）に接続された状態で更新地図を検知したときに地図を自動更新します。
7. 更新完了後、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてお車から降ります。
8. 運転席のドアを閉めてロックし、キーの干渉を防ぐためにお車から3 m以上離れます。
9. 5分以上経過してから再度エンジンをかけます。
   - 新しい地図データが適用されます。

知 識

- 更新されなかった差分更新用地図データは、次に配信されるデータとまとめて更新することができます。
  差分更新用地図データをまとめて更新すると、データ容量が大きくなり更新時間が長くなるため、配信されるたびに更新することをお奨めします。
- 更新中にナビゲーション機能を使用することができます。

USBメモリーを使って地図を全更新する

地図データが収録されたUSBメモリーを使用して全更新用地図データを更新します。
更新するときは、次のものをご準備ください。

- パソコン
- インターネットが可能な環境
- USBメモリー（空き容量が64GB以上）
- クレジットカード

1. センターインフォメーションディスプレイでリクエストコード（20桁）を確認します。
   - 「設定画面から更新する」の手順1.～4.を参照してください。
   ☞P.674参照
   - リクエストコードはメモをしておいてください。
2. パソコンで地図ポータルサイトにアクセスし、地図データを購入します。
   - 地図データを購入すると、アクティベーションコード（20桁）が発行されます。アクティベーションコードはメモをしておいてください。
   - 購入した地図データを地図ダウンロードアプリを使ってUSBメモリーに収録してください。
   - 詳細は、地図ポータルサイトのお客様向け操作マニュアルを参照してください。
3. 地図データを収録したUSBメモリーをお車に接続します。
   ☞P.539参照
4. ⌂をタップします。
5. [設定]をタップします。
6. [ナビゲーション]をタップします。
7. [地図更新]をタップします。

8. [USB全更新]をタップします。
9. 地図ポータルサイトで発行したアクティベーションコードを入力します。
   - インストールが開始されます。
10. インストール完了後、通信モジュール（DCM）に接続して差分更新用地図データの有無を確認します。
    - 差分更新用地図データがある場合は、そのまま更新してください。
11. 更新完了後、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてお車から降ります。
12. 運転席のドアを閉めてロックし、キーの干渉を防ぐためにお車から3 m以上離れます。
13. 5分以上経過してから再度エンジンをかけます。
    - 新しい地図データが適用されます。

おことわり

地図データの更新について記載されている情報は、本書の発行時点のものです。サービス内容は変更または終了されることがありますので、あらかじめご了承ください。詳細については地図ポータルサイト（https://subaru-maps.com）をご覧ください。

SUBARU STARLINKコネクティッドサービス

SUBARU STARLINK コネクティッドサービスについて

SUBARU STARLINKコネクティッドサービスは、通信システムによってお車とお客様、オペレーターをつなぎ、お車を安全・便利にお使いいただくことをサポートする機能です。
SUBARU STARLINKコネクティッドサービス装備車は全車無料で基本機能を利用できます。また、ご利用申し込みをするとその他のサービス（有料）が利用できます。

⚠ 警 告

SUBARU STARLINKコネクティッドサービスは、電波による通信を行います。通信に使用する通信モジュール（DCM）は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。

- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方は、インストルメントパネル周辺やルーフに植込み型心臓ペースメーカーなどを近づけない。
  - 通信モジュール（DCM）の電波により植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 医療用電気機器を装着されている方は医療用電気機器製造業者などに事前に確認する。
  - 医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 通信モジュール（DCM）を分解したり改造したりしない。

知 識

- 通信費のご負担はありません。
- 通信にはKDDI株式会社のLTE方式を利用しています。サービスエリアについては同社サービスエリア図を参照してください。ただし、状況によってはサービスエリア内でも正常に通信できないことがあります。また、通信に使用する電波が変更または終了された場合、SUBARU STARLINKコネクティッドサービスが利用できなくなります。
- SUBARU STARLINKコネクティッドサービスの提供にあたり、株式会社ＳＵＢＡＲＵおよびスバルリビングサービス株式会社は、個人情報の保護に関する法律および各社の個人情報保護方針に則り個人情報を取り扱います。詳細は「個人情報の取扱いについて（マイスバル／SUBARU STARLINKサービス／DCM通信サービス）」（https://www.subaru.jp/connected/privacy_policy/）を参照してください。
- SUBARU STARLINKコネクティッドサービスは、GPSによる位置情報を取得し、サービスに利用します。
☞P.669参照

知 識

- SUBARU STARLINKコネクティッドサービスは、ご利用申し込みをしていない場合でも、位置情報を取得することがあります。位置情報を取得する機能、位置情報の取得のタイミングおよび取得する情報の項目など、詳細は「個人情報の取扱いについて（マイスバル／SUBARU STARLINKサービス／DCM通信サービス）」（https://www.subaru.jp/connected/privacy_policy/）に記載されていますので、必ずご確認ください。

基本機能

リコールお知らせ機能

リコールやサービスキャンペーンのお知らせなど、SUBARUからのお知らせを、センターインフォメーションディスプレイに表示します。

知 識

- 車両の通信環境などにより、通知が届かないことがあります。
- 最新の情報は、SUBARUホームページのリコール情報（https://www.subaru.co.jp/recall/）をご確認ください。

通信エラーコード

通知を表示しようとしたときに、エラーコード（「1XX」の3ケタの数字）を表示することがあります。
時刻がずれていると受信できないことがあります。センターインフォメーションディスプレイの時刻を確認してください。
時刻がずれている場合は、自動調整されるのを待つか、正確な時刻に設定してください。
☞P.125参照
また、電波状況によって受信できないことがあります。電波状況が改善されれば、通知を受信できる状態になります。

知 識

- 時計を自動に設定していても、電波状況によって時刻がずれる場合があります。電波状況が改善されれば、自動で調整されます。

知 識

- 何度もエラーが出る場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

ソフトウェア更新

コネクティッドサービスに関するソフトウェアの更新がある場合は、プッシュエンジンスイッチをOFFにしたときにセンターインフォメーションディスプレイに表示します。
画面の指示に従って更新してください。
更新が完了すると、完了画面を表示します。

知 識

- ソフトウェアの更新中は更新中画面が表示され、SUBARU STARLINKコネクティッドサービスを利用できません。
- 更新開始後は、そのままお車を離れることができます。更新中でも画面は自動的にOFFになり、次にプッシュエンジンスイッチをONにしたときに更新状況を画面に表示します。
  - 経過時間によっては更新が完了しておらず、更新中画面を表示することがあります。
- プッシュエンジンスイッチをONにしてしばらく待っても更新中のまま更新完了画面が表示されないときは、SUBARU販売店にご相談ください。

ご利用について

以下のパッケージを利用できます。
- つながる安心ベーシック
- つながる安心プレミアム（オプション）
- リモートサービス+（オプション）
- 車内Wi-Fi（SUBARU クルマ de ネット）（オプション）

マイスバルアプリ、マイスバルのwebページからご利用の申し込み、更新、利用終了の手続きができます。

知 識

- ご利用の申し込みには、マイスバルへの登録が必要です。
- 各オプションの申し込み・ご利用には、つながる安心ベーシックへの加入が必要です。

ご利用の申し込み

1. マイスバルアカウントにログインします。
2. SUBARU STARLINKコネクティッドサービスの登録画面を開きます。
3. 画面の指示に従って販売店を選択し、必要事項を入力します。
4. 利用規約、プライバシーポリシーを確認し、同意します。
5. 利用したいパッケージを選択します。
6. 必要事項を入力し、申し込みを完了します。

知 識

- ご利用可能になると、オーバーヘッドコンソールのステータスランプが緑色に点灯します。
- 申し込み後にご利用パッケージを追加・削除することもできます。
- ステータスランプが赤色に点灯しているときは、故障が考えられます。SUBARU販売店にご相談ください。

更新・利用終了

1. マイスバルアカウントにログインします。
2. SUBARU STARLINKコネクティッドサービスのTOP画面を開きます。
3. アカウント詳細画面から、手続きしたい項目を選択します。
4. 画面の指示に従って必要事項を入力し、手続きを完了してください。

⚠ 注 意

- お車を手放す前に、必ず利用終了手続きを行う。
  - 利用終了手続きをして3日以上経ってもステータスランプが点灯し続けるときは、SUBARU STARLINKサポートセンター（0120-452910）にご相談ください。

知 識

- 更新日が近づくと、マイスバルアプリまたはメールによって通知します。
- ご不明点はSUBARU STARLINKのwebページ（https://www.subaru.jp/connected/）をご確認いただくか、SUBARU STARLINKサポートセンター（0120-452910）にお問い合わせください。
  受付時間は9:00～18:00（年中無休）です。

つながる安心ベーシック

先進事故自動通報（ヘルプネット）

プッシュエンジンスイッチがONのとき、事故などで衝突したりSRSエアバッグが作動したりすると、自動でヘルプネットセンターに位置情報を送信し、通報します。
また、ドライバー異常時対応システムによって車両が停止したときにも自動で通報します。
☞P.492参照
本機能は交通事故発生時の車両データを分析して重傷の確率を推定し、ドクターヘリやドクターカーの早期出動判断を行う救急自動通報システム「D-call Net®」に対応しています。

通報が始まるとセンターインフォメーションディスプレイに通信中の画面を表示し、通信完了後に通話状態になります。
通報中は緑色のステータスランプが点滅します。
オペレーターに事故やけがの状況、および警察や消防への通報が必要かどうかをお伝えください。

運転者からの応答がないときは意識不明など緊急を要する状況と判断し、オペレーターが消防や警察に通報し救急車などの出動を要請します。

通話が終了してから約1時間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの問い合わせに備え、連絡を受けると自動的にハンズフリー通話でつなぐ待機状態になります。

⚠ 警 告

電波状況が悪い、または圏外のときや回線が混雑しているときは通報できないことがあります。また、事故の衝撃や電力不足により作動しなくなることがあります。

⚠ 注 意

通報中に赤色のステータスランプが点滅した場合は、システムに異常があるおそれがあります。SUBARU販売店にご相談ください。

知 識

- 衝突の状況によっては、自動通報しないことがあります。必要に応じてSOSコールで通報してください。

知 識

- 自動通報が始まると、車両側からのキャンセルはできません。
- 待機状態の間は、SUBARU iコールは使用できません。
- ヘルプネット® は株式会社日本緊急通報サービスの登録商標です。
- D-Call Net® は、認定NPO法人 救急ヘリ病院ネットワーク（HEM-Net）の登録商標です。
- オペレーターによるサービスは株式会社日本緊急通報サービスによって提供されます。
- 緊急車両出動時に通報車両を発見できない場合は、サービス契約者様に確認のご連絡をすることがあります。

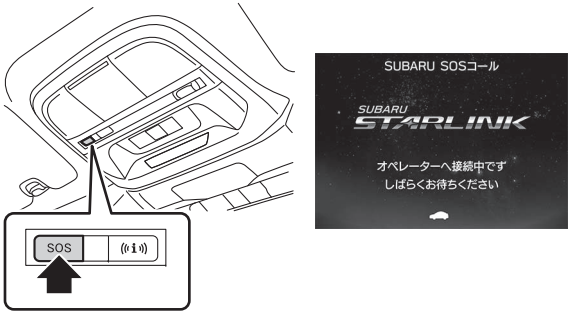
つながる安心プレミアム

SUBARU SOSコール

急な体調不良で運転が困難になったときなどに、緊急車両の手配を要請できます。同時に車両の位置情報を送信します。

使いかた

1. プッシュエンジンスイッチがONのとき、オーバーヘッドコンソールにある“SOS”ボタンを約2秒以上長押しして離します。



2. 通話状態になったら、オペレーターに状況を伝えます。

オペレーターが必要に応じて救急車などの出動を要請します。
通話中は、緑色のステータスランプが点滅します。
運転者からの応答がないときには救急車などの出動を要請する場合があります。
通話が終了してから約1時間は、オペレーターおよび救援機関からの問い合わせに備え、連絡を受けると自動的にハンズフリー通話でつなぐ待機状態になります。

⚠ 警 告

電波状況が悪い、または圏外のときや回線が混雑しているときは通報できないことがあります。また、事故の衝撃や電力不足により作動しなくなることがあります。最寄りの公衆電話などから110番、119番に通報してください。

⚠ 注 意

通報中に赤色のステータスランプが点滅した場合は、システムに異常があるおそれがあります。SUBARU販売店にご相談ください。

知 識

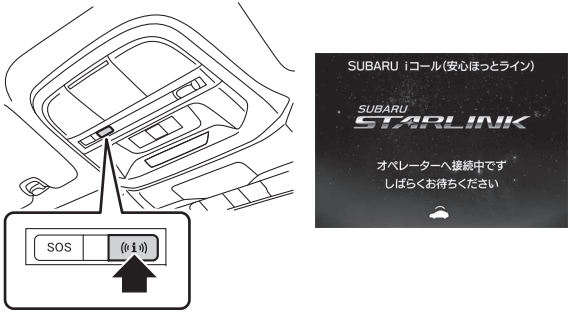
- 緊急時以外は“SOS”ボタンを操作しないでください。SUBARU SOSコールで通報を始めると、車両側からのキャンセルはできません。誤操作などで通報してしまったときは、オペレーターにキャンセルを依頼してください。不要な出動をさせた場合、費用請求や、関連法規による処罰の対象となることがあります。
- 待機状態の間は、SUBARU iコールは使用できません。
- 待機状態の間にプッシュエンジンスイッチをOFFにしても、待機状態を継続します。
- オペレーターによるサービスは株式会社プレミア・エイドによって提供されます。

SUBARU iコール（安心ほっとライン）

車両が故障したときなどに、コールセンターに連絡できます。同時に車両の位置情報を送信します。

使いかた

1. プッシュエンジンスイッチがONのとき、オーバーヘッドコンソールにある“i”ボタンを押します。



2. 通話状態になったら、オペレーターに状況を伝えます。オペレーターが必要な手配をします。
   通話中は、緑色のステータスランプが点滅します。
3. 車両側から通話を終了するときは、“i”ボタンを約2秒間押して離すか、センターインフォメーションディスプレイの[通話終了]をタップします。

⚠ 注 意

通話中に赤色のステータスランプが点滅した場合は、システムに異常があるおそれがあります。SUBARU販売店にご相談ください。

知 識

“i”ボタンを押さずに、直接お電話でSUBARU安心ほっとライン（0120-782215）にご連絡いただくこともできます。

セキュリティアラート

盗難警報装置を「作動あり」にしている場合、盗難警報装置が作動するとマイスバルアプリやEメールで通知します。
☞P.197参照

知 識

14日以上プッシュエンジンスイッチをONにしていないときは、セキュリティアラートは作動しません。

故障診断アラート

警告灯などが点灯したとき、マイスバルアプリやEメールでお知らせします。

警告灯などが点灯してから3日経っても状況が変わっていない場合、再度お知らせします。

故障診断アラートが作動すると、故障内容と車両の位置情報が株式会社ＳＵＢＡＲＵに送信されます。

知 識

- 先進事故自動通報（ヘルプネット）が作動した場合、30日間は警告灯などが点灯しても通知しません。
- 点検や修理などの作業中に警告灯などが点灯した場合、通知することがあります。
- SUBARU販売店の近くでは、通知しないことがあります。

リモートサービス+

専用アプリ「SUBARUリモート」をお手持ちの端末にダウンロードすると、お車の操作や状態の確認ができます。

知 識

- 次のようなときは、作動しません。
  - 14日以上プッシュエンジンスイッチをONにしていないとき
  - GPS信号が受信できないとき
  - 電波状況が悪いとき
- 電波状況や利用する端末によっては、応答に時間がかかることがあります。

ドアロック&アンロック

ドアの施錠・解錠ができます。

1. SUBARUリモートにログインします。
2. 施錠または解錠のアイコンを選択します。
   解錠を選択したときは、「全てのドア」または「リヤゲートのみ」を選択します。
3. PINコードを入力します。

知 識

次のようなときは、作動しません。

- プッシュエンジンスイッチがACCまたはONで施錠しようとしたとき
- 走行中のとき

マイカー検索

お車の現在位置を地図上に表示して確認することができます。

1. SUBARUリモートにログインします。
2. 「地図」を選択します。
3. 「マイカー」を選択します。
4. PINコードを入力します。

目的地ナビ送信

SUBARUリモートから、目的地を検索し、お車のナビゲーションシステムに送ることができます。

☞P.626参照

1. SUBARUリモートにログインします。
2. 目的地を検索し、選択します。複数設定したい場合は、すべて選択します。
3. [車両に送信する]を選択します。
4. お車のセンターインフォメーションディスプレイの表示を確認し、[はい]をタップします。目的地が設定されます。

知 識

- SUBARUリモートでは、目的地を最大5か所まで選択できます。ただし、お車のナビゲーションシステムで目的地を設定している場合、お車のナビゲーションシステムの登録数の上限を超える数は送れません。
- ルート案内中でも、目的地の送信は可能です。送信後、センターインフォメーションディスプレイで[経由地追加]または[目的地変更]を選択します。

知 識

- センターインフォメーションディスプレイで[中止]をタップすると、送信した目的地を無視します。

車両ステータスチェック

お車の状態をSUBARUリモートに表示します。

1. SUBARUリモートにログインします。
2. 「ステータス」を選択します。
3. 確認したい箇所のアイコンを選択します。

リモートエアコン

SUBARUリモートから、エアコンの操作ができます。操作をすると、自動で車両が施錠され、エンジンがかかります。

1. SUBARUリモートにログインします。
2. エアコンのアイコンを選択します。
3. エアコンの設定をします。次の機能の作動、タイマー作動、停止および設定ができます。
   - エアコン
   - シートヒーター
   - リヤウインドウデフォッガー（フロントワイパーデアイサー、ヒーテッドドアミラーと連動）
4. PINコードを入力します。

警 告

リモートエアコンを使用するときは次のことを必ずお守りください。
守らないと思わぬ事故につながり、車両火災や重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車庫や屋内などの換気の悪いところで使用しない
- 車両周辺の安全を十分に確認できる場所で使用する
- 燃えやすいもの（オイルや枯れ葉等）の近くで使用しない
- お車にボディカバーをかけたまま使用しない
- 車内に人やペットを載せたまま使用しない

注 意

リモートエアコンを使用するときは周囲の安全を十分に確かめてください。以下の機能が自動的に作動し、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

- キー連動格納ドアミラー
  ☞P.223参照
- オートワイパー
  ☞P.278参照

知 識

- 設定した作動時間（5分もしくは10分）が経過すると、自動的にエンジンとエアコンが停止します。

知 識

- リモートエアコンの作動時間は合計で20分間です。例えば10分作動を2回繰り返すと、それ以降はリモートエアコンが使用できなくなります。その場合、車のプッシュエンジンスイッチをONにしてその後OFFにすると、再度リモートエアコンを使用できます。
- 次のようなときは作動しません。
  - プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき
  - ドア（ボンネット・リヤゲートを含む）が開いているとき
  - 燃料残量警告灯が点灯しているとき
  - 盗難警報装置が作動しているとき
  - セレクトレバーが“P”以外のとき
  - 他のリモート操作を処理中のとき
- 作動中に次の操作をすると、エンジンおよびエアコンが停止します。
  - ドアまたはボンネットを開ける
  - ブレーキを踏む
  - プッシュエンジンスイッチを押す
- 電波状況や利用する端末によっては、応答に時間がかかることがあります。
- 路上で使用しないでください。道路交通法違反となる場合があります。
- 一部地域では、車両の停止中にエンジンをみだりに稼働させた場合、条例に抵触し、罰則を受けることがあります。十分ご注意ください。

知 識

- リモートエアコンを使用すると、オーディオが自動的に作動することがあります。周囲への迷惑とならないよう配慮して使用してください。

スマートウォッチ連携

SUBARUリモートをお手持ちのスマートウォッチにダウンロードすると、スマートウォッチから次の機能を使用できます。

- ドアロック＆アンロック
- 車両ステータスチェック
- リモートエアコン

車内Wi-Fi（SUBARU クルマ de ネット）

お車を無線LANのアクセスポイントとして使用し、インターネットに接続できます。

1. センターインフォメーションディスプレイのホーム画面から、[設定]をタップします。
2. 画面上部のボタンで[全般]を選択します。
3. [SUBARU クルマ de ネット]をONにします。
4. Wi-Fi名称など、必要な項目を入力します。

設定が完了したら、デバイスをWi-Fiに接続してください。

知 識

- デバイスは8個まで接続できます。
- 一定期間内に大量の通信をした場合、通信速度制限がかかることがあります。
- プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときにパッケージを申し込んだ場合は、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにし、約5分間以上待ってから再始動すると車内Wi-Fiが有効になります。
- Apple CarPlayと車内Wi-Fiを同時に利用することはできません。

オープンソースソフトウェア情報

通信モジュール（DCM）には、オープンソースソフトウェア（OSS）を搭載しています。
使用許諾やソースコードは以下のURLから取得できます。
https://regulation.subaru.co.jp/oss/

おことわり

SUBARU STARLINKコネクティッドサービスについて記載されている情報は、本書の発行時点のものです。サービス内容は変更または終了されることがありますので、あらかじめご了承ください。詳細についてはSUBARU STARLINKコネクティッドサービスのホームページ（https://www.subaru.jp/connected/）をご覧いただくか、SUBARU STARLINKサポートセンター（0120-452910）にお問い合わせください。

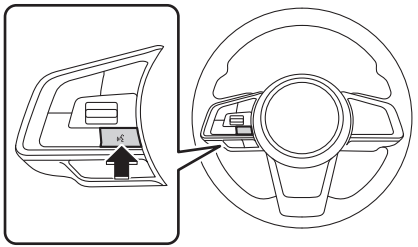
音声操作システム

音声操作システムの操作

音声操作システムは音声認識コマンドを使用して、ナビゲーション、オーディオ、電話などの操作を行うことができます。

音声認識コマンドについては「音声認識コマンドリスト」を参照してください。
☞**P.690**参照

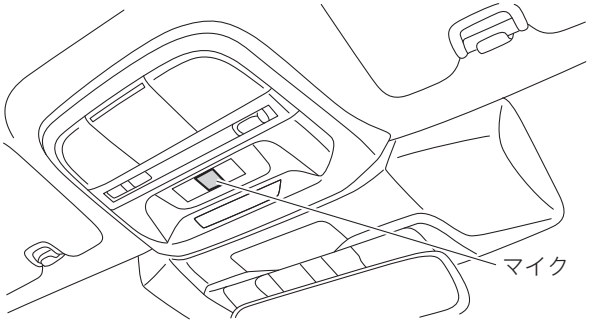
ステアリングスイッチ



- トークスイッチを押すと、音声操作システムを開始します。
- トークスイッチを押し続けると、音声操作システムを終了します。
- Apple CarPlayまたはAndroid Autoに接続しているときは、トークスイッチを押し続けると、スマートフォンの音声認識システムを開始します。
- Apple CarPlayまたはAndroid Autoに接続していないときは、トークスイッチを押し続けると、Bluetooth携帯電話／機器の登録画面が表示されます。

☞**P.549**参照

マイク



- マイクに直接話しかける必要はありません。

知 識

- ビープ音が聞こえてから発話してください。

知 識

- 次の場合、音声認識コマンドを認識しないことがあります。
  - 早口で発話したとき
  - 発話する音量が小さかったり、大き過ぎるとき
  - ドアガラスを開けて走行しているとき
  - 音声操作システムを使用中に、同乗者が会話しているとき
  - エアコンの送風音が大きいとき
  - エアコンの吹き出し口から出た風が、直接マイクに当たっているとき
- 次の場合、音声認識コマンドを認識できず、音声操作システムが使用できないことがあります。
  - 音声認識コマンドが誤っていたり、不明瞭なとき。表現やアクセント、話しかたによっては、音声操作システムで認識されないことがあります。
  - 風切り音など、周囲の音が大きいとき

音声操作システムを使用する

1. トークスイッチを押します。
   - 音声操作開始画面が表示された後、音声案内を開始します。
2. コマンドを発話します。

- [ポピュラー]をタップすると、よく使われる機能を例にコマンドの発話方法を確認することができます。
- [ヘルプ]をタップするか「ヘルプ」と発話すると、使用可能なすべてのコマンドを表示します。
- [電話]、[オーディオ]などのカテゴリースイッチをタップすると、タップしたカテゴリーに関するコマンドリストが表示されます。
- 音声操作を中止するには、×をタップするか、トークスイッチを押し続けます。

知 識

VOLUMEノブを回す、またはステアリングスイッチのVOL＋/VOL－スイッチで音声案内の音量を調整できます。

音声認識コマンドリスト

認識可能な音声認識コマンドとそのときの動作をまとめています。

- よく使うコマンドを次の表にまとめました。
- 車両に装着されていない機器のコマンドは表示されません。また、状況によってはそれ以外のコマンドも表示されないことがあります。
- 利用可能な機能はシステムプログラムのバージョンによって異なることがあります。

知 識

コマンドリストでは次のように表記しています。

- ＜○○○＞：具体的な番号、タイトル、名前を発話してください。

ナビゲーションコマンド

コマンド	操作
住所で探す＜住所＞	住所を発話して目的地に設定する
施設名で探す＜施設名＞	施設名を発話して目的地に設定する
自宅に帰る	自宅までのルート案内を開始する
オフィスへ行く	オフィスまでのルート案内を開始する
ルート案内を取り消す	ルート案内を中止する
メモリ地点＜メモリ地点名＞	メモリ地点名を発話して目的地に設定する
前の目的地	目的地履歴から目的地を設定する
目的地削除	ルート案内を中止する
地図を表示する	地図画面を表示する
施設で探す	施設名を発話して目的地に設定する
電話番号で探す＜電話番号＞	電話番号を発話して目的地に設定する
ジャンルで探す＜ジャンル＞[エリア]	ジャンル、エリアを発話して目的地に設定する
次の目的地削除	（目的地が複数設定されている場合）次の目的地を削除したルートを探索する
最終目的地削除	（目的地が複数設定されている場合）最後の目的地を削除したルートを探索する

コマンド	操作
what3words（ワットスリーワード）で探す	what3words を発話して目的地に設定する

電話コマンド

コマンド	操作
電話帳でかける	電話帳から連絡先を発話して電話をかける
＜名前＞の＜タイプ＞にかける	電話帳から連絡先、発信する電話の種類を発話して電話をかける
電話をペアリングする	Bluetooth携帯電話を登録する
電話帳で送信する	電話帳から宛先を発話してメッセージを送信する
電話番号でかける	電話番号を発話して電話をかける
＜電話番号＞へかける	電話番号を発話して電話をかける
コールバック	着信履歴から電話をかける
リダイヤル	直前にかけた電話番号に電話をかける
メッセージを表示する	メッセージリストを表示する
通話履歴を表示する	通話履歴画面を表示する
＜電話番号＞に送信する	電話番号を発話してメッセージを送信する
通話履歴で送信する	通話履歴画面から宛先を発話してメッセージを表示する
＜名前＞の＜タイプ＞に送信する	電話帳から宛先、送信する電話の種類を発話してメッセージを送信する

オーディオコマンド

コマンド	操作
テレビ	テレビ画面に切り替える
オーディオオン	オーディオの電源を入れる
オーディオオフ	オーディオの電源を切る
曲＜名前＞を再生する	曲名を発話して再生する
アーティスト＜名前＞を再生する	アーティスト名を発話して再生する
プレイリスト＜名前＞を再生する	プレイリスト名を発話して再生する
FMラジオ	FMラジオに切り替える
AMラジオ	AMラジオに切り替える
iPod	iPod/iPhoneに切り替える
ラジオを聞く	FMラジオまたはAMラジオに切り替える
プリセットに合わせる	番号を発話してプリセットスイッチに記憶した放送局を受信する
ジャンル＜名前＞を再生する	ジャンル名を発話して再生する
アルバム＜名前＞を再生する	アルバム名を発話して再生する
作曲者＜名前＞を再生する	作曲者名を発話して再生する
オーディオブック＜名前＞を再生する	オーディオブック名を発話して再生する
ポッドキャスト＜名前＞を再生する	ポッドキャスト名を発話して再生する

コマンド	操作
ジャンル＜名前＞を表示する	ジャンル名を発話して該当するアルバムリストを表示する
アーティスト＜名前＞を表示する	アーティスト名を発話して該当するアルバムリストを表示する
アルバム＜名前＞を表示する	アルバム名を発話して該当する曲のリストを表示する
プレイリスト＜名前＞を表示する	プレイリスト名を発話して該当する曲のリストを表示する
作曲者＜名前＞を表示する	作曲者名を発話して該当するアルバムリストを表示する
曲を表示する	曲のリストを表示する
オーディオブックを表示する	オーディオブックのリストを表示する
ポッドキャストを表示する	ポッドキャストのリストを表示する
AUX	AUX画面に切り替える
USB	USB画面に切り替える
Bluetoothオーディオ	Bluetooth オーディオ画面に切り替える
＜周波数＞に合わせる	発話した周波数を受信する
プリセット＜番号＞に合わせる	番号を発話してプリセットスイッチに記憶した放送局を受信する

知 識

機器によっては、音声操作システムを操作しているときにiPod/iPhoneが動作しないことがあります。

エアコンコマンド

コマンド	操作
エアコンオン	オートエアコンをONにする
温度を上げる	エアコンの設定温度を上げる
温度を下げる	エアコンの設定温度を下げる
風量を上げる	エアコンの風量を上げる
風量を下げる	エアコンの風量を下げる
＜温度＞度	温度を発話してエアコンの温度を設定する
温度設定	温度設定発話画面を表示する
風量	風量設定発話画面を表示する
シートヒーターオン	シートヒーターをONにする
シートヒーターオフ	シートヒーターをOFFにする
シートヒーター＜強-弱＞	シートヒーターの強弱を設定する

アプリコマンド

コマンド	操作
＜アプリ名＞を起動する	発話したアプリ名に切り替える
CarPlayを起動する	Apple CarPlayに切り替える
Android Autoを起動する	Android Autoに切り替える

車両コマンド

コマンド	操作
アイドリングストップオン	アイドリングストップを ON にする
アイドリングストップオフ	アイドリングストップをOFFにする
車線逸脱防止設定	車線逸脱防止設定発話画面を表示する
クルーズコントロール設定	クルーズコントロール設定発話画面を表示する

ご参考に

商標・著作権

Bluetooth

Bluetooth® ワードマークおよびロゴはBluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、株式会社ＳＵＢＡＲＵと株式会社デンソーは、これらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

DVD

DVD is a trademark of DVD Format/Logo Licensing Corporation.

iPhone／iPod

Made for iPhone | iPod

- “Made for iPod”、“Made for iPhone”とは、iPod、iPhone専用に接続するよう設計され、Appleが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。Appleは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。
- この製品とiPod、iPhoneを使用する際、ワイヤレス機能に影響する場合があります。
- iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touch、Lightning、App Storeは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

Apple CarPlay

- Use of the Apple CarPlay logo means that a vehicle user interface meets Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this vehicle or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this product with iPhone or iPod may affect wireless performance.
- Apple, iPhone, iPod, iPod touch and Apple CarPlay are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries and regions.

Android Auto

- Android、Android AutoはGoogle LLCの商標です。

Gracenote

- GracenoteおよびGracenoteロゴと ロゴタイプは、米国およびその他の国におけるGracenote Inc. の登録商標または商標です。

VICS

- VICSリンクデータベースの著作権は、一般財団法人日本デジタル道路地図協会・公益財団法人日本交通管理技術協会（TMT）が有しています。
- VICS、およびこの機器に付与された のロゴマークは一般財団法人道路交通情報通信システムセンターの登録商標です。

地図データベースについて

いかなる形式においても、著作権者に無断でこの地図を全部、または一部を複製し利用することを固く禁じます。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図、数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）、数値地図（国土基本情報）基盤地図情報（数値標高モデル）及び基盤地図情報を使用した。（承認番号は製品の画面上に表示。）

この地図の作成に当たっては、一般財団法人日本デジタル道路地図協会発行の全国デジタル道路地図データベースを使用しました。（測量法第44条に基づく成果使用承認　01-0010）

© 2023　一般財団法人日本デジタル道路地図協会
ZENRIN CO.,LTD & 株式会社トヨタマップマスター & 株式会社昭文社

交通規制データについて

この地図に使用している交通規制データは、公益財団法人日本道路交通情報センター（JARTIC）の交通規制情報を使用しています。
この地図に使用している交通規制データは、道路交通法及び警察庁の指導に基づき全国交通安全活動推進センターが公開している交通規制情報、公益財団法人日本道路交通情報センター（JARTIC）の交通規制情報を、株式会社トヨタマップマスターが加工して作成したものを使用しています。

道路交通規制の優先について

このデータが現場の交通規制と違うときは、現場の交通規制標識・標示等に従ってください。

交通事故多発地点について

この地図に使用している事故多発地点データは、警視庁および国土交通省のデータをもとに作成しました。

渋滞考慮探索および周辺迂回路探索について

この機能で提供される情報は、渋滞統計予測情報を利用しています。
渋滞統計予測情報は、過去のVICS情報を統計処理して作成されており、現況の交通状況を考慮したものではありません。

渋滞統計予測情報は、株式会社エヌ・ティ・ティ・データより提供されています。
渋滞統計予測情報は、過去のVICS情報を統計処理を行い作成されたデータです。
VICS情報は、公益財団法人 日本道路交通情報センター（JARTIC）および一般財団法人 道路交通情報通信システムセンター（VICSセンター）より提供されたものです。

ボトルネック踏み切りについて

この地図に使用しているボトルネック踏み切りデータは、国土交通省のデータを基に作成しました。

スマートIC（ETC専用）について

スマートICはETC専用のインターチェンジのため、実際の走行の際にはETCを使用できる状態でなければご利用いただけません。また、スマートICは乗降方向（上り下り）や時間帯、車種が限定される箇所がありますので、必ず現場の交通規制標識・標示等に従ってください。

高速道路料金データについて

使用している高速道路・都市高速の料金データは、2020年11月現在のものです（一部新設道路を除く）。

案内標識（フォント）

Copyright 2013- lindwurm (Hotaka Hitagi)
Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License.
You may obtain a copy of the License at
http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0
Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

市街図収録都市リスト

北海道
札幌市、函館市、小樽市、旭川市、室蘭市、釧路市、帯広市、北見市、夕張市、岩見沢市、網走市、留萌市、苫小牧市、稚内市、美唄市、芦別市、江別市、赤平市、紋別市、士別市、名寄市、三笠市、根室市、千歳市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、富良野市、登別市、恵庭市、伊達市、北広島市、石狩市、当別町、釧路町

青森県
青森市、弘前市、八戸市、黒石市、五所川原市、十和田市、三沢市、むつ市

岩手県
盛岡市、宮古市、大船渡市、奥州市、花巻市、北上市、久慈市、遠野市、一関市、陸前高田市、釜石市、二戸市、滝沢市

宮城県
仙台市、石巻市、塩竈市、大崎市、気仙沼市、白石市、名取市、角田市、多賀城市、岩沼市、七ヶ浜町、利府町

秋田県
秋田市、能代市、横手市、大館市、由利本荘市、男鹿市、湯沢市、大仙市、鹿角市

山形県
山形市、米沢市、鶴岡市、酒田市、新庄市、寒河江市、上山市、村山市、長井市、天童市、東根市、尾花沢市、南陽市

福島県
福島市、会津若松市、郡山市、いわき市、白河市、南相馬市、須賀川市、喜多方市、相馬市、二本松市、西郷村

茨城県

水戸市、日立市、土浦市、古河市、石岡市、筑西市、結城市、龍ヶ崎市、下妻市、常総市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、笠間市、取手市、坂東市、牛久市、つくば市、ひたちなか市、鹿嶋市、潮来市、守谷市、神栖市、つくばみらい市、大洗町、東海村

栃木県

宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、日光市、小山市、真岡市、大田原市、矢板市、那須塩原市

群馬県

前橋市、高崎市、桐生市、伊勢崎市、太田市、沼田市、館林市、渋川市、藤岡市、富岡市、安中市、玉村町

埼玉県

川越市、熊谷市、川口市、行田市、秩父市、所沢市、飯能市、加須市、本庄市、東松山市、春日部市、狭山市、羽生市、鴻巣市、深谷市、上尾市、草加市、越谷市、蕨市、戸田市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、桶川市、久喜市、北本市、八潮市、富士見市、ふじみ野市、三郷市、蓮田市、坂戸市、幸手市、鶴ヶ島市、日高市、吉川市、さいたま市、白岡市、三芳町、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、ときがわ町、川島町、吉見町、鳩山町、横瀬町、皆野町、長瀞町、小鹿野町、東秩父村、美里町、神川町、上里町、寄居町、宮代町、杉戸町、松伏町

千葉県

千葉市、銚子市、市川市、船橋市、館山市、木更津市、松戸市、野田市、香取市、茂原市、成田市、佐倉市、東金市、匝瑳市、旭市、習志野市、柏市、勝浦市、市原市、流山市、八千代市、我孫子市、鴨川市、鎌ヶ谷市、君津市、富津市、浦安市、四街道市、袖ヶ浦市、八街市、印西市、白井市、富里市、山武市、いすみ市、大網白里市、南房総市、酒々井町、栄町、多古町、東庄町、横芝光町、九十九里町、芝山町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、大多喜町、御宿町

東京都

千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区、八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、羽村市、あきる野市、西東京市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町

神奈川県

横浜市、川崎市、横須賀市、平塚市、鎌倉市、藤沢市、小田原市、茅ヶ崎市、逗子市、相模原市、三浦市、秦野市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、南足柄市、綾瀬市、葉山町、寒川町、大磯町、二宮町、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、愛川町、清川村

新潟県

新潟市、長岡市、三条市、柏崎市、新発田市、小千谷市、加茂市、十日町市、見附市、村上市、燕市、糸魚川市、妙高市、五泉市、佐渡市、上越市、阿賀野市

富山県
富山市、高岡市、射水市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市

石川県
金沢市、七尾市、小松市、輪島市、珠洲市、加賀市、羽咋市、白山市、野々市市、内灘町

福井県
福井市、敦賀市、越前市、小浜市、大野市、勝山市、鯖江市、あわら市

山梨県
甲府市、富士吉田市、甲州市、都留市、山梨市、大月市、韮崎市、南アルプス市、中央市

長野県
長野市、松本市、上田市、岡谷市、飯田市、諏訪市、須坂市、小諸市、伊那市、駒ヶ根市、中野市、大町市、飯山市、茅野市、塩尻市、千曲市、佐久市、東御市、軽井沢町、下諏訪町

岐阜県
岐阜市、大垣市、高山市、多治見市、関市、中津川市、美濃市、瑞浪市、羽島市、恵那市、美濃加茂市、土岐市、各務原市、可児市、山県市、瑞穂市、下呂市、岐南町、笠松町、坂祝町、富加町

静岡県
静岡市、浜松市、沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、島田市、富士市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、御殿場市、袋井市、下田市、裾野市、湖西市、伊豆市、御前崎市、伊豆の国市、牧之原市、清水町

愛知県
名古屋市、豊橋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、豊川市、津島市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、蒲郡市、犬山市、常滑市、江南市、小牧市、稲沢市、新城市、東海市、大府市、知多市、知立市、尾張旭市、高浜市、岩倉市、豊明市、日進市、田原市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、みよし市、長久手市、東郷町、豊山町、大口町、扶桑町、大治町、蟹江町、飛島村、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町、幸田町

三重県
津市、四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、伊賀市、鈴鹿市、名張市、尾鷲市、亀山市、鳥羽市、熊野市、いなべ市、玉城町、度会町

滋賀県
大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、東近江市、草津市、守山市、栗東市

京都府
京都市、福知山市、舞鶴市、綾部市、宇治市、宮津市、亀岡市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、京丹後市、木津川市、大山崎町、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村

大阪府

大阪市、堺市、岸和田市、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、高槻市、貝塚市、守口市、枚方市、茨木市、八尾市、泉佐野市、富田林市、寝屋川市、河内長野市、松原市、大東市、和泉市、箕面市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、高石市、藤井寺市、東大阪市、泉南市、四條畷市、交野市、大阪狭山市、阪南市、島本町、豊能町、能勢町、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村

兵庫県

神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、相生市、豊岡市、加古川市、たつの市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、丹波篠山市、養父市、猪名川町、稲美町、播磨町

奈良県

奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、五條市、御所市、生駒市、香芝市

和歌山県

和歌山市、海南市、橋本市、有田市、御坊市、田辺市、新宮市、岩出市、紀の川市

鳥取県

鳥取市、米子市、倉吉市、境港市

島根県

松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、江津市

岡山県

岡山市、倉敷市、津山市、玉野市、笠岡市、井原市、総社市、高梁市、新見市、備前市、瀬戸内市、真庭市、美作市、赤磐市、浅口市、吉備中央町、和気町、早島町、里庄町、矢掛町、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、美咲町、久米南町

広島県

広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、府中市、三次市、庄原市、大竹市、東広島市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町

山口県

下関市、宇部市、山口市、萩市、周南市、防府市、下松市、岩国市、山陽小野田市、光市、長門市、柳井市、美祢市、和木町

徳島県

徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市

香川県

高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、観音寺市、さぬき市、東かがわ市

愛媛県

松山市、今治市、宇和島市、八幡浜市、新居浜市、西条市、大洲市、四国中央市、伊予市

高知県

高知市、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、四万十市、宿毛市、土佐清水市

福岡県

北九州市、福岡市、大牟田市、久留米市、直方市、飯塚市、田川市、柳川市、嘉麻市、朝倉市、八女市、筑後市、大川市、行橋市、豊前市、中間市、小郡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市、糸島市、古賀市、福津市、那珂川町、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町、粕屋町、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、苅田町、吉富町

佐賀県

佐賀市、唐津市、鳥栖市、多久市、伊万里市、武雄市、鹿島市

長崎県

長崎市、佐世保市、島原市、諫早市、大村市、五島市、平戸市、松浦市、長与町、時津町、波佐見町

熊本県

熊本市、八代市、人吉市、荒尾市、水俣市、玉名市、天草市、山鹿市、菊池市、宇土市

大分県

大分市、別府市、中津市、日田市、佐伯市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後高田市、杵築市、宇佐市

宮崎県

宮崎市、都城市、延岡市、日南市、小林市、日向市、串間市、西都市、えびの市

鹿児島県

鹿児島市、薩摩川内市、鹿屋市、枕崎市、いちき串木野市、阿久根市、奄美市、出水市、伊佐市、指宿市、南さつま市、霧島市、西之表市、垂水市

沖縄県

那覇市、うるま市、宜野湾市、宮古島市、石垣市、浦添市、名護市、糸満市、沖縄市、豊見城市、南風原町

その他

- センターインフォメーションディスプレイおよびそのシステムは、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。
- センターインフォメーションディスプレイおよびそのシステムを分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。
- what3words® は、what3words Limitedの商標です。
- © 1982-2013, QNX Software Systems Limited. All rights reserved.
- Cinemo is a trademark of Cinemo GmbH, Karlsruhe. Please visit http://www.cinemo.com
- 収録されたデータおよびプログラムの著作権は、弊社および弊社に対し著作権に基づく権利を許諾した第三者に帰属しております。お客様は、いかなる形式においてもこれらのデータおよびプログラムの全部または一部を複製、改変、解析などすることはできません。
- 弊社は、収録された地図データなどが完全・正確であること、およびお客様の特定目的へ合致することを保証するものではありません。
- 日本国内専用です。GPSの測位範囲が異なる外国ではご使用いただけません。
- 仕様および外観は、改善のため予告なく変更する場合があります。また、取扱説明書の内容と実物が異なることがあります。その場合における改造、またはお取り換えのご要望には応じかねます。
- その他、製品名などの固有名詞は各社の商標または登録商標です。

オープンソースを適用したソースコード入手について

センターインフォメーションディスプレイは、フリー／オープンソースソフトウェア（FOSS）を搭載しています。

使用許諾やソースコードは以下のURLから確認できます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/ivi/subaru/

VICS 情報有料放送サービス契約約款

第1章 総則

（約款の適用）

第1条 一般財団法人道路交通情報通信システムセンター（以下「当センター」といいます。）は、放送法（昭和25年法律第132号）第147条の規定に基づき、このVICS情報有料放送サービス契約約款（以下「この約款」といいます。）を定め、これによりVICS情報有料放送サービスを提供します。

（約款の変更）

第2条 当センターは、この約款を変更することがあります。この場合には、サービスの提供条件は、変更後のVICS情報有料放送サービス契約約款によります。

（用語の定義）

第3条 この約款においては、次の用語はそれぞれ次の意味で使用します。

(1) VICSサービス
当センターが自動車を利用中の加入者のために、FM多重放送局から送信する、道路交通情報の有料放送サービス

(2) VICSサービス契約
当センターからVICSサービスの提供を受けるための契約

(3) 加入者
当センターとVICSサービス契約を締結した者

(4) VICSデスクランブラー
FM多重放送局からのスクランブル化（攪乱）された電波を解読し、放送番組の視聴を可能とするための機器

第2章　サービスの種類等

（VICSサービスの種類）

第4条　VICSサービスには、次の種類があります。

(1) 文字表示型サービス
　文字により道路交通情報を表示する形態のサービス

(2) 簡易図形表示型サービス
　簡易図形により道路交通情報を表示する形態のサービス

(3) 地図重畳型サービス
　車載機のもつデジタル道路地図上に情報を重畳表示する形態のサービス

（VICSサービスの提供時間）

第5条　当センターは、原則として一週間に概ね120時間以上のVICSサービスを提供します。

第3章　契約

（契約の単位）

第6条　当センターは、VICSデスクランブラー 1台毎に1のVICSサービス契約を締結します。

（サービスの提供区域）

第7条　VICSサービスの提供区域は、当センターの電波の受信可能な地域（全都道府県の区域で概ねNHK-FM放送を受信することができる範囲内）とします。ただし、そのサービス提供区域であっても、電波の状況によりVICSサービスを利用することができない場合があります。

（契約の成立等）

第8条　VICSサービスは、VICS対応FM受信機（VICSデスクランブラーが組み込まれたFM受信機）を購入したことにより、契約の申込み及び承諾がなされたものとみなし、以後加入者は、継続的にサービスの提供を受けることができるものとします。

（VICSサービスの種類の変更）

第9条　加入者は、VICSサービスの種類に対応したVICS対応FM受信機を購入することにより、第4条に示すVICSサービスの種類の変更を行うことができます。

（契約上の地位の譲渡又は承継）

第10条　加入者は、第三者に対し加入者としての権利の譲渡又は地位の承継を行うことができます。

（加入者が行う契約の解除）

第11条　当センターは、次の場合には加入者がVICSサービス契約を解除したものとみなします。

(1) 加入者がVICSデスクランブラーの使用を将来にわたって停止したとき

(2) 加入者の所有するVICSデスクランブラーの使用が不可能となったとき

（当センターが行う契約の解除）

第12条　当センターは、加入者が第16条の規定に反する行為を行った場合には、VICSサービス契約を解除することがあります。また、第17条の規定に従って、本放送の伝送方式の変更等が行われた場合には、VICSサービス契約は、解除されたものと見なされます。

2　第11条又は第12条の規定により、VICSサービス契約が解除された場合であっても、当センターは、VICSサービスの視聴料金の払い戻しをいたしません。

第4章　料金

（料金の支払い義務）

第13条　加入者は、当センターが提供するVICSサービスの料金として、契約単位ごとに加入時に別表に定める定額料金の支払いを要します。なお、料金は、加入者が受信機を購入する際に負担していただいております。

第5章　保守

（当センターの保守管理責任）

第14条　当センターは、当センターが提供するVICSサービスの視聴品質を良好に保持するため、適切な保守管理に努めます。ただし、加入者の設備に起因する視聴品質の劣化に関してはこの限りではありません。

（利用の中止）

第15条　当センターは、放送設備の保守上又は工事上やむを得ないときは、VICSサービスの利用を中止することがあります。

2　当センターは、前項の規定によりVICSサービスの利用を中止するときは、あらかじめそのことを加入者にお知らせします。ただし、緊急やむを得ない場合は、この限りではありません。

第6章　雑則

（利用に係る加入者の義務）

第16条　加入者は、当センターが提供するVICSサービスの放送を再送信又は再配分することはできません。

（免責）

第17条　当センターは、天災、事変、気象などの視聴障害による放送休止、その他当センターの責めに帰すことのできない事由によりVICSサービスの視聴が不可能ないし困難となった場合には一切の責任を負いません。また、利用者は、道路形状が変更した場合等、合理的な事情がある場合には、VICSサービスが一部表示されない場合があることを了承するものとします。但し、当センターは当該変更においても変更後3年間、当該変更に対応していない旧デジタル道路地図上でも、VICSサービスが可能な限度で適切に表示されるように、合理的な努力を傾注するものとします。

2　VICSサービスは、FM放送の電波に多重して提供されていますので、本放送の伝送方式の変更等が行われた場合には、加入者が当初に購入された受信機によるVICSサービスの利用ができなくなります。当センターは、やむを得ない事情があると認める場合には、3年以上の期間を持って、VICSサービスの「お知らせ」画面等により、加入者に周知のうえ、本放送の伝送方式の変更を行うことがあります。

[別表]

視聴料金 330円（税込み）

ただし、車載機購入価格に含まれております。

※ この契約約款は、令和2年12月1日改訂時のものを掲載しています。

8. メンテナンス

お車の手入れ
日常の手入れ ····· 706
外装の手入れ ····· 707
内装の手入れ ····· 710

車載工具
格納場所 ····· 711

エンジンルーム内の点検
ボンネット ····· 712
日常点検 ····· 714
バッテリー ····· 717
ウォッシャー液 ····· 718
冷却水の濃度 ····· 719
エンジンオイル ····· 719

タイヤ・ホイール
日常点検 ····· 720
交換のしかた ····· 722
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換 ····· 728
タイヤチェーンの装着 ····· 729

部品の交換
ワイパーブレードの交換 ····· 730
ブレードラバーの交換 ····· 732
エアコンフィルターの交換 ····· 735
アクセスキーの電池交換 ····· 737
電球（バルブ）の交換 ····· 739
その他部品の交換が必要なとき ····· 743

お車の手入れ

日常の手入れ

手入れのしかた

次のようなときは必ず洗車をしてください。
- 凍結防止剤を散布した道路や海岸地帯、ぬかるみ、砂地、砂利道などを走行した後（錆を促進させる要因となりますので車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください）
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付着したとき
- 塗装面に異物が付着したとき

また、飛び石などにより塗装面に傷がある場合、錆の原因となりますので早めに補修してください。

保管のしかた

お車の保管、長期間の駐車には次のような場所をお奨めします。
- 直射日光が当たらない場所
- 風通しがよい場所
- 鉄道線路から離れた場所
- 農薬などの化学薬品が飛散しない場所
- 木から離れた場所
- いたずらされにくい場所

長期間お車を使用しない場合には、電動パーキングブレーキの錆び固着防止のため駐車ブレーキをかけずに次の要領で駐車してください。
- セレクトレバーを“P”に入れます。
- 輪止め（タイヤストッパー）をします。

また、ワイパーを立てておいてください。ブレードラバーのくせ付きや汚れの付着を防止できます。

知 識
- 車内に可燃物（ライターやスプレー缶など）は放置しないでください。自然発火や爆発することがあります。
- 屋外にお車を止める際は、スバル純正ボディカバーの使用をお奨めします。

外装の手入れ

洗車のしかた

月に1回程度を目安とし、汚れが目立ってきたらその都度洗車してください。
洗車を行う際は、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

⚠ 注 意

- 先の尖ったものや鋭利なものを使わない。
  - ブレーキホースや配線などに傷をつけるおそれがあります。

知 識

- 雨が降った後は、塗膜上の水分が蒸発する前に洗車することをお奨めします。そのままの状態で時間が経過すると、塗膜が傷むことがあります。
- 寒いときは、凍結を防ぐため洗車後に水分をよく拭き取ってください。
  - 特にドアまわりは凍結しやすいところです。
  - ブレーキが凍結することがあります。後続車や道路の状況に注意して効きを確認してください。
- ハンズフリーオープン機能をOFFにしてください。
  - アクセスキーが近くにある場合、パワーリヤゲートが突然開くことがあります。

☞P.184参照

知 識

- ブレーキシステムがぬれた状態のままで長時間駐車しておくと錆によりブレーキパッドとブレーキディスクが固着することがあり、走行時に異音や振動がする場合がありますが、異常ではありません。
- 走行中にブレーキペダルを数回強く踏むことで、ブレーキディスクの表面が研磨され錆が取れて元に戻ります。
- 繰り返しペダルを踏み続けても、異音や振動が解消されない場合は、ブレーキの異常が考えられますので直ちにSUBARU販売店での点検を受けてください。
- 洗車後は1～2 kmほど走行中に、ブレーキペダルを数回踏んでブレーキを乾かしてから駐車してください。

手洗いするとき

水を十分かけながら次のように行い、洗車後は拭き残しがないようにきれいに水を拭き取ってください。

- ボディを洗うときは柔らかいスポンジやセーム皮を使います。
- タイヤのまわりや車体の下側を洗うときはゴム手袋を着用し、ハンドブラシなどを使って泥や砂などをよく落とします。
- 汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、水で完全に洗い落とします。

⚠ 注 意

- ボディに乗ったり寄りかかったりしない。
- エンジンルーム内には直接水をかけない。
  - エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品、配線部、パワーステアリングの故障、ブレーキの効き不良などの原因につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- 足まわり、フェンダー内側下まわりまたはバンパー、排気管などを洗うときは、突起物で手などにけがをしないように注意する。
- ランプ類には、有機溶剤などを含んだ洗剤は使用しない。
  - 使用した場合には、完全に洗い流してください。
- 日常の洗車ではコンパウンド入りワックスは使用しない。
  - コーティングを損傷させるおそれがあります。

自動洗車機を使うとき

自動洗車機の使いかたをよく確認し、次のことを守ってください。

- ドアミラーを格納してください。

☞**P.222**参照

- 必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。ワイパーが損傷するおそれがあります。

⚠ 注 意

自動洗車機のブラシにより、傷がついて塗装の光沢が失われたり、劣化を早めたりすることがあります。スポンジやセーム皮での手洗いをお奨めします。

高圧洗車機を使うとき

洗車機の使いかたをよく確認し、次のことを守ってください。

- 洗車ノズルと車体との距離を十分離してください。(30 cm以上)
- 同じ場所を連続して洗浄しないでください。場所によって車内に水が入ることがあります。
- 車両の下まわりは、エンジン部品、電気部品、ゴム部品などがあり、部品が破損するおそれがあるので、高圧洗浄機で洗浄しないでください。
- 汚れが落ちにくい場合は手洗いしてください。洗車機から噴射される温水は機種によっては高温・高圧のものがあるので、モールなど樹脂部分が変形、損傷することがあります。
- マルチビューモニターのカメラ周辺部に直接水をかけないでください。

☞**P.437**参照

ワックスのかけかた

月に1回程度を目安に、洗車後、ボディの温度が体温以下に冷えているときに行います。

- 洗車後は直射日光を避けてください。
- ランプ類には、有機溶剤などを含んだワックスは使用しないでください。もし使用した場合には完全に拭き取ってください。ランプが損傷したり、劣化が早くなったりするおそれがあります。

知 識

ワックス、コンパウンドの使用上の注意をよく読んでから使用してください。

ガラスとワイパーの手入れ

油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗浄剤を使ってきれいに落としてください。
ガラス洗浄剤を使用したとき、水滴のはじきが悪くなったりガラスが曇るなどしたときは、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。
ガラスの内側が曇っているときや汚れているときは、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

⚠ 注 意

ガラスのお手入れをするときは次のことをお守りください。

- フロントガラス、リヤガラスにワックス、窓ガラス用はっ水剤が付かないよう注意する。
  - 対向車のヘッドランプでガラスが乱反射して見えにくくなることがあります。
  - 拭きむらが生じる原因になります。
- リヤガラスを車内から拭くときは、ガラス洗浄剤を使わず、柔らかい布などで、電熱線に沿って軽く拭く。

知 識

- 泥などの汚れがひどいときは、汚れを取り除いてからウインドウの開閉操作を行ってください。
- 車内側の手入れをするときに硬いものを使用すると傷がつくことがあります。

ワイパーについて

ブレードラバーには、滑らかに作動させるためのコーティングがされています。
汚れているときは、コーティングを傷めないよう、薄めた中性洗剤をスポンジに含ませ軽く拭き取ってください。

知 識

- お手入れをするときは、ブレードラバーが外れていないか確認してください。
- ブレードラバーは消耗品です。拭き残しが目立つなど、払拭性能が落ちてきたときは、早めに交換してください。
  ☞P.730参照

はっ水ガラスについて

フロントドアガラスには、はっ水膜のコーティングがしてあります。
フロントドアガラスについた水滴をはじき、走行中でも視界を良好に保ちます。

知 識

ガラスのはっ水加工は消耗品です。はっ水効果の持続期間には限りがありますので、効果を長持ちさせるためにも次の項目をお守りください。

- コンパウンド（みがき粉）入りのガラス洗浄剤やワックスなどは使用しないでください。
- 自動洗車機を使用するときは、ガラスの汚れを取り除いてから行ってください。

内装の手入れ

1. カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除きます。
2. 水またはぬるま湯を含ませた柔らかい布で軽く拭き取ります。
   汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
   飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
3. 直射日光を避け、風通しの良い日陰で乾燥させます。

⚠ 警 告

内装の手入れをする際は、次のことを必ずお守りください。
守らないと車両の故障や重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤を絶対に使用しない。
  - シートベルトの強度が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮しません。清掃するときは中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- オーディオ、エアコンなどの電装品や各種スイッチ、ならびにこれらの周辺の清掃には、シリコーン（ケイ素高分子化合物）を含有するケミカル剤を使用しない。
  - シリコーン（ケイ素高分子化合物）が付着した場合は、電装品の故障の原因となるおそれがあります。
- 室内の清掃などで車内に水をかけない。
  - 車両火災の原因となります。

本革内装の手入れ

汚れ落としには、ウール用中性洗剤を5%濃度に薄めた液を柔らかい布に軽く含ませて拭いてください。
残った洗剤成分は、真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、シミなどの原因になりますので使用しないでください。
- 本革内装表面に油汚れなどがつくとカビやシミなどの原因になります。また、衣類の種類によっては内装表面に色移りすることがあります。長期間放置すると落ちにくくなります。早めに落としてください。
- 本革内装表面を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因になります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などにビニール類を本革内装の上に置かないでください。室内が高温になるとビニールが変質して本革内装に付着することがあります。

その他の手入れ

- 車内のプラスチック部品を清掃するときは、きれいで柔らかい布を水あるいはぬるま湯に浸し、汚れを軽く拭き取ります。
- 液晶画面が汚れたときは柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーを染み込ませた布で汚れを落としてからから拭きしてください。スプレー式のクリーナーなどを直接画面にかけると、画面の構成部品に損傷を与えるおそれがあります。また、硬い布で拭いたり、シンナーやアルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷がついたり文字が消えることがあります。

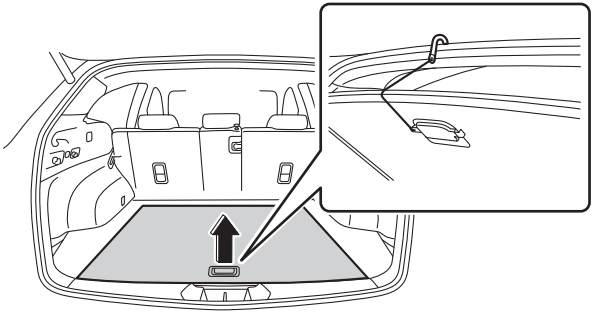
車載工具

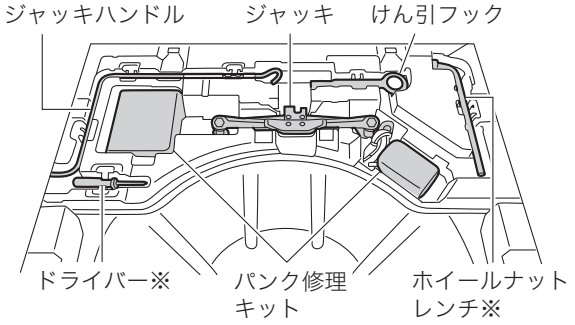
格納場所

次の工具類が搭載されています。

- ドライバー（＋、－両方に使えます）
- ホイールナットレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル
- けん引フック
- パンク修理キット

カーゴルームのリッド（フタ）を開けて取り出します。





※ ドライバーとホイールナットレンチはカーゴルームのリッド（フタ）の下に格納することができます。

知 識

- 工具は定めた場所に置いておくと、万一のときすぐに取り出せます。使用後は元の場所に戻してください。
- ジャッキを使うときは、「ジャッキアップ」を参照してください。
☞P.723参照

エンジンルーム内の点検

ボンネット

ボンネットを開けると、割り込み画面と警告灯を表示します。

⚠ 警 告

- 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認する。
  - 確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。
- ボンネットを開けるときはプッシュエンジンスイッチをOFFにする。
  - 作動中の部品に巻き込まれると重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

ボンネットを開閉するときは次のことに注意してください。守らないと思わぬ故障、事故またはけがにつながるおそれがあります。

- 走行後すぐに開けるときには、部品が熱くなっているので、やけどに注意する。
- 冷却ファンに注意する。
  ☞P.49参照
- 指や物を挟まないよう十分注意する。
- ワイパーアームを起こしたり、作動させたりしない。
  - ボンネットとワイパーアームが接触し傷付くおそれがあります。

⚠ 注 意

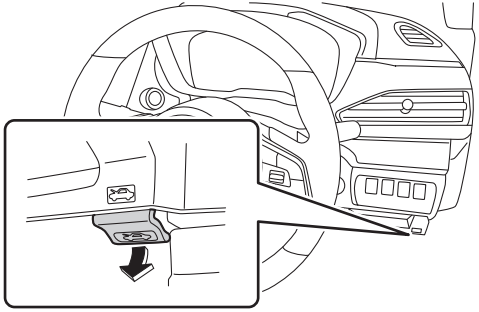
- 風の強いときには十分注意して開ける。
  - 風にあおられて歪んだり損傷したりするおそれがあります。
- ボンネットを上から強く押し付けない。
  - 強く押し付けると、ボンネットがへこむことがあります。

ボンネットを支えるガスステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

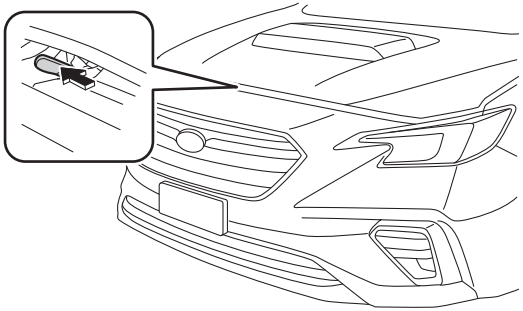
- ガスステー部に薄いビニール袋、テープなどをかみ込ませない。
- ステー部分に傷をつけない。
  - ステーのガス抜けにより、自然に閉じてしまう場合があります。
- ボンネットにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けない。
  - ボンネットの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない。
  - ステーが曲がり、ボンネットが開閉できなくなるおそれがあります。
- 分解しない。
  - 作動不良と思われる場合は、SUBARU販売店にご相談ください。
- 火中に投じない。
  - 廃棄するときは、SUBARU販売店にご相談ください。

開けるとき

1. 運転席側のインストルメントパネル右下にある、ボンネットオープナーレバーを引きます。



2. フロントバンパーとボンネットのすき間からレバーを左に押してロックを外し、ボンネットを持ち上げます。



閉めるとき

ボンネットをゆっくり下ろし、先端を押さえるようにして閉めます。
確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 警 告

- エンジンルーム内に物を置き忘れないよう注意する。
  - エンジンルーム内は高温になるため、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  - 故障の原因となるおそれがあります。

日常点検

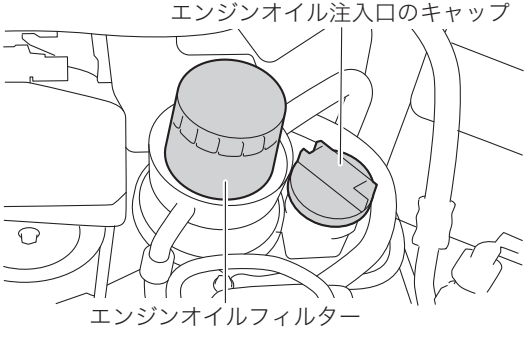
日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。ここでは、お車特有の点検内容を説明しています。
その他の点検方法および実施時の注意事項は、「メンテナンスノート」をお読みください。

⚠ 注 意

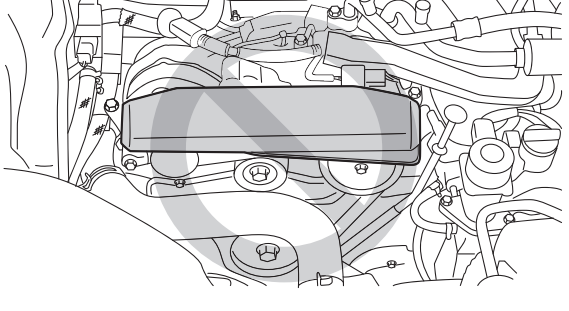
エンジンルーム内の日常点検を行う際は、次のことをお守りください。
守らないとやけどやけがをするおそれがあります。

- プッシュエンジンスイッチがOFFでエンジンが冷えていることを確認する。
- やむを得ずプッシュエンジンスイッチがONでエンジンルーム内の点検を行う際は、電動パーキングブレーキを確実にかける。
- エンジンオイルフィルターの交換や、エンジンオイル注入口のキャップの脱着などをするときは、エンジンが完全に冷えるまでエンジンオイルフィルターには触れない（2.4L車）。

⚠ 注 意



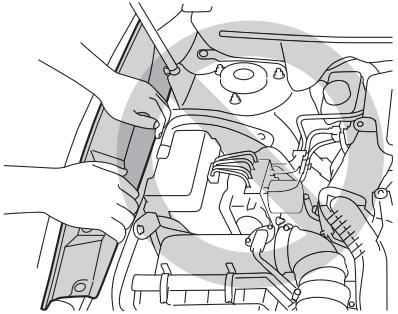
- エンジンオイル注入口のキャップを脱着するときは、エンジンオイルフィルターなどにより指を挟んだりしないように注意する（2.4L車）。
- エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに十分注意する。
- ベルトカバーに触れたり、手を置くなどの力を加えない。

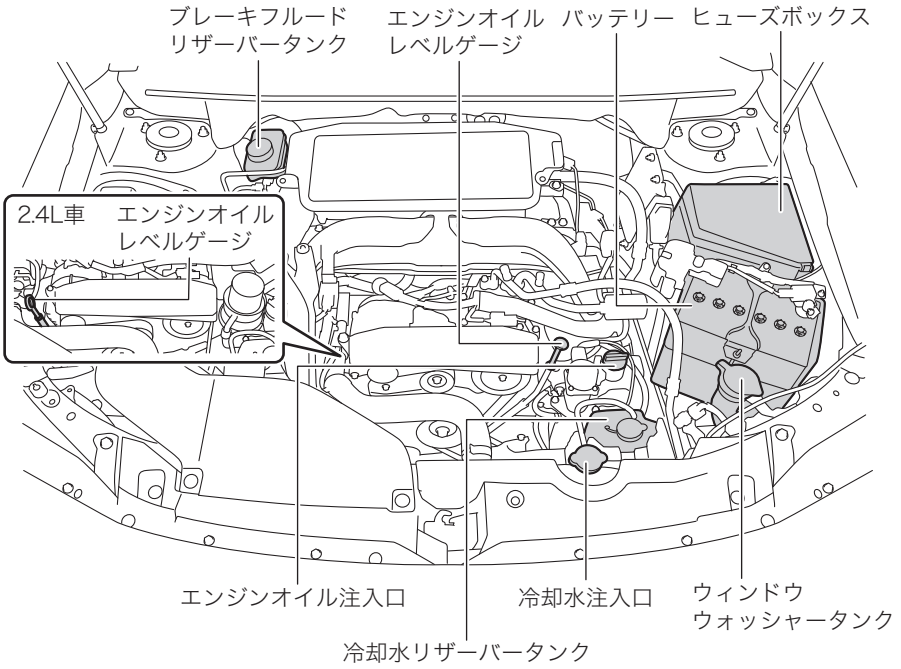


⚠ 注 意

また、次のことをお守りください。
守らないと車体が損傷するおそれがあります。

- フェンダーカバーに手を置くなど力を加えない。
  - フェンダーカバーおよび車体側の取り付け部が変形するおそれがあります。





※ 車の仕様によりエンジン形状が一部異なります。
また、仕様につきましてはサービスデータをご覧ください。
☞**P.784**参照

バッテリー

充電受け入れ性能を高めた高性能な専用バッテリーを使用しています。
☞P.784参照
気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。必要に応じてバッテリー液の点検や補充をしてください。
詳しくは「メンテナンスノート」をご覧ください。

⚠ 注 意

- 専用バッテリー以外は使用しない。
  - バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなるおそれがあります。
  - 交換するときは、スバル純正のアイドリングストップ専用バッテリーに交換してください。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらない。
  - アイドリングストップが正常に作動しなくなります。
- バッテリーが上がったときは、救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動する。
  - エンジンをかけた後は、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。
  ☞P.769参照
- エンジンが停止した状態で、電装品や電動の機能を必要以上に使用し続けない。
  - バッテリー上がりの原因となります。

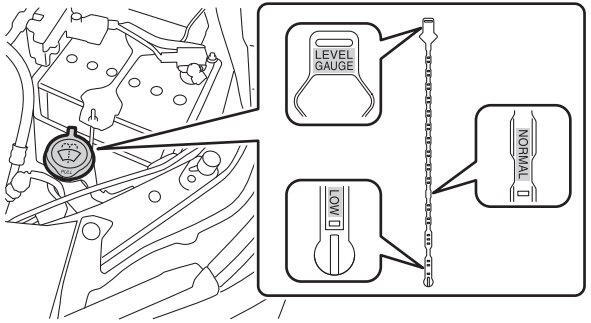
液量の点検

バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、不足しているときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

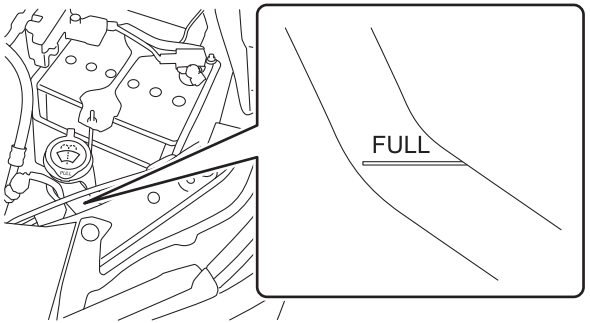
ウォッシャー液

液量の点検

運転前にウォッシャー液の量を点検してください。
ボンネットを開けると、向かって右側のヘッドランプ後ろに給水口があります。タンクはフロントおよびリヤウォッシャーとヘッドランプウォッシャー共用になっています。
キャップを外し、レベルゲージで液量を点検します。
レベルゲージ下部のLOWより上に液の膜が付着していることを確認してください。



付着していない場合、ウォッシャー液をFULLの位置まで補給してください。
FULL位置以上にウォッシャー液を入れないでください。



⚠ 注 意

ウォッシャー液を使用したり補充する際は、次のことをお守りください。守らないと故障や視界不良の原因につながるおそれがあります。

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しない。
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物などが入らないよう注意する。

寒冷時の濃度調整

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温度に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

⚠ 注 意

- 外気温度と希釈割合を合わせる。
  - 希釈割合が適切でないと噴射した液が凍結し、視界不良になるおそれがあります。また、タンク内で凍結することがあります。

冷却水の濃度

冷却水の凍結を防ぐため、スバルスーパークーラントを希釈せずそのまま使用してください。

エンジンオイル

スバル純正エンジンオイルをご使用ください。
☞P.784参照

タイヤ・ホイール

日常点検

タイヤに大きな傷がないか、釘がささったり石がかみ込んでいないかを日常的に点検してください。タイヤが異常に摩耗していないかも併せて点検してください。
タイヤの損傷や異常摩耗が見つかったらSUBARU販売店にご相談ください。

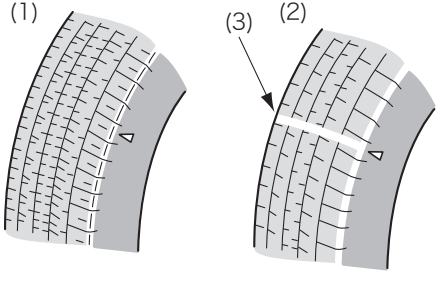
⚠ 注 意

タイヤの点検については次の事項をお守りください。

- 縁石にぶつかったときや荒れた路面を走行したときはタイヤやホイールに損傷がないか点検する。
  - ー このような損傷は後にならないとわからないことがあります。縁石に乗り上げないように心がけてください。やむを得ず縁石に乗り上げる際は、ゆっくりと、直角に乗り上げるようにしてください。
- 駐車するときはタイヤが縁石に押し付けられていないか確認する。
- 走行中いつもと違う音や振動を感じたり、車両の直進性が悪いようであればタイヤまたはホイールが損傷を受けている可能性があるので、SUBARU販売店で点検を受ける。

ウエアインジケーター

タイヤには、ウエアインジケーター（摩耗表示）がついています。タイヤの接地面の溝の深さが1.6 mm以下になると現れます。タイヤの接地面が摩耗してウエアインジケーターと同じ高さになったらタイヤの交換が必要です。



(1) 新品タイヤ
(2) 摩耗したタイヤ
(3) ウエアインジケーター

⚠ 警 告

ウエアインジケーターが現れたら、タイヤの摩耗が限度以上になっています。次のことをお守りください。

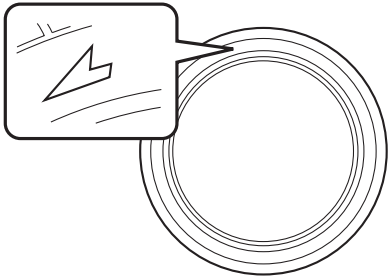
- すぐにタイヤを交換する。

⚠ 警 告

– ウエアインジケーターが現れたままで雨天の高速走行をすると、ハイドロプレーニング現象を起こしやすく、事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

安全のため、タイヤの接地面を定期的に点検し、ウエアインジケーターが現れる前に新品と交換するように心がける。

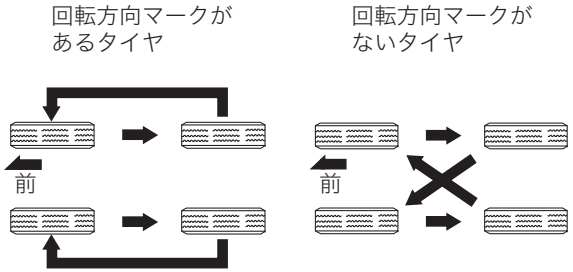


タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

タイヤの摩耗は、各タイヤで異なります。タイヤの寿命を延ばすには、タイヤの摩耗を均一にする必要があります。5,000 kmごとに前後のタイヤの位置交換を行うことが最善です。

回転方向指定タイヤ

回転方向が指定されているタイヤには回転マークが表示されています。タイヤを取り付けるときには回転方向マークを前進方向に合わせてください。左右を入れ替えないでください。



知 識

- タイヤの位置交換をする際は、タイヤの偏摩耗や損傷を確認し、必要に応じて新品タイヤに交換してください。
- タイヤの位置交換後、タイヤ空気圧を調整しホイールナットを締め付けてください。

知 識

- 約1,000 km走行後にホイールナットの締め付け具合を点検してください。
  - いずれかのナットがゆるんでいるようであれば締め付け直してください。
- 前輪と後輪ではタイヤの空気圧の設定が異なります。タイヤの位置交換後は、必ず空気圧を調整してください。
- 取り外したタイヤを積み重ねて保管する際は、ホイールの傷付きを防止するため、緩衝材などを挟んでください。

交換のしかた

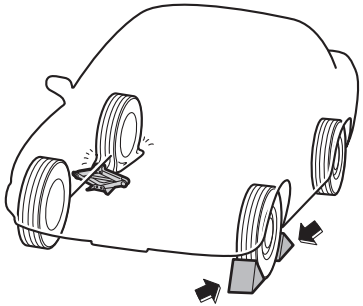
走行性能と乗り心地、タイヤの寿命のバランスを考えたタイヤが標準装備として取り付けられています。タイヤを交換する際は、タイヤ空気圧ラベルに指定されているサイズをお守りください。
☞P.788参照

交換の前に

交通の妨げにならず、安全に作業ができる場所で行ってください。

1. エンジンを停止します。
2. 電動パーキングブレーキを確実にかけセレクトレバーを“P”にします。
3. ハザードランプを点滅させます。
4. 人や荷物はすべて降ろし、三角停止表示板または停止表示灯を設置します。
5. お車が動き出さないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め（タイヤストッパー）をします。

（図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。）



⚠ 警 告

タイヤを交換するときは、次のことをお守りください。

守らないと車両火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能に影響し、車両の損傷や思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 4輪とも必ず指定サイズで、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着する。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しない。
- 摩耗差のあるタイヤを混ぜて使用しない。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保つ。
  ☞P.788参照

なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

- ラジアルタイヤを装着する。

⚠ 注 意

地面が平坦で硬く、お車が安定する安全な場所を選んで止めてください。

知 識

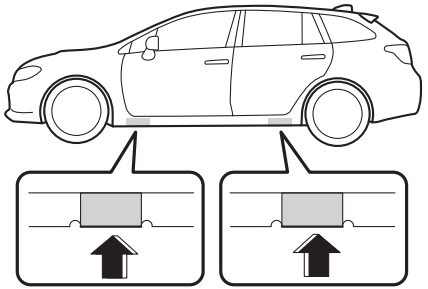
輪止め（タイヤストッパー）、三角停止表示板または停止表示灯は車載されていませんので必要に応じて準備してください。

ジャッキアップ

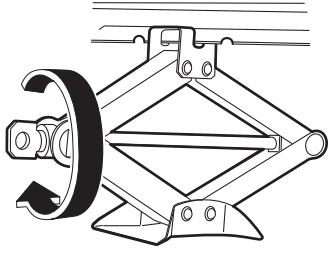
1. ジャッキハンドル、ジャッキ、ホイールナットレンチを取り出します。

☞P.711参照

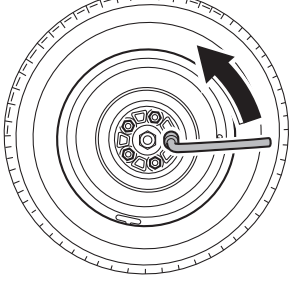
2. 交換するタイヤに近いジャッキアップポイントの下にジャッキを置きます。



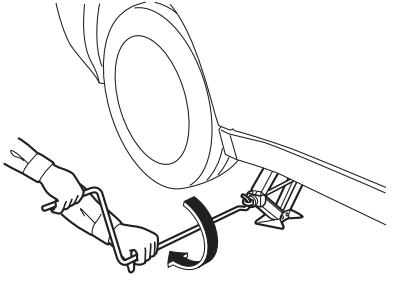
3. ジャッキ頭部の溝が車体のジャッキアップポイントにはまるまでジャッキハンドル取り付け部を手で回します。



4. ホイールナットレンチを使い、すべてのホイールナットを約半回転ゆるめます。



5. ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。ジャッキハンドルを回し、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。



⚠ 警 告

ジャッキアップするときは次のことを必ずお守りください。守らないと重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 電動パーキングブレーキを確実にかけてセレクトレバーを“P”にしてから作業する。
- エンジンを始動しない。
  ー 車が発進したり、ジャッキが外れるおそれがあります。
- 車両の下にもぐり込まない。
- ジャッキと地面や車両との間にものを挟まない。

⚠ 注 意

ジャッキアップするときは次のことを必ずお守りください。

- タイヤ交換あるいはタイヤチェーンの脱着以外に使わない。
- 必ず車載のジャッキおよびジャッキハンドルを使う。

⚠ 注 意

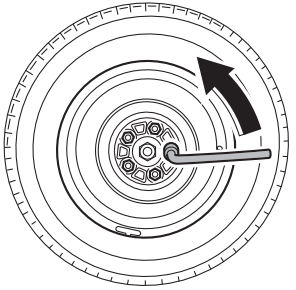
– 車載されたもの以外を使用した場合、ジャッキが外れたり、損傷したり、車体を変形させるおそれがあります。また、車載されたジャッキは他車には使わないでください。

- 平坦で硬いところに駐車して作業する。
- 輪止め（タイヤストッパー）をして車を固定する。
- 車内に入らない。
- 車体に振動を与えない。
  – ジャッキが外れるおそれがあります。
- ジャッキが確実に車体のジャッキアップポイントにかかっていることを確認する。
  – ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっているとジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷付けるおそれがあります。

ガレージジャッキなどを使用してジャッキアップする場合、SUBARU販売店にご相談ください。

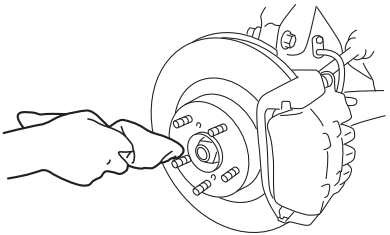
タイヤ交換

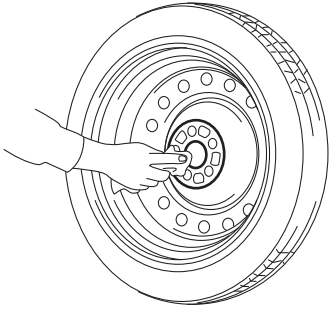
1. ホイールナットを外します。



2. タイヤを交換します。

このとき、ホイール取り付け部とホイールの接触面およびネジ部の汚れを拭き取ってください。また、ネジ部に傷などの異常がないか確認してください。





⚠ 注 意

- ネジ部に異常がある場合は、直ちにSUBARU販売店にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、ブレーキ周辺にぶつけない。
  - 万一ぶつけてしまった場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

知 識

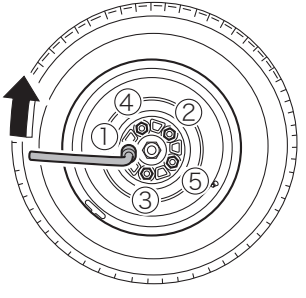
タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。

下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

3. ホイールナットを手で回して取り付けます。その後ホイールがガタつかない程度までホイールナットをホイールナットレンチで仮締めします。

4. ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。

5. ホイールナットレンチを使用して、図の順番に2、3回にわけてホイールナットを締め付けます。



レンチの柄の先端にかける力	締付トルク（参考）
400～500 N（40～50 kg）	120 N·m（12 kgf·m）

⚠ 注 意

ホイールナットを締め付けるときは次のことをお守りください。

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎない。
- ナット、ホイールの座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにする。

タイヤ交換後

ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを元の場所へ戻します。
☞P.711参照
最初はゆっくり走り、異音や振動がないか確認します。

⚠ 注 意

- タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の力で締め付ける。
  ☞P.726参照
- 車体に振動がでたらSUBARU販売店で点検整備を受ける。
  – パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。

ホイールの交換

ホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のホイールを取り付けてください。
ホイールのサイズは「タイヤ・ホイール」をご覧ください。
☞P.788参照

取り付け向き指定タイヤ

取り付け向きが指定されているタイヤには、INSIDE（内側）マーク、OUTSIDE（外側）マークが表示されています。
タイヤをホイールに取り付けるときには、OUTSIDEマークが車両外側から見えるように取り付けてください。

⚠ 警 告

- 仕様違いのホイールを装着しない。
  – ホイールがブレーキに接触したり、タイヤと車体とのすき間が変わることでハンドルを切ったときにタイヤが車体に接触し、車両のコントロールができなくなり、事故につながるおそれがあります。

知 識

次のことを行う際は、SUBARU販売店にご相談ください。

- 他の車のホイールで、ホイールのリムサイズやインセットが同じであるものを使用するとき
- アルミホイールを交換するとき
- ホイールバランスを調整したいとき

ホイールバランス

新車時、各ホイールのバランスは調整してありますが、しばらく使用するとタイヤの摩耗とともにホイールバランスが狂ってきます。
ホイールバランスが適正でないと、特定の速度域でハンドルが小刻みに振動したり、直進性が悪くなったりするばかりか、ステアリング系統やサスペンションの故障やタイヤの異常摩耗などの原因になります。ホイールバランスの狂いによる振動を感じたら、SUBARU販売店でホイールバランスを点検・調整してください。
タイヤの修理をした際、またはタイヤを交換した際もホイールバランスの調整をしてください。

ホイールアライメント

ホイールアライメントとは車の安定性を保つために設定されている、路面や車体に対するタイヤの角度です。タイヤを縁石に強くぶつけたりするとホイールアライメントが狂い、車の安定性が損なわれたりタイヤが異常に摩耗したりすることがあります。
タイヤを縁石などに強くぶつけたりした場合は、SUBARU販売店でホイールアライメントのチェックを行ってください。

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換

雪道や凍結路では、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着して走行してください。一般タイヤは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。
雪道や凍結路の走行が事前に予測される場合には、あらかじめ冬用タイヤを装着しておいてください。装着についての条例は地域によって異なることがあります。走行する地域の条例に従ってください。
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）に交換するときは、必ず4輪とも指定サイズで同一のタイヤを使用し、通常のタイヤ交換と同様に行ってください。
☞P.722、788参照

⚠ 警 告

- 乾いた路面を走行するときは、通常より注意して安全運転を心がける。
  - 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾いた路面では一般タイヤに比べ滑りやすくなります。

⚠ 注 意

- 標準装着タイヤサイズが225/45R18の車両は、215/50R17の冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着する。
  - 18インチの冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用する場合は、フェンダー内側にタイヤが当たり損傷するおそれがありますので、必ずSUBARU販売店にご相談ください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンは、予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常用装備品です。タイヤチェーンは、前輪に装着してください。後輪にはタイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンの装着方法や使用方法については付属の取扱説明書をご覧ください。
タイヤチェーンを装着しても路面の状況によっては極低速でスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
タイヤチェーンを取り付けると、アルミホイールまたはフルホイールキャップが傷付く場合があります。

⚠ 注 意

- タイヤチェーンは非常時のみ、純正チェーンを前輪に取り付ける。
  - タイヤチェーンを取り付けたときは急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 乾いた路面の走行はできるだけ避ける。
  - チェーンの寿命を短くします。
- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認する。
- タイヤチェーン装着後はゆっくりと走行し（100 m程度）、異音やタイヤチェーンのゆるみがないかなどを確認する。
- タイヤチェーンを取り付けるときに着用する手袋なども準備しておくことをお奨めします。

タイヤサイズに合ったものを使用してください

タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。詳しくは、SUBARU販売店にご相談ください。

部品の交換

ワイパーブレードの交換

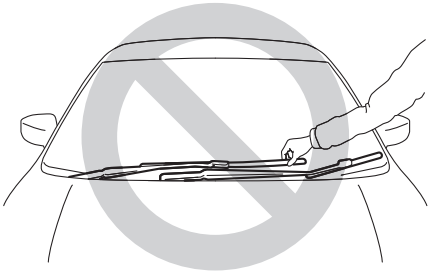
フロント

1. 運転席側のワイパーアームを起こしてから、助手席側のワイパーアームを起こします。

⚠ 注 意

ワイパーアームを起こす際は、次のことをお守りください。
守らないと思わぬ損傷につながるおそれがあります。

- ワイパーアームを起こすときは、ワイパーブレードを持たない。
  – ワイパーブレードを持つと、変形するおそれがあります。

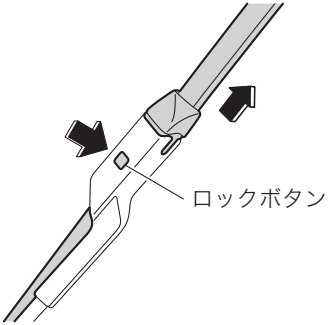


- ワイパーブレードを外したときは、ワイパーアームを倒さない。

⚠ 注 意

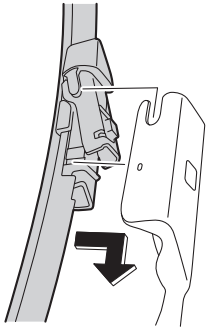
- 起こしたワイパーを戻すときは、手を添えながらゆっくりとフロントガラス面へ戻す。

2. ワイパーアームが倒れないように支えながら、ロックボタンを押し込み、ワイパーブレードを矢印の方向に引き抜きます。



3. ワイパーアームが倒れないように支えながら、新品のワイパーブレードとアームの接続部を合わせ矢印の方向に押し込みます。

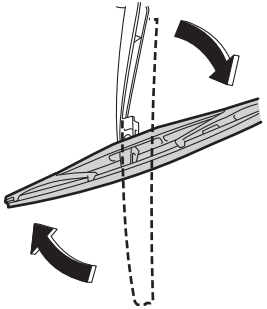
ロックボタンが外す前と同じ状態になり、確実に固定されていることを確認します。



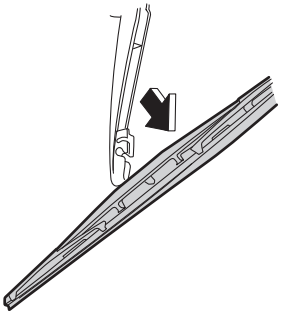
4. 手を添えながら助手席側のワイパーアームを元の位置に戻し、運転席側のワイパーアームも手を添えながら元の位置に戻します。

リヤ

1. ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを図のように回します。



2. ワイパーアームを手で支えながら、ワイパーブレードを手前に引き、取り外します。



3. ワイパーアームに、新品のワイパーブレードを取り外しの逆手順で取り付けます。

4. 手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻します。

知 識

- ワイパーブレード本体およびブレードラバーはスバル純正品を使用してください。純正品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- ブレードラバーは消耗品です。拭き残しが目立つなど、払拭性能が落ちてきたときは、早めに交換してください。傷んだままのブレードラバーを使い続けると、ガラスに傷をつけるおそれがあります。

ブレードラバーの交換

知 識

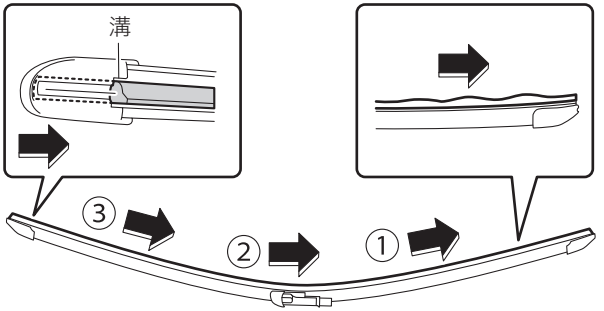
ブレードラバーを交換するときに、部品の破損などが心配な方はSUBARU販売店にご相談ください。

フロント

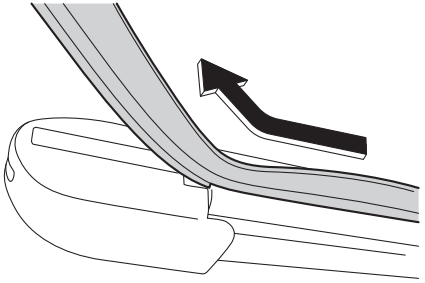
1. ワイパーブレードを取り外します。

☞P.730参照

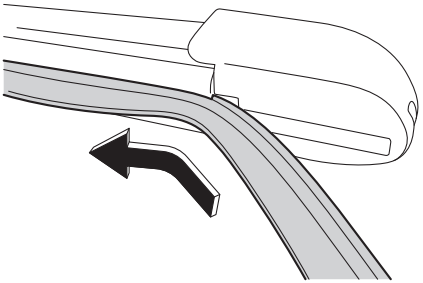
2. ブレードラバーの端から順に引っ張り、溝が見える位置まで縮めます。



3. ブレードラバーを溝から出し、引き抜きます。



4. 新品のブレードラバーを挿入します。このとき、ブレードラバーの溝を間違えないように挿入してください。



5. ブレードラバーを押し込み、先端を元の位置に戻します。

6. ブレードラバーが確実に固定されていることを確認します。
適切に装着されていないとワイパー作動時、ガラス面に傷をつけるおそれがあります。

7. ワイパーブレードを取り付けます。

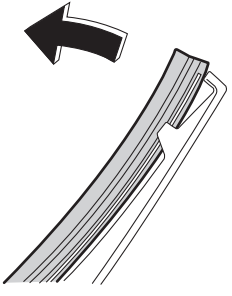
☞P.730参照

リヤ

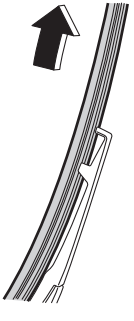
1. ワイパーブレードを取り外します。

☞P.731参照

2. ブレードラバー端部をワイパーブレードから外します。



3. ワイパーブレードからブレードラバーを引き抜きます。



4. ワイパーブレードに新品のブレードラバーを挿入します。このとき、ブレードラバーの溝部にワイパーブレードのツメ部が挿入されていることを確認します。適切に装着されていないとワイパー作動時、ガラス面に傷をつけるおそれがあります。

5. ワイパーブレードを取り付けます。

☞P.731参照

寒冷地用ワイパーブレードの装着

寒冷地用ワイパーブレードは、ブレードの金属部分への雪の付着を防ぎ、降雪期の視界確保ができます。
お車のサイズに合ったスバル純正部品を使用してください。

エアコンフィルターの交換

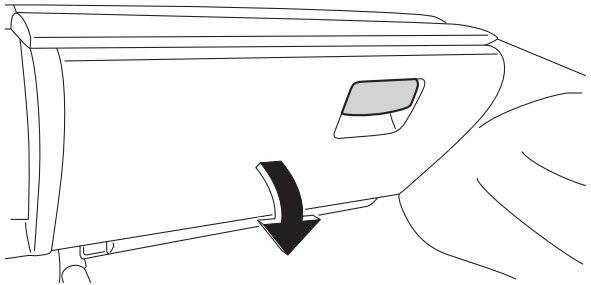
エアコンにはエアコンフィルターが装着されています。
快適にお使いいただくため定期的に交換してください。

交換時期

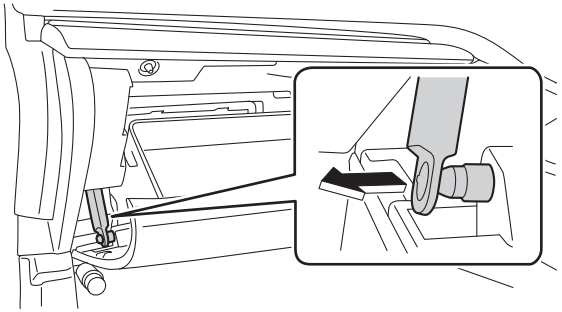
12,000 km走行ごとまたは1年ごと（どちらか早い方で実施）

交換方法

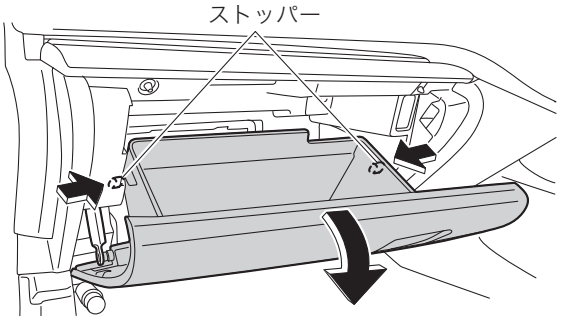
1. グローブボックスを開けます。



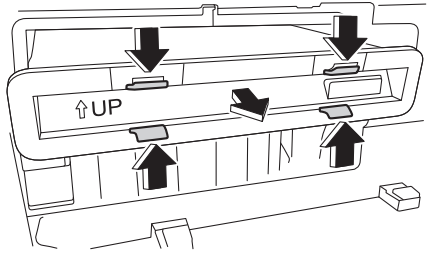
2. グローブボックスから、グローブボックスを固定しているダンパーを引き抜いて取り外します。



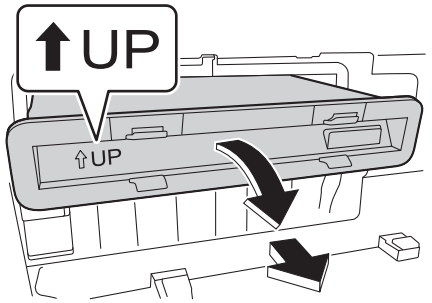
3. グローブボックスの両側面を内側に押し込んでストッパーを外し、グローブボックスを引き下げ、水平近くまで開いてからグローブボックスを取り外します。



4. ツメを押しながらエアコンフィルターを1 cmほどまっすぐ手前に引き出します。



5. エアコンフィルターの手前を下に傾けてゆっくり引き出します。



6. 新しいエアコンフィルターは、UPマークが上に向くように取り付けます。

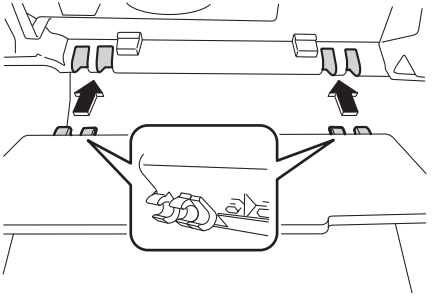
7. 逆の手順でグローブボックスを取り付けます。

⚠ 注 意

- グローブボックス脱着のとき、ハーネス（電線）などの部品に触れないようにする。
- エアコンフィルターを引き出す際は、付着した異物をフィルター挿入部内に落とさないようにゆっくりと引き出す。

知 識

グローブボックスを取り付けるときは、グローブボックス下側にあるツメ部とピン部を水平に合わせます。



アクセスキーの電池交換

キーレスアクセス&プッシュスタートシステムの作動や施錠・解錠の作動距離が不安定になった場合は電池の消耗が考えられますので、早めに電池を交換してください。

使用電池	ボタン電池CR2032

電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりアクセスキーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。
また端子部分などを曲げたり、水や油などでぬらしたり、ゴミなどの異物を入れると故障の原因となりますので、絶対におやめください。

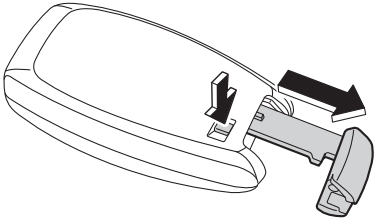
⚠ 注 意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意してください。

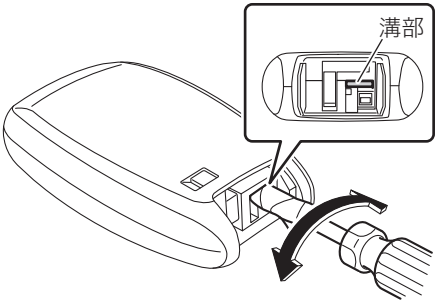
知 識

電池交換はSUBARU販売店に依頼することをお奨めします。

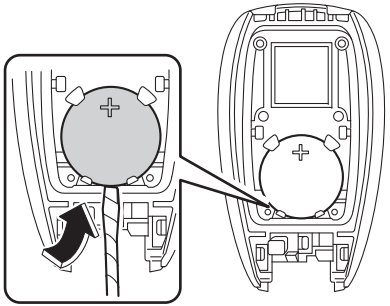
1. ボタンを押し、メカニカルキーを取り出します。



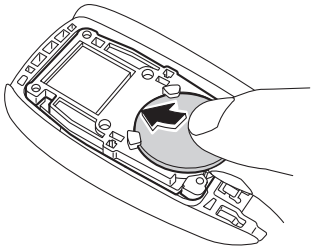
2. 溝部に絶縁テープなどを巻いたマイナスドライバーの先端を差し込みながら回してカバーを外します。



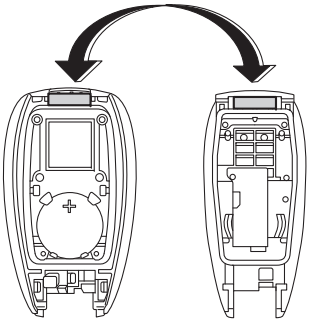
3. 電池と基板の間に絶縁テープなどを巻いたマイナスドライバーを差し込んで、電池の上側を押さえながら電池を抜き取ります。



4. 新しい電池のプラス極を上にして図のように挿入し、確実に取り付けます。



5. 凹凸を合わせてカバーを確実に取り付けます。



電球（バルブ）の交換

交換方法が記載されていない電球の交換につきましてはSUBARU販売店にご相談ください。

名称	容量およびワット数（型式）
サイドウインカー／ハザードランプ（補助方向指示器／非常点滅表示灯）（ドアミラー）※	—
後席スポットマップランプ※	—
スポットマップランプ※	—
ポジションランプ（車幅灯）※	—
フロントウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点滅表示灯）※	—
リヤウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点滅表示灯）	12 V-21 W（WY21W）
フロントフォグランプ（前部霧灯）※	—
リヤフォグランプ（後部霧灯）※	—
ヘッドランプ（前照灯）ハイビーム（走行用前照灯）／ロービーム（すれ違い用前照灯）※	—
テールランプ（尾灯）※	—
ブレーキランプ（制動灯）※	—
バックランプ（後退灯）※	—
ライセンスランプ（番号灯）※	—
ハイマウントストップランプ（補助制動灯）※	—
カーゴルームランプ	12 V-5 W（W5W）
バニティミラーランプ	12 V-2 W（SF6/7）
ドアミラーランプ※	—

※ LEDタイプとなっています。交換はSUBARU販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

電球を交換するときは次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故やけがや車両火災の原因につながるおそれがあります。

- ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換する。
  - ー やけどをするおそれがあります。
- 定められたワット数のものと交換する。
- 電球の表面に素手で触れない。
  - ー やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  - ー 油などが付着すると寿命が短くなります。素手で触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよく拭き取ってください。
- 電球を傷付けたり、落下させたりしない。
  - ー 球切れや破裂することがあります。
- 電球を取り外すときは工具を使用しない。
  - ー ショートするおそれがあります。

知 識

- 電球が点灯しない場合、ヒューズが切れていることがあります。ヒューズの点検も行ってください。
  ☞**P.772**参照

知 識

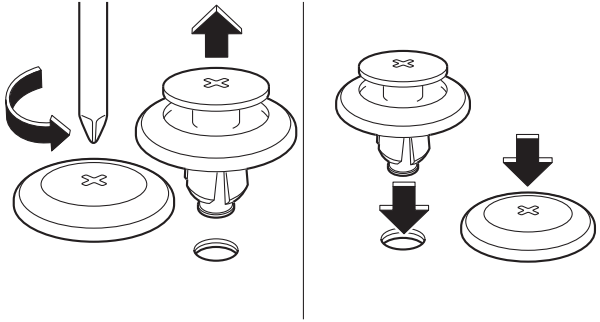
- ヘッドランプやブレーキランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差による空気中の水分が付着するもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときや、ランプ内に水がたまっているときは、SUBARU販売店にご相談ください。
- 電球を交換するときに、部品の破損などが心配な方はSUBARU販売店にご相談ください。
- 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。電球のソケットなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確認してください。
- ヘッドランプを交換したときは法律で定められた光軸調整が必要となります。SUBARU販売店にご相談ください。
- ランプ本体をネジで締め付けるとき、締め過ぎてランプ本体を割らないように気をつけてください。

クリップの脱着

交換電球によりクリップを外す作業があります。次の手順で取り外し、電球交換作業後は、元の状態に戻してください。

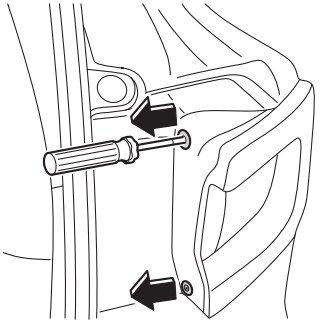
1. プラスドライバーでクリップ中央部を反時計回りに回します。
2. クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

   クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。

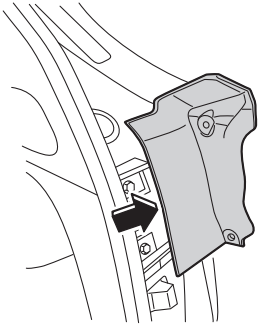


リヤウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点滅表示灯）

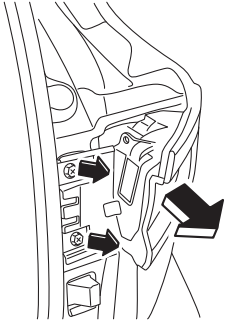
1. クリップを2本外します。



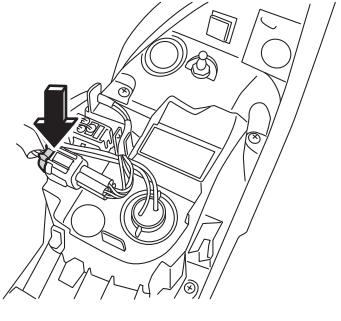
2. 手前に引いてカバーのツメを外し、車両内側にスライドさせて取り外します。



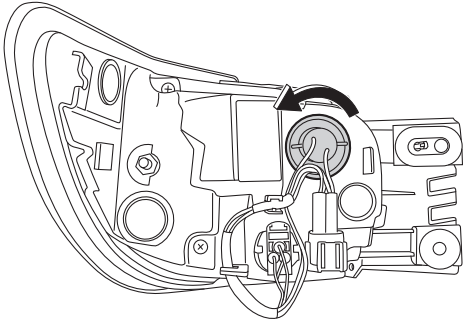
3. ネジを2本外してランプ本体を後ろに引き、取り外します。



4. ツメを押しながらコネクターを外します。



5. ソケットを反時計回りに回し、ソケットを取り外します。



6. ソケットから電球を引き抜きます。

知　識
取り付けるときは、逆の手順で取り付けます。

その他部品の交換が必要なとき

部品の交換が必要なときは、次のことをお守りください。守らないとエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警 告

- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしない。
  - 車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- スバル純正品以外の部品などは装着しない。
  - エアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- 次のような修理や交換をする場合には必ずSUBARU販売店にご相談ください。エアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
  - ハンドルまわりやインストルメントパネル、センターコンソール付近を修理する場合。
  - オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合。
  - フロントスピーカー交換などフロントドアの改造を行う場合。
  - 車体前面（車体側面）の板金塗装や修理をする場合。

⚠ 警 告

必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしない。
- フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の取り外し、取り付けなどSRSカーテンエアバッグ格納部周辺を分解、修理しない。
- センターピラー、リヤピラー、フロントドアなどのセンサー格納部を分解、修理しない。
  - 分解、修理が必要な場合はSUBARU販売店で行ってください。
- SRSエアバッグが格納されているパッド部およびフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用しない。
  - SUBARU販売店で交換してください。
- 歩行者保護エアバッグが格納されているパッド部、およびフロントバンパー部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用しない。
  - SUBARU販売店で交換してください。正常に作動しないおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、ボンネット上部に荷重を加えたり、強く叩くなどしない。
  - 歩行者保護エアバッグが損傷し、正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 警 告

- バンパー・ボンネット・サスペンション・エアロパーツ・ホイール、カウルなどの加工や純正品以外に交換しない。また、ナンバープレートベースなどのバンパーアクセサリー部品も純正品以外装着しない。
  - システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- エアバッグシステムの部品・配線を取り外したり修理しない。また、電気テスターを使ってシステムの回路診断をしない。
  - 誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。
- 作業中、カウル付近やフロントバンパー付近で手をついたり、強く押したりしない。
  - 衝突したときなどに誤作動したり、正常に作動しないおそれがあります。
- エンジンがかかっているときにバンパー周辺部品に触れない、よりかからない。
  - 予期せぬ作動でけがをしたり、部品が損傷してシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- 車やエアバッグを廃棄するときは必ずSUBARU販売店にご相談ください。エアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。
- 純正品の取り付けはSUBARU販売店にご相談ください。

9. 万一の場合

対処のしかた
事故が起きたとき ····· 746
故障時の対応方法と連絡先 ····· 747
踏切で動けなくなったとき ····· 747
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき ····· 748
路上で動けなくなったとき ····· 749
水没して動けなくなったとき ····· 749
雪やぬかるみにはまって動けなくなったとき ····· 750
発炎筒 ····· 751
ハザードランプ（非常点滅表示灯）····· 752

パンクしたとき
応急用パンク修理 ····· 753

故障したとき
セレクトレバーが動かないとき ····· 763
パワーリヤゲートが動かなくなったとき ····· 764
リヤゲートが開けられなくなったとき ····· 765
フューエルリッド（燃料給油口）が解錠できないとき ··· 766
アクセスキーが作動しないとき ····· 767
バッテリーが上がったとき ····· 769
ヒューズの点検・交換 ····· 772

けん引のとき
けん引について ····· 775
けん引してもらうとき ····· 775
他車をけん引するとき ····· 779

オーバーヒートしたとき
対処のしかた ····· 781

対処のしかた

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

- 続発事故の防止につとめてください
  他の交通の妨げにならないような安全な場所にお車を移動させ、エンジンを止めます。
- 負傷者の救護につとめてください
  負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
- 警察へ届け出をしてください
  事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。
- 相手方の確認とメモをおとりください
  相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。同時に事故状況もメモしておいてください。
- SUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）に連絡してください。

知 識

- つながる安心ベーシックをご利用中の場合、車両の状況によってはヘルプネットセンターに自動で通報します。
  ☞P.680参照
- つながる安心プレミアムをご利用中の場合、“SOS”ボタンを押して緊急車両の手配を要請できます。
  ☞P.681参照

エンジンが停止したとき

SRSエアバッグが作動する、または車両後方から大きな衝撃を受けると、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料漏れを最小限に抑えます。エンジンを始動する必要がある場合は、一度プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにし、再始動してください。

⚠ 注 意

エンジンを始動する前に、燃料が漏れていないことを十分確認してください。地面にぬれた跡があるなど燃料漏れの可能性がある場合は、直ちにSUBARU販売店にご連絡ください。

自動で解錠されたとき

SRSエアバッグが作動する、または車両後方から大きな衝撃を受けると、緊急避難ができるようにすべてのドア（リヤゲート含む）が自動で解錠されることがあります。このときオートドアロック・アンロック機能は一時停止します。機能を復帰させるには一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから再度ONにしてください。

⚠ 注 意

次の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

- 走行中、勝手にドアが解錠される場合

⚠ 注 意

- すべてのドアが閉まっているときに、集中ドアロックスイッチの「施錠」を押しても解錠してしまう場合
- オートドアロック機能が作動しない場合

知 識

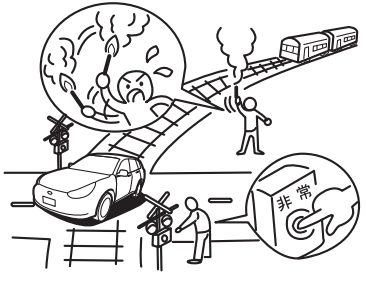
自動で解錠すると同時に、ハザードランプが点滅します。

故障時の対応方法と連絡先

1. お車を安全な場所に移動するなど、可能な範囲で安全を確保してください。
2. SUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）に連絡し、ご相談ください。

踏切で動けなくなったとき

踏切で脱輪などにより脱出できない場合は、踏切の非常ボタンを押してください。
非常ボタンがない場合、位置がわからない場合、緊急を要する場合は、発炎筒を使い合図をしてください。
☞P.751参照



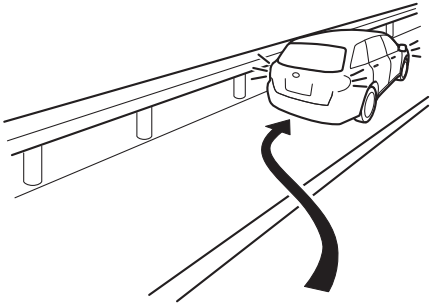
知 識

プッシュエンジンスイッチを押し続けても（スターターを回している状態）、お車を動かすことはできません。

- セレクトレバーが“P”または“N”以外ではスターターは回りません。

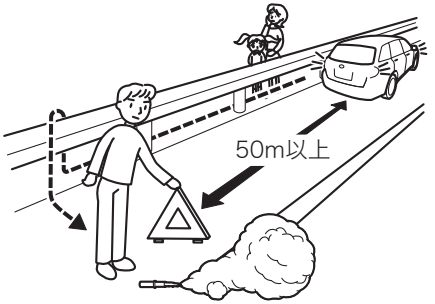
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

1. ハザードランプを点滅させ、お車を路肩など安全な場所に止めてください。

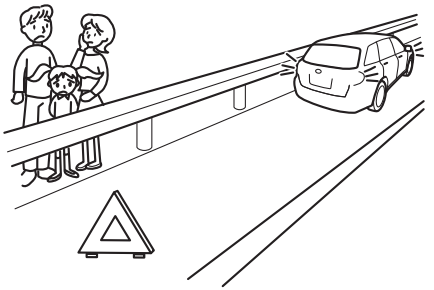


2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、お車の50 m以上後方へ三角停止表示板と発炎筒を置くか、停止表示灯を使用してください。

☞P.751参照



3. 運転者もガードレールの外側などに避難してください。



4. 安全を確保した後、非常電話などで救援をたのみます。

知 識

- 三角停止表示板または停止表示灯の設置は法律で義務付けられています。
- 三角停止表示板または停止表示灯は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

路上で動けなくなったとき

1. あわてず、もう一度エンジンを始動してみてください。

☞P.234参照

2. エンジンが始動しないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所へ移動してください。

移動するときはセレクトレバーを“N”にします。

☞P.239参照

水没して動けなくなったとき

お車が水没するおそれがあるときは車内に留まるとたいへん危険です。落ち着いてシートベルトを外し、車外に脱出してください。

- ドアが開く場合は、すみやかにドアから脱出してください。
- ドアが開かない場合は、パワーウインドウが作動すればドアガラスを開けて脱出してください。
- ドア、ドアガラスともに開かない場合は、車内外の水位が同程度になるまで待って、ドアを開けて脱出してください。

緊急脱出用ハンマーなどを使用するときは、ドアガラスまたはリヤガラスを割ってください。

知 識

- 車内外の水位に差があると、水圧によってドアを開けることができなくなります。
- フロントガラスには合わせガラスを使用しています。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーなどで割ることができません。
- 緊急脱出用ハンマーは車載されていませんので必要に応じて準備してください。

雪やぬかるみにはまって動けなくなったとき

雪やぬかるみ、砂地などにタイヤが埋まって空転したり、動けなくなったりした（スタックした）ときは、以下の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを“P”にする。
2. エンジンを停止する。
3. 前輪周辺の土や雪を取り除く。
4. 前輪の下に木や石もしくはフロアマットなどをあてがう。
5. エンジンを始動する。
6. セレクトレバーを確実に“D”または“R”にする。
7. パーキングブレーキを解除して、アクセルペダルをゆっくりと踏み、前進と後退を細かく繰り返す。

⚠ 警 告

- 車の周囲に物や人がいないか確認する。
  - 発進、後退時の衝突を避けるため、周囲に他の車や人、物がないことを確認してください。脱出時に車が飛び出すおそれがあるので、特に注意してください。
- 脱出の際に、車を手で押すなどの行為は絶対にしない。
  - 脱出時に車が飛び出すおそれがあり大変危険です。また事故の危険だけでなく、車に装着している部品の損傷や各種センサーの警告灯が点灯したり歩行者保護エアバッグが誤作動したりするおそれがあります。
- アクセルを強く踏み込まない。

⚠ 警 告

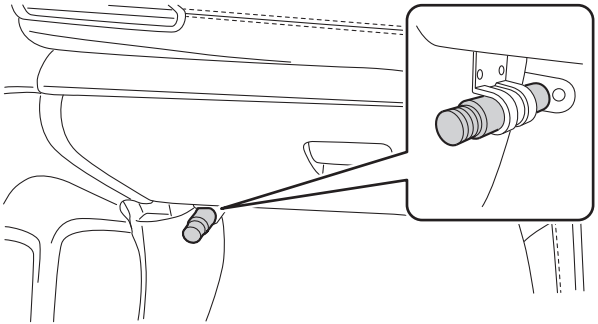
- アクセルを強く踏み込むと、タイヤが空転して、トランスミッションやその他の部品に損傷を受ける場合があります。また、摩擦で雪が解けるなどして状況が悪化します。

知 識

- VDC機能をOFFにすると、脱出しやすい場合もあります。☞P.267参照
- 1.～7.の手順で脱出が難しいときは、ロードサービス（SUBARU安心ほっとライン（巻末参照））に救出を依頼してください。

発炎筒

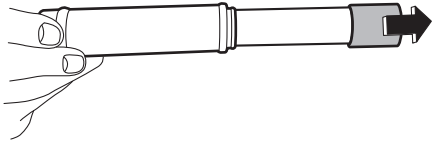
グローブボックス左下に発炎筒を備え付けています。
発炎筒の外筒に書いてある使用方法を、あらかじめ確認しておいてください。



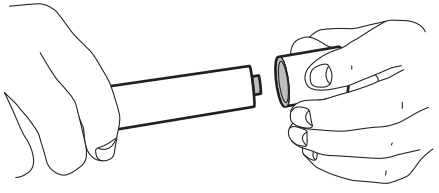
発炎筒の使いかた

1. ケースをひねり、本体からケースを取り外します。

2. ケースを本体の後部に取り付け、本体の白いキャップを取り外します。



3. 本体の先端を、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。



⚠ 警 告

発炎筒を使用するときは次のことを必ずお守りください。
守らないとやけどなど重大な傷害、車両火災や事故などの原因につながるおそれがあります。

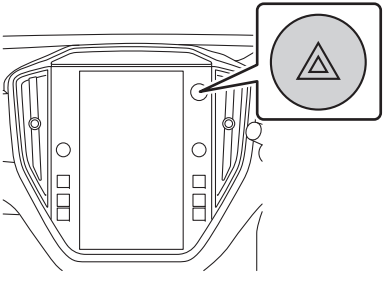
- 発炎筒をお子さまには触れさせない。
- 燃料など可燃物のそばで使わない。
- 筒先を顔や身体に向けたり、人に近づけたりしない。
- トンネルの中で使わない。
  – 煙で視界が悪くなり危険です。トンネルの中ではハザードランプを使用してください。
  ☞**P.752**参照

知 識

発炎筒には有効期限が明記されています。有効期限が切れる前にSUBARU販売店でお求めください。

ハザードランプ（非常点滅表示灯）

プッシュエンジンスイッチの状態に関係なく使用できます。
スイッチを押すと、すべてのウインカーが点滅します。
故障などでやむを得ず路上に駐車するとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。



知 識

長時間点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

パンクしたとき

応急用パンク修理

この車は応急用スペアタイヤを搭載しておりません。パンクの際は、車載のパンク修理キットを使用してください。パンク修理の際は、作業をスムーズにするため本取扱説明書をお読みになってから作業してください。
このパンク修理キットは応急修理を目的としています。修理後はすみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

⚠ 警 告

パンク修理キットを使用する際は、次のことを必ずお守りください。守らないと思わぬけがや事故につながるおそれがあります。

- パンク修理キットを使用したタイヤにはチェーンを装着しない。
- 安全な場所に停車し、交通の妨げにならないようにする。
- 車両が動かないように電動パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを“P”にする。
- ハザードランプを点灯させる。
- その場を離れない。

⚠ 注 意

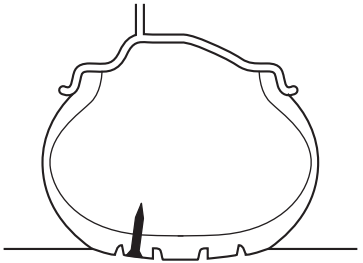
パンク修理キットを使用する際は、次のことに注意してください。

- 修理剤を誤って飲用した場合は、できるだけたくさんの水を飲み、直ちに医師の診断を受ける。

⚠ 注 意

- 修理剤が目や皮ふについた場合は、水でよく洗い流す。
  - 天然ゴムのアレルギー症状が出るおそれがあります。
  - 異常を感じたら医師の診断を受けてください。
- お子さまが誤って修理剤に手を触れないよう注意する。
- パンク修理キットは、指定サイズのタイヤ専用のため指定サイズ以外のタイヤや他の用途には使用しない。
  - タイヤの指定サイズは運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。

パンク修理キットで、タイヤの接地部に直径4 mm未満の釘やネジなどが刺さった軽度のパンクが一時的に修理できます。



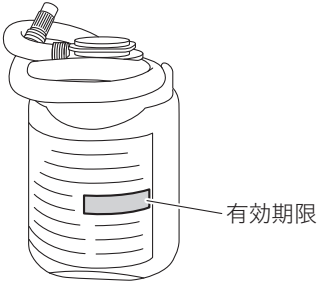
⚠ 注 意

- タイヤにささった釘やネジを取り除かず応急修理を行う。
  - 取り除いてしまうと、パンク修理キットの修理剤では応急修理ができなくなる場合があります。

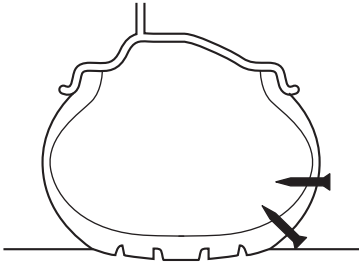
応急修理ができないとき

次の場合は、応急修理ができません。SUBARU販売店やSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）などにご連絡ください。

- 修理剤の有効期限が過ぎているとき



- 接地部以外が損傷を受けパンクしているとき



- タイヤ側面に亀裂やへこみがあるとき
- タイヤが2本以上パンクしているとき（修理剤1本につき、修理できるタイヤは1本です）
- ほとんど空気が抜けている状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールやホイールのバルブが損傷しているとき
- 直径4 mm以上の釘などによってパンクしているとき
- 気温が−30 ℃以下のとき

知 識

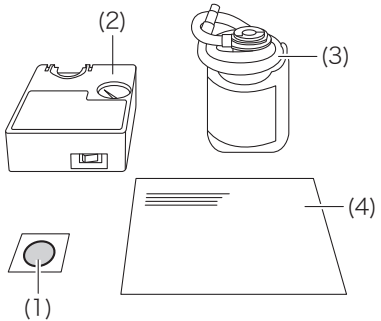
- 修理剤には有効期限があります。有効期限の過ぎた修理剤は徐々に劣化し、パンクを補修する機能が落ちてくるため、適切に応急修理ができない可能性があります。有効期限が切れる前に交換してください。交換についてはSUBARU販売店にご相談ください。
- 修理剤は衣服などに付着すると取れなくなるおそれがあります。

知 識

- 氷点下で使用する場合は、ボトルを車内で温めてから使用することをお奨めします。

パンク修理キット

パンク修理キットはカーゴルームのリッド（フタ）の下に格納されています。



(1) 速度制限シール
(2) コンプレッサー
(3) 修理剤
(4) クイックリファレンス

警 告

コンプレッサーを使用するときは次のことをお守りください。車両火災や感電の原因になるおそれがあります。

- 使用する前に、電源コードに損傷がないことを確認する。
- ぬれた手で操作しない。
- 使用中に発火、発煙、異臭などの異常が発生した場合は、すぐに使用を中止する。
  - 電源コードを取り外した後、SUBARU販売店にご連絡ください。

注 意

コンプレッサーを使用するときは、次のことをお守りください。コンプレッサーの故障の原因となります。

- 10分以上連続して作動させない。
- 水をかけない。
  - 降雨時の作業では水がかからないよう作業してください。
- 砂地など砂ぼこりの多い場所で使用しない。
- 本体が熱を持ち、作動が鈍くなったら使用を中止する。
  - 再使用するときは、コンプレッサーが冷えたことを確認してから使用してください。
- 分解・改造などはしない。
- 衝撃を与えない。

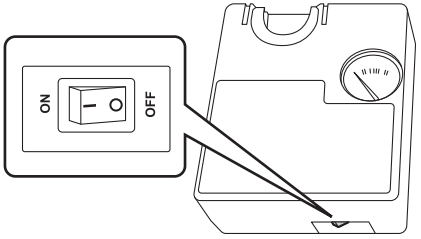
使用する前に

1. 地面が硬く平坦で、安全に作業ができる場所に車を止め、エンジンを停止します。
2. ハザードランプを点滅させ、人や荷物を降ろし、三角停止表示板または停止表示灯を使用します。
3. パンクしたタイヤのバルブが下にくるように停車してください。
4. 電動パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
5. カーゴルームのリッド（フタ）を開け、パンク修理キットを取り出します。

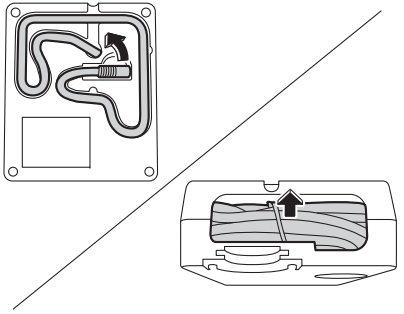
> **知　識**
>
> 三角停止表示板または停止表示灯は必要に応じて準備してください。

修理のしかた

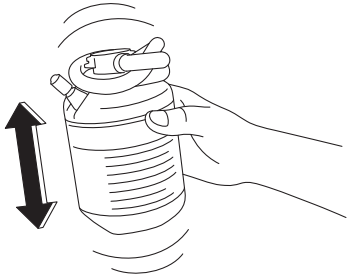
1. コンプレッサーの電源スイッチがOFFの位置にあることを確認します。



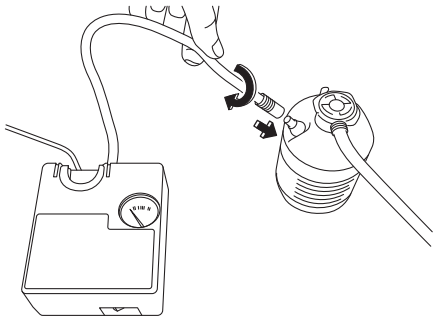
2. コンプレッサーの裏側からホースを、上部から電源コードを取り出します。



3. ボトルをよく振ってから、ホースを解きます。



4. コンプレッサーのホース先端部を、ボトルのバルブに確実に取り付けます。

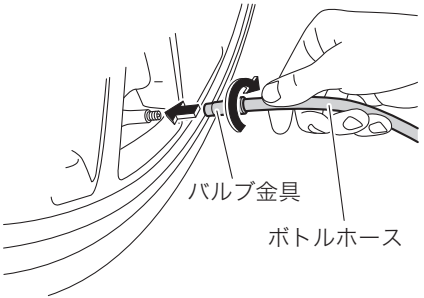


⚠ 注 意

ボトルのバルブのネジ山をつぶさないように注意する。

5. 損傷したタイヤのバルブキャップを外します。

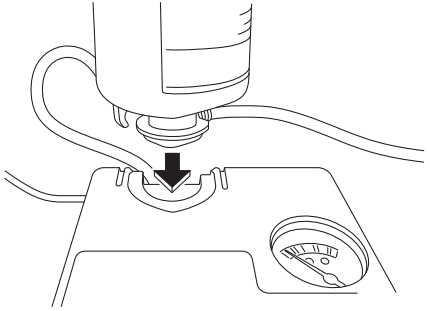
6. ボトルのホースを損傷したタイヤのバルブに確実に取り付けます。



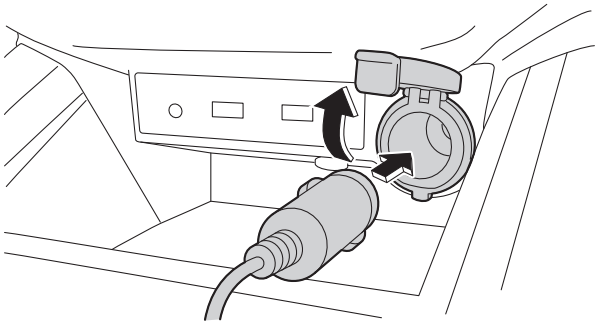
⚠ 注 意

バルブへの取り付けがゆるいと修理剤が漏れるおそれがあります。

7. ボトルを逆さまにして、キャップの形状を合わせてコンプレッサーに取り付けます。

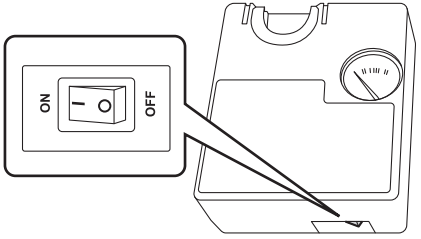


8. コンプレッサーの電源コードのプラグを電源ソケットに確実に差し込みます。



9. プッシュエンジンスイッチをACCにします。

10. タイヤの側面に亀裂や傷、へこみがないことを確認し、コンプレッサーの電源スイッチをONにして修理剤と空気を注入します。



⚠ 注 意

コンプレッサーを使用する際は、次のことをお守りください。

- コンプレッサーの電源は必ず電源ソケットから取る。
- 修理剤の注入中はタイヤの真横には立たない。

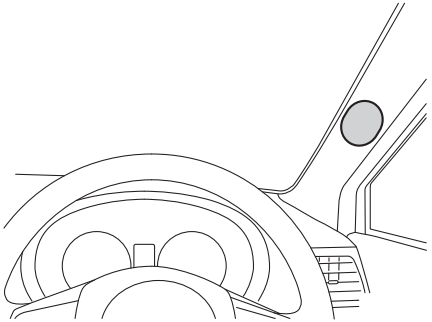
次の場合はパンク修理キットによる応急修理はできません。SUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとラインなどにご連絡ください。

- コンプレッサーの作動中、タイヤ側面に亀裂やへこみなどの損傷が見つかった場合
  - 直ちにコンプレッサーを停止してください。
- 10分間エアをいれてもタイヤの空気圧が緑色のゾーンにならない場合

知 識

修理剤を注入しているとき、空気圧は一時的に300 kPa以上に高くなりますが、修理剤がすべて流れ込むと空気圧は下がります。

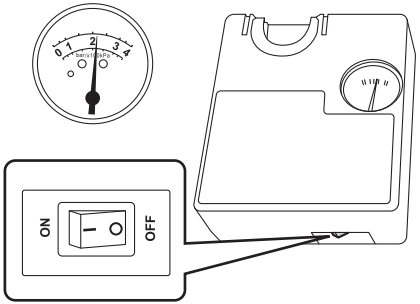
11. 速度制限（80 km/h）シールを取り出し、図の位置に速度制限シールを貼ります。



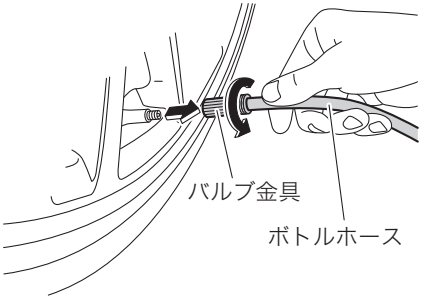
⚠ 注 意

- 速度制限シールは、ハンドル中央部やインストルメントパネルには貼らない。
  - SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。また、メーターの警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置に貼らないでください。

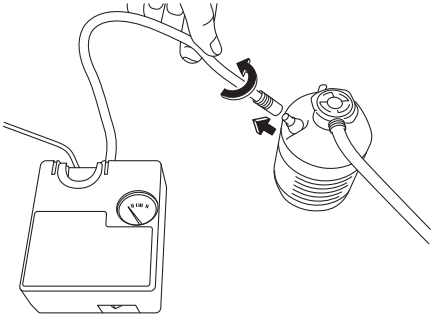
12. タイヤの空気圧が緑色のゾーンになったら、コンプレッサーの電源スイッチをOFFにします。



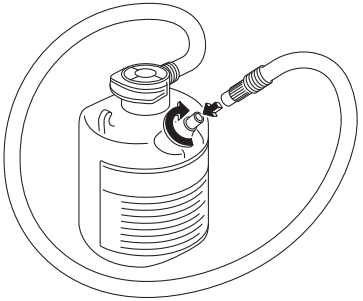
13. ボトルのホースを損傷したタイヤから外し、バルブキャップを取り付けます。



14. コンプレッサーのホースを、ボトルから外します。



15. 修理剤がこぼれないように、ボトルのホースを、素早くボトルのバルブにつないでください。



16. パンク修理キットを車両に搭載して直ちに走行します（10分間または5 km程度）。走行は法定速度を守って、80 km/h以下の速度で急ハンドルなどを避け、慎重に運転してください。

⚠ 注 意

- 走行中異常を感じたときは、運転を中止する。
  - 修理剤の補修が完了していない場合、空気圧が低下して安定性を損なうおそれがあります。異常を感じたときは、SUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとラインなどにご連絡ください。
- パンク修理キットとボトルが動かないよう確実に固定する。

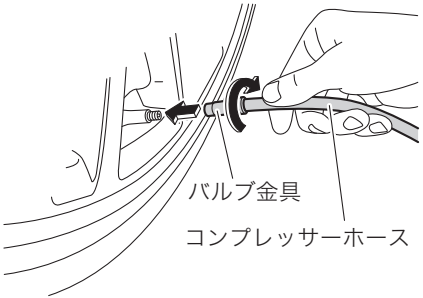
17. 安全な場所にお車を止め、コンプレッサーに付属の空気圧計を使用してタイヤの空気圧を点検します。

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルで確認してください。

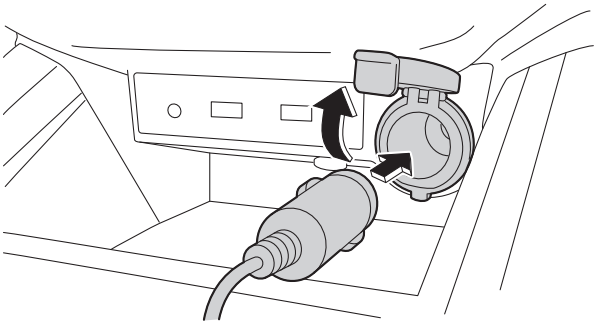
☞P.788参照

18. 応急修理したタイヤのバルブキャップを外します。

19. コンプレッサーのホースを、応急修理したタイヤのバルブに確実に取り付けます。

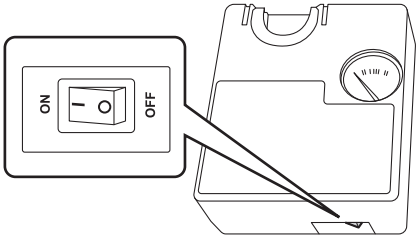


20. 電源コードのプラグを電源ソケットに確実に差し込みます。



21. プッシュエンジンスイッチをACCにします。

22. コンプレッサーの電源スイッチをONにして、数秒後にOFFにしてください。



23. タイヤの空気圧が黄色のゾーンのときは、タイヤの指定空気圧まで空気を入れます。

☞P.788参照

タイヤの空気圧が赤色のゾーンのときは、修理剤による応急修理はできません。

運転を中止してSUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）にご連絡ください。

知　識

寒冷時は修理完了までの時間、走行距離が長くなる場合があります。この場合、手順16.～23.の作業を繰り返してください。作業を繰り返しても空気圧が低下する場合は応急修理ができません。運転を中止してSUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとラインにご連絡ください。

24. 応急修理後は、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

⚠ 注 意

パンク修理キットで修理後は次のことをお守りください。

- 走行するときは法定速度を守り、80 km/h以下の速度で、急ハンドルなどを避け慎重に運転する。
- 応急修理したタイヤで200 km以上の距離を走行しない。

知 識

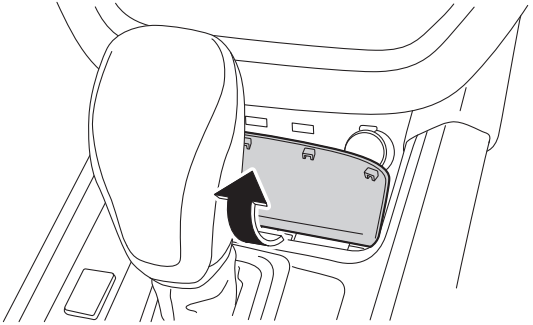
- パンク修理キットを使用したときは、すみやかにタイヤおよびタイヤのバルブを新品に交換してください。
☞P.722参照
- ホイールに損傷のない場合は、付着した修理剤を除去することでホイールを再使用できます。
- 使用したパンク修理キットは、修理剤、速度制限シールを交換してください。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

故障したとき

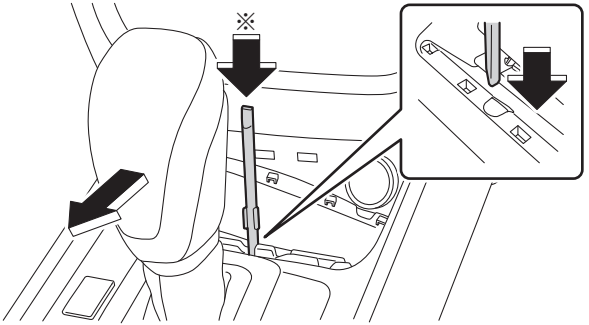
セレクトレバーが動かないとき

セレクトレバーを“P”から動かすことができないまたは“P”へ動かすことができないときは、次の手順でシフトロックを解除してください。

1. 電動パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
2. センターコンソールトレイのカバーをめくります。



3. ブレーキペダルを踏みます。
4. シフトロック解除ボタンをグリップを外したドライバー※などで押しながら、セレクトレバーのボタンを押してレバーを操作します。



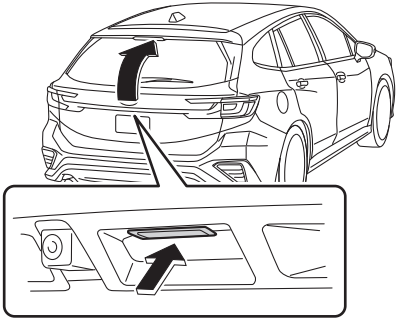
知 識

- セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにSUBARU販売店にご連絡ください。
- バッテリーが上がったときは電動パーキングブレーキを解除できません。
  - 電動パーキングブレーキがかかったままのときは、セレクトレバーを“P”以外にしても車は動きません。

パワーリヤゲートが動かなくなったとき

パワーリヤゲートが開かないときは、もう一度解錠操作をしてください。それでも開けられない、または開いたまま作動を停止したときは、次の操作で復帰します。

1. リヤゲートオープナースイッチを約5秒間押し続けます。パワーリヤゲートが閉まっている場合は手で支えたままゆっくり開けます。



知 識

約5秒間以上押し続けてもパワーリヤゲートが閉まったままのときは、車内から応急処置用解錠レバーで開けます。
☞P.765参照

2. 半ドアの位置までゆっくり閉めます。リヤゲートオートクロージャーが作動してパワーリヤゲートが閉まると復帰します。
3. パワーリヤゲートを操作し、正常に作動することを確認します。

⚠ 注 意

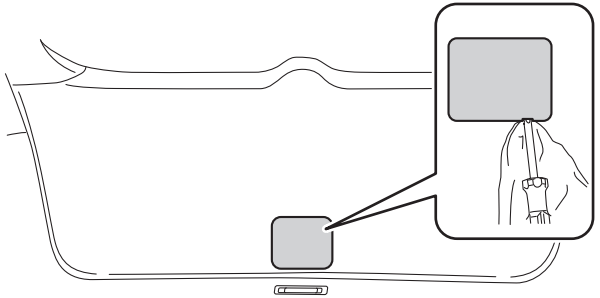
- 上記の操作で閉まらない、または閉まってもパワーリヤゲートが正常に作動しない場合は、SUBARU販売店で点検を受ける。
- パワーリヤゲートを手動で閉めるときは、無理な力を加えない。

  ー 故障の原因となります。

リヤゲートが開けられなくなったとき

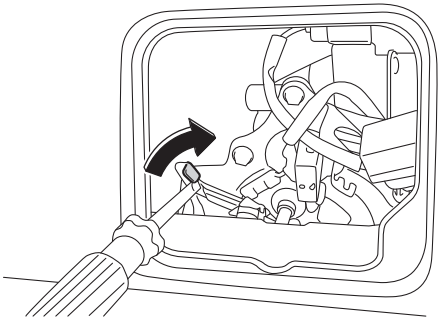
バッテリー上がりや故障などでリヤゲートが開けられなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から開けることができます。

1. リヤゲートトリムのカバーを外します。

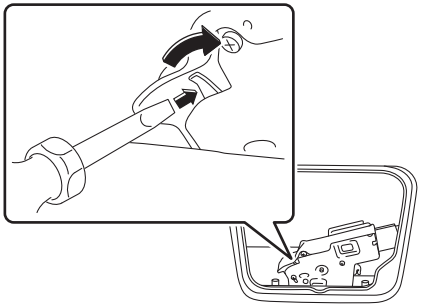


2. マイナスドライバーなどを使用してレバーを矢印の方向に動かし、リヤゲートを開けます。

<パワーリヤゲート装備車>



<パワーリヤゲート装備車以外>

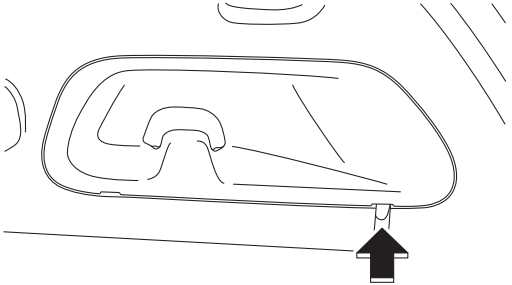


⚠ 注 意

- 応急処置用解錠レバーは指で操作しない。
  - けがをするおそれがあります。必ずドライバーなどを使用してください。

フューエルリッド（燃料給油口）が解錠できないとき

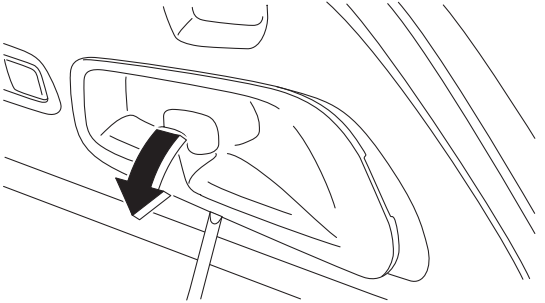
1. カーゴルーム右側の買い物フックの後ろ側の切り欠きにドライバーを差し込んで手前に引っ張り、ツメを外します。



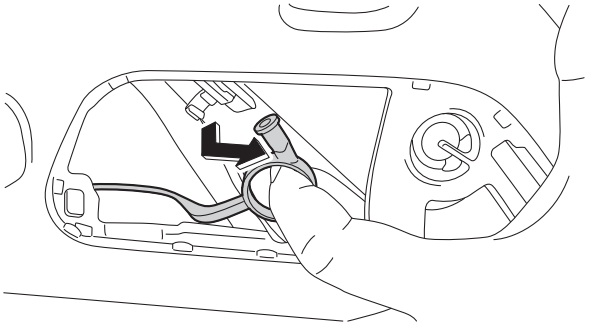
⚠ 注 意

傷付けないよう、ドライバーの先端に布などを巻いて使用してください。

2. フックパネルの中央にドライバーを差し込んでツメを外し、フックパネルを引っ張って取り外します。



3. レバーを外して、力を入れずに車両後方へ引く（1センチ程度）と解錠します。



知 識

- 解錠後は通常のフューエルリッド操作で開閉できます。

知 識

- フューエルリッドの施錠装置が故障している場合は、解錠後に集中ドアロックスイッチで施錠することができない場合があります。すみやかにSUBARU販売店にご相談ください。

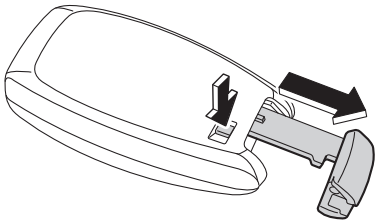
アクセスキーが作動しないとき

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池残量が少なくなり施錠・解錠およびエンジン始動ができなくなった場合は、次の方法で施錠・解錠およびエンジン始動をしてください。また電池がなくなった場合はアクセスキーの電池を交換してください。

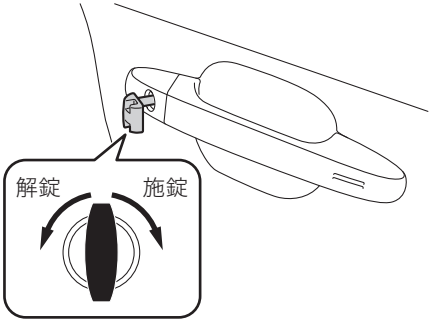
☞P.737参照

メカニカルキーによる施錠・解錠

ボタンを押し、メカニカルキーを取り出します。



メカニカルキーを確実に差し込んでお車の後ろ側に回すと解錠され、前側に回すと施錠されます。メカニカルキーは差し込み方向に指定のある内溝キーです。差し込めない場合は向きを改めて差し込んでください。



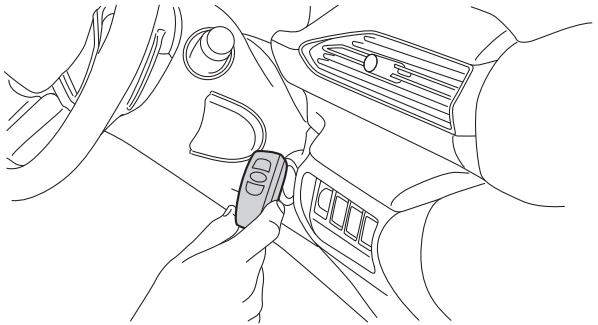
知 識

- 盗難警報装置が監視状態のときは警報が鳴ります。
  アクセスキーの電池が少ない状態で警報が作動した場合はアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけてください。
  ☞P.768参照
- 紛失防止のため、使用後は必ずメカニカルキーをアクセスキーに装着してください。
- メカニカルキーは運転席ドアのみ施錠・解錠します。他のドアは連動しません。

アクセスキーが作動しないときのエンジン始動

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、およびキーレスアクセス＆プッシュスタート機能を停止していて、アクセスキーが作動しないときは、次の方法でエンジンを始動できます。

1. 電動パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
2. セレクトレバーが“P”であることを確認します。
3. ブレーキペダルを踏みます。
4. アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。



5. アクセスキーと車両の通信が完了するとブザー（ピッ）が鳴ります。（プッシュエンジンスイッチがONになります。キーレスアクセス＆プッシュスタート機能を停止している場合はACCになります。）
6. ブレーキペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押します。

⚠ 注 意

- アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びた物、信号発信機などを近づけない。
  – アクセスキーと車両の通信が妨害されることがあります。

知 識

- ACCからエンジンを始動せずにONにしたいときは、ブレーキペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押します。
- ドアの開閉後、しばらくして操作するとブザーが鳴らない場合があります。ブザーが鳴らない場合は、運転席ドアを開閉した後、15秒以内にアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてください。
- アクセスキーのボタン側をプッシュエンジンスイッチに近づけた場合、反応しないことがあります。

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。
- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンが始動しないとき
- ランプがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき

⚠ 注 意

アイドリングストップに対応した専用バッテリーを使用しています。バッテリーが上がったときは、SUBARU販売店で点検を受けてください。

対処のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

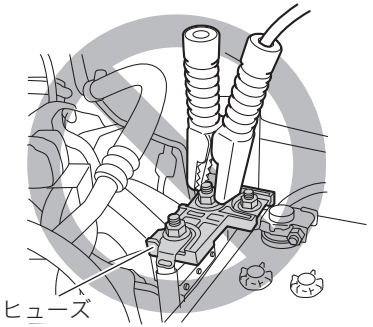
⚠ 警 告

バッテリーが上がったときは次のことを必ずお守りください。
守らないと重大な傷害につながるおそれがあります。
- ブースターケーブルを接続する前にバッテリー液量を確認する。
  - バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で充電または使用を続けると、容器内の各部位の劣化を早め、バッテリーの寿命を縮めたり、発熱や破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。

⚠ 警 告

- ブースターケーブルを接続するときは、必ず次のことを守る。守らないと火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険、かつ電子機器やエンジン部品を傷める原因となる。
  - ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
  - ⊕端子と⊖端子を接触させないでください。
  - 自車のバッテリーの⊖端子にケーブルを接続しないでください。

  ☞P.771参照
  - バッテリー⊕端子付近にあるヒューズなどには絶対にケーブルを接続しないでください。ヒューズなどが破損するおそれがあります。



- バッテリーに火気を近づけない。
  - バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火して爆発するおそれがあります。

⚠ 警 告

- バッテリーを充電するときには、すべてのキャップを外し、通気のよい場所で充電する。
  - 発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸なので、目および身体につかないように気をつける。
  - 万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。

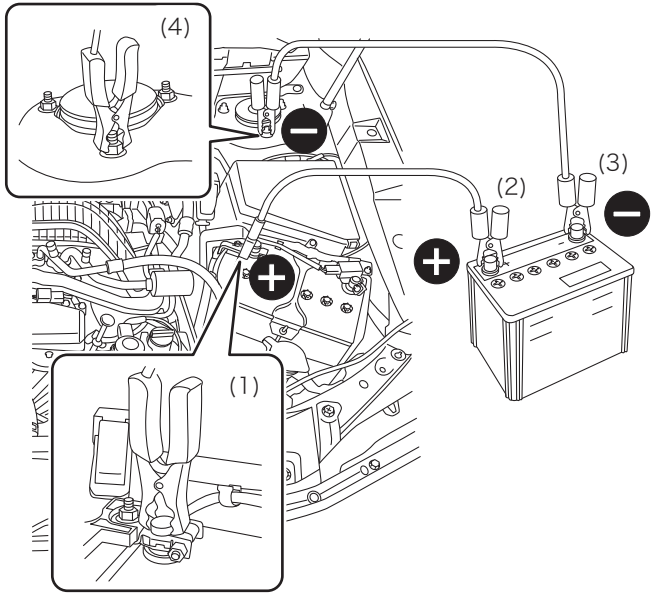
⚠ 注 意

ブースターケーブルを接続するときは、次のことを必ずお守りください。

- 12 Vのバッテリーと接続する。
- ケーブルをオルタネーターベルトなどの可動部品に接触させない。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さない。
  - 電子機器が損傷するおそれがあります。
- バッテリー上がりおよびバッテリー交換後は、ステアリングロックシステムの初期化を行う。
  - 行わないとエンジンが始動しない場合があります。

☞P.233参照

ブースターケーブルの接続手順



1. ⊕端子のカバーを外し、赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーの⊕端子につなげます。(1)
2. 赤いブースターケーブルのもう一方を救援車のバッテリーの⊕端子につなげます。(2)
3. 黒いブースターケーブルの一方を救援車のバッテリーの⊖端子につなげます。(3)
4. 黒いブースターケーブルのもう一方を自車の車体（バッテリーから離れたボルトなど）につなげます。(4)
5. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
6. 自車のエンジンを始動します。
7. ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外して、⊕端子のカバーを取り付けます。

ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていないのに電気装置が動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。
プッシュエンジンスイッチをOFFにし、ヒューズを確認してください。

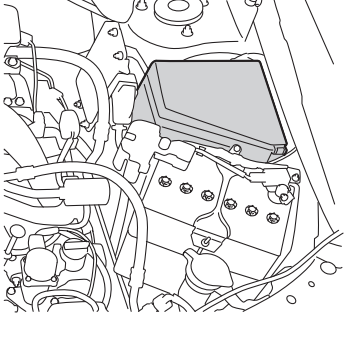
知　識

ランプ類が点灯しないときは、電球が切れていることがあります。
☞P.739参照

ヒューズボックスの開けかた

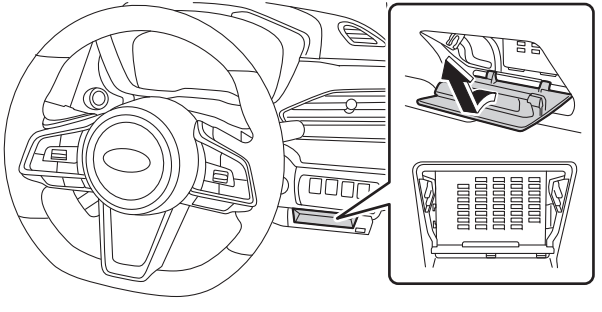
エンジンルーム

ボンネットを開け、ヒューズボックスカバーを取り外します。

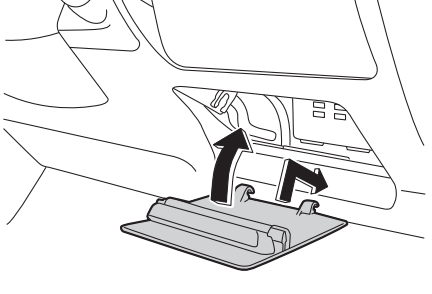


室内

ヒューズボックスカバーを開け、取り外します。

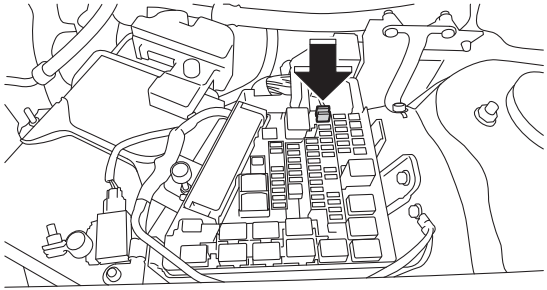


取り付けるときは、下側のツメを確実に合わせて取り付けます。

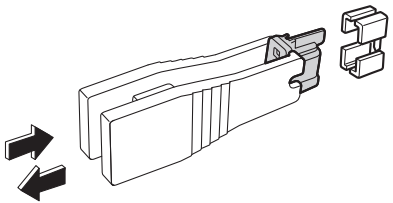


交換のしかた

1. ヒューズプラーをつまんでエンジンルーム内のヒューズボックスから抜き取ります。



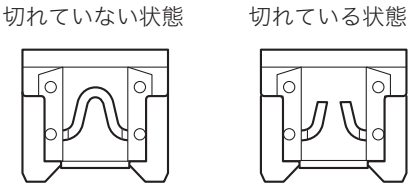
2. ヒューズプラーでヒューズをつかみ、抜きます。



知 識

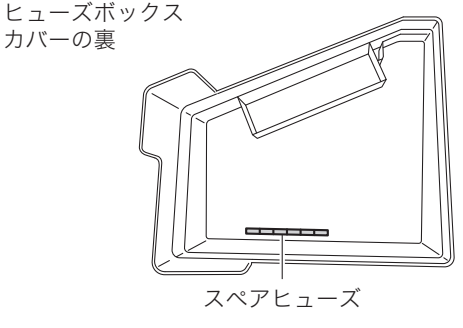
- ヒューズの使用回路と指定容量（アンペア数）については、ヒューズボックスカバーの裏側をご覧ください。
- ヒューズがわからないときや、作業に不安がある場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

3. ヒューズを確認します。



4. ヒューズが切れているときは、指定容量（アンペア数）のスペアと交換します。

スペアはエンジンルーム内のヒューズボックスカバーの裏側に7.5 A、10 A、15 A、20 A、25 A、30 A各1個が装備されています。



5. ヒューズを交換した後はすみやかにSUBARU販売店で点検を受け、スペアヒューズを補充してください。

⚠ 注 意

ヒューズを交換するときは必ず次のことをお守りください。

- 必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにする。
  ー ONやACCの場合、ショートするおそれがあり危険です。
- ヒューズの代わりに針金や銀紙などは絶対に使わない。

知 識

ヒューズが切れていない場合や交換してもヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、SUBARU販売店で点検を受けてください。

けん引のとき

けん引について

お車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずSUBARU販売店、またはSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）などに依頼してください。

けん引してもらうとき

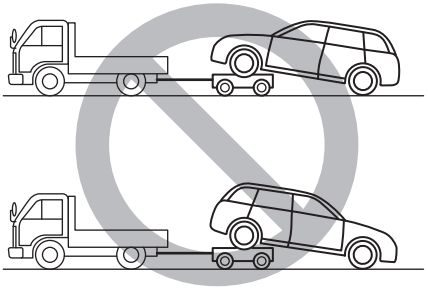
けん引方法の違い

次の方法でのけん引が可能です。

- 車載（4輪持ち上げ）
  トランスミッションや駆動装置が故障したと思われる場合は車載してください。
- ロープによるけん引
  次の条件をお守りください。お守りいただかないと、駆動装置が損傷するおそれがあります。
  – 速度30 km/h以下で走行してください。
  – 走行距離は30 kmを超えないでください。

⚠ 注 意

前輪のみを持ち上げてのけん引および後輪のみを持ち上げてのけん引は、絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。



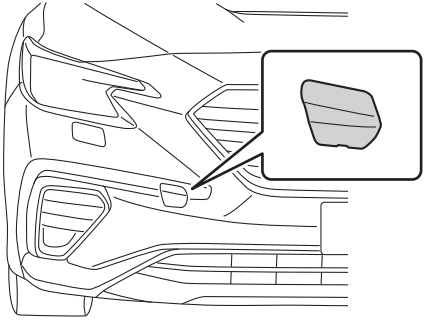
知 識

キャリアカーに車両を載せたとき、車両が自動で光軸を調整している場合があります。
照射方向が気になる場合はSUBARU販売店で点検を受けてください。

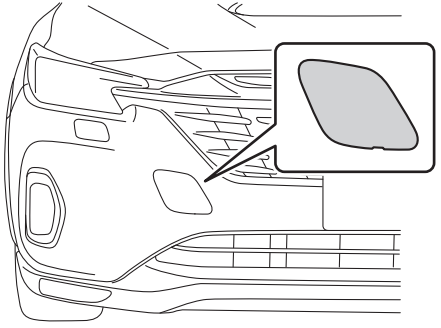
ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、フロントバンパーにけん引フックを取り付けます。
けん引時は、けん引フックにソフトロープをかけて行ってください。

<レヴォーグ>



<レイバック>



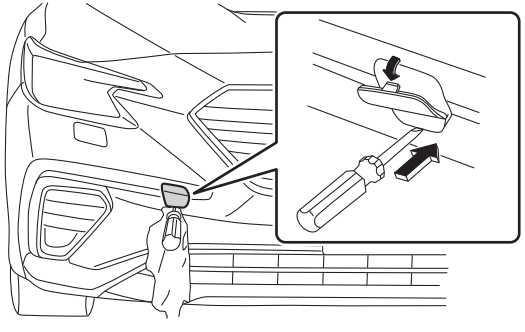
⚠ 注 意

バンパーやけん引フックの変形を防ぐため、けん引フックに過度の負荷をかけないでください。

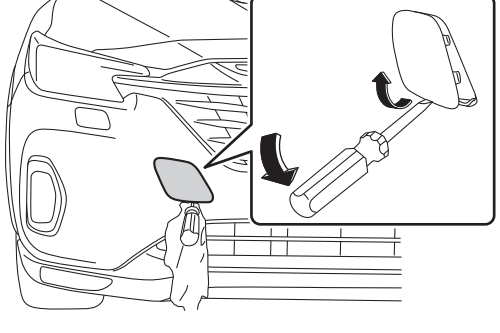
けん引フックの取り付けかた

1. バンパーに傷がつかないようマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込んで図のようにカバーを取り外します。

<レヴォーグ>



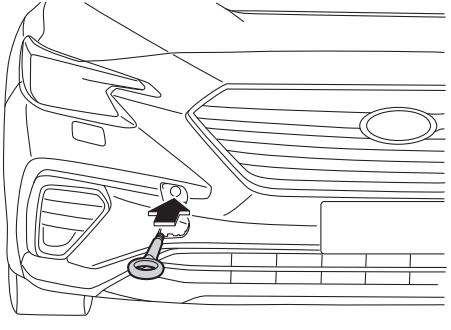
<レイバック>



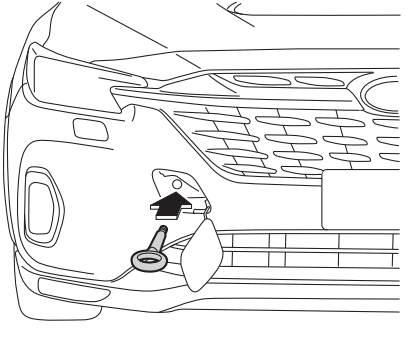
2. けん引フックを取り出し、取り付け部にねじ込みます。

☞P.711参照

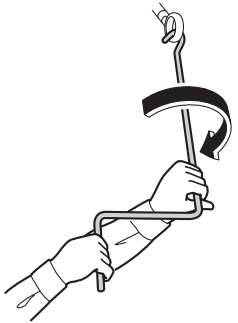
<レヴォーグ>



<レイバック>

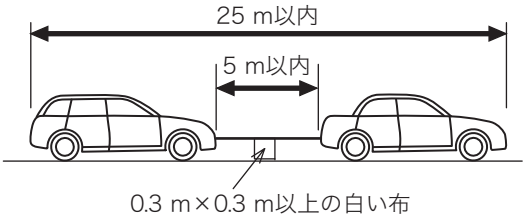


3. ジャッキハンドルなどを使って、確実にけん引フックを締め付けます。



けん引方法

1. ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3 m×0.3 m以上）をつけます。



2. プッシュエンジンスイッチをONにします。
3. セレクトレバーを“N”にします。
4. 電動パーキングブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、けん引している車のブレーキランプに注意してロープをたるませないようにしてください。

⚠ 警 告

- プッシュエンジンスイッチをOFFにしない。
  – ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しない。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外す。
  – そのままにしておくと衝撃を受けたときSRSエアバッグおよび歩行者保護エアバッグが正常に作動しないことがあります。

⚠ 注 意

四輪接地でけん引してもらうときは次のことをお守りください。

- プッシュエンジンスイッチをONにしてハンドルが自由に動くことを確認する。
- セレクトレバーを“N”にする。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載（4輪持ち上げ）でのけん引を依頼する。
  - ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などでロープに衝撃を与えないよう運転する。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が発生するため、十分注意して操作する。
  - パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
  - バッテリーが上がっている場合はブレーキの効きが悪くなります。
- 電動パーキングブレーキを確実に解除する。
- トランスミッションおよび駆動装置、走行装置が故障したと思われるときは必ず車載で（4輪を持ち上げて）けん引する。
- 故障の内容によりけん引できない場合がある。

知 識

けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。

他車をけん引するとき

やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。
また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

⚠ 警 告

他車をけん引するときは次のことを必ずお守りください。

- けん引フックはけん引時以外に使用しない。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外す。
  - そのままにしておくと、後面に衝撃を受けたときに燃料供給停止機能が正常に作動しないことがあります。

⚠ 注 意

- バンパーやけん引フックの変形を防ぐため、けん引フックに過度の負荷をかけない。
- SRVDをOFFにする。
  - けん引車により、レーダー波が妨げられ、システムが正常に機能しません。

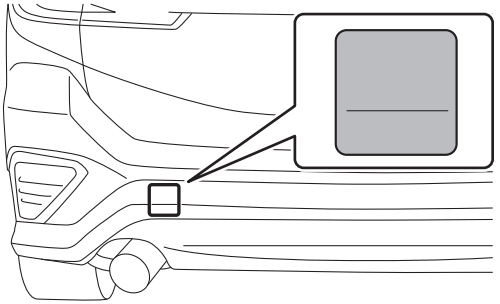
☞P.431参照

知 識

けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。

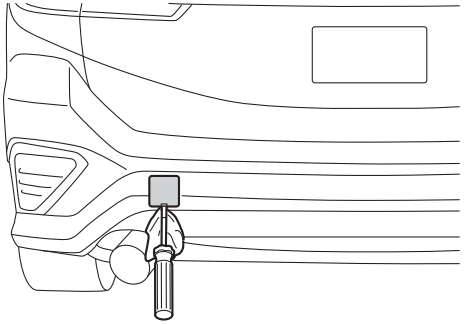
けん引フックの取り付け位置

リヤバンパー左下にあります。



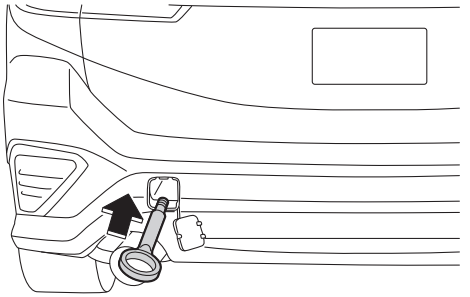
けん引フックの取り付けかた

1. バンパーに傷がつかないようマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理でカバーを取り外します。

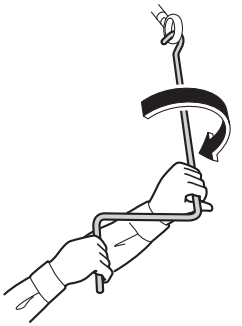


2. けん引フックを取り出し、取り付け部にねじ込みます。

☞P.711参照



3. ジャッキハンドルなどを使って、奥まで確実にけん引フックを締め付けます。



オーバーヒートしたとき

対処のしかた

このようなときは、オーバーヒートです。
- 水温計がオーバーヒートゾーンに入ったとき
- エンジンの力が急に落ちたとき
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているとき

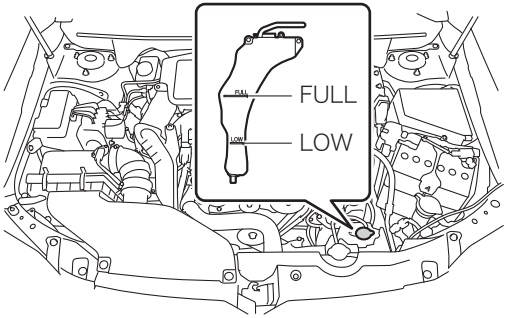
後続車に注意して安全な場所にお車を止めます。エンジンルームから水漏れ、蒸気の噴き出しがあるときは、すぐにプッシュエンジンスイッチをOFFにしてSUBARU販売店にご連絡ください。

⚠ 警 告

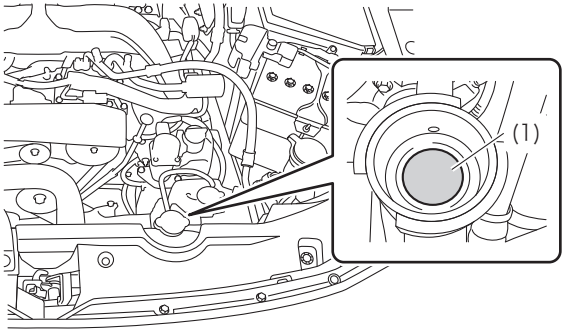
- 蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
  – やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

水漏れ、蒸気の噴き出しがないとき

1. エアコンを止め、エンジンを始動したままボンネットを開けて風通しをよくします。
2. 冷却ファンが回っている場合は、水温計の値がオーバーヒートゾーンより下がり、時間が十分経過してからプッシュエンジンスイッチをOFFにします。冷却ファンが回っていない場合は、すぐにプッシュエンジンスイッチをOFFにしてSUBARU販売店にご連絡ください。
3. エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。
4. リザーバータンク内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、FULL位置まで補給します。



5. ラジエーターキャップを開け、冷却水を注入口の口元（図の（1）の位置）まで補給します。



⚠ 警 告

- ラジエーターやリザーバータンクが熱いときはキャップを外さない。
  - やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
  - キャップを開けるときは、ラジエーターやリザーバータンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

⚠ 注 意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れない。
  - 急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

知 識

冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。補給する水は、軟水または水道水を使用してください。

6. 早めに最寄りのSUBARU販売店で点検を受けてください。

10.仕様一覧

仕様一覧
サービスデータ ····· 784
タイヤ・ホイール ····· 788

カスタマイズ機能
カスタマイズ一覧 ····· 789

仕様一覧

サービスデータ

交換時期については、舗装路を1年に10,000 km程度走行する車を前提に定めてあります。走行距離の多いお車や、未舗装路を走行するなど厳しい使われかたをしたお車については、「メンテナンスノート」をご覧ください。

<table>
<tr><td colspan="2">オルタネーターベルトのたわみ量</td><td colspan="4">自動調整式のため点検不要</td></tr>
<tr><td rowspan="4">スパークプラグ</td><td rowspan="3">指定スパークプラグ</td><td></td><td>品番</td><td>ブランド</td><td>電極すき間</td></tr>
<tr><td>1.8L車</td><td>SILKFR8B7SY※</td><td>NGK</td><td>0.62～0.68 mm</td></tr>
<tr><td>2.4L車</td><td>SILKFR8A6※</td><td>NGK</td><td>0.50～0.60 mm</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">100,000 km</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキペダル</td><td>遊び</td><td colspan="4">0.5～2.7 mm</td></tr>
<tr><td>踏み込んだときの床板とのすき間</td><td colspan="3">約300 N（約30 kgf）の力で踏み込んだとき</td><td>85 mm以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">タイヤ空気圧</td><td colspan="4">**P.788**参照</td></tr>
<tr><td colspan="2">ウォッシャータンク容量</td><td colspan="4">4.0 L</td></tr>
</table>

※ イリジウムプラグは、次のことに注意してください。
電極材料に貴金属を使用しています。電極を損傷するおそれがあるため、プラグクリーナーなどによる清掃やプラグギャップ（電極すき間）調整は行わないでください。

燃料タンク容量		約63 L			
指定燃料		1.8L車	無鉛レギュラーガソリン		
		2.4L車	無鉛プレミアムガソリン		
エアクリーナーエレメント	使用部品	純正エアクリーナーエレメント			
	交換時期	50,000 kmごと			
バッテリー型式		Q-85			
エンジンオイル※1	使用オイル	1.8L車	SUBARU MOTOR OIL ECO 0W-16※2		
			SUBARU MOTOR OIL ECO 0W-20 SP		
			SUBARU MOTOR OIL SP 0W-20		
			SUBARU レ・プレイアード ZERO 0W-20		
		2.4L車	SUBARU MOTOR OIL ECO 0W-20 SP※2		
			SUBARU MOTOR OIL SP 0W-20		
			SUBARU MOTOR OIL SP 5W-30		
			SUBARU レ・プレイアード ZERO 0W-20		
			SUBARU レ・プレイアード ZERO 0W-30		
	規定量	オイルのみ交換		1.8L車	約4.0 L
				2.4L車	約4.3 L
		オイルとフィルター同時交換		1.8L車	約4.2 L
				2.4L車	約4.5 L
	交換時期	10,000 kmごと、または12か月ごと（どちらか早いほうで実施）			

※1: エンジンオイル消費量は新車時から数千km走行すると安定しはじめます。
また、厳しい運転条件（悪路、山道、登降坂路、交差点などでの急加減速の繰り返し、またはエンジンの高回転使用頻度が高いなど）での走行時は、通常に比べてエンジンオイルの消費が早くなることがあります。このような使用の頻度が高い場合、1,000 km走行あたり0.5 L～1 L消費する場合があります。早めの点検・補充をお奨めします。

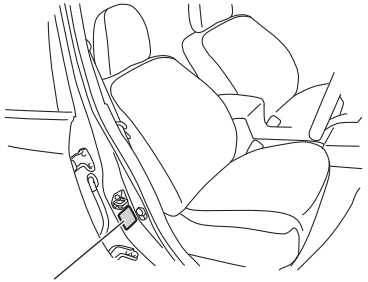
※2: 省燃費性に優れるオイルです。

エンジンオイルフィルター	使用部品	純正オイルフィルター	
	交換時期	10,000 kmごと エンジンオイルと一緒に交換することをお奨めします。	
フューエルフィルター	使用部品	純正フューエルフィルター	
	交換時期	100,000 kmごと	
トランスミッションフルード	使用オイル	1.8L車	スバルCVTフルードリニアトロニック3
		2.4L車	スバルハイトルクCVTフルードLV
	規定量	1.8L車	約11.3 L
		2.4L車	約11.9 L
	交換時期	無交換	
フロントデファレンシャルオイル	使用オイル	スバルギヤオイルエクストラMT 75W-80	
	規定量	1.8L車	約1.3 L
		2.4L車	約1.2 L
	交換時期	40,000 kmごと	
リヤデファレンシャルオイル	使用オイル	1.8L車	スバルギヤオイルエクストラMT 75W-80
		2.4L車	スバルギヤオイルエクストラS 75W-90
	規定量	約0.8 L	
	交換時期	40,000 kmごと	
冷却水	使用冷却水	スバルスーパークーラント（青色）	
	規定量	1.8L車	約9.3 L
		2.4L車	約8.7 L
	交換時期	1回目	220,000 kmまたは11年目（どちらか早い方で実施）
		2回目以降	120,000 kmごと、または6年ごと（どちらか早い方で実施）
ブレーキフルード	使用フルード	スバル純正ブレーキフルードまたはDOT3 （銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと）	
	交換時期	初回3年、以降2年ごと	
ディスクブレーキのパッドの摩耗限度（前輪／後輪）		使用限度：1.5 mm	

ブレーキディスクの摩耗限度（前輪／後輪）	ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、SUBARU販売店にご相談ください。	
点火時期［アイドリング時：エアコンOFF時］	1.8L車	BTDC8°±10°/675 rpm
	2.4L車	BTDC7°±10°/700 rpm

タイヤ・ホイール

標準装着タイヤおよび装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。



空気圧ラベル

サイズ

タイヤサイズ	ホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D（mm）	インセット量（mm）
215/50R17 91V	17×7J	114.3	55
225/45R18 91W	18×7 1/2J	114.3	55
225/55R18 98V	18×7J	114.3	55

⚠ 注 意

- 標準装着タイヤサイズが225/45R18 91Wの車両は、215/50R17の冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着する。
  - 18インチの冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用する場合は、フェンダー内側にタイヤが当たり損傷するおそれがありますので、必ずSUBARU販売店にご相談ください。

タイヤ空気圧

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa（kgf/cm^2）	
	前輪	後輪
215/50R17 91V	260（2.6）	250（2.5）
225/45R18 91W	260（2.6）	250（2.5）
225/55R18 98V	230（2.3）	220（2.2）

タイヤの位置交換と交換時期

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）時期	5,000 kmごと
タイヤの交換時期	ウエアインジケーターが現れたとき（タイヤの溝の深さが1.6 mm以下）

カスタマイズ機能

カスタマイズ一覧

お客様がセンターインフォメーションディスプレイで変更可能な機能

☞P.125参照

SUBARU販売店でのみ変更可能な機能

項目	機能の内容	設定	初期設定
盗難警報装置	警報の監視開始時間の設定	0秒／30秒	30秒
	次のランプの警報作動時点灯作動 • 後席スポットマップランプ • スポットマップランプ • カーゴルームランプ • アンビエント照明 • プルハンドル照明	作動あり／作動なし	作動なし
キー閉じ込み防止	キー閉じ込み防止の作動	作動あり／作動なし	作動あり
ドアミラーランプ	ドアミラーランプの作動	作動あり／作動なし	作動あり
オートライト	感度調整	1（弱）～4（強）	2（標準）
オートワイパー	ワイパー作動	オート／間欠作動	オート
発進時1回払拭機能	発進時1回払拭機能の作動	ON／OFF	ON
リバース連動リヤワイパー	リバース連動リヤワイパーの作動	作動あり／作動なし	作動あり
キー連動格納ドアミラー※	展開タイミング	ACC ON／ドアアンロック	ドアアンロック
リバース連動チルトダウンドアミラー※	作動対象	助手席のみ／両側	助手席のみ
	ラスト位置保持機能	ON／OFF	OFF
アイドリングストップ	ウインカーレバー操作時アイドリングストップ非作動および自動解除	有効／無効	無効

項目	機能の内容	設定	初期設定
ウェルカムライティング	ウェルカムライティングの作動時間（乗車時、降車時それぞれに設定可能）	作動あり／作動なし	作動あり
		10秒／20秒／30秒	30秒
セレクトアンロック	アクセスキーセレクトアンロック	作動あり／作動なし	作動なし
ウインドウリモート開閉機能	アクセスキーでのパワーウインドウ開閉	作動あり／作動なし	作動なし
キーレスアクセス／電波式リモコンドアロック	アンサーバックブザーの音量	OFF／1（小）～7（大）	5（標準）
ワイパー連動ヘッドランプ	ワイパー連動ヘッドランプの作動	作動あり／作動なし	作動あり
エマージェンシーストップシグナル	エマージェンシーストップシグナルの作動	作動あり／作動なし	作動あり
ADB（アダプティブドライビングビーム）	ADB（アダプティブドライビングビーム）の作動	作動あり／作動なし	作動あり
オートディマーキャンセル	感度調整	OFF／1（弱）～5（強）	3（標準）
パワーリヤゲート開閉機能※	アクセスキーによるパワーリヤゲート開閉の作動	OFF／2回押し／長押し	長押し

※ 装備車のみ

こんなときは

Q	アクセスキーで施錠・解錠ができない
A	電波ノイズの影響または電池切れが考えられます。 車に近づいて再度操作してください。 ☞P.162参照 車の周囲約1 m以内で何度か操作をしても開かない場合は、アクセスキーの電池の消耗あるいは故障が考えられます。SUBARU販売店にご相談ください。 ☞P.737、767参照

Q	ハンドルが急に重くなった
A	電動パワーステアリングの保護システムが作動していることが考えられます。 車庫入れなどでハンドル操作を何度も繰り返すと、保護システムが作動することがあります。このときハンドルが重くなりますが、故障ではありません。通常の操作力に戻るまで、しばらくハンドル操作を控えてください。

Q	エンジンが始動しない
A	ブレーキペダルの踏み込みが弱いことが考えられます。 プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点灯するまでブレーキペダルを踏み込み、プッシュエンジンスイッチを押してください。 なお、エンジン始動前はブレーキペダルが硬くなることがありますが、異常ではありません。 ☞P.234参照
A	ハンドルがロックされていることが考えられます。 ハンドルを軽く左右に回しながら、ブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。 スイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅しているときはエンジンが始動しません。 ☞P.233参照

Q	**後席ドアが中から開けられない**
A	チャイルドプルーフが作動していることが考えられます。 車外からドアハンドルを引いて開けてください。 チャイルドプルーフを解除するときは、レバーを「LOCK」と反対側に動かしてください。 ☞**P.176**参照

Q	**アイドリングストップしない**
A	アイドリングストップが作動する条件を満たしていないことが考えられます。 走行中、アイドリングストップする条件を満たすとアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。 ☞**P.256**参照
A	ブレーキペダルの踏み込みが弱いとアイドリングストップしないことがあります。ブレーキペダルをしっかり踏んでください。

Q	**パワーリヤゲートが開閉できない（パワーリヤゲート装備車）**
A	ブザー（ピピピッ）が鳴ったときは、パワーリヤゲートが作動する条件を満たしていないことが考えられます。 • セレクトレバーは“P”になっていますか？ • 人や物に当たっていませんか？ • パワーリヤゲートは解錠されていますか？ 開けられないときは、キーレスアクセス機能またはアクセスキーのボタンで解錠してみてください。
A	スイッチを正しく操作していないことが考えられます。 アクセスキーのボタンおよびパワーリヤゲート運転席スイッチで開閉するときは、パワーリヤゲートが動き始めるまで押し続けてください。

Q	**パワーリヤゲートが一番上まで開かない（パワーリヤゲート装備車）**
A	メモリーハイト機能が ON になっていることが考えられます。 センターインフォメーションディスプレイでメモリーハイト機能をOFFにしてください。 ☞**P.125**、**188**参照

Q	**パワーリヤゲートが突然停止した（パワーリヤゲート装備車）**
A	パワーリヤゲートの開作動中にバッテリー電圧が一時的に下がったことが考えられます。 パワーリヤゲートの作動中は、エンジンを始動したり、他の電装品を使用したりしないようにしてください。

Q	**後席に何もないのに「後席を確認してください」と割り込み画面が表示された**
A	リヤシートリマインダーが作動しています。 ☞P.213参照 リヤシートリマインダーは後席ドアの開閉を検知して、後席の乗員や荷物の置き忘れの可能性をお知らせするので、乗員や荷物の有無とは関係なく作動する場合があります。

Q	**全車速追従機能付クルーズコントロールがセットできない**
A	（クルーズ）スイッチを押し忘れていませんか？ 押し忘れているときは（全車速追従機能付クルーズ表示灯）は点灯しません。
A	EyeSight システムが一時停止状態になっていませんか？ EyeSight システムが一時停止状態のときは、メーターに（EyeSight一時停止表示灯）が点灯します。 一時停止状態の要因を解消した後、再度設定操作を行ってください。
A	READY表示灯が点灯していますか？ 全車速追従機能付クルーズコントロールは、READY表示灯が点灯していないとセットできません。 READY 表示灯が点灯しているときセット操作をしてください。
A	ドライバー異常時対応システムが作動後ではありませんか？ ドライバー異常時対応システムが作動した後は、（クルーズ）スイッチを押しても全車速追従機能付クルーズコントロールは作動しません。 ☞P.495参照

Q	**ブレーキ踏み増し要求警報のタイミングが早いとき、または遅いときがある**
A	ブレーキ踏み増し要求警報は、先行車との距離や速度差などから、システムが踏み増し要と判断したときに作動するため、先行車のブレーキのかけかたによってはタイミングが変わる場合があります。

Q	**READY表示灯が点灯しない**
A	セットできる条件ですか？ READY 表示灯が点灯する条件については下記を参照してください。 ☞**P.337、404**参照

Q	**先行車を認識しない、認識するのが遅い、すぐに認識しなくなるなど**
A	停止車両、極端に遅い車両ではありませんか？ 停止車両や極端に遅い車両は認識が遅れる場合があります。
A	フロントガラスに曇りや汚れがありませんか？ ステレオカメラ前のガラスの外側が汚れている場合は、清掃をしてください。カメラのレンズ部周辺が汚れている、または曇りが晴れない場合はSUBARU販売店にて点検を行ってください。
A	先行車が遠い距離にいませんか？ ステレオカメラの最大の認識距離は約130 mです。それ以上の距離が開いていると認識しません。
A	カーブ路ではありませんか？ 認識範囲は左右に限界があります。
A	上り下りが連続した道路（陸橋など）、またはバンク路面（路面が傾いている道路）ではありませんか？ 認識範囲は上下に限界があります。
A	先行車が入れ替わっていませんか？ 入れ替わった場合は、認識が遅れることがあります。
A	先行車が水や雪などを巻き上げて走行していませんか？ 水や雪を巻き上げている場合、先行車を認識できないことがあります。

Q	**全車速追従機能付クルーズコントロール中に、先行車がいないのにブレーキ制御を行う**
A	隣車線に車両はありませんか？ 道路状況によっては隣車線の車両を先行車として認識する場合があります。
A	カーブ付近を走行中ではありませんか？ カーブ走行中は、ガードレール、路側の構造物に対してブレーキ制御を行う場合があります。

Q	**先行車がいないのに、先行車発進お知らせが作動する**
A	車両前方の周辺物や交通環境、天候によって先行車以外の物に対して先行車発進お知らせが作動する場合があります。

Q	**先行車がいなくなった後や、先行車との距離が離れた後の加速が遅いとき、または速いときがある**
A	自車や先行車の走行状態や周囲の道路状況によっては、システムの判断が遅くなる場合があり、加速するタイミングが遅く感じる可能性があります。
A	システムが赤信号を認識していませんか？ 赤信号を認識しているときは不要な加速を抑えることがあります。
A	ドライブモードセレクトまたはクルーズコントロール加速レベルはどのモードを選択していますか？ 選択したモードによりクルーズコントロール※の特性が変わるため、加速が異なります。 ※ 全車追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

Q	**EyeSightシステムが一時停止から復帰しない**
A	雨天の中を、性能が悪化したワイパーのままや、フロントガラスに汚れが付着した状態で走行していませんか？ ワイパーを新品に替え、フロントガラスの汚れを取り除いてください。

Q	**EyeSightシステムが一時停止から復帰しない**
A	太陽が真正面（西日など）にあったり、夜間対向車の強いヘッドランプをあびていませんか？ この場合、EyeSightシステムが一時停止状態になります。
A	低温または高温の場所に駐車していませんか？ この場合、ステレオカメラが使用可能な温度になるまで、EyeSight システムが一時停止状態になります。
A	ステレオカメラ前のガラス（外側、内側）に汚れや曇りがありませんか？ この場合、EyeSightシステムが一時停止状態になります。 • ステレオカメラ前のガラス外側が汚れている、曇っているなどの場合は、清掃を行ってください。 • ステレオカメラ前のガラス内側が曇っている場合は、しばらく走行するとその状況が解消され復帰します。また、デフロスターを使用することで効果的に状況が解消できる場合があります。 ☞**P.511**参照 • ステレオカメラ前のガラス内側やレンズ部周辺が汚れている、または曇りが晴れない場合はSUBARU販売店で点検を受けてください。

Q	**システムによるブレーキが作動すると音がする**
A	システムによるブレーキの作動音で異常ではありません。

Q	**渋滞走行時、ブレーキ制御を行う頻度が高い**
A	人の運転と異なり先行車の動きのみにあわせての制御ですので、頻繁な加減速となる場合があります。なお、このような状況で車間距離が保ちにくい場合は使用を控えてください。

Q	**クルーズコントロールが勝手に解除された**
A	クルーズコントロールを解除する操作をしていませんか？ ☞**P.347**、**408**参照
A	全車速追従機能付クルーズコントロールを使用時にEyeSight システムが一時停止状態になっていませんか？

Q	**停止保持中に電動パーキングブレーキが勝手に作動した**
A	次の場合は電動パーキングブレーキがかかります。 • 停止保持状態で約10分経過したとき • 自動解除条件を満たしたとき ☞**P.346**、**348**参照

Q	**全車速追従機能付クルーズコントロールの停止保持中にエンジンが停止した**
A	アイドリングストップ表示灯(緑色)が点灯していませんか？ これはアイドリングストップの作動によるもので異常ではありません。

Q	**全車速追従機能付クルーズコントロールの停止保持中にアイドリングストップしない**
A	アイドリングストップの作動条件については下記を参照してください。 ☞**P.257**参照

Q	**(レーンキープ)スイッチを押したけど、車線中央維持・先行車追従操舵機能が働かない**
A	全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていますか？ ☞**P.359**参照
A	プリクラッシュブレーキがONになっていますか？ ☞**P.359**参照
A	ドライバーモニタリングシステム作動表示灯（緑色)、ドライバーモニタリングシステムOFF表示灯が点灯していますか？ ☞**P.359**参照

Q	**道路に白線がはっきりと描かれているのに車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能が働かない**
A	車線の幅が狭い、もしくは広くありませんか？ 車線の幅が約3 m～約4 mでないと、車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能は作動しません。

Q	**(レーンキープスイッチ）を押しても (レーンキープ表示灯）が点灯しない**
A	全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていますか？ (レーンキープ表示灯）は全車速追従機能付クルーズコントロールがOFFのときは点灯しません。
A	ドライバーモニタリングシステム警告灯（黄色）が点灯していませんか？ ☞P.446参照

Q	**車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能が勝手に解除された**
A	ハンドルから手を離していませんか？ハンドルに軽く手を添えて運転をしていませんか？ システムが運転者のハンドル操作を検知できない場合、車線逸脱抑制機能を一時解除します。
A	急なカーブを走行していませんか？ 急カーブでは車線中央維持・先行車追従操舵機能、車線逸脱抑制機能は作動しません。
A	次のいずれかの操作をしていませんか？ ☞P.361参照（車線中央維持・先行車追従操舵機能） ☞P.372参照（車線逸脱抑制機能）

Q	**先行車が自車の前方を走行中で先行車表示灯が点灯しているのに、車線中央維持・先行車追従操舵機能が働かない**
A	先行車の幅が狭くありませんか？ 自動二輪車、超小型車など幅の狭い先行車に対しては先行車追従操舵機能は作動しません。
A	先行車との速度差がある、もしくは先行車が自車の正面から外れていませんか？ 先行車と速度差がある（先行車が離れていってしまう）、または先行車が蛇行していたり、車線の端によって走行しているなどの状況では、先行車追従操舵機能が作動しないことがあります。

Q	**車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動中に、ハンドルを操作しているのに「ハンドルを操作してください」の割り込み画面が表示される**
A	車線中央維持・先行車追従操舵機能の作動中に車線を逸脱しそうになった場合、「ハンドルを操作してください」の割り込み画面が表示されます。ハンドルを操作して車線からの逸脱を回避してください。 ☞P.365参照

Q	**車線中央維持・先行車追従操舵機能が作動中に、前方を見ながらハンドルを操作しているのに「周囲の安全を確認しハンドルを操作してください」の割り込み画面が表示される**
A	ハンドルを操作していても、システムがハンドル操作を検知できないことがあります。割込み画面が消えるまでハンドルを操作してください。それでも運転者のハンドル操作が検知できない場合は、ドライバー異常時対応システムが作動します。
A	ドライバーモニタリングシステムが故障または一時停止していませんか？ ドライバーモニタリングシステムが故障または一時停止している場合、車線中央維持・先行車追従操舵機能は使用できません。
A	運転者が前方を見ていても運転者の状態をドライバーモニタリングシステムが正しく検知できない場合があります。前方を見ていても割り込み画面が継続する場合は、車線中央維持・先行車追従操舵機能を解除してください。 ☞**P.361**参照

Q	**後退するときに、アクセルペダルを急に踏んでも後退飛び出し抑制が働かない**
A	通常の運転操作時に不必要な制限をしないように、踏み込み強さの判定値を高く設定しています。 ただし、後退飛び出し抑制が働かない場合でも、後退速度リミッター※により、急な加速を抑えます。 ※ 後退速度リミッターを作動あり（低速／中速／高速）に設定しているときのみ。
A	OFF が点灯していませんか？ OFF が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御（後退飛び出し抑制、後退速度リミッター）は作動しません。センターインフォメーションディスプレイを操作して、プリクラッシュブレーキを ON にしてください。 ☞**P.125**参照
A	EyeSight システムが一時停止状態になっていませんか？

Q	**後退飛び出し抑制が勝手に解除された**
A	次のいずれかの操作をしていませんか？ • アクセルペダルを深く踏んだ状態が約 3 秒以上継続した ーシステムが運転者に速く後退したい意思があると判定し、徐々に制御を解除します。 • ブレーキペダルを踏んだ ーシステムが運転者に減速したい意思があると判定し、制御を解除します。
A	EyeSight システムが一時停止状態になっていませんか？ 後退飛び出し抑制が作動中に EyeSight システムが一時停止したときは、徐々に制御を解除します。

Q	**後退速度リミッターが効かない**
A	設定がOFFになっていませんか？または、後退速度リミッターの制限速度が速く設定されていませんか？ 後退速度リミッターの制限速度は、カスタマイズ操作で設定します。 OFFになっていたり、制限速度がお客様の通常の後退速度より速く設定されている場合は、設定を変更してください。
A	が点灯していませんか？ が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御（後退飛び出し抑制、後退速度リミッター）は作動しません。センターインフォメーションディスプレイを操作して、プリクラッシュブレーキを ON にしてください。 ☞**P.125**参照
A	EyeSight システムが一時停止状態になっていませんか？

Q	**後退速度リミッターが作動中に勝手に解除された**
A	次のいずれかの操作をしていませんか？ • アクセルペダルを深く踏んだ －システムが運転者に速く後退したい意思があると判定し、徐々に制御を解除します。 • ブレーキペダルを踏んだ －システムが運転者に減速したい意思があると判定し、制御を解除します。
A	EyeSight システムが一時停止状態になっていませんか？ 後退速度リミッターが作動中に EyeSight システムが一時停止したときは、徐々に制御を解除します。

Q	**高速道路や自動車専用道路を走行していても (EyeSight X表示灯）（白色）が点灯しない**
A	(EyeSight X警告灯）（黄色）や OFF (EyeSight X OFF表示灯）が点灯していませんか？ ☞P.500参照

Q	**ウインカーレバーを操作したのにアクティブレーンチェンジアシスト機能が動かない**
A	アクティブレーンチェンジアシスト機能の作動条件については下記を参照してください。 ☞P.483参照

Q	**アクティブレーンチェンジアシスト機能が勝手に解除された**
A	次のいずれかの操作をしていませんか？ ☞P.486参照

Q	**アクティブレーンチェンジアシスト機能を使用中に元車線に向けてハンドルが操作された**
A	アクティブレーンチェンジアシストは状況に応じて車線変更を中止するような操舵を行うことがあります。 中止する条件については下記を参照してください。 ☞P.486参照

Q	**センターインフォメーションディスプレイを操作しても反応しない**
A	センターインフォメーションディスプレイに何らかの異常があるかもしれません。 VOLUMEノブを10秒以上押し続けて、センターインフォメーションディスプレイを再起動してください。

Q	**急に音が出なくなった**
A	センターインフォメーションディスプレイに何らかの異常があるかもしれません。 VOLUMEノブを10秒以上押し続けて、センターインフォメーションディスプレイを再起動してください。

Q	**センターインフォメーションディスプレイに背景のみが表示されて、アイコンが表示されない**
A	センターインフォメーションディスプレイに何らかの異常があるかもしれません。 VOLUMEノブを10秒以上押し続けて、センターインフォメーションディスプレイを再起動してください。

Q	**ラジオやメディアの再生音が出なくなった**
A	Apple CarPlayやAndroid Auto使用中にスマートフォンのアプリケーション（カメラなど）が操作されたかもしれません。 Apple CarPlayやAndroid Autoを終了する、または、スマートフォンで操作していたアプリケーションを終了してください。

Q	**ハンズフリー／Bluetooth携帯電話を使うことができない**
A	携帯電話がBluetoothに対応していないかもしれません。 SUBARU 販売店で動作確認済みの機種をご確認ください。 ☞**P.548**参照 携帯電話の詳細は、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
A	携帯電話のBluetoothのバージョンが適合していないかもしれません。 Bluetooth Specification Ver2.1以上（Ver.5.0以上を推奨）の携帯電話を使用してください。 ☞**P.548**参照 携帯電話の詳細は、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

Q	**携帯電話が登録できない**
A	携帯電話に入力したPINコードが間違っているかもしれません。 携帯電話に正しいPINコードを入力してください。 携帯電話の詳細は、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
A	携帯電話側の登録操作が完了していないかもしれません。 携帯電話で登録操作を完了してください（携帯電話側で登録を確認する）。 携帯電話の詳細は、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
A	センターインフォメーションディスプレイ、または携帯電話に登録情報が残っているかもしれません。 センターインフォメーションディスプレイ、または携帯電話に残っている登録情報を消去してから、登録操作を行ってください。 ☞P.553参照 携帯電話の詳細は、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

Q	**Bluetooth接続ができない**
A	お使いになる携帯電話以外がすでにBluetooth接続状態にあるかもしれません。 お使いになる携帯電話を手動でBluetooth接続してください。 ☞P.551参照
A	携帯電話のBluetooth機能が有効になっていないかもしれません。 携帯電話のBluetooth機能を有効にしてください。 携帯電話の詳細は、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

Q	**ハンズフリー機能で、電話をかける、受けるができない**
A	携帯電話が圏外かもしれません。 サービス可能なエリアまで移動してください。

Q	ハンズフリー機能で、電話帳データの自動ダウンロードができない
A	携帯電話のプロファイルが電話帳データのダウンロードに対応していないかもしれません。 SUBARU 販売店で動作確認済みの機種をご確認ください。 ☞P.548参照 携帯電話の詳細は、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
A	電話帳データ自動ダウンロードの設定がOFFになっているかもしれません。 電話帳データ自動ダウンロードの設定を ON にしてください。 ☞P.554参照

Q	ハンズフリー機能で、メッセージを見ることができない
A	携帯電話のメッセージ機能が有効になっていないかもしれません。 携帯電話のメッセージ機能を有効にしてください。 携帯電話の詳細は、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

Q	考えられる処置をしても、ハンズフリー機能のトラブルが改善されない
A	携帯電話との距離が離れ過ぎているかもしれません。 携帯電話との距離を近づけてください。
A	携帯電話に要因があるかもしれません。 • 携帯電話を再起動してください。 • 携帯電話の Bluetooth 接続を有効にしてください。 • 携帯電話のセキュリティソフトウェアを停止し、すべてのアプリケーションを終了してください。 • 携帯電話にインストールしたアプリケーションは、使用前に提供元および動作状況について十分ご確認の上ご利用ください。 携帯電話の詳細は、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

Q	Apple CarPlayを有効にできない
A	携帯電話のApple CarPlay機能が有効になっていないかもしれません。 携帯電話のApple CarPlay機能を有効にしてください。 携帯電話の詳細は、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

Q	**「新しいソフトウェアのダウンロードができませんでした」が表示された**
A	通信電波が弱い場所にいるかもしれません。 通信電波を正常に受信できる場所に移動してください。それでもダウンロードできない場合は、SUBARU販売店にご相談ください。
A	サーバーのエラー（メンテナンスなどでサーバーが一時的に応答していない）が発生しているかもしれません。 サーバーが正常な状態に戻るまでしばらくお待ちください。それでもダウンロードできない場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

Q	**「ソフトウェアの更新ができませんでした」が表示された**
A	ソフトウェアのインストールが失敗した、または原因が特定できないエラーが発生しているかもしれません。 SUBARU販売店にご相談ください。

Q	**USBメモリーを使って地図更新をしようとしたら、「インストール失敗（1）」が表示された**
A	USBメモリーからのデータ読み込みに失敗しています。 USBメモリーを再接続し、正しく接続されていることを確認して再度更新してください。

Q	**USBメモリーを使って地図更新をしようとしたら、「インストール失敗（2）」が表示された**
A	USBメモリーのデータが破損しています。 再度更新してください。同じメッセージが表示された場合は、別のUSBメモリーを使って、再度地図データをダウンロードして更新してください。

Q	**USBメモリーを使って地図更新をしようとしたら、「インストール失敗（5）」が表示された**
A	地図更新により書き込まれたデータの異常を検出しました。 再度更新してください。同じメッセージが表示された場合は、別のUSBメモリーを使って、再度地図データをダウンロードして更新してください。

Q	**USBメモリーを使って地図更新をしようとしたら、「インストール失敗（X)」が表示された**
A	原因が特定できないエラーが発生しました。 再度更新してください。同じメッセージが表示された場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

Q	**地図の差分更新をしようとしたら、「地図データを更新できませんでした　再操作をお願いします」が表示された**
A	地図データにアクセスできないエラーが発生しました。 しばらく待ってから再度更新してください。

Q	**地図の差分更新をしようとしたら、「エラーコード404」が表示された**
A	センターインフォメーションディスプレイのシステムの識別番号がサーバーに登録されていません。 SUBARU販売店にご相談ください。

Q	**地図の差分更新をしようとしたら、「エラーコード＃6」が表示された**
A	通信モジュール（DCM）とネットワークとの通信不良です。 電波状態が良好な場所へ移動して再度更新してください。

Q	**地図の差分更新をしようとしたら、「エラーコードXXX」が表示された**
A	エラーが発生しています。 しばらく待ってから再度更新してください。それでも更新できない場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

さくいん

あ

アームレスト ····· 205、209
アイサイト（EyeSight）····· 284
アイドリングストップ ····· 256
アイドリングストップ警告灯 ····· 142
青信号お知らせ ····· 398
アクセスキー
　作動エリア ····· 157、232
　正常に作動しないとき ····· 767
　電池交換 ····· 737
アクティブレーンチェンジアシスト ·· 479
アシストグリップ ····· 525
アダプティブドライビングビーム（ADB）
　····· 434
アプリ ····· 574
暗証コード式キーレスエントリー ··· 171
安心ほっとライン（iコール）····· 682
アンチロックブレーキシステム（ABS）
　····· 247
案内画面 ····· 643

い

逸脱回避要求警報 ····· 365
イベントデータレコーダー（EDR）···· 56
イモビライザー ····· 195
イルミネーションコントロールダイヤル
　····· 276
インディビジュアル（Individual）スイッチ
　····· 264
インフォメーションスイッチ ·· 118、119
インフォメーションマーク ····· 119

う

ウィジェット ····· 123
ウインカー（方向指示器）····· 253
ウインドウ
　パワーウインドウ ····· 176
ウエアインジケーター ····· 720
ウェルカムライティング ····· 271
ウォッシャー
　液量の点検 ····· 718
　スイッチ ····· 280、281

え

エアコン ····· 504
　エアコンフィルターの交換 ····· 735
エアバッグ
　SRSエアバッグシステム ····· 70
エマージェンシーストップシグナル
　····· 246
エマージェンシーレーンキープアシスト
　····· 373
エンジン
　オーバーヒートしたとき ····· 781
　始動・停止 ····· 232
　ボンネット ····· 712
エンジンオイル ····· 719
エンジン警告灯 ····· 140
エンジンスイッチ ····· 233
エンジンブレーキ ····· 45

お

オーディオ
　ソース選択 ····· 582
　ON／OFF ····· 581
オートドアロック・アンロック機能
　····· 169
オートビークルホールド（AVH）···· 254
オートヘッドランプレベラー
　（自動光軸調整機構）····· 275
オートヘッドランプレベラー警告灯 ·· 143
オートワイパー ····· 278
オーバーヒート ····· 781
オイルプレッシャー警告灯 ····· 141
応急用パンク修理 ····· 753
お子さまの安全
　誤操作防止 ····· 176、178
　シートベルト ····· 41
　チャイルドシート ····· 95
　乗せるときの注意 ····· 40
音設定 ····· 559
オドメーター（積算距離計）····· 111
音質調整 ····· 583

音声操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・688
コマンドリスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・690

か

カーゴフック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・526
カーゴルームランプ ・・・・・・・・・・・・・・・・529
交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・739
カーテンエアバッグ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
カーブ前速度制御 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・488
買い物フック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・526
カップホルダー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・516

き

キー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
キーナンバープレート ・・・・・・・・・・・・・・ 36
電池交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・737
閉じ込み防止機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・174
キーレスアクセス&プッシュスタート
暗証コード式
キーレスエントリー ・・・・・・・・・171
エンジンの始動・停止 ・・・・・・・・・・・・・232
機能の停止 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
警告音および警告表示 ・・・・・・166、237
作動エリア ・・・・・・・・・・・・・・・・・157、232
正常に作動しないとき ・・・・・・・・・・・・・767
施錠・解錠 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
機器の接続 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・539
キックダウン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・241
給油
給油するときには ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
燃料給油口（フューエルリッド）・・・ 179
緊急時プリクラッシュステアリング
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 310

く

空気圧（タイヤ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 788
曇り取り機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 511
デフロスター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 511
ヒーテッドドアミラー・・・・・・・・・・・・・ 224
フロントワイパーデアイサー・・・・・・ 282
リヤウインドウデフォッガー・・・・・・ 511
クルーズコントロール・・・・・・・・ 331、403
クルーズスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 295
グローブボックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 518

け

警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137
警報装置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 197
作動させてしまったときには・・・・・・ 198
設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 199
けん引のとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 775
けん引フック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 711

こ

コートフック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 525
広角単眼カメラ警告灯・・・・・・・・・・・・・・ 143
交換
アクセスキーの電池・・・・・・・・・・・・・・ 737
エアコンフィルター・・・・・・・・・・・・・・ 735
タイヤ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 722
電球（バルブ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・739
ヒューズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・772
ブレードラバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・732
ワイパーブレード ・・・・・・・・・・・・・・・・・730
工具 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・711
光軸調整機構（ヘッドランプレベラー）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・275
後席スポットマップランプ ・・・・・・・・・・528
高速道路、自動車専用道路で
動けなくなったとき・・・・・・・・・・748
後側方警戒支援システム（SRVD）・・・425
後退時ブレーキアシスト（RAB）・・・・・411
後退速度リミッター ・・・・・・・・・・・・・・・・388
後退灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・739
後退飛び出し抑制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・388
故障したとき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・763
アクセスキー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・767
セレクトレバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・763
対処のしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・746
バッテリーが上がったとき ・・・・・・・・769
パワーリヤゲート ・・・・・・・・・・・・・・・・・764
ヒューズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・772
フューエルリッド（燃料給油口）・・・766
リヤゲート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・765
故障診断アラート ・・・・・・・・・・・・・・・・・683
故障診断コネクター ・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
コネクティッドサービス ・・・・・・・・・・・・676
コマンドリスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・690
小物入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・518
コンソールボックス ・・・・・・・・・・・・・・・・519

さ

サイドエアバッグ ……75
サイドビューモニター …… 437
サウンド設定 …… 559
サブトランク …… 520
サンバイザー …… 517
サンルーフ …… 192

し

シート
　シートの調整 …… 203
　正しい運転（乗車）姿勢 …… 200
　パワーシート …… 203
　フロントシート …… 202
　ヘッドレスト …… 202、207
　リヤシート …… 207
シートクッションエアバッグ ……74
シートヒーター …… 206、212
シートベルト ……58
　警報 ……66
シートベルト警告灯 …… 137
事故が起きたとき …… 746
システムプログラム更新 …… 558
室内灯 …… 527
　カーゴルームランプ …… 529
　交換 …… 739
　後席スポットマップランプ …… 528
　スポットマップランプ …… 527
　バニティミラーランプ …… 518
自動光軸調整機構
　（オートヘッドランプレベラー）
　……275
自動施錠 …… 161
自動防眩ルームミラー …… 215
シフトポジション表示 …… 112
シフトロック ……239、763
車間設定スイッチ …… 295
車線逸脱警報 …… 391
車線逸脱抑制機能 …… 366
車線中央維持・先行車追従操舵機能 …353
ジャッキ ……711、723
ジャッキハンドル ……711、723
車内Wi-Fi（SUBARU クルマ de ネット）
　……687
車幅灯（ポジションランプ）……269
　交換 ……739
車両（設定）……128
車両制御（車両設定）……130
車両設定ボタン …… 134
渋滞時発進アシスト …… 477
渋滞時ハンズオフアシスト …… 466
集中ドアロックスイッチ …… 170
ショートカット …… 134
ショートカットアイコンの追加／編集
　……546
信号認識機能 …… 352

す

水温計 …… 112
スタッドレスタイヤ（冬用タイヤ）… 728
ステアリングスイッチ
　オーディオ …… 613
　音声操作 …… 688
　電話 …… 563
ステアリングスイッチ（EyeSight）… 294
ステアリング制御警告灯 …… 142
ステアリング連動ヘッドランプ（SRH）
　…… 433
ステアリングロック …… 233
スピードメーター（速度計）…… 109
スポットマップランプ …… 527
スマートリヤビューミラー …… 216
3D高精度地図データ …… 462、501

せ

制動灯 …… 739
セキュリティアラート …… 683
セキュリティシステム
　イモビライザー …… 195
　盗難警報装置 …… 197
　表示灯 …… 196
設定 …… 126
節電機能 …… 166
セレクトアンロック …… 161
セレクトインジケーター …… 112
セレクトレバー …… 239
　レバーが動かないとき …… 763
先行車発進お知らせ …… 399
センサー

感知センサー（エアコン）……514
ソナーセンサー ……291
レインライトセンサー ……269、278
全車速追従機能付クルーズコントロール ……331
洗車のしかた ……707
前照灯（ヘッドランプ）……269
ウォッシャー ……281
交換 ……739
先進事故自動通報（ヘルプネット）…680
前側方プリクラッシュブレーキ ……318
前側方プリクラッシュブレーキ警告灯 ……143
センターインフォメーションディスプレイ ……120、537
センターコンソールトレイ ……519
センタートレイ ……519
全般（設定）……126

そ

走行アシスト（車両設定）……131
走行状態 ……124
走行用前照灯（ハイビーム）……272
速度計（スピードメーター）……109
その他の設定 ……131
ソフトウェア更新（コネクティッドサービス）…678
ソフトウェア更新（ナビゲーションシステム）…558

た

タイヤ
位置交換（タイヤローテーション） …… 721
ウエアインジケーター …… 720
応急用パンク修理 …… 753
空気圧 …… 788
交換 …… 722
サイズ …… 788
チェーンの装着 …… 729
日常点検 …… 720
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ） …… 728
タコメーター …… 109

ち

地図データ更新 …… 673
地図の見かた …… 626、630
チャージ警告灯 …… 140
チャイルドシート ……95
種類 ……95
適合性一覧 ……98
取り付けかた …… 103
チャイルドプルーフ …… 176
チルト／テレスコピックステアリング …… 214

つ

ツーリングアシスト …… 292
車線中央維持・先行車追従操舵機能 ……353
全車速追従機能付クルーズコントロール ……331
つながる安心プレミアム ……681
つながる安心ベーシック ……680

て

停止保持機能 ……345
ディスクを入れる／取り出す ……538
定速クルーズコントロール ……403
手入れ ……706
外装の手入れ ……707
ガラスとワイパーの手入れ ……709
内装の手入れ ……710
テレビ ……607
電球（バルブ）
交換 ……739
電源ソケット ……523
電子制御ダンパーシステム警告灯 ….142
電池交換
アクセスキー ……737
電動ガラスサンルーフ ……192
電動パーキングブレーキ ……249
電動パーキングブレーキ警告灯 ……139
電動リモコンドアミラー ……221
電話
受ける ……567
かける ……564

と

ドア ····· 175
施錠・解錠 ····· 158、170、171
チャイルドプルーフ ····· 176
ロックノブ ····· 170、173
ドアミラー ····· 221
格納 ····· 222
盗難警報装置 ····· 197
作動させてしまったときには ····· 198
設定 ····· 199
登録地点 ····· 648
時計 ····· 117、122
トップテザーアンカレッジ ····· 106
トノカバー ····· 520
ドライバー ····· 711
ドライバー異常時対応システム ····· 492
ドライバープロフィール ····· 555
ドライバーポジションメモリー ····· 225
ドライバーモニタリングシステム ··· 446
ドライバーモニタリングシステム警告灯 ····· 144
ドライブモードセレクト ····· 264
トリップメーター ····· 110
トリップ切り替え／トリップリセットスイッチ··· 110

な

ナビゲーションシステム ····· 533
ナビゲーション設定 ····· 664
ナビゲーションの操作 ····· 626、647

に

ニーエアバッグ ····· 73

ね

燃費 ····· 114
燃料
タンク容量 ····· 179
燃料給油口（フューエルリッド）··· 179
燃料計（フューエルメーター）····· 111
燃料残量警告灯 ····· 139

は

パーキングブレーキ ····· 249
排気ガスの換気 ····· 39
ハイビーム ····· 272
ハイマウントストップランプ ····· 739
ハザードランプ（非常点滅表示灯）··· 752
交換 ····· 739
発炎筒 ····· 751
バッテリー
液量の点検 ····· 717
型式 ····· 785
バッテリーが上がったとき ····· 769
バッテリー上がり防止機能 ····· 234、272、530
パドルシフトレバー ····· 260、261
バニティミラー ····· 518
バルブ（電球）
交換 ····· 739
パワーウインドウ ····· 176
パワーシート ····· 203
パワーリヤゲート ····· 182
開けられなくなったとき ····· 765
動かなくなったとき ····· 764
ハンズフリーオープン機能 ····· 184
メモリーハイト機能 ····· 188
パンクしたとき ····· 753
番号灯（ライセンスランプ）····· 269
交換 ····· 739
ハンズフリー ····· 561
半ドア警告灯 ····· 138
ハンドル（ステアリング）
ステアリングロック ····· 233
チルト／テレスコピックステアリング ····· 214

ひ

ビークルダイナミクスコントロールシステム（VDC）····· 266
ヒーテッドドアミラー ····· 224
非常点滅表示灯（ハザードランプ）··· 752
交換 ····· 739
尾灯（テールランプ）····· 269
交換 ····· 739
ヒューズ ····· 772
点検・交換 ····· 773
表示灯 ····· 145

ふ

ブースターケーブル ····· 771

フォグランプ（霧灯）・・・・・・・・・・・・・・273
　交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・739
フック
　カーゴフック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・526
　買い物フック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・526
　コートフック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・525
プッシュエンジンスイッチ ・・・・233、234
フューエルキャップ ・・・・・・・・・・・・・・・・・180
フューエルメーター（燃料計）・・・・・・・111
フューエルリッド（燃料給油口）・・・・・179
　解錠できないとき ・・・・・・・・・・・・・・・・・766
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）・・・728
ふらつき警報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・395
プリクラッシュブレーキ ・・・・・・・・・・・・・296
ブレーキ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・245
ブレーキアシスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・246
ブレーキオーバーライド ・・・・・・・・・・・・248
ブレーキ警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・139
ブレーキシステム警告灯 ・・・・・・・・・・・・139
ブレーキブースター ・・・・・・・・・・・・・・・・245
ブレーキ踏み増し要求警報 ・・・・・・・・・・351
フロントビューモニター ・・・・・・・・・・・・・437

へ

ヘッドランプ（前照灯）・・・・・・・・・・・・269
　ウォッシャー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・281
　交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・739
　SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）
　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・433
ヘッドレスト ・・・・・・・・・・・・・・・・202、207
ヘルプネット（先進事故自動通報）・・・ 680

ほ

ホーム（HOME）ボタン ・・・・・・・・・・ 136
ホーン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 253
ホイール
　アライメント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 728
　サイズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 788
　バランス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 728
ホイールナットレンチ・・・・・・・・・・・・・ 711
方向指示器（ウインカー）・・・・・・・・・・ 253
　ワンタッチ機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 253
歩行者保護エアバッグ・・・・・・・・・・・・・・・85
歩行者保護エアバッグ警告灯・・・・・・・ 138
ボトルホルダー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 517
ボンネット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 712
ボンネット開警告灯・・・・・・・・・・・・・・・ 138

ま

マニュアルモード・・・・・・・・・・・・・・・・ 260
マルチビューモニター・・・・・・・・・・・・・ 437

み

ミラー
　スマートリヤビューミラー・・・・・・・ 216
　ドアミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 221
　バニティミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・ 518
　ルームミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215

む

霧灯（フォグランプ）・・・・・・・・・・・・・ 273

め

メーター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・108
メカニカルキー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
　施錠・解錠 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・767
メッセージ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・569
メディア
　AUX・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・601
　Bluetoothオーディオ ・・・・・・・・・・・・598
　CD ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・587
　DVD・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・588
　iPod/iPhone ・・・・・・・・・・・・・・・・・・595
　USBメモリー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・593
メニュー画面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・647
メモリ地点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・648
メンテナンス ・・・・・・・・・・・・・・・・124、706

も

目的地設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・634

ゆ

ユーザー情報連動機能 ・・・・・・・・・・・・・452

ら

ライティングスイッチ ・・・・・・・・・・・・・269
ラジオ（AM／FM）・・・・・・・・・・・・・・・・585
ランプ
　ウインカー（方向指示器）・・・・・・・・・253
　交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・739
　室内灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・527
　テールランプ（尾灯）・・・・・・・・・・・・・269

ハザードランプ（非常点滅表示灯）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 752
フォグランプ（霧灯）・・・・・・・・・・・・ 273
ヘッドランプ（前照灯）・・・・・・・・・・ 269
ポジションランプ（車幅灯）・・・・・・ 269
ライセンスランプ（番号灯）・・・・・・ 269

り

リコールお知らせ機能 ・・・・・・・・・・・・ 677
リザーバータンク ・・・・・・・・・・・・・・・ 781
リバース連動チルトダウンドアミラー
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 221
リモートサービス+ ・・・・・・・・・・・・・・ 684
リヤゲート ・・・・・・・・・・・・・・・・ 182、190
開けられなくなったとき ・・・・・・・・・ 765
リヤシート
シートヒーター ・・・・・・・・・・・・・・・・ 212
リヤシートリマインダー ・・・・・・・・・・・ 213
リヤビューモニター ・・・・・・・・・・・・・・ 437
料金所前速度制御 ・・・・・・・・・・・・・・・ 490

る

ルート案内画面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 643
ルート設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 641
ルート変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 651
ルームミラー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
ルームランプ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 527

れ

レーンキープスイッチ ・・・・・・・・・・・・・ 295
冷却水
濃度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 719
補給 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 781

ろ

ロアアンカレッジ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
ロックノブ ・・・・・・・・・・・・ 170、173、209

わ

ワイパー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 277
ブレードラバー ・・・・・・・・・・・・・・・・ 732
フロントワイパーデアイサー ・・・・・・ 282
ワイパーブレード ・・・・・・・・・・・・・・・ 730
脇見・居眠り警報 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 450
割り込み画面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119

A

ABS（アンチロックブレーキシステム）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 247
ABS警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140
ADB（アダプティブドライビングビーム）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 434
ADB警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144
AM／FMラジオ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 585
Android Auto ・・・・・・・・・・・・・ 579、605
Apple CarPlay・・・・・・・・・・・・・ 577、603
AT誤後進抑制制御 ・・・・・・・・・・・・・・・ 387
AT誤発進抑制制御 ・・・・・・・・・・・・・・・ 381
AT油温警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
AUX ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 601
接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 539
AUX端子 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 524
AVH（オートビークルホールド）・・・・ 254
AWD警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141

B

Bluetooth
携帯電話／機器の登録・・・・・・・・・・・・ 547
接続／切断・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 551
設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 549
Bluetoothオーディオ・・・・・・・・・・・・・ 598

C

CarInfo ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
CarPlay・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 577
CD ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 587
ディスクを入れる／取り出す・・・・・・ 538

D

DVD ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 588
ディスクを入れる／取り出す・・・・・・ 538

E

ECOゲージ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
EDR（イベントデータレコーダー）・・・・56
ETC ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 659
EyeSight・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 284
EyeSight X警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・ 143
EyeSightアシストモニター・・・・・・・・・ 401
EyeSight警告表示灯・・・・・・・・・・・・・・ 144

F

FMラジオ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・585

H

HOMEボタン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・136

I

iコール（安心ほっとライン）・・・・・・・・682
Iスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・262
iスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・118、119
iマーク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・119
Individual（★）スイッチ・・・・・・・・・・・264
iPod/iPhone・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・595

L

LEDヘッドランプ警告灯 ・・・・・・・・・・・・143

M

MODEスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・264

R

RAB（後退時ブレーキアシスト）・・・・・411
RAB警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・143
RES/＋スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・295

S

Sスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・262
SET/－スイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・295
SI-DRIVE ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・262
SOSコール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・681
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 433
SRH警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144
SRSエアバッグ警告灯 ・・・・・・・・・・・・・ 138
SRSエアバッグシステム ・・・・・・・・・・・・70
SRVD（後側方警戒支援システム）・・・ 425
SRVD警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 143
SUBARU STARLINK
コネクティッドサービス ・・・・・ 676

U

USB & AUX・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 524
USBメモリー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 593
接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 539

V

VDC（ビークルダイナミクスコントロール
システム）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 266
VDC警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
VICS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 654
VIEWスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 438

W

Wi-Fi（車内Wi-Fi）・・・・・・・・・・・・・・・・ 687

事故や故障などの緊急時は、SUBARU 安心ほっとラインへご連絡ください。

事故を起こしてしまった、タイヤがパンクした、バッテリーがあがってしまったなど、万一のトラブルの際に、専任のオペレーターが対応いたします。

SUBARU 安心ほっとライン 0120-78-2215
24時間365日受付

ご意見、ご相談は、SUBARU 販売店・特約店または、SUBARU お客様センター（SUBARU コール）へお問い合わせください。

お問い合わせの際は、下記の情報を事前にご用意いただきますと円滑な対応が可能です。

車検証の情報（車台番号・登録番号・登録年月日）や車種名・グレード・走行距離・販売店名

SUBARU お客様センター

SUBARU コール 0120-052215
受付時間【平　日】　9:00～17:00　【土日祝】　9:00～12:00、13:00～17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
（1）ご意見/ご感想（2）ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）（3）お問い合わせ/ご相談

・内容確認と SUBARU のサービス・品質向上のために録音させていただいております。あらかじめご了承ください。
・故障や修理、純正部品に関するお問い合わせはご購入いただいた店舗、またはお近くの SUBARU 販売店へご連絡ください。

株式会社 SUBARU における個人情報の取扱いについては、SUBARU オフィシャル Web サイト（ https://www.subaru.jp/privacy_policy/ ）に記載しております。

編集・発行　株式会社SUBARU

発行 2025年1月　Printed in Japan　DT
Publication No.A9090JJ-A
禁複製・転載